荒砥上川久保遺跡

昭和50・51年度県営圃場整備事業荒砥南
部地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

1982

群　馬　県　教　育　委　員　会
財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

荒砥上川久保遺跡

あらとかみかわくぼ

昭和50・51年度県営圃場整備事業荒砥南
部地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

1982

群馬県教育委員会
財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

雄大な裾野をひく赤城山南麓一帯は、県内でも有数の古墳密集地域であるとともに、かつてこの地で暮した人々の生活の跡も数多く残されている所であります。近年、農業の機械化、近代化に合わせて圃場を整備する必要性も増し、この地域でも土地改良事業が計画、実施されてきております。群馬県教育委員会では文化財保護対策の一環として、これら事業に伴っての埋蔵文化財の発掘調査を実施してまいりました。上川久保遺跡もその一つであり、調査後の整備事業については当事業団で実施しました。

上川久保遺跡では、古墳時代初期の方形周溝墓のほかに、古墳時代から平安時代に至る100余軒の住居址を検出し、この地に脈脈と暮し続けた人々の生活の一端を垣間見ることができました。

これら貴重な資料を記録し、ここに報告書として公表することができましたのも、終始御指導、御協力をいただいた県農政部の関係機関、荒砥南部、城南土地改良区関係者と地元地権者の方々、発掘調査や整理に直接たずさわっていただいた調査担当者をはじめとする多くの方々の総力が結集された賜物であります。ここに厚く感謝申し上げますとともに、本報告が多くの県民、研究者の方々に有効に活用され、後の世に生かされますことを念じ序といたします。

昭和57年3月31日

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長　清　水　一　郎

例　　言

1　本書は昭和50・51年度　県営荒砥南部地区圃場整備事業に係わる埋蔵文化財調査報告書である。

2　遺跡は前橋市大室町1,044～44・50・57～59・64～66他に所在する。

3　遺跡名のうち「荒砥」は旧町名および事業名、「上川久保」は大字名である。

4　発掘調査は群馬県農政部の委託を受け、群馬県教育委員会が実施した。

5　調査期間は道水路部分が昭和51年２月５日～同３月22日まで、切土部分が昭和52年１月10日から同３月31日までであった。

6　発掘調査は昭和50年度は県教育委員会文化財保護主事　原田恒広・能登　健が担当し、昭和51年度は能登の他、調査員　内田憲治・石坂　茂・原　雅信があたった。

7　発掘調査後の整理研究事業は、群馬県農政部と県教育委員会の委託を受け、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。

8　本書の編集には能登があたり辻口敏子が補佐した。また、本書作成には次の者が当たった。

〔執　　筆〕　第Ⅰ章　鹿田雄三　第Ⅱ章・Ⅲ章　飯田陽一

〔遺物実測・図版作成〕　小林ふく子・佐藤美代子・宮内菊江・井野みゆき・皆川正枝・細井敏子・高橋フジ子・田村栄子・山田きよ江

〔遺物写真撮影〕　佐藤元彦

〔遺構図トレース〕　株式会社　測研

〔協　　力〕　大江正行・中沢　悟・石坂　茂・藤巻幸男・小島敦子・山本朋子

9　第１・２図で使用した地図は、国土地理院「前橋」１／25,000を使用した。

10　出土遺物・写真・図面等は、一括して群馬県埋蔵文化財センターに保管してある。

謝　　辞

発掘調査にあたっては、前橋土地改良事務所、および城南土地改良区に様々な御協力をいただいた。また、報告書作成に際しては、名古屋大学　斉藤孝正氏・高崎市教委　飯塚恵子氏から御指導頂いた。記して謝意を表します。

凡　　例

1　遺構は調査現場で縮率1／20の平板測量をおこなった

2　各遺構図の縮少率は、次の通りとした。

住居址→1／80　　方形周溝墓→1／100　　井戸→1／80

3　遺構図の方位は磁北を表し、本文中の方位も磁北からの角度である。なお、住居址の方位は竈の付く辺との角を、方形周溝墓は南北軸からの角度を計測した。

4　住居址の面積は、1／20原図上でプラニメーターによる測定を行った。未完掘の住居址に関しては、残存部分の面積を測定してある。

5　遺構図中のスクリーントーン部分は焼土または火熱を受けた部分を示す。

6　住居址の番号は調査時の番号をそのまま使用したため、欠番を生じている。

7　各遺物図の縮少率は、次の通りとした。

土器（杯・椀・小型甕類）→1／3　　（壺・甕類）→1／4　　石製品・鉄製品→1／3

土錘→1／2

その他の遺物については、観察表の計測値を参照して頂きたい。

8　遺物観察表には簡略記号を多用した。また、考古学用語と陶芸用語が混在している。本文7頁に詳細を記した。

9　遺物写真図版の個別番号は、"区ー住居址番号ー遺物番号" を示す。

10　遺物写真図版の縮率は挿図とおおよそ同一となるようにした。

11　文章スペースの都合上、送り仮名を省略した部分が多い。

本書は限られた紙面に極力多量の事実報告を行うため、次のような変則的な編集をおこなった。住居址に関しては、出土遺物が豊富で遺構の明確なものを「主な住居址」として個別に報告し、「その他の住居址」では遺構と遺物を別個に集成して報告した。出土遺物の中で鉄製品に関しては、上記に係わらず集成して報告した。

なお、本書で扱ったのは古墳時代以後のもので、発掘調査ではこの他に、縄文時代の遺構を検出した。

目　　次

序

例言・謝辞

凡　例

第Ⅰ章　発掘調査と遺跡の概要

1　調査に至る経過 …… 1
2　遺跡の位置と地形 …… 2
3　周辺の遺跡 …… 4
4　調査の方法 …… 6

第Ⅱ章　調査の内容

1　竪穴住居址の調査 …… 7
i　主な住居址と出土遺物（1区） …… 8
（2区） …… 11
（3区） …… 17
（4区） …… 39
（5区） …… 67
（6区） …… 96
（8区） …… 139
ii　その他の住居址と出土遺物（遺構） …… 142
その他の住居址と出土遺物（遺物） …… 149
2　方形周溝墓の調査 …… 162
3　井　　戸 …… 172
4　鉄製品について …… 174

第Ⅲ章　成果と問題点 …… 178

引用・参考文献 …… 180

挿図目次

第 1 図　遺跡の位置……2
第 2 図　周辺遺跡の分布……4
第 3 図　調査区配置図……6
第 4 図　1区1号住居址……8
第 5 図　1区1号住居址遺物実測図(1)……8
第 6 図　1区1号住居址遺物実測図(2)……9
第 7 図　1区2号住居址……10
第 8 図　1区2号住居址遺物実測図……11
第 9 図　2区1号住居址……11
第 10 図　2区1号住居址遺物実測図……12
第 11 図　2区2号住居址……13
第 12 図　2区2号住居址遺物実測図……13
第 13 図　2区3号住居址……14
第 14 図　2区3号住居址遺物実測図……14
第 15 図　2区4号住居址……15
第 16 図　2区4号住居址遺物実測図(1)……15
第 17 図　2区4号住居址遺物実測図(2)……16
第 18 図　3区1号住居址……17
第 19 図　3区1号住居址遺物実測図……17
第 20 図　3区2号住居址……18
第 21 図　3区3号住居址……18
第 22 図　3区4号住居址……19
第 23 図　3区4号住居址遺物実測図……19
第 24 図　3区5号住居址……20
第 25 図　3区5号住居址遺物実測図……20
第 26 図　3区6号住居址……21
第 27 図　3区6号住居址遺物実測図(1)……21
第 28 図　3区6号住居址遺物実測図(2)……22
第 29 図　3区7号住居址……23
第 30 図　3区7号住居址遺物実測図……23
第 31 図　3区8号住居址……24
第 32 図　3区8号住居址遺物実測図(1)……24
第 33 図　3区8号住居址遺物実測図(2)……25
第 34 図　3区9号住居址……26
第 35 図　3区9号住居址遺物実測図(1)……26
第 36 図　3区9号住居址遺物実測図(2)……27
第 37 図　3区10号住居址－1……28
第 38 図　3区10号住居址－2……29
第 39 図　3区10号住居址－3……29
第 40 図　3区10号住居址遺物実測図(1)……30
第 41 図　3区10号住居址遺物実測図(2)……31
第 42 図　3区10号住居址遺物実測図(3)……32
第 43 図　3区11号住居址……34
第 44 図　3区11号住居址遺物実測図……34
第 45 図　3区13号住居址……35
第 46 図　3区13号住居址遺物実測図……35
第 47 図　3区14号住居址……36
第 48 図　3区14号住居址遺物実測図……36
第 49 図　3区17号住居址……37
第 50 図　3区17号住居址遺物実測図(1)……37
第 51 図　3区17号住居址遺物実測図(2)……38
第 52 図　4区1号住居址……39
第 53 図　4区1号住居址遺物実測図……39
第 54 図　4区3号住居址……39
第 55 図　4区3号住居址遺物実測図(1)……39
第 56 図　4区3号住居址遺物実測図(2)……40
第 57 図　4区7号住居址……41
第 58 図　4区7号住居址遺物実測図……41
第 59 図　4区8号住居址……42
第 60 図　4区8号住居址遺物実測図……42
第 61 図　4区9号住居址……43
第 62 図　4区9号住居址遺物実測図(1)……43
第 63 図　4区9号住居址遺物実測図(2)……44
第 64 図　4区11号住居址……45
第 65 図　4区11号住居址遺物実測図(1)……46
第 66 図　4区11号住居址遺物実測図(2)……47
第 67 図　4区12号住居址……49
第 68 図　4区12号住居址遺物実測図……49
第 69 図　4区14号住居址……50
第 70 図　4区14号住居址遺物実測図……50
第 71 図　4区15号住居址……51
第 72 図　4区15号住居址遺物実測図(1)……51
第 73 図　4区15号住居址遺物実測図(2)……52
第 74 図　4区16号住居址……54
第 75 図　4区16号住居址遺物実測図……54
第 76 図　4区17号住居址……54
第 77 図　4区17号住居址遺物実測図……54
第 78 図　4区19号住居址……55

第 79 図　4 区19号住居址遺物実測図(1)…… 55
第 80 図　4 区19号住居址遺物実測図(2)…… 56
第 81 図　4 区20号住居址…… 57
第 82 図　4 区20号住居址遺物実測図…… 57
第 83 図　4 区22号住居址…… 58
第 84 図　4 区22号住居址遺物実測図…… 58
第 85 図　4 区23号住居址…… 59
第 86 図　4 区23号住居址遺物実測図(1)…… 59
第 87 図　4 区23号住居址遺物実測図(2)…… 60
第 88 図　4 区24号住居址…… 61
第 89 図　4 区24号住居址遺物実測図…… 61
第 90 図　4 区25号住居址…… 62
第 91 図　4 区25号住居址遺物実測図…… 63
第 92 図　4 区26号住居址…… 64
第 93 図　4 区26号住居址遺物実測図…… 65
第 94 図　5 区 3 号住居址…… 67
第 95 図　5 区 3 号住居址遺物実測図(1)…… 67
第 96 図　5 区 3 号住居址遺物実測図(2)…… 68
第 97 図　5 区 4 号住居址…… 69
第 98 図　5 区 4 号住居址遺物実測図…… 69
第 99 図　5 区 5 号住居址…… 71
第 100 図　5 区 5 号住居址遺物実測図(1)…… 71
第 101 図　5 区 5 号住居址遺物実測図(2)…… 72
第 102 図　5 区 6 号住居址…… 73
第 103 図　5 区 6 号住居址遺物実測図(1)…… 74
第 104 図　5 区 6 号住居址遺物実測図(2)…… 75
第 105 図　5 区 8 号住居址…… 77
第 106 図　5 区 8 号住居址遺物実測図…… 77
第 107 図　5 区 9 号住居址…… 77
第 108 図　5 区 9 号住居址遺物実測図…… 77
第 109 図　5 区14号住居址…… 78
第 110 図　5 区14号住居址遺物実測図…… 78
第 111 図　5 区15号住居址…… 79
第 112 図　5 区15号住居址遺物実測図(1)…… 79
第 113 図　5 区15号住居址遺物実測図(2)…… 80
第 114 図　5 区16号住居址…… 82
第 115 図　5 区16号住居址遺物実測図(1)…… 82
第 116 図　5 区16号住居址遺物実測図(2)…… 83
第 117 図　5 区17号住居址…… 84
第 118 図　5 区17号住居址遺物実測図(1)…… 84
第 119 図　5 区17号住居址遺物実測図(2)…… 85
第 120 図　5 区18号住居址…… 86
第 121 図　5 区18号住居址遺物実測図…… 86
第 122 図　5 区20号住居址…… 87
第 123 図　5 区20号住居址遺物実測図…… 87
第 124 図　5 区21号住居址…… 88
第 125 図　5 区21号住居址遺物実測図…… 89
第 126 図　5 区22号住居址…… 89
第 127 図　5 区22号住居址遺物実測図…… 90
第 128 図　5 区23号住居址…… 91
第 129 図　5 区23号住居址遺物実測図…… 91
第 130 図　5 区24号住居址…… 91
第 131 図　5 区24号住居址遺物実測図…… 92
第 132 図　5 区26号住居址…… 93
第 133 図　5 区26号住居址遺物実測図…… 93
第 134 図　5 区28号住居址…… 94
第 135 図　5 区28号住居址遺物実測図(1)…… 94
第 136 図　5 区28号住居址遺物実測図(2)…… 95
第 137 図　6 区 1 号住居址…… 96
第 138 図　6 区 1 号住居址遺物実測図…… 96
第 139 図　6 区 2 号住居址…… 97
第 140 図　6 区 2 号住居址遺物実測図…… 98
第 141 図　6 区 4 号住居址…… 99
第 142 図　6 区 4 号住居址遺物実測図…… 99
第 143 図　6 区 5 号住居址…… 101
第 144 図　6 区 5 号住居址遺物実測図…… 101
第 145 図　6 区 6 号住居址…… 102
第 146 図　6 区 6 号住居址遺物実測図…… 102
第 147 図　6 区 7 号住居址…… 103
第 148 図　6 区 7 号住居址遺物実測図…… 104
第 149 図　6 区 8 号住居址…… 105
第 150 図　6 区 8 号住居址遺物実測図(1)…… 106
第 151 図　6 区 8 号住居址遺物実測図(2)…… 107
第 152 図　6 区 8 号住居址遺物実測図(3)…… 108
第 153 図　6 区 9 号住居址…… 110
第 154 図　6 区 9 号住居址遺物実測図…… 111
第 155 図　6 区10号住居址
（11・12号住居址）…… 113
第 156 図　6 区10号住居址遺物実測図(1)…… 114
第 157 図　6 区10号住居址遺物実測図(2)…… 115
第 158 図　6 区10号住居址遺物実測図(3)…… 116
第 159 図　6 区17号住居址…… 119
第 160 図　6 区17号住居址遺物実測図(1)…… 119
第 161 図　6 区17号住居址遺物実測図(2)…… 120

第162図　6区19号住居址…… 121
第163図　6区19号住居址遺物実測図…… 122
第164図　6区20号住居址…… 123
第165図　6区20号住居址遺物実測図(1)…… 124
第166図　6区20号住居址遺物実測図(2)…… 125
第167図　6区20号住居址遺物実測図(3)…… 126
第168図　6区20号住居址遺物実測図(4)…… 127
第169図　6区22号住居址…… 130
第170図　6区22号住居址遺物実測図…… 131
第171図　6区24号住居址…… 132
第172図　6区24号住居址遺物実測図(1)…… 133
第173図　6区24号住居址遺物実測図(2)…… 134
第174図　6区24号住居址遺物実測図(3)…… 135
第175図　8区5号住居址…… 139
第176図　8区5号住居址遺物実測図(1)…… 139
第177図　8区5号住居址遺物実測図(2)…… 140
第178図　1区3号住居址…… 142
第179図　3区12号住居址…… 142
第180図　3区15号住居址…… 142
第181図　3区16号住居址…… 143
第182図　4区2号住居址…… 143
第183図　4区5号住居址…… 143
第184図　4区10号住居址…… 143
第185図　4区18号住居址…… 144
第186図　4区21号住居址…… 144
第187図　5区1号住居址…… 144
第188図　5区2号住居址…… 144
第189図　5区7号住居址…… 145
第190図　5区12号住居址…… 145
第191図　5区13号住居址…… 145
第192図　5区10号住居址…… 145
第193図　5区11号住居址…… 145
第194図　5区25号住居址…… 145
第195図　5区27号住居址…… 146
第196図　6区3号住居址…… 146
第197図　6区15号住居址…… 146
第198図　6区16号住居址…… 147
第199図　6区18号住居址…… 147
第200図　6区21号住居址…… 147
第201図　6区23号住居址…… 147
第202図　8区1号住居址…… 148
第203図　8区2号住居址…… 148
第204図　8区3号住居址…… 148
第205図　8区4号住居址…… 148
第206図　その他の住居址出土遺物実測図(1)…… 149
第207図　その他の住居址出土遺物実測図(2)…… 150
第208図　その他の住居址出土遺物実測図(3)…… 151
第209図　その他の住居址出土遺物実測図(4)…… 152
第210図　その他の住居址出土遺物実測図(5)…… 153
第211図　その他の住居址出土遺物実測図(6)…… 154
第212図　その他の住居址出土遺物実測図(7)…… 155
第213図　1号方形周溝墓…… 162
第214図　2号方形周溝墓…… 163
第215図　4号方形周溝墓…… 163
第216図　3号方形周溝墓…… 164
第217図　5号方形周溝墓…… 165
第218図　6号方形周溝墓…… 165
第219図　方形周溝墓遺物実測図(1)…… 167
第220図　方形周溝墓遺物実測図(2)…… 168
第221図　方形周溝墓遺物実測図(3)…… 169
第222図　4区1号井戸…… 172
第223図　4区2号井戸…… 172
第224図　4区3号井戸…… 172
第225図　6区1号井戸…… 173
第226図　6区1号井戸出土遺物実測図…… 173
第227図　鉄製品実測図(1)…… 176
第228図　鉄製品実測図(2)…… 177

図版目次

PL 1
1 調査前の遺跡遠景（南東より）
2 調査中の遺跡遠景（北東より）
3 調査中の遺跡近景（東より、4区付近）
PL 2
1 遺跡の基盤層断面
2 遺構確認調査
3 住居址の発掘調査
PL 3
1 方形周溝墓の調査
2 住居址の調査
3 開発に追われる調査
PL 4
1区全景（1～3号方形周溝墓）
PL 5
1 1区1・2号住居址
2 1区3号住居址
3 1区2号住居址西竈
4 1区1号住居址竈及び2号住居址東竈
PL 6
1 2区1・3号住居址
2 2区2号住居址
3 2区4号住居址
PL 7
1 2区2号住居址竈
2 同 竈周辺出土遺物
3 2区4号住居址竈周辺出土遺物
PL 8
1 3区1号住居址
2 3区2・3号住居址
3 3区1号住居址西辺出土遺物
4 3区2・3号住居址竈
PL 9
1 3区4号住居址
2 3区6号住居址
3 3区4号住居址南東隅ピット出土遺物
4 同 竈
PL10
1 3区7号住居址
2 3区8号住居址
3 3区7号住居址床面出土遺物
4 3区8号住居址竈
PL11
1 3区9・10号住居址
2 3区10－1号住居址
3 同 床面出土遺物
4 3区9号住居址北辺出土遺物(4)
5 同 竈周辺出土遺物
PL12
1 3区11～14号住居址
2 3区13号住居址
3 3区14号住居址
PL13
1 3区16・17号住居址
4区8～11号住居址
2 3区17号住居址
3 同 竈周辺出土遺物（7・8）
PL14
1 3区16・17号住居址
4区3～13号住居址
2 3区16・17号住居址
4区8～11号住居址
3 4区3号住居址竈
4 4区8号住居址竈
PL15
1 4区11号住居址
2 同 床面出土遺物
3 同 床面出土遺物
4 同 床面出土遺物
PL16
1 4区14号住居址
2 4区15号住居址
3 4区17号住居址
PL17
1 4区14号住居址床面出土遺物（2・3）
2 4区15号住居址竈及び南辺出土遺物
3 4区17号住居址竈

PL18
1 4区18・21号住居址
2 4区23号住居址
3 同 竈
PL19
1 4区24号住居址
2 4区25号住居址
3 4区26号住居址
PL20
1 5区3号住居址
2 5区4～6号住居址
3 5区5・6号住居址
PL21
1 5区4号住居址竈
2 5区5号住居址竈
3 5区6号住居址竈
PL22
1 5区12号住居址
2 5区13号住居址
3 5区15・16号住居址
PL23
1 5区17号住居址
2 同 床面出土遺物
3 同 床面出土遺物
PL24
1 5区20～25号住居址
2 5区20～22号住居址
3 5区23～25号住居址
PL25
1 5区18号住居址
2 5区26～28号住居址
3 5区28号住居址竈及び周辺出土遺物
PL26
1 6区1・2号住居址
2 6区2号住居址竈
3 6区1号住居址竈及び周辺出土遺物
PL27
1 6区3号住居址
2 6区6号住居址
3 6区7号住居址
PL28
1 6区8・9号住居址
2 6区8号住居址竈
3 同 床面出土遺物
4 6区9号住居址床面出土遺物
5 6区8号住居址南辺出土遺物
PL29
1 6区10号住居址
2 6区12号住居址
3 6区10号住居址竈周辺出土遺物
4 6区11号住居址竈（10号住居址と重複）
PL30
1 6区15～18号住居址
2 6区19号住居址
3 6区20号住居址
PL31
1 6区22号住居址
2 6区20号住居址竈
3 同 北東ピット周辺出土遺物
4 同 南辺出土遺物
5 同 南辺出土遺物（部分）
PL32
1 6区24号住居址
2 同 床面出土遺物(19)
3 同 北西隅出土遺物(20)
PL33
1 6区24号住居址P_{11}内出土遺物
2 同 床面出土遺物
3 同 床面出土遺物
PL34
1 8区5号住居址
2 同 床面出土遺物
3 同 床面出土遺物
PL35
1 1号方形周溝墓・東側
2 同 北側周溝出土遺物
3 同 北東隅周溝出土遺物
4 同 拡大
PL36
1 2号方形周溝墓
2 同 北側コーナー
3 同 周溝土層断面B
4 同 周溝土層断面A

PL37
1　3号方形周溝墓
2　同　北側周溝
3　同　周溝土層断面D
4　同　周溝土層断面C
PL38
1　3号方形周溝墓西側周溝出土遺物
2　同　部分
3　同　東側周溝出土遺物
PL39
1　4号方形周溝墓
2　同　西側周溝出土遺物（26・29・30）
3　5号方形周溝墓
PL40
1　6号方形周溝墓
2　同　西側周溝
3　同　東側周溝
PL41
住居址出土遺物
（1区1・2住、2区1～3住）
PL42
住居址出土遺物（2区4住、3区1・4住）
PL43
住居址出土遺物（3区6・8～10住）
PL44
住居址出土遺物（3区10・13・17住）
PL45
住居址出土遺物
（3区17、4区3・7・8・11住）
PL46
住居址出土遺物（4区11・14・15住）
PL47
住居址出土遺物（4区19・20・23住）
PL48
住居址出土遺物（4区24～26住）
PL49
住居址出土遺物（5区3～6住）
PL50
住居址出土遺物（5区6・9・14・15住）
PL51
住居址出土遺物（5区16・18～20住）
PL52
住居址出土遺物
（5区22・24・28住、6区1住）
PL53　住居址出土遺物（6区2・4・7住）
PL54
住居址出土遺物（6区7・8住）
PL55
住居址出土遺物（6区8・9住）
PL56
住居址出土遺物（6区10住）
PL57
住居址出土遺物（6区17・19・20住）
PL58
住居址出土遺物（6区20・22住）
PL59
住居址出土遺物（6区22・24住）
PL60　住居址出土遺物（6区24住）
PL61　住居址出土遺物（8区5住）
PL62
その他の住居址出土遺物（5区1・2・10・13・25・28・29住）
PL63
その他の住居址出土遺物（5区29・30住、6区11・12住）
PL64
その他の住居址出土遺物（6区12・15・16・21住、8区2・3住、6区1号井戸）
PL65
1号方形周溝墓出土遺物
PL66
1号方形周溝墓出土遺物
PL67
2・4・5号方形周溝墓出土遺物
PL68
鉄製品
PL69
鉄製品

第Ⅰ章　発掘調査と遺跡の概要

1　調査に至る経過

県内における圃場整備事業は、現在も広範な地域で進められている。これは、昭和50年度に発表された群馬県新総合計画に基づいて農用地総合整備事業の一つとして行なわれているものである。昭和51年度から昭和55年度の５カ年計画で総事業量7,050haの圃場整備事業が策定されたことによる。

前橋市荒砥南部地区における県営圃場整備事業は、昭和49年度から開始され、昭和56年度に至る総事業量900haにおよぶ県下最大規模のものである。

この地域は、前橋市東部にあたる旧城南村地域で赤城山南麓末端にあたり、旧くより考古学的に注目されていた地域である。明治年間のアーネスト・サトウやウィリアム・ゴーランドが注目した荒砥三・二子古墳をはじめとした古墳群の集中する地域であり、多数のポイントを出土した石山遺跡や、敷石住居で名高い笂井遺跡など学史的に著名なものが多く、また遺跡が集中する地域でもある。

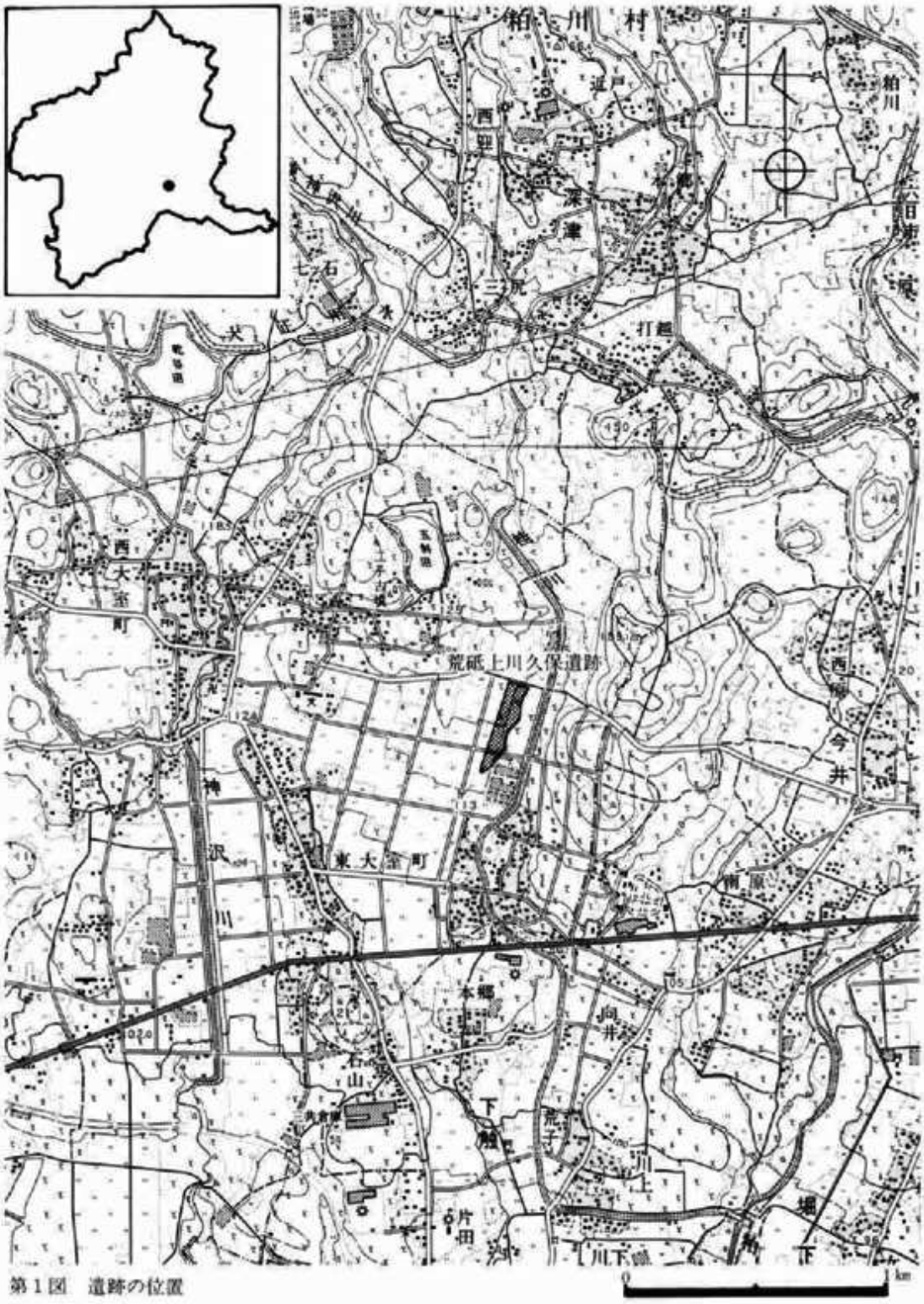
昭和49年度から事業が実施されるに先立ち、県農政部と県教育委員会の間で文化財保護を前提とした協議が行なわれ、埋蔵文化財の包蔵地を圃場整備事業から除外することが不可能であることにより、工事で破壊される地域においては事前の発掘調査を実施することになった。発掘調査は新たに計画される道路・水路と台地等の切り土部分を対象とすることが合意された。

この合意に基づく発掘調査は、昭和49年度に二之宮町前原・萩原・白井地区で行なわれた。昭和50年度の発掘調査は、東大室町の100haの圃場整備事業対象地のうちの一本木・五反田・上川久保・下猿楽の道路・水路の予定部分の試掘調査と一部地区の本調査であった。その時期は昭和51年２月５日から昭和51年３月22日の期間で、調査面積は約1,500m²である。この試掘調査結果をもとに工事に関する協議がもたれ、大半の部分は遺跡上面の平爽のみであるため、遺跡の破壊は免れることになった。しかし、工法上、削平をまぬがれることのできない部分については、全面的な発掘調査を必要とした。昭和51年の発掘調査は、この切土部分を対象地域として上川久保遺跡の調査が実施された。

上川久保遺跡の本調査は、昭和52年１月10日～同３月31日までの期間で、約12,000m²の調査を行なった。限られた短期間のうちに100軒以上におよぶ住居址、縄文時代の配石遺構や土坑群、そして古墳時代前期の方形周溝墓や平安時代の小鍛冶址等の調査を完了させるというきわめて厳しい調査であった。

なお、発掘調査後の整理作業は、昭和56年10月１日～昭和57年３月31日の間、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団において実施した。これは、昭和53年７月同事業団が設立され、県教育委員会文化財保護課から圃場整備関連の発掘調査と整理は、同事業団へ移管されたことによる。

2　遺跡の位置と地形



第1図　遺跡の位置

上川久保遺跡は、群馬県前橋市東大室町1055番地を中心に所在し、国道50号線東大室十字路の北東約１kmの地点に位置する。

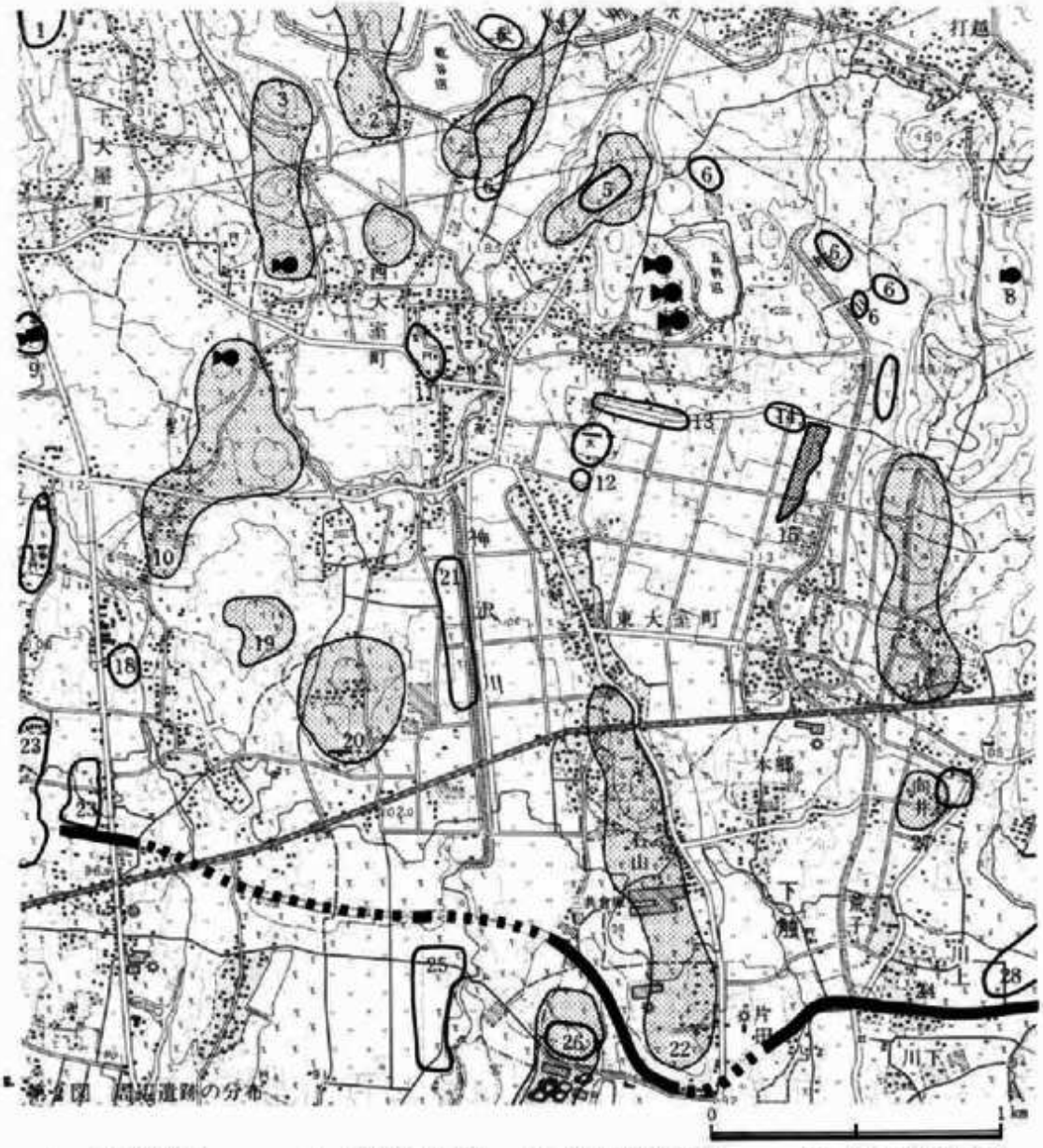
この地域は、赤城山南麓地域にあたる。赤城山は群馬県の東よりの地にそびえ那須火山帯の南端に位置する復合成層火山で、最高峰は黒桧山の標高1,828mである。この北西麓は比較的大規模な輻射谷が発達した丘陵地形であるが、南麓では浅い輻射谷となだらかな原形面からなる広大な裾野地形となっている。南麓は、標高500m付近で山地帯から丘陵性台地への地形変換が見られ、200mより下位の地域は低台地化している。また、山麓中腹より流出する河川や、末端での湧水などによって樹枝状の開析谷が発達している。

荒砥地域は、この赤城山南麓の端部にあたり、基盤層は三期にわたる赤城山の火山活動に伴う泥流堆積層によって形成され、地表面はローム台地の原形面とロームの二次堆積である砂壌土性微高地（以下、微高地と略称）および沖積地に分類される。

この台地縁辺・微高地および沖積地の周辺では、河川の侵食・氾濫等によって地形が改変され、複雑なものになっている。上川久保遺跡の東方を南流する桂川は、南麓の上部に端を発する小河川で流域に沖積地を形成する一方、ローム台地や微高地を侵食している。本遺跡の本調査に先立つ試掘調査から、桂川に係る氾濫等によってこの地区が地形改変をうけていることが判明している。本遺跡は微高地の東縁に位置しているが、この西方約400m地点の低台地西縁の地点では、浅間Ｂ軽石層が発見され、この下位に水田適土が検出された。この浅間Ｂ軽石層上位の土層は、黄褐色砂壌土の単一の堆積が見られた。この層位には遺構の確認はなく、遺物もきわめて少ないものであった。この氾濫等による砂壌土の堆積により、かつては沖積地であったところが低台地化していることも判明している。低台地の西縁から100m中央部に入った地点でも、これを侵食した自然の流路が確認された。またこの地点では、低台地の西縁方向へ走向する溝も部分的に確認されている。一方、低台地の中央部と微高地東縁の上川久保遺跡では、このような桂川の氾濫等をしめす調査所見はなく、住居址等が検出されており、この地点には桂川の氾濫が達していないことになる。現在、桂川は上川久保遺跡の東方を流れているが、かつてはその西方を流下していた可能性も考えられることになる。

上川久保遺跡の標高は120m内外であるが、この地点は南麓の丘陵性台地の末端にあり、これより下位の地域は低台地化しこの中に残丘が点在している。低台地の縁辺には微高地と幅の広い沖積地が展開している。本遺跡は、幅約100m内外の微高地の東縁に位置し、東側を桂川が南流し小規模な沖積地を形成し、西側を五料沼からの沖積地が東南流しておりこの結果、南北に細長い島状の微高地となっている。五料沼の西方は荒砥三・二子古墳の位置する残丘があり、この南縁には低台地がのびているが、その一部は砂壌性微高地の地点もあり複雑に入り組んだ地形となっている。また、本遺跡の桂川を挟んだ対岸には多田山丘陵が位置し、遺跡との比高差は約30m以上あり、地形的にも人文的にも一つの境界となっている。

3　周辺の遺跡



第2図　周辺遺跡の分布

1．泉沢谷津遺跡
2．大稲荷古墳群
3．伊勢山古墳群
4．七ッ石古墳群
5．上縄引遺跡
6．西大室遺跡群
7．荒砥三・二子山古墳
8．赤堀茶臼山古墳
9．堤東遺跡
10．阿久山古墳
11．大室城跡
12．大室小校庭遺跡
13．上諏訪遺跡
14．五反田遺跡
15．荒砥上川久保遺跡
16．多田山・田向井古墳群
17．荒砥下押切遺跡
18．荒砥荒子遺跡
19．丸山古墳群
20．天神山古墳群
21．荒砥東原遺跡
22．石山・片田古墳群
23．荒砥上ノ坊遺跡群
24．女　堀
25．二本松遺跡
26．牛伏遺跡
27．向井古墳群
28．川上遺跡

上川久保遺跡の発掘調査では、縄文時代から中・近世に至る遺構を検出した。周辺の遺跡を農耕社会発生以降のなかで概観してみることにする。

荒砥地域の農耕社会は、弥生時代から古墳時代前期にかけて成立する。これらの時代の遺構は、西大室遺跡群・上縄引遺跡・荒砥五反田遺跡・本報告の上川久保遺跡・荒砥上ノ坊遺跡・二本松遺跡・堤東遺跡などで見られる。弥生時代中期の遺跡は本地域で2遺跡と少なく、後期に至って増加している。また弥生時代後期の土器群と古墳時代前期のそれは、最近の調査事例を見ると錯綜していて判然とせず、重なりあう部分も見られる。遺跡の立地も台地・微高地の縁辺で沖積地にのぞむ地点であることも共通している。こうした中で生産遺構の発見も行なわれている。荒砥上ノ坊遺跡では、浅間C軽石埋没畠が発見されその一端をうかがわせている。また、堤東遺跡では、全長約25mの前方後方型周溝墓が発見されて、当地域で発見が相次いでいる周溝墓との関連、そして古墳との関連等の問題が提起されている。いずれにしろ、弥生後期から古墳時代前期にかけて本地域は、活発な開発の対象となっていたことが判明している。

古墳時代中期の遺跡は少なく、荒砥荒子遺跡がこのうちの一つにあたる。この遺跡は方形に区画された堀と柵をもち通有の集落遺跡とは考えられず、今後の検討が待たれる。多田山の丘陵上には、家型埴輪とともに著明な赤堀茶臼山古墳がある。

古墳時代後期に入ると遺跡の数は増大する。遺跡は、台地・微高地の縁辺に立地する傾向をうけつぎながらその範囲を拡大している。この背景には、荒砥天之宮遺跡で発見された「溜井」等に見られる新しい用水獲得技術や農耕技術の発展があったことがうかがわれる。この生産力の発展を基盤に集落は拡大し、本地域の残丘上には大規模な古墳群が形成される。昭和13年の『上毛古墳綜覧』によれば、荒砥地区の古墳総数は365基、前方後円墳18基を含んでいる。近年の発掘調査によって古墳綜覧に登載されていない古墳の発見が相次いでおり、その実数は365基を大きく上まわることは明らかである。また東接する佐波郡赤堀村も本地域と同様な古墳の集中する地域であり、本県の一大古墳群密集地帯となっている。残丘上には古墳群が、台地・微高地そしてその縁辺には集落が、沖積地にはその生産基盤が想定される。

こうしたなかで、前二子・中二子・後二子古墳の三者よりなる荒砥三・二子古墳は、100m級の大前方後円墳が6世紀代に継続して構築されたもので、古墳群密集地帯の盟主的な位置が従来より考えられてきた。弥生時代後期から古墳時代前期以来の着実な集落の発展のある本地域を荒砥三・二子古墳と周辺の古墳群が基盤としていることは明白であるが、その内実は明らかにされていない。今後、集落と古墳の関係の分析が必要とされるところである。

奈良・平安時代に入ると集落は、台地・微高地の中央部まで進出し、住居址の重複も著じるしいものがある。また、台地・微高地がのぞむ沖積地には、浅間B軽石埋没水田が多くの地点で検出されている。

中世初期には長大な農業用水路である女堀が、本地域の南部を横断している。この発掘調査によって、女堀の年代・環境・土木技術・用水獲得技術等が解明されつつある。

4　調査の方法

昭和50年度の試掘調査によって縄文時代から中・近世にいたる溝・住居址等の遺構とともに、桂川等による氾濫の跡や浅間B軽石埋没水田も想定された。これらの試掘結果は、圃場整備事業にともなう発掘調査が大規模な複合遺跡の発掘調査となるとともに、一地域において相互に関連する遺跡群の悉皆的な発掘調査になることをしめした。このことから発掘調査のメインテーマに農業発達史的視点を据えて、以後の荒砥地域の圃場整備事業にともなう調査が展開されていくことになり、本遺跡はその出発点となった。以後の調査の中では、詳細な遺跡分布調査を実施し、各遺跡のうち工事によって破壊・消滅する地点のすべてを発掘調査するとともに、旧地割りや水系等の記録、そして地域住民を対象として農耕に関する伝統や慣行・伝承などの聞き取り調査を行なう方法がとられていく。

本遺跡の発掘調査は切り土部分を対象に、その南端から工事用ベンチマークを基本として5×5mの方眼を設定し、50mごとに南から1区・2区と呼称する方法をとった。

調査の概要は、縄文時代で配石遺構2地点、土坑群2地点である。試掘で住居址1軒の調査がある。古墳時代前期の方形周溝墓が4基、住居址2軒、古墳時代後期の住居址6軒、奈良時代の住居址12軒、平安時代は住居址90軒でこの中には小鍛冶址が含まれる。その他、中・近世のものを含む土坑・井戸・溝がある。遺跡の中心部は、3・4・5・6区である。この中でも平安時代の住居址は90軒と圧倒的な量であり、井戸もこの時期のものが多い。

第3図　調査区配置図

第II章　調 査 の 内 容

1　竪穴住居址の調査

荒砥上川久保遺跡の発掘調査で検出した古墳時代以後の遺構は、竪穴住居址106軒、井戸４基、方形周溝墓６基である。方形周溝墓は１区より通し番号を付してあるが、住居址と井戸については、各区ごとの番号となっている。

住居址106軒の、区ごとの内訳は次の通りである。１区から３軒、２区から４軒を検出し、番号と軒数は一致している。３区の住居址には17までの番号をつけたが、10号住居址は３軒の住居址が重複しているようであり、19軒の住居址があったものと考えられる。４区の住居址は26軒で番号と軒数は一致しているが、４号住居址は壁の一部が想定されたのみで不明瞭なものである。５区には28まで番号が付いているが、19が欠番となっており、検出した住居址総数は27である。６区も24までの番号があるが、13と14が欠番で、住居址総数は２２である。７区からは住居址は検出されなかった。８区の住居址は５軒で、番号と軒数は一致している。

井戸は４区から３基、６区から１基を検出した。欠番はない。

遺物については、観察表中に省略記号や、文章の省略表現を多用したが、その内容は次のとおりである。

器形．土器の種類もこの項目に加えた。H→土師器、S→須恵器、K→灰釉陶器を示す。

計測値．単位はすべてcmである。値は遺物の外径を直接計測したもので、実測図とは必ずしも一致していない。復元値・推定値には（）を付けた。計測値では次のような省略記号を使用した。

㊀一壺などの肩部最大径。㊁一頸部最小径。㊂一羽釜の鍔部最大径。㊃一高台付き椀などの高台部下端径。㊄一高杯や台付き甕などの脚部下端径、なお上端と下端を計測した場合には、それぞれの値に上・下の文字を付けてある。㊅一錘や紡輪などの穿孔部分。この数値のみ内径となっている。㊆一須恵器杯や模倣杯の受部径。㊇一蓋の鈕の最大径。㊈一石製品などの長軸方向の最大値。㊉一同様の短軸方向の最小値。㊊一同様の製品の厚み。㊋一土錘や紡輪などの径の最大値。

成・整形技法の特徴．用語については須恵器製作技法論争のなかで定着した使い方（阿部1971、伊藤1971、他）を使用している。

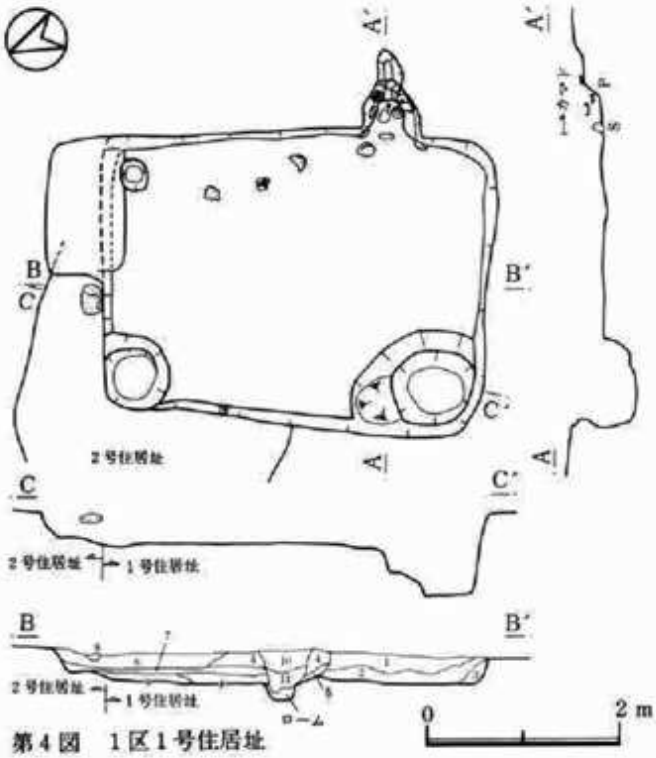
㊌一右回転ロクロ上で形成し、回転糸切り離しを行なったもの。底部調整を行なったものには→を付けて工程順の操作を記した。また、"回ヘラ"はロクロ回転利用の底部や体部下端のヘラ調整、"手ヘラ"は手持ちヘラ調整、"回糸"は回転糸切り離し、"静糸"は静止糸切り離し、"回ヘラ"は回転ヘラ切り離しの、それぞれの手法を示す。

㊍㊎一㊌の後、同方向の回転利用を行なった高台取り付けを示す。㊏・㊐一前記と同じ内容を、左回転のロクロ使用で行なったことを示す。㊑一輪積み、もしくは巻き上げ成形を示す。明らかに巻き上げと判断できた場合は、その旨を記しておいた。㊒一手捏による成形。㊓右一ロクロ回転利用の成形を行なった土器であるが、巻き上げ痕跡を残した、いわゆる円盤作り、の土器と判断できた土器は、㊌と区別した。㊓左も同様である。

備考．この項目で使用した省略記号や省略表現は以下のとおりである。

㊔一土器表面の色調で、二次的火熱や磨耗部分を避けて観察した。㊕一土器断面で観察した胎土の特徴を示す。㊖一焼成の特徴で、Oは酸化もしくは中性気味の焼成、Rは還元焔焼成を示す。焼締は、単純な焼き締まり状態を表現したもので、陶芸用語の焼締と同一のものではない。

i　主な住居址と出土遺物



第4図　1区1号住居址

1区　1号住居址

位　置　B'－5グリッド

形　状　北辺が南辺より25cm短かい、不整長方形。長軸4.0m、短軸3.1m。

方　位　N－114°－E

面　積　11.7m²

壁　北辺は立ち上がりの痕跡がわずかに残る。他は壁高25～30cm。

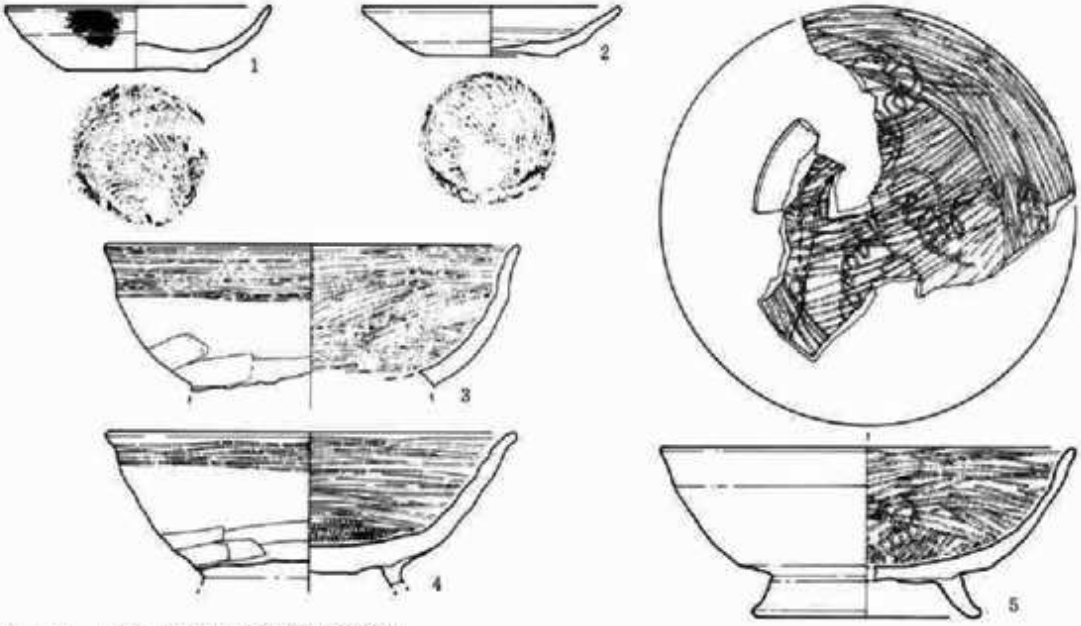
床　面　凹凸が多く、東側が若干低い。

ピット　南東隅を除く三隅より、形状・深さの異なる3本を検出。柱穴とは考えにくい。北東隅ピットは、本址と2住のどちらに伴なうか不明である。

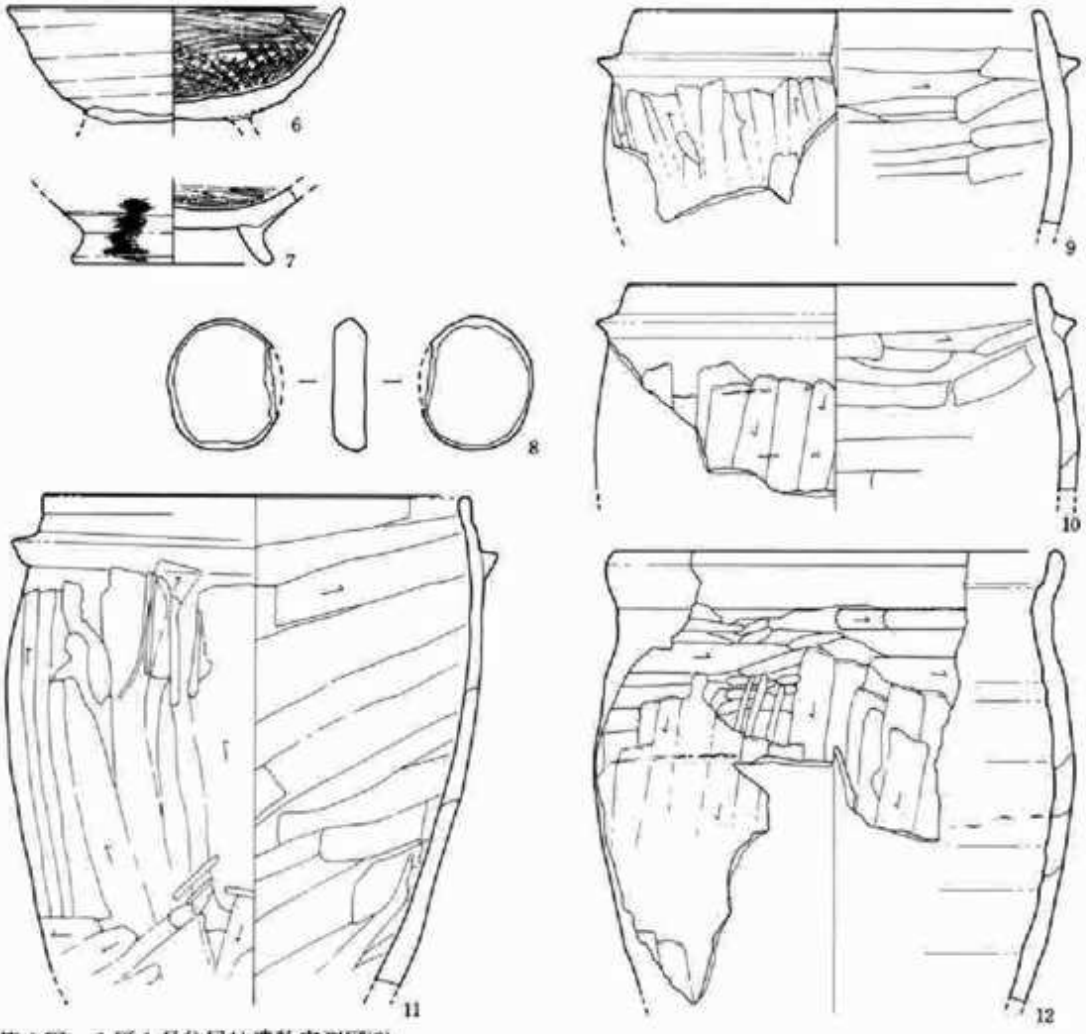
竈　東壁南隅にある。燃焼部は壁外で住居床面と同一レベル。煙道の張り出しは壁より90cm。袖部は残存しない。円礫で焚き口部を、羽釜などの土器片で掛け口部を、それぞれ補強している。

重　複　2住に切られることが、断面の観察より確認できる。

その他　北東隅に攪乱を受ける。竈内の出土遺物豊富。埋土内出土遺物は2住と混存している。



第5図　1区1号住居址遺物実測図(1)

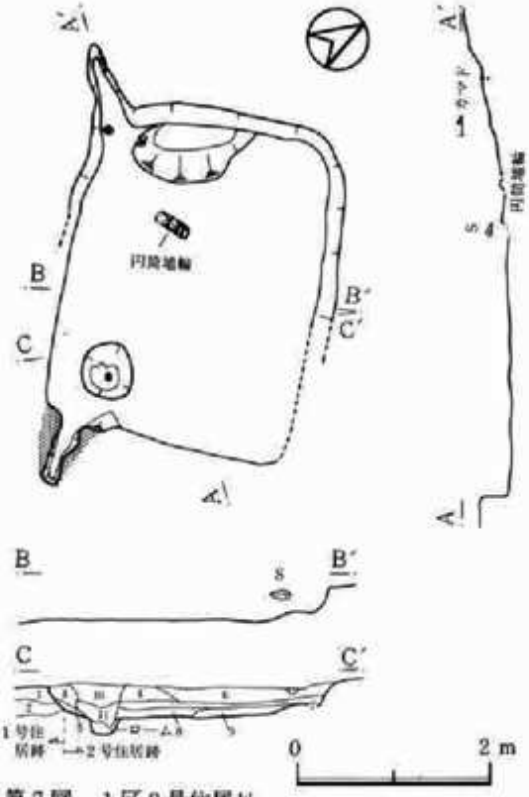


第6図　1区1号住居址遺物実測図(2)

1区1号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	小　皿	10.5- 5.6- 2.5	完形。竈燃焼部内。	㊨。見込はレンズ状に肥厚。口縁部は尖りシャープ。	㊥パミスやや多、輝石・砂粒等混入し粗い。㊧O、焼締強い。㊦濁淡褐色ほぼ一様。
2	小　皿	10.2- 5.2- 1.9	¾個体。竈燃焼部内。	㊨？　糸の収束弱く静糸の可能性あり。	㊥パミス・砂粒散見。やや緻密。㊧O、焼締弱い。㊦淡褐色で一様。
3	高台付き椀	(16.4)－　－	図示部の¼。南西隅ピット内。	㊨→体下端弱い手ヘラ→高台(ロクロ)→口縁上端～内面研磨。	㊥パミス・石英・砂粒を含み粗く不良。㊧軟調O。㊦内面黒色処理で弱い光沢。外面淡褐色～暗褐色。
4	〃	16.2-(6.6)－	図の⅔。埋土。	3と同。切離し不明。	㊥㊧3と同。㊦外面黒褐色。
5	〃	(16.2)-(6.6)-6.6 ㊨8.8	口縁⅓、底部½。埋土。	3に近い。手ヘラ不明瞭。外面研磨なし。	㊥㊧3と同。㊦外面上半黒褐色、下半は淡褐色。

No.	器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
6	高台付き椀	13.2-(6.5)—	高台部欠きほぼ完存。竈内。	3に近い。ロクロ痕強い。手ヘラ不明瞭。	胎混入物少なく緻密。焼軟調O。色内黒は光沢弱く色ムラ多い。
7	高台付き椀	—(6.8)— 底8.0	図示部の½。竈燃焼部内。	3に近い。手ヘラ不明瞭。	胎焼色6に近い。見込は黒褐色。他外面一部吸炭は、焼成時のムラと思われる。
8	丸鞆形土製品？	径3.4厚(3.0) 厚0.9	完形。埋土。	土師器杯底部片を雑な研磨で加工。	胎金雲母顕著、長石多い。焼やや軟調のO。色外面暗橙褐色、見込面淡色。
9	羽釜	(21.4)— — 胴(24.4)	図示部の¼。竈燃焼部の北壁に密着。	胴→鍔取付、横位ナデ→外面削りは丁寧、半乾き状態で行なう	胎砂粒多く、輝石・石英混入。やや粗い。焼硬調O。色淡褐色。他口縁部内側に若干スス付着。
10	羽釜	(22.0)— — 胴25.2	図示部の½。竈燃焼部内。	9と同。口縁端部の作り丁寧で平滑。	胎色9に近い。パミスを若干含む。焼良好で幾分焼締。
11	羽釜	(22.2)— — 胴24.7	上半¾、下半½。埋土。2住埋土と接合。	9と同。口縁部の作り雑。内面のナデに幅広の工具使用。	胎パミス・粗砂多く粗い。焼軟調O。色暗橙褐色～黒褐色で一様でない。
12	土釜	(23.0)— — 胴(25.2)	図示部の¼。竈煙道内。	胴→頸部直下にヘラ頭のナデ→ヘラ削り。	胎11に近似。他二次火熱受け脆弱化。口縁若干磨耗。接合痕が器面に残る。



第7図　1区2号住居址

1区　2号住居址

位　置　B'—5グリッド

3.6×2.9mの、比較的整った長方形。

方　位　N—137°—W、もしくはN—131°—E

面　積　9.9m²

壁　遺存状態はきわめて悪く、ダラダラと立ち上がる所が多い。壁高は20～30cm。

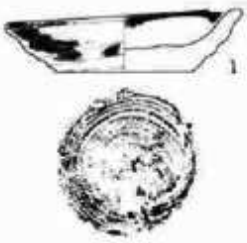
床　面　南側は1住の床上となり、一部でローム土の埋め戻しによる貼り床となる。踏み固めが強く、細かな凹凸のある明瞭な床である。

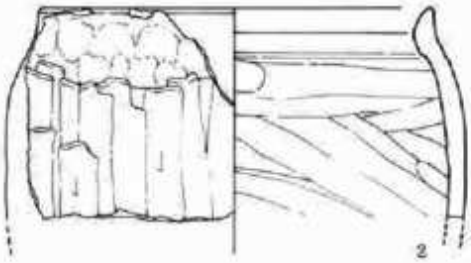
ピット　東竈前面に性格不明の落ち込みがある。西竈南側の落ち込みは、攪乱によるものと思われるが、明確な識別はできなかった。

竈　南辺の東西両隅に2つの竈があった。東竈は白色粘土で燃焼部と煙道部を補強しており、火熱により著しく赤変硬化していた。袖も若干残存していた。西竈は掘り込みのみ残存する不明瞭なものであった。

重　複　1住を切って、床と東竈を構築している。

その他　円筒埴輪や礫が、埋土中より出土した。

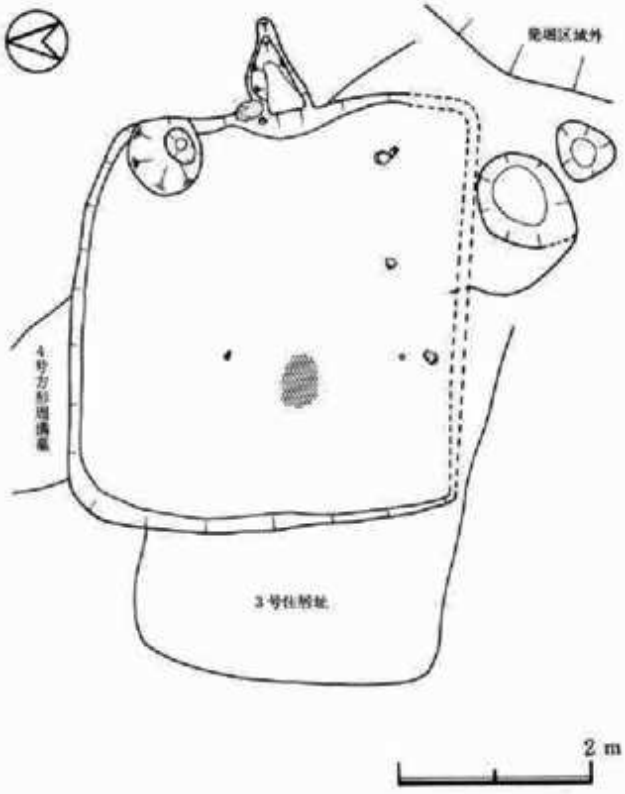




第8図　1区2号住居址遺物実測図

1区2号住居址出土遺物観察表

No.	器形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備考
1	小皿	9.4-5.4-2.4	完形。西竈、火床直上。	㊨。外面は渦巻状のロクロ痕が強いが、内面は平滑。	㊥細砂やや多く、輝石散見。緻密。㊦硬調O。焼締。㊧淡褐色～淡灰褐色。㊨焼成時の吸炭あり。口縁内端部一部磨耗。
2	土釜	(20.6)－　－ ㊥(24.0)	図示部の¼。埋土。1住出土破片接合。	㊥。口縁部外面に指頭状凹凸。指頭ナデ。半乾き状態の削り。	㊥粗砂・石英多。粗悪。㊦軟調O。しまり欠く。㊧暗褐色ほぼ一様。㊨二次火熱の影響強く、内外面脆弱化。



2区　1号住居址

位　置　D・E－8グリッド

形　状　南辺は不明瞭だが、長軸4.2m、短軸4.0mで、隅のやや丸い長方形を呈すと思われる。

方　位　N－94°－E　　**面　積**　16.5m²

壁　掘り込みが浅く、緩やかな立ち上がり部分しか残存しない。

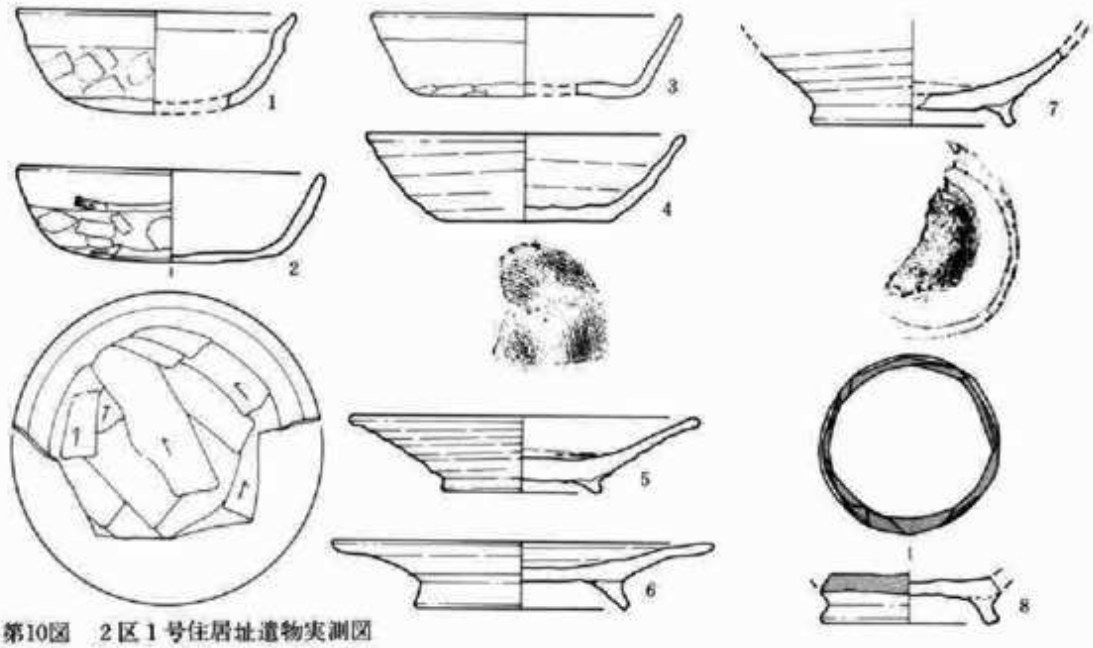
床　面　踏み固めは弱いが、凹凸の多い床であった。方形周溝墓上にも、明瞭な貼床は認められなかった。中央西寄りに火熱を受けた部分があったが、重複する3住の竈火床と思われる。

竈　東壁中央やや北寄りにある。火床は不明であるが、壁外にあり、住居床面より一段高い位置にあると思われる。

重　複　4号方形周溝墓、3住を切って構築されている。

その他　出土遺物に3住の混入品が多い。土層は3住参照。

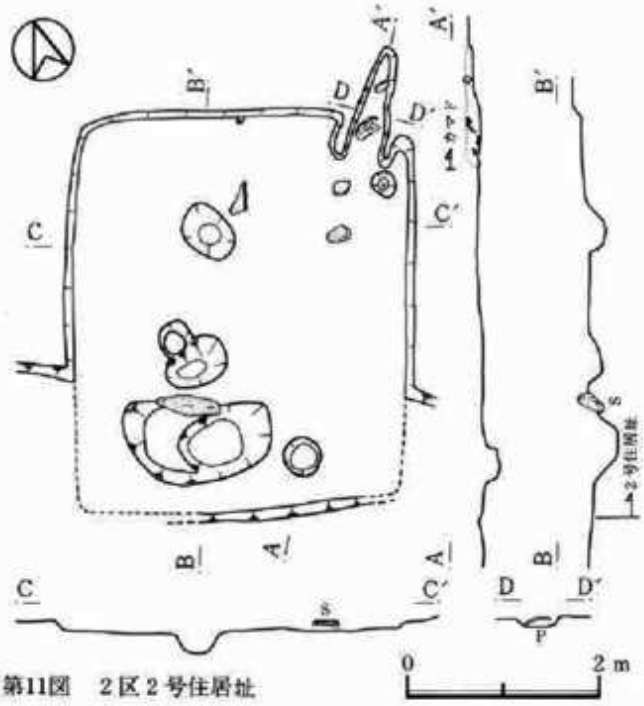
第9図　2区1号住居址



第10図　2区1号住居址遺物実測図

2区1号住居址出土遺物観察表

No.	器形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備考
1	杯(H)	(11.0)－ －	図示部の¼。竈周辺埋土。	横？内面横位の強いナデ。外面弱い指頭圧痕。底部ヘラ削り。	砂砂粒やや多、石英散見。やや緻密。焼O。焼締。色淡褐色でほぼ一様。口口縁に歪みあり。口径不安。
2	杯(H)	12.2-8.7-3.6	口縁½。	横？内面ナデは布状擦痕。底手ヘラ鋭い。	砂焼1に近似。雲母細片散見。色淡褐色。断面は黒色味をおびる。
3	杯(H)	(13.2)-(9.0)-3.2	図示部の¼。埋土。	横。内面ナデは布状擦痕。口縁下端～底部手ヘラ。	砂混入物少なく緻密。焼O、良好。色面暗褐色、内面淡褐色。口径不安。
4	杯(S)	(12.6)-(6.8)-3.4	図示部の⅓。埋土。	右。ロクロ痕やや弱い。見込平滑。	砂気泡含む。やや粗い。焼R、しまり欠く。色灰色。他見込に赤色顔料付着。
5	高台付き皿(S)	(13.8)-(5.4)-3.9 台(6.6)	図示部の¼。	右台。外面は細かなロクロ痕。見込平滑。	砂細砂やや多。きめ細かく緻密。焼R、ややしまり欠く。色淡灰褐色。
6	高台付き皿(S)	(15.0)-(8.0)-2.6 台8.4	ほぼ完形。	右台。高台の取付け雑。ロクロ痕弱い。	砂混入物少なく精緻。焼硬調R。焼締る。色暗灰色。断面セピア色。他内面全体に白色の降灰釉がかかる。
7	高台付き椀(S)	－(7.2)－ 台8.0	図示部の½。	右台。内面に接合痕残る。見込平滑。	砂砂粒多、やや粗。焼やや硬調R。器面吸炭。色灰黒色。断面灰色。
8	高台付き椀(S)	台7.0	図示部完存。	右台。見込割口を削る転用紅皿？倒置使用と思われる。	砂石英・チャート含む。やや粗。焼やや硬調R。色灰色。他見込磨耗。底部(高台内)に赤色顔料若干付着。



第11図　2区2号住居址

2区　2号住居址

位　置　A－1グリッド

形　状　南辺の両隅を欠いているが、長軸4.2m、短軸3.6mの、比較的整った長方形を呈すと思われる。

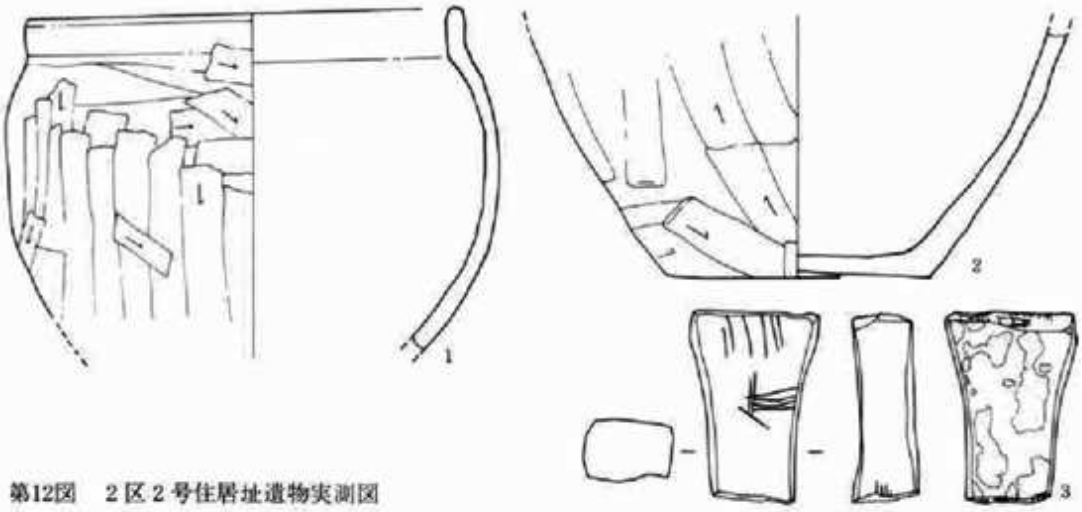
方　位　N－20°－E　　**面　積**　13.7㎡

壁　8cm未満の残存壁高で、ダラダラした立ち上がり部分のみである。

床　面　住居中央が踏み固められていたが壁際は軟弱であった。凹凸が多い。住居中央はやや低くなっていた。

ピット　規模の不揃いなピットを6本検出したが、配置に規格性を欠き、柱穴と想定できるものはなかった。

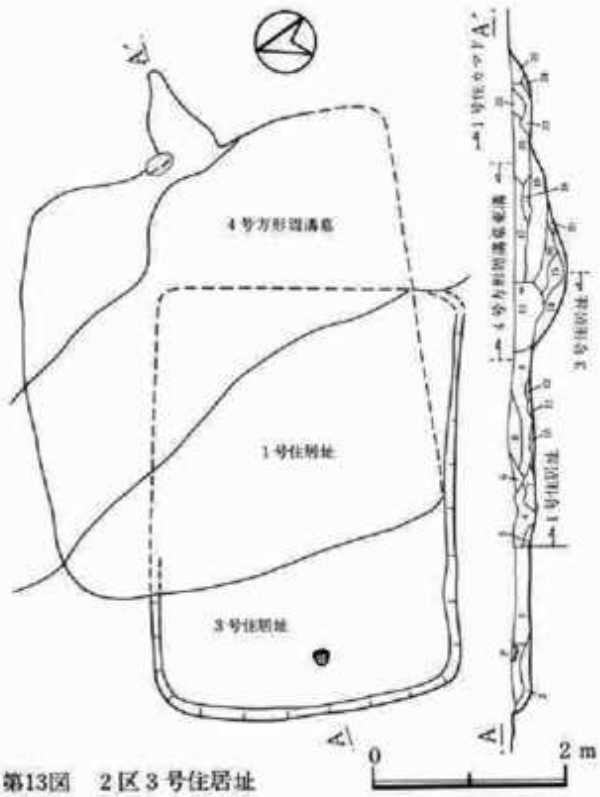
竈　北壁東隅にある。火床は住居内にあり、住居床面より5cmほど低くなっていた。煙道はごく緩やかに立ち上がっていて、壁外へ70cm張出す。



第12図　2区2号住居址遺物実測図

2区2号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	土　釜	23.0－ － ⑮25.5	図示部の½。	⑭。ナデ、削りは雑で弱い。平滑さ欠く。	⑭砂礫多く粗悪。⑮軟調O。⑯暗橙褐色ほぼ一様。⑰口縁波状の歪み。二次火熱。
2	土　釜	－ 13.8 －	図示部の⅔。	⑭。砂底。外面強い削り。内面指頭ナデ。	⑭砂礫・パミス多く粗悪。⑮軟調O。⑯暗褐色。内面橙褐色。⑰二次火熱。
3	砥　石	⑲2.2		平面糸巻状の手持ち砥。半欠使用。安山岩製。	



第13図　2区3号住居址

土層説明　1・6・10・12・18～20・25、淡黄褐色土層
2・5・15、暗黄褐色土層
3・4・13・16・24、褐色土層
7・11・22、褐色土層
8・9・17・21、暗黄色土層
14、暗黄色土層　23、赤茶色土層

2区　3号住居址

位　置　D－8グリッド

形　状　住居東半を欠き、南辺も不明瞭である。短軸3.1mを測る。長軸4.3mを想定したが、1住床面の焼土が本住居の竈址であれば、正方形プランとなる。

方　位　N－109°－E（長軸）

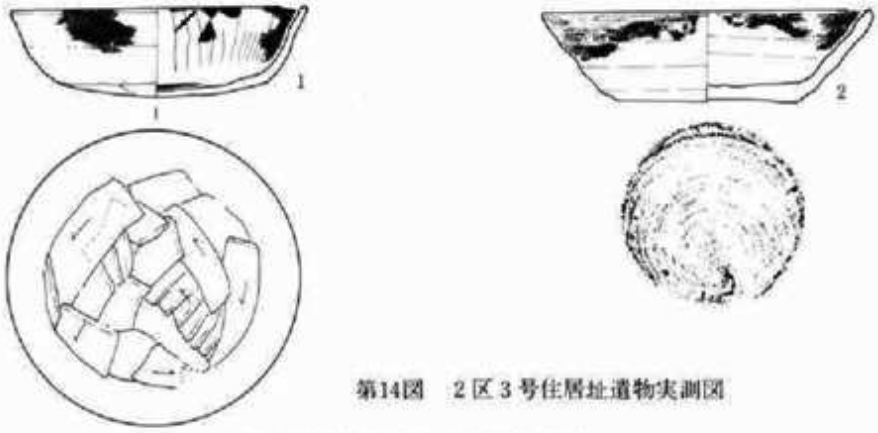
面　積　13.7m²

壁　最も遺存状態の良い西壁でも残存壁高は10cm未満で、立ち上がりはダラダラしている。南壁東側は攪乱があり、不明瞭である。

床　面　平坦で、踏固めは弱い。

竈　1住に壊されたものと思われ、検出できなかった。1住床面の焼土が本住居竈火床の可能性が強く、東壁中央にあったものと思われる。

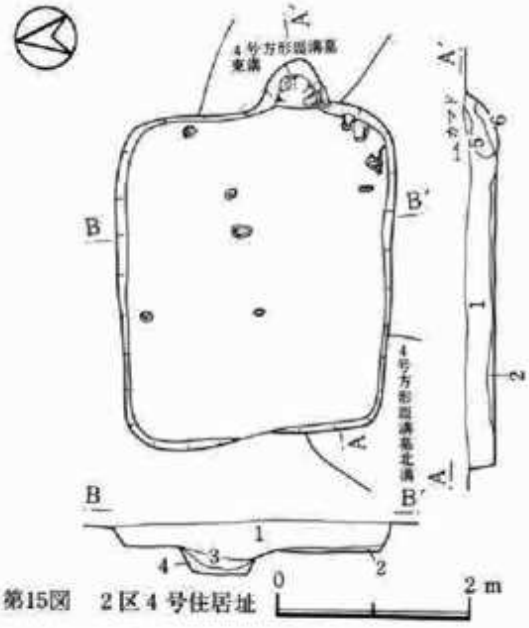
重　複　1号住居に切られている。



第14図　2区3号住居址遺物実測図

2区3号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	杯(H)	11.8-8.1-3.6	ほぼ完形。	㊫？口縁下半無調整。内面に焼成後線刻。	㊧粗砂含む。やや良。㊨硬調O。㊪淡褐色一様。㊬全面に、油煙状のスス付着。
2	杯(S)	13.0-7.2-3.6	ほぼ完形。	㊫。ロクロ痕やや強い。見込平滑。	㊧砂粒やや多、やや粗。㊨硬調R。㊪灰色一様。㊬口縁内外面に弧状にスス付着。



第15図　2区4号住居址

2区　4号住居址

位　置　D・E－10グリッド

形　状　長軸3.4m、短軸2.8mの、隅の丸い不整長方形を呈す。

方　位　N－96°－E　　**面　積**　8.3m²

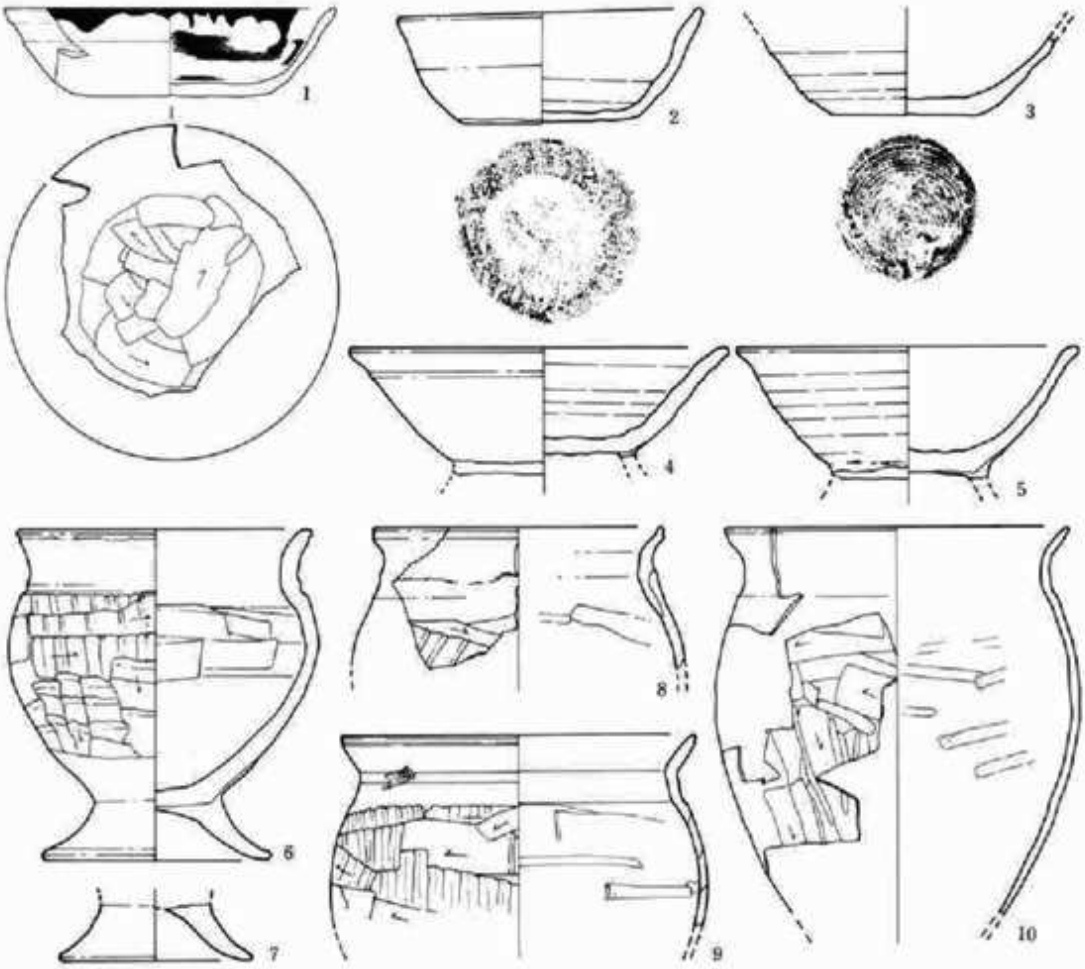
壁　残存壁高20～30cmで、比較的緩やかな立ち上がりをしていた。

床　面　平坦だが、踏固めは強い。重複部分にも明瞭な貼床は認められなかった。

竈　東壁やや東寄りにある。火床は壁外にあり、煙道は不明瞭であった。

重　複　4号方形周溝墓の上に構築されている。土層断面5・6層は、同周溝墓の埋土である。

土層説明　1．褐色土層　2．黄褐色土層　3・6．暗褐色土層　4、淡褐色土層　5．赤茶色土層



第16図　2区4号住居址遺物実測図(1)

第17図　2区4号住居址遺物実測図(2)

2区4号住居址出土遺物観察表

No.	器形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備考
1	杯(H)	(13.0)-8.0-3.4	口縁¼、底部完存。竈内。	㊙?口縁部のナデ強い。外面下半無調整で、弱い指頭状圧痕。	㊙石英・パミス等散見。㊙O。やや硬調。㊙橙褐色ほぼ一様。㊙歪みあり。内面中心に油煙状のスス付着。
2	杯(H)	12.1-7.1-4.3	完形。	㊙。底部周縁手ヘラ、中央無調整。内面横位ナデで研磨なし。	㊙細砂含む。緻密。㊙硬調O。焼締。㊙外面淡褐色。内黒だが光沢欠く。㊙内面にタール状のスス若干付着。
3	杯(S)	— 5.6 —	図示部完存。	(底有)。底縁部に接合痕。器面平滑さ欠く。	㊙粗砂多、輝石散見。㊙やや軟調R。㊙灰白色。暗灰色の重焼痕。㊙底部磨耗。
4	高台付き椀	(14.8)— —	口縁¼、底部完存。	(右台)。内面横位布状擦痕。ロクロ痕弱い。	㊙パミス・輝石等混入物多く粗。㊙O?弱い焼締り。㊙淡褐色〜黒褐色。
5	高台付き椀(S)	(13.4)-(6.5) —	口縁¼、底部完存。	(右台)。ナデで切離し不明。内面平滑。	㊙粗砂、白色鉱物粒やや多。㊙R。焼締。㊙灰色。㊙見込と高台割口磨耗。
6	台付き甕(H)	(11.7)-(4.6)-12.9 ㊙(12.2)㊙9.1	胴上半¼、下半ほぼ完存。	㊙→台部取付。削りは半乾き状態。内面ナデは布状擦痕。	㊙砂粒多、パミス散見、やや粗。㊙やや軟調O。㊙外面暗赤褐色、内面暗褐色。
7	台付き甕(H)	㊙(7.6)	図示部の½。埋土。	㊙。(残存部に接合痕なし。)布状擦痕。	㊙細砂やや多、やや緻密。㊙やや軟調O。㊙淡褐色ほぼ一様。
8	小型甕(H)	(11.4) — —	図示部の⅓。竈内。	㊙。頸部ナデ雑で接合痕明瞭。	㊙砂粒やや多。㊙O。弱い焼締。㊙暗褐色。内面淡褐色。㊙頸部外面スス付着。
9	甕(H)	(18.6)— — ㊙(19.7)	図示部の⅓。	㊙。口縁外端に沈線。削り丁寧。内面平滑。	㊙緻密。細砂含む。雲母・ローム散見。㊙最良のO。㊙淡褐色。内面橙色味。
10	甕(H)	(18.0)— — ㊙(19.0)	図示部の¼。	9とほぼ同巧。沈線やや弱い。	㊙㊙㊙9に近似。ロームの混入なし。㊙二次火熱により脆弱化。
11	壺(S) 長頸?	㊙(17.3)	図示部の¼。	右回転ロクロ成形。ロクロ痕粗い。	㊙砂礫多、粗い。㊙軟調R。㊙灰色。内面白色味。
12	短頸壺(K)	(11.4)— —	図示部の¼。埋土。	右回転ロクロ痕内面で強い。外面平滑。	㊙細礫含み不良。㊙硬調R。㊙灰白色。漬掛の釉は白色味が強い。㊙東濃系。

3区　1号住居址

位　置　E－2・3グリッド　**方　位**　N－88°－E

形　状　遺存状態がきわめて悪く不明確である。南辺側の両コーナーより、短軸2.7mの隅円長方形を呈するものと推定する。　**面　積**　10.9m²

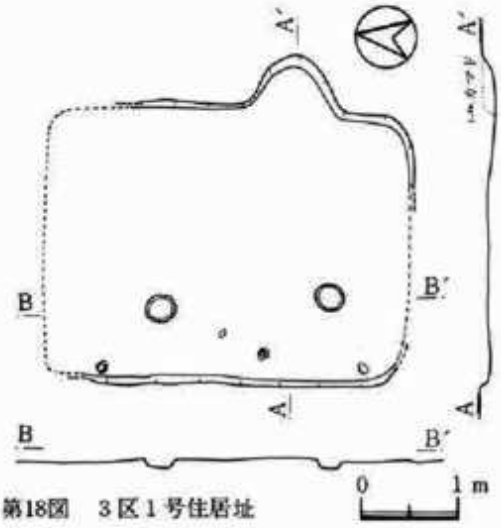
壁　最も残りの良い西壁でも、残存壁高は6～8cm程度である。

床　面　踏み固めは弱く、凹凸が多い。貼り床は認められない。竈前面から南側ピット付近まで、焼土が多量に散布していた。

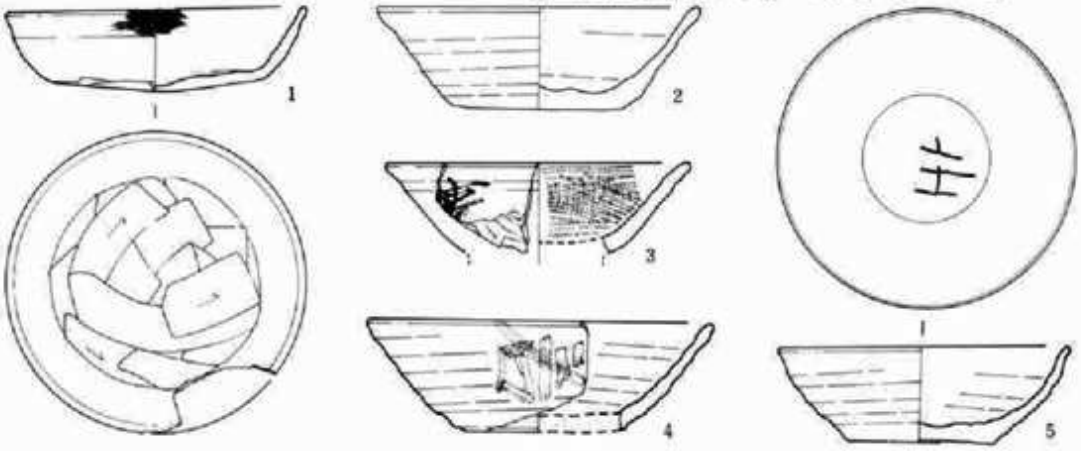
ピット　西辺側から、深さ8cmの柱穴と思われるピットを2本検出した。両ピットを結ぶ軸線は、西壁の線とはくい違い、竈の軸線とも直交しない。

竈　東壁の南寄りにある。遺存状態は悪い。火床は住居床面より5cmほど掘り窪められていた。

その他　住居中央に攪乱を受けている。出土遺物は西側に片寄り、床面より浮いた状態で出土した。



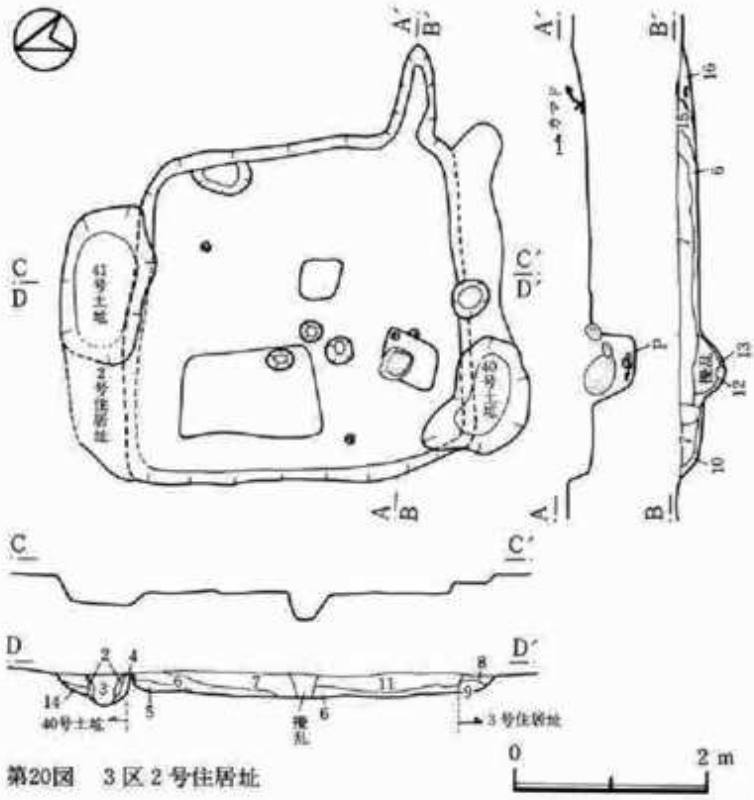
第18図　3区1号住居址



第19図　3区1号住居址遺物実測図

3区1号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	杯(H)	11.8-8.2-3.3	ほぼ完形。西壁中寄の埋土	㊙。口縁下半無調整。ヘラ削りやや弱い。	㊙砂粒・雲母含む。やや粗。㊙硬調O。㊗淡褐色。㊙口縁に燈芯痕状スス付着。
2	杯(S)	12.7-6.6-4.0	図示部の½。南西隅の埋土	㊙。口縁部に接合痕状のヒビあり。	㊙パミス・砂礫含み粗い。㊙軟調R。㊗灰色。口縁外面は重焼のためセピア色。
3	高台付き杯	(12.0)－　－	図示部の¼。埋土。	㊙。口縁中無調整、下端粗い手ヘラ。	㊙砂粒多く粗い。㊙やや軟調O。㊗淡褐色。内黒で光沢。㊙墨書は判読できず。
4	杯(S)	(13.6)-(6.8)-4.3	図示部の¼。西壁中寄り。	㊙。ロクロ痕は弱く細かい。内面平滑。	㊙細砂含緻密。㊙やや軟調R。㊗灰色。黒色の重焼痕あり。㊙外面墨書「若」。
5	杯(S)	11.5-5.6-3.8	完形。北西隅。	㊙。下端に雑なナデ。	2に近似。細砂含む。㊙焼成後線刻。



第20図　3区2号住居址

土層説明　1・2・11、黒褐色土層　3、黒色土層　9・10、淡黄褐色土層　5、黄色土層　6～8、褐色土層　12・13、明褐色土層　14、黄褐色土層　15、暗赤褐色土層　16、赤褐色土層

3区　2号住居址

位　置　C－3・4グリッド

形　状　軸線が3.4mの不整正方形を呈すものと思われる。

方　位　N－109°－E

面　積　11.8m²

壁　崩落や切り合い・攪乱のため遺存状態はきわめて悪い。残存壁高は20cm以内である。

床　面　西側へ下がるように、わずかに傾斜している。東壁直下を除き、3住と共有している。

ピット　不規則なピットが多数検出したが、本住居に確実に伴うものはない。

竈　燃焼部は壁外にあり、掛け口の補強に使用した円筒埴輪が崩落していた。燃焼部は住居床面よりダラダラと立ち上がり、そのまま煙道へ至っていた。

重　複　3住の竈は、本住居を切って築かれている。

第21図　3区3号住居址

3区　3号住居址

位　置　C－3グリッド

形　状　4.5×2.9mの横長長方形を呈すものと思われる。

方　位　N－106°－E

面　積　13.2m²

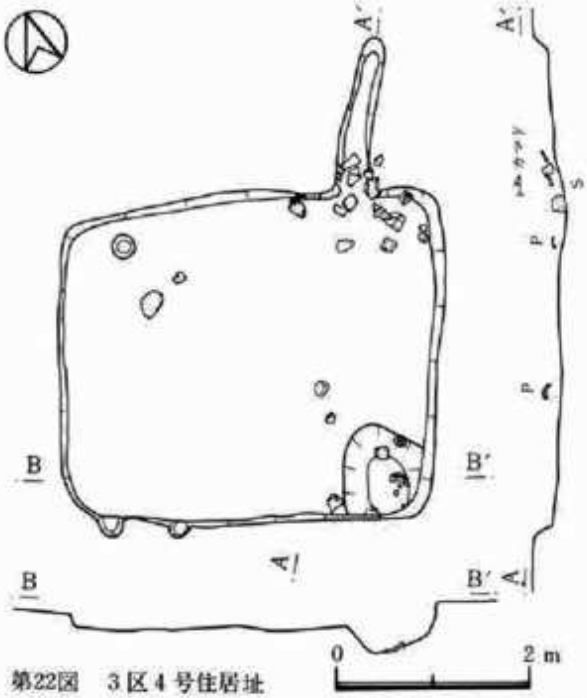
壁　西壁を2住と共有する。ダラダラと立ち上がっている。

床　面　北側・西側へ向って10cm近く低くなっている。2住と共有する部分が多い。攪乱が多い。

ピット　明らかに本住居に伴なうピットは確認できなかった。

竈　南東隅にある。火床はわずかに掘り窪めてある。袖部は角礫で補強してある。燃焼部は壁外にある。円筒埴輪片の出土が多く、掛け口の補強材として使用したものと思われる。

重　複　2住を切って構築していることが、竈の観察より確認できる。



第22図　3区4号住居址

3区　4号住居址

位　置　A－4・5グリッド

形　状　各辺の長さが不揃いな台形気味の不整形。西側の両隅が丸い。

方　位　N－22°－E

面　積　12.9㎡

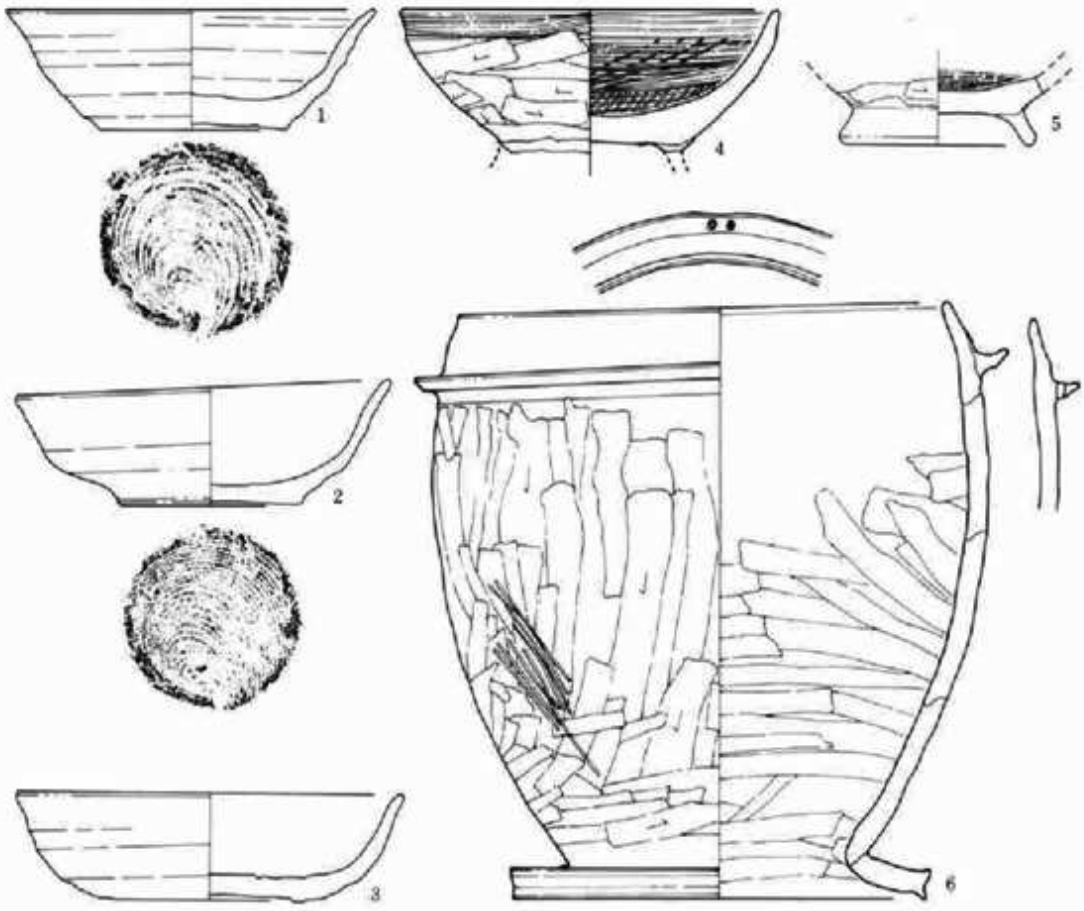
壁　残存壁高は12～15cmと浅いが、遺存状態は比較的良い。

床　面　竈前面と住居中央がやや高い。

ピット　南東隅に住居床面からの深さ28cmの貯蔵穴がある。貯蔵穴出土土器が、竈出土土器と接合することにより、このピットが住居廃絶時に開口していたものと想定できる。北東隅と南壁西側に、柱穴状の小ピットがある。

竈　煙道は住居壁より155cmの長さがある。袖石や支脚に使用した円礫が残存している。火床は住居床面より7cm低く、煙道との境に小さな段がある。土器片の出土が多い。

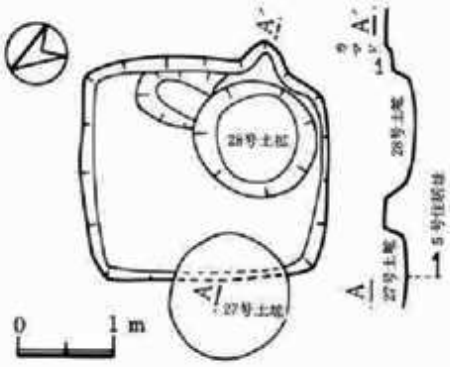
その他　埋土中に円礫の出土が多い。



第23図　3区4号住居址遺物実測図

3区4号住居址出土遺物観察表

No.	器形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備考
1	杯	14.5-7.3-4.7	口縁½欠く。南東側埋土。	㊁。ロクロ痕弱い。	㊂輝石・粗砂混入。㊃O。強い焼締。㊄淡褐色。外面下半セピア色の重ね焼痕。
2	杯	14.8-7.0-4.6	口縁⅓欠く。竈前面床直。	㊁。内面は布状のアテ具によるナデか？	㊂輝石・砂粒含む。緻密。㊃やや軟調O。㊄淡褐色ほぼ一様。
3	杯	(15.2)-8.2-4.2	口縁1/12、底部½。埋土。	㊁。内面平滑。口縁外面下半はロクロ痕が不明瞭になる。	㊂輝石・石英散見。やや緻密。㊃やや軟調O。㊄淡褐色。底部に火ダスキ状の黒いムラあり。
4	高台付き椀(H)	(15.0)-6.8—	高台を除き完存。竈内、支脚脇。	輪積状の弱い凹凸がある。手ヘラ粗い。内面細かな研磨。	㊂輝石・粗砂含む。やや粗。㊃O。㊄淡褐色〜暗褐色一様でない。内黒は光沢あり。㊅口縁端部磨耗。
5	高台付き椀(H)	—(6.2)— ㊇7.7	図示部の⅔。埋土。	4と同巧。	4と同じ。
6	甑	25.6-15.6-30.8 ㊇31.2	上半の½、下半の⅓を欠く。竈内と竈前面東寄り床直と、南東ピット内底部破片接合。	㊁→鍔取付→鍔上方より穿孔。外面の削りは弱く、ナデに近い。受部には指頭状の凹凸あり。全体に平滑で丁寧な作り。	㊂輝石・パミスやや多い。雲母散見。大型品としては緻密。㊃やや軟調O。㊄赤味の強い褐色。暗褐色のムラあり。㊅二次火熱の痕跡不明。甑としての使用痕確認できず。鍔穿孔部にスレ無し。畳つき部分は一部剥落。



第24図　3区5号住居址

3区　5号住居址

位　置　F－7グリッド

形　状　長軸3.6m、短軸2.8mの不整横長長方形を呈す。南東隅の歪みが大きい。

方　位　N－123°－E

面　積　5.5m²

壁　残存壁高は5cm以内で、傾向は把握できなかった。

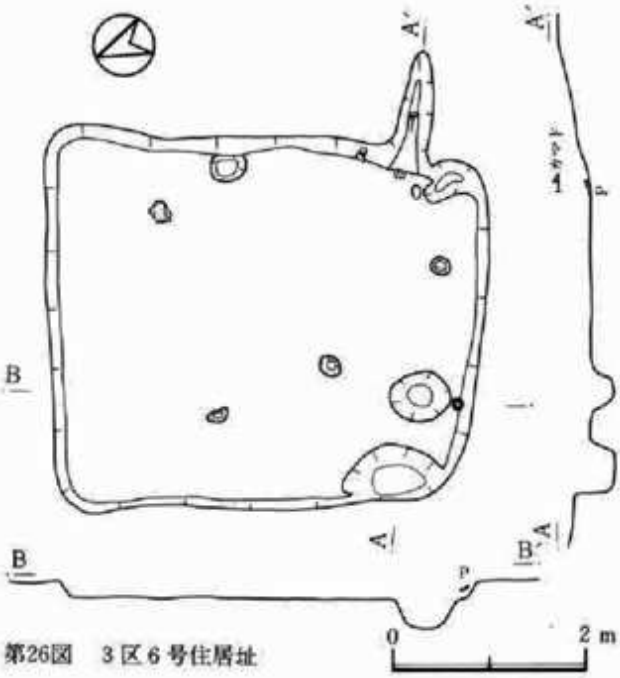
床　面　攪乱や土坑の重複が多いが、残存部分は比較的平坦であった。

竈　東壁南寄りにあるが、燃焼部掘り込みの痕跡が残るのみである。火床は住居床面より若干低い。

第25図　3区5号住居址遺物実測図

3区5号住居址出土遺物観察表

No. 器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1　高台付き椀(H)	(14.0)-(6.4)-5.5 ㊟7.4	上半⅔、下半⅓。竈付近床直及び埋土。	(右台)？高台取付は中央からズレる。見込の研磨は放射状。	㊥砂礫多く粗。㊦やや軟調O。㊧淡褐色。内黒は光沢。㊨外面に油煙状のススが不規則に付着。
2　高台付き椀(K)	㊟(8.0)	図示部の¼。埋土。	(右台)平滑。釉は僅か。糸切痕残らない。	㊥気泡散見。緻密。㊦良好。㊧灰白色一様。㊨東濃系。虎溪山期。
3　甑	(22.2)－　－ ㊟(26.6)	図示部の⅓。埋土。	3区4住6に同巧。鍔側端部手ヘラ。	㊥㊦3区4住6に近い。㊧内面黒褐色。㊨二次火熱により外面一部吸炭。鍔穿孔部にスレなし。



第26図　3区6号住居址

3区　6号住居址

位　置　A－3・4グリッド

形　状　東辺が長く、南辺が短かい台形気味の不整形を呈す。

方　位　N－113°－E

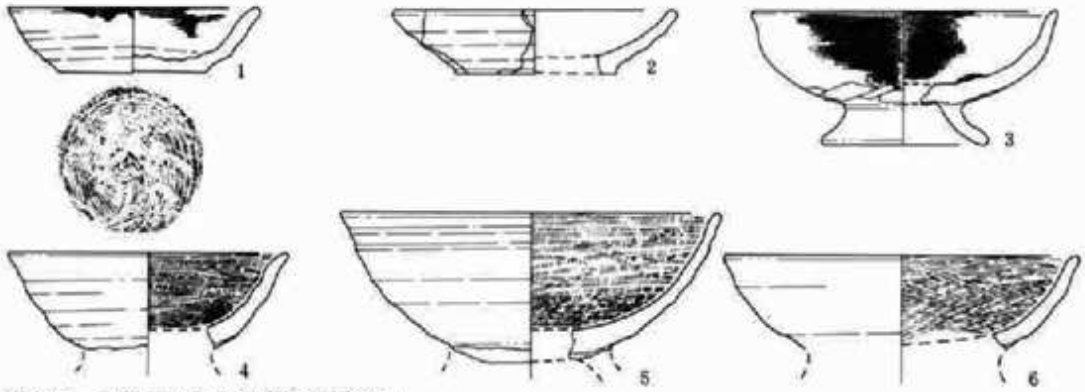
面　積　16.5m²

壁　残存壁高は16～22cmで、ダラダラと立ち上がっている。

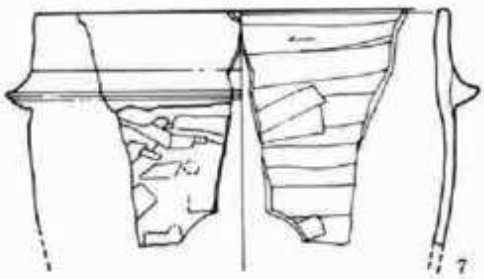
床　面　凹凸が多く整っていない。竈前面が若干踏み固められていた。

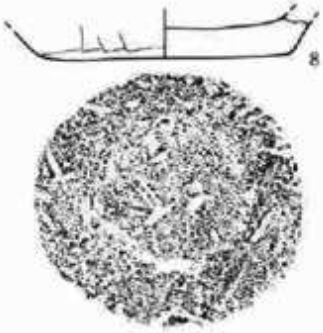
ピット　南西隅のピットは貯蔵穴の可能性がある。床面から25cmの深さである。その他に、規模・配置のマチマチな、性格不明のピットを5本検出した。　**竈**　東壁の南隅にある。煙道はダラダラと立ち上がり、壁外へ105cm延びていた。燃焼部は壁際にあり、火床は住居床面より一段高くなっていた。焚き口が火熱を受けて赤変硬化していた。

その他　埋土より礫の出土があった。



第27図　3区6号住居址遺物実測図(1)

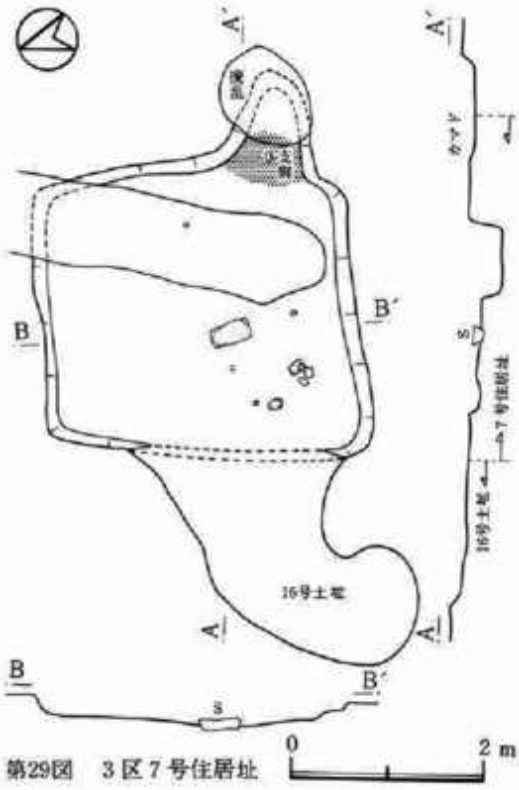




第28図　3区6号住居址遺物実測図(2)

3区6号住居址出土遺物観察表

No.	器形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備考
1	小皿	9.9-5.6-2.6	完形。南壁際、ピット脇の床上8cm。	右。見込渦巻状ロクロ痕。平滑さ欠きザラつく。	胎パミス・砂礫多く粗。焼硬調O。強い焼締。色淡褐色。内面に重焼痕状の灰色部分あり。焼成時の吸炭色ムラあり。
2	小皿	(11.6)-(6.4)-2.5	図示部の¼。埋土。	1にほぼ同じ。	胎砂粒多い。やや粗。焼軟調O。色淡橙褐色。
3	高台付き椀(H)	(12.0)-(4.0)-5.2㊟6.6	口縁¼、底部高台部½。埋土。	右台。高台取付前に下端に弱い削り。内面平滑さ欠く。	胎パミス・スサ状混入物含み粗い。焼ムラ多いO。色淡褐色～黒褐色一様でない。他内外面に焼成時吸炭の色ムラあり。
4	高台付き椀(H)	(11.0)－　－	図示部の¼。埋土。	右台？ロクロ痕が乱れる所あり。内面研磨丁寧。	胎砂粒多く雲母・輝石散見。やや粗。焼O。色黒褐色。内面黒色処理は強い光沢あり。
5	高台付き椀(H)	(15.0)-(4.6)－	図示部の½。埋土。	右台。ロクロ痕整美で擦痕強い。内面研磨丁寧。	胎焼色4に近い。チャート散見。内面光沢強いが、一部褐色味がある。他口縁端部磨耗。
6	高台付き椀(H)	(14.0)－　－	図示部の⅓。埋土。	右台？口縁に接合痕状のヒビあり。内面研磨は幅広で鋭い。	胎砂粒・パミスやや多く、やや粗。焼やや軟調O。色内黒は光沢弱い。外面淡褐色、口縁端部のみ黒色。
7	羽釜	(21.4)－　－ 鍔(24.2)	図示部の¼。竈北脇の床上6cm。	鍔。鍔直下に竹管状工具による沈線。削り弱く雑。内面ナデ丁寧。指頭圧痕多い。	胎パミス・砂粒やや多、輝石散見、やや粗。焼硬調O。焼締。色淡褐色。内面一部暗い。他二次火熱の痕跡不明。
8	土釜？	－ 13.2 －	図示部完存。竈前面の床直。	鍔。砥底。見込に不揃な指頭ナデ。ヘラ削りは雑。	胎砂粒・パミス多、石英・輝石散見。粗い。焼O。焼締欠く。色暗褐色～淡褐色一様でない。他二次火熱。底部付着砂粒は粗い。また、スサ状の圧痕あり。



第29図　3区7号住居址

3区　7号住居址

位　置　D－1グリッド

形　状　長辺3.3m、短辺2.7mの平行四辺形に近い不整形を呈すものと思われる。

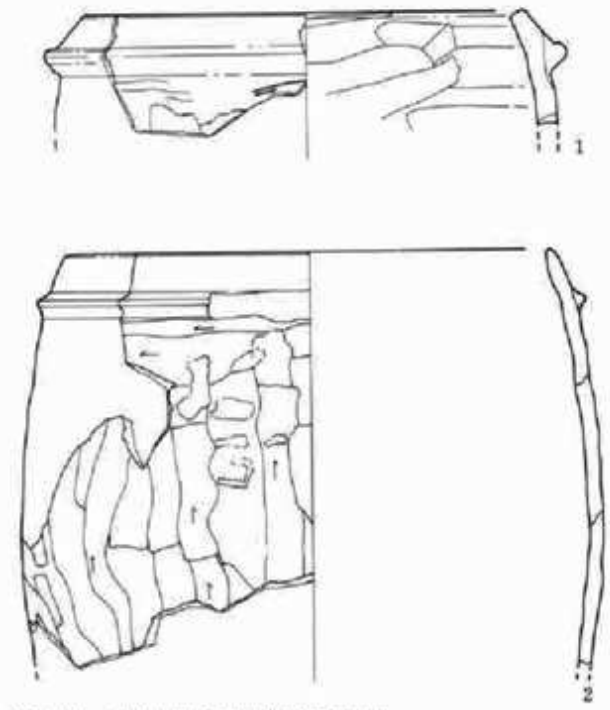
方　位　N－111°－E

面　積　9.6㎡

壁　残存壁高は8～18cmである。攪乱を受けた部分が多く、遺存状態はきわめて悪い。

床　面　明瞭な床面が残るのは、竈前面と住居北東隅付近だけである。残存部分は踏み固めが弱く軟弱であった。住居中央南寄りは、10cmほど窪んでおり、角礫が平坦面を上にして据えつけるように置いてあった。この部分は直上まで16号土坑へ至る攪乱を受けている。窪みや礫の性格については不明である。

竈　東壁の南隅にある。煙道部分に攪乱があり、全体の規模は把握できない。燃焼部は壁際にある。火床は住居床面より3～4cm掘り窪めてあり、焼土がたい積していた。火床中央に、支脚に使用した礫が据えてあった。



第30図　3区7号住居址遺物実測図

3区7号住居址出土遺物観察表

1. 羽　釜

計測値　口(23.0)　胴(27.2)

出土状態　図示部の¼。住居中央埋土。

特　徴　胴。内傾する口縁端部は平坦に仕上げる。鍔の取付は雑。体部手ヘラは弱い。

備　考　胴気泡含む。砂粒・輝石多くやや粗。胴やや硬調O。色淡橙褐色。暗いムラ多く一様でない。鍔付近は磨耗すすむ。

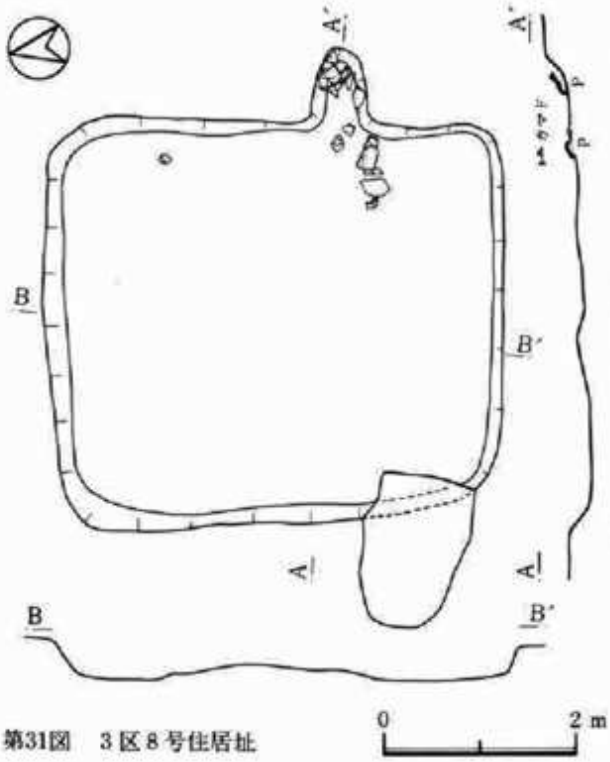
2. 羽　釜

計測値　口(25.5)　胴(28.5)　胴(30.5)

出土状態　図示部の¼。南西隅埋土。

特　徴　胴。外面に2～3cm幅の紐状凹凸あり。鍔取付はきわめて雑。削りは乾燥状態で行ない、器面に弱い光沢。内面不明瞭。

備　考　胴細礫・パミス多く、輝石・石英散見。粗悪。胴やや硬調O。色淡橙褐色～黒褐色で一様でない。胴破損後に二次火熱を受ける。内面の磨耗・剥落著しい。



第31図　3区8号住居址

3区　8号住居址

位　置　B－6グリッド

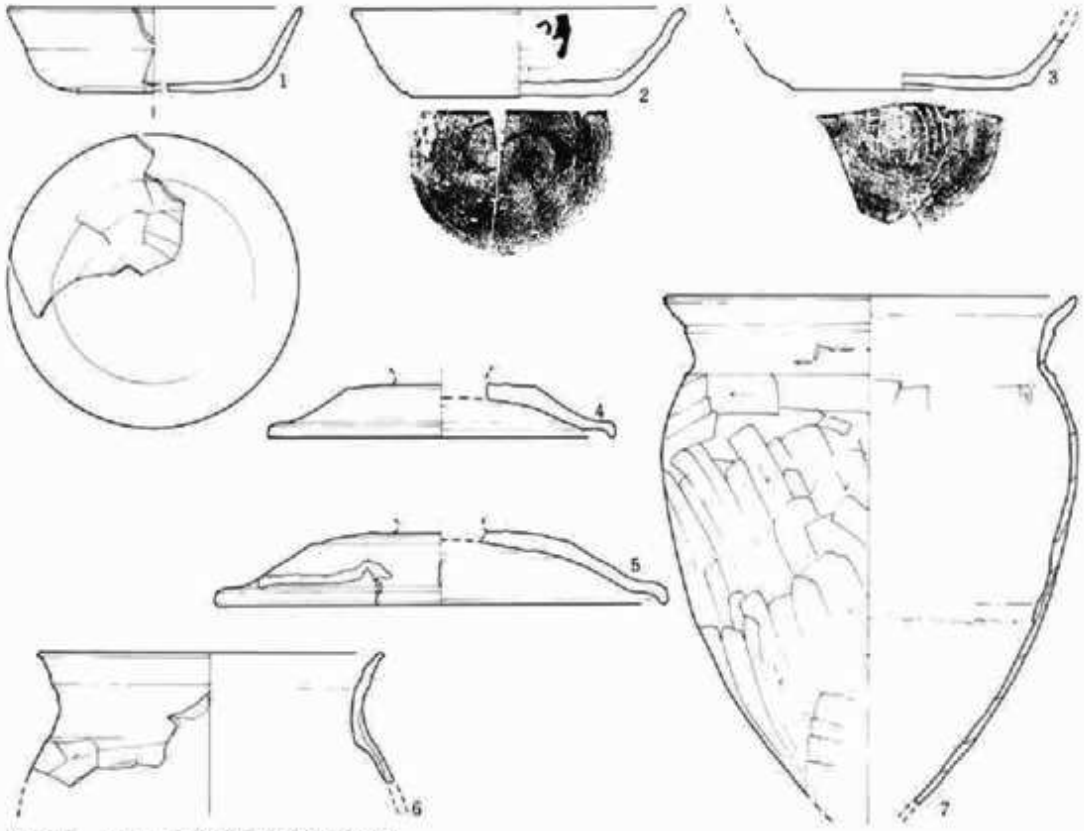
形　状　長軸4.7m、短軸4.1mの比較的整った横長長方形を呈す。

方　位　N－100°－E　　**面　積**　18.9m²

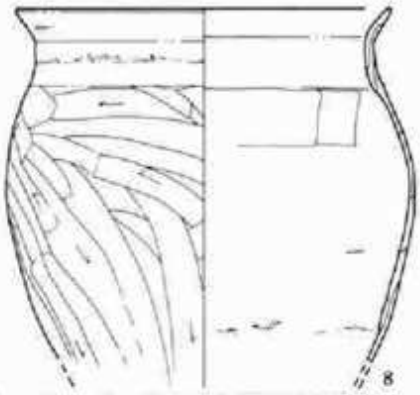
壁　残存壁高は20～35cmで、東壁は垂直に近い立ち上がりであるが、他は緩やかな傾斜の立ち上がりとなっている。

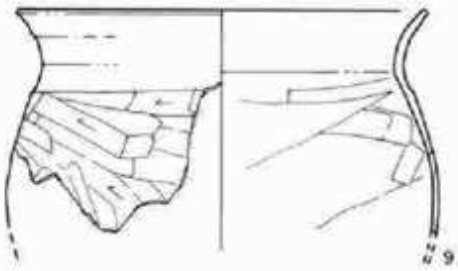
床　面　西側が5cmほど低く、傾斜している。住居中央から東壁際にかけて、踏み固めがやや強く、大きな凹凸が多い。

竈　東壁の南寄りにある。燃焼部は壁外にあり、火床は住居床面より3cm高くなっている。燃焼部内の甕は、掛け口にあったものが流れ込んだものと思われる。煙道は壁外へ75cm張り出している。南袖に相当する部分から、土器や礫が集中して出土した。



第32図　3区8号住居址遺物実測図(1)

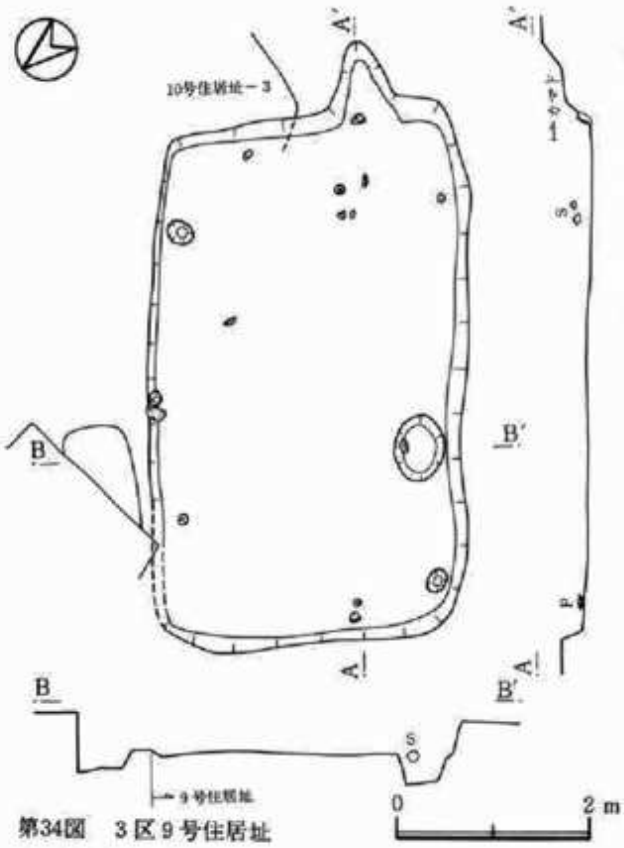




第33図　3区8号住居址遺物実測図(2)

3区8号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	杯(H)	(11.6)-(7.6)-3.3	図示部の¼。埋土。	㊙口縁下半無調整。内面ナデは布状擦痕。	㊙輝石・砂礫若干含む。㊚やや軟調O。㊛淡橙褐色ほぼ一様。
2	杯(S)	17.1-8.0-3.4	⅔個体。東壁下北側の床上5cm。	㊙→底周回ヘラ。口縁下端無調整。ロクロ痕弱く平滑。	㊙細砂含む。雲母散見。精緻。㊚やや軟調R。㊛灰色。口縁上面外側に暗灰色の重ね焼痕。㊙内面に燈芯痕状スス付着。
3	杯(S)	― 8.6 ―	図示部の½埋土。	2に同じ。見込に弱い沈線が巡る。ロクロ痕弱く平滑。	㊙砂粒・石英・細礫含む。緻密。㊚硬調O。㊛淡褐色一様で断面まで一様。㊙焼土は土師器的。器形より須恵器と判断。
4	蓋(S)	㊐(13.6)	図示部の¼。埋土。	㊙→天井部に二段以上の回ヘラ。ロクロ痕弱い。	㊙白色鉱物・砂粒やや多い。㊚軟調R。若干焼締。㊛灰青色。㊙口径13cm、底径7cmの杯と倒置重ね焼している。
5	蓋(S)	㊐(17.8)	図示部の⅓。埋土。	4に同じ。内面指頭痕多い。鈕はロクロ不使用か。	㊙砂粒多くやや粗い。㊚やや硬調R。弱い焼締。㊛灰黄色ほぼ一様。
6	小型甕(H)	(13.6)― ― ㊚(12.0)	図示部の¼。埋土。	㊙。ナデは布状の擦痕。ヘラ削りは粗い。	㊙細砂含み精緻。㊚やや硬調O。㊛茶褐色ほぼ一様。㊙内面頸部若干スス付着。
7	甕(H)	(21.4)― ― ㊚(18.3) ㊚(21.6)	口縁¼、胴部½。竈内。火床直上。	㊙。接合痕明瞭。ヘラ削り鋭い。内面平滑。指頭状凹凸散見。	㊙砂粒・雲母含む。緻密。㊚やや軟調O。㊛暗褐色～黒褐色で一様でない。内面灰色味。㊙二次火熱。外面下半にスス。
8	甕(H)	(19.6)― ― ㊚(17.8) ㊚(21.3)	図示部の⅓。竈前面床直。	7に近似する。頸部の接合痕明瞭。	㊙㊚7に近い。㊛淡褐色ほぼ一様。㊙頸部内面に若干スス付着。
9	甕(H)	(21.5)― ― ㊚(18.9) ㊚(22.5)	図示部の¼。竈火床直上。	7に近似する。体部の削り弱い。	㊙㊚7に近い。黒色の泥粒散見。㊛淡褐色。赤・灰色味をおびる部分あり一様でない。



第34図　3区9号住居址

3区　9号住居址

位　置　C－5グリッド

形　状　長軸5.4m、短軸3.3mの縦長長方形を呈す。南隅がやや歪む。

方　位　N－128°－E

面　積　17.2m²

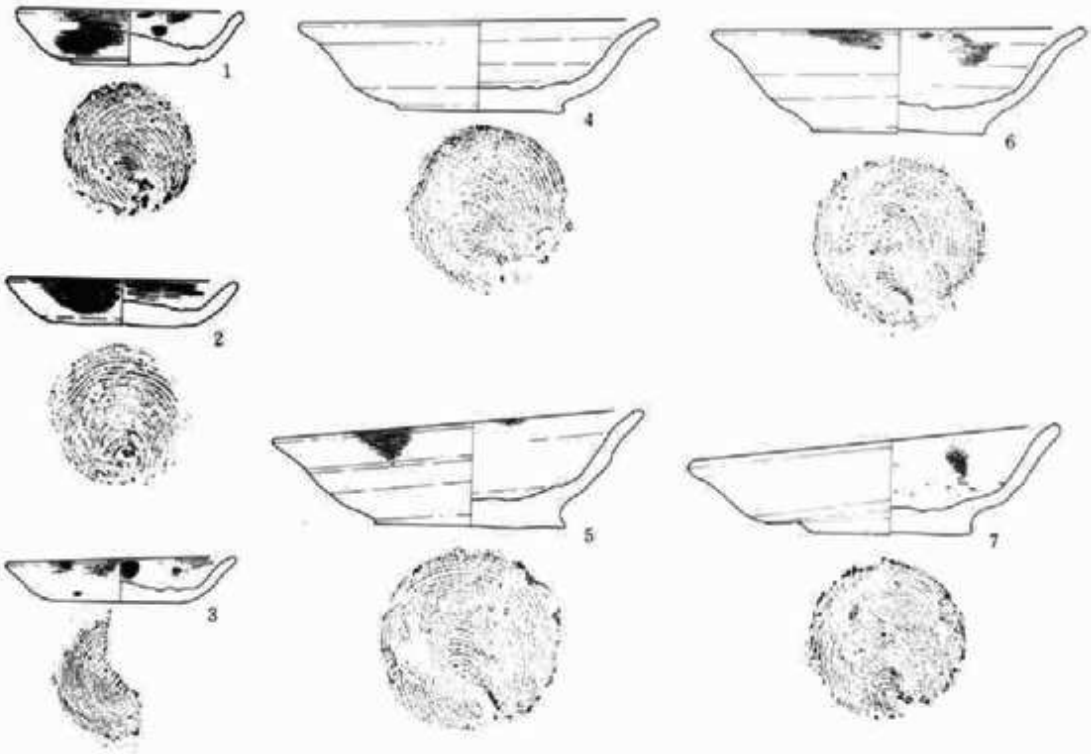
壁　70°前後の傾きで立ち上っている。残存壁高は20～30cmで比較的遺存状態はよい。

床　面　よく踏み固められ、小さな凹凸のある明瞭な床が残存する。東側が若干低くなるように傾斜している。

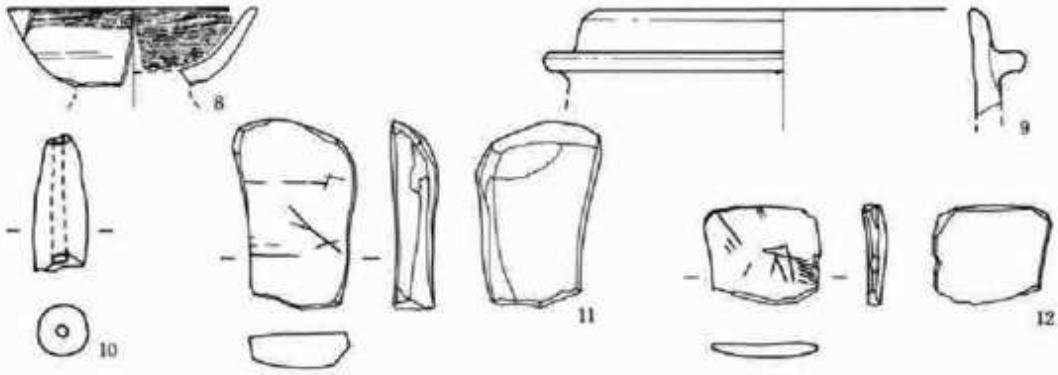
ピット　西隅と、東隅中央寄りに柱穴状の小ピットがある。南西壁下には大型ピットがあり、上層より礫が出土している。

竈　南東壁の南寄りにある。張り出し部は住居床面より25cmもテラス状に高くなっている。燃焼部は住居内にあり、段上に高い煙道が付くものと考えたい。火床上の礫は北袖の補強材ではなかろうか。

その他　杯類を中心とした完形土器の出土が多いが、住居壁際に分散して配置したような出土状態であった。竈前面からは、礫の出土が多い。



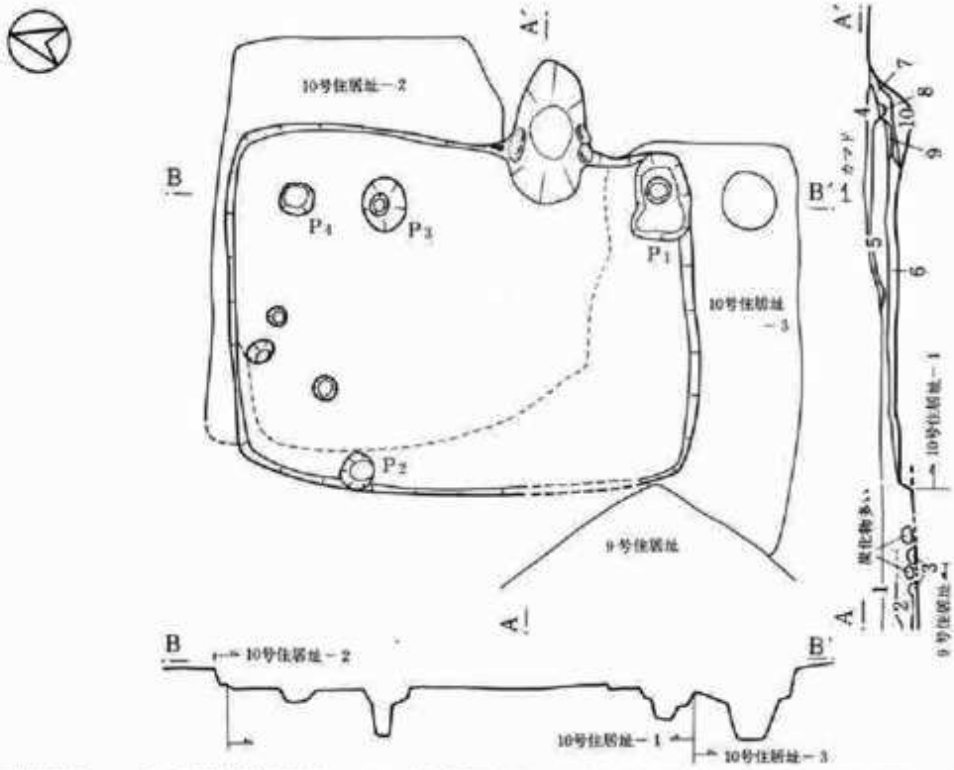
第35図　3区9号住居址遺物実測図(1)



第36図　3区9号住居址遺物実測図(2)

3区9号住居址出土遺物観察表

No.	器形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備考
1	小皿	9.1-4.9-2.2	完形。竈前面北側。床上5cm。	(盤右)?外面下端・見込中央にロクロ痕なし。見込縁辺に弱い不整同心円状沈線。	㊥細礫・パミス・輝石含みやや粗。㊦硬調O。適度の焼締。㊐淡褐色。焼成時の吸炭によるスス状の色ムラあり。㊧口縁部に片口状の歪みあり。
2	小皿	9.1-5.7-1.8	完形。住居中央北側床直。	1に同じ。ロクロ痕は口縁下端まで及ぶ。	㊥㊦㊐1に近い。胎土やや良。㊧内面に接合痕状のヒビあり。
3	小皿	(9.2)-(5.0)-1.7	½個体。東壁下、床上7cm。	1に同巧。	㊥㊦1に酷似。㊐若干赤色味をおびる。
4	杯	14.1-6.5-3.6	完形。北壁中央直下床上3cm。	(盤右)?基本的に1に同じ。ロクロ痕弱い。見込中央を平坦に仕上げる。全体に平滑。	㊥㊦㊐1に近い。砂粒細かく胎土やや良。㊧口縁上端は、蓋で擦れたような擦痕が残る。
5	杯	14.8-7.2-4.7～3.3	完形。南壁東寄り床直上。	4に同巧。	㊥㊦㊐4に近似。パミス含む。㊧口縁上端の擦痕なし。
6	杯	14.7-6.8-4.2	完形。北西隅。	4に同巧。	5に同じ。
7	杯	14.8-6.0-4.7～2.7	完形。西壁南寄り床直。	4に同巧。歪み大きい。	5に同じ。㊧底部端に製作ミス(糸切失敗)による2つの小孔を生じる不良品。
8	高台付き椀(H)	9.8— —	図示部の¼。埋土。	(右台)高台取付前に底部縁に雑な手ヘラ。	㊥砂粒やや多。石英・輝石散見。㊦やや軟調O。㊐橙褐色。内黒で光沢あり。
9	羽釜	(19.8)— —㊤(25.2)	図示部の¼。竈前面北埋土。	(鍔)?鍔の取付は雑。	㊥粗砂多く粗。㊦軟調O。㊐暗褐色でほぼ一様。
10	土錘	㊨4.1㊧1.4	埋土。⅓個体。	半欠品。㊥粗砂を含む。㊐暗褐色。	
11	砥石	㊧2.2	竈前面の床直	平面糸巻状の半欠使用。割口含め、全面使用。泥岩製。	
12	砥石	㊧0.8	埋土。	割口を除く5面使用。薄さから、再調整砥を想定。安山岩製。	



土層説明　1、褐色土層（硬質）　2、第1層に近以。　3、黄褐色土層（軟質）　4、第1・2層に近以（カマド）　5、赤褐色土層（カマド）　6、暗褐色土層（カマド）　7、明褐色土層（カマド）　8、第1・2層に近以（カマド）　9、暗褐色土層（カマド）　10、第5・6・7層より暗茶褐色土層（カマド）

第37図　3区10号住居址－1

3区　10号住居址について

本住居は発掘調査の段階で重複を明確にできなかった住居である。西側にある風倒木痕の影響で壁や床の検出はきわめて困難であったが、プラン・貼り床の範囲・ピットの配置などから、最大3軒の重複の可能性がある。また、特殊なプランの1軒の住居である可能性も否定できない。ここではこの住居を3区10号住居址として扱い、最大の重複の可能性に沿って、以下に個別に説明を加える。

3区　10号住居址－1

位　置　C・D－6グリッド

形　状　長軸4.8m、短軸3.7mの比較的整った横長長方形を呈すと思われる。

方　位　N－75°－E

面　積　16.7m²

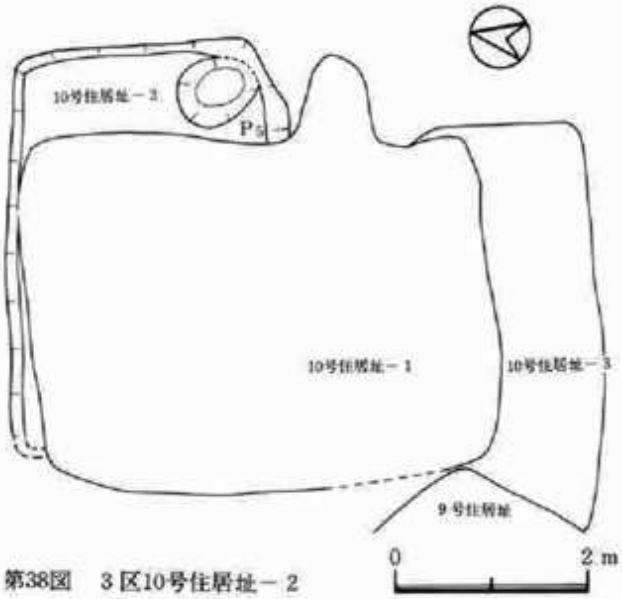
壁　竈南脇で壁高25cmを測る以外は、残存状態はきわめて悪い。北壁および東壁の竈以北では壁高3cm前後で、立ち上がりかろうじて判る程度であった。西壁は3～10cmの残存壁高だが、直下の床が不明瞭で掘り過ぎたおそれもあり、確実なものではない。

壁　溝　北壁西側から西壁・南壁下にかけて巡っていたものと思われる。

床　面　全体に薄く貼り床を施しており、この範囲を元に本住居のプランを復元した。なお、破線の範囲は踏み固めの強い部分である。

ピット　P_1は貯蔵穴的な配置であるが、P_2・P_3とともに4主柱穴を形成した可能性もある。P_4および他の小ピットは断面逆台形の浅いもので、性格は不明である。床面からの深さ（cm）はP_1→37、P_2→15、P_3→25、P_4→11、であった。

竈　東壁中央南寄りにある。燃焼部は壁外にあり、石組み焚き口の基部が残存していた。崩壊が著しかった。図示し得たのは掘り方である。



第38図　3区10号住居址－2

3区　10号住居址－2

位　置

形　状　長軸4.5m、短軸2.8mの長方形を想定した。

方　位　N－78°－E

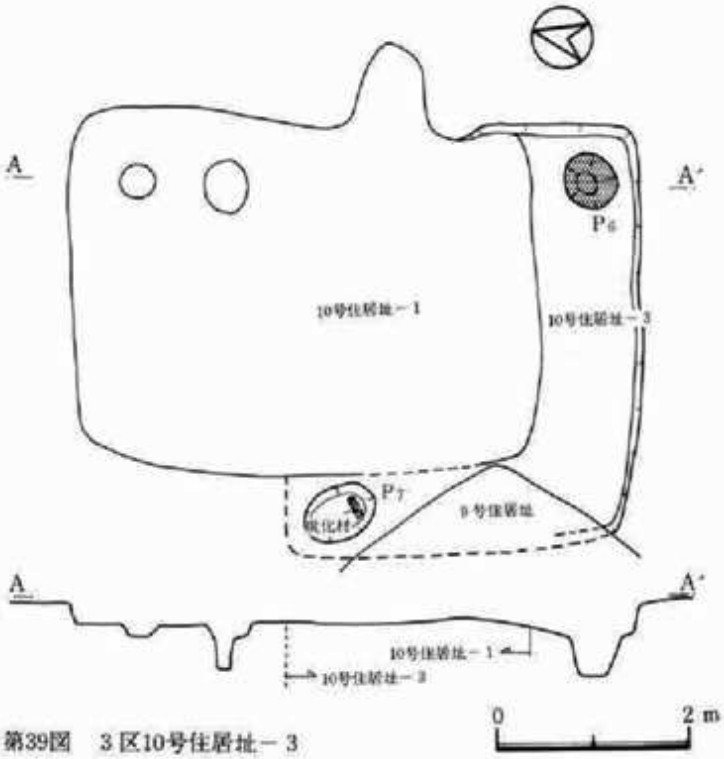
面　積　12.2㎡

壁　立ち上がりが緩やかで不明瞭であった。残存壁高は3cm前後である。

床　面　踏み固めが弱く、凹凸がある。10住－1より2～3cmレベルが高く、同一住居である可能性は少ない。

ピット　南東隅の壁直下より性格不明のピットを検出した。床面からの深さは24cmである。

その他　本住居に明らかに伴なう遺物の出土はなかった。



第39図　3区10号住居址－3

3区　10号住居址－3

位　置　C・D－6・7グリッド

形　状　長軸4.4m、短軸3.7mの整った長方形を想定した。

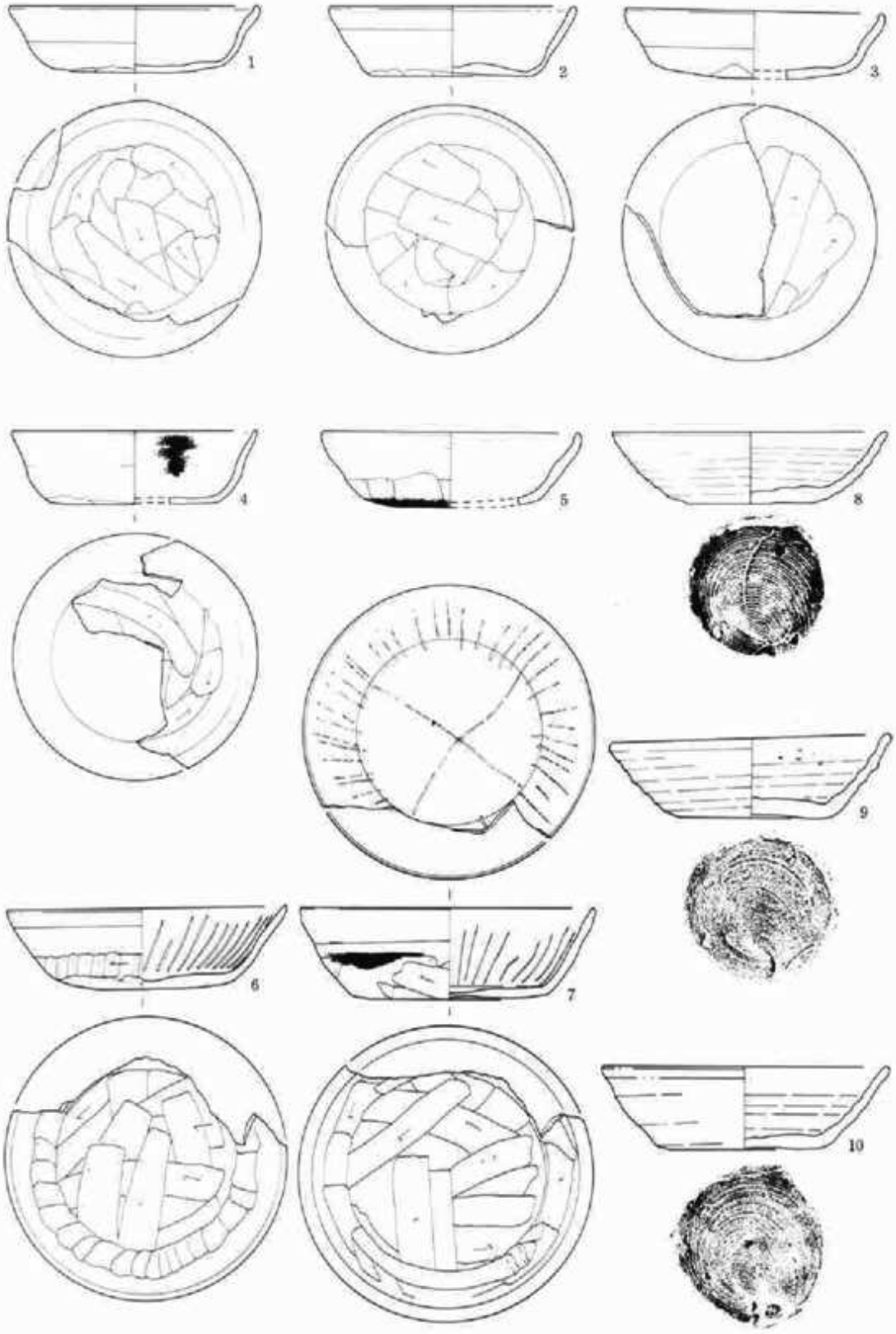
方　位　N－75°－E

面　積　15.7㎡

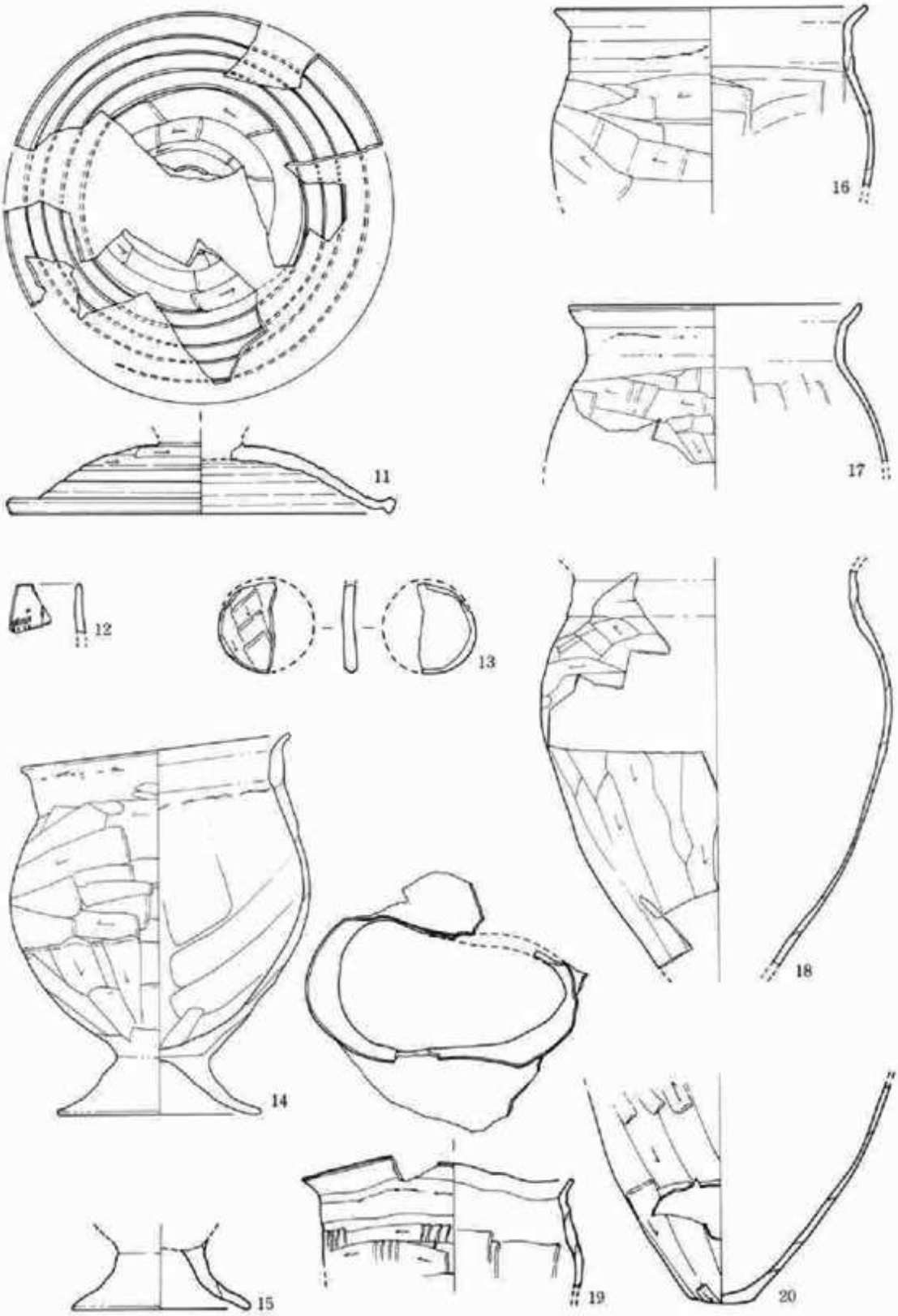
壁　南側で10cm以上残存しており、東壁と合わせて10住の中で最も良好な壁となっている。

床　面　踏み固めの弱い不明瞭な床である。南東側ピット（P_6）周辺ではレベルが低かった。

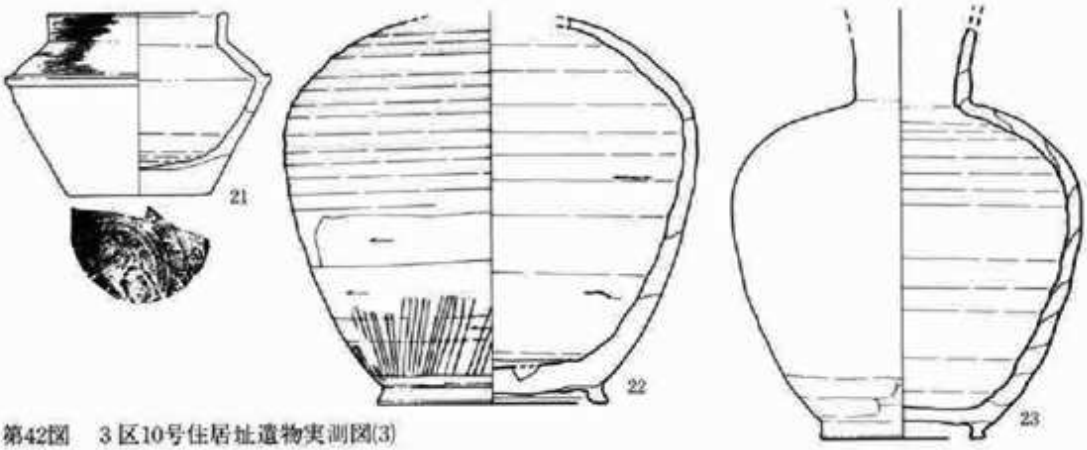
ピット　南東隅のP_6、北西隅のP_7の2つを検出した。P_6は床面からの深さ41cmで、埋土にな多量の焼土・灰等を含んでいた。P_7は皿底状の浅いピットで、不明瞭であっあ。P_6からは杯類を中心に多量の遺物を出土したが、10－1住の竈前面出土遺物と接合する例があった。



第40図　3区10号住居址遺物実測図(1)



第41図　3区10号住居址遺物実測図(2)



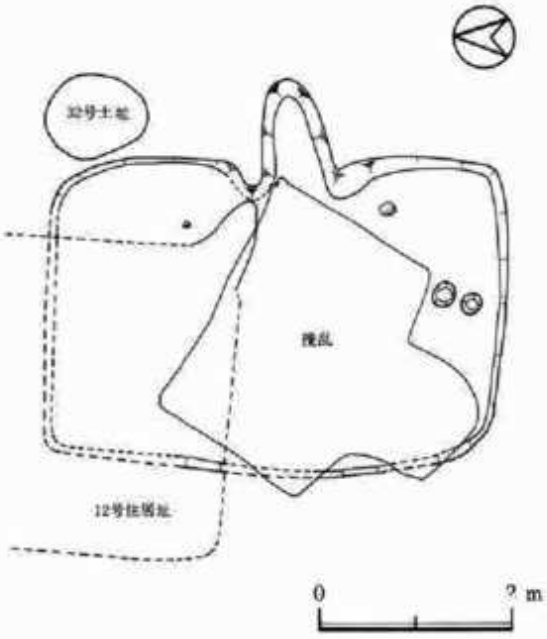
第42図　3区10号住居址遺物実測図(3)

3区10号住居址出土遺物観察表

No.	器形	計測値 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備考
1	杯(H)	12.1-8.1-3.2	口縁1/3欠く。P_4内および埋土の6片。	口縁内端やや窪む。内面平滑さ欠く。底部削りやや雑で弱い。	⑩細砂・石英散見。やや緻密。⑪やや硬調O。⑫淡褐色。外面若干赤色味をおびる。⑬不均等にスス付着。
2	杯(H)	11.8-7.6-3.3	口縁1/3欠く。埋土4片。	口縁部1に同じ。内面ナデ丁寧。底部削りも丁寧。薄手軽量。	⑩石英・輝石散見。緻密。⑪硬調Oで焼締。⑫淡橙褐色。内面やや暗く、一部で灰色味をおびる。
3	杯(H)	12.4-(8.4)-3.2	口縁1/6、底部1/2欠く。P_4内。	1に同巧。	⑩⑪⑫1に同じ。
4	杯(H)	11.6-(8.0)-3.5	1/2個体。埋土6片。	内面ナデ、底部削り伴に丁寧。2に近く、きわめて薄手。	⑩輝石・石英・パミス散見。やや緻密。⑪硬調O。還元気味の所あり。⑫黒色。内面は灰色味をおびる。
5	杯(H)	(12.4)-(8.4)-3.4	図示部の1/2。	口縁下端にヘラ削り。他は2に同じ。	⑩2に同じ、⑪やや軟調R。⑫灰色で断面まで一様。⑬器形より土師器と判断。
6	杯(H)	13.3-8.6-3.8	口縁1/3欠く。P_1内。	底部削りやや粗い。内面丁寧なナデの後に口縁部のみ暗文。	⑩細砂多い。輝石散見。やや緻密。⑪硬調O。焼締。⑫淡褐色。一部橙色味。⑬内面やや磨耗。
7	杯(H)	14.1-9.5-4.3	口縁1/3欠く。P_4内。	6に近いが平滑さ欠ける。口縁外端窪む。	⑩⑪⑫1に近い。⑬外面一部スス付着。墨書が隠れている可能性あるが不明。
8	杯(S)	13.1-6.1-3.4	ほぼ完形。P_4内。	⑥。ロクロ痕細かい。見込平滑。底部厚くやや重量。	⑩白色鉱物粒やや多い。細礫散見。やや緻密。⑪やや硬調R。⑫淡灰青色。⑬口縁やや歪む。見込磨耗。底部に亀裂。
9	杯(S)	13.4-6.8-3.8	ほぼ完形。埋土。	⑥。8にほぼ同じ。	⑩8に近い。やや粗い。⑪やや硬調R。⑫淡灰青色。若干褐色味をおびる。

3区10号住居址出土遺物観察表

No. 器　形	計測値 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
10　杯(S)	13.7-7.3-4.0	口縁½欠く。P_4内および埋土6片。	㊨。ロクロ痕弱い。口縁外端・見込縁部は押圧による窪み。	㊥砂粒やや多いが、他の混入物少ない。㊦やや硬調R。㊥淡灰色で一様。㊧口縁内端と見込は磨耗。
11　蓋(S)	(17.8)－　－	½個体分、接合せず。鈕欠く。埋土。	㊨→天井部手ヘラ。ロクロナデのアテ具痕が鋭い沈線状に残る。	㊥白色鉱物・砂粒・チャート含む。やや粗い。焼やや硬調R。焼締。㊥淡灰色。外面は褐色味が強い。
12　椀　？		口縁部細片。埋土。	口縁部外面に墨書あるが判読できず。細片のため傾き不明。ロクロ成形の高台付き椀と思われる。焼成O。混入品か。	
13　円盤状土製品	㊥(4.4)	埋土。	土師器の甕もしくは雑な造りの杯底部破片の転用。縁辺を強く砥ぎ込むようにして調整。	
14　台付甕(H)	12.9－17.4 ㊥12.0　㊦14.3 ㊧上4.5　下9.7	ほぼ完形。竈内および埋土の数十片。	㊧。接合痕残る。削りやや雑。脚部内面のみ丁寧なナデ。	㊥砂礫・パミス等灰夾雑物多い。やや粗。㊦O。㊥淡橙褐色。外面に暗褐色、灰褐色のムラ。㊧二次火熱を受ける。
15　台付甕(H)	㊧上4.4　下(8.6)	図示部の⅓。埋土。	14にほぼ同巧。端部の丸味少ない。	㊥砂粒・輝石等の細かな夾雑物多い。やや緻密。㊦O。㊥淡橙褐色でほぼ一様。㊧二次火熱を受ける。
16　甕(H)	(20.0)－　－ ㊥(17.8) ㊦(20.6)	図示部の¼。竈前面の床直および埋土。	㊧。頸部中央無調整。削り強い。内面ナデは丁寧で平滑。	㊥砂粒・ベンガラを含む。緻密。㊦やや軟調O。㊥淡褐色。内面淡赤褐色。㊧二次火熱の影響少ない。20は同一個体か。
17　甕(H)	(19.0)－　－ ㊥(16.4) ㊦(22.0)	図亜益の¼。竈付近の埋土9片。	16にほぼ同巧。内面平滑に仕上げるが、ナデの痕跡弱い。	㊥砂粒含む。パミス散見。緻密。㊦やや軟調O。㊥淡褐色。内面淡赤褐色。㊧二次火熱の影響少ない。
18　甕(H)	㊥(18.6) ㊦(22.0)	上半¼、下半¼。埋土14片。	㊧。頸部は全面ナデ。削り強く器面に凹凸。内面ナデ強い。	㊥粗砂・パスミス・チャート混入。やや粗い。㊦硬調O。焼締。㊥淡褐色。灰色号のムラ多い。㊧破損後に火熱受ける。
19　甕(H)	㊥17.2～8.0	図示部の¼。10－3住南壁直下、P_1内、10－1住床面	㊧。コの字状口縁。頸部全面ナデ。削りナデ丁寧。焼成時の歪み著しい不良品。	㊥砂粒やや多い。他の混入物は少なくやや緻密。㊦硬調O。焼締。㊥淡褐色。口縁中心に灰色味をおびる。㊧器面の磨耗なく、使用の痕跡は認められない。
21　短頸壺(S)	(6.4)-5.6-7.1 ㊦(10.4)	底部½、他は¼。埋土。	㊨。内面に接合痕なく丁寧な造り。ロクロ痕弱い。底部厚い。	㊥砂粒含む。黒色泥粒散見。やや緻密。㊦やや軟調R。㊥灰白色。外面暗い。㊧外面に薄くススト付着。
22　長頸壺(K)	㊦(21.4) ㊥11.9	上半½、下半¼。P_3周辺の床直。	㊨→高台を強く取付ける。体部下半ヘラ削り。施釉方法不明。	㊥細砂若干含む。緻密。㊦硬調R。㊥灰色。外面灰黄色。釉は白色味。㊧東濃系か。
23　長頸壺(S)	㊥6.0　㊦18.2 ㊥8.6	図示部ほぼ完存。P_4西側の床直。	㊨→高台取付け雑。体部下端回ヘラ。ロクロ痕弱い。	㊥砂粒多くやや粗い。㊦やや軟調R。㊥淡灰青色一様。㊧外面体部下半～底部に薄くススト付着。



第43図　3区11号住居址

3区　11号住居址

位　置　D－7・8グリッド

形　状　長袖4.6m、短軸3.2mの横長長方形を呈すと思われる。東辺の長い逆台形となる可能性もある。

方　位　N－92°－E

面　積　14.4m²

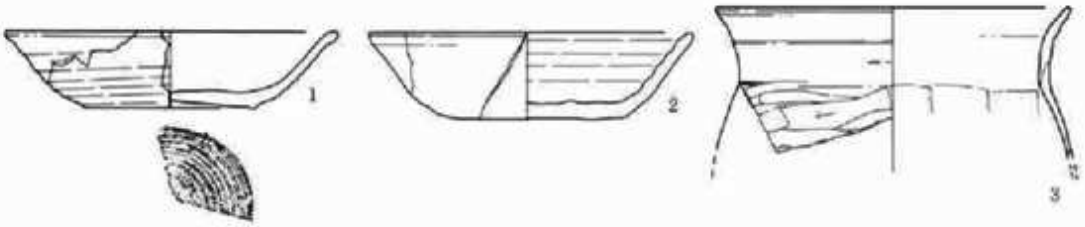
壁　残存壁高は10cm以下である。

床　面　住居中央に大きな撹乱を受け、北半は12号住居に切られ、あまり残っていない。残存部分は踏み固めが弱く軟弱である。

ピット　南壁下に2つの小ピットを並んで検出した。柱穴とは考えにくく、本住居に確実に伴うものか、不明である。

竈　東壁の中央にある。掘り方の痕跡を留めるのみで、不明瞭であった。両袖の基部に、地山の掘り残しが認められる。

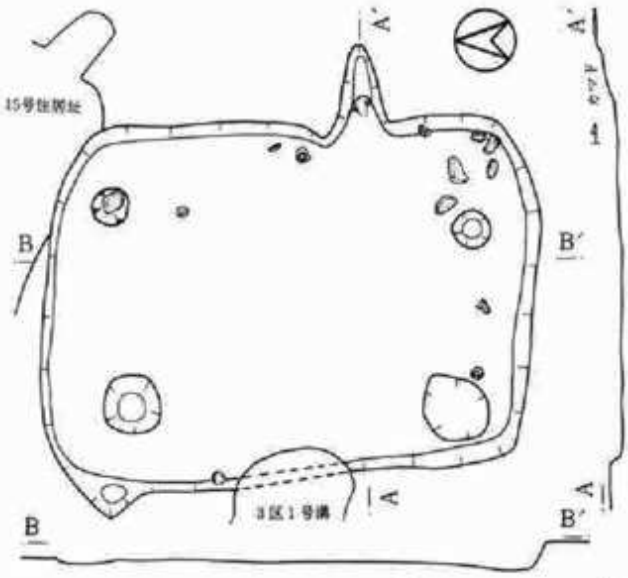
重　複　12住の竈が、本住居の床面上に構築されている。



第44図　3区11号住居址遺物実測図

3区11号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　考
1	杯(S)	(13.0)-(6.6)-3.0	¼個体。埋土。	㊀。平滑さ欠く。ロクロ痕は外面で強く、凹凸やや強い。	㊁砂粒・砂礫やや多く粗い。㊂R。若干焼締。㊃暗灰色で断面まで一様。㊄埼玉末野窯跡群の製品と思われる。
2	杯(S)	(12.7)-7.2-3.4	口縁¼、底部¾。埋土。	㊀。底縁回ヘラと思われるが、底面磨耗し確認できない。	㊁細砂目立つ。雲母散見。やや緻密。㊂R。若干焼締。㊃灰白色。口縁端部のみ重焼痕が暗くなっている。
3	甕(H)	(18.4)－　－ ㊄(16.2)	図示部の¼。竈内北側、及び埋土。	㊁。頸部外面に接合痕。ナデやや雑。ヘラ削りは強い。	㊁砂粒やや多い。輝石散見。㊂O。適度の焼締。良好。㊃茶褐色ほぼ一様。㊄口縁内面に若干スス付着。



第45図　3区13号住居址

3区　13号住居址

位　置　E－8・9グリッド

形　状　長軸5.1m、短軸3.8mの横長長方形を呈す。平行四辺形気味である。

方　位　N－91°－E

面　積　18.0m²

壁　南壁は25cmの高さで残存するが、他は5cm前後しか残っていない。

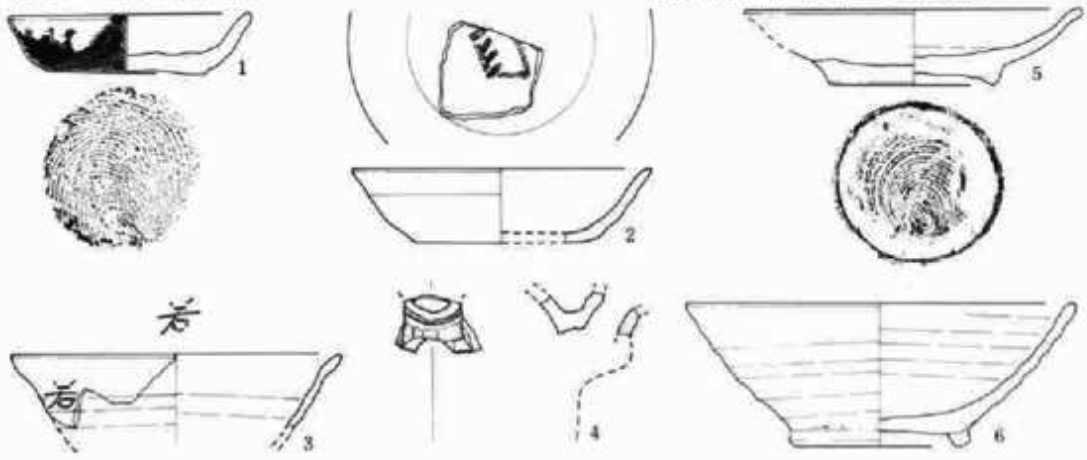
床　面　南側へ10cm低く傾斜している。住居中央に強く踏み固められた部分があった。

ピット　四主柱穴を検出した。住居の区画とは若干くい違う。いずれも浅い。北東ピットの礫は、床上3cmの高さで検出した。

竈　燃焼部は壁際で、煙道との境に段がある。北袖基部は地山掘り残しである。

重　複　15号住居と重複。新旧は不明。

その他　河原石の出土が多かった。南西隅付近では、床上に集中していた。

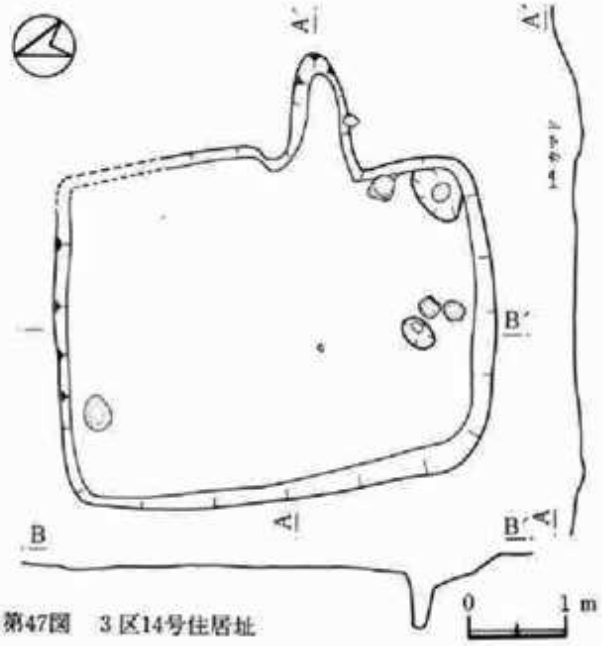


第46図　3区13号住居址遺物実測図

3区13号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	小　皿	9.6-6.3-2.3	ほぼ完形。南東隅床上6cm。	第6。体部外面最下端はロクロ痕不明瞭。糸切痕には3区9住の小皿類と同様のクセがある。	⑮3区9住の小皿類と近似する。⑯硬調O。適度の焼締。⑰淡褐色。外面には焼成時の黒褐色のムラと、油煙状に付着するススとが混然となっている。⑱歪みが著しい。
2	杯(H)		底部小片。埋土中。同一個体と思われる口縁片出土。	第。底部削りやや雑。ナデ強いが見込中央は不明瞭で、凹凸が残る。	⑮砂礫・石英を含む。⑯軟調。標準的なO。⑰淡茶褐色で一様。⑱見込中央に墨痕の濃い墨書あり。「司」か？　混入品の可能性あり。

3　杯(S)		口縁部小片。 埋土。	㊨。ロクロ痕はやや弱く、比較的平滑。	㊥細砂多い。良好。㊦やや軟調R。㊧灰色で一様。㊩焼成後刻字あり。「若」?及び「チ」で、比較的明瞭な刻みである。
4　浄瓶(K)		図示部のみの小片。 埋土。	内面にヘラ状のアテ具痕あり。外面は丁寧な削りを施す。	㊥緻密。猿投窯系の特色である黒色粒状混入物散見。㊦硬調R。㊧胎土は灰白色で、釉は厚く灰緑色を呈す。
5　高台付き皿(S)	(13.0)-(6.0)-2.9 ㊥6.6	口縁部の¾を欠く。 西壁北側直下床直。	(右台)。高台は低く取付簡略。ロクロ痕は弱く、器面はきわめて平滑。	㊥細砂多い。やや緻密。㊦硬調R。焼締り良く良好。㊧灰白色で一様。㊩口縁端部若干磨耗する。
6　高台付き椀(S)	(15.3)-(6.6)-5.6 ㊥6.9	½個体。 竈南側の壁直下床上4cm。	(右台)。外面に接合痕状のヒビあり。高台取付は雑。	㊥細砂・砂礫やや多い。㊦やや硬調R。適度の焼締あり。㊧暗灰色で一様。㊩高台下端の磨耗が顕著。



第47図　3区14号住居址

3区　14号住居址

位　置　F－8・9グリッド

形　状　東辺は竈を挟んでくい違う不整形を呈し、南辺は北辺より30cm短かい。

方　位　N－102°－E

面　積　15.1m²

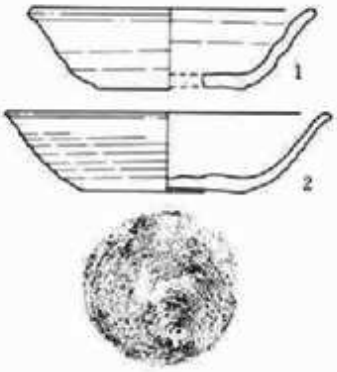
壁　残存壁高は10cm以内で、壁の下端しか把握できなかったものと考える。

床　面　竈前面から住居中央にかけて踏み固めが強い。壁直下が低くなる傾向がある。

ピット　南壁中央下の柱穴状ピットと、南東隅の貯蔵穴状ピットを検出した。

竈　東壁の南寄りにある。燃焼部は壁外にあり、火床は住居床面より6cm低い。煙道は火床からダラダラと立ち上がっている。南袖構築材の円礫が残存している。

その他　円礫の出土が多いが、大半は床面より浮いた状態であった。



第48図　3区14号住居址遺物実測図

1.　杯(S)　　計測値　㊤(11.2)　㊦(5.8)　㊨3.1

出土状態　図示部の¼。竈内。

特　徴　㊨。口縁部最下端に強い段があり、円盤作りの可能性。ロクロ痕は強い。

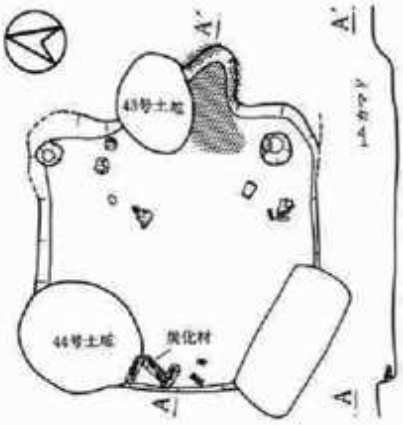
備　考　㊥砂礫・パミス・長石含みやや粗。㊦やや軟調R。㊧灰青色・底部はセピア色を呈す。㊩歪みあり、口径不安。

2.　杯(S)　　計測値　㊤12.8　㊦6.0　㊨3.1

出土状態　ほぼ完形。埋土。

特　徴　口縁下端の段はないが、1に近似。外面ロクロ痕細かい。

備　考　㊥㊦1に近い。石英やや多い。㊧濁灰色一様。



第49図　3区17号住居址

3区　17号住居址

位　置　F－10グリッド

形　状　攪乱や重複のため、3隅を検出できず不明瞭だが、一辺2.9mの隅丸正方形を呈すと思われる。

方　位　N－80°－E

面　積　8.2m²

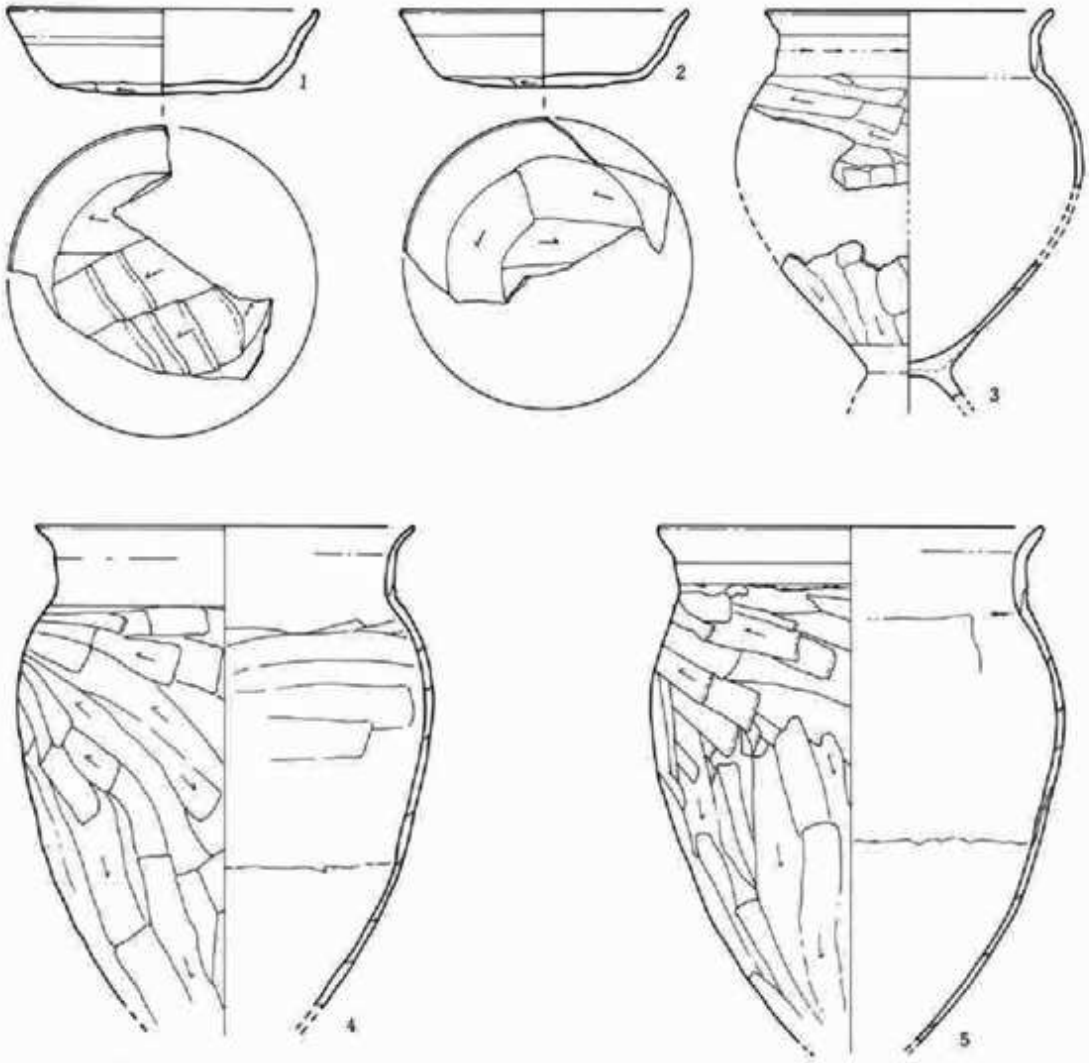
壁　残存壁高15cmで、垂直に近い立ち上がりである。

床　面　凹凸が多く軟弱である。

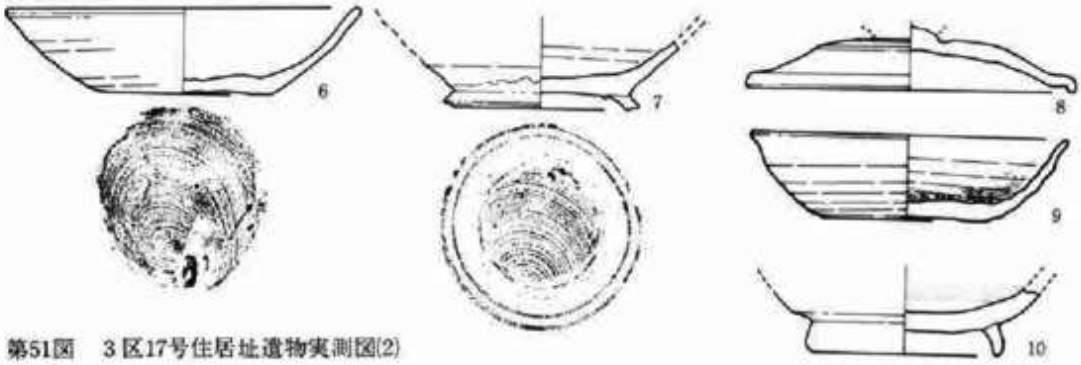
ピット　東辺の2隅から柱穴を検出した。西辺の2隅は不明だが、4隅に規則的に柱穴のある、4主柱穴の住居であった可能性が高い。

竈　東壁のやや南寄りにある。天井部が崩落し、焼土が10cmの厚さでたい積していた。燃焼部は壁外にあり、火床は住居床面より5cm掘り窪めてあった。

重　複　16住との重複は新旧不明。土坑には切られている。



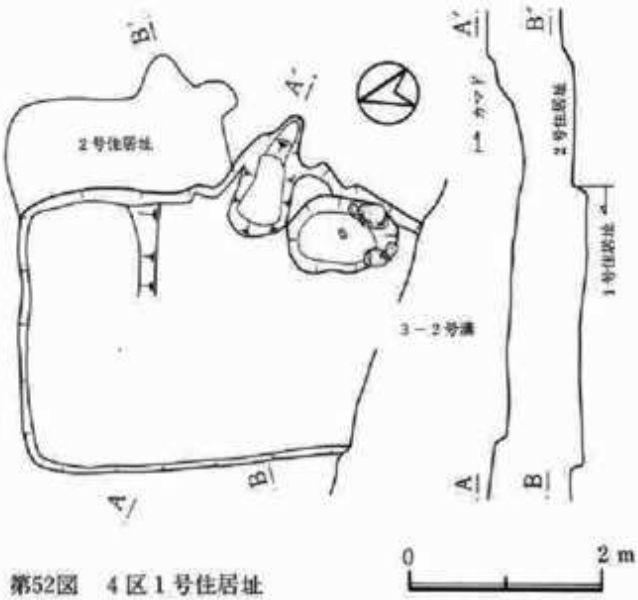
第50図　3区17号住居址遺物実測図(1)



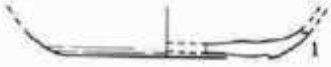
第51図　3区17号住居址遺物実測図(2)

3区17号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	杯(H)	(12.2)-8.5-3.3	口縁¼、底部½。貯蔵穴内。	輪。口縁外面中位に沈線状の鋭い横位擦痕。下半は無調整。	胎細砂含む。精緻。焼やや軟調O。色淡褐色ほぼ一様。
2	杯(H)	(11.4)-7.6-3.0	口縁½、底部½。貯蔵穴内。	輪。ナデ弱く、指頭状凹凸が器面に残る。	胎細砂やや多い。緻密。焼やや軟調O。色淡橙褐色で一様。
3	台付き甕(H)	14.9-(3.6)-口13.8 胴(18.2)	上半¾、下半½。竈内及び埋土。	輪。接合痕明瞭。口縁のナデ弱く、頸部外面一部無調整。	胎砂粒やや多い。焼軟調O。焼締やや欠ける。色茶色～黒褐色で一様でない。他二次火熱顕著。内面の剥落すすむ。
4	甕(H)	19.7— —口17.5胴21.8	図示部ほぼ完。竈内及び埋土。	輪。胴下位の合わせ痕明瞭。	胎砂粒含み輝石散見。やや緻密。焼やや軟調O。色茶色～暗褐色。他二次火熱。
5	甕(H)	20.2— —口19.2、胴21.5	図示部の¾。南壁下床直。	輪。4に近い。口縁のナデやや雑で、端部は内傾気味。	胎砂粒、細礫含み不良。焼やや軟調O。色淡橙褐色～黒褐色で一様でない。他二次火熱を受ける。
6	杯(S)	14.0-6.8-3.3	ほぼ完形。北側床上5cm。	右。ロクロ痕きわめて弱い。	胎砂粒多くやや粗い。焼軟調R、焼締欠く。色灰色。一部灰白色。
7	高台付き椀(S)	—(6.6)—台7.6	図示部ほぼ完存。竈前面。	右台。高台取付の工具痕が、畳付部と内側端に巡る。	胎砂粒若干含む。緻密。焼硬調。ムラのない最良のR。色灰白色一様。他高台外端の剥落すすむ。
8	蓋(S)	(13.0)— —	½個体。竈前面。	右→天井部2段の回ヘラ。鈕はボタン状を呈す。	胎細礫含む。輝石散見。粗悪。焼やや硬調R。色暗灰色。外面重ね焼痕の色ムラ。他鈕は低ぎ込まれるように磨滅。
9	杯(S)	12.5-6.3-3.3	ほぼ完形。住居中央床上15cm。	右？接合痕状のヒビが口縁内外面にある。ロクロ痕細かい。	胎砂粒やや多い。緻密。焼硬調R。焼締。色灰白色一様。他見込に多量の朱色付着物(ベンガラ？)あり。
10	高台付き椀(K)	台(6.2)	図示部の¾。埋土。	右台。底部中央に回糸痕。釉は漬掛。内面一部に降灰釉。	胎砂粒若干含む。精緻。焼硬調R。色灰白色。釉は外面白色味強く、内面降灰釉は灰緑色。他東濃系か？。虎溪山窯期。



第52図　4区1号住居址



第53図　4区1号住居址遺物実測図

4区　1号住居址

位　置　B－1グリッド

形　状　長軸4.0m、短軸2.7mの横長長方形を呈すと思われる。

方　位　N－113°－E

面　積　11.9m²

壁　北壁、西壁は15cmの高さで残存するが、南壁は失なわれている。

床　面　東側へ低く、傾斜している。凹凸が著しく、軟弱で不明瞭である。

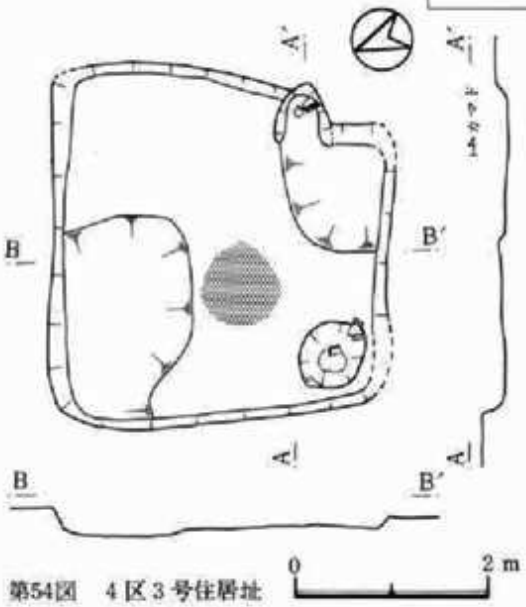
ピット　竈南脇に横長の貯蔵穴がある。竈に近すぎることが疑問点である。

竈　東壁の南寄りにある。住居の軸線より25°南を向いている。燃焼部は壁際で、火床は擂鉢状に深くなり、最深部で住居床面より12cm低い。煙道にはテラス状の段があり、焼土が多かった。

重　複　3－2溝に切られている。

出土遺物観察表

1、杯（S）　計測値　㊟(8.7)　埋土小片。　特徴　㊧→底全回ヘラ、高台削り出し→内面ナデ。　備考　㊩精選。黒色鉱物粒目立つ。㊫やや硬調R。㊬灰色一様。㊭秋間窯址群産の製品か。	



第54図　4区3号住居址

4区　3号住居址

位　置　C－1・2グリッド　**形　状**　床面の一部のみ検出した遺構（4住）の直上に築かれ、形状は明確にし得なかった。

方　位　N－114°－E

面　積　11.8m²

壁　西壁20cmと南壁の一部12cmの高さが残存している。他の壁は4住の壁と区別できなかった。

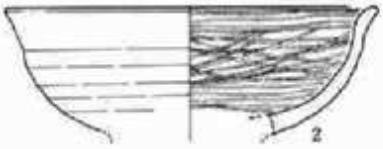
床　面　2面の床があるようだが、明確でない。住居中央には、竈から掻き出したような焼土が散布していた。

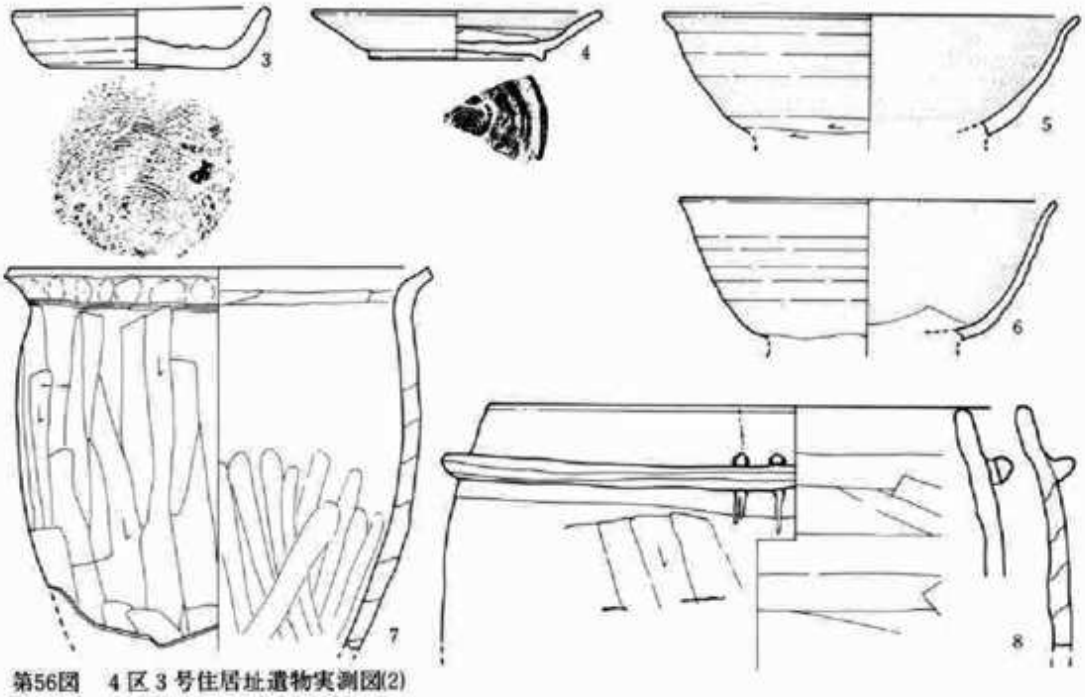
ピット　南西隅に貯蔵穴状のピットがあった。

竈　燃焼部は住居内にあると思われる。火床は住居床面と同レベルである。火熱による火床面の硬化は少ない。竈先端東側80cmの地点に焼土が集中して見られ、煙道がそこまでつながる可能性がある。

重　複　4住の床を切って、竈が構築されている。

第55図　4区3号住居址遺物実測図(1)

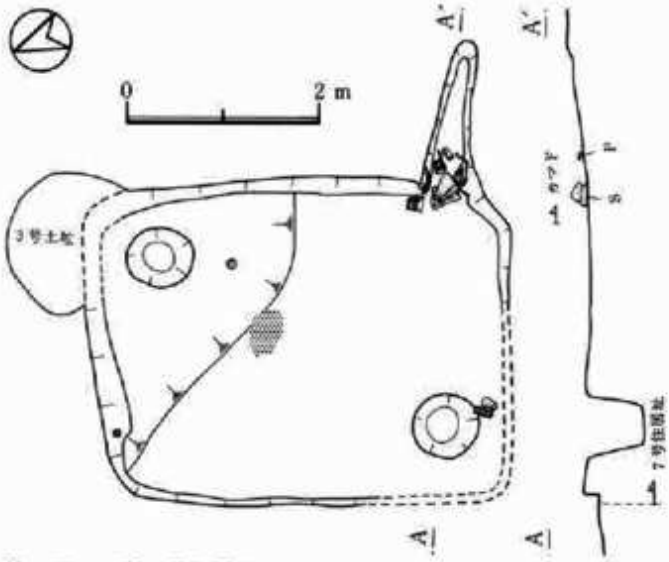




第56図　4区3号住居址遺物実測図(2)

4区3号住居址出土遺物観察表

No.	器形	計測値 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備考
1	高台付き椀	㊐7.8	口縁下半⅓。高台ほぼ完存 埋土。	(右台)？底部は円盤状に割れる。ロクロ痕はほとんど残らない	㊙砂粒多い。角閃石・石英散見。粗い。㊙O。若干焼締。㊐濁茶褐色。断面は赤色味おびる。㊗外面に油煙状のスス付着。
2	高台付き椀	(14.6)-(4.2)	図示部の⅙。竈内火床上。	(右台)。ロクロ痕弱く細かい。研磨丁寧。	㊙砂礫含み、輝石散見。㊙硬調O。焼締。㊐淡橙褐色。見込は暗い。㊗口縁部剝落。
3	小皿	(10.4)-7.0-2.4	口縁部¼。底部ほぼ完存。埋土。	(右)。見込に整美な渦巻状ロクロ痕。糸切り痕は収束弱い。	㊙細礫・パミス含む。粗悪。㊙軟調O。焼締欠く。㊐淡橙褐色。㊗器面の脆弱化著しい。
4	高台付き段皿(K)	(11.4)－1.9 ㊐(7.0)	図示部の¼。竈燃焼部内。	(右台)。見込に凹凸あり。釉漬掛。高台は段面三角で取付簡略。	㊙東濃系。砂礫散見。㊙硬調R。㊐灰黄色。釉は淡灰色。㊗見込にタール状のスス付着。丸石2号窯期。
5	高台付き椀(K)	(16.2)－ －	図示部の¼。埋土中の2片接合。	(右台)。口縁下端に回ヘラ2段。釉は全面で、漬掛か？	㊙東濃系、黄白色夾雑物あり。㊙硬調R。㊐断面・釉とも灰白色。内面は緑色味おび、降灰釉が混じるようだ。
6	高台付き椀(K)	(14.8)－ －	図示部の¼。埋土。	5に同巧か。削りは不明瞭。釉は漬掛。	㊙㊙㊐5にほぼ同じ。㊗降灰釉は認められない。
7	土釜	22.4－ － ㊙19.8 ㊙21.0	½個体。南西隅ピット上。	㊙。口縁外面は指頭圧痕で、端部は削り。	㊙砂礫・輝石含む。やや粗い。㊙O。㊐淡褐色。外面光沢。㊗二次火熱受ける。
8	甑	(28.1)－ － ㊙(33.0) ㊙(32.8)	図示部の⅙。竈内火床上。	㊙。鍔の作り雑で、竹管状工具により穿孔。内面ナデ丁寧。	㊙細礫・パミス含み粗い。㊙O。㊐淡褐色～暗褐色。㊗二次火熱が鍔部まで及ぶ。鍔穴にスレ痕なし。口縁部波状に歪む。



第57図　4区7号住居址

4区　7号住居址

位　置　E－2グリッド

形　状　長軸4.3m、短軸3.4mの横長長方形を呈すと思われる。

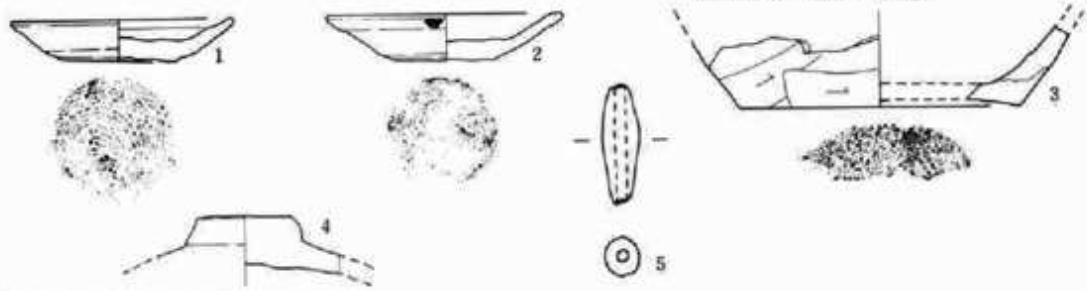
方　位　N-111°-E

面　積　13.9m²

壁　残存壁高16～28cmで、ダラダラと立ち上がっている。

床　面　中央がやや低くなる傾向がある。北東側が一段低くなっており、軟弱な床面を掘り過ぎたか。

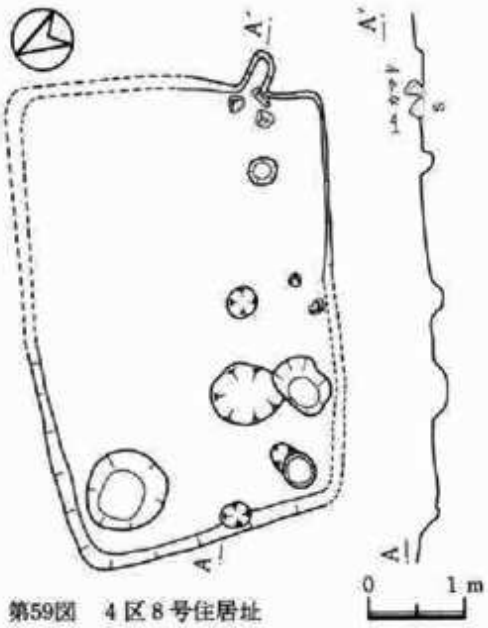
ピット　北東と南西の二隅に、床面から50～60cmの深さのピットを検出した。　**竈**　東壁南隅にある。燃焼部は壁外にあり、火床は住居床面と同レベルにある。煙道は火床から連続して立ち上がり、壁外へ90cm張り出す。焚き口を補強した角礫と、掛け口を補強した埴輪片を出土した。



第58図　4区7号住居址遺物実測図

4区7号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	小　皿	8.8- 4.7- 1.7	口縁¼欠く。北東ピット南床上23cm。	㊀。シャープで整ったロクロ痕が残る。見込平滑。	㊁粗砂やや多く、雲母散見。㊂硬調O。焼締。㊃茶褐色。一部黒褐色のムラ。㊄口縁に波状の歪みあり。
2	小　皿	9.4- 3.9- 1.8	口縁½欠く。北壁西隅密着床上24cm。	㊀。ロクロ痕きわめて弱い。見込は同心円状のナデ。	㊁砂粒やや多く、パミス散見。㊂やや硬調O。㊃白色味のある淡褐色一様。㊄外面に薄くススト付着。
3	土　釜	―　―(14.7)	図示部の¼。埋土。5住出土破片と接合	㊀。砂底。外面ヘラ削り鋭い。内面平滑き欠く。	㊁砂粒多く、輝石・パミス散見。粗悪。㊂やや軟調O。㊃淡橙褐色。㊄二次火熱。砂底の砂はやや粗く、チャート混入。
4	皿または蓋	―　3.6　―	図示部完存。埋土。	㊀。糸切痕上に粘土粒若干付着。ロクロ痕側い。内面平滑。	㊁砂粒多く、輝石散見。㊂硬調O。焼締。㊃淡褐色。一部灰色味。断面は白色味。
5	土　錘		完形。	棒状工具巻き付け	緻密。O。淡橙褐色。端部磨耗。



第59図　4区8号住居址

4区　8号住居址

位　置　F－1グリッド

形　状　各辺の長さや、隅の角度のまちまちな、逆台形状を呈す。西辺が2.6mで、際立って短かい。

方　位　N－117°－E？

面　積　14.6m²

壁　残りの良い西壁で20cm、悪い南東隅付近で4cmの残存壁高である。ダラダラと立ち上がっている。

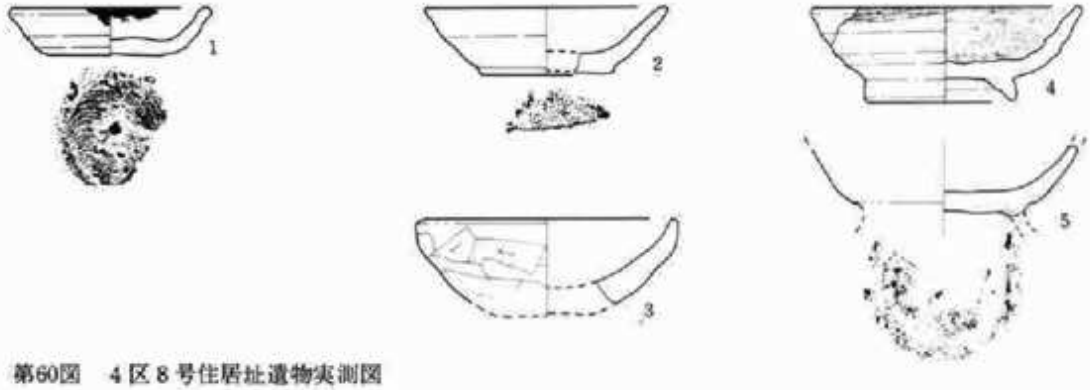
床　面　凹凸があり、皿状の窪みが多い。北東隅付近は9住の床上に築かれるが、貼り床の痕跡はない。

ピット　深さ10～20cmの性格不明のピットが多い。南東隅のピットには、抜柱痕状の崩れがあった。

竈　東壁南隅にある。住居の軸線より20°南へ傾いている。焚き口を構築した角礫が、崩落した状態で検出された。燃焼部は壁外で、火床は住居床面より5cm低い。煙道は不明である。

重　複　9住より新しいことが、床面観察より判る。

その他　礫の出土が多いが、レベルは一定していない。

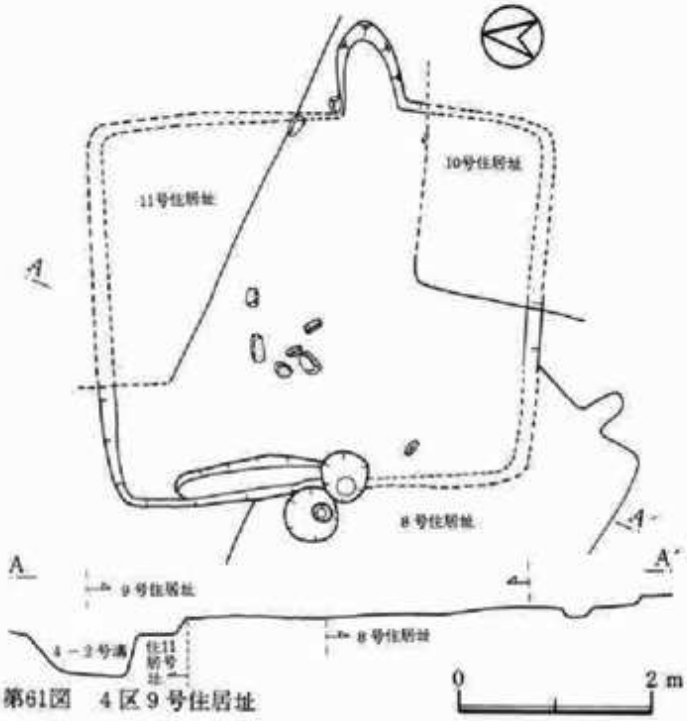


第60図　4区8号住居址遺物実測図

4区8号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	小　皿	(7.9)-4.4-1.9	口縁½欠く。埋土。	㊀。ロクロ痕は同心円状で弱い。器面平滑さ欠く。	㊁砂礫・パミス含みやや粗。㊂やや軟調O。㊃暗褐色。焼成時吸炭の黒色部分あり。㊄見込に亀裂が走る。
2	小　皿	(9.5)-(5.4)-3.1	図示部の¼。東壁北側付近の床上18cm。	㊀。ロクロ痕弱い。円盤作りの可能性あり。	㊁砂粒・石英含む。輝石・パミス散見。やや粗。㊂やや硬調O。㊃淡褐色。外面に暗いムラあり。
3	杯(H)	(10.3)－　－	図示部の¼。埋土。	㊀。ヘラ削りは粗く雑。ナデやや雑で細かな凹凸残る。器厚不定。	㊁細礫・砂粒多い。緻密さ欠き粗悪。㊂軟調O。㊃茶褐色～黒褐色一様でない。断面は橙色味が強い。

No.	器　形	計測値 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
4	高台付き椀	(10.7)-(5.9)-3.7 ㊥5.9	口縁¾欠く。埋土。	(右台)。ロクロ痕渦巻状。切離痕不明。高台取付簡略。	㊥砂礫・パミスやや多く粗。㊧やや硬調O。㊦茶褐色～暗褐色、一様でない。内面黒色処理で光沢。
5	高台付き椀	ー　(6.1)　ー	図示部の⅔。北側埋土。9住出土破片と接合。	(右台)。高台取付時の工具痕が底端部に巡る。内面ヘラ状工具によるナデ。	㊥砂礫含む。輝石散見。やや粗。㊧やや硬調O。㊦淡褐色。底部黒褐色。内面黒色で弱い光沢。内黒か？㊥高台割口の磨耗すすみ、無高台状態で使用か？



第61図　4区9号住居址

4区　9号住居址

位　置　F・G－1・2グリッド

形　状　3隅を欠き不確実だが、逆台形を呈すと思われる。

方　位　N－85°－E？

面　積　17.8㎡

壁　15～23cmの残存壁高で、垂直に近い立ち上がりをしている。

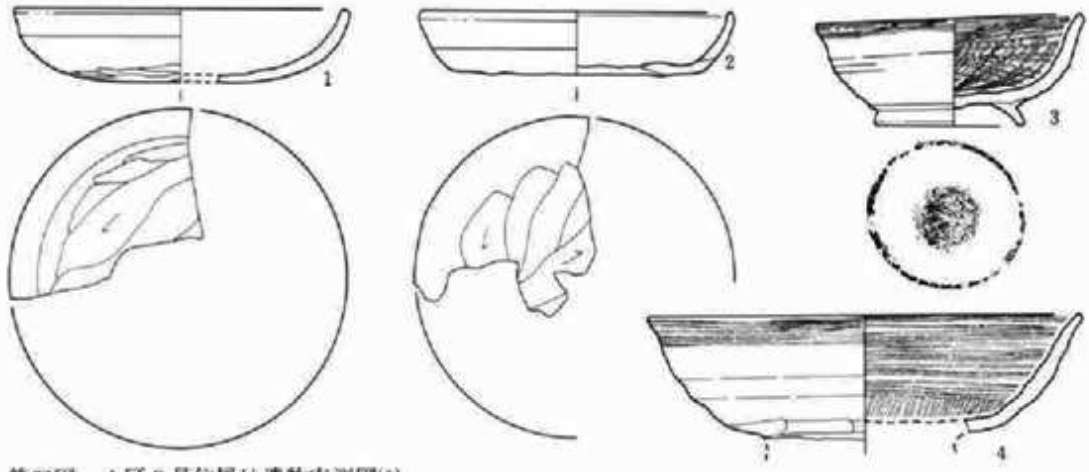
壁　溝　東壁北側に、壁溝状の深さ2～4cmの不明瞭な窪みがある。

床　面　北側へ低く、若干傾斜する。

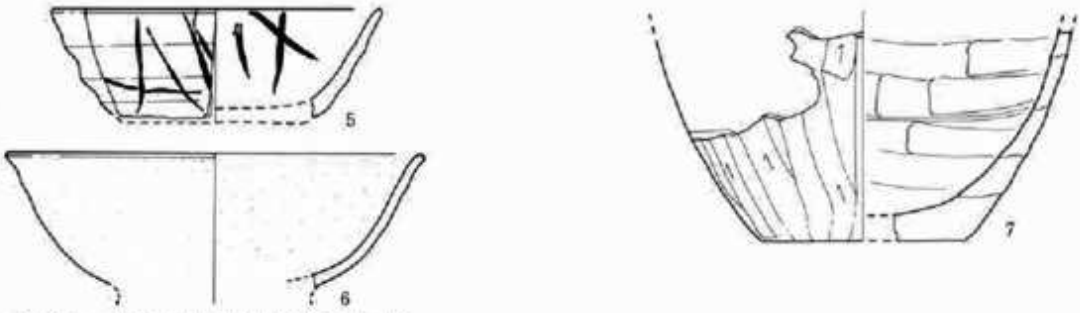
竈　東壁やや南寄りにあるが掘り方の痕跡を残すのみである。燃焼部は壁外で、煙道は不明である。

重　複　8住・10住・11住と重複し、4軒の中では一番古い。

その他　床面中央北西寄りに、礫がまとまって出土したが、床面からは約10cm浮いた状態であった。



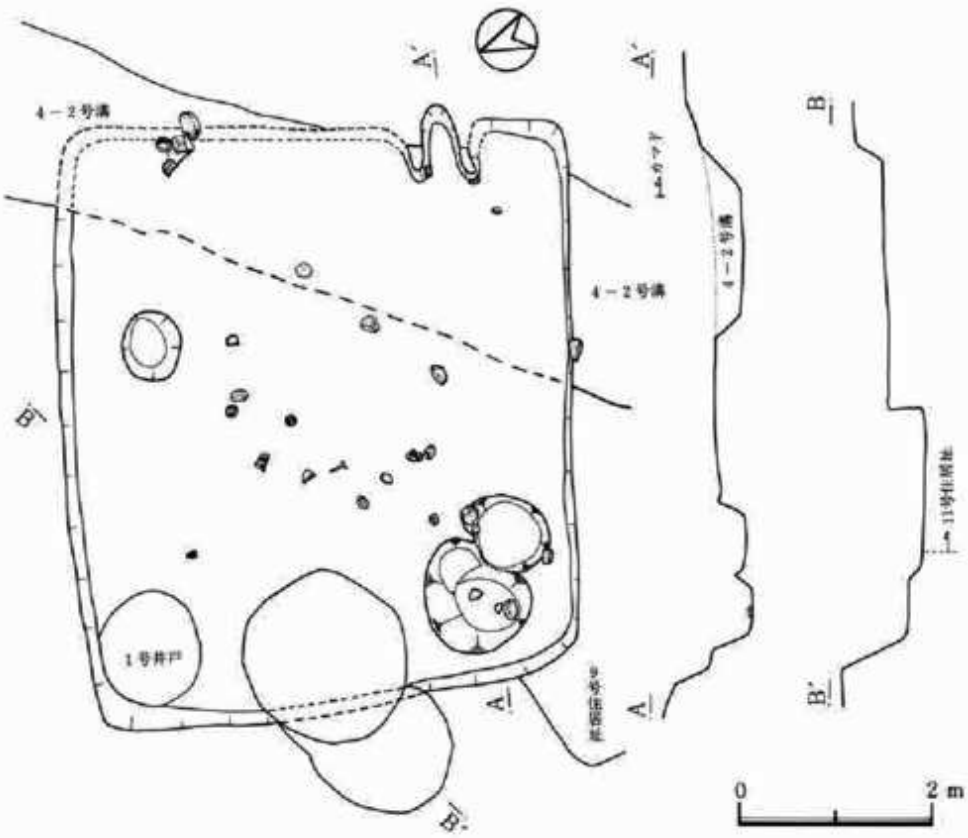
第62図　4区9号住居址遺物実測図(1)



第63図　4区9号住居址遺物実測図(2)

4区9号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	杯(H)	(13.2)-(9.5)-(2.9)	¼個体。南壁直下の床上14cm。	輪口縁部下半は無調整。底部削りは粗い。見込のナデは同心円状の布状擦痕。	胎砂粒やや多く、雲母散見。やや粗い。焼やや硬調O。適度の焼締。色茶褐色。口縁部の一部で暗赤褐色。赤色塗彩の可能性。他見込にわずかにスス付着。
2	杯(H)	(12.4)-(10.0)-2.5	¼個体。南壁直下の床上18cm。	1に近似する。口縁内端の屈曲部分に布状擦痕なし。	胎焼色1に近似する。他底部は歪み、凹凸がある。
3	高台付き椀	(10.6)－4.8 ⌀5.9	口縁部¼。底部高台部完存西壁下の床上14cm。	右台。糸切り痕残存。見込に渦巻状ロクロ痕。内面研磨雑で、見込では一方向、口縁上半で同心円状。	胎粘土は緻密だが、砂礫・パミスを含み粗い。焼軟調O。色淡褐色～茶褐色。内面は部分的に黒色となり、内黒の不良品である可能性。他口縁の歪みが大きく、口径不安。8住の混入品か。
4	高台付き椀	(17.1)－ －	図示部の⅓。西壁下の床上8cm。	右台？断面に接合痕あり。口縁下端に高台取付のロクロ痕。研磨は整っている。	胎砂粒散見。混入物少なくやや緻密。焼硬調O。焼締。色淡橙褐色。内面弱い光沢。黒色処理なし。他口縁内端の一部磨耗。8住の混入品か。
5	杯(S)	(13.0)－ －	図示部の⅙。埋土。	右。ロクロ痕やや強い。器面は平滑さを欠く。	胎砂粒の混入やや多いが良好。焼硬調R。強い焼締。色灰白色で断面まで一様。火ダスキ状の黒色ムラが内外面にある。
6	高台付き椀(K)	(16.2)－ －	図示部の⅙。埋土。	右台。ロクロ痕弱く平滑。釉は薄い漬掛で、残存部分全面に均等。	胎東濃系。混入物少なく精緻。焼硬調R。強い焼締。色灰白色で一様。やや透明感がある。釉は灰色味をおびた白色で、全体に薄く均等。
7	土　釜	－(10.7)－	図示部の⅙。南壁下西寄りの床上10cm。	輪。外面は規則的な削り。内面はごく雑なナデ痕があるが、無調整に近い。底部やや平滑。	胎パミス・細礫顕著。劣悪。焼軟調O。焼締欠く。色暗褐色～茶褐色。一様でない。他二次火熱の影響強く、脆弱化する。内面は焼成前にできたと思われるヒビ割が多く、煮沸土器には不適。



第64図　4区11号住居址

4区　11号住居址

位　置　F・G－2グリッド

形　状　西辺が南側へ閉じる台形気味のプランを呈すと思われる。

方　位　N－110°－E

面　積　30.5m²

壁　残存壁高は25cm前後あり、垂直に近い立ち上がりをしている。

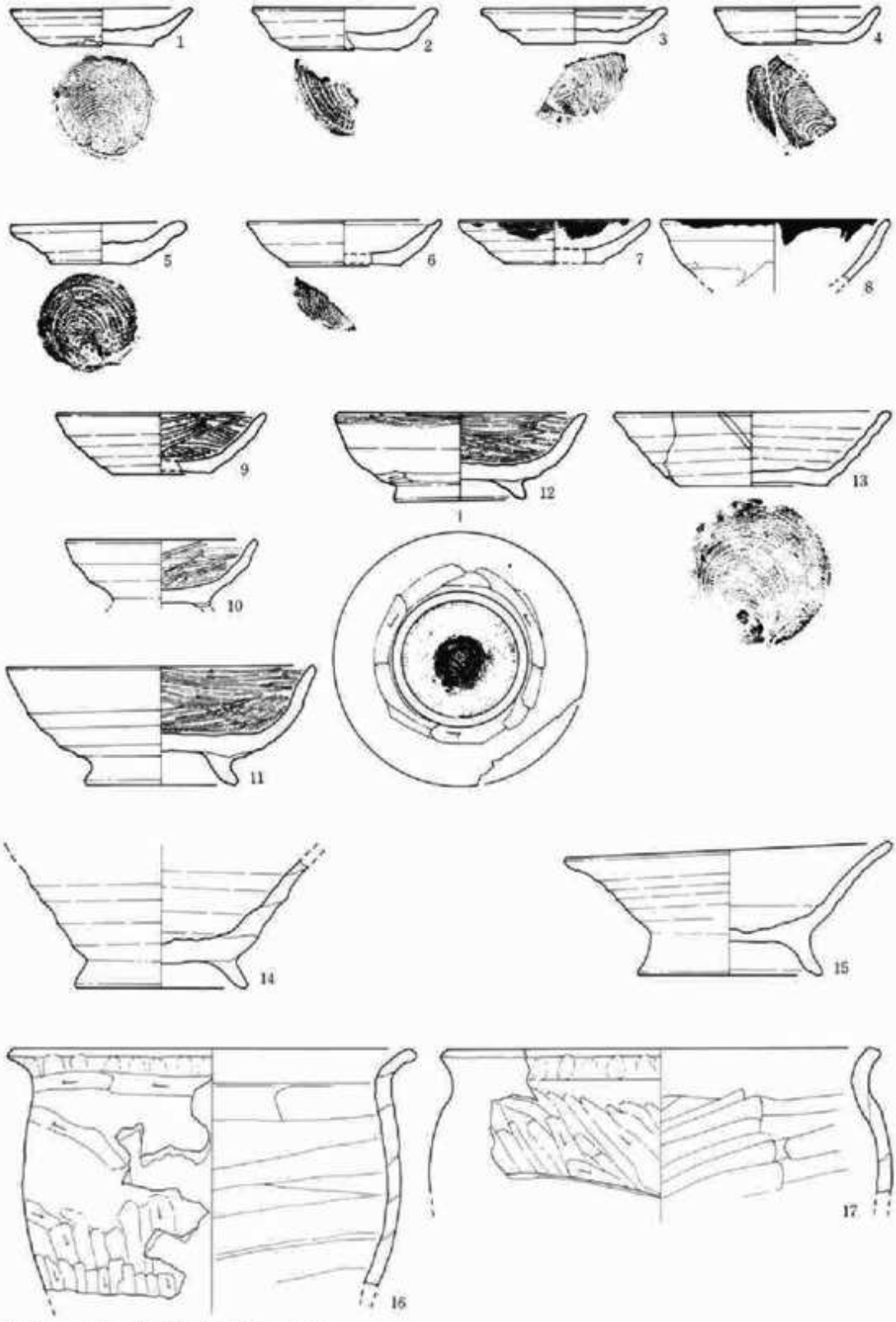
床　面　住居中央がやや低くなり、壁際に比べて10cmの差がある。2号溝や9号住の上には貼り床を施し、踏み固めが強い。竈前面から住居中央にかけて、多量の焼土が散布している。

ピット　性格不明のピットを3基検出した。南東隅のピットは、配置や規模から貯蔵穴と考えられる。出土した礫は、すべて底面直上で検出したものであった。

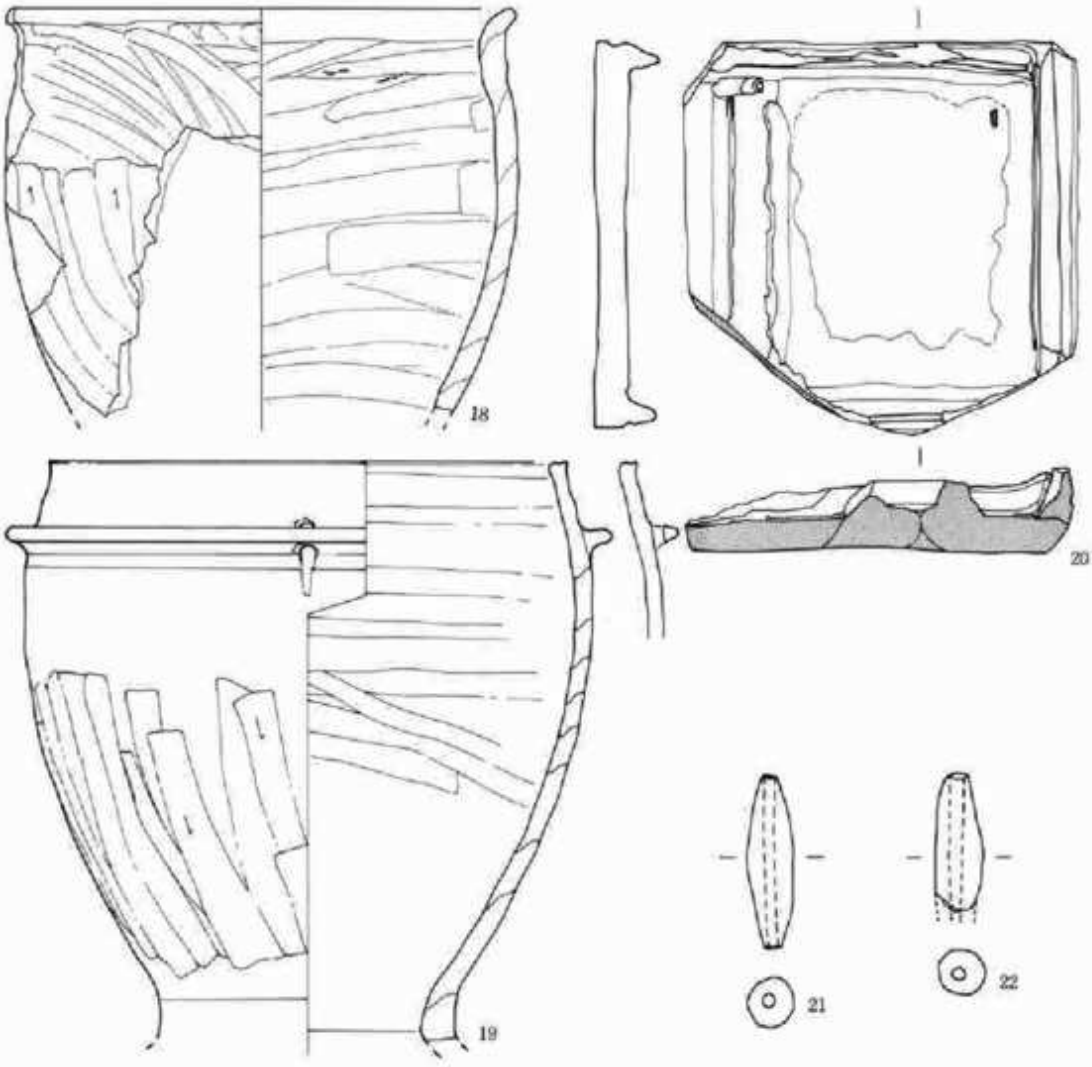
竈　東壁の南隅にある。燃焼部は住居内にある。火床は住居床面よりダラダラと立ち上がっていて、そのまま煙道へと続く。袖部の構築材はローム土が中心である。

重　複　2号溝と9号住より後出であることが、床面の観察より確認できる。

その他　土器や礫が、床面に散乱するような状態で出土した。床面直上から床上25cmまで、出土レベルは一定でないが、床上5～10cmの高さでの出土が多かった。



第65図　4区11号住居址遺物実測図(1)



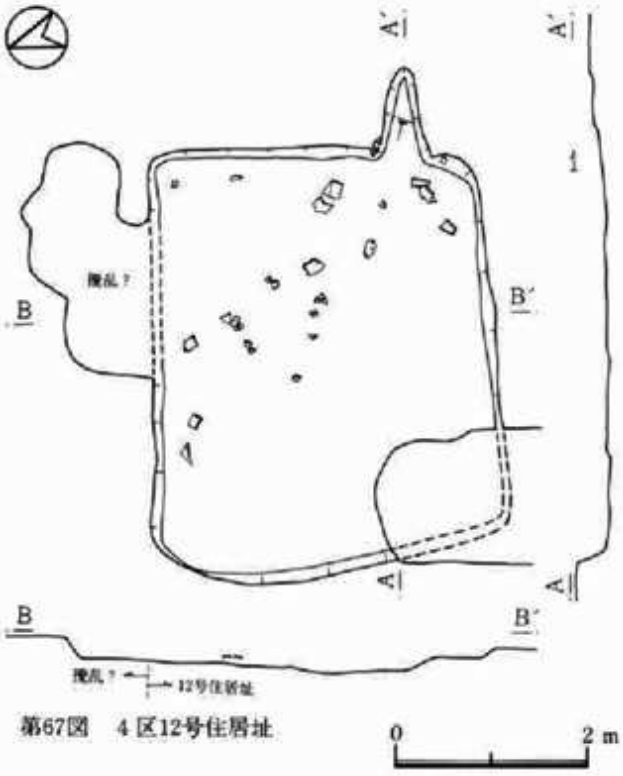
第66図　4区11号住居址遺物実測図(2)

4区11号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	小　皿	8.6- 5.5- 1.8	ほぼ完形。住居中央の床上10cm。	㊁。ロクロ痕は口縁部外面下端で不明瞭、見込で同心円状。	㊀石英・パミスやや多い。やや緻密。㊁やや硬調O。焼締欠く。㊂茶褐色。内面暗褐色。㊃磨耗等の使用痕跡がない。
2	小　皿	(8.8)-(5.2)-2.0	図示部の¼。埋土。	㊁。口縁部下端にロクロ痕なし。内面ロクロ痕弱く平滑。	㊀砂粒多く、輝石・石英散見。やや粗い。硬調O。焼締。㊂淡褐色。外面に火ダスキ状の赤色ムラあり。
3	小　皿	(8.9)-(5.2)-1.7	口縁部¼、底部⅓。埋土。	㊁。ロクロ痕は弱く平滑。内面は同心円状の擦痕。	㊀細砂若干含む。精緻。㊁硬調0。焼締。㊂淡茶褐色。内面やや暗い。口縁部に焼成時吸炭の色ムラあり。

No.	器形	計測値 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備考
4	小皿	(9.5)-(4.9)-1.8	½個体。埋土。	3に近似する。	胎焼色3に同じ。他二次火熱を受ける。
5	小皿	8.4-4.6-2.2	ほぼ完形。住居北側床上22cm。	右。接合痕状ヒビあり。ロクロ痕劣く、見込で同心円状。	胎気泡多く、器面に凹部ができる。パミス・石英多い。粗悪。焼硬調0で焼締。色淡褐色。断面灰色。
6	小皿	(9.4)-(5.2)-2.2	¼個体。埋土。	右。器面に指頭状凹凸、ロクロ痕不明瞭。	胎焼色3に同じ。黒色のムラが内外面にある。
7	小皿	(9.2)-(4.6)-2.1	図示部の⅓。埋土。	右。ロクロ痕著しく弱い。軽量。	胎気泡含む。やや粗い。焼硬調O。色淡橙褐色。他口縁部に油煙状の薄いスス。
8	椀	(10.8)－－	図示部の⅓。埋土。	縁？口縁部外面中位は無調整。	胎砂礫を若干含む。やや良好。焼O。色淡褐色。他口縁部に油煙状のスス付着。
9	小皿	(10.0)-(4.7)-2.9	¼個体。住居南東隅床直。	右。研磨雑、見込で斜格子、口縁弧状。	胎石英・輝石散見、やや粗い。焼内黒土器としては異質の硬調O。色外面茶褐色。
10	高台付き小皿	(9.2)-(4.7)-	図示部の¼。埋土。	右台。研磨雑で上端に磨き残し。高台取付はロクロ使用。	胎9に近い。焼やや軟調O。全面に吸炭する。色外面黒褐色。内面は黒色処理で光沢あり。断面茶褐色。
11	高台付き椀	(14.7)-(6.6)-5.6 台7.3	口縁½。底部¼。竈内。	右台。ロクロ痕強い。研磨は見込で正格子状。	胎パミス・石英含む。やや粗い。焼軟調O。色外面淡褐色。内面黒色処理で光沢。
12	高台付き椀	11.8-(5.8)-4.3 台6.5	ほぼ完形。住居中央床上8cm。	右台。口縁下端手ヘラは高台取付に先行。研磨強い。	胎パミス・石英・砂粒散見。やや緻密。焼やや硬調O。色淡茶褐色。内面暗茶褐色で光沢。他黒色処理の不良か？
13	杯(S)	(13.2)-6.9-3.5	口縁部1/10。底部完存。埋土。	右。ロクロ痕は渦巻状で強い。	胎細砂やや多い。緻密。焼やや軟調の標準的R。色灰色で一様。他混入品。
14	高台付き椀	－(6.8)－ 台8.2	口縁下半½、底部¾。埋土。	右台？断面は接合痕明瞭。ロクロ痕細かい。	胎砂粒多い。石英散見。焼やや軟調O。色茶褐色。内面暗い。他高台部スス付着。
15	高台付き椀	16.4－6.0 台8.6	口縁部½、底部¾。埋土。	右台。ロクロ痕は渦巻状で細かい。	胎砂粒・輝石含む。やや緻密。焼O。弱い焼締。色淡褐色で一様。
16	土釜	(26.0)－－ 縁(22.7) 鍔(24.0)	図示部の¼。埋土。	縁。頸部に弱い指頭圧痕。削りは乾燥時。	胎砂粒・パミス含む。粗い。焼O。弱い焼締。色暗褐色。他二次火熱を受ける。
17	土釜	(31.8)－－	図示部の¼。南側床上10cm	16に近似。削りはやや強い。	胎焼16に近似。色濁茶褐色。他二次火熱を受ける。口縁部内面にスス付着。
18	土釜	(26.1)－－ 縁(25.5) 鍔(26.8)	図示部の¼。南側床上10cm	16に近似。外面胴部上半に斜位のナデ。	胎焼色16に近似。他口縁部に小さな波状の歪みあり。
19	甑	(26.9)－－ 鍔(31.4) 孔内径(11.6)	図示部の¼。北東隅の床上27～30cm。	縁口縁上端に1条の沈線。鍔には上方からの穿孔。	胎砂粒多く、パミス・石英・雲母散見。やや粗い。焼やや軟調O。色濁赤褐色～黒褐色。

No.	器　形	計測値 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
20	陶　硯 (S)	(10.2)×(10.1)	2隅を欠く。住居北側の床上24cm。	叩き締を行ない、内面に板状の圧痕。底面凹凸多い。上面刺突痕。	⑭砂粒やや多い。緻密。⑮硬調R。⑯灰色で一様。⑰中央に顕著な使用痕。手持ち砥に転用。割口は砥ぎ減りの可能性。
21	土　錘	㊀4.4　㊁1.3	完形。埋土。	棒状工具に巻付ける。器表面ナデで平滑。	⑭夾雑物少なく精緻。⑮O。⑯淡褐色。⑰両端に糸ズレ状の弱い磨耗痕あり。
22	土　錘	㊁1.3	¾個体。埋土。	21に同じ。	21にほぼ同じ。⑭やや粗い。



第67図　4区12号住居址

4区　12号住居址

位　置　B－2グリッド

形　状　東辺と西辺が南へ向かって狭まる台形状を呈す。南東隅の丸味が強い。

方　位　N－108°－E

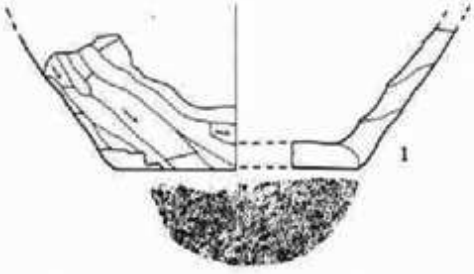
面　積　14.8㎡

壁　残存壁高は15cm前後で、ダラダラと立ち上がっている。

床　面　きわめて不整であり、住居中央竈寄りでは壁際より10cm窪んでいる。また、西側へ低く、傾斜している。

竈　東壁南寄りにある。燃焼部は壁外にあり、火床は竈前面の窪みより高くなっている。火床と煙道の境には段があり、煙道はテラス状になっていて、壁外へ85cm張り出す。

その他　住居内東北側半分に、遺物が散乱した状態で出土した。床面より5～10cm浮いた状態での検出が多い。



第68図　4区12号住居址遺物実測図

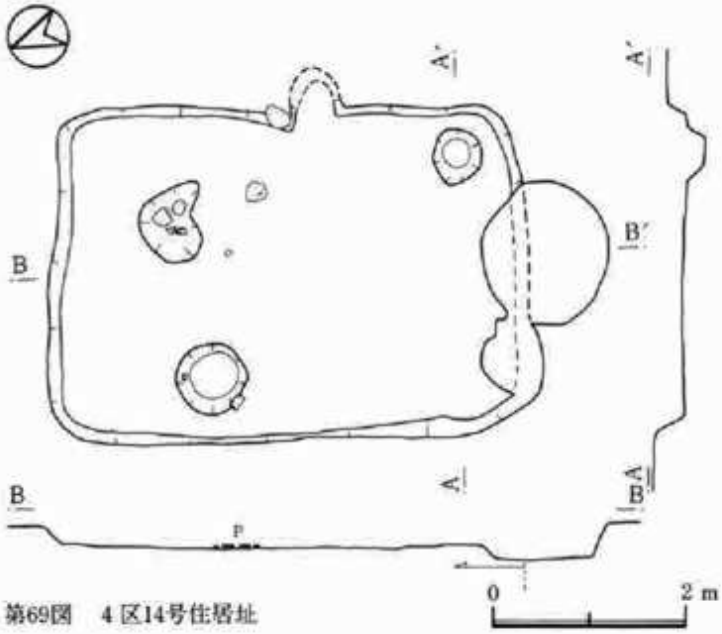
出土遺物観察表

1、土錘

計測値　㊀(12.7)　**出土状態**　図示部の⅓。埋土。

特徴　⑭砂底。外面の削りは丁寧で強い。内面ナデは指頭で横位の圧痕残る。見込は不整同心円状ナデ。

備考　⑭気泡まじる。パミス多。石英・輝石散見。粗。⑮軟調O。⑯暗褐色。内面暗く、断面茶色味。⑰二次火熱。砂底の砂はやや粗く、石英・パミス混入。



第69図　4区14号住居址

4区　14号住居址

位　置　F・G－4グリッド

形　状　長軸4.7m、短軸3.4mの横長長方形を呈す。

方　位　N－111°－E

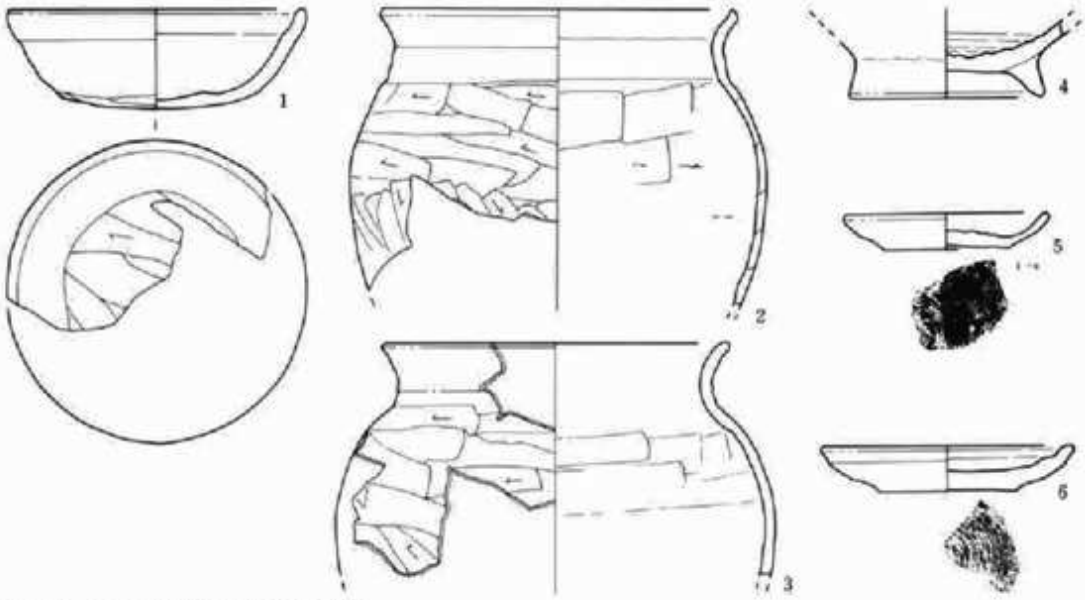
面　積　16.1m²

壁　残存壁高は12～15cmで、ダラダラと立ち上がっている。

床　面　比較的平担である。踏み固めはやや弱い。

ピット　配置に規則性のない3本のピットを検出した。深さは20～35cmと浅い。北側の2つのピットでは、下層から遺物を出土した。

竈　東壁ほぼ中央にある。燃焼部は壁際で、煙道は不明確であった。北袖の構築材と思われる礫が残存している。

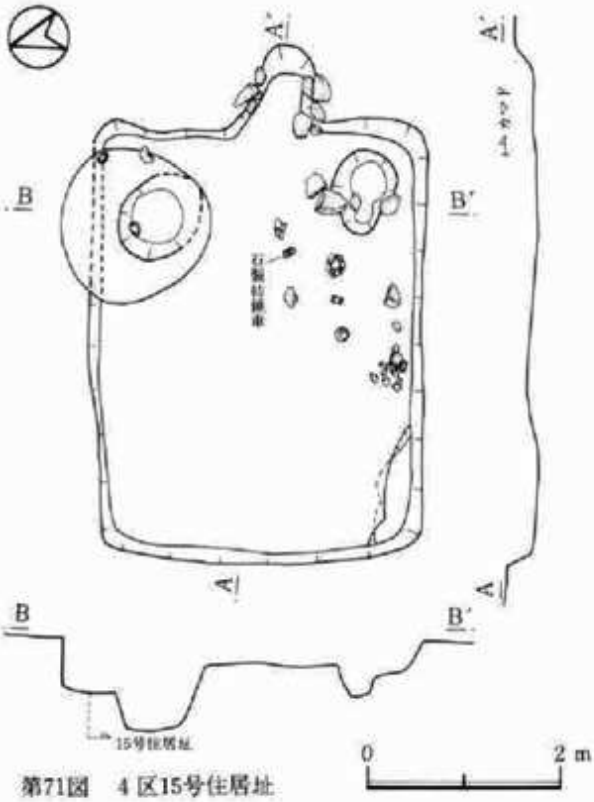


第70図　4区14号住居址遺物実測図

4区14号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	杯(H)	(11.8)-(7.4)-3.9	図示部の⅓。	胴。口縁下半無調整。底部削りは一方向。ナデは布状擦痕。	粘砂粒多く、杯としては粗い。焼やや軟調O。色茶褐色ほぼ一様。
2	甕(H)	(18.8)－　－ 頸(17.2) 胴(21.8)	図示部の⅓。住居北側床直	胴。口縁のナデ丁寧。内面は木口状擦痕。	粘砂粒・輝石・パミス含む。焼やや硬調O。色淡茶褐色。断面は白色味おびる。

No.	器　形	計測値 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
3	甕(H)	(18.1)－　－ ㊥(16.4) ㊦(23.0)	図示部の¼。住居北床面、No 2と同地点	整。口縁部ナデは布状擦痕。内面に木口状工具の痕跡顕著。	胎2に近い。気泡を含む。焼やや硬調O。色淡褐色。内面やや暗い。他二次火熱をうける。
4	高台付き椀	底7.6	図示部完存。西壁下ピット内。	右台。見込に整った渦巻状のロクロ痕。高台取付丁寧。	胎砂粒多、輝石・石英散見。やや緻密。焼硬調O。強い焼締。色黄褐色で断面まで一様。他全面に不均等にススが付着。
5	小　皿	(8.5)-(5.0)-1.4	口縁¼、底部½。埋土。	右。ロクロ痕弱いが作りシャープ。見込中央にカキ目状擦痕。	胎軽量。精緻。ベンガラ混入。焼やや硬調O。色橙白色。内面赤色味。他混入品と思われる。
6	小　皿	(10.0)-(5.4)-1.8	¼個体。埋土。	右。ロクロ痕きわめて弱い。内面の擦痕は同心円状。	胎気泡含む。砂粒多、チャート・雲母散見し粗。焼やや硬調O。色淡茶褐色で一様。他混入品と思われる。



第71図　4区15号住居址

4区　15号住居址

位　置　D・E－4グリッド

形　状　長軸4.4m、短軸3.4mの比較的整った縦長長方形を呈す。

方　位　N－110°－E

面　積　24.0m²

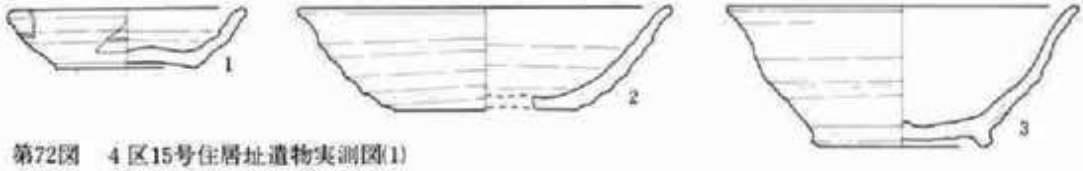
壁　残存壁高は15～30cmで、65°前後の緩やかな立ち上がりをしている。

床　面　波打つような高低があり、さらに細かな凹凸が多く、不整である。壁際が若干高くなる傾向がある。

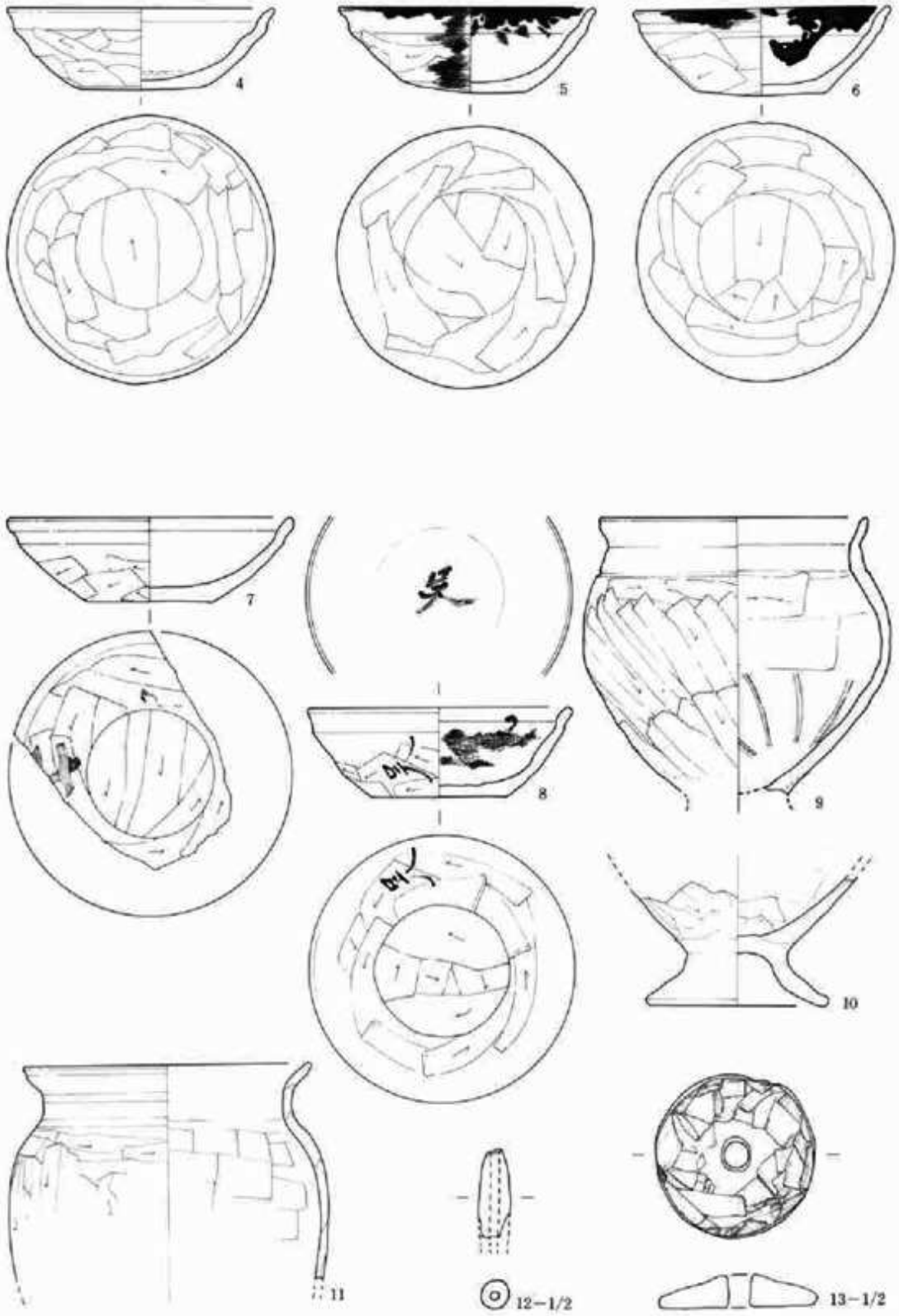
ピット　東壁の両隅から二基検出した。南側ピットは位置より貯蔵穴の可能性が高い。北側ピットは上面に別遺構があり、時期の異なる遺物（No 1）を上層より出土している。

竈　東壁中央にある。燃焼部を石で囲った丁寧な作りで、火床は住居床面よりやや高い。煙道は不明瞭であった。袖石と思われる火熱を受けた角礫が、南側ピット上面から出土した。

その他　礫・河原石などを、床直の状態で多量に出土している。



第72図　4区15号住居址遺物実測図(1)

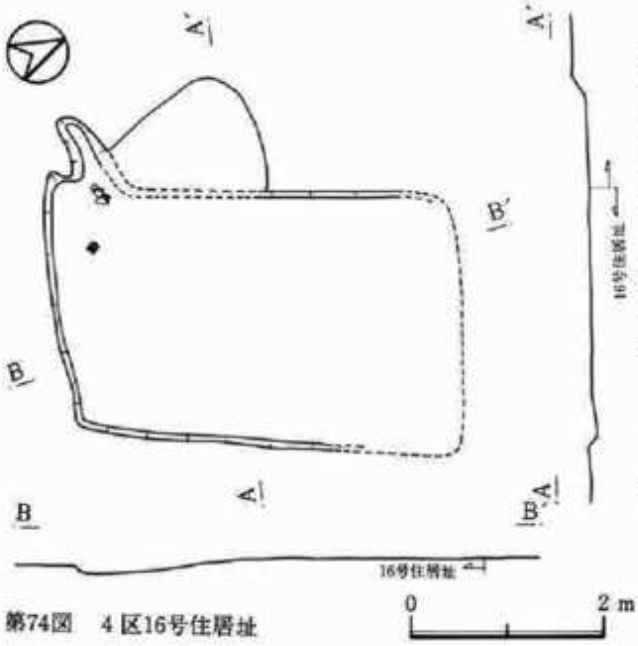


第73図　4区15号住居址遺物実測図(2)

4区15号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	小　皿	(9.4)-5.5-2.3	口縁¾欠く。北側ピット。	㊨。ロクロ痕弱い。見込に同心円状の擦痕。	㊥細砂多く長石散見。やや粗い。㊦O。焼締欠く。㊥淡褐色。口縁端のみ重焼痕状に橙褐色を呈す。㊧混入品。
2	杯(S)	(14.6)-(7.0)-4.0	口縁½、底部若干。埋土。	㊨。口縁に接合痕状にヒビ。ロクロ痕渦巻状で整っている。内面平滑。	㊥粗砂・パミスやや多、やや粗い。㊦軟調R。㊥灰白色で断面までほぼ一様。㊧口縁上端のみ若干磨耗。
3	高台付き椀	(13.8)-(6.2)-5.5 ㊥6.7	口縁¼。底部½。埋土。	(右台)。口縁に接合痕状ヒビ。底部回糸痕明瞭。	㊥細砂・雲母を含む。緻密。㊦やや軟調O。㊥淡褐色。口縁外端と断面の一部に灰色味おびる。
4	杯(H)	12.5- 6.0- 3.9	完形。北側ピット東端底面。	㊨。外面削り強い。口縁端強いナデ。内面平滑。見込に木口状の擦痕。	㊥砂粒・パミス・輝石含む。やや緻密。㊦良好のO。強い焼締。㊥淡褐色。外面一部に暗褐色のムラ。
5	杯(H)	12.2- 5.7- 4.1	完形。住居中央南寄り床直。	4に同巧。内面やや雑。削りも粗い。	4に近い。やや大粒のパミス・砂礫を含む。㊧片側内外面にスス付着、一部は燈芯痕状。口縁歪む。
6	杯(H)	12.2- 6.2- 4.2	完形。南壁直下床上9cm。	4に同巧。内面にヘラ頭状の圧痕。	4に近い。㊧内外面に燈芯痕状のスス付着。
7	杯(H)	(13.4)-5.8-3.9	口縁¼。底部完存。埋土。	4に同巧。やや大型。内面平滑。	4に近い。夾雑物はやや大粒。㊧外面に不明瞭な墨書。「キ」?
8	杯(H)	12.4- 6.3- 4.0	完形。北側ピット内中央。	4に同巧。外面の無調整部分が広い。	4に近い。㊧内面に広範囲の墨痕あり。見込と口縁外面に墨書「吳」。呉の異体字略字。〔註〕
9	台付き甕(H)	12.8 — 4.4 — ㊥12.0 ㊦14.6	図示部ほぼ完存。南側ピット西床直。	㊨。厚手。コの字口縁の崩れた形態。外面削り規則的。内面下半に棒状工具擦痕。	㊥細礫・パミス・石英含む。やや粗い。㊦O。弱い焼締。㊥淡褐色〜暗褐色、一様でない。㊧内面スス付着多い。㊧二次火熱の影響少ない。
10	台付き甕(H)	㊥8.7	図示部の⅔。竈内、埋土。	㊨。内面に木口状の擦痕。脚のナデ強い。	㊥細砂・輝石・パミス含む。やや緻密。㊦軟調O。㊥暗褐色。内面淡褐色。
11	甕(H)	(18.5)— — ㊥(15.8) ㊦(20.4)	図示部の⅓。住居中央東側床上17cm。	㊨。崩れたコの字口縁。端部強くつまむ。内面は木口状擦痕。	㊥砂礫やや多く輝石散見、やや粗い。㊦やや軟調O。㊥茶褐色ほぼ一様。内面やや明るい。
12	土　錘	㊥1.0	½個体。埋土。	棒巻付。削りとナデ。胎土やや粗く、石英・パミス散見。	
13	紡　輪	㊥4.9	完形。床直。	削り痕やや強い。全体に剥落進む。塩基性結晶片岩製。	

註　太田市賀茂遺跡（本事業団　右島和夫、藤巻幸男、小島敦子により昭和54年度調査）から、同じ墨書が多数出土している。同巧の土器への同一箇所への墨書例も見られる。



第74図　4区16号住居址

4区　16号住居址

位　置　F－6グリッド

形　状　北壁を平爽され、床面より規模を推測した。長軸3.6m以上、短軸2.6mの不整長方形を呈すと思われる。

方　位　N－65°－W　　**面　積**　17.5m²

壁　残存壁高は7cm未満で、きわめて残りが悪い。

床　面　南へ向かって低く、傾斜している。踏み固めは弱く、軟弱で不明瞭であった。

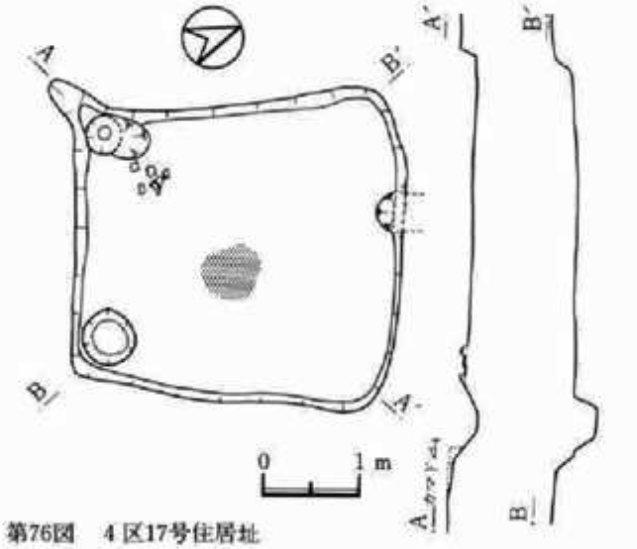
竈　西壁の南隅にある。住居の軸線より大きく南側を向いている。掘り方の痕跡を留めるのみである。

重　複　5号方形周溝墓内にある。

第75図　4区16号住居址遺物実測図

出土遺物観察表

1、土釜　計測値　㊐(10.8)　出土状態　図示部の⅓。埋土。　特徴　㊗内面の指頭によるナデ痕顕著。外面もナデか？　備考　㊖細礫多く、気泡含む。粗い。㊙硬調O。強い焼締。㊛淡褐色一様。㊜二次火熱を受けていない。	



第76図　4区17号住居址

4区　17号住居址

位　置　B－5グリッド

形　状　東辺・西辺が南へ狭まる台形を呈す。北辺の丸味が強い。

方　位　N-113°-w　　**面　積**　10.2m²

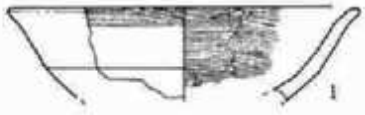
壁　残存壁高は14～18cmで、垂直に近い立ち上がりの部分もある。

床　面　東側へ低く傾斜し、西壁下より10cm以上低い。中央に焼土散布。

ピット　南東隅に、床面からの深さ25cmの円形ピットを検出した。底面は平坦で、貯蔵穴状である。

竈　南西隅にあり、軸線は住居対角線にほぼ等しい。燃焼部は壁際で、火床下に深さ15cmの掘り込みがある。火床から煙道へ至る境は段になる。

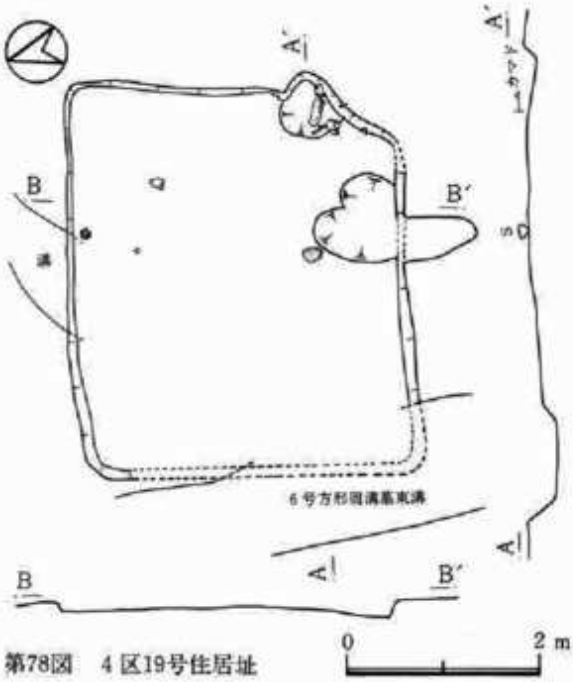
その他　竈前面の遺物は、床面から3～10cm浮いた状態であった。



第77図　4区17号住居址遺物実測図

出土遺物観察表

1、椀　計測値　㊐(13.9)　出土状態　図示部⅓。埋土。　特徴　研磨丁寧。　備考　㊖粗。㊙O。㊛淡褐色。内黒。	



第78図　4区19号住居址

4区　19号住居址

位　置　E－8グリッド

形　状　南西隅は検出できなかったが、長軸4m、短軸3.5mの不整縦長長方形を呈すと思われる。南東隅の歪みが著しい。

方　位　N－98°－E

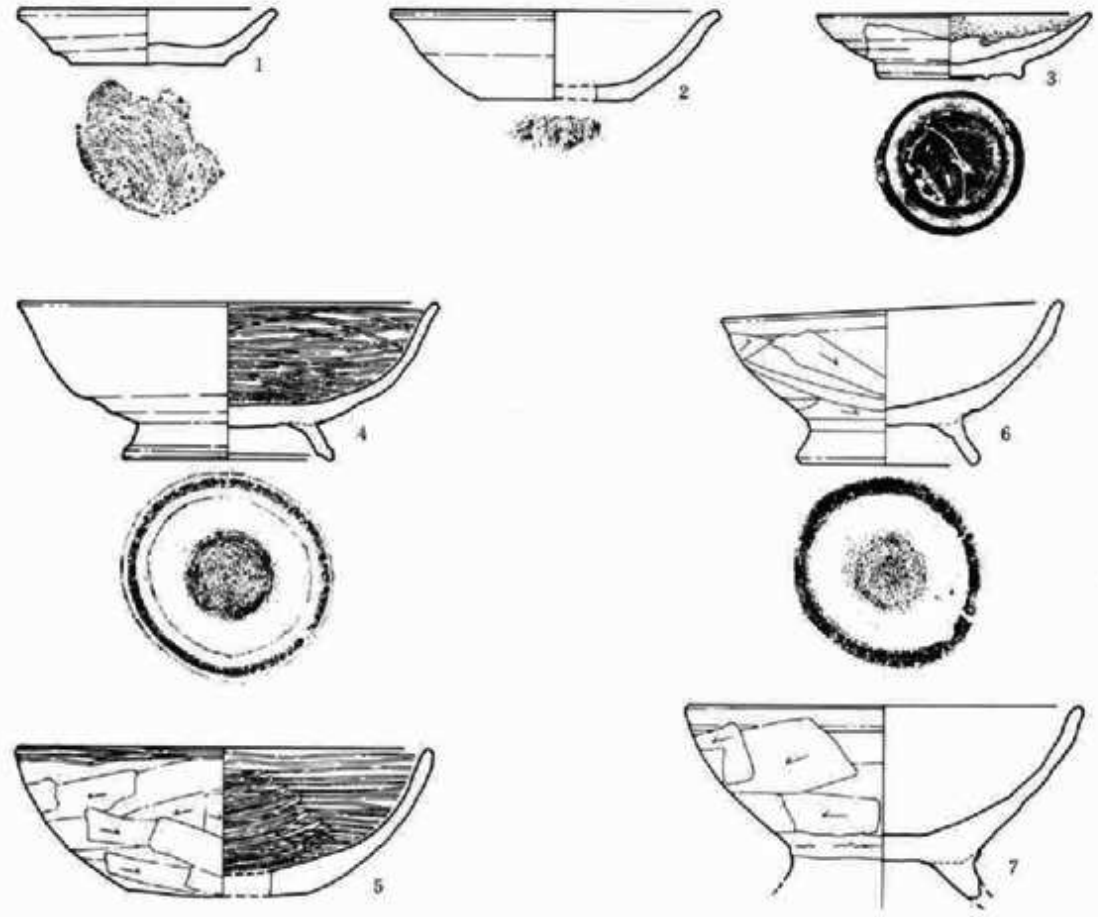
面　積　13.7m²

壁　壁際の床面が低いため、高さ3～5cmの壁下端が、かろうじて確認できる。

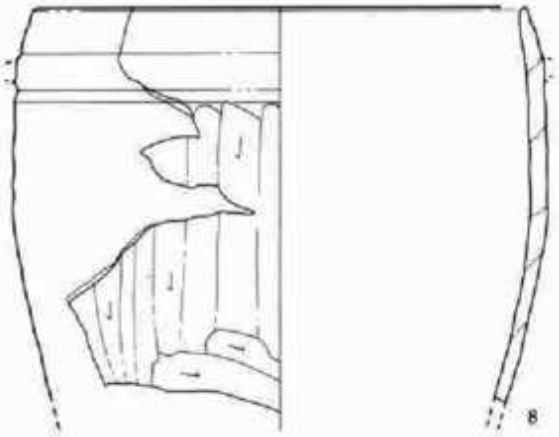
床　面　住居中央は、遺構確認面と同レベルである。軟弱で不明瞭な床である。

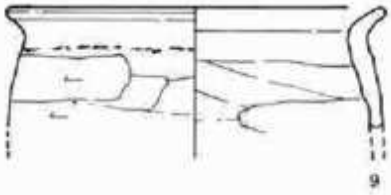
竈　東壁の南寄りにある。燃焼部は住居内にあり、火床は住居床面より8cm低くなっている。火床から煙道へは急角度で立ち上がっている。支脚に使用した礫が火床上より出土した。

その他　南壁に煙道状の掘り込みがあり、壁外へ70cm張り出していた。火熱の痕跡や顕著な焼土の出土はなく、竈とは考えにくい。



第79図　4区19号住居址遺物実測図(1)

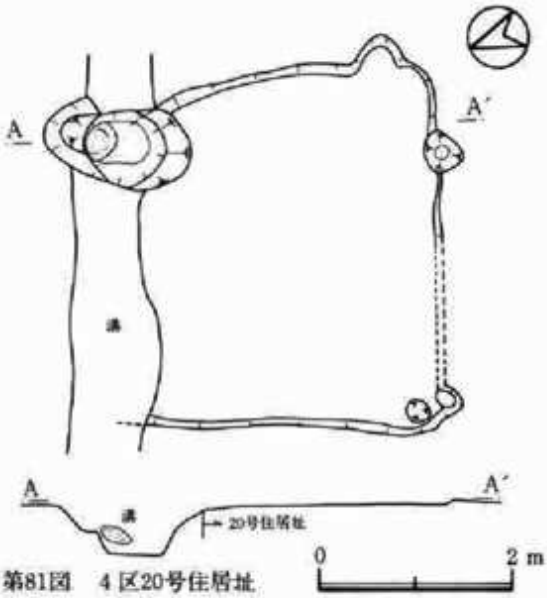




第80図　4区19号住居址遺物実測図(2)

4区19号住居址出土遺物観察表

No.	器形	計測値 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備考
1	小皿	(10.2)-6.1-2.2	口縁部⅓、底部⅔。住居北側の床直。	㊐。口縁下端のロクロ痕明瞭。内面の擦痕強い。見込凹凸。	㊙細礫・パミス多くやや粗い。㊥軟調O。㊝暗褐色。断面褐色味が強い。㊗二次火熱を受けた可能性。
2	杯	(13.0)-(6.0)-3.5	図示部の¼。埋土。	㊐。ロクロ痕きわめて弱い。	㊙細砂・パミスを含む。やや粗い。㊥硬調O。焼締。㊝淡茶褐色。
3	高台付き皿(K)	10.8— 3.3 ㊐5.8	完形。住居中央やや北寄りの床直。	(右旋)。高台取付雑。内面は布状の擦痕残り平滑。釉は漬掛。	㊙東濃系。黄褐色の夾雑物含む。㊥硬調R。㊝若干黄色味のある灰白色。釉は灰黄色、内面一部灰緑色。㊗丸石2号窯期。
4	高台付き椀	(16.6)-(6.6)-6.2 ㊐7.8	口縁部¼、底部完存。住居北東側床直。	(右旋)。ロクロ痕弱い。研磨丁寧で、見込は二方向。	㊙石英・輝石・大粒パミス含む。㊥やや硬調O。㊝淡褐色。内面黒色～暗褐色で黒色処理は不良。
5	椀	(16.6)-7.0-5.8	口縁部¼、底部⅔。埋土。	㊐削りは雑で細かい。研磨も細かい。	㊙細礫多く、粗悪。㊥軟調O。㊝暗褐色。内黒で、口縁部外端まで光沢ある黒色。
6	高台付き椀	13.3-(5.6)-5.9 ㊐7.2	口縁部⅓欠く	㊐。外面の削り強い。高台取付丁寧。内面ナデ丁寧で、見込木口状、口縁布状擦痕残る。	㊙細礫多く、パミス・輝石散見。やや粗い。㊥軟調O。㊝淡褐色。部分的に灰色味おびる。㊗口縁部に歪み。口縁部上端若干剝落する。
7	高台付き椀	(15.6)-(6.2)—	口縁½と高台端欠く。竈内。	6と同巧。やや粗な作り。	㊙㊥㊝6に同じ。
8	羽釜	(25.7)— —	図示部の¼。竈内火床直上	㊐。削りは強く丁寧。内面ナデは細かく平滑。鍔部欠失。	㊙パミス多く、石英・チャート含む。やや粗い。㊥やや硬調で若干焼締。㊝淡褐色。㊗二次火熱受ける。内面スス付着。
9	小型甕	(15.0)— — ㊐(13.4)	図示部の⅓。竈内。	外面頸部に明瞭な接合痕。削り雑。内面平滑さ欠く。	㊙砂礫・パミスやや多い。㊥やや軟調O。㊝淡褐色でほぼ一様。㊗二次火熱を受ける。



第81図　4区20号住居址

4区　20号住居址

位　置　B－8グリッド

形　状　北辺を完全に失っていた。南辺3.7m、東・西辺3.1m以上で、東辺の歪みが大きい。台形気味のプランを呈すと思われる。

方　位　N－111°－E

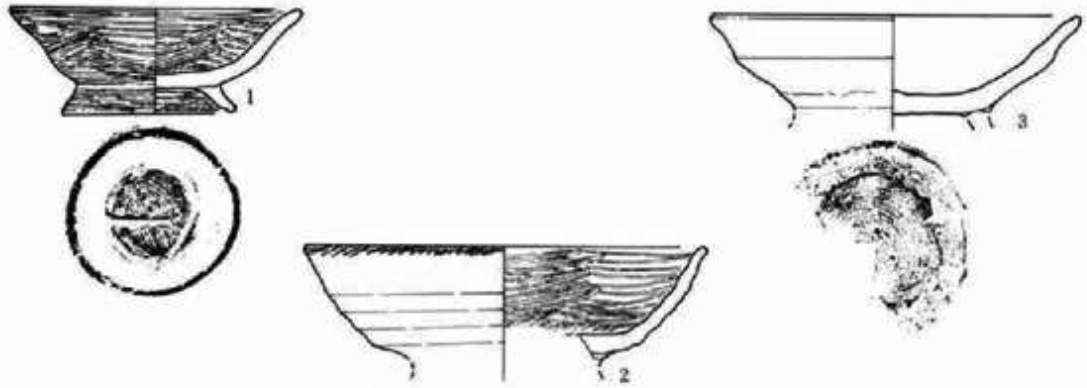
面　積　12.5㎡

壁　最深で5㎝の残存壁高で、立ち上がりの基部がわずかに検出できただけである。

床　面　北へ低く、わずかに傾斜していた。軟弱で不明瞭な床である。

ピット　南壁に、3ケ所の皿状の窪みを検出したが、本住居に伴なう施設かは疑問である。

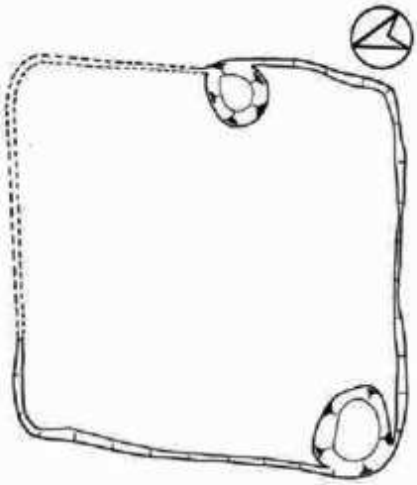
竈　東壁の南寄りにある。火床は壁際にある。壁外への掘り込みが検出できただけで、全貌はほとんどわからない。



第82図　4区20号住居址遺物実測図

4区20号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	高台付き椀	11.5-(4.8)-4.2 ㊀6.8	口縁部の¼を欠く。埋土。	(右旋)？全面丁寧な研磨でロクロ痕なし。平滑に仕上げる。	㊀パミス・砂粒散見。精緻。㊁やや軟調O。適度の焼締。㊂内黒だが光沢欠く。外面淡褐色～黒褐色。㊃接地面磨耗。
2	高台付き椀	(15.8)-(8.0)－	図示部の½。埋土。	(右旋)。高台剥離面にカキ目状沈線あり。口縁下端ロクロ痕不明瞭。研磨丁寧。	㊀細礫・パミス・石英多く、やや粗い。㊁O。吸炭著しい。㊂内黒で光沢。外面淡褐色、口縁端部黒色。断面まで吸炭がおよび、黒色味が強い。
3	高台付き椀	(14.6)-(5.4)－	図示部の½。埋土。	(右旋)。内面は圧痕や不規性なナデで、平滑さ欠く。外面ロクロ痕弱い。作り雑。	㊀細礫・パミス含む。輝石・石英散見。粗い。㊁やや硬調O。㊂淡褐色～黒褐色。一様でない。



第83図　4区22号住居址　0　1 m

4区　22号住居址

位　置　B・C—9・10グリッド

形　状　北東隅を失なっていて不明瞭だが、一辺3.8m前後の平行四辺形気味の方形を呈すと思われる。

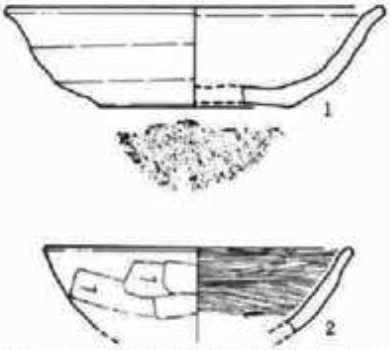
方　位　N—103°—E

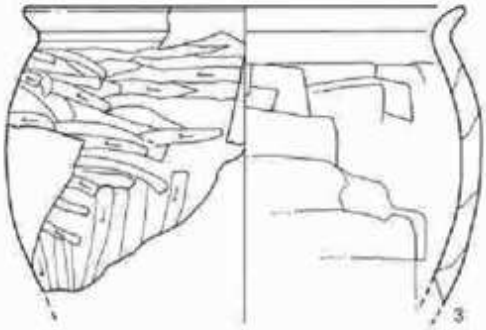
面　積　16.2m²

壁　東側半分は、ほとんど残っていなかった。西壁では最高8cmの残存壁高があった。

ピット　南西隅に、床面からの深さ33cmのピットがあった。位置から貯蔵穴と考えられよう。東壁下中央にも深さ30cmのピットを検出している。

竈　東壁の中央から南寄りにかけて、焼土の散布が多かった。床面下まで掘り込んだ燃焼部や煙道のないことを確認したが、竈の痕跡を検出できただけで、実態は不明だった。

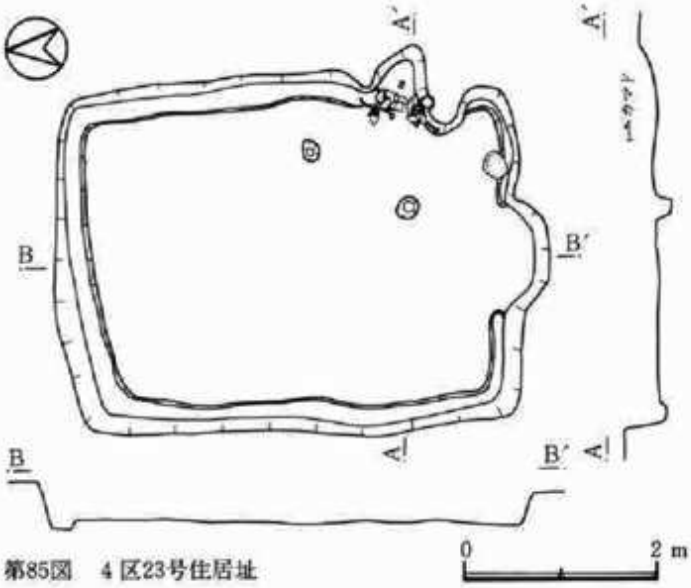




第84図　4区22号住居址遺物実測図

4区22号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	杯	(15.0)-(7.5)-3.9	図示部の⅓。埋土。	㊙。ロクロ痕弱く、全面に指紋が残る。平滑さ欠く。	㊙砂礫・パミス若干含む。気泡混入。粗悪。㊙やや軟調O。㊙淡橙褐色で断面まで一様。㊙器表面は脆弱化する。
2	椀	(11.8)— —	図示部の¼。埋土。	㊙？削りは粗く、やや雑。研磨は丁寧で細かい。	㊙砂礫・パミス・石英・輝石を含む。やや粗い。㊙やや軟調O。㊙内黒は不良で褐色味が強い。若干光沢。外面暗褐色～淡褐色で、一様でない。
3	土　釜	(23.2)— — ㊙(21.6) ㊙(25.0)	図示部の¼。埋土。	㊙。外面削りは棒状の工具で丁寧に行ない、研磨効果あり。内面木口状擦痕。	㊙砂粒多く、細礫・パミス散見。やや粗い。㊙軟調O。㊙黒褐色。断面は赤色味強い。㊙二次火熱を受ける。口縁部に若干スス付着。



第85図　4区23号住居址

4区　23号住居址

位　置　D・E－10グリッド

形　状　長軸4.7m、短軸3.7mの横長長方形で、南辺一部が突出する。

方　位　N-93°-E

面　積　17.0m²

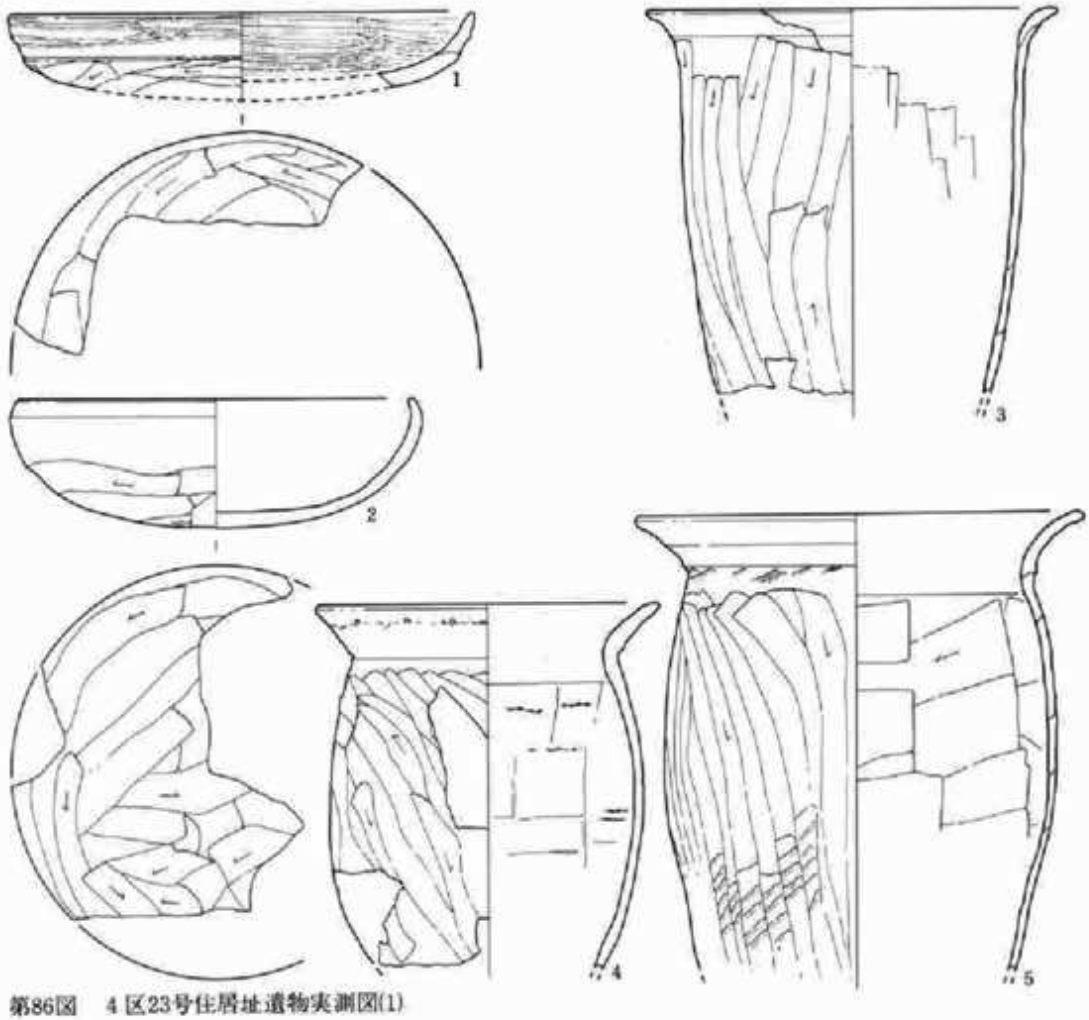
壁　立ち上がりは垂直に近い。

壁　溝　突出部と竈下を除いて全周する。

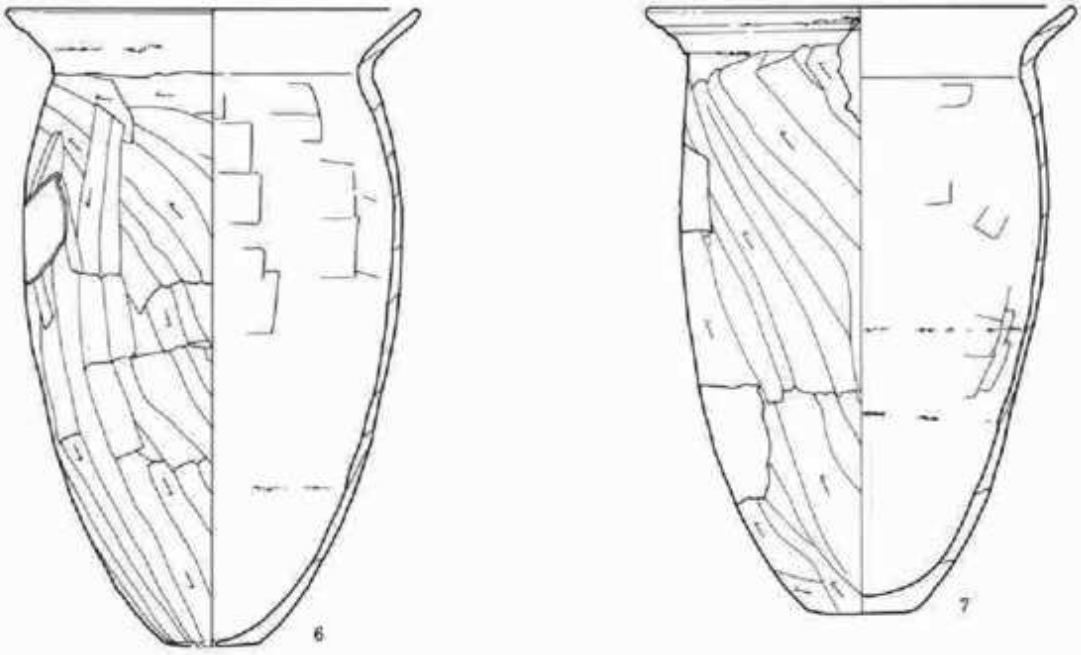
床　面　平坦で、南へ低く傾斜する。

ピット　深さ20cm前後の小ピット2個検出。本住居に伴うかは不明。

竈　東壁南隅にある。袖基部は地山掘り残し。構築材に甕を使用。



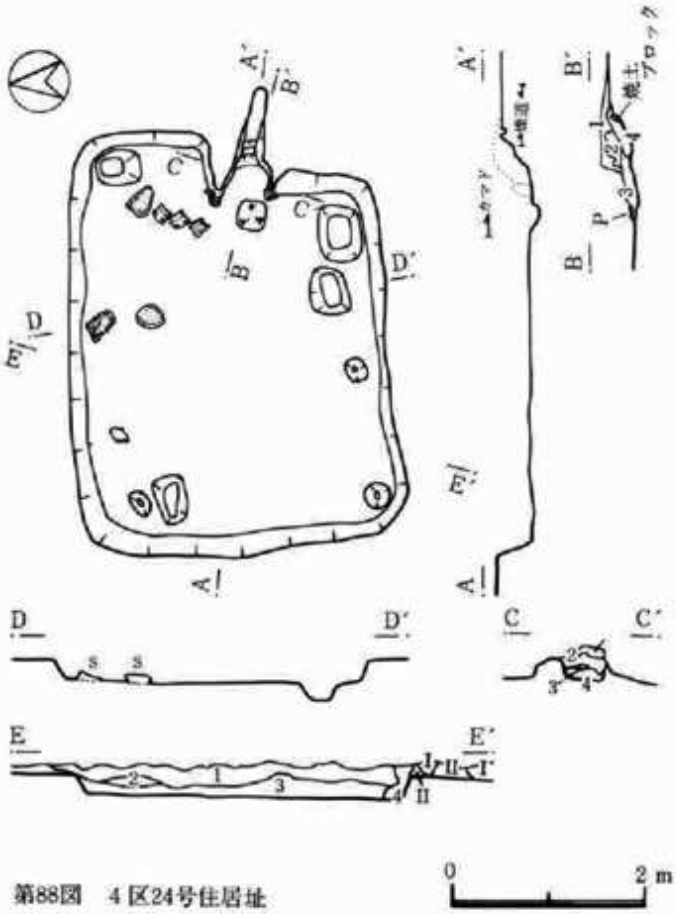
第86図　4区23号住居址遺物実測図(1)



第87図　4区23号住居址遺物実測図(2)

4区23号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	盤(H)	(18.4)－　－	図示部の¼。 埋土。	㊙。削りは乾燥状態で行ない、弱く細かい。研磨丁寧。	㊙砂粒・輝石含む。緻密。㊚やや硬調O。㊝暗褐色～淡褐色。一様でない。㊟口縁内端の剥落進む。
2	椀(H)	(16.2)－5.1	⅓個体。 埋土。	㊙削りは不規則で強い。ナデは丁寧で平滑に仕上げる。	㊙細砂含み、パミス・輝石散見。緻密。㊚やや硬調O。焼締。㊝淡褐色。底部一部黒褐色。
3	甕(H)	21.5－　－ ㊙18.5	口縁⅓欠く。 胴上半完存。 竈内。	㊙。削りは半乾き状態で、息長く鋭い。内面木口状の擦痕。	㊙砂粒・気泡やや多い。やや粗い。㊚軟調O。㊝茶褐色。内面淡褐色。㊟二次火熱の影響強く、器面の脆弱化著しい。
4	甕(H)	18.0－　－ ㊙13.8　㊚16.4	口縁部完存。 胴部¾。竈内。	㊙。輪積痕明瞭。削り強く、段ができる。内面のナデ痕強い。	㊙細砂多いが、精選されている。㊚やや軟調O。㊝淡橙褐色、一部暗い。㊟二次火熱受ける。外面の脆弱化進む。
5	甕(H)	23.5－　－ ㊙18.3	図示部完存。 竈内。	3に近い。口縁部のナデやや雑。	㊙㊚㊝3に近い。㊟口縁部に歪みあり、上面形は不整六角形を呈す。二次火熱受ける。外面にスス付着。
6	甕(H)	21.6- 5.0-33.2 ㊙16.8　㊚19.8	½個体。 竈内。	㊙。胴下位の合わせ痕を、内面より丁寧にナデ消す。平滑。	㊙細砂やや多く、チャート散見。精選される。㊚やや軟調O。㊝淡褐色。内面赤味色。㊟二次火熱。口縁外端磨耗。
7	甕(H)	22.5- 6.0-31.5 ㊙18.2　㊚19.3	頸部以上の¾欠く。竈内。	6に近いが、やや雑な作り。	㊙㊚㊝6にほぼ同じ。㊟二次火熱受けるが、器面の脆弱化少ない。



第88図　4区24号住居址

4区　24号住居址

位　置　－A・A－3・4グリッド

形　状　東辺が竈を挟んで大きくくい違う不整形を呈す。長軸4.4～3.8m、短軸3.2m。

方　位　N－91°－E

面　積　13.1m²

壁　比較的緩やかに立ち上がっている。残存壁高18～32cm。

床　面　平坦で、西側へ若干傾斜している。竈周辺の踏み固め強い。

ピット　東壁下の両脇から長方形の貯蔵穴を検出した。他は、形状・位置に規格性なく、柱穴とは考えにくい。

竈　東壁中央にある。火床は住居床面よりやや低く、煙道は中段で平坦部がある。焚き口は円礫で補強。

土層説明（住居址）

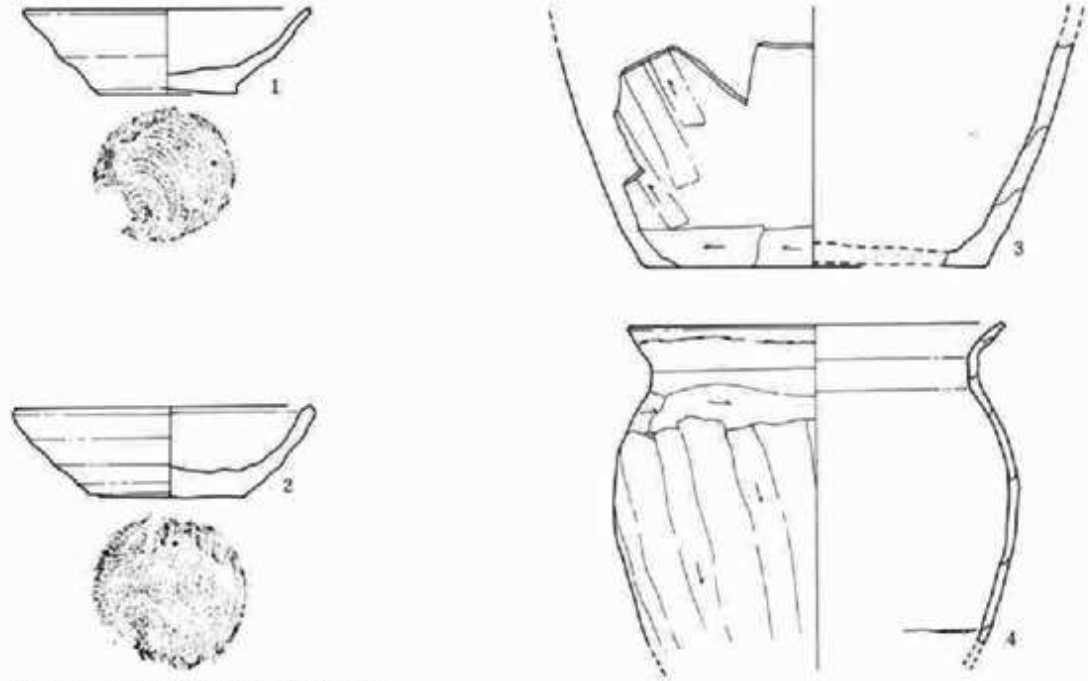
Ⅰ、赤土灰褐色　乱層　　Ⅱ、黄褐色砂土層

1・3、黒褐色土層　　2、黒色土層

4、明黒褐色土層

土層説明（カマド）

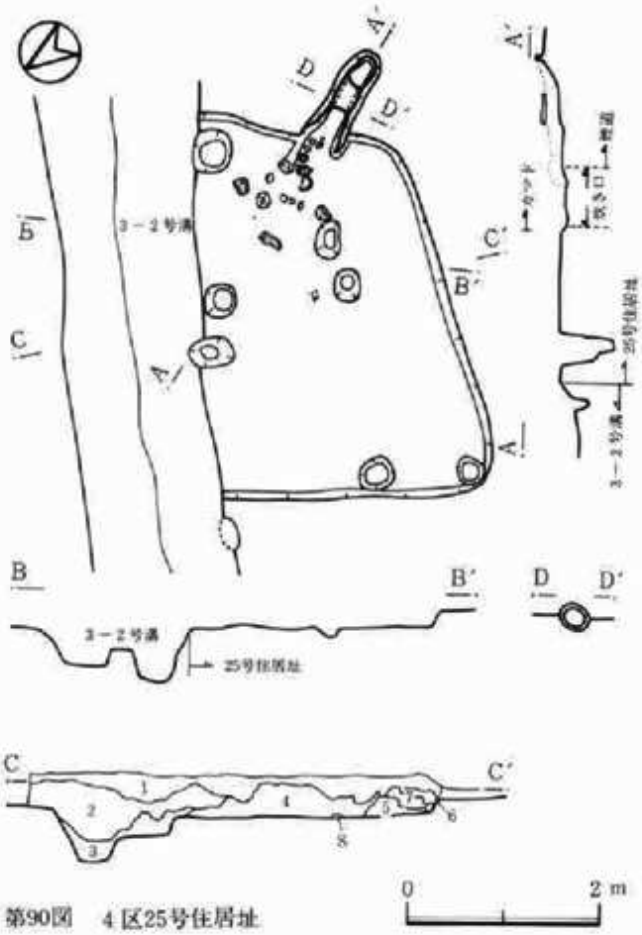
1、黒褐色土層　　2、褐色土層　　3、暗褐色土層　　4、赤褐色土層



第89図　4区24号住居址遺物実測図

4区24号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	杯	(11.5)-5.1-3.2	口縁上半の⅔を欠く。住居北側埋土。	㊨。ロクロ痕やや弱い。擦痕に乱れがある。軽量。	㊙パミス多い。細礫・輝石散見。やや粗い。㊥やや硬調O。若干焼締。㊐淡褐色。内面赤色味をおびる。
2	杯	11.7-6.1-3.5	ほぼ完形。埋土。	㊨。外面に巻上げ痕状のヒビあり。ロクロ痕は同心円状で弱い。口縁内端外傾。	㊙砂粒・細礫・パミスを若干含む。㊥やや硬調O。㊐淡褐色で一様。断面は若干赤色味をおびる。
3	甕(S)	―(17.6)―	図示部の¼。埋土。	㊥。内面に接合痕状のヒビ。下端にごく弱い削りで、他は不規則なナデ。	㊙砂粒・長石やや多い。気泡含み、須恵器としてはやや粗い。㊥硬調R。焼締。㊐灰色で断面まで一様。
4	甕(H)	19.7― ― ㊥16.8 ㊧20.7	図示部ほぼ完存。竈前面北側埋土。	㊥。外面幅広の晋寧な削り。内面横位ナデ平滑。	㊙砂粒・パミス・ベンガラ散見。やや緻密。㊥硬調O。㊐淡赤褐色。内面やや暗い。



第90図　4区25号住居址

4区　25号住居址

位　置　3区－A・A－10グリッド

形　状　不明瞭な埋土で、攪乱が多いため、南西辺の5～7層を掘り過ぎてしまった。南隅に竈があり、南西辺が3.8mの方形プランを呈すと思われる。

方　位　N－122°－E

面　積　9.7m²

壁　残存壁高10cm未満のソフトローム壁で、不明瞭であった。

床　面　細かな凹凸があり、北側へ低く傾斜していた。軟弱であった。

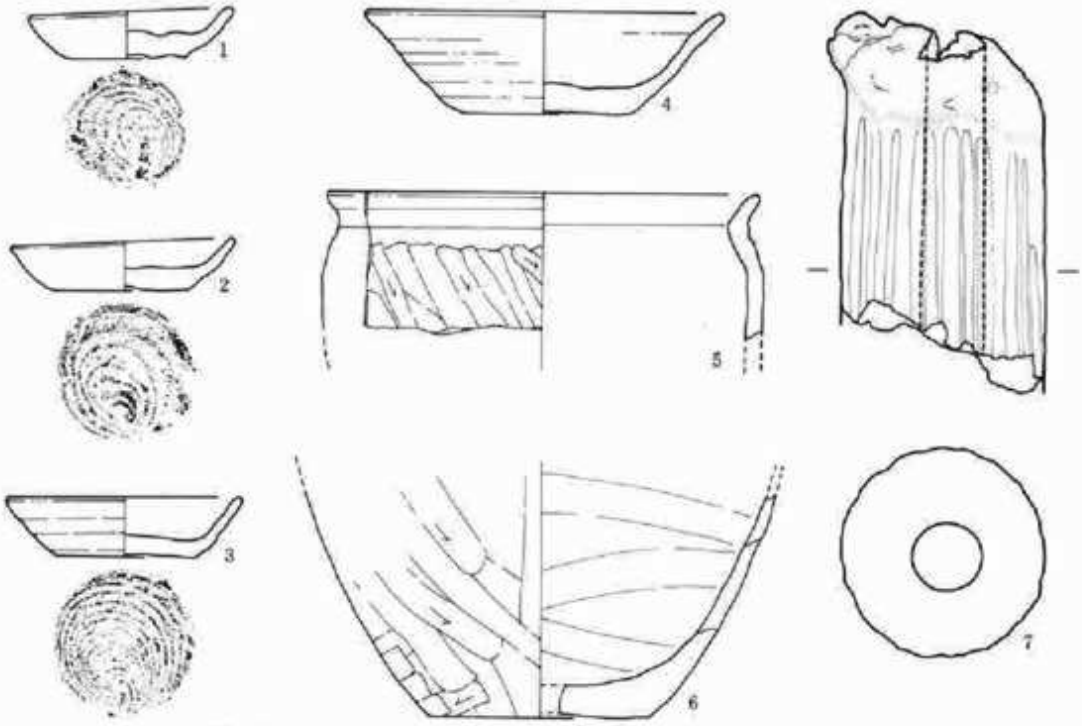
ピット　検出されなかった。平面図中の七つの小穴は、後世のものと思われる。

竈　南隅にある。煙道は細長く、壁外へ108cm張ひ出す。粘土を主な構築材とした天井部が残存していた。火床は住居内にあり、住居床面より6cmほど低くなっていた。石組みの焚き口で、東袖先端に円礫が残存していた。

重　複　3区2号溝に、住居東半を削られている。

土層説明

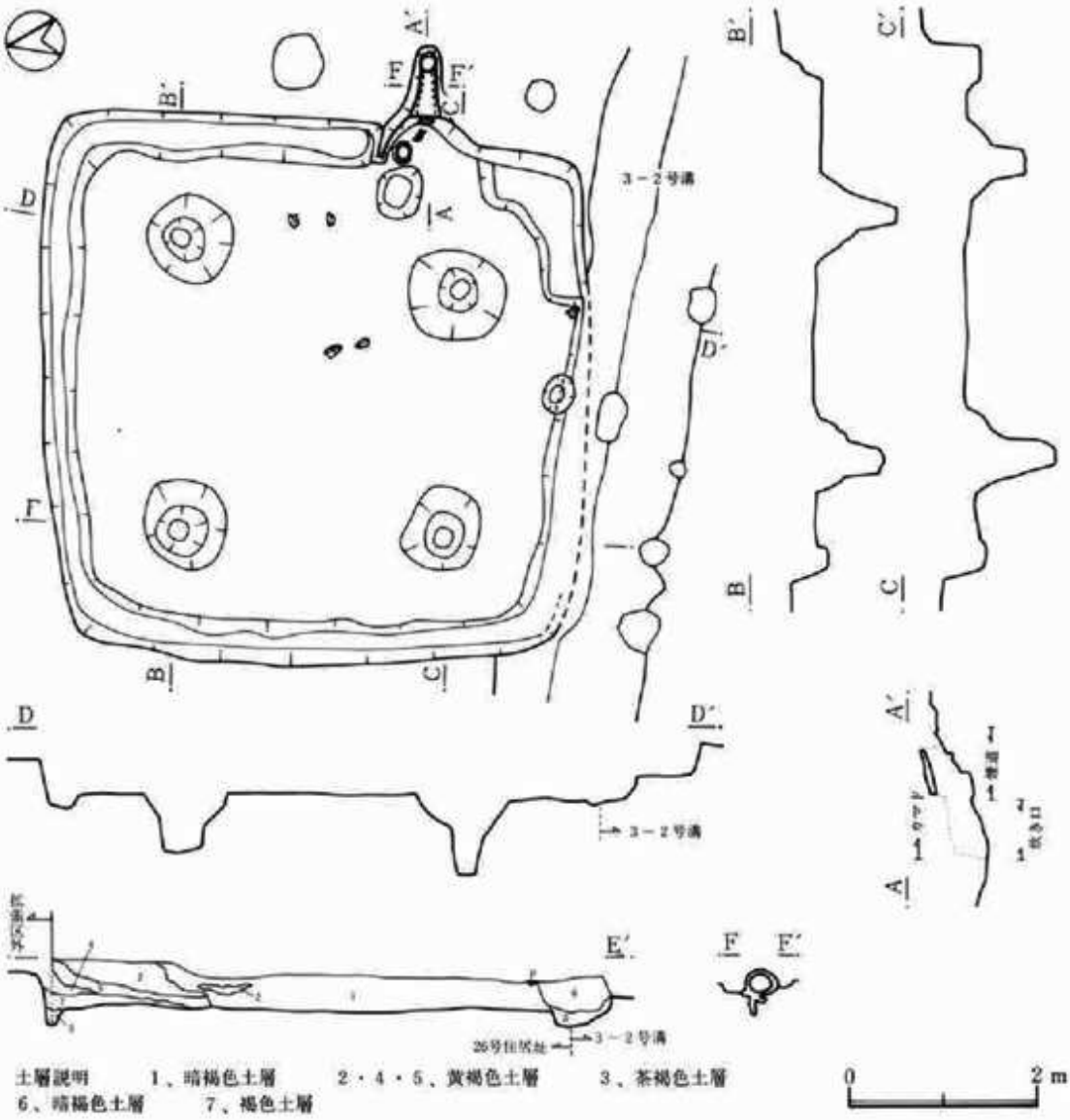
1、明褐色土層　2、褐色土層　3、茶褐色土層　4、暗褐色土層　5、黄褐色土層　6、黒褐色土層　7、暗茶褐色土層



第91図　4区25号住居址遺物実測図

4区25号住居址出土遺物観察表

No.	器形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備考
1	小皿	8.1-4.7-1.9	口縁一部欠き ほぼ完形。 竈前面床直。	㊐見込縁辺と中央に高まり。ロクロ痕弱い。	㊙細礫含む。輝石・パミス散見。㊘硬調O。焼締。㊟白色味のある淡褐色。㊗全体に歪みあり。
2	小皿	8.9-5.3-2.0	ほぼ完形。 埋土。	㊐。見込は平坦で平滑 口縁部薄い。	㊙㊘1に近い。㊟淡褐色。内面暗褐色の広いムラあり。
3	小皿	9.3-5.3-2.4	ほぼ完形。 竈前面床直。	2にほぼ同巧。外面に2条の沈線巡る。	㊙㊘1に近い。㊟淡褐色～暗褐色。㊗破損後に二次火熱受ける。内面スス付着。
4	杯	(14.0)-(6.6)-3.8	図示部の½。 埋土。	㊐底部厚いが重量少ない。ロクロ痕弱く細かい。	㊙細礫多く、パミス・ベンガラ散見。粗い。㊘やや硬調O。㊟白色味の強い淡褐色。内面一部暗褐色。
5	土釜	(22.6)－ －㊘(21.2)	図示部の1/8。 竈内。	㊙。削りごく弱い。内面枝状工具ナデ。	㊙砂粒・輝石やや多い。㊘硬調O。㊟淡橙褐色。㊗二次火熱受け外面剥落。
6	土釜	－(11.8)－	図示部の¼。 竈内焚き口付近及び埋土。	㊙外面粗い削り。内面指頭の強いナデで平滑き欠く。	㊙砂礫多い。石英そ輝石散見。気泡含む。㊘やや硬調O。㊟淡褐色～黒褐色。内面一部灰色味。㊗二次火熱受ける。
7	羽口	㊘7.9	埋土。	外面に押圧痕と思われる縦位の窪み。	㊙砂粒多い。㊟淡赤褐色。㊗先端は緑青付着か？　銅精錬の可能性。



土層説明　1、暗褐色土層　2・4・5、黄褐色土層　3、茶褐色土層
6、暗褐色土層　7、褐色土層

第92図　4区26号住居址

4区　26号住居址

位　置　－A－1グリッド

形　状　東辺が竈を挟んで若干くい違う、一辺が5.8mのやや歪んだ正方形を呈す。

方　位　N－103°－E　　**面　積**　31.7m²

壁　垂直に近い立ち上がりの、良好なハードローム壁で、残存壁高38～48cmを測る。

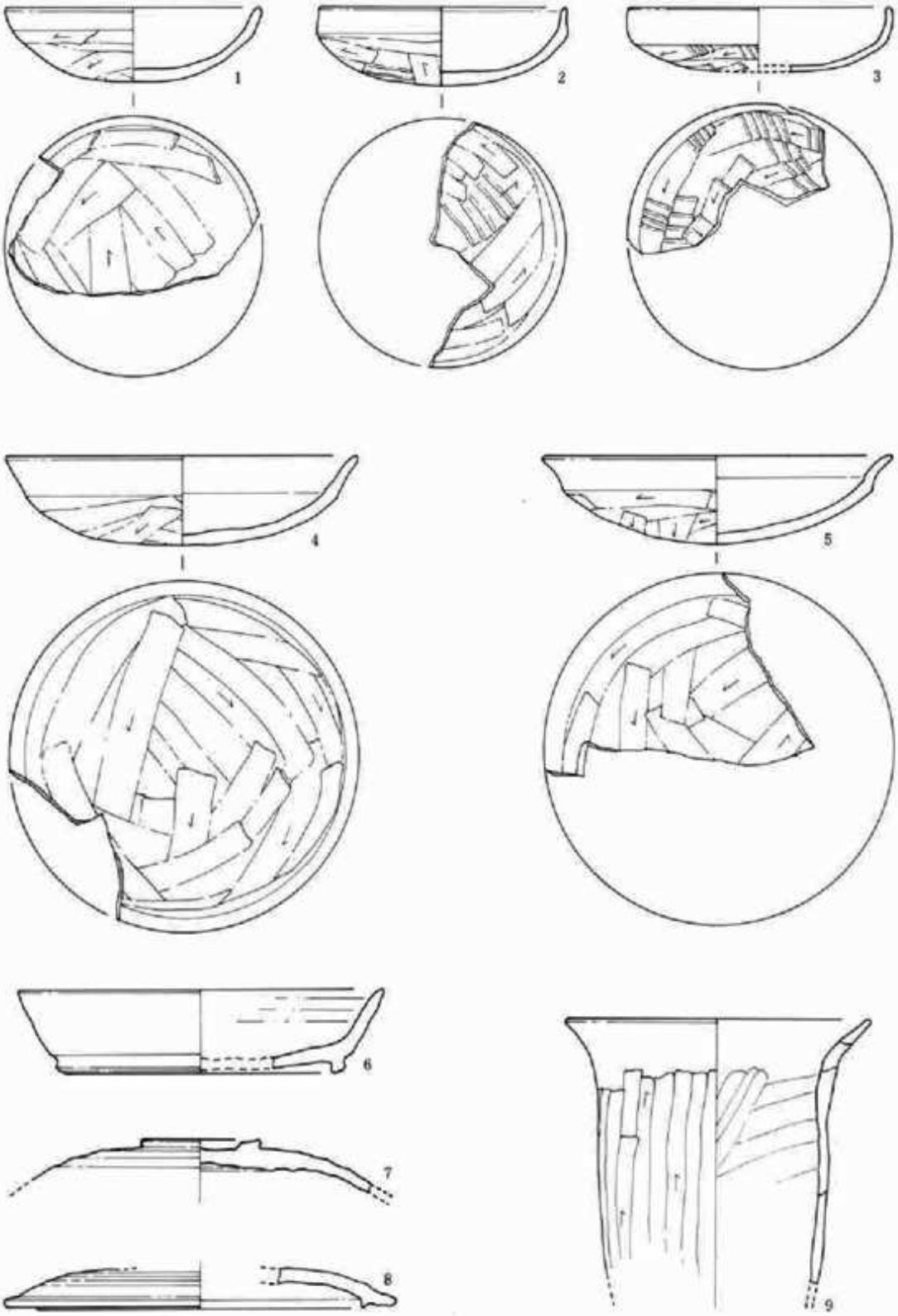
壁　溝　南壁下は不明だが、竈下を全周すると思われる。深さ15cm前後で一定している。住居側の立ち上がりが不明瞭で、幅は明確に出来なかった。

床　面　壁側へ低く傾斜している。住居中央は踏み固められていたが、全体的に軟弱であった。

ピット　4主柱穴を検出した。床面からの深さは60～80cmで、全体に深い。上面が漏斗状に開いていることも共通する特徴である。竈前面の南東ピットから西側へズレている以外、住居四隅からの対角線上に配されている。

竈　東壁下の南寄りにある。火床は壁際にあり、住居床面より10cmほど低くなっていた。火床北西側にも同様の窪みがある。煙道は、天井部が残存していた。

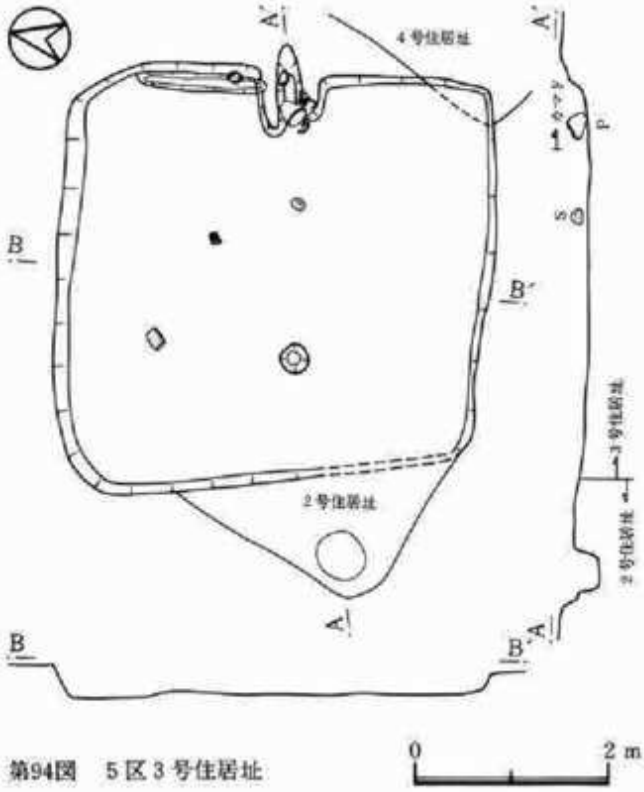
重　複　3区2号溝に南壁の大半を切られる。



第93図　4区26号住居址遺物実測図

4区26号住居址出土遺物観察表

No.	器形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備考
1	杯(H)	(12.0)—3.5	½個体。 埋土。	㊙。口縁は直立に近い立ち上がり。削り粗く、端部無調整。内面ナデ丁寧だが、見込に凹凸あり。	㊙細砂含む。雲母・パミス散見。やや緻密。㊙やや硬調O。㊚内面淡茶褐色。外面淡褐色、底部中央黒色。㊙口縁内端に細かな剝落多い。口縁部に歪みあり。図は最も開いた部分。
2	杯(H)	(11.8)—3.6	口縁部⅓、底部⅓。 埋土。	1にほぼ同巧。無調整部分狭い。見込平滑で平坦。	㊙1に近い。ベンガラ・輝石散見する。㊙やや硬調Oだが、焼きムラあり。㊚淡橙褐色～淡褐色。㊙口縁内端と口縁外面下隅に剝落多い。
3	杯(H)		½個体。 埋土。	㊙外面削り強い。内面ナデは布状の強い擦痕が残る。口縁内端若干肥厚。薄手で軽量。	㊙細石そ輝石等若干含むが、精選されきわめて緻密。㊙硬調O。焼締。㊚橙褐色で底部一部暗い。断面は白色味が強い。
4	盤(H)	16.8—2.6	口縁一部欠きほぼ完形。 住居中央床上13cm。	㊙。削りは粗く、不明瞭。ナデは丁寧で強く、同心円状の擦痕残る。重量。	㊙細砂含む。石英・輝石散見。緻密。㊙硬調O。焼締。㊚淡橙褐色でほぼ一様。見込の凸部磨耗。口縁内面の一部で凍てハゼ著しい。
5	盤(H)	(16.4)—2.6	½個体。 南壁下東側壁溝内、床面レベル。	4にほぼ同巧。口縁部の外反強い。	㊙砂粒やや多い。石英・パミス・ベンガラ等含む。やや緻密さ欠く。㊙硬調O。㊚淡褐色。外面一部橙色味をおびる。㊙内面全体に磨耗する。
6	高台付き杯(S)	(17.0)—3.8 ㊙(13.5)	図示部の¼。 埋土。	㊙㊙。底部回転ヘラ削り痕。高台取付け丁寧。ロクロ痕弱く内面きわめて平滑。外面に降灰釉。	㊙砂粒含む。緻密。㊙硬調R。焼締。㊚外面灰黒色。内面青色味をおびた灰色。断面は淡いセピア色味。降灰釉灰黄色。㊙高台端部やや磨耗する。
7	蓋(S)	㊙5.5	図示部の⅓。 南東ピット上住居床上15cm。	左ロクロ成形→切離し不明→天井部回ヘラ→リング状鈕取付け。内面ロクロ痕きわめて強い。	㊙粗砂やや多い。細礫散見。須恵器としてはやや粗い。㊙硬調R。焼締。㊚灰青色でほぼ一様。
8	蓋(S)	(18.4)—　—	図示部の⅓。 粘土上層。	右ロクロ成形→切離し不明→天井部広く回ヘラ。全体にきわめて平滑。	㊙細砂多いが、他に混入物なく精緻。㊙硬調R。㊚灰白色。内面さらに白色味おびる。
9	甕(H)	19.3—　— ㊙14.8	図示部ほぼ完存。 竈内火床上に倒置。	㊙。削り粗い。ナデは指頭で強く、細かな凹凸あり平滑き欠く。	㊙砂粒・パミス・ベンガラ多い。輝石散見。やや粗い。㊙軟調O。㊚淡褐色～淡橙褐色。内面頸部付近暗褐色。㊙二次火熱の影響強い。器面に竈粘土付着。



第94図　5区3号住居址

5区　3号住居址

位　置　A・B－1・2グリッド

形　状　南辺がやや短かく、南東隅が鈍角の、台形状のプランを呈す。

方　位　N－86°－E

面　積　18.2㎡

壁　残存壁高20～31cmで、やや緩やかに立ち上がっている。

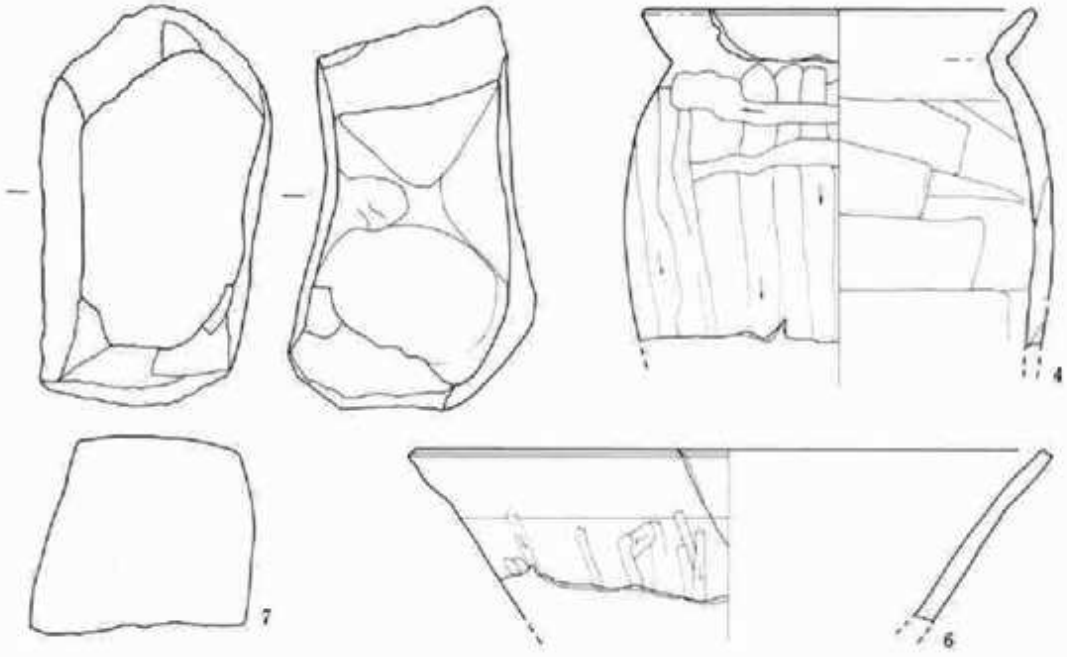
壁　溝　北壁下の竈以北にのみ検出できた。深さ2～5cmで不明瞭であった。

床　面　踏み固めが強く、細かな凹凸があった。住居中央が若干窪み、北側へ低く傾斜していた。

ピット　住居中央西寄りに、床面からの深さ30cmの小ピットを検出した。本住居に確実に伴うものかは不明である。

竈　東壁中央にある。燃焼部は住居内にあり、火床は住居床面と同レベルであった。煙道の壁外張り出しは25cmで、やや短かい。袖部はローム土主体の構築材で築かれ、一部壁溝を埋めていた。

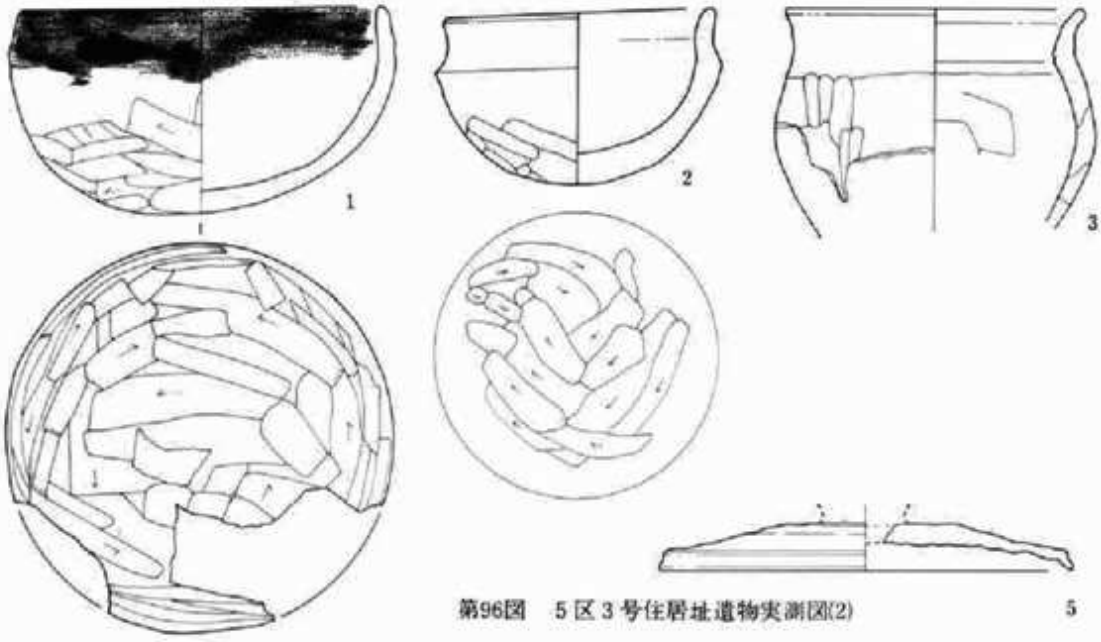
重　複　2・4号住居に先行する。



第95図　5区3号住居址遺物実測図(1)

出土遺物観察表

No.	器　形	計測値 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	椀(H)	14.2—7.8	口縁部の⅓を欠く。竈前面の床直12片が接合。	㊙。削りは弱く軽い。中位は指頭の雑なナデ。内面は丁寧なナデにより平滑。	㊙砂礫・石英・パミスを含み、やや粗い。㊙やや軟調。㊙淡茶褐色。口縁部に暗褐色の焼成時色ムラあり。㊙口縁部は波状に歪む。口縁部内面は磨耗剥落する。
2	椀(H)	10.6—6.7	完形。竈北脇、壁直下の床直。	㊙見込に木口状の圧痕あり。外面の削りは弱い。ナデは雑。	㊙㊙1に類似する。㊙暗褐色基調。外面は淡褐色～黒褐色で一様でない。㊙口縁部に波状の小さな歪みあり。
3	小型甕(H)	(11.6)— — ㊙(10.8) ㊙(12.4)	図示部の⅓。竈焚き口付近の床直。	㊙。外面に指頭状の縦位ナデの擦痕あり。無調整部分が広い。内面は平滑。	㊙砂粒・石英・パミス散見。㊙甕類としては比較的硬調。㊙茶褐色基調。内面は暗茶褐色。㊙口縁部外面に若干ススが付着する。
4	甕(H)	(15.1)— — ㊙(10.8) ㊙(16.4)	図示部の⅓。竈内及び竈前面の床直。	㊙縦位削りの後に指頭の横ナデ。内面は接合痕明瞭。	㊙砂礫・石英・輝石を含む。やや粗い。㊙やや軟調。㊙淡褐色～暗褐色。㊙破損後に二次火熱を受ける。
5	蓋(H)	(16.0)— —	図示部の⅓。北壁直下の床上20cm。	㊙→回ヘラ。内面のロクロ目細かい。	㊙細砂多く、砂礫散見。やや粗い。㊙やや軟調R。㊙灰白色。断面灰黄色。㊙混入品。重複する2住の遺物か？
6	鉢(擂鉢か？)	(24.8)— —	図示部の¼。竈上及び埋土の4片接合。	㊙口縁部外面に、横位の布状擦痕あり。口縁部中位以下は、縦位の弱いナデ。	㊙砂礫やや多く、パミス・石英を若干含み、やや粗い。㊙やや軟調O。㊙内面は著しい磨耗剥落あり。破損後に火熱を受ける。中世遺物と思われる。
7	砥　石		住居北側の床直。	平面糸巻状。4面と小口部分の片側半面に使用痕あり。大きさから、置砥と思われる。安山岩製。	



第96図　5区3号住居址遺物実測図(2)　5

第97図　5区4号住居址

5区　4号住居址

位　置　B－1・2グリッド

形　状　住居重複部分は不明瞭だが、長軸4.4m、短軸3.2mの横長長方形を呈す。

方　位　N－25°－E

面　積　13.6m²

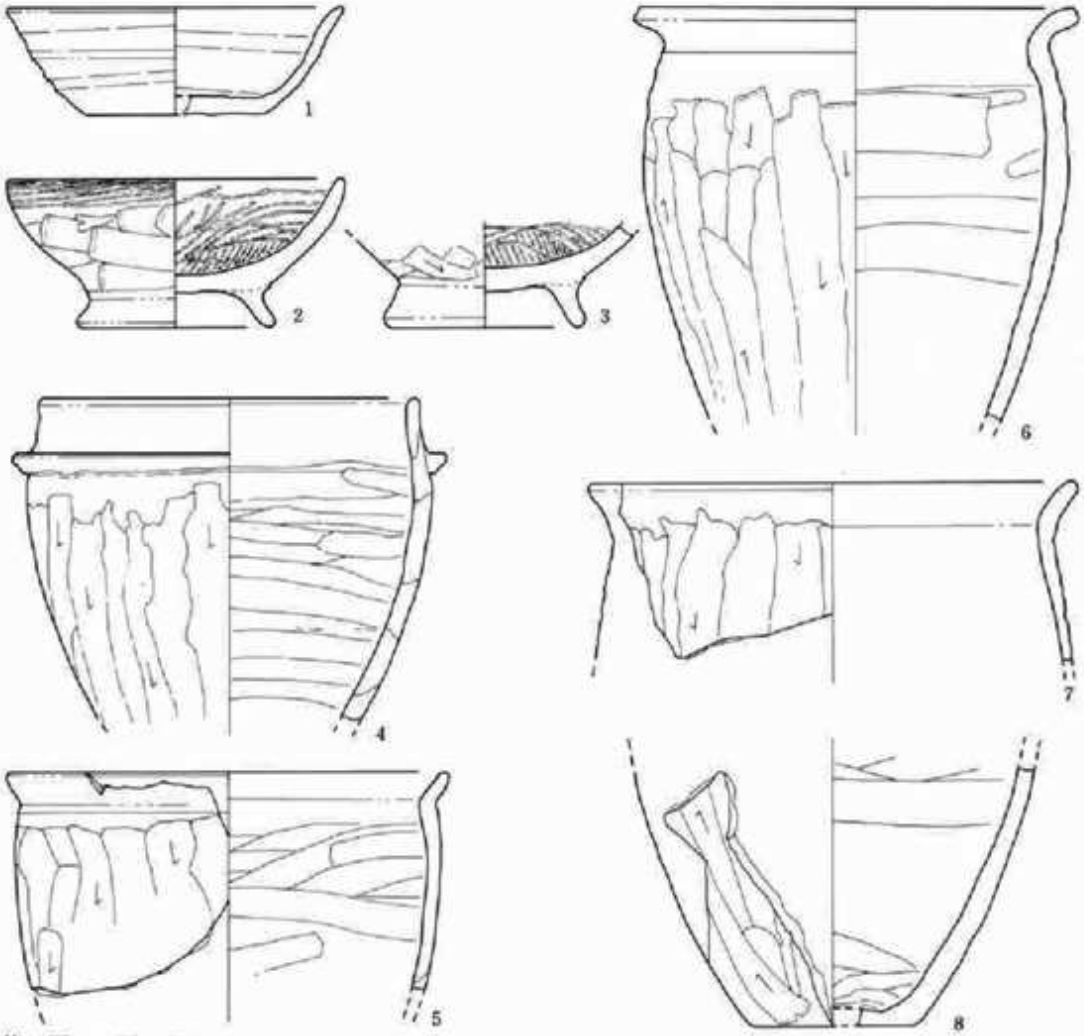
壁　残存壁高5cm未満で基部のみ残る。

床　面　踏み固め強く明瞭だが、凹凸多く不整である。重複部分にも貼り床は施されない。

ピット　南東隅ピットは貯蔵穴状だが、上面は踏み固めてある。北西隅ピットは擂鉢状。

竈　北壁東隅にある。燃焼部は住居内で火床と煙道は住居床面より5cm低かった。焚き口・掛け口は礫で補強し、袖はローム土で構築する。

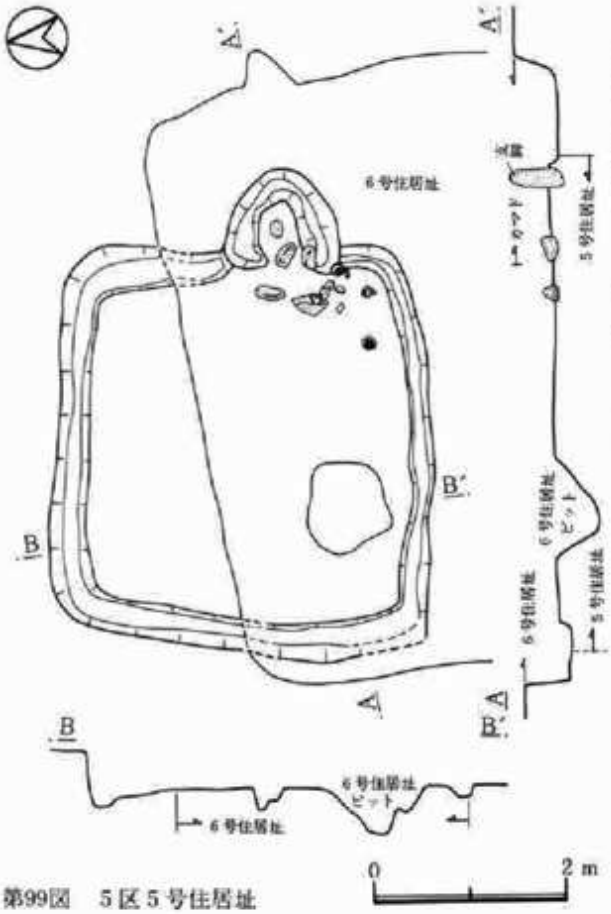
重　複　3・5・6号住居を切る。



第98図　5区4号住居址遺物実測図

5区4号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	杯	(12.2)-(7.0)-4.3	¼個体。竈内及び竈前面床直の2片接合。	㊁。底部切離し痕の上に粘土が多量に付着する。ロクロ痕はやや弱い。	㊀砂粒・パミスの混入多く、やや粗い。㊁やや軟調Oでしまり欠く。㊂茶褐色で断面までほぼ一様で、暗褐色のムラがある。㊃破損後に二次火熱。混入品。
2	高台付き椀(H)	(13.3)-(6.0)-5.8 ㊃7.8	口縁部¼、底部ほぼ完存。竈焚口付近の床直。	㊁→丁寧な高台取付。外面の削りは粗く強い。内面研磨やや雑で、見込に弧状のヘラ痕が残る。	㊀細礫・パミス・石英等の混入物多く粗悪。㊁やや軟調O。㊂内面黒色処理は不良で、黒褐色を呈し光沢に欠ける。外面茶褐色～暗褐色で一様でない。㊃口縁端部・高台端部の剝落が進む。
3	高台付き椀(H)	—(6.8)— ㊃8.1	図示部ほぼ完存。竈内西側の火床直上。	㊁。2に近似する。研磨やや丁寧で、見込で二方向となる。	㊀㊁㊂2に近似する。胎土は若干緻密。内黒は見込中央から半個体分で見られ、他は茶褐色を呈し、弱い光沢がある。
4	羽釜	(20.6)—'— ㊁(22.8)	図示部の¼。竈火床直上、及び竈西脇床直の2片が接合。	㊁。鍔取付は雑で、下方にすき間と、指頭状の凹凸残る。削りは丁寧で器面に光沢できる。内面は息長いナデ。	㊀大粒パミスと、砂粒・チャート・石英・雲母等、細かな混入物多い。やや粗い。㊁やや軟調O。㊂暗褐色～茶褐色で一様でない。㊃内面は不均等にススが付着する。外面は上端より15～17cmの位置に、ススが集中して付着する。
5	土釜	(23.2)—　—	図示部の¼。東壁下南側の床直。	㊁。外面の削りは弱い。内面は息長く粗いナデで平滑さ欠く。	㊀砂粒・石英・チャート等を混入。やや粗い。㊁やや軟調O。㊂暗茶褐色～黒褐色。㊃二次火熱受け、器表面脆弱化。
6	土釜	(23.4)—　—	図示部の½。竈前面、及び東壁下南側床直の2片接合	㊁。外面の削りは方向不定。内面はやや粗いナデ。口縁端部は平坦に削る。	㊀パミス・砂礫多く、輝石若干含む。やや粗い。㊁やや硬調O。㊂淡橙褐色。内面ややや赤色味をおびる。㊃二次火熱の影響少ない。内面若干剝落する。
7	土釜	(25.6)—　—	図示部の⅓。南壁下西側の床直。	㊁。外面の削り強い。内面は平滑。口縁端部丁寧なナデで、丸く仕上げる。	㊀パミス多く、砂礫・長石を若干含む。やや粗い。㊁やや硬調O。㊂淡褐色でほぼ一様。㊃内面に若干ススが付着する。
8	土釜	—(8.4)—	図示部の⅓。埋土、及び竈内。	㊁。外面の削り弱い。内面は下位でヘラ先状、中位で木口状の擦痕が残る。	㊀パミス・砂礫やや多く、チャートを散見する。粗い。㊁やや硬調O。㊂暗褐色。内面黒褐色。㊃二次火熱を受け、器面の脆弱化著しい。内面全面にスス付着。



第99図　5区5号住居址

5区　5号住居址

位　置　C－2グリッド

形　状　各辺の長さが一様でなく、台形気味のプランとなる。南東隅の歪みが著しい。

方　位　N－100°－E

面　積　15.7m²

壁　住居重複部分は不明瞭だった。北壁と東壁北半では残存壁高40～46cmと深く、垂直に近い立ち上がりをしていた。

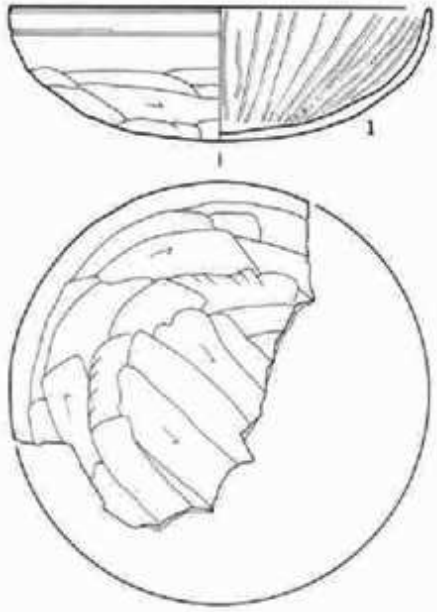
壁　溝　竈下を除いて全周していた。床面からの深さ8cmで、底面は広く平坦であった。

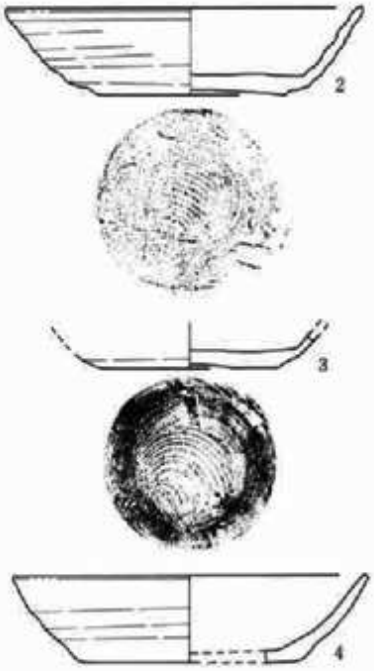
床　面　踏み固めの強い明瞭な床で、住居中央は壁下より2～3cm高かった。重複する6号住の床と同レベルであった。

竈　東壁やや南寄りにある。袖石や支脚に使用した礫が残存しており、焚き口は石組だったと思われる。燃焼部は壁際で、火床は住居床面と同レベルにある。竈構築材は、ローム土主体であった。

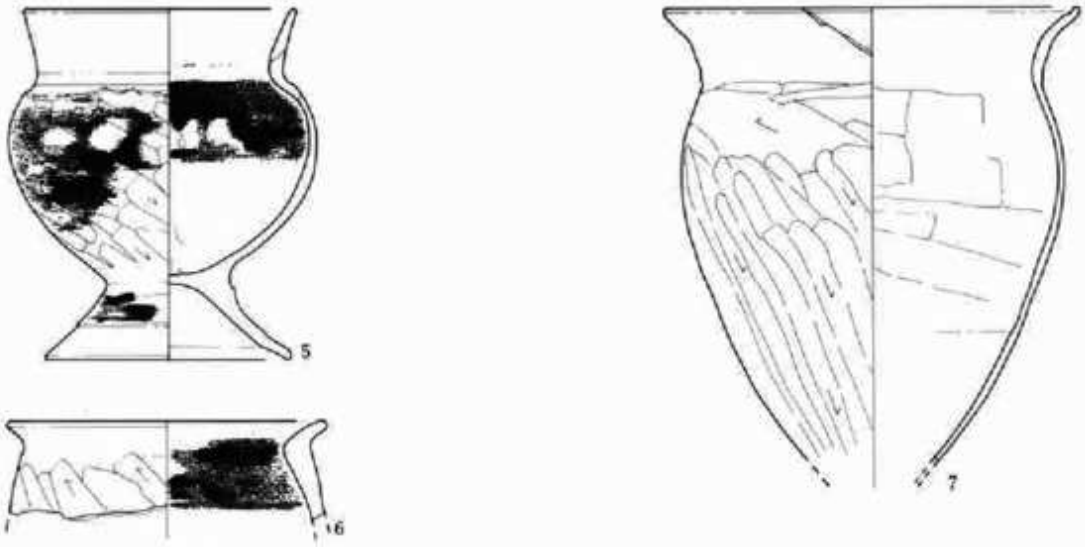
重　複　6号住を切り、4号住に切られている。

その他　竈を中心に多量の遺物を出土したが、床面から3cm程、浮いた状態のものがやや多かった。





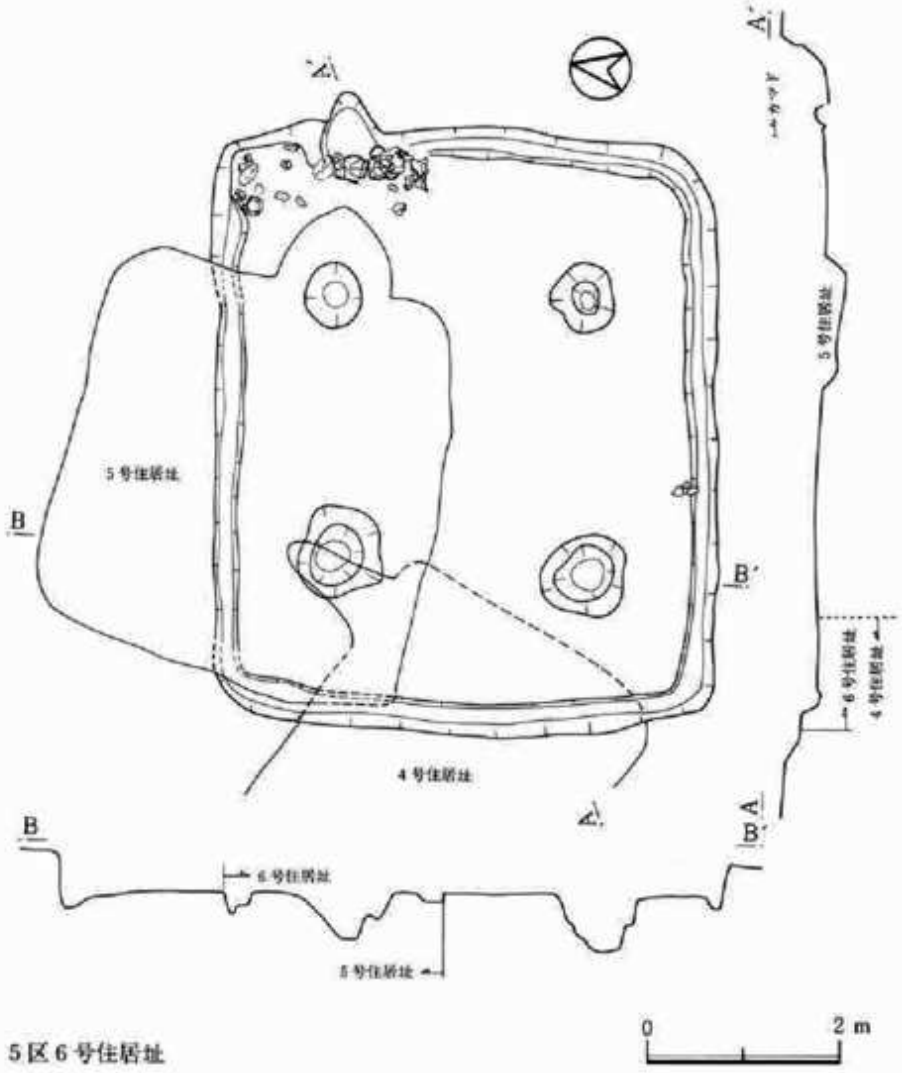
第100図　5区5号住居址遺物実測図(1)



第101図　5区5号住居址遺物実測図(2)

5区5号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　考
1	杯(H)	(16.5) ― 5.2	½個体。南東隅の床上5cm。	㊙。外面の削りは細かく丁寧。内面やや不規則な放射状暗文。	㊙細砂含む。緻密。㊗やや硬調。㊝淡茶褐色。外面は黒褐色部分多く、一様でない。㊜口縁端部は一部磨耗する。
2	杯(S)	14.0- 7.4- 3.4	口縁部の½欠く。南壁下東側の床上25cm	㊙→周縁部回ヘラ。内面はロクロ痕弱く平滑。	㊙砂粒・パミスを若干含み、やや緻密。㊗やや軟調R。㊝灰色。内面黄色味おびる。口縁部内外面に暗灰色の重焼き痕。
3	杯(S)	― 6.8 ―	図示部ほぼ完存。埋土。	2に同じ。	㊙石英・白色針状物を含む。精緻。㊗やや軟調R。㊝灰白色でほぼ一様。
4	杯(S)	(14.0)-(8.6)-3.4	図示部の¼。埋土。	㊙。底部残存部はすべて回ヘラ。	㊙砂粒含む。緻密。㊗やや軟調R。㊝灰色。2と同様の重焼き痕がある。
5	台付き甕(H)	(10.8) ― 13.7 ㊙9.7 ㊙12.2 ㊙9.7	口縁部の½を欠く。竈南袖に床直で密着。	㊙。台部の取付けは丁寧。内面は平滑だが、見込に凹凸あり。	㊙砂粒やや多い。㊗やや硬調O。㊝暗褐色～淡褐色で一様でない。㊜ススが多量に付着する。内面はタール状のススである。二次火熱の影響やや強い。
6	小型甕(H)	(12.6)― ― ㊙(11.3)	図示部の¼。竈内及び埋土	㊙。外面の削りは弱い。頸部外面に指頭状の凹凸あり。	㊙砂粒・パミス・石英を含み、やや粗い。㊗やや軟調O。㊝暗褐色～黒褐色。断面赤褐色。㊜二次火熱を受ける。
7	甕(H)	(21.8)― ― ㊙17.8 ㊙19.8	図示部の¾。竈南袖前面の床上5cm。	㊙。胴部下半内面に弱い合わせ痕あり。丁寧な造りである。	㊙砂粒を含む以外、混入物少なく緻密。㊗やや軟調O。㊝茶褐色。内面やや暗い。㊜二次火熱の影響少ない。



第102図　5区6号住居址

5区　6号住居址

位　置　C－2グリッド

形　状　長軸6.2m、短軸5.2mの比較的整美な縦長長方形を呈す、大型住居である。

方　位　N－93°－E

面　積　31.7㎡

壁　残存壁高32～48cmで、垂直に近い立ち上がりをしている。

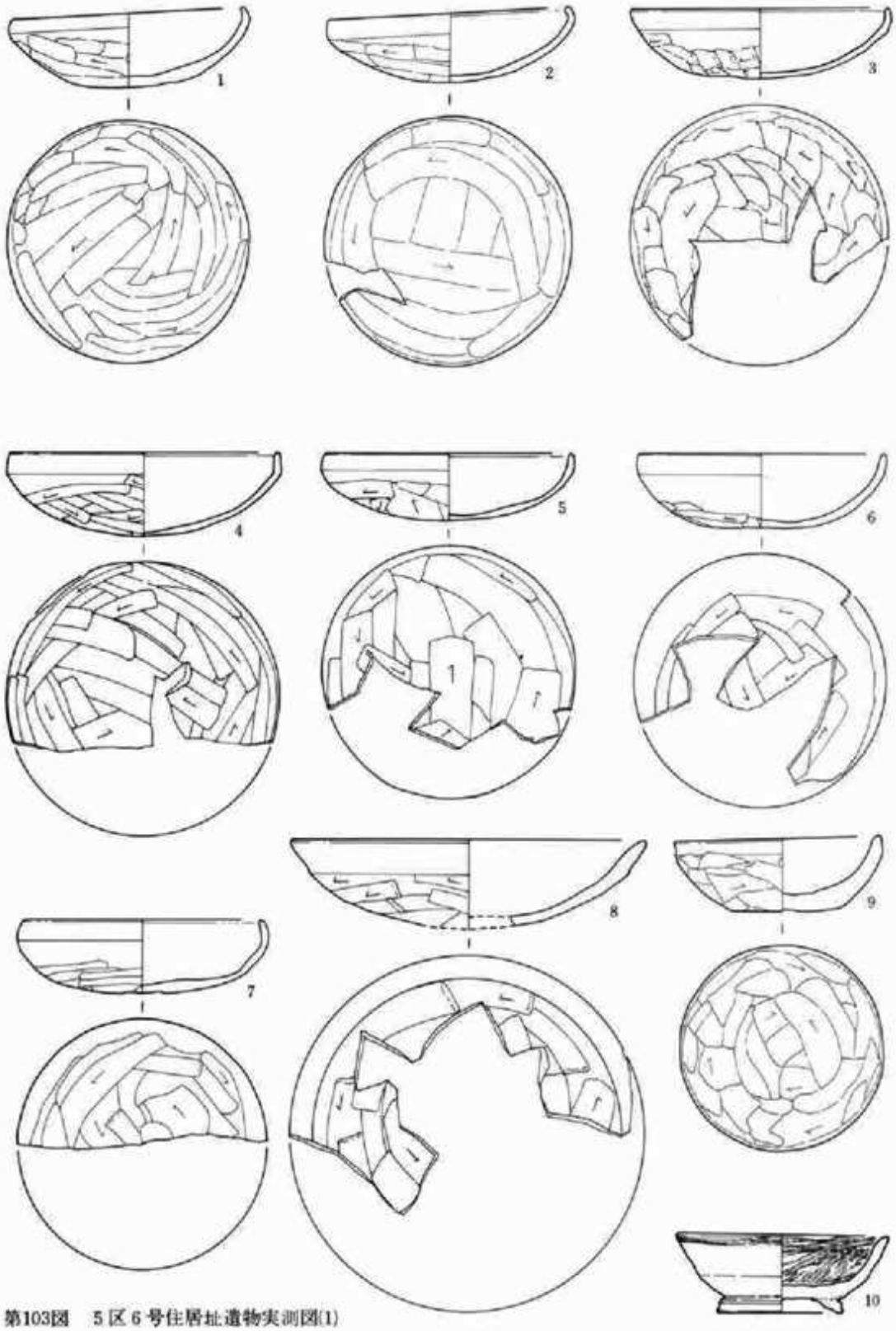
壁　溝　東壁北隅を除いて全周する。床面からの深さは4～10cmで、西壁下が浅い。底面は平坦で幅は広く一定している。

床　面　踏み固めが強く、平坦で良好な床である。住居中央が、壁際より4～6cm高い。

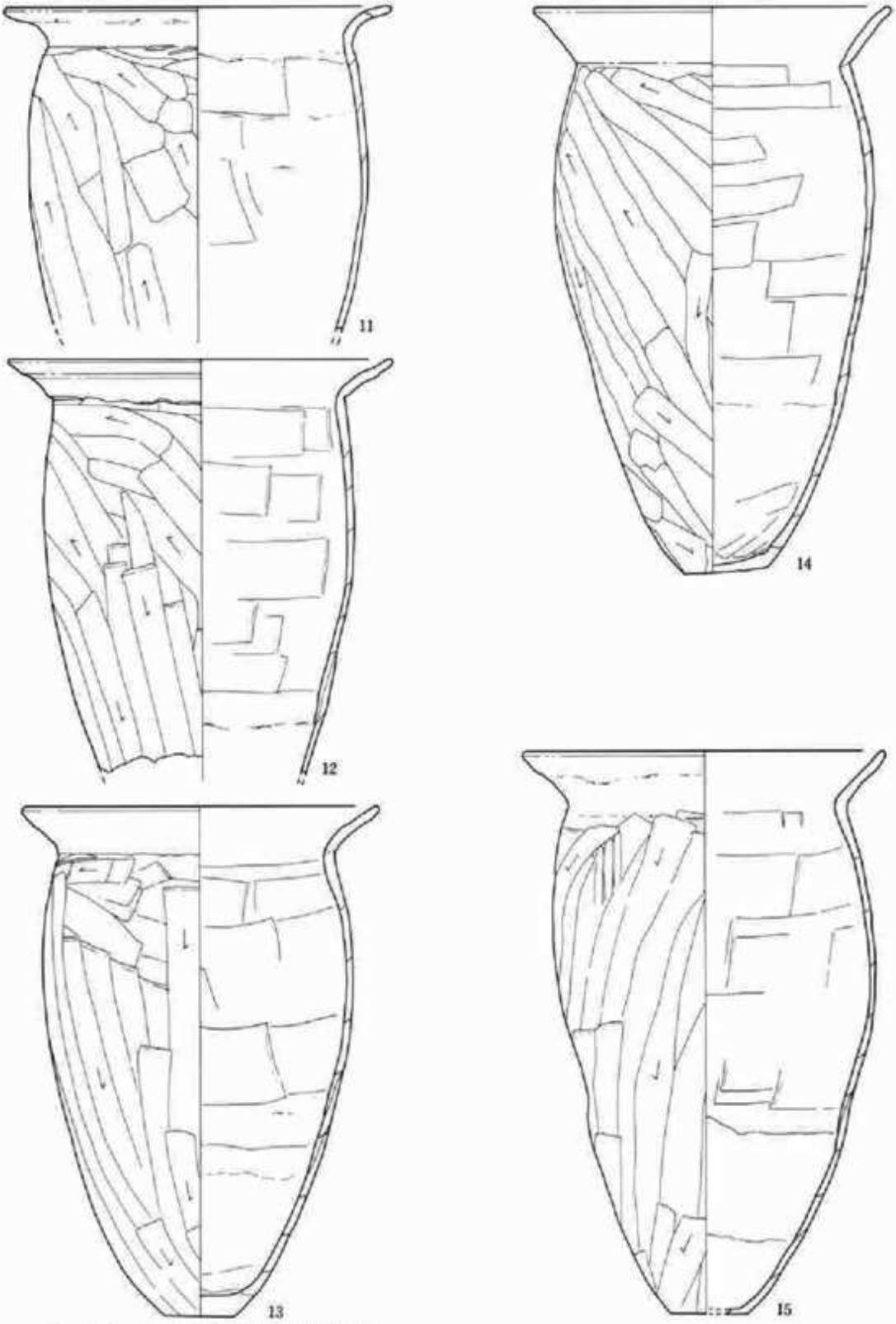
ピット　4本の主柱穴を、住居四隅からの対角線上に検出した。上面の幅が60～80cmと大きいのに比して、床面からの深さが44～65cmとやや浅いのが特徴である。

竈　東壁北寄りにある。燃焼部は住居内で、火床は住居床面と同レベルにある。両袖の基部から甕の胴部が出土した。竈前面の甕も、掛け口に渡した焚き口構築材と思われる。

重　複　4・5号住居に先行する。



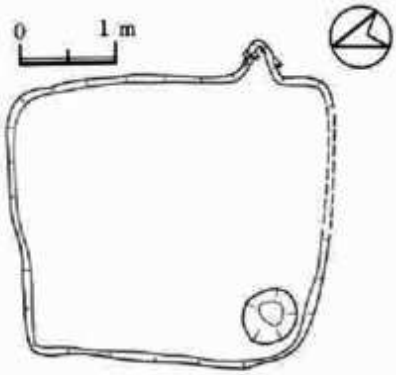
第103図　5区6号住居址遺物実測図(1)



第104図　5区6号住居址遺物実測図(2)

5区6号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	杯(H)	11.1 － 3.5	完形。 北東隅壁際床上5cm。	輪。外面の削りやや弱い。内面は丁寧なナデで布状擦痕残る	胎砂粒若干含み、石英・輝石散見する。やや緻密。焼やや硬調O。色淡橙褐色。他底部接地面が磨耗する。
2	杯(H)	11.4 － 3.2	ほぼ完形。 竈南側床直。	1に近似する。ナデは指頭状の弱い擦痕が残る。	胎砂粒やや多く、輝石・パミス散見。やや粗い。焼やや硬調O。色淡橙褐色。他口縁端部と外面が磨耗する。
3	杯(H)	12.4 － 3.3	⅔個体。 南壁下床直。	1に近似する。外面削りやや粗い。	胎焼色1にほぼ同じ。底部一部は暗褐色を呈す。
4	杯(H)	13.0 － 3.9	⅔個体。 南壁下床直。	輪。ナデ及び外面削りは丁寧で器面は平滑。内面に布状擦痕。	胎石英若干含み、パミス・輝石散見。やや緻密。焼やや硬調O。色淡褐色一様。内面わずかに光沢あり。
5	杯(H)	11.8 － 3.2	⅔個体。埋土。	4に近似する。	胎焼色4にほぼ同じ。底部一部暗褐色。
6	杯(H)	(11.8)－ 3.5	½個体。 住居南側埋土	輪。外面体部中位に削りなし。内面は弱いナデで平滑さ欠く。	胎砂粒やや多く、輝石・パミス散見。焼やや軟調O。色淡橙褐色一様。他内面の剥落著しい。
7	杯(H)	11.4 － 3.5	½個体。 住居南側埋土	4に近似する。内面からの押さえ強い。	胎焼色4にほぼ同じ。底部はやや暗く、一部で黒褐色を呈す。
8	盤(H)	(17.0)－ －	⅓個体。 住居南側埋土	輪。外面に接合痕が残る。削りはやや強い。内面ナデ丁寧。	胎細砂多く、細礫・輝石散見。やや粗い。焼やや硬調O。色淡褐色。断面の一部で黒色味が強い。
9	椀	29.9- 4.9- 3.5	完形。 西壁直下、床上20cm。	輪？　ナデは指頭による。見込に円弧状に砂粒が付着する。	胎砂粒・パミス・細礫多く、輝石散見。粗い。焼硬調O。強い焼締。色淡褐色。他混入品。
10	高台付き椀	10.3 － 3.8 台6.1	埋土。	台。糸切り痕残る。高台取付けと研磨雑。	胎砂礫・パミス含みやや粗い。焼O。色淡褐色。内黒不充分で暗褐色。他混入品。
11	甕(H)	24.4－ － 胴19.3　肩21.3	図示部の⅔。 北東隅床直。	輪削りは幅広で不規則。口縁布状擦痕。	胎細砂含みパミス散見。緻密。焼硬調O。色淡褐色。内面灰色味をおびる。
12	甕(H)	24.4－ － 胴18.5　肩19.7	図示部ほぼ完存。竈南床直。	輪。外面削り強い。内面の合わせ痕残る。	胎砂粒やや多く、雲母・長石を含む。焼硬調O。色淡褐色ほぼ一様。
13	甕(H)	22.5- 4.4-32.1 胴17.5　肩19.7	ほぼ完形。焚口中央床直。	輪。外面削り息長い。内面合わせ痕明瞭。	胎砂礫多く、輝石散見。やや粗い。焼O。色淡褐色。内面白色味。他二次火熱顕著。
14	甕(H)	22.5- 5.3-35.6 胴17.8　肩20.2	ほぼ完形。焚口南側床直。	13に近似する。	胎焼色13にほぼ同じ。内面やや黒色味をおびる。外面の剥落が進む。
15	甕(H)	23.0- 4.9-35.4 胴17.7　肩20.0	ほぼ完形。焚口北側床直。	輪。合わせ痕顕著。削り・ナデとも鋭い。	胎粗砂・パミス多く粗い。焼O。色淡褐色。他胴下半に歪み。内外面剥落進む。



第105図　5区8号住居址

5区　8号住居址

位　置　A・A′－3グリッド

形　状　東辺が西辺より60cm短い逆台形を呈す。

方　位　N－110°－E

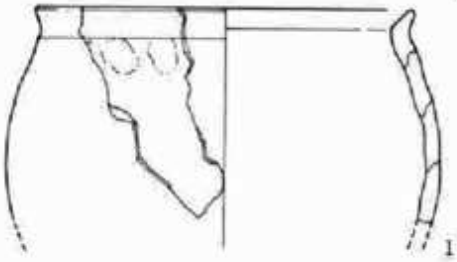
面　積　9.3m²

壁　残存壁高4～9cmで、緩やかに立ち上がっている。

床　面　比較的平坦である。四隅の周辺がやや低くなる傾向がある。踏み固めは弱い。

ピット　南東隅から1基検出した。床面からの深さは25cmで、位置より貯蔵穴と考えられる。

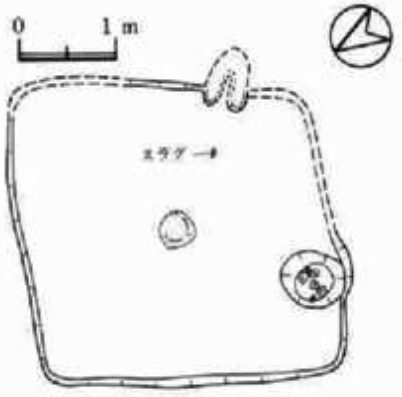
竈　東壁南寄りにある。燃焼部を残すだけで、煙道は不明である。火床は住居床面と同レベルになり、煙道へは緩やかに立ち上がっている。袖は全く残存していない。



第106図　5区8号住居址遺物実測図

出土遺物観察表

1、土釜	計測値　口(19.8)　胴(19.2)　底(22.6)
出土状態	図示部の⅓。埋土。
成整形の特徴	胴外面削りはきわめて弱い。頸部直下に指頭圧痕状の窪みあり。内面のナデは指頭によるが、雑で平滑さ欠く。
備考	胎粗砂・パミス多く、輝石若干含む。粗い。焼やや軟調O。色淡茶褐色。外面は所々で黒色味おびる。他二次火熱により器表面脆弱化する。口縁端部剝落。



第107図　5区9号住居址

5区　9号住居址

位　置　A・A′－4グリッド

方　位　N－111°－E

形　状　不明瞭だが、1辺3mほどの平行四辺形気味の方形を呈すと思われる。

面　積　10.0m²

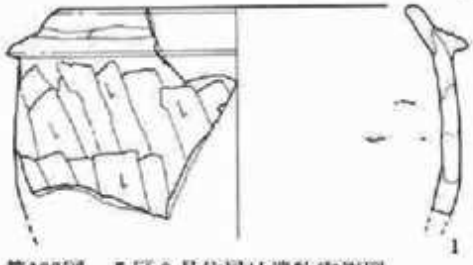
壁　残存壁高7cm未満。南東側はほとんど残らない。

床　面　凹凸が多く不整である。東壁下では部分的にローム土まじりの貼り床を施していた。

ピット　南壁下から、深さ5cmの擂鉢状のピットを検出した。多量に出土した小礫は、住居床面レベルにあった。

竈　東壁南寄りにある。地山を掘り残した袖部を検出しただけで、大半は平夷され不明である。

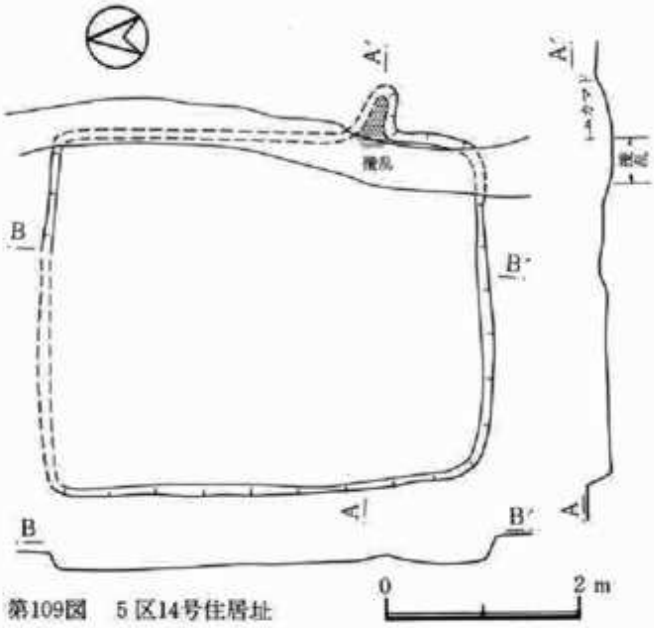
その他　住居中央に厚さ30cmの円礫が、平坦面を上にして据えてあった。最深部は床面下20cmの所にある。



第108図　5区9号住居址遺物実測図

出土遺物観察表

1、羽釜	計測値　口(18.8)　胴(24.3)
出土状態	図示部の¼。埋土出土の4片接合。
成整形の特徴	外面の削りは弱い。鍔取付け雑。内面のナデは鋭い擦痕が残る。内面に接合痕が残る。
備考	胎砂粒多く、細礫・パミス含み粗い。焼O。色暗褐色。外面は黒褐色にススける。他口縁・鍔に波状の歪み。



第109図　5区14号住居址

5区　14号住居址

位　置　D－4グリッド

形　状　長軸4.6m、短軸3.6mの横長長方形を呈すと思われる。

方　位　N-92°-E

面　積　17.2m²

壁　残存壁高25～15cmで、緩やかに立ち上がっている。

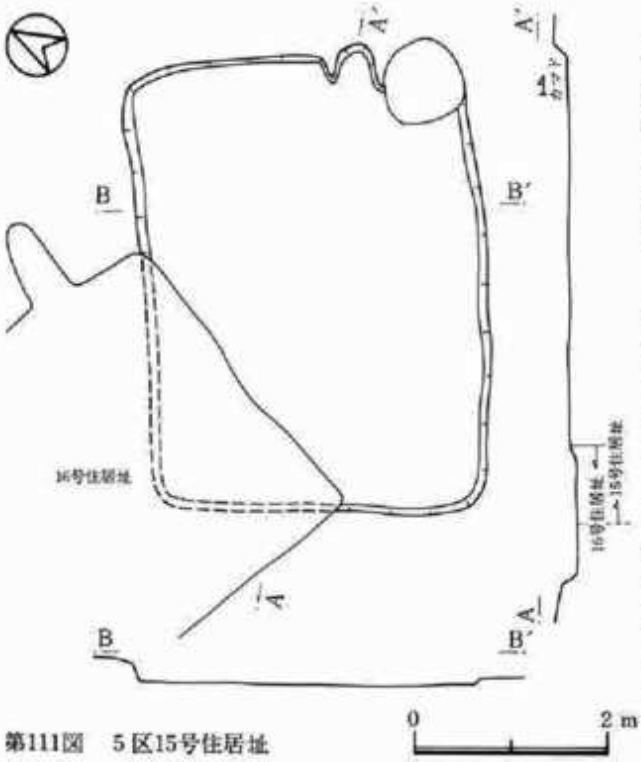
床　面　比較的平坦である。壁際では住居中央より若干低くなる傾向があり、特に北西隅周辺が低かった。

竈　東壁南寄りにある。燃焼部は壁外で、火床は住居床面よりやや低い位置にあり、煙道へ向って緩やかに立ち上がっていた。火床は火熱による硬化が著しく、焼土のたい積も多かった。攪乱を受けていて不明確だが、竈前面も若干窪んでいた可能性がある。

第110図　5区14号住居址遺物実測図

5区14号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	蓋(S)	13.4－　－	図示部の¾。埋土中の2片接合。	㊀→切離し不明→天井部回ヘラ。ロクロ痕弱い。内面平滑。	㊁砂粒やや多い。輝石・長石若干含む。㊂R。㊃灰白色。内面暗灰色。㊄天井部内面は摩耗する。口縁端部若干剥落。
2	蓋(S)	(16.5)－　－	図示部の¼。南壁下床上10cm。	㊀。ロクロ痕弱い。天井部内面に布状の擦痕が残る。	㊁乳白色の細隙目立つ。㊂やや硬調R。㊃灰色一様。断面中央は濁黄色。
3	小型壺?(H)	－4.8－	図示部の½。埋土。	㊀。外面に指頭圧痕。底部は幅広の削り。内面平滑を欠く。	㊁砂粒含み、石英散見。緻密。㊂やや硬調O。㊃暗褐色～茶褐色。内面黒色。
4	台付き甕(H)	㊀上4.7　下11.8	図示部完存。住居南側床上7cm	脚接合の内面の圧痕上に、ナデによる幅広の布状擦痕あり。	㊁砂粒やや多い。輝石散見。緻密。㊂硬調O。㊃茶褐色。断面白色味をおびる。㊄二次火熱を受けていないようだ。



第111図　5区15号住居址

5区　15号住居址

位　置　C－5グリッド

形　状　長軸4.6m、短軸3.6mの縦長長方形を呈すと思われる。逆台形状のプランとなる可能性もある。

方　位　N－58°－E

面　積　16.2m²

壁　残存壁高は6～15cmで、垂直に近い立ち上がりをしている。

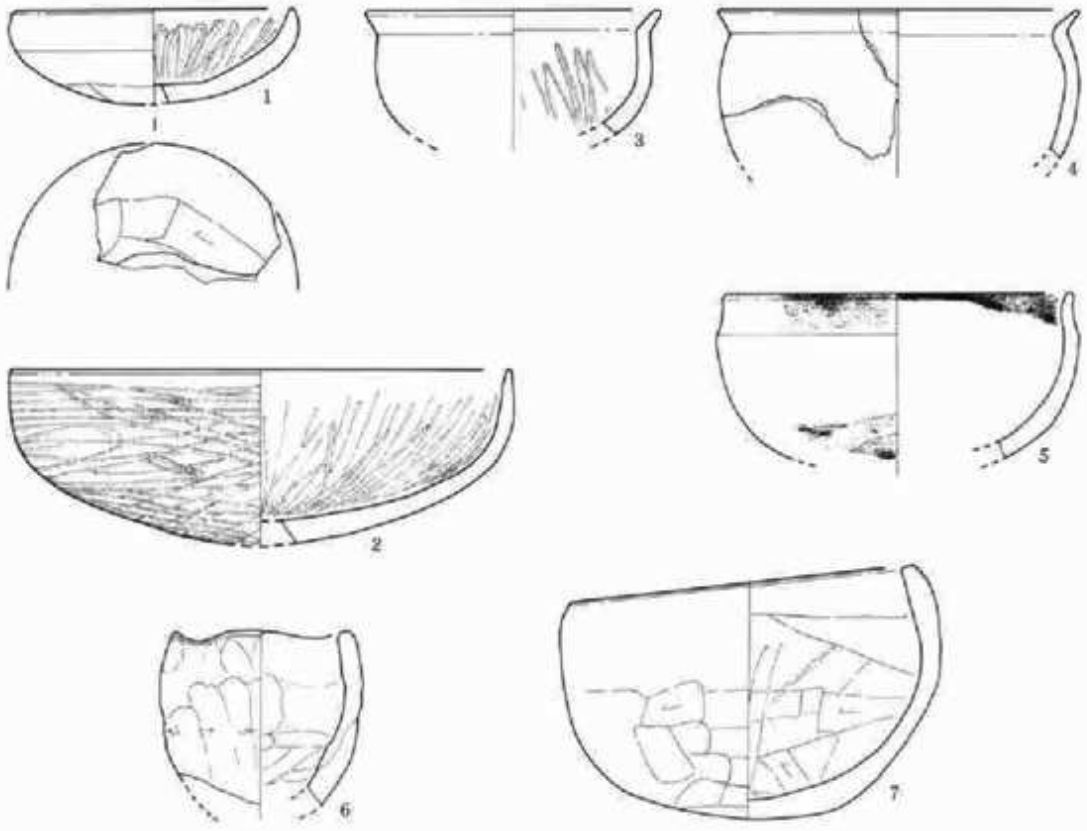
床　面　細かな凹凸が多いが、比較的平坦である。住居中央が若干低くなっている。

ピット　南東隅から、床面からの深さ28cmの貯蔵穴を検出した。底面は平坦であった。

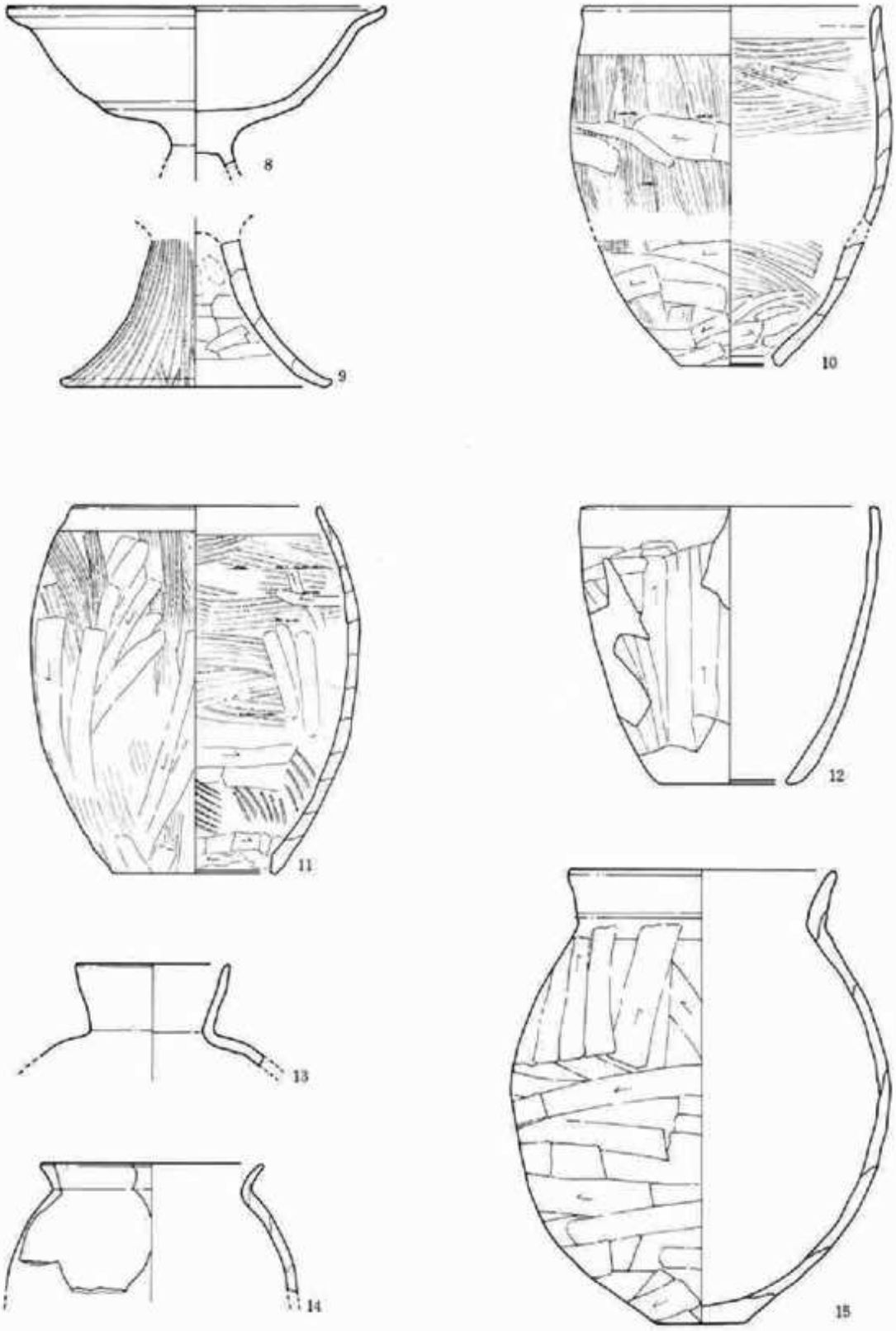
竈　東壁南寄りにある。燃焼部は住居内で、火床は住居床面と同レベルにあった。煙道部は不明である。地山を掘り残した両袖が残存している。

重　複　16号住居に切られている。

その他　出土遺物は豊富であったが、床面より若干浮いた状態のものが大半であった。



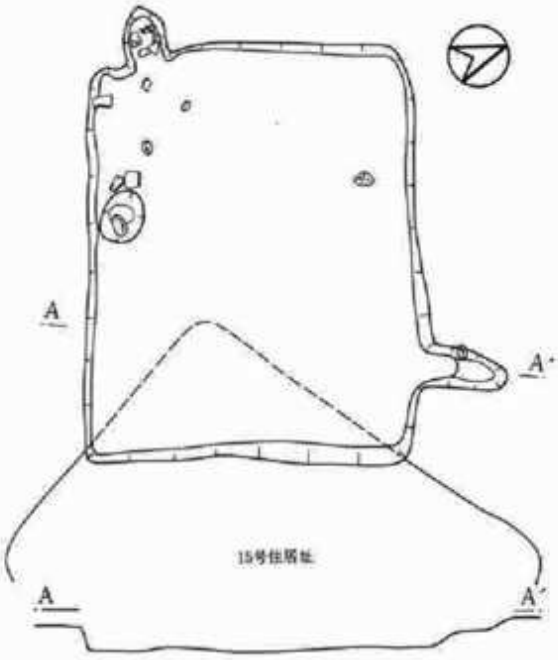
第112図　5区15号住居址遺物実測図(1)



第113図　5区15号住居址遺物実測図(2)

5区15号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	杯(H)	(10.8)—3.7	図示部の⅓。埋土。	輪。外面削りは幅広で，中位は無調整。内面の研磨は雑。	胎砂礫・パミス・石英・輝石を含み粗い。焼やや硬調O。色淡褐色～暗茶褐色。断面は黒色味をおびる。他口縁端部磨耗。
2	杯(H)	(19.7)	図示部の⅓。北隅床上3cm	輪。外面削り弱い。内外面に研磨，雑。	胎焼色1に近似する。パミスの混入は少ない。他内面の剥落著しい。
3	鉢(H)	(11.6)—　—	¼。埋土。	輪ナデ丁寧で平滑。	胎気泡含む。粗い。焼O。色淡橙褐色。
4	鉢(H)	(14.2)—　—	図示部の¼。北側埋土。	輪。外面削り弱く、中位無調整。	胎砂粒・パミス多く、石英散見。粗い。焼O。色淡褐色。外面に赤・黒のムラ。
5	椀(H)	(13.8)—　—	図示部の½。中央床直。	輪。削り弱い。内面研磨は雑で鋭い。	胎砂粒多く気泡を含む。粗い。焼やや軟調O。色淡茶褐色で、やや光沢あり。
6	鉢(H)	7.3—　—	図示部の⅔。住居西寄の床上5cm。	輪。外面縦位・内面横位の強いナデ。成形時の凹凸が残る。	胎4に近似する。焼O。色淡褐色。内面中位以下は黒褐色。他口縁部は不規則な歪みが著しい。
7	鉢(H)	13.8 — 9.3	口縁¼欠く。北隅に散乱。	輪ナデは鋭く、削りに近い。	胎焼色4に近似する。他二次火熱を受ける。外面上半は剥落進む。
8	高杯(H)	18.1—　— 脚上2.9	図示部完存。竈内及び前面	輪。ほぼ同心円状の粗いナデを施す。	胎砂粒多く粗い。焼O。色淡茶褐色～暗褐色。他破損後に二次火熱を受ける。
9	高杯(H)	脚下12.8	図示部の⅓。埋土8片接合	輪。研磨は斜放射状。内面は木口状ナデ痕。	胎砂粒多くパミス散見。やや粗い。焼O。色茶褐色で弱い光沢。断面には赤色味。
10	甑(H)	(19.0)-6.4-(22.6) 脚(20.4)	½個体。埋土中の数十片より復元。	輪。削り、ナデとも木口状工具使用。底部下端の削り丁寧。	胎粗砂多い。輝石・パミス含む。やや粗い。焼O。色淡褐色～暗褐色。内面茶褐色。他外面一部剥落する。
11	甑(H)	(15.8)-(10.3)-(23.2)	½個体。埋土の14片接合。	10に近似する。	胎焼色10にほぼ同じ。内面淡褐色。
12	甑(H)	(19.0)-(8.8)-(17.4)	図示部の⅓。埋土17片接合。	輪。削りやや鋭い。内面にも弱い削り。	胎焼色10・11に同じ。砂粒の混入がやや多い。
13	壺(H)	9.8 — — 脚8.0	図示部ほぼ完存。北側埋土。	輪。内面はやや雑だが、全体に丁寧なナデ。	胎砂粒やや多い。輝石・石英散見し、やや緻密。焼やや軟調O。色淡茶褐色。内面と断面は黒色味をおびる。
14	甕(H)	(14.2)—　— 脚12.6	図示部の⅓。東側床直。	輪。外面削りきわめて弱い。内面ナデ雑で、肩部に指頭痕。	胎砂粒・石英多い。やや粗い。焼やや軟調O。色淡褐色。断面は赤色味が強い。他外面は一部剥落する。
15	甕(H)	(17.0)-5.8-38.5　脚(24.1)	上半の½を欠く。埋土40片が接合。	輪。内面の合わせ痕明瞭。削り・ナデともにやや雑。	胎砂粒・パミス多く、石英・輝石散見。焼O。色淡褐色。他二次火熱の影響強い。外面は剥落進む。口縁部にスス付着。



第114図　5区16号住居址

5区　16号住居址

位　置　B－5グリッド

形　状　2つの竈のある単一住居である。長軸4.3m、短軸3.5mの長方形を呈す。

方　位　N－75°－EもしくはN－67°－W

面　積　14.7㎡

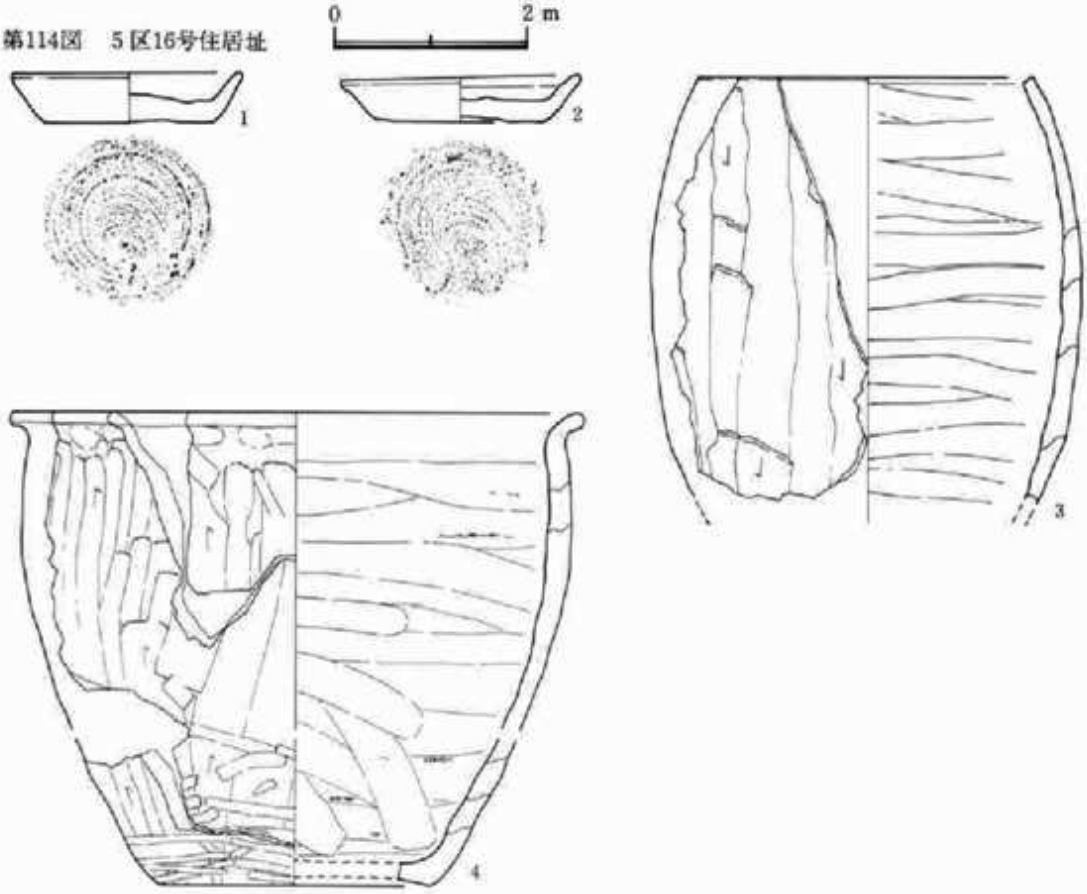
壁　残存壁高は20cm前後で、垂直に近い立ち上がりをしている。

床　面　凹凸が少なく平坦である。

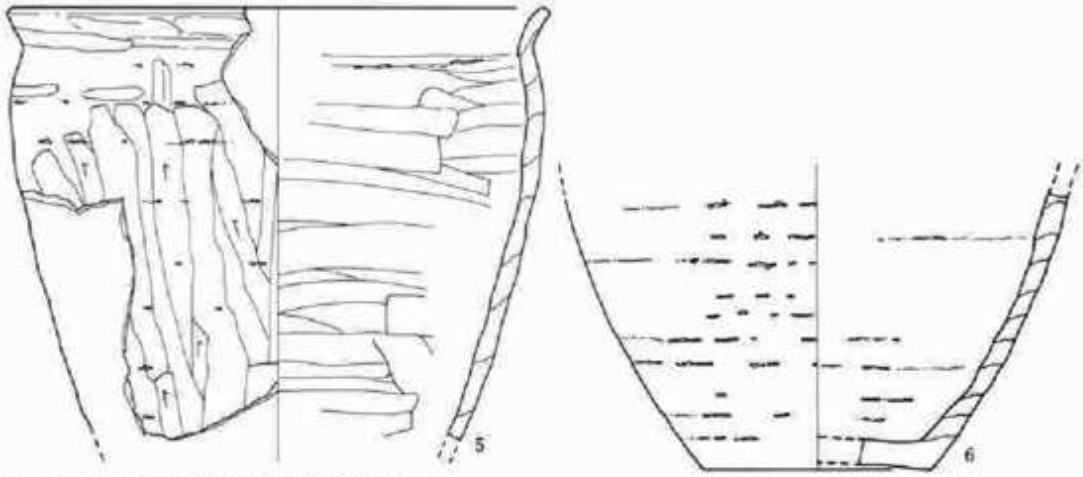
ピット　南壁下西寄りから、だ円形のピットを検出した。住居床面レベルで礫を出土している。

竈　北側竈は北壁東寄りにある。燃焼部は壁際にあり、火床は住居床面と同レベルにある。煙道は火床より一段高く、テラス状で、壁外へ80cm張り出していた。西側竈は西壁南隅にある。燃焼部は壁外で、火床は住居床面より3cm低かった。煙道部は検出できなかった。西側竈内とその周辺からの出土遺物が多く、北側竈に後出する竈と思われる。

重　複　15号住居の西隅床面を切っている。



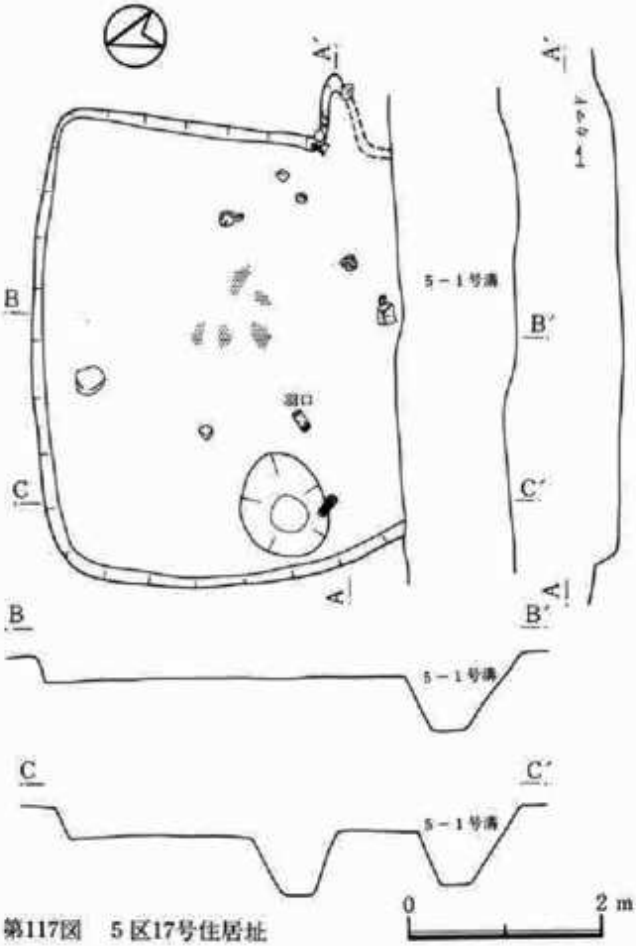
第115図　5区16号住居址遺物実測図(1)



第116図　5区16号住居址遺物実測図(2)

5区16号住居址出土遺物観察表

No.	器形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備考
1	小皿	9.2-6.5-2.0	ほぼ完形。北壁中央直下の床直。	右。底部周縁の糸切痕が同心円状になる。見込に指頭による方向不定のナデ。	胎パミス・細礫含み粗い。輝石散見。焼やや硬調O。若干焼締。色淡褐色でほぼ一様。
2	小皿	9.4-6.4-1.6 ～1.9	ほぼ完形。住居東端の床直。	右。見込のロクロ痕は同心円状。平滑に仕上げる。	胎1にほぼ同じ。焼硬調O。焼締。色淡橙褐色～淡褐色。他口縁端部と見込凸部が若干磨耗する。
3	土釜または甑	(17.4)－　－ 胴22.6	図示部の⅓。竈内。	胴。外面削りは粗く強い。内面ナデは指頭でやや雑。端部は丁寧なナデ。	胎パミス・細礫多く、石英・輝石若干含む。粗い。焼O。色暗褐色～淡茶褐色。他二次火熱を受ける。外面の下半にスス付着する。天地不安。
4	土釜	(30.0)-(14.3)-24.6	図示部の⅓。南壁直下及び南西隅床直。	胴。外面の削りは弱い。底部に板状圧痕あり。内面ナデは雑で、接合痕が残る。	胎パミス・砂粒・輝石を含み、やや粗い。焼O。大型品としては硬調。色暗褐色～黒褐色。弱い光沢あり。内面暗赤褐色。他二次火熱を受ける。
5	土釜	(28.6)－　－	図示部の¼。南壁下東側の床直。	胴。外面の削りはやや鋭い。口縁部のナデは雑。内面は平滑に仕上げる。	胎砂礫・パミス若干含み、石英散見。大型品としては緻密。焼やや硬調O。色淡褐色～黒褐色。断面一部で灰色味をおびる。他二次火熱の影響は少ない。
6	土釜	－11.8－	図示部の⅓。竈内。	胴。外面下端に斜位の弱い削りあり。他は丁寧な横位ナデだが、接合痕顕著。	胎砂粒多く、パミス・石英を若干含む。粗い。焼O。色黒褐色。内面濁茶褐色。他二次火熱を受け、全面脆弱化する。外面にはスス付着。



第117図　5区17号住居址

5区　17号住居址

位　置　A－9グリッド

形　状　南壁を欠いているが、南辺が北辺より大幅に短かい、台形プランを呈すものと思われる。

方　位　N－108°－E　**面　積**　20.1m²

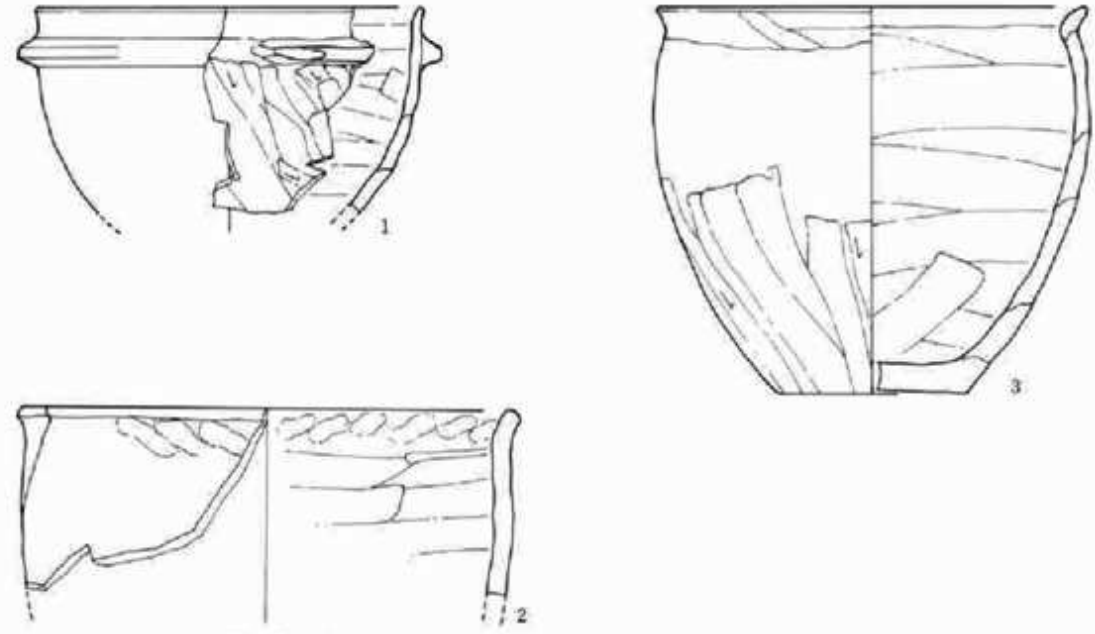
壁　残存壁高15～22cmで、やや緩やかに立ち上がっている。

床　面　凹凸が多く、やや不整である。住居中央から南寄りが3cmほど高くなる。

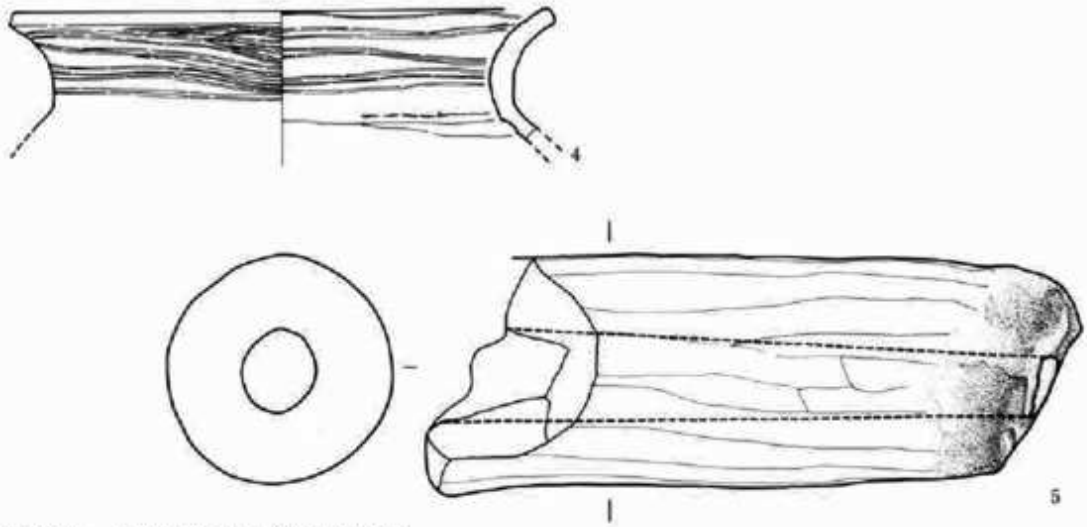
ピット　西壁下から深さ60cmのピットを検出した。底面は平担である。

竈　東壁南寄りにある。燃焼部は壁外で、火床は住居床面と同レベルにある。礫を若干検出しており、石組の焚き口であった可能性がある。煙道は不明瞭だが壁外へ65cm張り出している。

その他　床面より羽口を出土した。住居中央には焼土が散布し、図のトーン部分で特に密であった。スラグは出土せず、チップスの検出も不明であるが、小鍛冶址と考えられ、焼土下にはピットが存在する可能性がある。なお、礫が多量に出土したが、床面より浮いた状態のものが多かった。



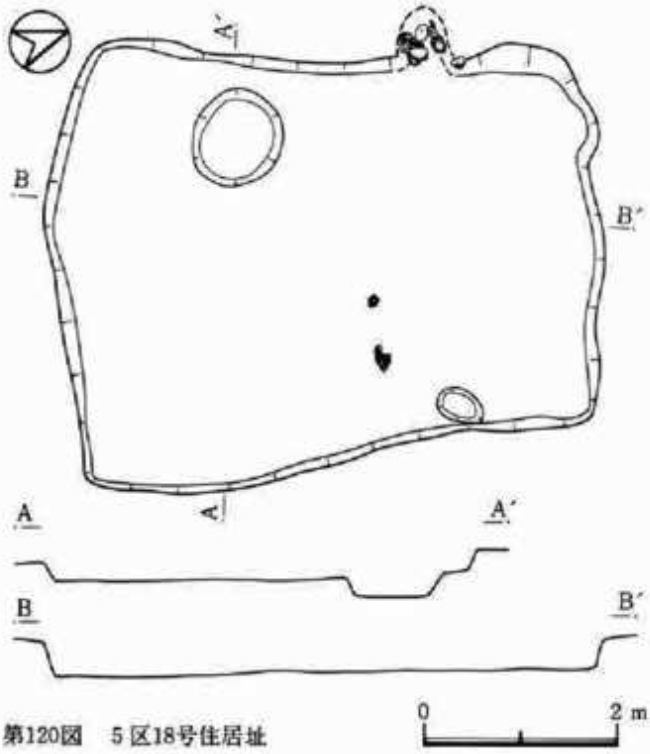
第118図　5区17号住居址遺物実測図(1)



第119図　5区17号住居址遺物実測図(2)

5区17号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	羽　釜	(20.4)－　－ ㊦(22.4)	図示部の½。住居南側の床直。	㊥。鍔は指頭でつまみ、ナデを施す丁寧な取付だが、全周しない。削りは細かいが、やや雑。内面平滑。	㊧砂粒多く、パミス・細礫若干含む。粗い。㊨O。㊩黒褐色。内面暗褐色。断面は赤色味おびる。㊫二次火熱受け、全体に脆弱化する。鍔下に部分的にスス付着。変則の鍔だが、特別な使用痕なし。
2	土　釜	(26.4)－　－ ㊦(25.4)	図示部の¼。竈北側火床上。	㊥。外面横位の弱い削り。ナデ丁寧だが口縁部内外面に指頭圧痕が残る。	㊧砂粒多く、輝石・細礫・パミス散見。粗い。㊨やや硬調O。㊩淡褐色。外面一部黒色味。㊫二次火熱受ける。口縁部は波状の歪みあり、口径不安。
3	土　釜	(22.6)-(9.8)-20.2　㊦(21.6) ㊦(22.8)	¼個体。埋土中の22片より復元。	㊥。砂底。削り弱い。ナデ息長で丁寧で、見込平滑。口縁部に不整の凹凸多い。	㊧。石英目立つ。細礫・パミス多く粗悪。砂底は、パミス混じるやや粗い砂。㊨O。弱い焼締。㊩淡褐色～黒褐色で一様でない。㊫二次火熱受ける。口縁部歪む。
4	甕(H)	(28.6)－　－ ㊦(24.2)	図示部の⅓。埋土中の3片接合。	㊥。口縁部内外面に雑な研磨、内面きわめて粗い。口縁端部丁寧なナデ。	㊧砂粒・パミスやや多く、石英・輝石を若干含む。やや粗い。㊨やや軟調O。㊩黒褐色。内面淡褐色～暗褐色。
5	羽　口	㊤25.2 ㊥中8.8	下端⅔欠く。住居西寄の床直。	外面丁寧なヘラによるナデ。内面調整不明だが平滑。	㊧砂粒多い。ベンガラ・パミス含み、気泡も混入。㊨硬調。㊩淡褐色～黒褐色で一様でない。㊫先端ガラス化部分広い。



第120図　5区18号住居址

5区　18号住居址

位　置　D－8グリッド

形　状　壁の崩れも原因であろうが、歪みが著しく、不整である。北辺が南辺より80cmほど短かい台形状を呈していたものと思われる。

方　位　N－74°－W

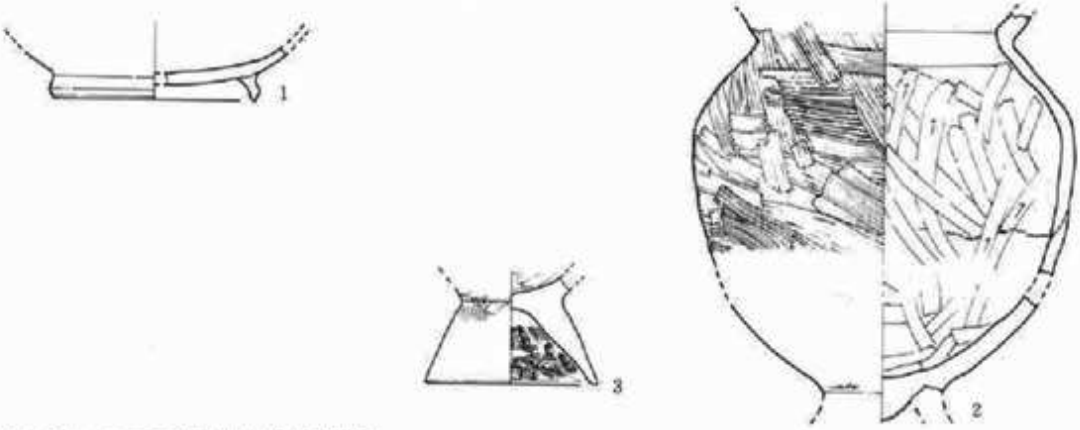
面　積　24.3m²

壁　30cm以上の残存壁高で、垂直に近い立ち上がりの箇所が、部分的に残っていた。

床　面　踏み固めがやや強く、細かな凹凸がある。地山傾斜とは逆に、南側が4cm前後低くなっていた。

ピット　2基検出した。東壁下の小ピットは深さ18cmであった。西壁下のピットは大型で、深さ22cmで底面は平坦であった。どちらも性格は不明である。

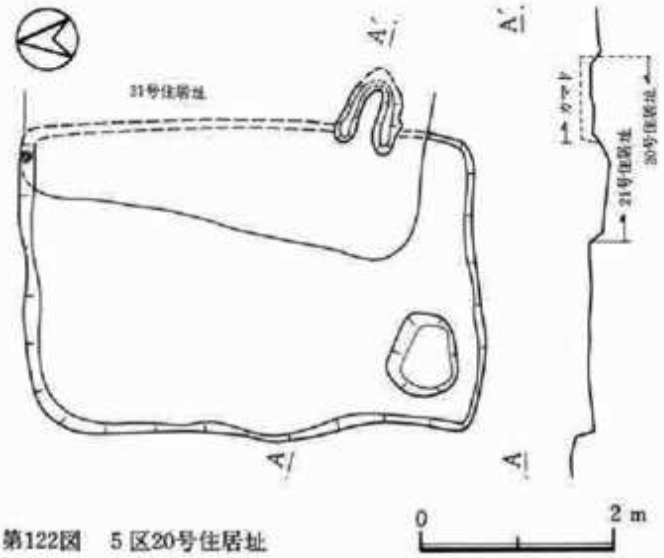
竈　西壁の北寄りにある。煙道部は壁外で、火床は住居床面よりやや高い位置にあった。燃焼部は石組だったと思われ、礫が多量に出土した。



第121図　5区18号住居址遺物実測図

5区18号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	高台付き椀(K)	㊀8.2	図示部の¼。埋土。	(石台)。見込平滑。釉は漬掛で底部無釉。	㊁東濃系。緻密。㊂硬調R。㊃灰白色。釉は灰緑色。㊄虎渓山窯期。
2	台付き甕(H)	㊁(10.2) ㊂15.0	図示部の½。東側床上20cm	㊁。刷毛目不整。底部はソケット状。	㊁砂粒・パミス含み、輝石散見。㊂O。㊃淡褐色～黒褐色。㊄混入品
3	〃	㊀上5.3　下9.0	完存。埋土。	㊁。刷毛目丁寧。	2に同じ。接地面磨耗する。



第122図　5区20号住居址

5区　20号住居址

位　置　F－7・8グリッド

形　状　長軸4.6m、短軸3.3mの不整横長長方形を呈す。

方　位　N－90°－E

面　積　15.5m²

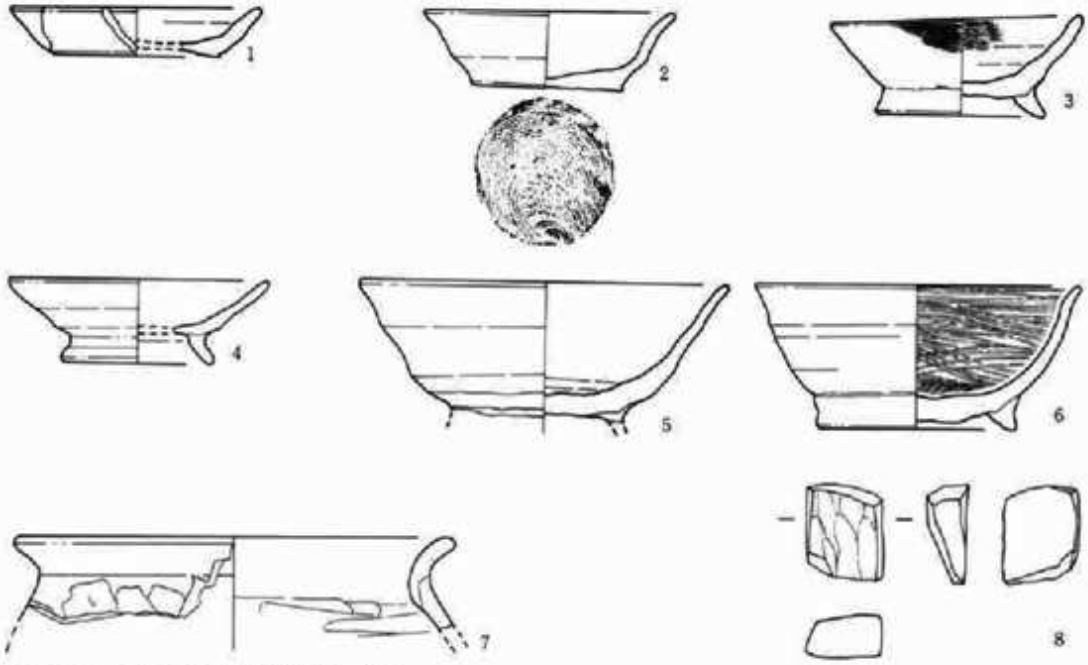
壁　残存壁高7～15cm。

床　面　住居中央が壁際より5cmほど窪んでいた。住居重複部分にも貼り床はなかった。

ピット　南東隅より深さ35cmの貯蔵穴状ピットを検出した。

竈　東壁の南寄りにある。燃焼部は壁外にある。ローム土主体の構築材であった。

重　複　21号住居を切る。



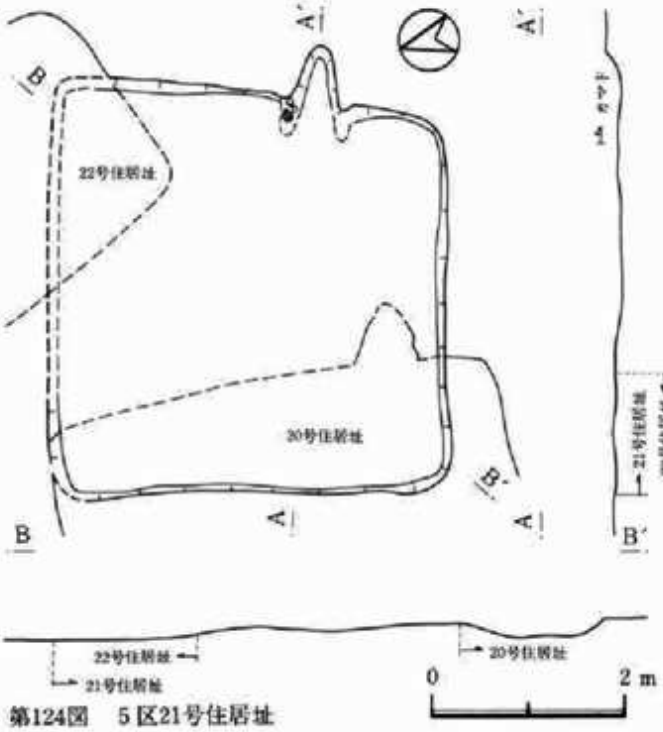
第123図　5区20号住居址遺物実測図

5区20号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	小　皿	(9.8)-(6.5)-1.9	図示部の1/5。埋土。	㊨。ロクロ痕弱い。底部きわめて薄い。	㊥砂粒多、石英・輝石散見、やや粗。㊧硬調O。㊦白色味をおびた淡褐色。
2	小　皿	9.9-5.8-3.0	完形。北東隅壁際。	㊨。糸切痕に乱れ。ロクロ痕弱い。	㊥砂粒やや多、パミス含む。㊧やや硬調O。㊦淡褐色、黒色ムラ。㊨内面ヒビ。

5区20号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
3	高台付き小皿	9.9-(5.6)-3.5～4.0 ㊀6.7	ほぼ完形。埋土。	(右台)。切離痕不明。ロクロ痕やや弱い。高台取付は丁寧。	2に近似する。石英散見。焼締にやや欠ける。幾分灰色味をおび、焼成時吸炭の黒色ムラあり。
4	高台付き小皿	(10.3)— 3.3 ㊀6.0	図示部の¼。埋土。	(右台)。高台外面にアテ具痕の稜、内面にやや鋭い擦痕。	㊁砂粒・パミスやや多。輝石・チャート散見。㊂硬調O。㊃淡橙褐色で一様。㊄口縁上半内側若干磨耗。
5	高台付き椀	(14.5)-(6.2)—	口縁¼、底部完存。高台欠く。埋土。	(右台)。糸切痕僅に残る。ロクロ痕は見込で強く凹凸になる。他は平滑。	㊁石英・パミス多、細礫・輝石若干含み粗い。㊂O。焼締欠く。㊃暗褐色～黒褐色。断面やや灰色味。㊄高台の剝落面は磨耗していない。
6	高台付き椀	(12.8)-(6.2)-5.6㊀(7.9)	図示部の½。竈付近埋土。	(右台)？ロクロ痕不明瞭で切離痕なし。内面やや丁寧な研磨磨。	㊁気泡含む。砂礫・パミス若干。粗い。㊂硬調O。㊃濁赤褐色～淡褐色。㊄破損後に二次火熱を受ける。内面黒色処理の可能性あり。
7	土　釜	(23.2)— — ㊅(20.5)	図示部の¼。埋土。	㊅。外面削り弱い。内面のナデは指頭。口縁に布状の擦痕。	㊁砂粒多、細礫・パミス散見、粗。㊂やや硬調O。㊃黒褐色、内面暗褐色。㊄口縁内側に油煙状のスス付着。



第124図　5区21号住居址

5区　21号住居址

位　置　F－8・9グリッド

形　状　南辺が他辺より40cm短かく、台形気味のプランを呈すと思われる。

方　位　N－104°－W

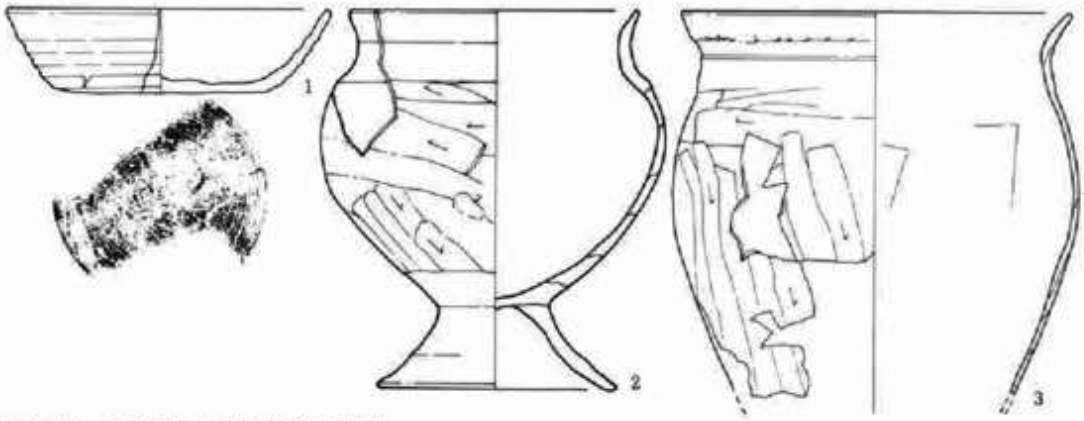
面　積　17.7㎡

壁　残存壁高は20cm前後で、垂直に近い立ち上がりをしている。西壁は、下端がわずかに残存するだけである。

床　面　凹凸が多く不整である。壁際が低くなる傾向があるが、一律でない。

竈　東壁南寄りにある。燃焼部は壁外で、火床は住居床面よりわずかに低くなっていた。火床から煙道へは急傾斜で立ち上がっていた。地山掘り残しによる袖の基部が存在していた。北袖に乗るようにして、土器が出土した。

重　複　20号・22号住居に先行する。22号住居には、北東隅付近の床面を削られていた。



第125図　5区21号住居址遺物実測図

5区21号住居址出土遺物観察表

No. 器　形	計測値 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1　杯(S)	(12.8)-8.4-3.3	口縁 1/4、底部1/2。竈付近6片。	㊤→回糸→底部全面回ヘラ、体部下端手ヘラ。ロクロ痕やや強く平滑さ欠く。	㊥粗砂やや多く、やや粗い。㊦Oか。硬調で強い焼締。㊧灰褐色。口縁外端のみ灰色。㊨酸化気味の焼成を受けるが、器形・技法より須恵器。
2　台付甕(H)	(11.8)—14.8 ㊥(13.5) ㊦上4.4　下9.4	上半の7/8と脚部1/2を欠く。埋土。	㊤。丁寧な造り。脚端部は直線的な所と内折れの所あり。	㊥砂粒やや多い。甕類としては緻密。㊦O。㊧淡褐色～暗褐色で一様でない。㊨外面にふきこぼれ状のスス付着。
3　甕(H)	(20.4)—　— ㊤(18.4) ㊥(21.2)	図示部の1/4。埋土。	㊤。頸部外面にナデのアテ具痕が沈線状に残る。削り細かい。	㊥砂粒・パミス・ベンガラ散見。やや緻密。㊦O。㊧淡橙褐色。㊨竈構築材の粘土付着が著しい。

第126図　5区22号住居址

5区　22号住居址

位　置　F・G—9グリッド

形　状　各辺の長さがまちまちな不整方形である。

方　位　N—62°—E

面　積　8.0m²

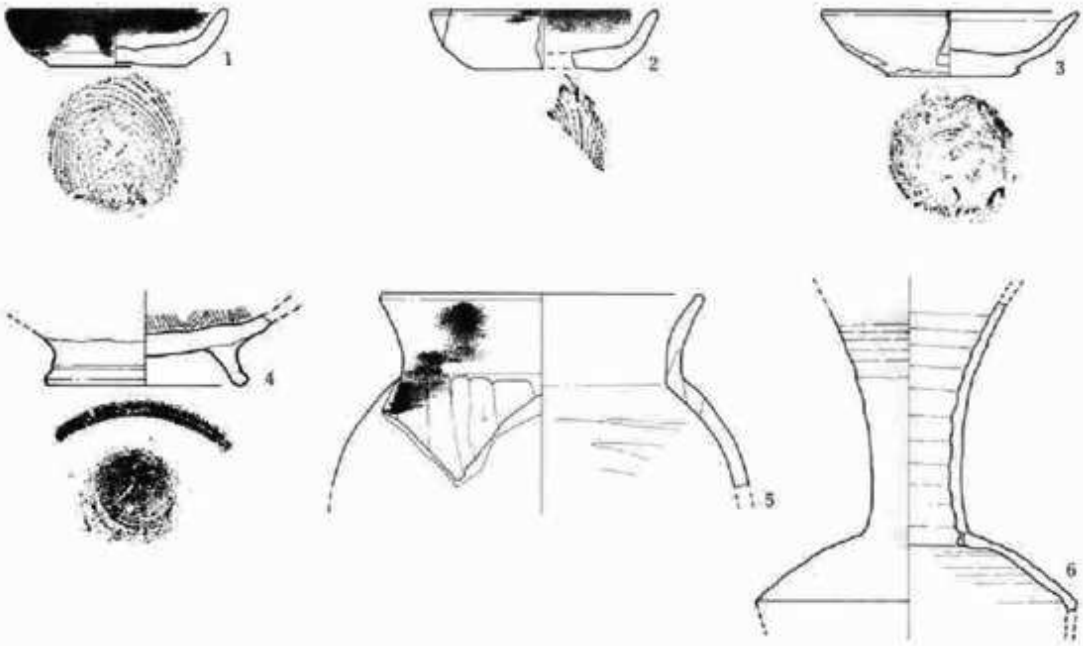
壁　残存壁高は30cm前後で、緩やかに立ち上がっている。下端の丸味が強い。

床　面　住居中央では、北壁直下より8cmほど低くなっている。全体的には南側へ低く傾斜する。

竈　燃焼部は壁際にあり、火床は住居床面と同レベルにある。煙道へは緩やかに立ち上がる。地山掘り残しの袖基部が、わずかに残存する。

重　複　21号住居を切っている。

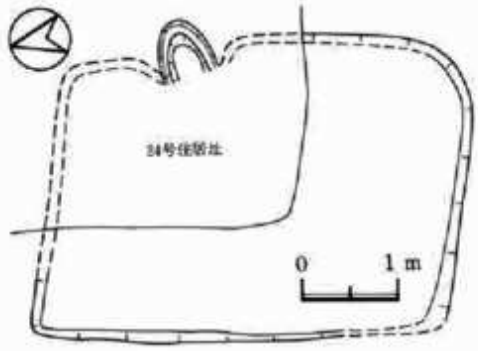
その他　礫の出土が多かったが、住居床面より10～30cm浮いた状態であった。



第127図　5区22号住居址遺物実測図

5区22号住居址出土遺物観察表

No.	器形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備考
1	小皿	8.7-5.4-2.2	ほぼ完形。埋土。	底5区20住-2と糸切痕が似る。見込のロクロ痕明瞭。	胎細礫・輝石・石英含みやや粗い。焼硬調O。色淡橙褐色。黒褐色のムラあり。他外面中心に油煙状スス付着。
2	小皿	(8.8)-(5.6)-2.3	図示部の¼。埋土。	1に同巧。	1に酷似する。断面やや灰色味。他口縁に焼成時吸炭の色ムラ。
3	杯	10.1-5.0-2.6	口縁½。底部完存。埋土。	底ロクロ痕はきわめて弱い。器面は全体に平滑。	胎砂粒やや多、細礫・輝石・パミス散見。焼硬調O。焼締。色淡褐色～黒褐色で一様でない。内面に火襷状の赤色部分。
4	高台付き椀	底7.8	図示部の⅗。埋土。	底底。切離不明。高台外面にアチ具痕状沈線。研磨は丁寧。	胎砂粒多、気泡含む。輝石・パミス散見粗悪。焼O。若干焼締。色淡橙褐色。内面黒色処理で光沢あり。
5	壺(H)	(17.0)— — 頸(14.6)	図示部の⅓。埋土。	他外面削りきわめて弱い。内面ナデは丁寧。	胎砂粒多、輝石・パミス含む、やや粗。焼O。色淡褐色。一部暗褐色のムラ。他頸部内面若干磨耗する。
6	長頸壺(K)	頸4.8 胴16.8	埋土。	右回転でロクロ痕鋭い。頸-肩部の接合痕明瞭。釉は刷毛塗りか？	胎猿投窯特有の黒色鉱物粒を含む。粒子粗く、灰釉陶器としては粗。焼硬調R。色灰白色。釉は白色味。頸部～肩部に降灰釉かかり、黄緑色味。他混入品。



第128図　5区23号住居址

5区　23号住居址

位　置　H－8グリッド　**方　位**　N－113°－E

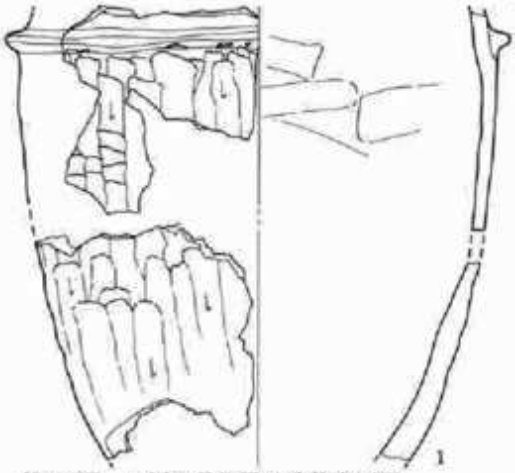
形　状　東北側半分は不明だが、長辺4.3m、短辺2.8mの平行四辺形が想定できる。

面　積　13.0㎡

壁　残存壁高15～25cmで、緩やかに立ち上がる箇所が多いが、一様ではない。

床　面　踏み固めが弱く軟弱で、凹凸多く不整である。

形　状　東壁の北寄りにある。燃焼部は壁外になると思われ、火床は住居床面よりやや高い。ローム土主体の構築材で作られている。住居の軸方向より、北側を向いている。　**重　複**　24号住の床上に竈がある。



第129図　5区23号住居址遺物実測図

5区23号住居址出土遺物観察表

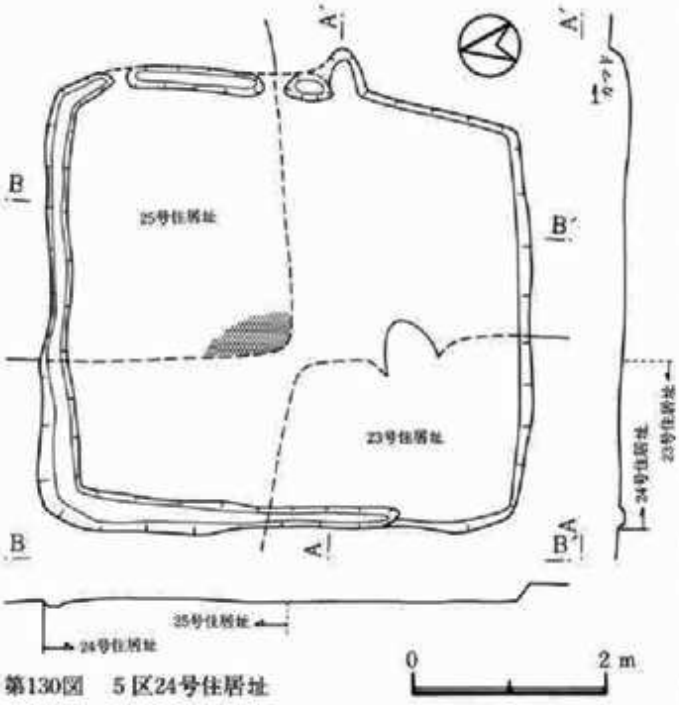
1．羽　釜

計測値　㊀(26.5)

出土状態　図示部の¼。埋土中の2片。接合せず。

特　徴　外面削りは単位細かく強い。内面は指頭状の擦痕が残るナデで、平滑に仕上げる。鍔の取付は雑で、形状は一定していない。

備　考　㊀砂粒多、パミス・石英輝石を含む。粗。㊁やや硬調O。㊂淡茶褐色。内面赤色味。㊃二次火熱を受けるが影響少ない。内外面に部分的なスス付着。



第130図　5区24号住居址

5区　24号住居址

位　置　H－8グリッド

形　状　南辺が北辺より40cm短かく、台形気味のプランとなる。

方　位　N－108°－E

面　積　23.2㎡

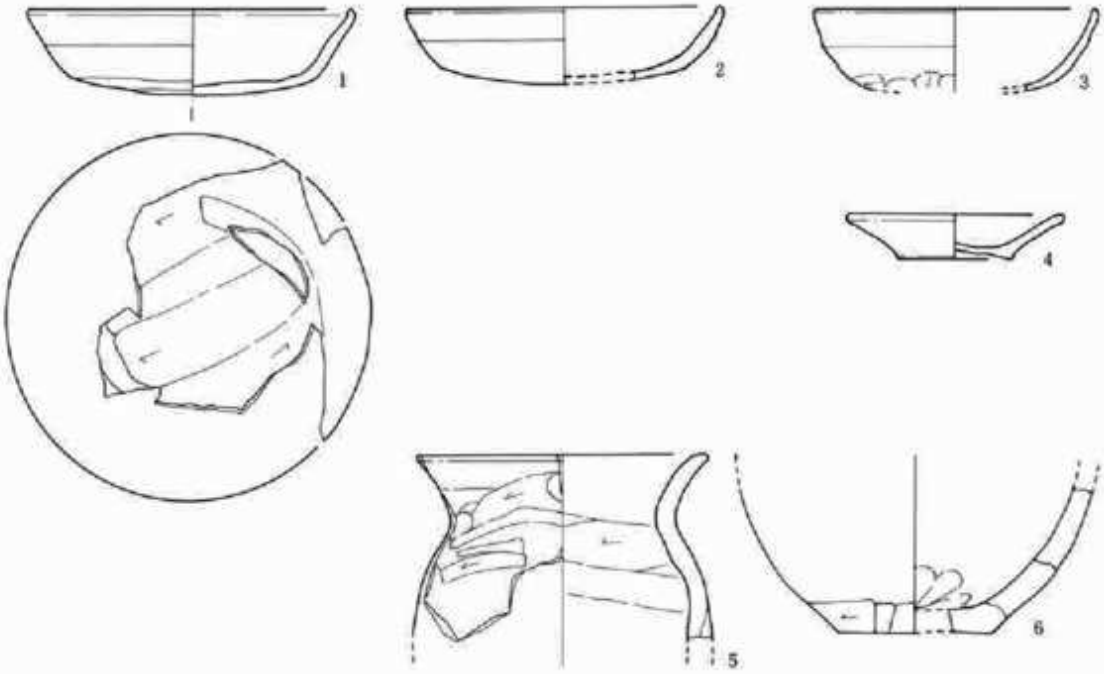
壁　残存壁高は15cm前後である。立ち上がりは緩やかで、60°前後である。

壁　溝　変則的で、途切れ途切れに検出された。床面からの深さは3～7cmで、幅は一定していない。

床　面　踏み固めがやや強く、細かな凹凸があり、比較的平坦である。竈前面が若干低くなっていた。

竈　東壁やや南寄りにある。燃焼部の掘り方が残存するだけで不明瞭であった。北袖基部には壁構が検出されており、竈の設置が壁溝掘削後であることが判る。

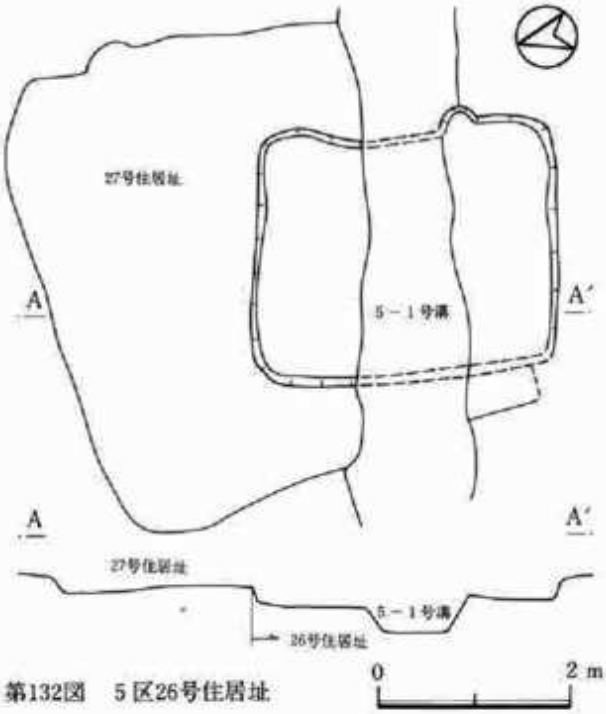
重　複　23号・25号住居に切られる。



第131図　5区24号住居址遺物実測図

5区24号住居址出土遺物観察表

No.	器形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備考
1	杯(H)	(12.8)-(9.4)-3.3	口縁¼、底部¾。埋土中の6片接合。	輪。底部削り一方向で強い。口縁外面下半無調整。内面平滑。	胎粗砂やや多、輝石・石英・パミス散見。やや粗。焼O。焼締欠く。色淡橙褐色で一様。他外面中心に器面が荒れる。
2	杯(H)	(12.5)-(9.4)-—	図示部の⅓。	1にやや近い。削り方向不定。ナデは擦痕が強い。	胎細砂、雲母を含む。やや緻密。焼色1に同じ。
3	杯(H)	(11.2)—　—	埋土。	1にやや近い。底部削りは息長い。	2に同じ。他口径不安。
4	小皿	(8.6)-(4.5)-1.8	¼個体。埋土。	右？作り雑。切離痕不明瞭。底部内外面に凹凸多い。ロクロ痕不鮮明。	胎砂礫・パミスやや多、輝石散見。粗。焼やや硬調O。色淡褐色。断面の中央に灰色味、両側面に赤色味おびる。他歪み著しい。混入品。
5	甕(H)	(15.2)—　— 頸(11.8) 肩(15.6)	図示部の／南東隅の床直	輪。接合痕が残る。外面削り弱く粗い。内面は木口状の擦痕が走る。	胎砂粒多、石英・輝石散見。やや粗。焼やや硬調O。色淡褐色。内面・断面は灰色味をおびる。他口縁～頸部歪みあり形状不安。
6	甕(H)	—(7.8)—	埋土。	輪。外面削り粗い。内面平滑。見込は指頭状の擦痕顕著。	胎粗砂多、輝石・パミス・チャート散見。やや粗。焼やや軟調O。色淡茶褐色。他外面の剥落すすむ。



第132図　5区26号住居址

5区　26号住居址

位　置　D－9・10グリッド

形　状　長軸3.2m、短軸2.6mの隅円長方形を呈すと思われる。

方　位　N－105°－E

面　積　8.1m²

壁　残存壁高は、南壁で16cm、27住との重複部分で7～10cmである。垂直に近い立ち上がりの箇所が多かった。

床　面　ハードローム床で、堅緻である。北側へ低く傾斜しており、南側とは10cmのレベル差があった。

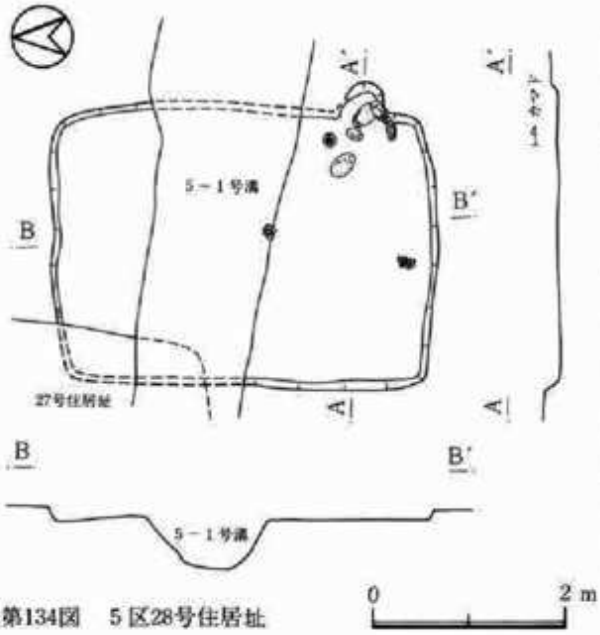
竈　東壁南寄りにある。燃焼部は壁際で、火熱による硬化面が検出できた。火床は住居床面と同レベルである。

重　複　27住に後出する。

第133図　5区26号住居址遺物実測図

5区26号住居址出土遺物観察表

No. 器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1　壺(H)	(15.8)－　－ 底(12.8)	図示部の⅙。埋土。	輪。内面に接合痕。内面のナデは雑。	胎砂粒やや多、泥粒散見しやや粗い。焼O。色暗褐色。内面淡褐色。他口縁内面剥落。
2　土釜？	－(8.8)－	図示部の⅓。埋土。	輪。削り・ナデとも丁寧。多孔質の石上で製作か？細かな凹凸が底部に残る。	胎砂粒多。輝石・パミス・細礫散見。やや粗い。焼O。色暗褐色で弱い光沢。内面淡褐色。他二次火熱の影響少ない。混入品。
3　甑(H)	－(7.2)－	図示部の⅓。埋土。	輪。端部の削り雑。器面は粗いナデ。	胎細砂多、輝石散見。やや緻密。焼やや硬調O。色淡褐色、内面淡茶褐色で若干ススける。他二次火熱認められない。



第134図　5区28号住居址

5区　28号住居址

位　置　E－9・10グリッド

形　状　長軸4.0m、短軸2.9mで、比較的整った横長長方形を呈す。

方　位　N－92°－E　　**面　積**　11.3m²

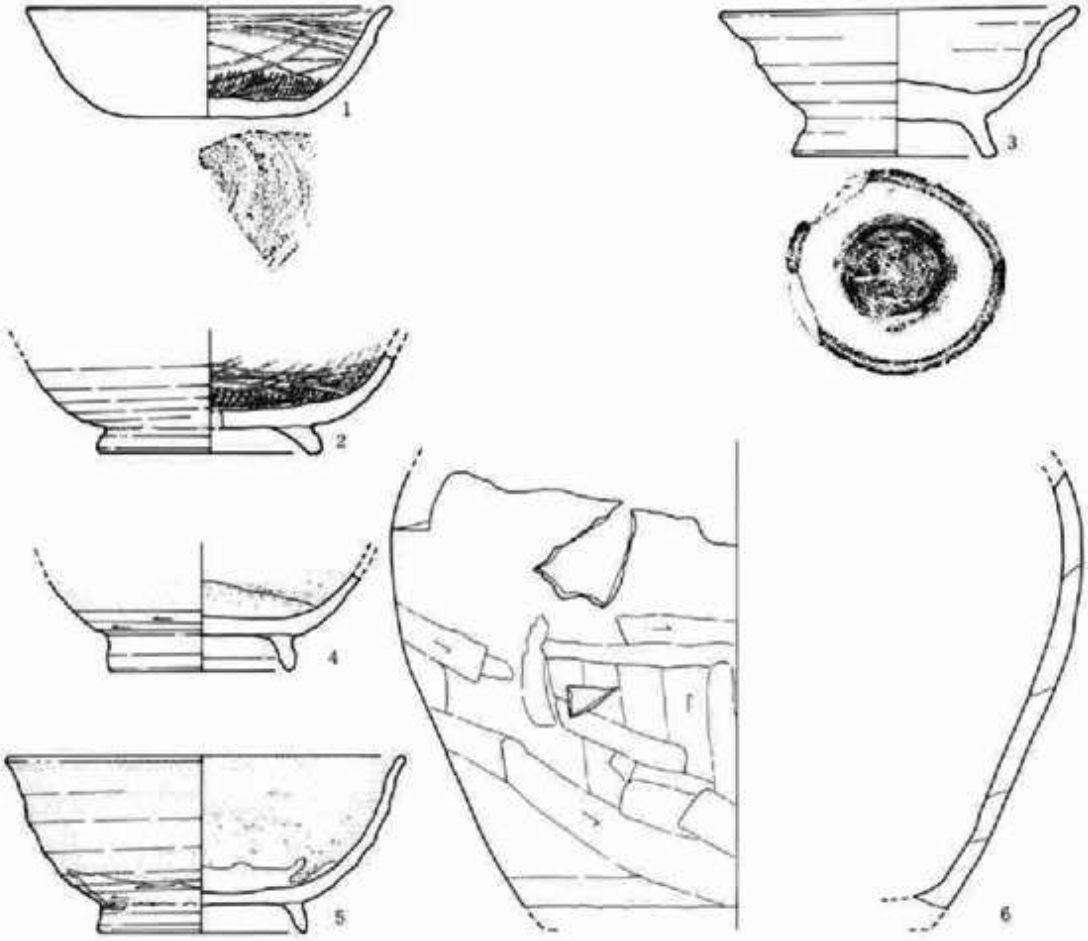
壁　残存壁高は10cm前後で、緩やかに立ち上がっていた。

床　面　細かな凹凸が多いが、平坦であった。

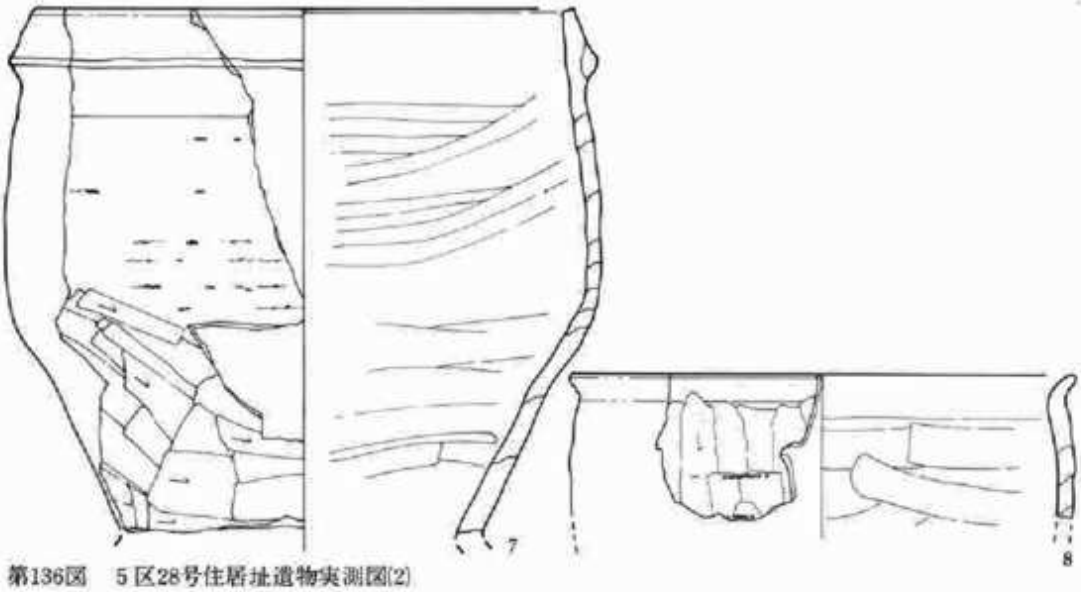
竈　東壁南隅にある。遺存状態はきわめて悪かった。竈周辺から円礫の出土が多く、石組の竈と思われる。南側の袖石は、原位置にあるようだ。燃焼部は壁際で、火床は住居床面と同レベルであった。

重　複　27住に後出する。

その他　竈前面から多量の土器を出土した。ほとんどが床直の状態で検出された一括遺物である。



第135図　5区28号住居址遺物実測図(1)



第136図　5区28号住居址遺物実測図(2)

5区28号住居址出土遺物観察表

No.	器形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備考
1	高台付き椀	(14.4)-(6.6)—	図示部の¼。南壁下の床上6cm。	(右台)。高台部欠失。ロクロ痕弱い。内面研磨粗い。	(胎)砂粒やや多く、細礫・石英・輝石散見。やや粗い。(焼)やや硬調O。(色)淡茶褐色で一様。内面は光沢あり。
2	高台付き椀	— (8.0) — (台)(8.8)	図示部の¼。竈前面及び埋土。	(右台)。ロクロ痕細かい。研磨は丁寧で、見込で直交二方向。	(胎)砂粒やや多く、輝石・パミス散見。(焼)O。(色)淡褐色。内面茶褐色で光沢あり。(他)高台下端部が磨耗する。
3	高台付き椀	(14.2)— 5.8 (台)8.1	口縁½欠く。竈北脇の床直で逆位。	(右台)。ロクロ痕やや強いが、見込平滑。高台取付丁寧。	(胎)砂粒やや多く、黒色泥粒・パミス等を含む。(焼)硬調O。焼締。(色)淡褐色。暗いムラあり。(他)口縁端部・高台端部磨耗。
4	高台付き椀(K)	(台)7.2	図示部ほぼ完存。南側埋土。	(右台)。厚手で重量。釉は漬掛。内面降灰釉。	(胎)東濃系。緻密。(焼)硬調R。(色)灰白色。釉は黄色味おびる。(他)虎渓山窯期。
5	高台付き椀(K)	(15.8)— 7.0 (台)8.3	口縁部上半½欠く。埋土。	(右台)。ロクロ痕強い。釉は漬掛。	(胎)東濃系。白色夾雑物あり。(焼)硬調R。(色)灰黄色。釉は白色味。(他)虎渓山窯期。
6	甕?	— (20.0) — (胴)(36.0)	図示部の½。竈北前床直。	(輪)。削り・ナデともに雑。	(胎)砂粒・泥粒多く粗い。(焼)O。(色)暗褐色～黒褐色。(他)二次火熱。内面剝落進む。
7	羽釜または甑	(28.0)— — (鍔)(30.6)	図示部の⅓。竈南前面床上5cm。	(輪)。外面削り雑、上半無調整で接合痕残る。鍔取付丁寧。	(胎)砂粒やや多く、輝石散見。粗い。(焼)O (色)淡褐色基調。黒色味のムラ多い。(他)二次火熱受ける。内面下半のみ磨耗する。
8	土釜	(26.6)— — (鍔)(25.8)	図示部の¼。埋土。	(輪)。削り強いが、接合痕残る。内面ナデも強い。	(胎)粗砂多く、パミス若干含む。粗い。(焼)やや軟調O。(色)淡褐色基調。部分的に暗い。(他)二次火熱を受ける。

第137図　6区1号住居址

0　1 m

6区　1号住居址

位　置　A－1グリッド及び5区A－10グリッド。

形　状　一辺4.2mの比較的整った正方形を呈す。

方　位　N－75°－E　　**面　積**　17.6㎡

壁　地山の傾斜のため、残存壁高は北側で44cm、南側で23cmとなる。垂直に近い立ち上がりをしている。

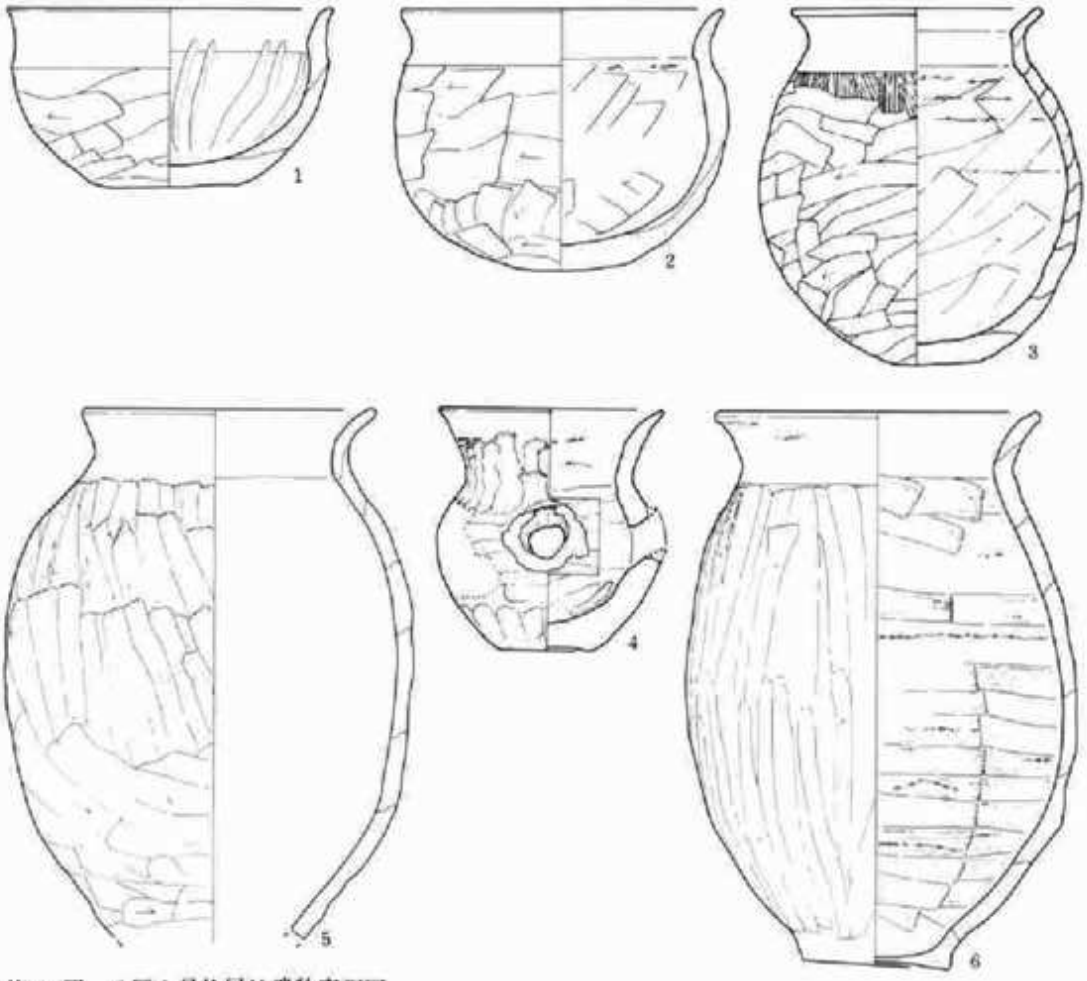
床　面　地山傾斜にかかわらず、平坦で水平な床である。

ピット　竈南脇から、浅く不明瞭なピットを検出した。底面は平坦である。位置より貯蔵穴と考えられる。

竈　東壁南寄りにあり、東端を2住に切られている。燃焼部は住居内にあり、火床は住居床面と同レベルであった。

重　複　2住とわずかに重複し、東端を切られている。

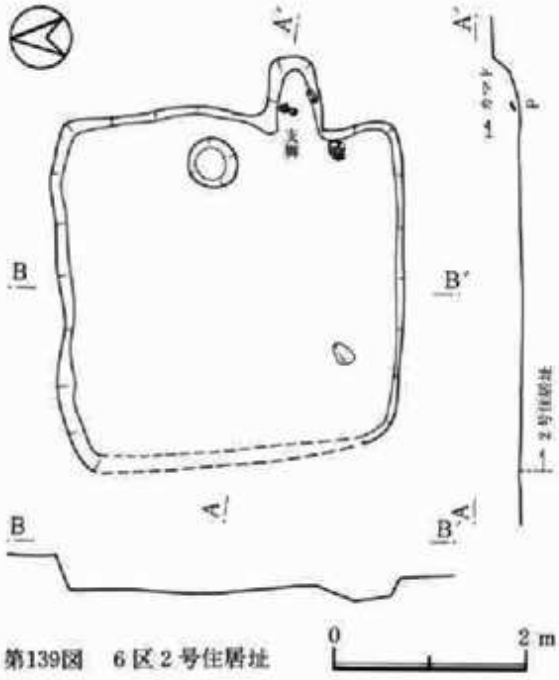
その他　南壁下東側からは、焼土ブロックの検出が多かった。



第138図　6区1号住居址遺物実測図

6区1号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	鉢(H)	12.8-(5.0)-7.0	½個体。 竈内火床上。	輪。外面削りは粗く弱く不明瞭。内面ナデ丁寧で研磨は雑。	胎黒色泥粒や砂粒含み、気泡混じる。やや粗い。焼やや硬調O。厚い底部までムラなし。色淡橙褐色。部分的に黒色味。
2	小型甕(H)	12.6 — 10.4 胴13.1	ほぼ完形。 住居北側床面直上。	輪。外面削りは粗く雑。内面ナデには板状の工具使用。口縁部のナデ強い。	胎大粒のパミス多い。石英含む。粗悪。焼軟調O。色暗褐色基調。一様でない。他二次火熱受け、外面中位の剝落進む。口縁部外面に油煙状のスス付着。
3	甕(H)	13.1-4.9-18.6 頸11.2　胴16.9	¾個体。 竈南袖脇、床上5cm。	輪。木口状工具の削りの上に、乾燥状態で弱い削り。	胎砂粒含む。甕類としては緻密。焼軟調O。色淡褐色～黒褐色。一様でない。外面に弱い光沢。他内面の剝落が進む。
4	甑(H)	8.9-3.9-9.9 頸6.9　胴8.7	上半の½を欠く。 住居中央 床直。	輪。部厚く重い。外面削り雑。内面ナデは圧痕状に窪む。	胎砂粒・石英含む。焼やや硬調。色淡褐色。内面・断面橙褐色。他器面に乾燥時のヒビ多い。
5	甕(H)	17.3 — — 頸14.5　胴21.2	図示部ほぼ完存。 竈南袖前面の床上10cm。	輪。断面輪積状凹凸、内面に接合痕あり。外面上半と内面に木口状工具のナデの痕跡。	胎砂礫を含む。石英散見。やや粗い。焼やや硬調O。色淡褐色基調。黒・赤色味のムラあり。内面はやや暗い。
6	甕(H)	17.4-7.6-29.7 頸14.5　胴20.7	完形。 住居中央床直	輪。外面の削りは粗く鋭い。一部に木口状削り痕残る。内面は木口状工具のナデ。	胎砂礫・石英多い。パミス含む。粗い。5にやや近い。焼硬調O。口縁部周辺の焼締強い。色赤褐色～黒褐色。一様でない。内面は黒色味強い。他二次火熱。



第139図　6区2号住居址

6区　2号住居址

位　置　B－1グリッド

形　状　一辺3.5mの、不整正方形を呈す。東壁は竈を挟んでくい違っている。

方　位　N－86°－E　　**面　積**　12.6㎡

壁　残存壁高30～25cmで、やや緩やかに立ち上がっている。北壁は崩れが多い。

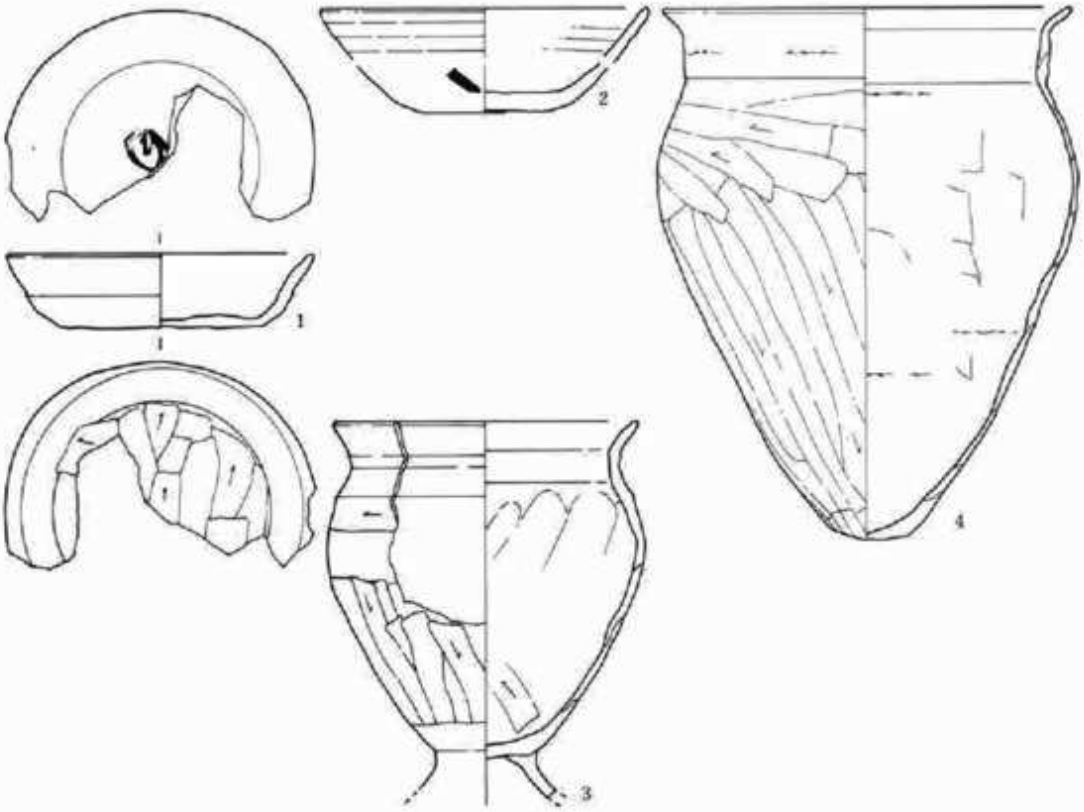
床　面　地山傾斜に沿って、南側が5cmほど低く傾斜している。踏み固めの強い明瞭な床である。

ピット　東壁下から平面円形を呈すピットを検出した。床面からの深さは16cmと浅く、底面は平坦である。

竈　東壁南寄りにある。燃焼部は壁外で、火床は住居床面と同レベルにあった。燃焼部の掘り方は平面長方形で、煙道は不明である。

重　複　1住の東壁を切って構築されている。

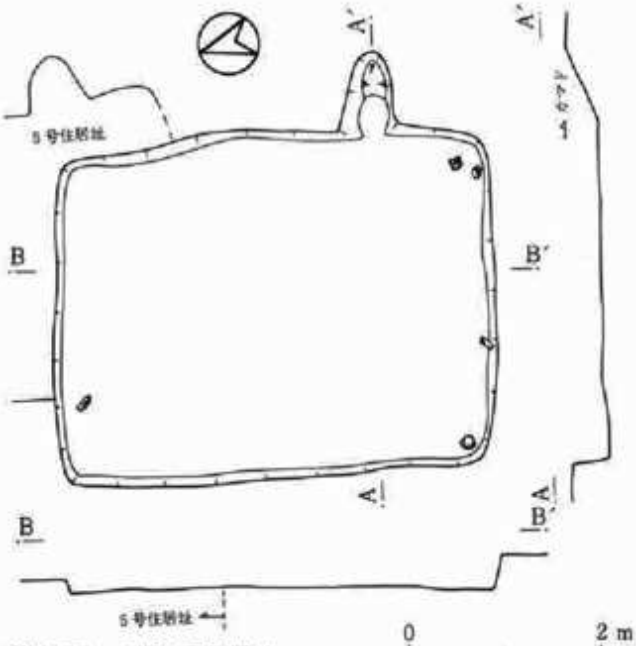
その他　南壁下西側の円礫は、床直の状態で検出した。



第140図　6区2号住居址遺物実測図

6区2号住居址出土遺物観察表

No.	器形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備考
1	杯(H)	(12.4)—(2.9)	⅔個体。埋土中の4片接合。	輪。口縁部上半に強いナデ、外面下半は無調整。底部削り雑、見込は平滑さ欠く。	胎細砂含む。焼石散見。緻密。焼やや軟調O。色外面暗褐色。内面・断面淡茶褐色。他口縁部外面に広く油煙状のスス付着する。見込に墨書。
2	杯(S)	—5.8—	底部⅓。同一個体の口縁破片あり。埋土。	台。ロクロ痕細かい。見込平坦。	胎細砂やや多い。やや粗い。焼やや軟調R。色濁灰色でほぼ一様。他外面に墨書。
3	台付甕(H)	(13.8)— — 胴(13.6) 台上3.7	上半⅓、下半⅔残存。埋土中の約20片が接合。	輪。台の取付丁寧。外面に息の長い削り。台部ナデは削りに後行する。内面頸部に接合痕。	胎細砂多いが緻密。焼軟調O。ややしまり欠く。色内面茶褐色、外面暗褐色。他二次火熱を受けるが、器面の荒れは少ない。
4	甕(H)	21.2-4.0-27.8 口18.8 胴22.0	ほぼ完形。竈南脇床上3cm、及び埋土数十片接合。	輪。接合痕及び胴部下位の合わせ痕明瞭。外面丁寧な削りで平滑。内面ナデは木口状工具痕が若干残る。	胎粗砂やや多いが、緻密。焼やや軟調のO。色茶褐色〜暗褐色。一様でない。他二次火熱を受けるが、器面の荒れは少ない。薄手で丁寧な作りであり、「コ」の字状口縁の典型的な甕である。



第141図　6区4号住居址

6区　4号住居址

位　置　F－1グリッド

形　状　長軸4.5m、短軸3.5mの比較的整った横長長方形を呈す。

方　位　N－108°－E

面　積　15.9m²

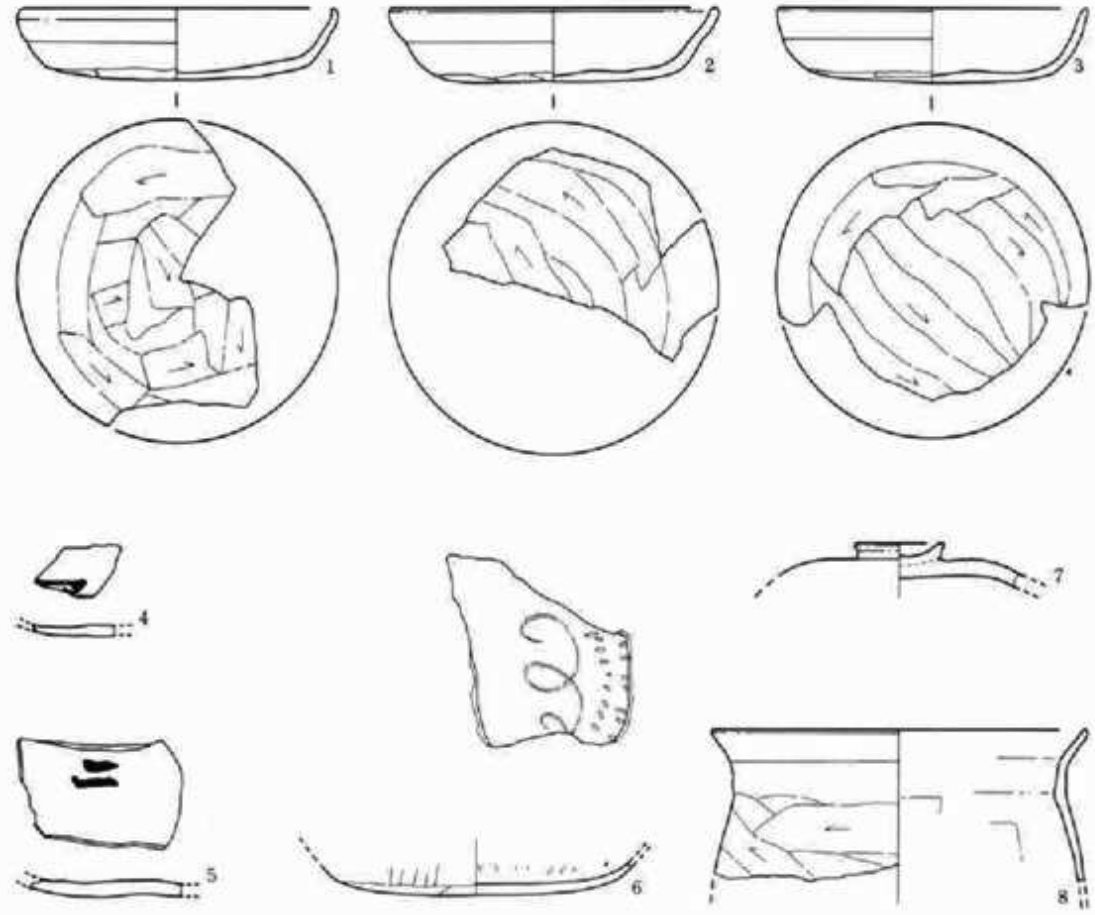
壁　残存壁高は40～35cm、5住との重複部分で15cmで、垂直に近い立ち上がりをしている。

床　面　地山傾斜に沿って、南側へ8cm低く傾斜している。

竈　東壁南寄りにある。燃焼部は壁外で、火床は住居床面よりわずかに低かった。煙道へはなだらかに立ち上がる。

重　複　5住。

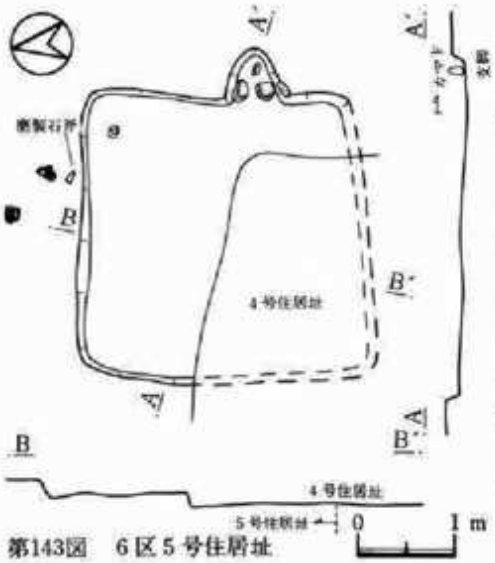
その他　遺物の出土は、住居南側に片寄っていた。



第142図　6区4号住居址遺物実測図

6区4号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	杯(H)	(12.5)-(10.3)-2.9	½個体。 埋土。	底。底部削りは丁寧で細かい。内面ナデは同心円状。口縁ナデは2段で上方が強い。	胎砂粒・輝石・パミスを含む。粘土には気泡混じるが比較的緻密。焼やや硬調のO。適度の焼締。色淡褐色で一様。断面は灰色味をおびる。
2	杯(H)	(12.9)-(9.7)-(2.9)	口縁部若干、底部½。 埋土。	底。底部削りはやや鋭い。口縁部ナデは上半のみで、下半は無調整。内面平滑。	胎石英・粗砂を含む。精選され緻密。焼やや軟調のO。適度の焼締。色淡褐色で一様。
3	杯(H)	12.2-10.3-3.0	口縁部½、底部ほぼ完存。 住居南西隅、床上4cm。	底。底部削りは息長く、中央で一方向。口縁部のナデは2に同じ。内面のナデは同心円状で丁寧。	胎砂粒やや多い。輝石・石英を含む。緻密。焼やや軟調のO。適度の焼締。色茶褐色基調。底部を中心に、黒色味をおびる部分あり。
4	杯(H)		底部小片。 埋土。	外面やや強い削り。内面同心円状のナデ。	胎焼色1～3の杯と同様。他見込に墨痕の鮮やかな墨書あり。判読できず。
5	杯(H)		底部小片。 埋土。	外面やや強い削り。内面同心円状のナデの上に「十」の字を書くような鋭いナデ。	胎焼色1～3の杯と同様。他見込に墨痕のやや明瞭な墨書あり。「二」と思われるがハネの方向が不自然である。底部全体に波打つような歪みあり。
6	杯(H)	―(11.0)―	底部⅓。 埋土。	内面丁寧な同心円状のナデで平滑。雑な暗文があり、見込の縁辺で乱れたラセン状。口縁部は放射状になると思われる。	胎砂粒・雲母を若干含む。緻密。焼硬調で最良のO。須恵器的な焼締がある。色淡橙褐色。外面は灰色味をおびる。他見込は若干磨耗している。
7	蓋(S)	鍵径 3.5 鍵高 0.6	図示部ほぼ完存。 埋土。	右回転ロクロ成形と思われるが不明瞭。鈕取付はロクロ使用と思われる。	胎砂粒多い。黒色泥粒を含む。粗い。焼やや硬調O。焼締。色灰色で断面まで一様。他器面の荒れが著しく、整形痕の観察は難しい。鈕の上端が磨耗する。
8	甕(H)	(19.6)― ― 鍵(17.3)	図示部の¼。 住居南東隅の床直。	底。弱く丁寧な削りで、稜があまり残らない。ナデは強い擦痕が残る。	胎粗砂やや多いが緻密。焼やや硬調O。甕類としては最良。色茶褐色。内面やや明るい。



第143図　6区5号住居址

6区　5号住居址

位　置　F－1グリッド

形　状　一辺2.8～2.9mの正方形もしくは台形を呈す。

方　位　N－97°－E　　**面　積**　8.6m²

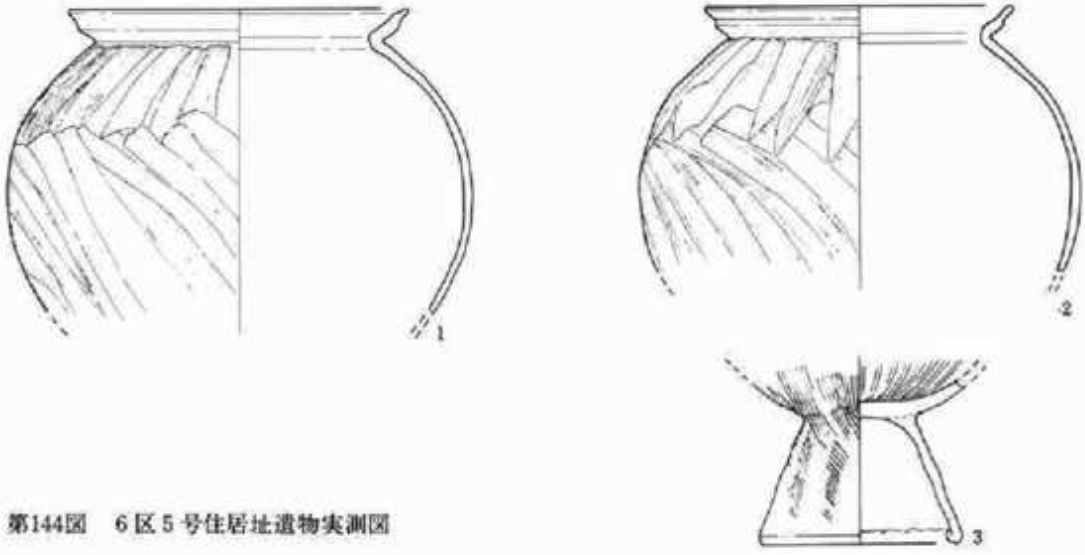
壁　残存壁高は15cm前後である。東壁と西壁は垂直に近い立ち上がりをしている。

床　面　東側へ低く、傾斜している。

竈　東壁南寄りにある。燃焼部は壁外で、火床は住居床面より3cm低い。焚き口は石組であったと思われ、角礫の構築材が残存していた。また、河原石による支脚が、燃焼部奥側に据えられていた。

重　複　4住。

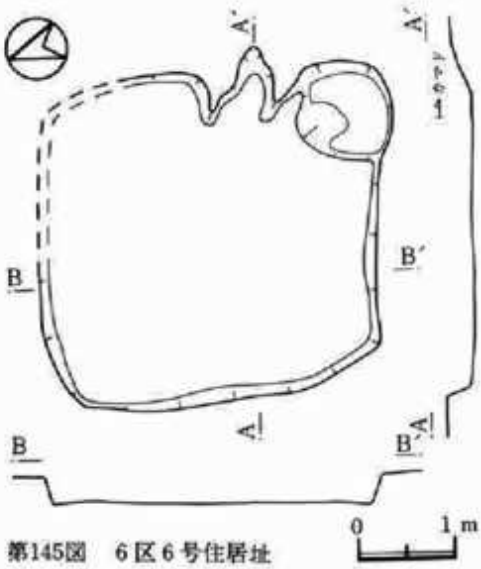
その他　石田川期の包含層を掘り込んだ住居と思われ、出土遺物は殆んど石田川期のものであった。また、本住居の北側から該期の遺物出土が多かった。



第144図　6区5号住居址遺物実測図

6区5号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　考
1	台付甕 (H)	(17.8)－ － ㊐(24.4)	図示部の½。埋土及び住居外、北側。	㊐。口縁部は粗いナデ。刷毛目は肩部で上→下、胴部で下→上。	㊐砂礫・パミスを含む。やや粗い。㊥やや軟調O。㊀濁淡褐色。外面は黒色味をおびる部分あり。㊁二次火熱の影響強く外面胴中位は著しく剝落する。
2	台付甕 (H)	15.8－ － ㊐(22.8)	口縁部完存、胴部½。住居外、北側	①に同じ。刷毛目はやや粗く不揃い。	㊐㊥1にほぼ同じ。㊀内面は灰色味をおびる。㊁口縁部外面はススが付着する。二次火熱の影響は少ない。
3	台付甕 (H)	㊐上10.6 ㊐下6.1	図示部完存。住居外、北側	㊐。刷毛目は下→上。内面下端にヒビ。	㊐㊀1に同じ。㊥硬調Oで強い焼締。㊁二次火熱の影響少ない。外面ススが付着。



第145図　6区6号住居址

6区　6号住居址

位　置　H－1グリッド

形　状　一辺3.0～3.2mの、平行四辺形気味の不整形。

方　位　N－110°－E　　**面　積**　11.1m²

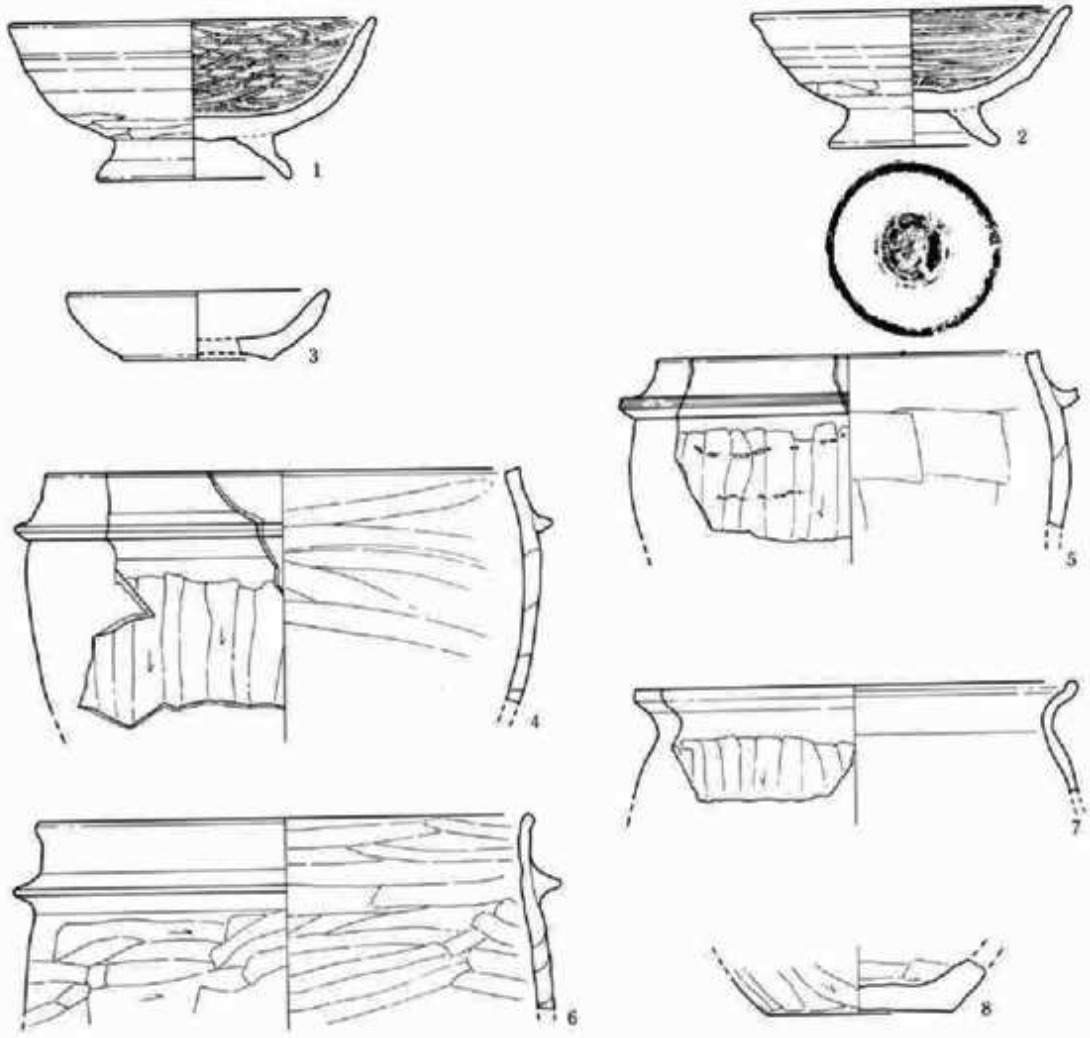
壁　残存壁高は25cm前後である。立ち上がりの状態は一定していない。崩れも多いようである。

床　面　竈前面を中心に、踏み固めはやや強い。南側へ若干低く、傾斜している。

ピット　住居南西隅は床面より5～10cm窪んでおり、出土遺物も多かった。しかし、プランは不整で、底面には凹凸があり、貯蔵穴とするには疑問点が多かった。

竈　東壁やや南寄りにある。燃焼部は壁際で、火床は住居床面と同レベルであった。袖には、粘土を多量に含んだ構築材を使用していた。

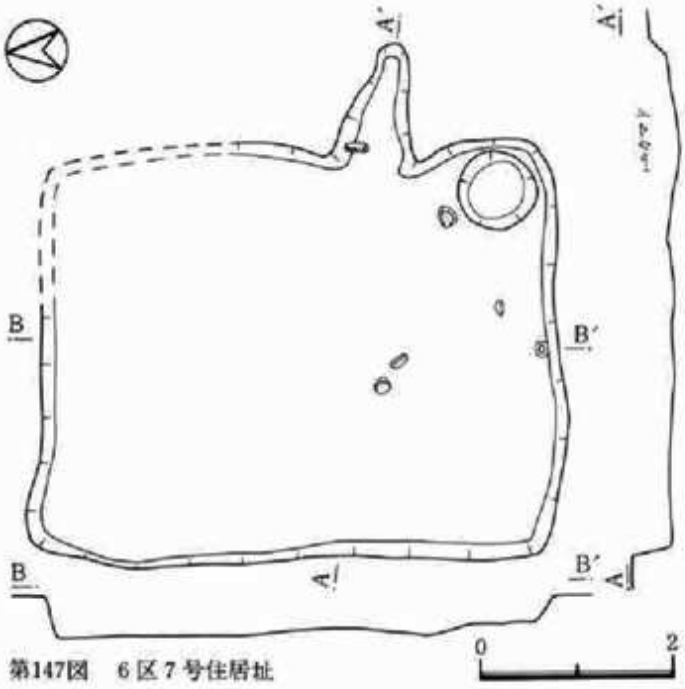
その他　床直の状態で、多量の礫が出土している。



第146図　6区6号住居址遺物実測図

6区6号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	高台付き椀	14.3-(6.5)-6.3 ⑥7.7	口縁¼欠く。住居中央床直	(右台)？口縁下端手ヘラ。上半に鋭いロクロ痕。研磨不明瞭。	⑩砂粒多く、パミス・石英散見。⑭やや硬調O。⑥淡褐色。内面黒褐色～淡褐色で、内黒不良か。光沢弱い。
2	高台付き椀	(12.6)-(5.2)-5.1 ⑥6.7	口縁⅔欠く。住居中央床直	1にほぼ同じ。研磨さらに雑。	⑩⑭1にほぼ同じ。⑥黒褐色。高台部やや明るい。内黒で若干光沢あり。
3	小　皿	(10.3)-(6.0)-(2.7)	図示部の⅓。埋土。	⑥。ロクロ痕弱い。糸切痕のねじれが強い。	⑩砂粒多く、輝石・パミス散見。粗い。⑭やや硬調O。焼締。⑥淡褐色一様。
4	羽　釜	(24.7)－　－ ⑥(26.8)	図示部の⅓。竈煙道部。	⑩。削り・ナデ粗い。口縁端・鍔端は平坦。	⑩輝石・細砂多く、やや粗い。⑭O。⑥茶褐色。⑭二次火熱。竈粘土付着する。
5	羽　釜	(19.9)－　－ ⑥(23.9)	図示部の⅓。竈南袖前面の床直。	⑩。接合痕明瞭。内面ナデ粗い。口縁端と鍔端は平滑。	⑩粗砂多く、輝石・パミス含む。⑭硬調O。⑥濁赤褐色。内面淡褐色。⑭口縁部歪み強く、口径不安。二次火熱受ける。
6	羽　釜	(25.8)－　－ ⑥(28.1)	図示部の⅓。竈内。	⑩。削り強く、器面に凹凸。ナデ丁寧。口縁端は外反肥厚。	⑩砂粒・パミスやや多く、輝石散見。やや粗い。⑭やや硬調O。⑥暗褐色。内面淡褐色。断面白色味強い。⑭二次火熱。
7	甕(H)	(23.0)－　－ ⑥(20.5)	図示部の⅓。竈内。	⑩。口縁内端アチ具痕あり。丁寧な作り。	⑩パミス・輝石等多く含み、粗い。⑭硬調O。⑥赤褐色で一様。⑭二次火熱。
8	羽釜？	－ 9.5 －	図示部の⅔。ピット内。	⑩。削り弱く、ナデ雑。底面無調整。	⑩細礫多い。輝石・石英散見。粗い。⑭O。⑥淡褐色。断面白色味強い。



第147図　6区7号住居址

6区　7号住居址

位　置　F－2グリッド

形　状　長軸5.3m、短軸4.2mのやや歪んだ横長長方形を呈す。

方　位　N－90°－E

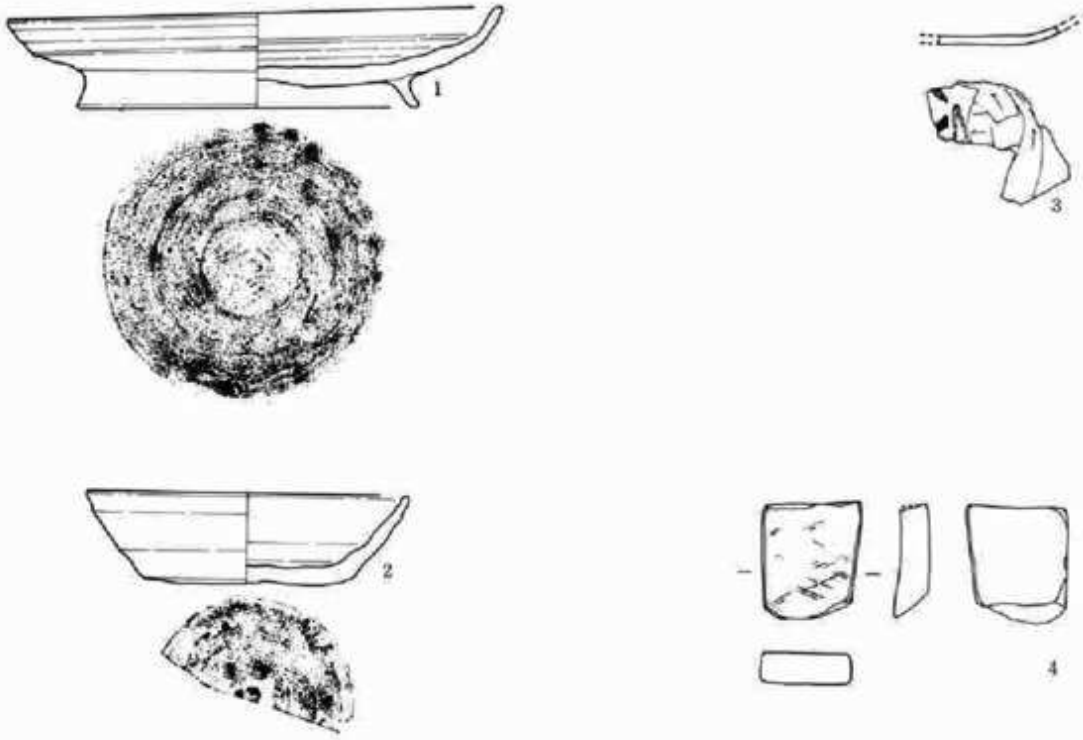
面　積　23.0㎡

壁　残存壁高は40cm前後で、垂直に近い立ち上がりの箇所もある。

床　面　踏み固められた明瞭な床面で、中央が若干窪んでいた。

ピット　南東隅より貯蔵穴を検出した。床面からの深さは30cmで、底面は平坦であった。

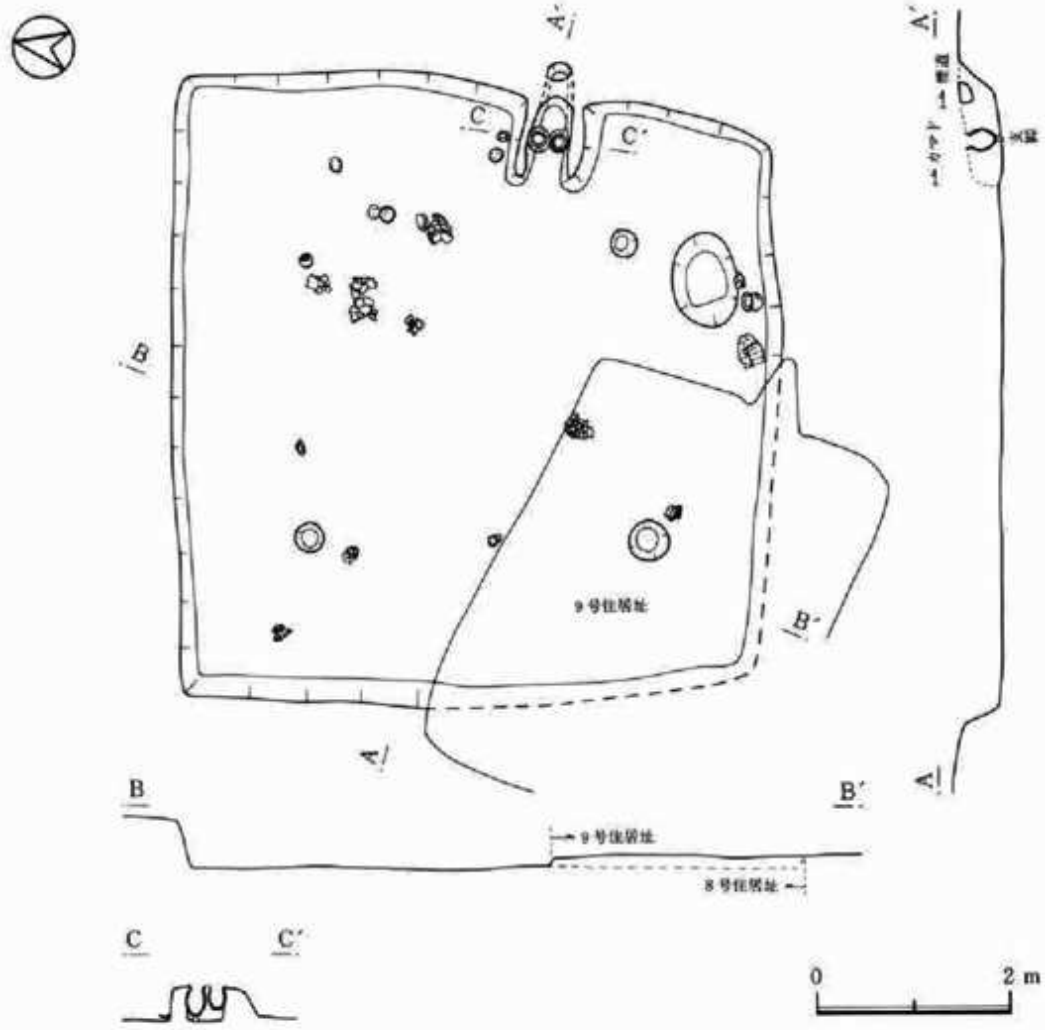
竈　東壁南寄りにある。燃焼部は壁外で、火床は住居床面より7cm低かった。煙道は長く、火床よりダラダラと立ち上がり、壁外へ115cm張り出す。



第148図　6区7号住居址遺物実測図

6区7号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	高台付き盤(S)	19.4－3.5～4.4 ㊟13.2	口縁部の½を欠く。南壁直下の床上6cm。	㊨→回糸→底部周縁回ヘラ→ロクロ使用高台取付。ロクロ痕弱い。内面渦巻状の擦痕、平滑。	㊥黒色鉱物粒含む。粗砂多く、気泡がまじり、須恵器としてはやや粗い。㊧硬調R。焼締。㊩灰色。外面はごく薄い降灰釉で黄色味。㊪秋間窯跡群製。釉の状況より、蓋の可能性も高い。見込磨耗。
2	杯(S)	(12.6)-(8.0)-3.5	口縁部⅓、底部½。埋土。	㊨→回ヘラ→無調整ロクロ痕は細かく丁寧。内面きわめて平滑。	㊥黒色鉱物粒含む。細礫散見するが緻密㊧硬調R。焼締。㊩灰白色。外面降灰釉が灰緑色を呈す。㊪秋間窯跡群製。倒置して焼成されたものと思われる。
3	杯(H)		底部小片。埋土中の2片接合。	㊨。削りは細かく、やや弱い。ナデは丁寧で、布状擦痕が同心円状に残る。	㊥細礫・雲母散見。緻密。㊧やや軟調O㊩茶褐色一様。㊪底部に墨痕の薄い墨書あり。判読できないが、一字ではなさそうである。
4	砥　石	㊦3.6㊤1.3	埋土。	二方割口の四面使用だが、側部は砥ぎ減り少ない。欠損後の使用は少ない。安山岩製。	



第149図　6区8号住居址

6区　8号住居址

位　置　B・C－2・3グリッド

形　状　南東隅が鈍角なため、やや歪んだ形状となる。南辺が北辺より1m近く短かい、台形気味のプランを呈すものと思われる。

方　位　N－78°－E　　**面　積**　36.8m²

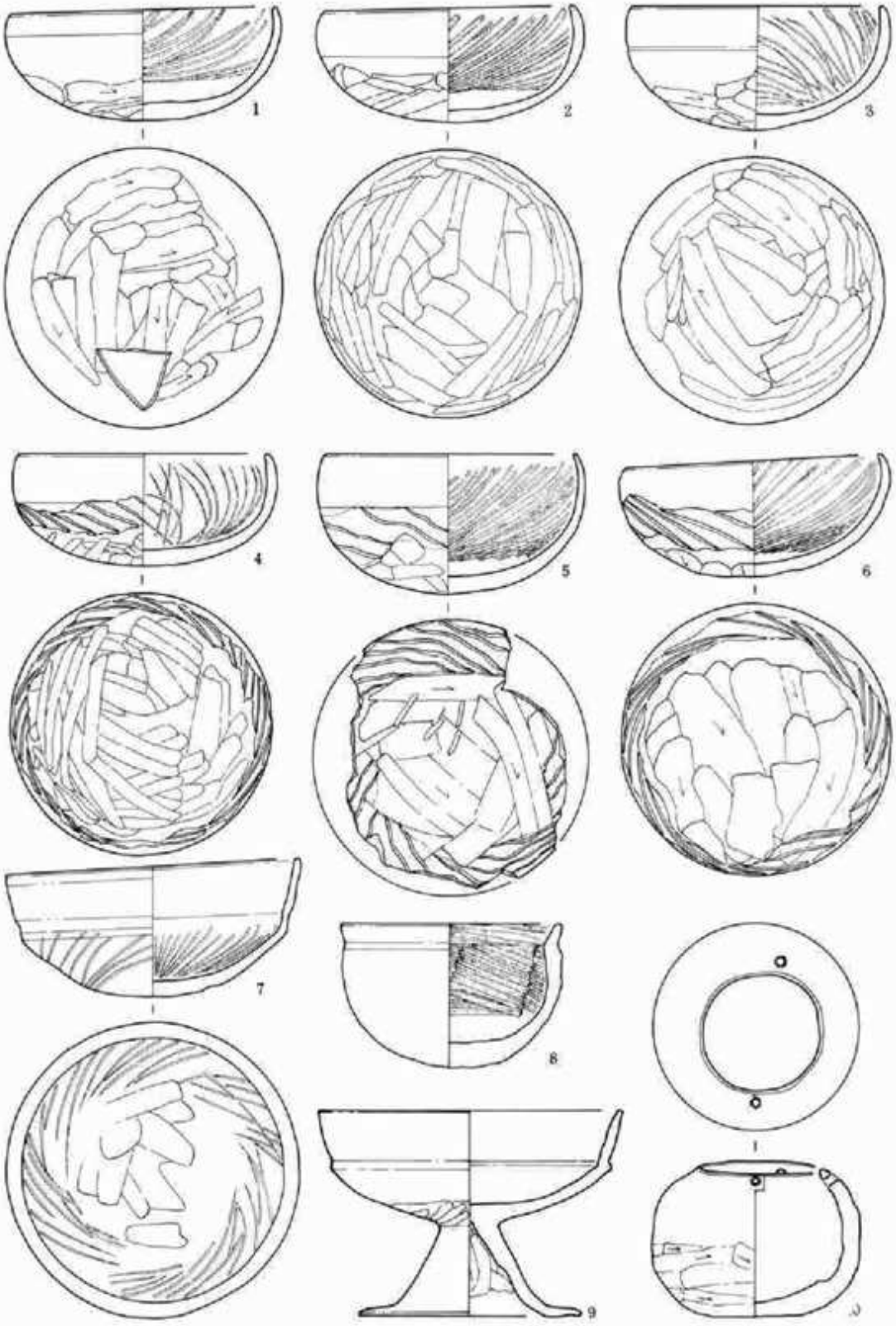
壁　残存壁高40cm前後で、長大なプランに比して浅い。80°近い鋭い立ち上がりの箇所が多い。

床　面　細かな凹凸がある。水平で平坦である。

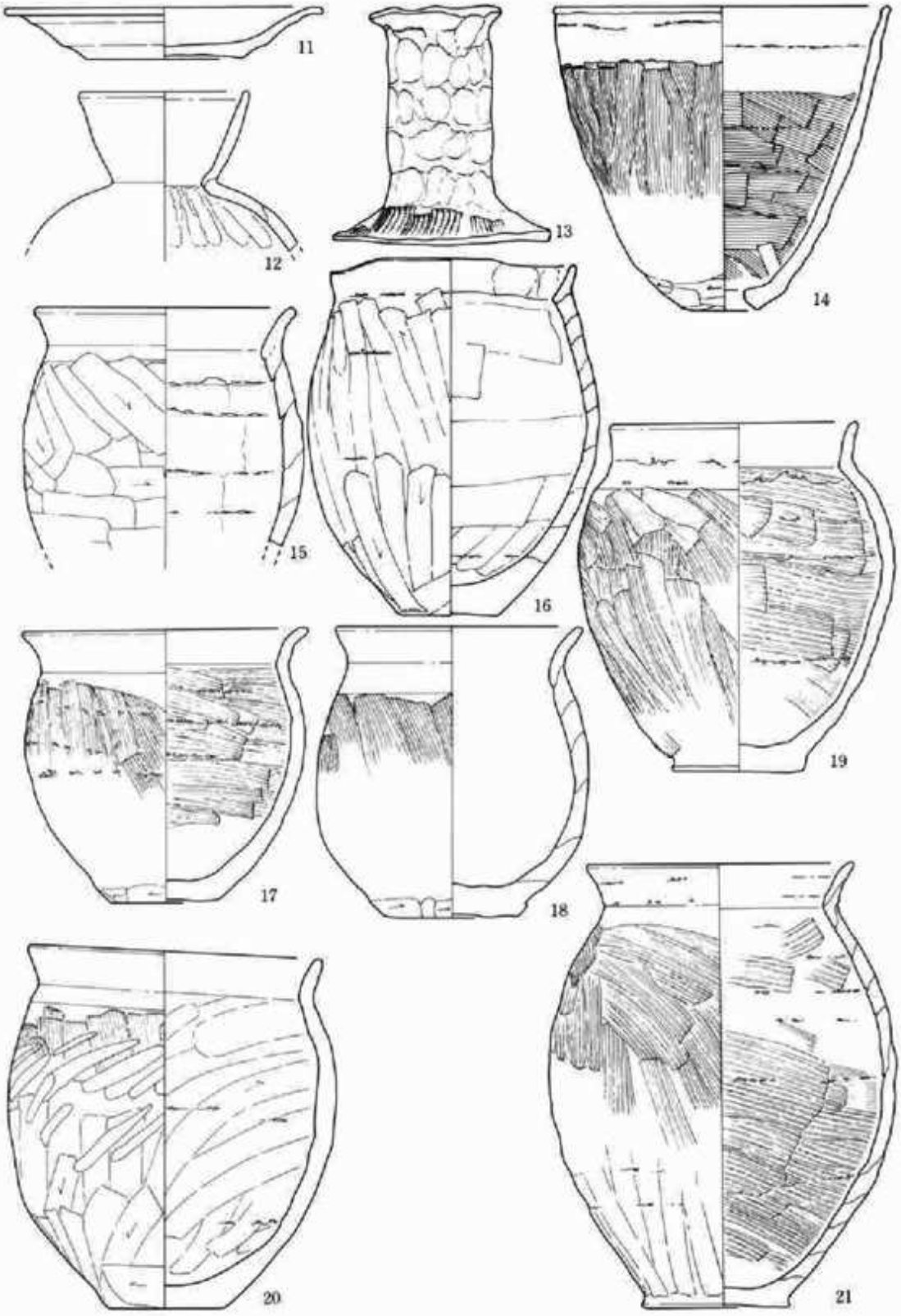
ピット　北東側を除く、3本の柱穴を検出した。床面からの深さは11～17cmで、これも長大なプランに比して貧弱であった。南壁下東側からは、平面隋円形のピットを検出した。床面からの深さは40cmで、底面は平坦であり、貯蔵穴と思われるが、位置に疑問がある。

竈　東壁南寄りにある。住居の軸線より10°南を向いており、東辺とはほぼ直交していた。燃焼部は住居内で、火床は住居床面より若干低い。遺存状態がきわめて良く、天井部は崩落せずに残っていた。また、甕が2個体、横に並べて掛けてあり、竈の使用状況を留めていた。北側の甕が支脚の上に乗っていた。袖には、粘土を多く含む構築材を使用していた。

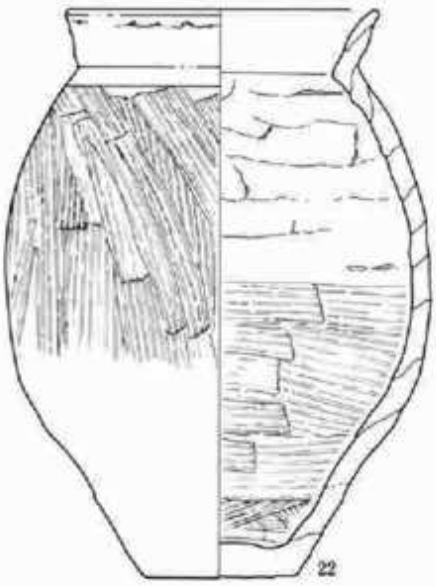
重　複　9住に切られている。

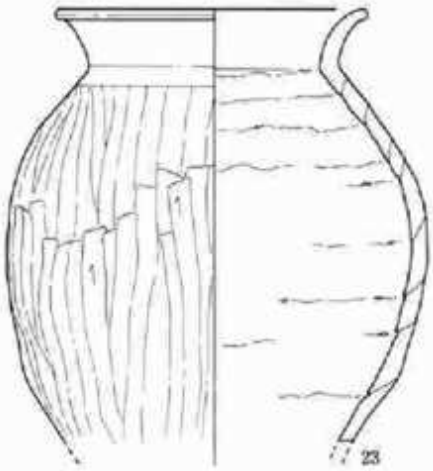


第150図　6区8号住居址遺物実測図(1)



第151図　6区8号住居址遺物実測図(2)





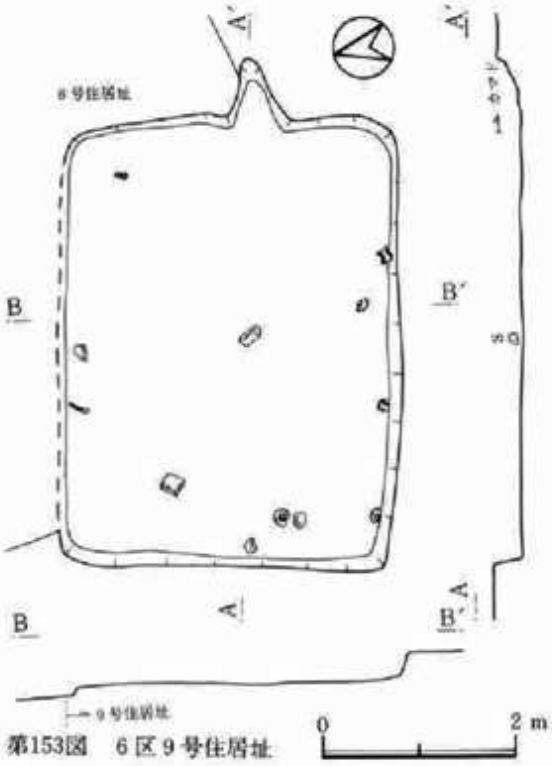
第152図　6区8号住居址遺物実測図(3)

6区8号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	杯(H)	12.5 － 5.1	ほぼ完形。住居北東側の床直。	輪。半乾き状態での削り。研磨丁寧だが見込には及ばない。	胎砂粒若干含み、輝石・パミス散見。やや緻密。焼やや硬調O。色淡赤褐色。断面若干黄色味をおびる。他見込磨耗。
2	杯(H)	11.7 － 5.3	完形、竈焚口前の床直。	輪。1に近い。削りやや粗い。見込に渦巻状のナデ痕顕著。	胎砂粒含み、石英・パミス・ベンガラ散見。焼やや硬調O。色淡橙褐色。底部黒褐色。他口縁端部磨耗。
3	杯(H)	12.0 － 5.8	完形。	口縁強いナデで下端やや窪むが、1と同巧。研磨逆方向。	胎焼1にほぼ同じ。色淡茶褐色～暗褐色他部分的にススが付着する。
4	杯(H)	11.8 － 5.0	完形。竈北袖北側床直。	1にほぼ同じ。研磨方向逆。重量。	胎焼色1に同じ。
5	杯(H)	(11.8) － 6.4	口縁¼、底部完存。竈北袖北側床直。	輪削り粗く無調整部分残る。見込ナデは板状工具痕残る。	胎焼1に同じ。色淡赤褐色～暗褐色。他外面に広く、ススが付着する。見込の剝落進む。
6	杯(H)	12.4 － 5.5	完形。1に隣り合う床直。	3と同巧。	胎焼3に同じ。色淡茶褐色。
7	杯(H)	13.4 － 6.2	ほぼ完形。北西ピット南側床直。	輪口縁部内傾し、端部平面。稜の上に幅太沈線。外面に研磨。	胎粗砂多く、パミス・石英・ベンガラ散見。やや粗い。焼やや軟調O。色茶褐色外面に淡褐色、黒褐色のムラあり。

No.	器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
8	鉢(H)	10.3 — 6.8 ⑩10.0	ほぼ完形。 東壁下北側の床上10cm。	⑥。外面弱く雑な削り。内面ナデは木口状の擦痕。	⑧砂粒・ベンガラ含む。石英散見。⑨やや硬調O。⑩白色味おびた淡褐色。内面黒褐色。⑪見込磨耗し、一部剝落。
9	高　杯 (H)	(14.2) — 9.5 ⑩上(2.8) 下(10.4)	杯部¾、裾部¾欠く。竈北袖前面床着。	⑥。口縁端部平坦。杯部下半粗い削り、他はナデ。	⑧砂粒やや多い。石英目立つ。パミス散見。やや緻密。⑨やや硬調O。⑩淡褐色でほぼ一様。⑪口縁部斑状にスス付着。
10	有孔 小型鉢 (H)	5.7-3.6-7.1 ⑩10.0	完形。 住居北東側の床直。	⑥。外面削り弱い。見込ナデは指頭斜位で凹凸。2孔穿つ。	⑧9に近い。⑨硬調O。⑩淡褐色。底部付近は橙色味をおびる。⑪口縁端部剝落する。孔のヒモズレ痕跡認められない。
11	皿(S)	(14.8)-7.3-2.4	口縁¼欠く。 南側埋土。	⑥。ロクロやや弱い。内面布状のナデ痕。	⑧細礫多い。粗悪。⑨やや硬調R。⑩灰色一様。⑪9住の混入品。
12	壺(H)	9.9— — ⑩6.5	図示部ほぼ完存。竈内。	⑥。口縁端部内傾。肩部内面しぼり目状ヒビと布状圧痕。	⑧砂粒若干含む。やや緻密。⑨硬調O。⑩橙褐色。断面は白色味おびる。⑪甕21を竈内に側定するために使用。
13	支　脚	⑩11.3 ⑩上6.2 中5.9　下10.4	完形。 火床上。	全面に指頭痕。下端に木口状擦痕。	⑧砂粒多い。⑨二次火熱のための不明。⑩淡褐色。⑪竈粘土付着する。
14	甑(H)	15.5-3.3-14.5 孔2.6	完形。 竈前面北西側床直。	⑥。内外面木口状の削り痕で外面は雑。下端ヘラ削り粗い。	⑧粗砂やや多い。輝石・パミス・石英散見。⑨硬調O。⑩淡褐色。斑状に黒色部分あり。
15	小型甕 (H)	12.4— — ⑩11.1	図示部完存。 北西隅床直。	⑥。外面削りは肩部で弱い。胴部内面無調整で接合痕顕著。	⑧砂粒やや多く、輝石・長石・パミス混入。気泡も目立つ。⑨硬調O。⑩淡褐色。内面白色味強い。⑪二次火熱受ける。
16	小型甕 (H)	11.5-4.9-16.8 ⑩11.2　⑩13.9	ほぼ完形。 南側埋土。	⑥。外面削り息長く粗い。内面ナデ丁寧で、弱い木口状擦痕。口縁部指頭押圧痕。	⑧粗砂多く、輝石・石英散見。やや粗い。⑨やや軟調O。⑩黒褐色～暗褐色。内面黒褐色一様。⑪二次火熱受け、器面荒れる。外面上半にスス付着。口縁に歪み。
17	甕(H)	18.1-7.0-17.6 ⑩15.9　⑩17.8	口縁部若干欠くほぼ完形。 南壁直下床直	⑥。上半に木口状の削り痕で、外面雑。外面下端ヘラ削り。見込は指頭ナデ。	⑧砂粒・パミス含む。輝石・石英散見。やや粗い。⑨硬調O。⑩黒褐色～暗褐色で一様でない。⑪二次火熱を受ける。外面に不均等にスス付着。底部木葉痕。
18	小型甕 (H)	(11.8)-5.9-13.5 ⑩10.2　⑩12.8	口縁¾欠く。 住居中央北西寄りの床直。	17にほぼ同じ。底部厚く、きわめて重量。	⑧⑨17にほぼ同じ。⑩淡褐色～黒褐色。底部付近は橙色味が強い。⑪二次火熱受ける。外面上半にスス付着、中位剝落。
19	甕(H)	15.6-8.2-21.9 ⑩15.1　⑩19.9	完形。 竈内火床上南側。	17に近い。木口の単位大きい。口縁部のナデやや弱い。外面下端の削りなし。	⑧⑨17にほぼ同じ。⑩淡橙褐色。底部付近では外面暗褐色、内面灰褐色。⑪二次火熱受ける。外面に竈粘土の付着多い。底部の荒れ著しい。

No.	器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
20	甕(H)	13.7-4.8-17.1 ⑥12.8　⑩15.4	完形。 竈前面北側の床直。	⑭。外面木口状擦痕の上に削り、上と下で工具異なる。内面ナデに木口痕残る。	⑤17に近い。パミス散見する。⑦やや硬調O。焼きムラあり、内面軟調。⑧淡茶褐色～暗褐色で一様でない。⑨二次火熱受ける。底部付近荒れる。口縁に歪み。
21	甕(H)	12.7-7.0-20.9 ⑥11.0　⑩16.7	ほぼ完形。 竈内火床上の北側。	⑭。胴下半内面に合わせ痕の段差あり。内外面とも木口の単位大きい。	⑤粗砂、パミスを含む。やや緻密。⑦硬調O。⑧淡橙褐色～黒褐色。内面灰色味をおびる。⑨二次火熱受ける。胴部最大径付近の剥落すすむ。
22	甕(H)	12.4-(16.5)-21.8　⑥11.0 ⑩(16.4)	胴部の大半欠く。南壁直下床直。	⑭。底部に削り。内面接合痕顕著。木口の単位大きい。	⑤⑦⑧20に近似する。⑨二次火熱の影響強い。外面下半の剥落著しい。
23	甕(H)	12.3　－　－ ⑥9.8　⑩16.4	図示部ほぼ完存。	巻き上げ。内面ラセン状の接合痕顕著。外面削り丁寧。	⑤モグサ質。粗砂やや多い。⑦やや硬調O。⑧淡褐色～黒褐色。内面淡褐色でほぼ一様。



第153図　6区9号住居址

6区　9号住居址

位　置　B・C－2グリッド

形　状　長軸4.6m、短軸3.5mの比較的整った縦長長方形を呈す。

方　位　N－102°－E　　**面　積**　15.1㎡

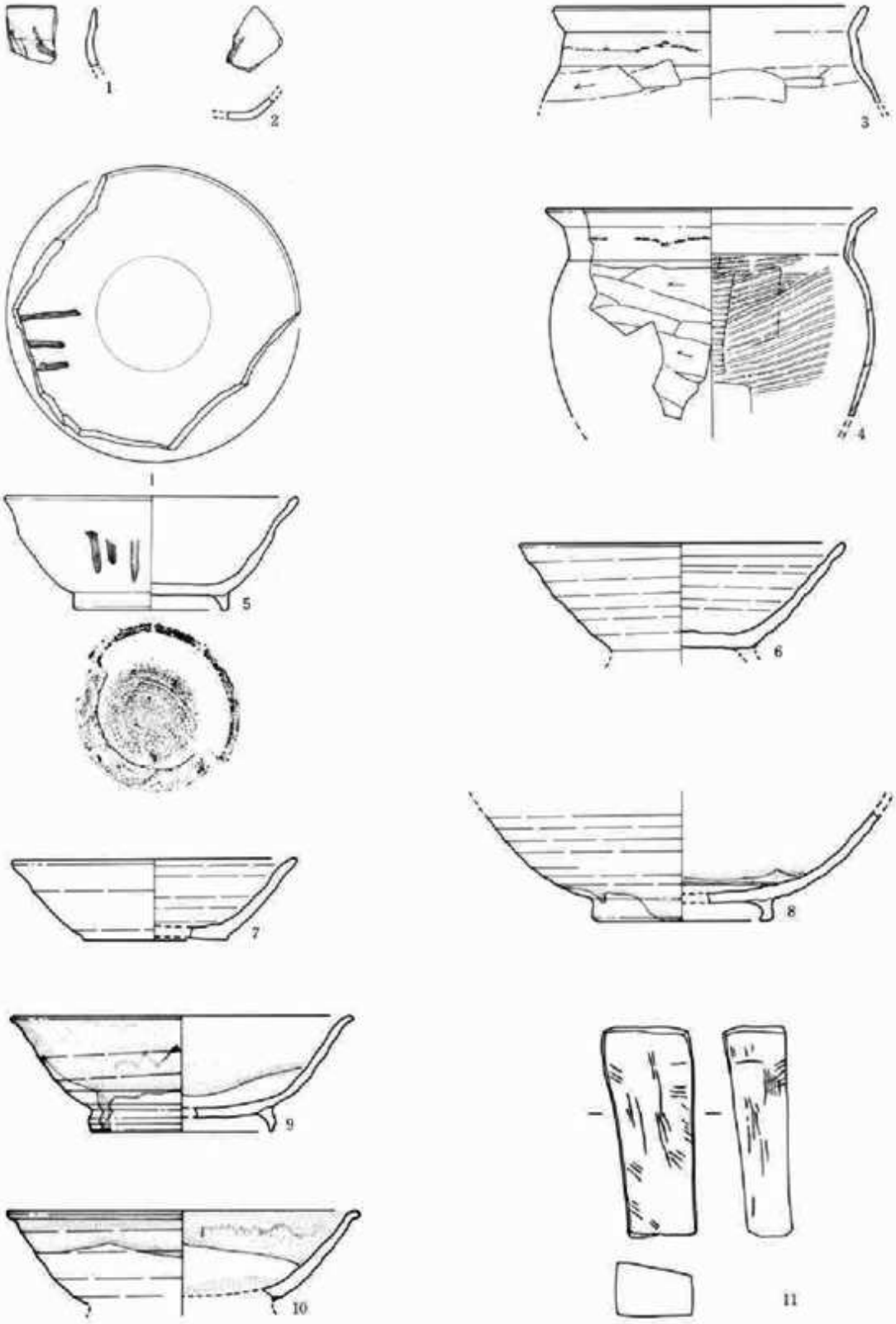
壁　残存壁高は35cm前後で、垂直に近い立ち上がりをしている。

床　面　細かな凹凸があるが比較的平坦である。地山の傾斜に沿って、東側がやや低くなる。

竈　東壁のほぼ中央にある。掘り方が判るだけで、遺存状態は悪い。燃焼部は壁際にあると思われ、火床は住居床面と同レベルである。煙道は火床からダラダラと続いている。

重　複　8住を切っている。

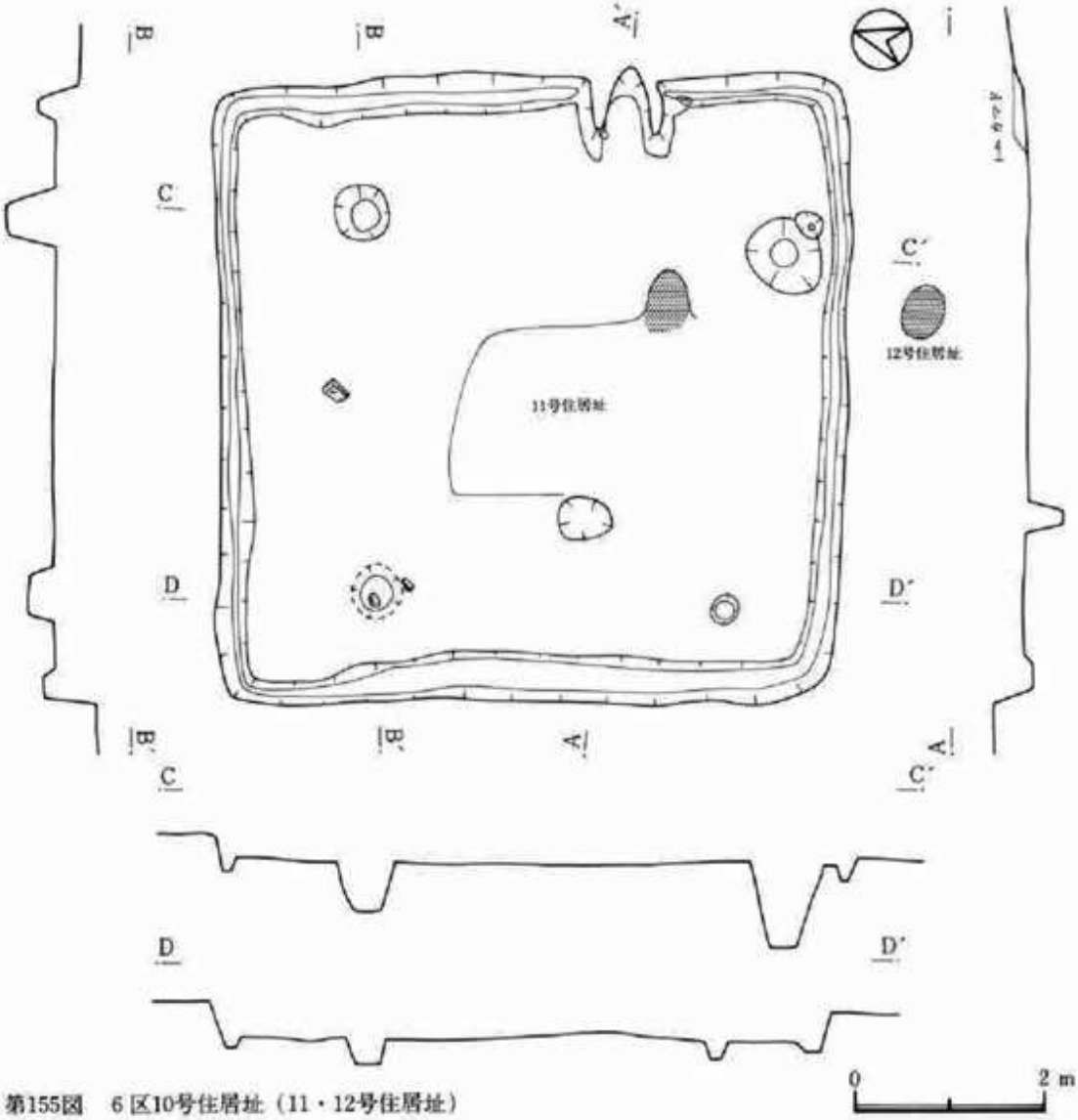
その他　遺物は竈周辺での出土は少なく、住居全体に散存して検出された。また、床直の状態で礫の出土も多かった。



第154図　6区9号住居址遺物実測図

6区9号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	杯(H)		口縁部細片。 埋土。	轆。外面上半ナデ、下半無調整。内面丁寧なナデで平滑。	胎砂粒含む。緻密。焼やや軟調O。色茶褐色で一様。他外面に墨書あり。判読できないが、横書きの文字である。
2	杯(H)		口縁下端～底部細片。 埋土。	轆。外面無調整。ナデは擦痕やや強い。	胎細礫を含み、やや粗い。焼色1にほぼ同じ。他口縁部外面に墨書あり。判読できず。1と同一個体の可能性あり。
3	甕(H)	(19.8)－　－ 頸(18.4)	図示部の½。 埋土。	轆。頸部に接合痕。削りやや鋭い。ナデも強く、粗い擦痕。「コ」の字口縁甕としては、やや厚手。	胎砂粒やや多く、ベンガラ散見。やや緻密。焼やや軟調O。色淡橙褐色。部分的に黒色味、断面は白色味おびる。他二次火熱の影響少ない。
4	甕(H)	(24.9)－　－ 頸(22.6) 胴(26.4)	図示部の¼。 埋土。	轆。頸部接合痕明瞭。削り強い。ナデは木口状の擦痕が鋭い。頸部に指頭状の凹凸。	胎砂粒やや多いが緻密。焼やや軟調O。色濁褐色。内面・断面は橙色味が強い。他二次火熱の影響少ない。
5	高台付き椀(S)	(13.9)-(6.7)-5.4　台(7.3)	口縁上半⅔と高台½欠く。 住居西壁下の床上8cm。	右台。ロクロ痕弱く同心円状となる。 全体に平滑。	胎粗砂含み、輝石・パミス散見。やや粗い。焼硬調R。焼締。色灰色。内面は黄色味おびる。口縁部内外面に墨書「川」。口縁端・高台端部磨耗する。
6	高台付き椀(S)	15.3-6.5-5.3	口縁部¼と高台部を欠く。 住居南西隅の床直。	右台。巻上げ状のヒビが外面にある。 ロクロ痕弱く、見込で同心円状。平滑。	胎細礫・細砂・長石を含む。やや粗い。焼硬調R。焼締。色灰白色。内面に重焼時の灰黒色ムラ。他高台欠失部磨耗著しく、無高台状態で使用。見込やや磨耗。
7	杯(S)	(13.5)-(6.7)-3.9	⅓個体。 埋土。	右。ロクロ痕弱い。口縁端部外反し、内側に稜。軽量。器表面にヒビ多い。	胎砂粒多く、石英・パミス含む。須恵器杯類としては粗悪。焼やや軟調R。色灰白色。他口縁内稜部分と底部外端の磨耗が進む。
8	高台付き椀(K)	台(9.7)	図示部の⅓。 南壁直下の床直。	右台。見込縁辺に重焼の高台痕が窪んで残る。釉は漬掛。高台取付ロクロ使用。	胎東濃系か？若干気泡が入る。緻密。焼硬調Rで堅緻。色灰白色の地に、淡黄緑色の釉。他大原2号窯期。
9	高台付き椀(K)	(16.3)－5.4 台(8.4)	口縁上半¼、下半～高台部⅓。南壁東側直下床上16cm	右台。釉は漬掛。高台取付に先行し、底部～口縁下端に回へラ。高台端部尖る。	胎焼8にほぼ同じ。色地は淡灰色。釉は灰緑色で、内面は黄色味をおびる。他器形は光ケ丘1号窯期と共通点があるが、漬掛は大原2号窯期以後の特徴である。
10	高台付き椀(K)	16.8－　－	図示部の⅔。 南壁下床直。	右台？外面ロクロ痕やや粗い。釉は不明で、内面下方には降灰釉。	胎焼8にほぼ同じ。色灰白色。釉は淡黄緑色で、全体に薄く、口縁端部では剝がれ落ちる箇所多い。他大原2号窯期。
11	砥　石	厚2.9	北東隅床直。	平面糸巻状の半欠品の四面使用。	



第155図　6区10号住居址（11・12号住居址）

6区　10号住居址

位　置　D－3グリッド

形　状　一辺6.5～6.6mの、比較的整った正方形を呈す。

方　位　N－72°－E　　**面　積**　40.3m²

壁　残存壁高42～22cmで、長大なプランに比して浅い。立ち上がりは緩やかである。

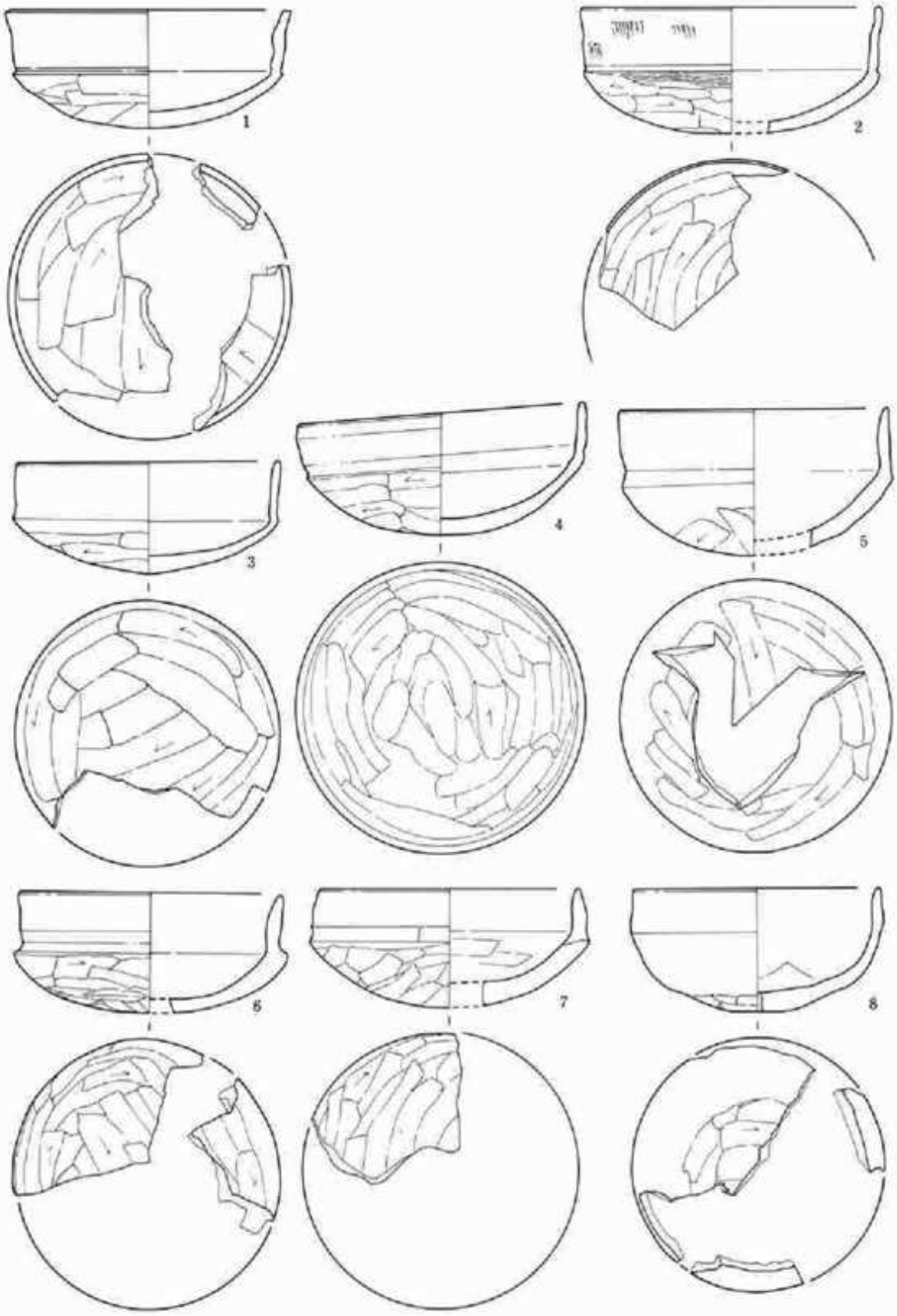
壁　溝　断面凹字状の壁溝が、竈下を除いて全周していた。床面からの深さは18～7cmと一様でなく、幅や形状も不定であった。

床　面　ロームブロックの多い埋め戻し土で、全面に貼り床を施していた。竈前面から住居中央には、強い踏み固めがあった。凹凸が多いが、明瞭な床であった。

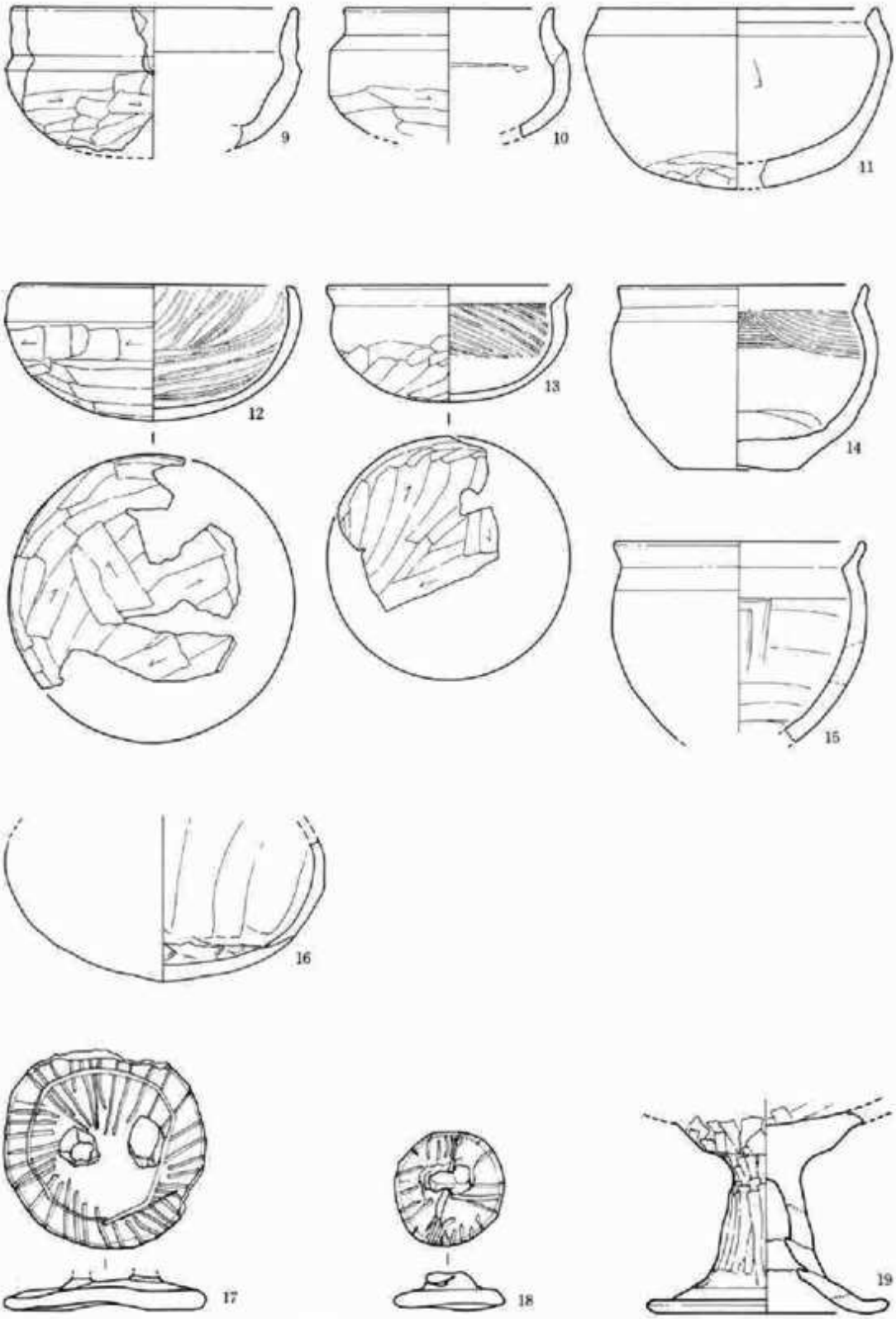
ピット　5本検出した。北東隅のピットは、深さ56cmで、位置・形状とも柱穴的である。南壁下東側ピットは90cmの深さで、貯蔵穴か柱穴か不明である。南西隅のピットは深さ18cmで、他に比して著しく貧弱である。北西隅のピットは黒色味の強い埋土で、攪乱の可能性がある。住居中央西寄りのピットは深さ35cmであった。

竈　東壁南寄りにある。燃焼部は住居内で、火床は住居床面より3cm高い。袖には粘土を含む構築材を使用していた。

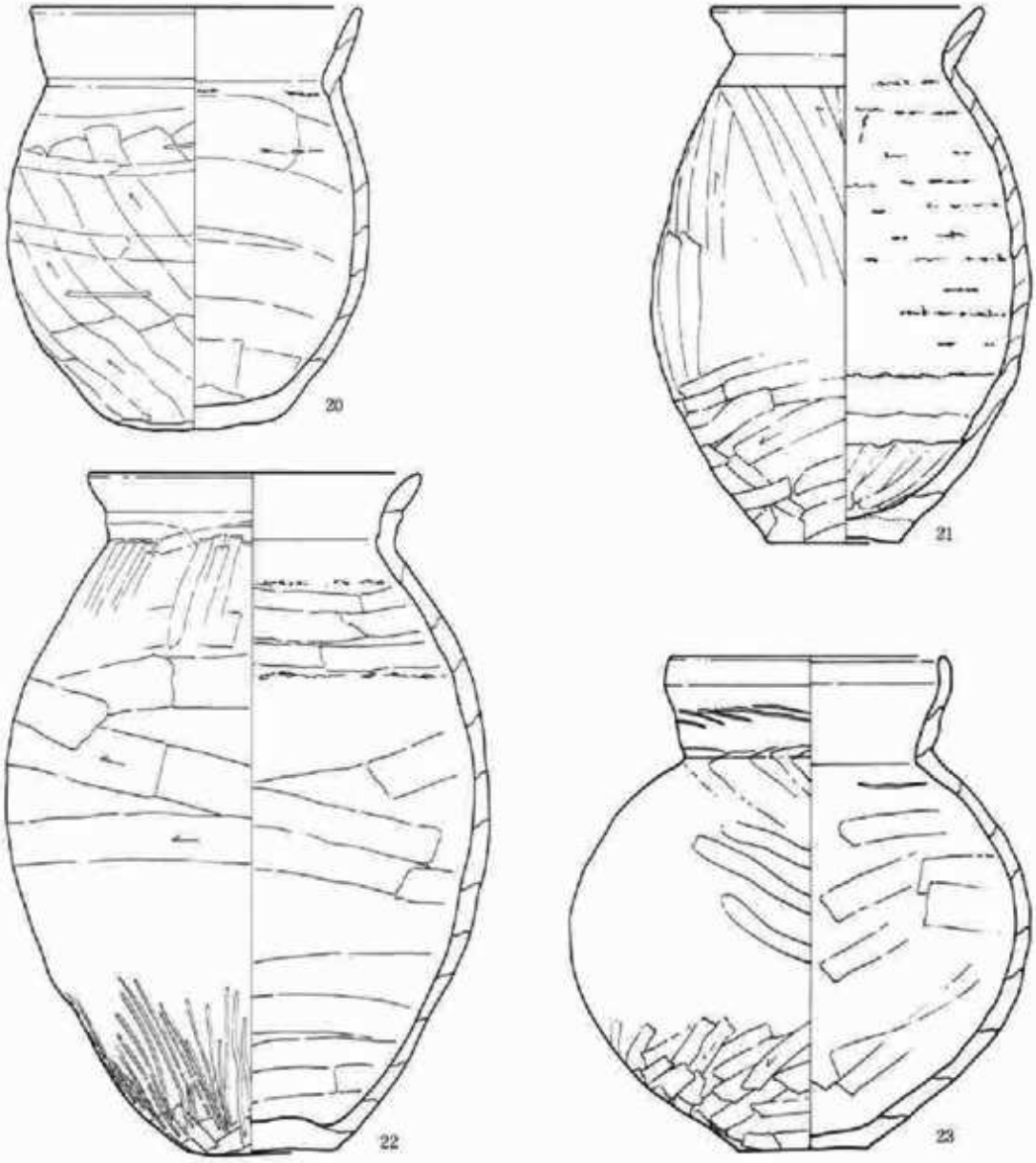
重　複　11住・12住。



第156図　6区10号住居址遺物実測図(1)



第157図　6区10号住居址遺物実測図(2)



第158図　6区10号住居址遺物実測図(3)

6区10号住居址出土遺物観察表

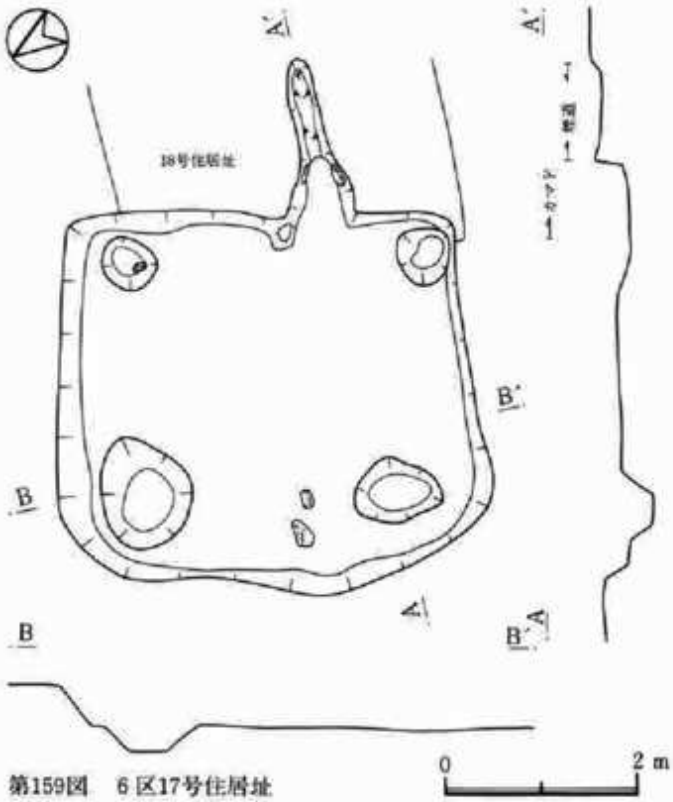
No.	器形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備考
1	杯(H)	(13.6)－ －	½個体。埋土。	㊙。口縁上端は凹面になる。削りは乾燥時に行ない平滑。	㊙砂粒多い。輝石散見。やや粗い。㊙やや軟調O。㊐暗褐色。内面濃赤褐色。㊙二次火熱を受ける。全面にスス付着。
2	杯(H)	(14.2)－ －	図示部の¼。埋土。	1に近似。口縁上端平坦。外面に工具痕。	㊙細砂含む。緻密。㊙やや軟調O。㊐淡橙褐色。外面一部に暗いムラ。

6区10号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
3	杯(H)	12.5 — 5.1 ㊥12.7	¾個体。 南壁直下床直及び埋土。	㊦。口縁端部やや尖る。外面削りは乾燥時に行ない弱い。ナデは布状擦痕残る。	㊨砂粒多く、器面ややザラつく。普通。㊩硬調で、土師器としては異例の焼締。㊫器面淡橙褐色。断面灰色。㊬内面ややみがき耗。二次火熱を受けた可能性あり。
4	杯(H)	13.7 — 5.5	ほぼ完形。 北壁直下の床直。	㊦。受部不明瞭で、上側に沈線を巡らし内側にもアテ具状の2条線残る。	㊨細礫・ベンガラ・黒色泥粒等夾雑。杯類としては粗い。㊩やや軟調O。㊫淡茶褐色基調。黒色味・黄色味のムラあり。底部に光沢あり。
5	杯(H)	12.7— — ㊥12.8	底部中央を欠く。北壁直下の床直。	㊦。受部上側に粗い沈線。外面削り雑で無調整部分あり。厚手で重量あり。	㊨細礫・パミス含み、輝石散見。やや粗い。㊩やや硬調O。㊫淡茶褐色基調。外面一部に黒色味おびる。
6	杯(H)	(12.4) — 5.9 ㊥(12.8)	⅓個体。 竈内。	㊦。受部の突出が強い。削りやや粗い。口縁内面のナデは、布状擦痕が残る。	㊨砂粒やや多く、石英・角閃石を含む。やや粗い。内面化粧粘土使用。㊩硬調O。焼締。㊫淡赤褐色。底部淡褐色。㊬竈内出土だが、二次火熱は受けていない。
7	杯(H)	(12.3)— — ㊥(13.2)	¼個体。 埋土。	㊦。口縁部の内彎強く、端部やや尖る。削り粗い。ナデやや雑で、内面に凹凸。	㊨粗礫多く、石英目立つ。粗い。㊩やや硬調O。良好。㊫淡赤褐色でほぼ一様。内面白色味が強い。
8	杯(H)	(11.7) — 5.9	⅔個体。 南壁下床直。	㊦。底部に原因不明の凹凸あり。外面口縁下半無調整。内面ナデは工具使用。	㊨砂粒・細礫多い。ベンガラ散見。粗い。内面化粧粘土使用か？㊩やや硬調O。㊫淡橙褐色。外面は斑状に淡褐色部分がある。
9	杯(H)	(13.7)— — ㊥(14.0)	図示部の⅙。 竈内と埋土の2片が接合。	㊦。外面削り細かい。内面ナデは工具痕が残る。厚手。	㊨砂粒多く、輝石・パミス散見。内面化粧粘土使用か？㊩やや軟調O。㊫暗褐色。内面は口縁部黒褐色、底部は淡赤褐色。㊬二次火熱を受ける。内面の剥落進む。
10	鉢(H)	(10.0)— — ㊥(11.5)	図示部の⅙。 竈内。	㊦。内面に接合痕顕著。胴部削りは強く器面に段を残すが、上半は無調整。	㊨砂粒多く、輝石・石英も目立つ。㊩やや硬調O。㊫暗褐色。内面上半は赤色味が強い。㊬竈内出土であるが、二次火熱は受けていない。口縁内端若干磨耗。
11	鉢(H)	(13.0)— — ㊥(14.4)	¼個体。 埋土。	㊦内面に幅広の工具痕。外面胴部無調整、底部鋭い削り。	㊨砂粒多い。パミス・ベンガラ散見。やや粗い。㊩やや硬調O。㊫茶褐色。断面灰褐色。
12	鉢(H)	(12.9)— 6.4 ㊥(14.0)	口縁部⅓、底部¾。 埋土中の10片接合。	㊦。外面はナデに近い削りで平滑。口縁部内面に斜位、外面上端に横位の研磨。	㊨粗砂・石英・輝石含む。やや緻密。㊩やや軟調O。㊫暗褐色～茶褐色。一様でない。㊬底部内面に凍てハゼと思われる剥落多い。
13	鉢(H)	(11.5)— 5.5	⅓個体 埋土。	㊦。削りやや粗い。内面は丁寧なナデの上に斜位の研磨。	㊨砂粒やや多く、輝石・パミス散見。やや緻密。㊩硬調O。若干焼締。㊫淡橙褐色で断面まで一様。

6区10号住居址出土遺物観察表

No.	器形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備考
14	鉢(H)	11.9-7.8-8.8 (胴)12.6	口縁～胴下半の¼を欠く。 埋土。	(輪)。底部無調整。外面削りは不規則で弱い。内面ナデは木口状の粗い擦痕残る。	(胎)細礫多い。石英散見。やや粗い。(焼)やや軟調O。(色)茶褐色。内面は幾分赤色味をおびる。(他)内面底部縁辺と頸部が著しく剝落し、こね鉢状の使用が考えられる。
15	鉢(H)	(12.0)－　－ (胴)(11.0)	図示部の⅓。 埋土。	(輪)。内面ナデは、幅広の工具痕が残る。外面不明瞭。	(胎)砂粒含む。モグサ質の軽量の粘土。輝石・石英散見。やや粗い。(焼)O。(色)白色味の強い淡褐色。外面は暗い。(他)二次火熱の影響著しく、外面の剝落進む。
16	壺(H)	(胴)(15.0)	底部完存、胴下半⅓。	(輪)内面横位ナデで長い工具痕が縦位に残る。外面削り雑。	(胎)砂粒・石英多く、やや粗い。内面化粧粘土使用。(焼)O。(色)淡褐色。上半は橙褐色。底部黒色。(他)二次火熱を受ける。
17	鈕付き土製円盤	(径)6.4	鈕欠く、ほぼ完形。 埋土。	歪みのある不整円形の盤に、アーチ状の鈕取付け。上面に斜放射と円の沈線。下面は雑なナデ。	(胎)砂粒若干含み、石英散見。やや緻密。(焼)やや硬調R。焼締。(色)淡褐色～灰褐色一様でない。(他)二次火熱を受けた可能性あり。下面にススの薄い付着物あり。
18	鈕付き土製円盤	(径)3.6	完形。 埋土。	17にほぼ同巧。沈線文様は不明瞭だが、斜放射のみか。鈕は焼成前につぶれる。	(胎)砂粒を含み、石英・輝石散見。やや粗い。(焼)やや硬調R。(色)淡褐色。橙色味をおびる部分あり。(他)器面の磨耗少なく、使用痕認められず。
19	高杯(H)	(輪)上3.5 下11.7	図示部のうち裾部½欠く。 竈内と埋土が接合。	(輪)脚部内面は無調整、外面は細かな削り。杯部の内面は削りに近い磨き。	(胎)細礫・石英・輝石等を含み、杯類としては粗い。(焼)硬調Oで強い焼締。(色)淡褐色基調。橙色味・黒色味をおびる部分あり。(他)破損後に二次火熱を受ける。
20	甕(H)	13.3-6.8-17.8 (頸)12.1　(胴)14.8	ほぼ完形。 埋土中の約20片が接合。	(輪)。接合痕・凹凸が残る。外面削りは半乾き状態で行なう。内面はナデで平滑、板状の圧痕が残る。	(胎)砂礫の混入やや多い。パミス・輝石・石英散見。(焼)やや軟調O。(色)茶褐色～黒褐色で、一様でない。(他)弱い二次火熱を受ける。
21	甕(H)	15.0-7.2-29.3 (頸)12.5～13.1 (胴)20.5	ほぼ完形。 埋土中の数十片が接合。	(輪)。接合痕顕著。底部は上げ底状で、周縁のみ削り。外面削りは器面に光沢。	(胎)細礫・石英・パミス・輝石含む。やや粗い。(焼)やや硬調O。大型品としては良好。(色)淡褐色基調。内面は暗い。一様でない。
22	甕(H)	18.2-8.2-36.6 (頸)15.6　(胴)26.2	胴部一部欠き ほぼ完形。 埋土中の数十片が接合。	(輪)胴下位に合わせ痕。外面削りは半乾き状態。内面ナデは上半でやや粗い。	(胎)粗砂・パミスやや多い。石英散見。気泡混入する。やや粗い。(焼)やや軟調O。(色)淡褐色～暗褐色。一様でない。(他)二次火熱受ける。外面胴中位が帯状に磨耗。
23	甕(H)	15.0-7.3-26.8 (頸)13.9　(胴)25.5	胴部一部欠き ほぼ完形。 埋土中の数十片が接合。	(輪)外面削りは下半で強く、上半著しく弱い。内面ナデ粗く木口状の擦痕残り、接合痕の凹凸残る。	(胎)砂礫やや多く、石英・パミス・輝石を含む。やや粗い。(焼)やや軟調O。(色)上半淡褐色、下半淡褐色。(他)重量である。二次火熱受ける。外面上半に竈粘土の付着が顕著。



第159図　6区17号住居址

6区　17号住居址

位　置　A－5グリッド

形　状　各辺の長さのまちまちな、不整形である。

方　位　N－125°－E

面　積　15.1㎡

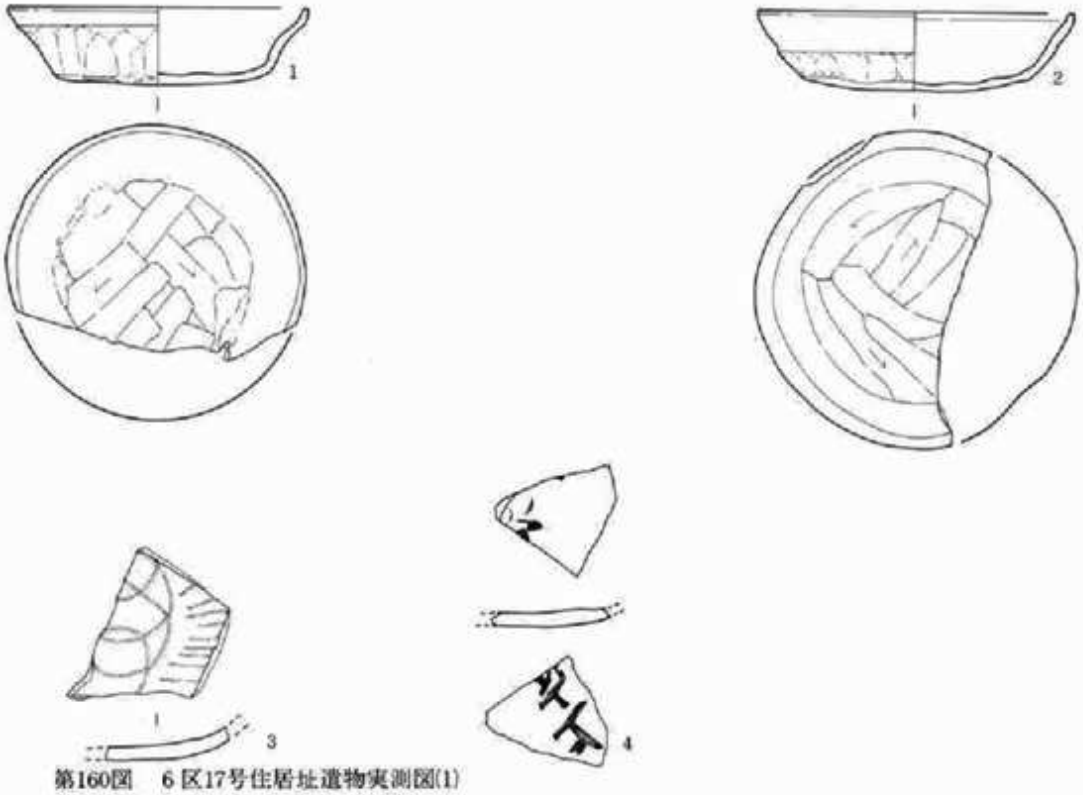
壁　残存壁高は25cm前後で、下端の立ち上がりはきわめて緩やかである。

床　面　やや軟弱だが、水平で平坦な床が残存する。

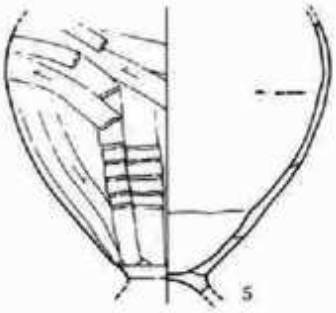
ピット　4本の主柱穴を検出した。各柱穴は四隅の壁直下にあるが、西隅の柱穴のみ、辺の長さと逆に、北東側へズレていた。床面からの深さは25cm前後で、広い平面形に比して浅い。

竈　南東壁の南寄りにある。燃焼部は壁外で、火床は住居床面より7cm低い。燃焼部と煙道は強い段で画されている。煙道は長く、壁より160cm張り出し、住居主軸より10°北側へよじれている。

重　複　16住・18住。



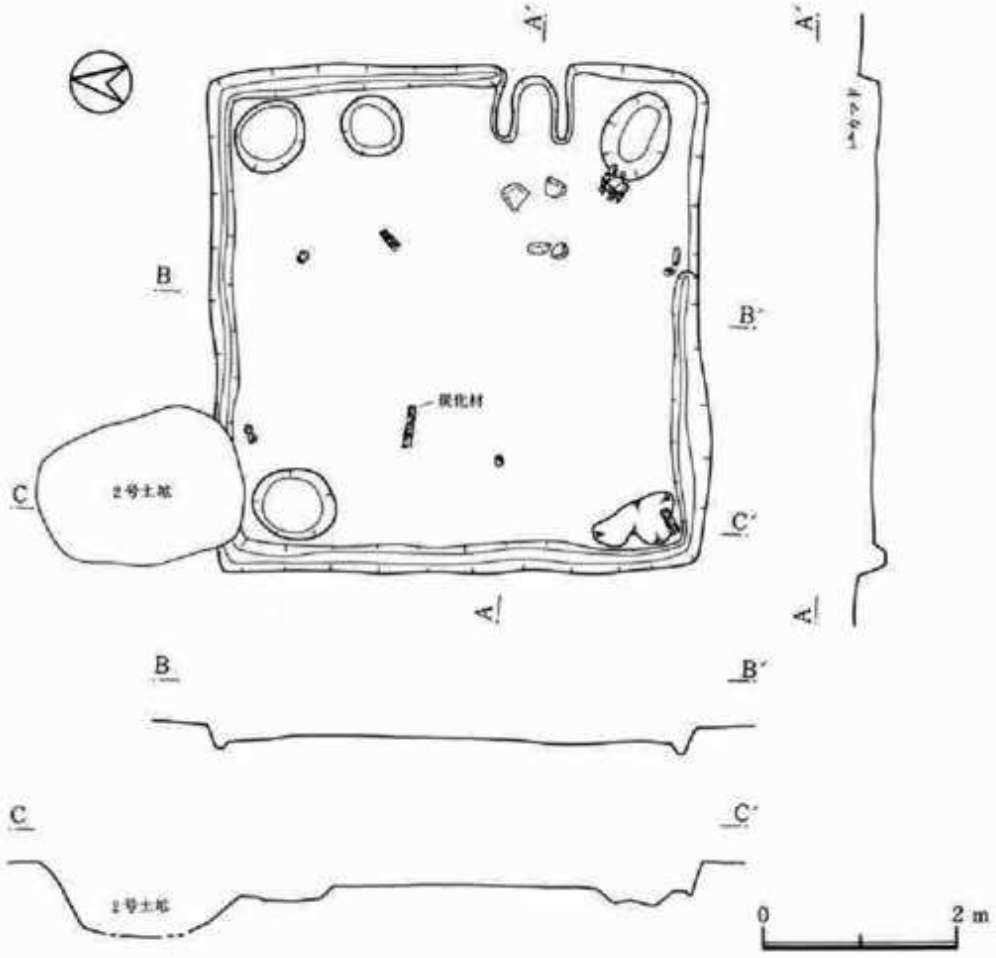
第160図　6区17号住居址遺物実測図(1)



第161図　6区17号住居址遺物実測図(2)

6区17号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	杯(H)	11.7-7.9-3.2	口縁部の⅓を欠く。 埋土。	輪。口縁部外面無調整で指頭状の凹凸。端部は強いナデ。内面のナデはやや雑で、凹凸が残る。	胎粗砂・パミス・輝石を含む。普通。焼やや軟調O。焼きムラあり。色淡褐色。外面は黒色味をおびる。
2	杯(H)	12.2-8.9-3.3	⅗個体。 西側柱穴内。	輪。口縁部上半に強いナデ。底部は乾燥状態での削りで、磨きに近い。内面丁寧なナデで平滑。	胎細砂・雲母細片を含む。精緻。焼やや軟調O。色淡褐色。部分的に暗いムラがある。他全体に歪みが強く、口径・器高不安。
3	杯(H)		底部破片。 埋土。	輪。内面ナデで平滑に仕上げた後、ラセン状と放射状のやや雑な暗文。外面雑。	胎砂粒やや多く、輝石散見。やや緻密。焼やや軟調O。色内面淡褐色。外面暗褐色～黒褐色。他本住居からは、別個体の暗文土器小破片が出土している。
4	杯(H)		底部小破片。 埋土。	輪。扁平な底部片で削り、ナデともに丁寧。見込中央に指紋が残る。	胎焼2に近い。色淡褐色。断面は白色味が強い。他内外面に墨書あり。外面は「上家」と思われる。内面は墨痕が薄く不明瞭だが、二字以上記されている。
5	台付き甕(H)	胴(16.8) 台上(4.0)	胴部中位⅓、下位～台部½	輪。胴下位に合わせ痕。外面削りは息長く、鋭い。	胎粗砂やや多く、輝石散見。やや緻密。焼やや軟調O。色淡褐色～暗褐色で一様でない。他破損後に二次火熱を受けている。内面は剥落すすむ。
6	甕(H)	(19.7)－　－ 頸(17.8) 胴(20.8)	口縁部⅓、胴部上半⅓。 竈内及び埋土の14片接合。	輪。口縁部のナデは雑で、頸部に接合痕残る。外面削りは丁寧。内面ナデは木口状擦痕あり。	胎粗砂若干含み、輝石散見。緻密。焼やや軟調O。色淡褐色。内面は橙色味をおびる。他内面頸部～胴部にかけて、油煙状のスス付着顕著。



第162図　6区19号住居址

6区　19号住居址

位　置　A・B－6・7グリッド

形　状　一辺の長さ5.1mで、各隅が直角に曲がる整美な正方形を呈す。

方　位　N－97°－W　　**面　積**　25.3m²

壁　残存壁高15cm前後と浅いが、垂直に近い立ち上がりをしている。

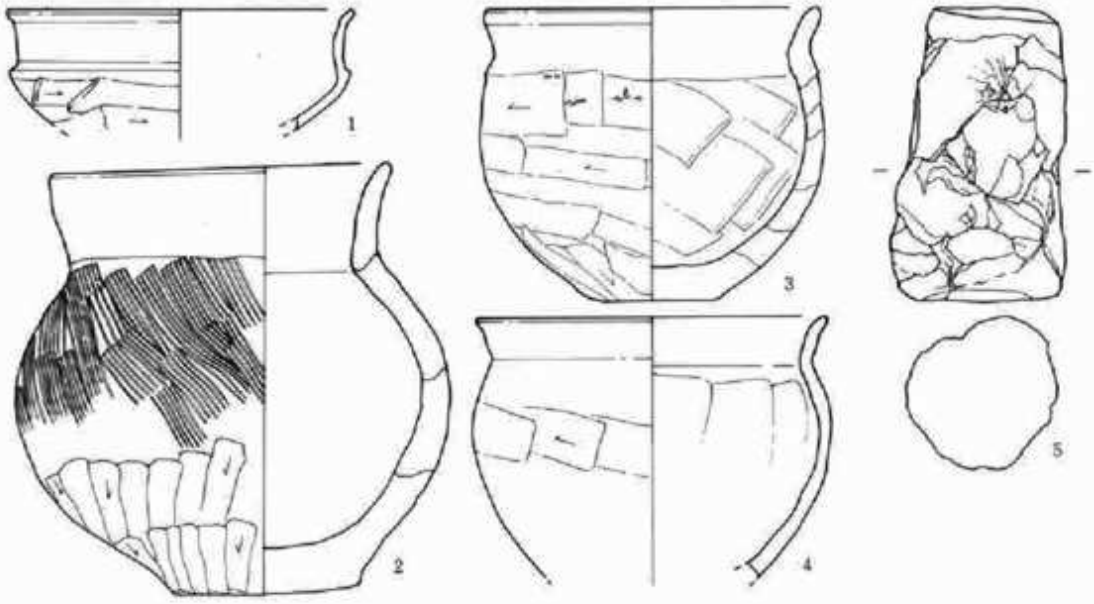
壁　溝　断面U字状で、竈下と貯蔵穴週辺を除いた壁直下から検出された。床面からの深さは6～10cmで、形状は一定している。

床　面　踏み固めが強く明瞭であった。壁際が若干浅くなる傾向がある。

ピット　四隅の壁直下と、東壁下北側の5本を検出した。南東隅のピットは、深く、底面は平坦で、位置からも貯蔵穴と思われる。他の4本は、床面からの深さが10～15cmと浅く、不明瞭なピットであり、柱穴とは断定できなかった。

竈　東壁の南寄りにある。燃焼部は住居内にあり、火床は住居床面と同レベルであった。竈前面の床面には、袖石と思われる礫があり、石組の焚き口だったことが想定できる。袖には粘土まじりの構築材を使用していた。煙道の壁外張り出しは認められない。

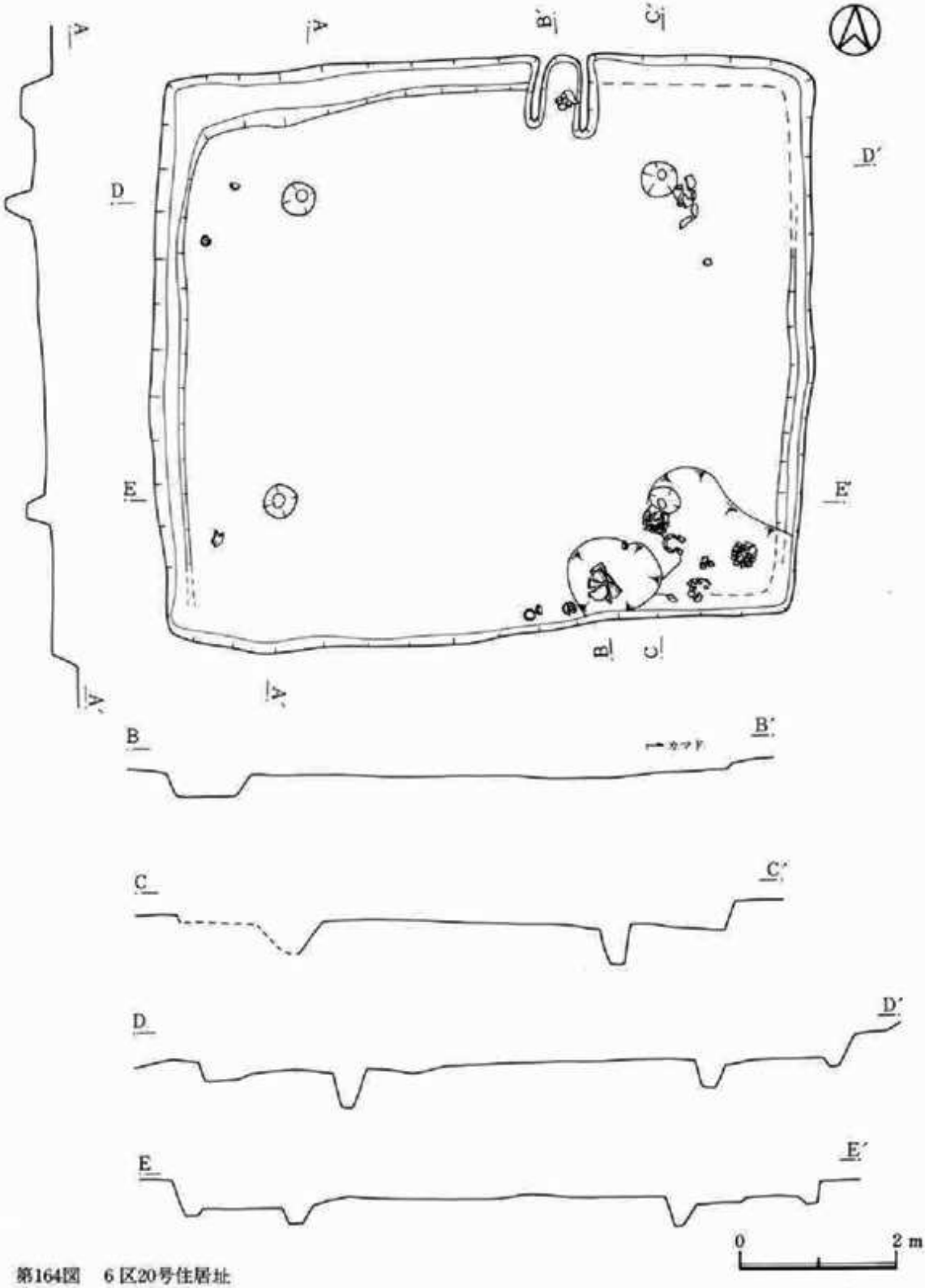
その他　住居内の全域より、炭化材を出土した。焼失住居である。



第163図　6区19号住居址遺物実測図

6区19号住居址出土遺物観察表

No.	器形	計測値 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備考
1	杯(H)	(13.4)— —	図示部の¼。 埋土。	口縁部は強く外反。削り強く細かい。内面丁寧なナデで平滑。口縁部は布状擦痕。	⑭細砂含む。粗砂・ベンガラ散見。やや緻密。⑮やや硬調O。⑯淡橙褐色。外面暗褐色のムラ多い。
2	小型甕(H)	13.3-7.1-16.6 ⑫12.2　⑬16.8	口縁端部½欠くほぼ完形。 貯蔵穴上の床面レベル。	⑭。体部上半は粗い刷毛目。下半は磨きに近い削り。内面ナデ雑。厚手で重量。	⑭砂粒多い。輝石・石英等の混入多い。やや粗い。⑮やや硬調O。厚い器面全体にムラなく良好。⑯淡赤褐色～暗褐色で一様でない。⑰二次火熱受ける。
3	小型甕(H)	(13.0)-4.5-10.7 ⑫(13.2)	上半の½を欠く。 竈南脇床直。	⑭。外面削り細かく弱い。内面に板状の圧痕多く、器面窪む。口縁部布状の擦痕。	⑭粗砂多い。細礫・石英等混入しやや粗い。⑮やや硬調O。⑯淡褐色～暗褐色で一様でない。⑰二次火熱を受ける。外面の剝落進む。
4	小型甕(H)	(13.6)— — ⑫(12.4) ⑬(13.8)	図示部の⅓。 竈周辺埋土。	⑭。外面頸部に指頭痕状の窪みあり、内面縦位のナデ。平滑さ欠く。削り弱い。	⑭⑮3にほぼ同じ。⑯内面光沢のない黒色。外面淡褐色～暗褐色。一部桃色味をおびる。⑰強い二次火熱を受け、外面の脆弱化著しい。
5	土製支脚	⑭5.5～6.9 ⑫11.2	完形。 埋土。	粘土塊をつぎ合わせたようなきわめて雑な造り。上下端のみナデ調整を施す。	⑭砂粒含むが、他の混入物少ない。土器製作も充分可能な緻密な粘土。⑮やや軟調O。⑯黄色味をおびた淡褐色で一様。⑰二次火熱の影響少ない。



第164図　6区20号住居址

6区　20号住居址

位　置　D－5・6グリッド

形　状　長軸8.3m、短軸7.3mの横長長方形を呈す。本遺跡検出の98軒の竪穴住居址中、最も規模が大きい。

方　位　N－2°－E　　**面　積**　59.9㎡

壁　残存壁高36～28cmで、広大な規模に比して浅い。下端では緩やかに立ち上がり、上半では垂直に近い立ち上がりをしていた。

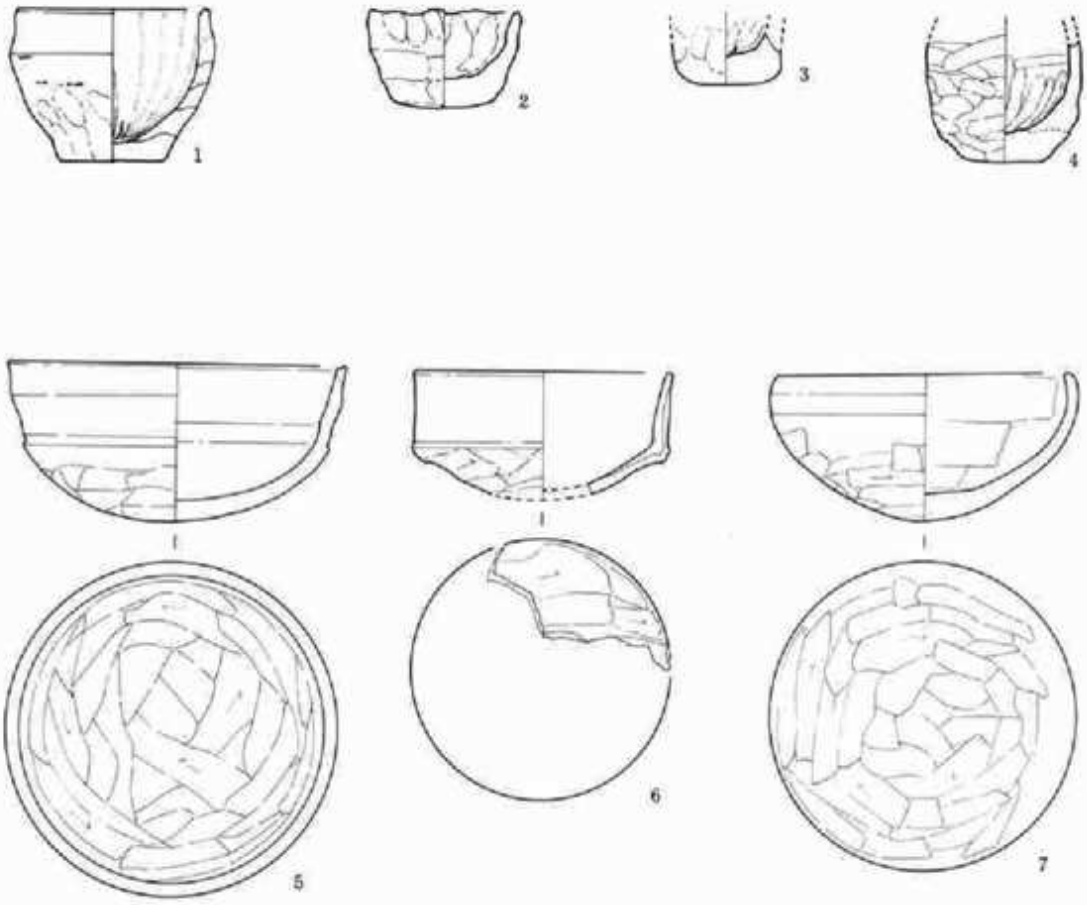
壁　溝　断面U字状で、竈下を除いて全周していたものと思われる。北東隅と南壁下は、攪乱や床面の掘り過ぎのため、壁溝の幅や形状は不明だが、床面からの深さは10～8cmと一定している。

床　面　全体に貼り床が施され、住居中央は若干踏み固められていた。壁際は軟弱で不明瞭であった。比較的水平で、平坦な床である。

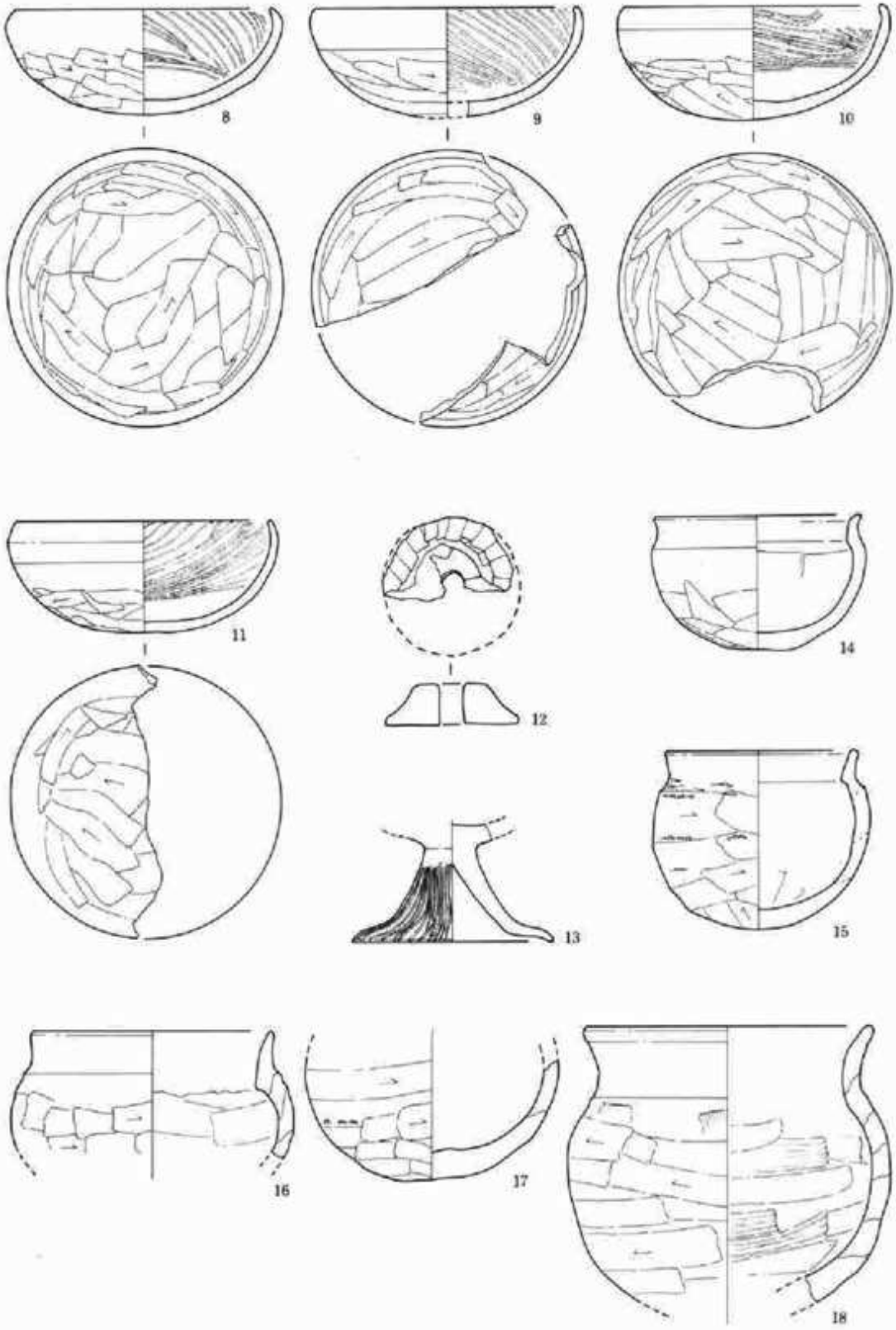
ピット　4本の主柱穴を検出した。住居四隅からの対角線上に、概ね配置している。床面からの深さは、南西隅のピットは25cmと浅く、他は36～40cmと一定している。また、南壁下東寄りには、床面からの深さ24cmの不明瞭な落ち込みがあり、平坦な底面に密着した状態で土器が出土した。

竈　北壁の東寄りにある。燃焼部は住居内で火床は住居床面より2cmほど高かった。煙道の壁外張り出しは認められない。袖には粘土まじりの構築材を使用していた。

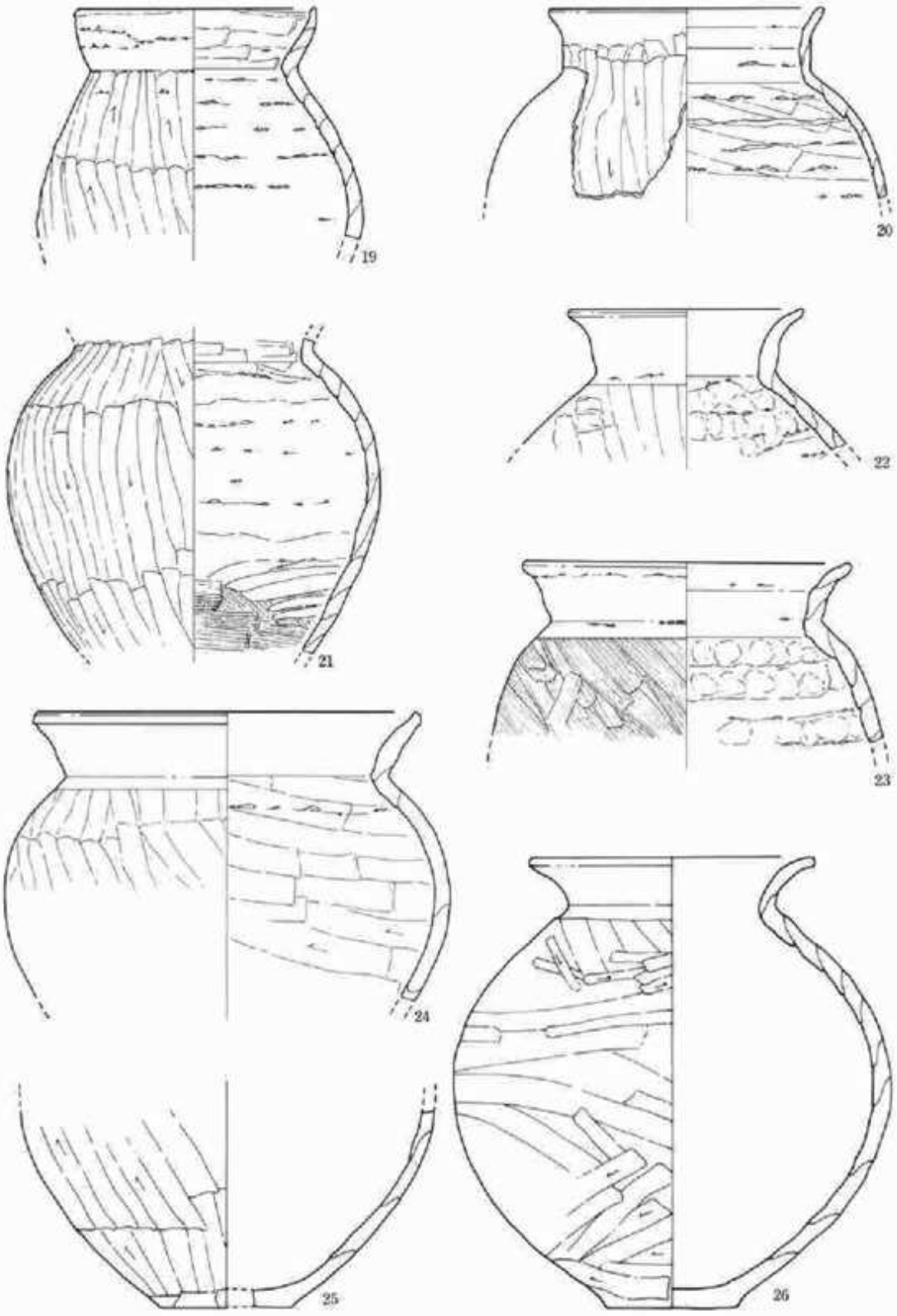
重　複　21住に北東隅を切られれる。



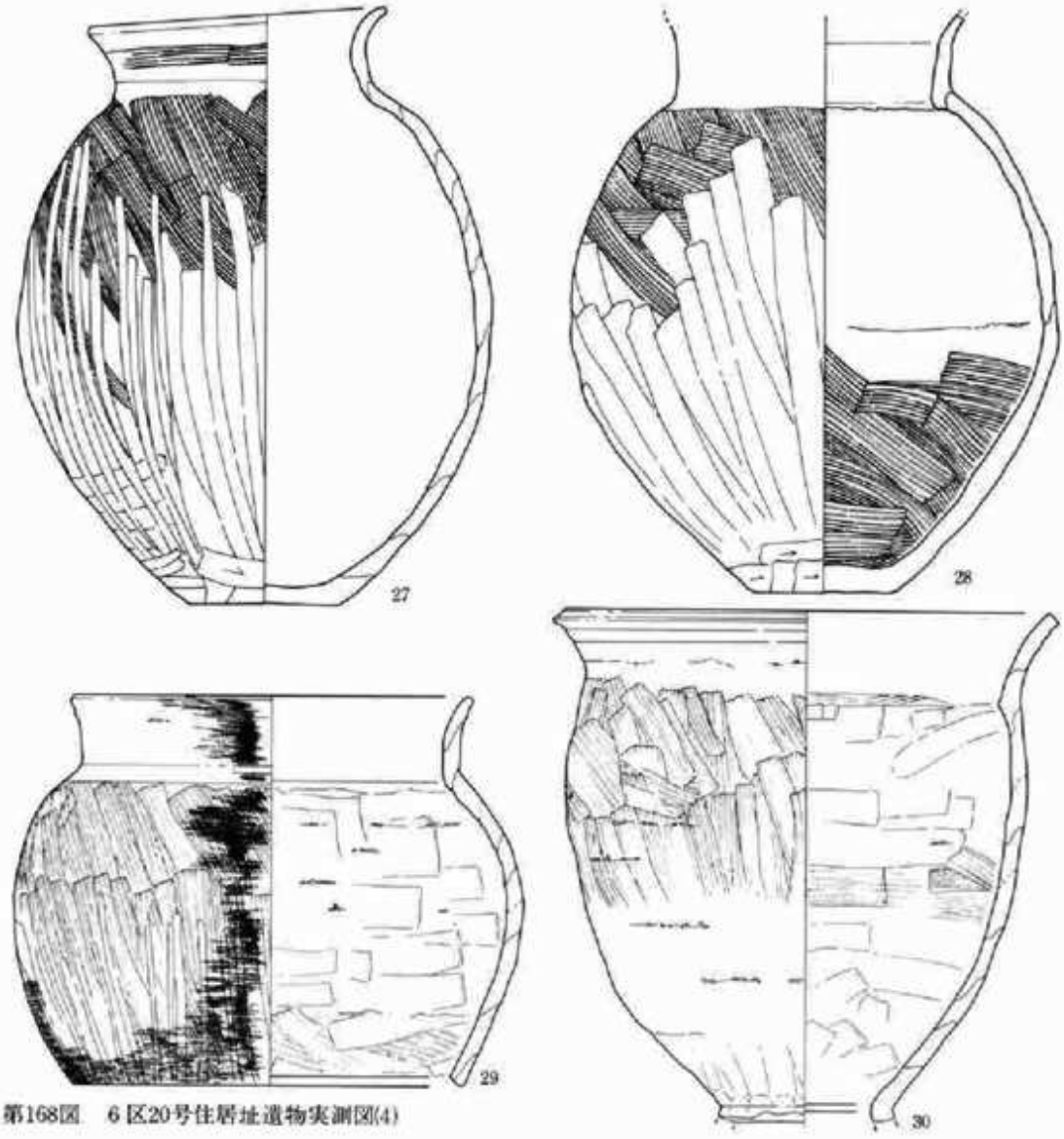
第165図　6区20号住居址遺物実測図(1)



第166図　6区20号住居址遺物実測図(2)



第167図　6区20号住居址遺物実測図(3)



第168図　6区20号住居址遺物実測図(4)

6区20号住居址出土遺物観察表

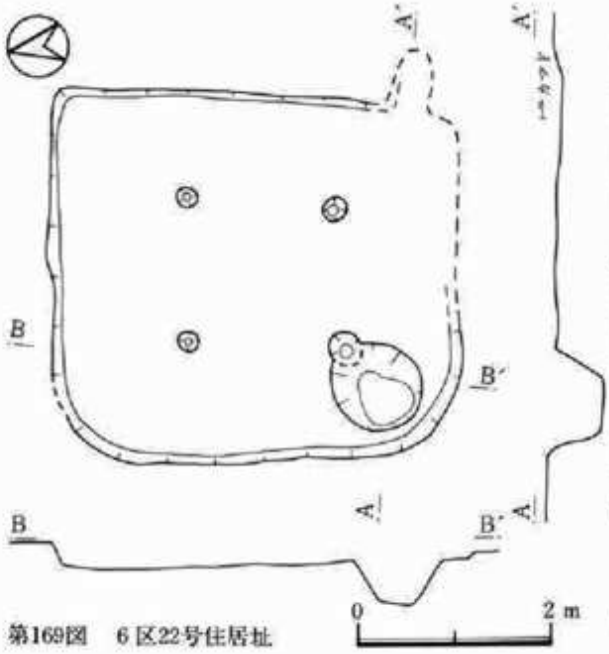
No.	器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	鉢(H)	(7.4)-4.1-6.0	口縁部¼、底部½。南東隅床直。	㊙。外面下半に指頭痕。内面ナデの上に息長い暗文状研磨。	㊙砂粒多く、輝石含む。輝石・石英散見。小型品としてはやや粗い。㊙硬調O。焼締。㊙淡褐色。内面明るい。
2	ミニチュア	(5.8)-(3.6)-3.8	口縁部⅓、底部½。南東側埋土。	㊙。外面横位の粗いナデ。内面無調整で平滑さ欠く。	㊙砂粒やや多い。輝石散見。㊙やや硬調O。㊙淡褐色。底部付近断面は灰色味をおびる。㊙口縁部は波状の歪み強い。
3	ミニチュア	—(3.4)—	図示部の½。北西側埋土。	2にほぼ同じ。	㊙砂粒多く、ベンガラ・石英含む。㊙やや硬調O。㊙淡茶褐色。断面は白色味。

6区20号住居址出土遺物観察表

No.	器形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備考
4	ミニチュア	—(3.2)—	図示部の½。竈内。	整。外面横位・内面縦位の粗い押圧で、器面の凹凸著しい。	胎細礫・石英・大粒のパミス含み、粗悪 焼やや硬調O。色淡褐色、外面一部黒褐色。他二次火熱受ける。割口磨滅。
5	杯(H)	13.3 — 6.1 受12.0	ほぼ完形。西側床直の17片接合。	整。口縁端は内傾し平坦。受部上側に弱い沈線。底部は乾燥状態での弱い削り。	胎土粒を若干含むが、緻密。焼やや軟調O。色淡茶褐色、外面一部黒色味をおびる。他外面に広く油煙状のスス付着。歪みやや大きい。
6	杯(H)	(10.0)— — 受(10.2)	図示部の¼。南西側埋土。	整。口縁端丸い。外面削り強く、器面に凹凸。	胎砂粒やや多い。やや緻密。焼やや硬調O。色淡褐色〜暗褐色。一様でない。他口縁端部磨耗。
7	杯(H)	11.6 — 5.8	完形。南壁直下床上5cm。	整外面下半のみ弱い削り。内面ナデは板状圧痕が残る。	胎輝石・石英等若干含む。緻密。焼硬調Oで焼締。色淡茶褐色〜暗褐色。一様でない。
8	杯(H)	12.3 — 5.2	完形。南壁直下床上5cm。	整。外面強い削り。内面は2本1単位の研磨。両面平滑。	胎砂粒・パミス含む。石英・輝石散見。やや緻密。焼やや硬調O。色淡茶褐色でほぼ一様。
9	杯(H)	(12.4)— —	½個体。北西隅床上5cm。	8に同巧。やや軽量。	胎焼8に同じ。色淡赤褐色。断面は白色味をおびる。
10	杯(H)	12.5 — 5.4	⅔個体。北西隅床上15cm。	8に近い。厚手で重量。底部に鋭い切傷。	胎混入物大粒でやや粗い。焼硬調O。色淡褐色〜黒褐色で一様でない。
11	杯(H)	(12.2)— 5.3	½個体。竈東袖脇床直。	8に近い。削りやや粗い。軽量。	胎8に近い。ベンガラ散見。焼硬調で最良のO。強い焼締。色淡橙褐色一様。
12	紡輪	底(6.4)	½個体。埋土。	側面の内彎著しく、上面と下面との長さの差が大きい。全体に細かな剥落が多い。滑石製。	
13	高杯(H)	台上2.5 下9.7	杯部と裾部½を欠く。埋土及び竈内。	整。外面研磨丁寧。内面ナデやや丁寧。	胎砂粒・輝石含み、パミス散見。化粧粘土使用。焼やや軟調O。色淡橙褐色。面白色味。他破損後二次火熱を受ける。
14	鉢(H)	(9.8)-3.1-6.5 胴10.0	口縁部⅔と胴部¼を欠く。南東隅床直。	整。外面粗い削りだが不明瞭。	胎砂礫やや多く、石英散見。やや粗い。焼O。色淡褐色。外面やや暗い。他二次火熱を受ける。内面の剥落著しい。
15	鉢(H)	9.3 — 8.6 胴10.2	ほぼ完形。竈内火床上。	整削り粗く接合痕残る。内面やや平滑。雑な作り。	胎砂粒・パミスやや多い。輝石散見。やや粗い。焼O。色淡褐色。他二次火熱の影響強い。竈粘土付着。器形に歪み。
16	鉢(H)	(11.4)— — 胴(13.4)	図示部の⅔。南西側埋土。	整外面削り粗く、肩部無調整。内面も雑で平滑さ欠く。	胎細礫・パミスやや多く、輝石・石英散見。粗い。焼やや軟調O。色淡褐色〜暗褐色。他破損後に二次火熱を受ける。
17	鉢(H)	胴(12.0)	図示部ほぼ完存。竈東袖脇床直。	整。削り弱く雑。内面ナデは、板状の圧痕が残る。	胎焼16に近い。色黒褐色。内面淡褐色。他外面に二次火熱を受け、薄いススが付着する。

6区20号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
18	小型甕 (H)	(13.7)－　－ ㊥(12.4) ㊧(15.3)	口縁部½、胴部⅓。 北東側埋土。	㊦。削りやや粗い。内面は木口状擦痕。厚手だが軽量。	㊫砂粒多い。細礫・輝石含む。やや粗い。㊨やや軟調O。焼きムラあり。㊥淡褐色～暗褐色。一様でない。㊦二次火熱。
19	甕(H)	15.3－　－ ㊥13.2 ㊧(21.4)	口縁部⅔、胴部½。北東柱穴南側床直。	㊦。接合痕明瞭。削り・ナデ弱く、器面凹凸。口縁外面無調整、内端に削り。	㊫砂粒多い。輝石・石英散見。気泡含む。やや粗い。㊨軟調O。㊥淡褐色～黒褐色で一様でない。断面は灰色味。㊦二次火熱を受ける。8住に同巧の土器多い。
20	甕(H)	(17.4)－　－ ㊥(15.7)	口縁部⅓、肩部⅙。	㊦。削り丁寧。ナデ幅広で不明瞭。	㊫㊨19に近い。㊥口縁部淡褐色、肩部暗褐色。
21	甕(H)	㊥(15.0) ㊧(23.6)	肩部½、胴部⅓。 埋土。	㊦。胴中位に合わせ痕。削りは下半で息長く鋭い。ナデは下半で丁寧。	㊫㊨㊥19に近い。㊦二次火熱を受ける。外面に弱い光沢あり。
22	甕(H)	(15.0)－　－ ㊥11.4	図示部の¼。北東柱穴南側の床直。	㊦。削り弱く不明瞭。内面無調整で指頭痕残る。口縁部に横位の弱い研磨あり。	㊫砂粒多く、輝石・パミス目立つ。やや粗い。㊨やや硬調O。甕類としては良好。㊥淡褐色で内面・断面は灰色味おびる。㊦口縁内面、磨耗剥落する。
23	甕(H)	22.1－　－ ㊥17.6	図示部の¾。南東隅床直。	㊦外面は木口の削りで刷毛目状擦痕。内面無調整。重量。	㊫粗砂多く器面ザラつく。パミス・輝石含む。㊨22に同じ。㊥暗褐色。内面・断面灰褐色。㊦二次火熱。外面スス付着。
24	甕(H)	(24.5)－　－ ㊥20.2 ㊧(24.5)	図示部の½。北東柱穴南側の床直。	20に近いが、内面ナデは丁寧で、口縁部内端の削りナシ。	㊫㊨20にほぼ同じ。㊥淡褐色、部分的に暗褐色。断面灰色味おびる。㊦二次火熱の影響強く、器面の剥落著しい。
25	甕(H)	－(8.8)－	図示部の⅓。南東側埋土。	㊦。胴中位に合わせ痕。内面粗いナデ。	㊫㊨㊥23に近似する。㊦二次火熱を受ける。
26	甕(H)	18.2-(8.2)- 28.0　㊥12.9 ㊧27.2	½個体。南壁直下東側床直。	㊦。内面肩部に明瞭な接合痕。内面ナデ粗い。削り細かい。	㊫砂粒多い。輝石・石英目立つ。やや粗い。㊨やや軟調O。㊥淡橙褐色～暗褐色一様でない。㊦二次火熱。底部スス付着。
27	甕(H)	15.9-8.4-31.7 ㊥13.9　㊧25.5	胴部¼欠く。南東隅の床上5cm。	㊦。内面木口状の擦痕。外面は木口状擦痕の上に弱い削り。口縁部強いナデ。	㊫砂粒多く、輝石・ベンガラ目立つ。気泡含む。やや粗い。㊨O。㊥淡褐色。外面黒褐色のムラ多い。㊦二次火熱の影響強い。外面部分的にスス付着。
28	甕(H)	－7.8－ ㊥13.0　㊧25.9	口縁部½欠く南西側埋土。	27にほぼ同じ。木口状擦痕強い。	㊫㊨27に同じ。㊥27に近い。やや灰色味をおびる。㊦二次火熱を受ける。
29	甕(H)	21.5－　－ ㊥20.5　㊧27.6	図示部ほぼ完存。北西柱穴西側床上9cm	27にほぼ同じ。外面に棒状工具による削り。	㊫㊨㊥27に同じ。㊦二次火熱の影響強く外面剥落進む。スス付着顕著。口縁端部に細かい割れが多い。
30	甑(H)	27.2－　－ ㊧24.9	ほぼ完形。南壁下東寄りピット底面。	㊦27にやや近い。口縁端部外傾し平坦。内面やや平滑。	㊫㊨27に近い。パミス散見する。㊥27に近い。口縁部外面赤色味をおびる。㊦底部割口・胴内面下半が磨耗。



第169図　6区22号住居址

6区　22号住居址

位　置　D－8グリッド

形　状　南東隅が不明瞭だが、長軸4.2m、短軸3.8mの横長長方形、もしくは台形気味の不整形を呈すと思われる。

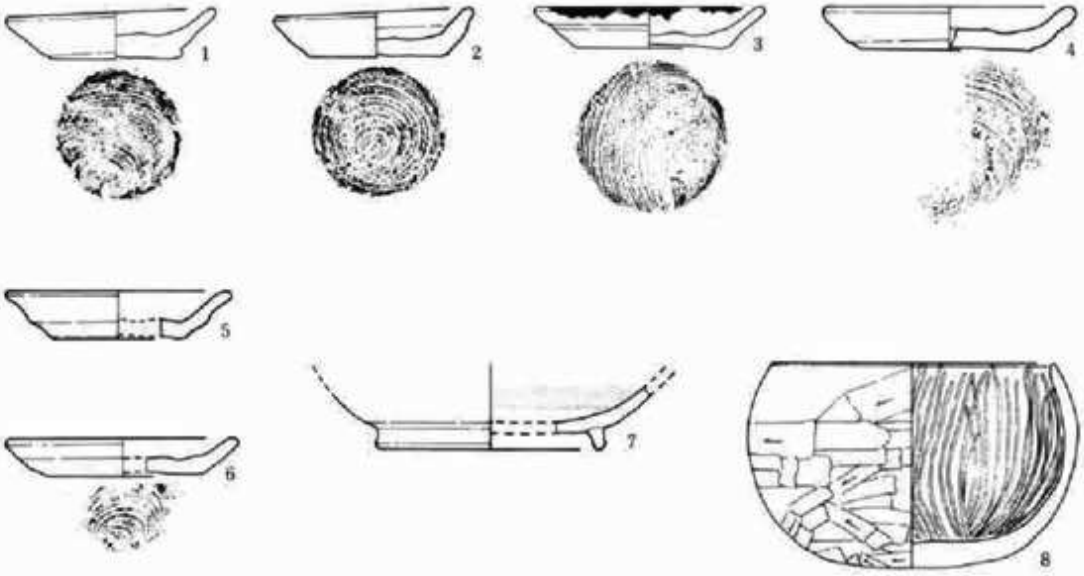
方　位　N－98°－E　　**面　積**　15.2㎡

壁　残存壁高12cm未満で、不明瞭である。

床　面　住居中央のみ若干踏み固められ、他は軟弱であった。北側がやや低い。

ピット　新しい時期の住居には珍しく、4主柱穴を検出した。中央に寄って、柱間が狭いことが特徴である。床面からの深さは20～40cmであった。南西隅に貯蔵穴状のピットがあった。床面からの深さは43cmで、底面は平坦である。また、住居中央にも性格不明のピットがあった。

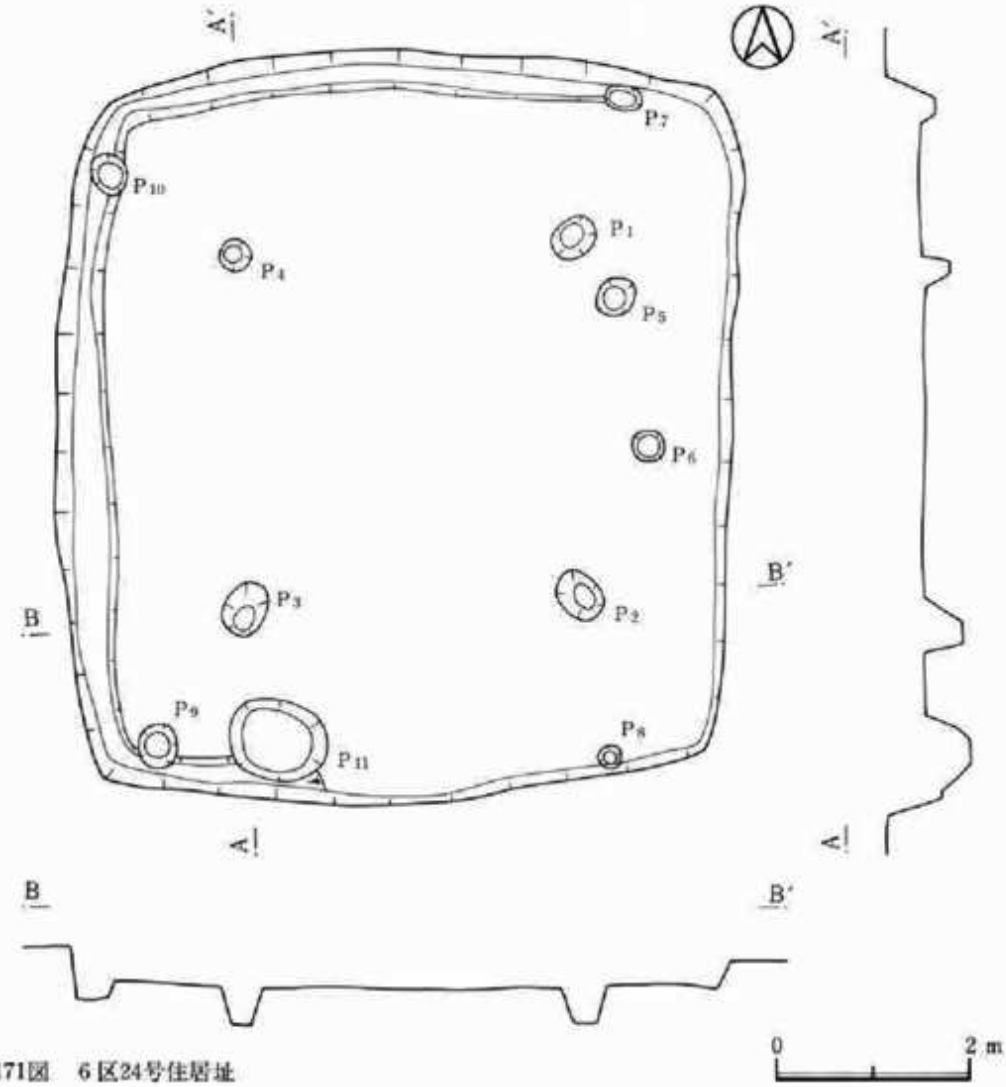
竈　焼土の分布より、東壁南隅にあるものと思われるが、きわめて不明瞭であった。



第170図　6区22号住居址遺物実測図

6区22号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	小　皿	8.2-5.0-2.0～2.3	完形。埋土。	左。ロクロ痕きわめて弱く、シャープさ欠く。見込高く平坦	胎細礫・パミス若干含む。焼やや硬調O 色淡褐色。橙色味・黒色味のムラあり。他タール状のススが、霜降状に付着。
2	小　皿	7.8-4.9-1.6～2.1	ほぼ完形。埋土。	左1に近い。見込の高まり明瞭でない。	胎焼色1に同じ。他付着物1に同じ。口縁部に波状の歪みあり。
3	小　皿	8.9-6.0-1.6	完形。北壁際の床上20cm。	左。見込の高まり小さく、中央やや窪む。薄手で軽量。	胎砂粒・ベンガラ若干含む。焼やや硬調O。若干焼締。色淡褐色。一部暗い。他幅広の燈芯痕状ススが、2ケ所に付着。
4	小　皿	10.1-6.5-1.8	⅔個体。埋土。	左。1の大型品か？口縁外面下端はロクロ痕なし。口縁端部肥厚。厚手で重量。	胎砂礫やや多い。石英・輝石含む。やや粗い。焼やや硬調O。色淡赤褐色。黄色味・黒色味のムラあり。他器面の磨耗ない。
5	小　皿	(8.8)-(6.2)-(1.8)	図示部の½。埋土。	左。ロクロ痕きわめて弱い。	胎焼1にほぼ同じ。色淡橙褐色。断面は白色味おびる。他付着物は1に同じ。
6	小　皿	(9.2)-(6.2)-(1.5)	⅓個体。埋土。	見込中央やや窪むが、4に同巧。	胎焼4に同じ。色淡褐色。断面は白色味が強い。他口縁部歪む。
7	高台付き椀(K)	器(8.8)	図示部の¼。埋土。	右貼。口縁下端の削りは不明瞭。高台端部やや尖る。釉漬掛。	胎東濃系？精緻。焼硬調R。色地は白色に近い灰白色。釉は灰黄色で、内面降灰釉は緑色味をおびる。
8	鉢(H)	(11.0)—7.8 胴(12.8)	口縁部の¾を欠く。北壁際で2に接する	胴削りは細かく丁寧。研磨は幅太で、やや雑。	胎粗砂・パミスやや多く、石英目立つ。やや粗い。焼やや硬調O。色淡褐色～黒褐色。一様でない。他混入品。



第171図　6区24号住居址

6区　24号住居址

位　置　A'－8・9グリッド

形　状　長軸7.8m、短軸7.0mの不整長方形を呈す。本遺跡中、20住に次ぐ大きさの住居である。東辺以外の3辺のふくらみが強い。

方　位　N－2°－E　　**面　積**　47.7m²

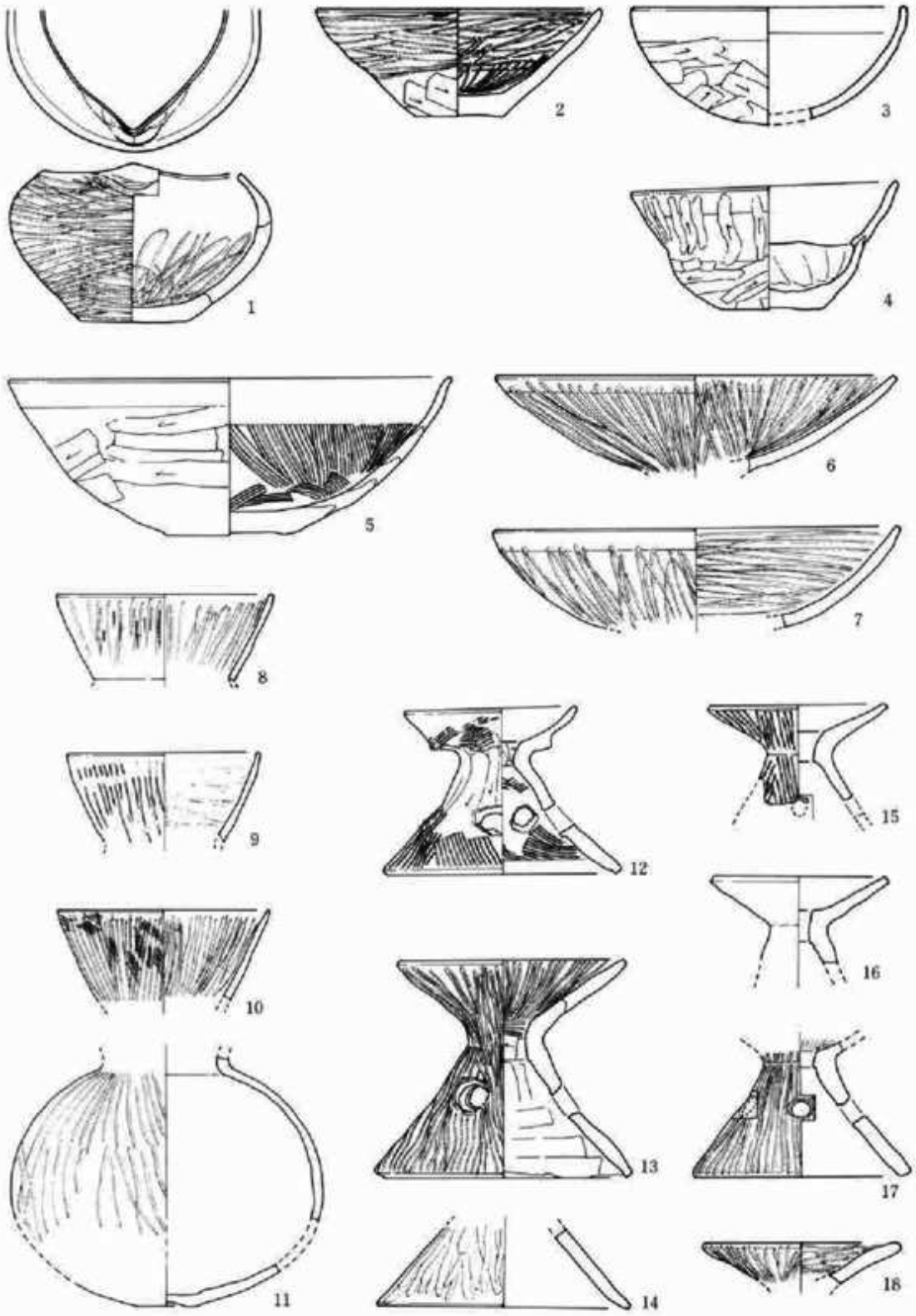
壁　残存壁高47～31cmで、立ち上がりの形状は一様でない。

壁　溝　断面凹字状で幅広の壁溝が、北・西壁下と南壁下西隅に巡っている。床面からの深さは14～17cmで、不明瞭な北壁下東側を除き、一定している。

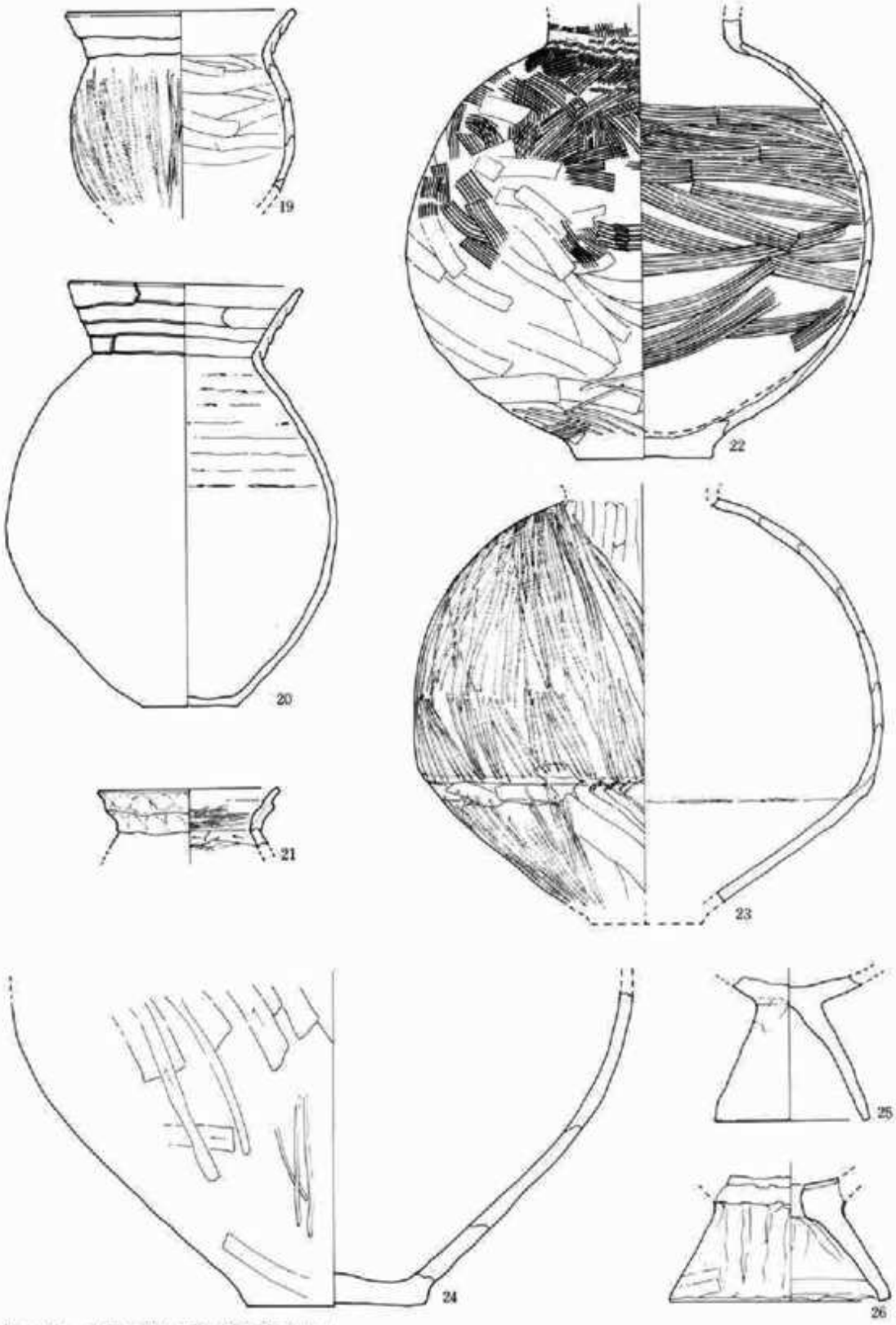
床　面　住居中央には明瞭な踏み固めがあり、壁際より6～10cmほど低くなっている。地山傾斜とは反対に、東側が低くなる傾向があった。

ピット　4主柱穴と、6本の柱穴状ピットを検出した。床面からの深さ(cm)は、P_1→37　P_2→37　P_3→38　P_4→28　P_5→31　P_6→18　P_7→17　P_8→27　P_9→31　P_{10}→14である。主柱穴(P_1～P_4)は住居四隅からの対角線上にある。壁際の4本(P_7～P_{10})は、壁柱穴状であるが、配置に規格性がない。P_5・P_6は性格不明だが、補助柱穴状である。なお南壁下には遺物の豊富なP_{11}を検出した。床面からの深さは44cmで、底面は擂鉢状である。本住居に確実に伴うかは、調査時の所見では明らかにし得なかった。

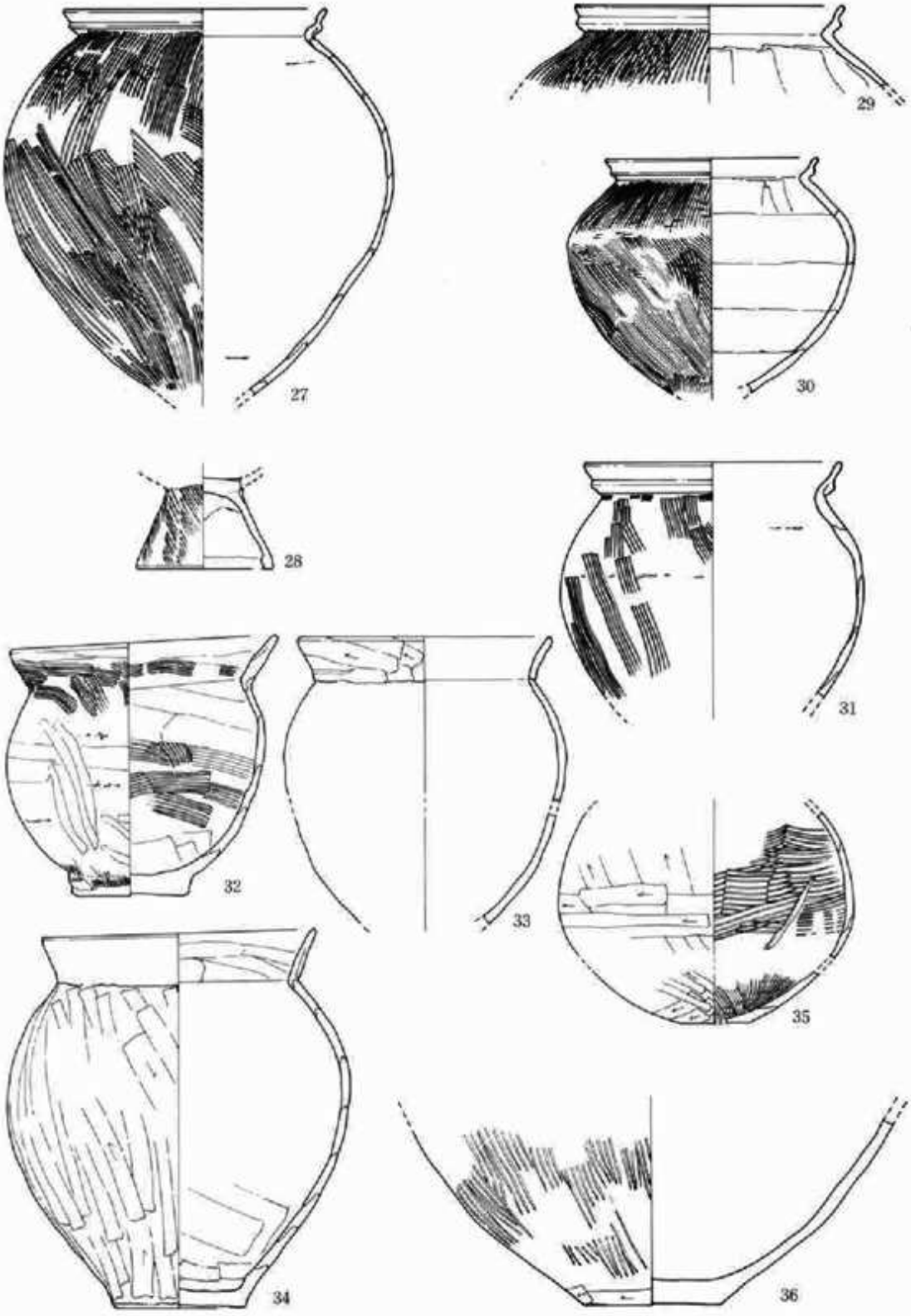
炉　P_1の南西80cmの地点に、20cm×10cmの平面楕円形に、床が著しく焼けており、地床炉と想定できる。



第172図　6区24号住居址遺物実測図(1)



第173図　6区24号住居址遺物実測図(2)



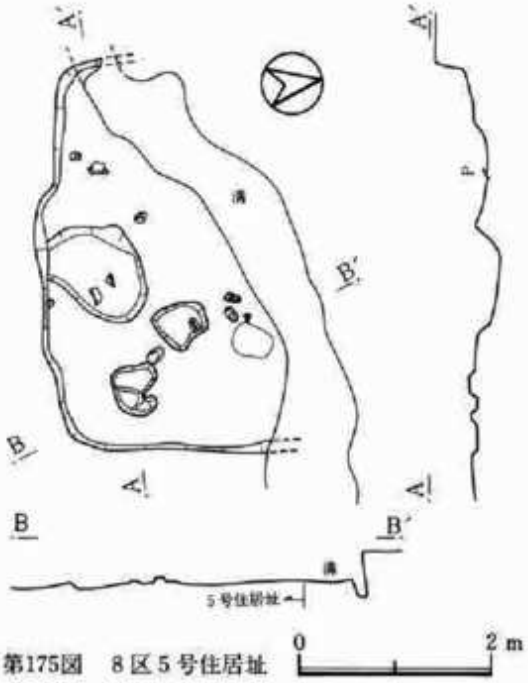
第174図　6区24号住居址遺物実測図(3)

6区24号住居址出土遺物観察表

No.	器形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備考
1	片口鉢(H)	9.4-5.0-6.9	口縁⅓欠く。南西側埋土の13片接合。	輪。片口部は指頭の成形。全面研磨で丁寧な作り、内面上半に磨き残し。	胎砂粒・輝石・石英やや多い。やや粗い 焼やや硬調O。色淡赤褐色。外面に黒色のムラ。弱い光沢あり。他口縁端部が若干磨耗。
2	鉢(H)	13.4-4.1-4.9	¾個体。住居全域に散らばる埋土14片接合。	輪。底部除く全面研磨。外面下半は研磨の後に弱い削り、平滑に仕上げる。	胎焼1に近い。色淡褐色～淡橙褐色。内面に弱い光沢あり。
3	椀(H)	(12.9)－　－	図示部の⅓。P_{11}内。	輪。削りやや粗い。内面は板状工具のナデ。口縁のナデ強い。	胎細礫・石英やや多い。焼やや硬調O。色淡茶褐色。内面淡褐色、黒色の広いムラあり。
4	坩(H)	12.6-4.7-5.7 胴9.2	完形。	輪。外面粗く弱い削り。内面板状工具の雑なナデ。平滑さ欠く。底部厚く重量。	胎砂粒・細礫含む。石英・雲母散見。小型品としては粗悪。焼硬調O。焼締。色淡赤褐色。内面黒褐色部分あり。他口縁部外面スス付着。内面一部剥落する。
5	大鉢(H)	20.6-5.5-7.3	口縁⅓欠く。P_{11}内。	輪外面粗い削り。内面ナデは木口状の擦痕が残る。	胎砂粒多い。輝石・石英散見。やや粗い 焼やや軟調O。色淡褐色～暗褐色。他器面に凍てハゼあり。
6	高杯(H)	(18.7)－　－	図示部の¼。埋土。	輪。横位ナデの後、全面丁寧な研磨。	胎焼色2に同じ、他口縁部内面上方が帯状に磨耗する。
7	椀？(H)	(19.0)－　－	図示部の¼。住居中央埋土	輪。横位の強いナデの後、全面研磨。外面研磨は鋭い。	胎焼3に近い。パミス散見。色淡褐色。弱い光沢あり。断面中央暗褐色。他口径不安。高杯の可能性あり。
8	坩(H)	(10.2)－　－ 胴(6.6)	図示部の¼。住居中央埋土	輪。頸部外面に沈線巡る。研磨は鋭く、擦痕が残る。	胎砂礫・石英やや目立つ。薄手の土器としては粗い。焼硬調O。強い焼締。色淡褐色。内面研磨痕は灰色味をおびる。
9	坩(H)	(9.0)－　－	図示部の⅓。埋土。	輪。口縁端部平坦。全面研磨、外面擦痕鋭い。内面平滑。	胎細礫・輝石・泥粒散見。普通。焼やや軟調O。色淡褐色。一部橙色味をおびる。断面灰色味をおびる。
10	坩(H)	(9.8)－　－	図示部の¼。西側埋土。	輪口縁端部尖る。研磨丁寧で全面平滑に仕上げる。	胎焼9に近い。混入物少なくやや緻密。色淡褐色で断面までほぼ一様。外面に弱い光沢あり。
11	壺(H)	－ 3.2 － 口(7.8) 胴(19.4)	胴部⅓、底部完存。住居中央から東側に散在する24片	輪。外面縦位研磨で平滑。内面指頭のナデだが、凹凸あり、やや平滑さ欠く。	胎。粗砂多い。石英・パミス散見。やや粗い。焼やや軟調O。色淡茶褐色。内面淡褐色～暗褐色。断面は部分的に灰色味をおびる。他底部付近若干磨耗する。
12	器台(H)	(8.0－ 7.7 脚上3.3 下11.3	口縁部上半の½欠く。P_{11}内。	輪。内外面に木口状工具の雑なナデ。脚部4窓は不揃い。	胎細砂多い。輝石等、微細夾雑物含む。精選され、やや緻密。焼やや硬調O。色淡褐色。一部黒褐色のムラ。

No. 器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
13 器　台 (H)	10.7 － 10.1 脚上3.5 下12.2	口縁上半⅓と脚下半⅓欠く	輪。脚上面弱いナデ。他は丁寧な研磨で平滑。脚部窓は3ケで丁寧に穿つ。重量。	胎砂粒含む。やや大粒の石英・細礫を若干含む。普通。焼やや軟調O。色淡褐色基調。橙色味・黒色味のムラあり。脚部外面に光沢。
14 器台または高杯 (H)	脚下(11.8)	図示部の⅓。住居中央埋土。	輪外面粗いナデの後、強い研磨。内面板状工具のナデ。	胎細礫・石英・チャートやや多い。やや粗い。焼やや軟調O。色淡茶褐色。外面に光沢。補端部若干磨耗。
15 器　台 (H)	8.3 － － 脚上3.1	口縁⅓と脚下半を欠く。	輪。口縁端部削り、内面雑なナデ。木口痕は12に近似。	胎焼色12に同じ。他脚部窓は2ケ確認できる。規則的な配置なら、3窓となる。
16 器　台 (H)	(8.4) － － 脚上2.7	図示部の⅓。北側埋土。	輪器面に細かな凹凸。幅広の工具による丁寧なナデ。	胎砂粒若干含む。やや緻密。焼やや軟調O。色淡赤褐色～暗褐色。内面黒褐色で光沢強い。
17 器　台 (H)	脚上3.4 下10.3	図示部ほぼ完存。	輪。外面研磨丁寧。内面ナデは粗い擦痕残る。重量。	胎細砂多い。パミス・輝石散見。やや緻密。焼やや硬調O。色淡橙褐色。内面赤色味が強い。他脚下端部磨耗する。
18 器台？ (H)	9.1 － －	図示部の⅔。	輪。端部平坦。全面丁寧な研磨。	胎12に近い。焼やや軟調O。色茶褐色。断面やや赤色味おびる。天地不明。
19 小型甕 (H)	10.8 － － 頸8.8 胴(10.6)	口縁部⅔、胴部⅓。	輪。外面接合痕顕著で、有段口縁状の外観呈す。口縁下半無調整。研磨粗い。	胎砂粒・パミスやや多い。細礫散見。やや粗い。焼やや硬調O。色淡褐色。暗褐色のムラあり。内面暗い。他部分的にスス付着。
20 甕(H)	15.3-7.0-26.2 頸10.7 胴21.0	完形。	輪。19同様、口縁外面輪積痕を完全に残す。細い粘土紐の輪積で胴部にも凹凸。外面に弱い刷毛目。	胎砂粒やや多く、パミス・石英・輝石散見。19にも近い。焼硬調Oで弱い焼締。色淡褐色～黒褐色で一様でない。内面暗い。断面は灰色味おびる。他二次火熱受ける。外面肩部付近にスス付着多い。
21 坩？ (H)	(8.6)－ － 頸(6.7)	図示部の¼。	輪。指のつまみでS字状口縁を強調。内面研磨は16に同じ。	胎焼16に同じ。色黒褐色で内面に光沢。断面は灰色味をおびる。他16と対になる坩か？
22 壺(H)	－ 8.8 － 頸(12.0) 胴29.3	図示部の⅔。住居中央から北東に散在した床直の50片接合。	輪。胴内面に二ケ所強い接合の段。外面下半ナデ、他は全面雑な刷毛目。頸～肩部刷毛目上に縄文。結節のLR。	胎。砂粒やや多い。細礫・ベンガラ・パミス散見。やや緻密。焼やや軟調O。色淡茶褐色。底部付近黒色。内面灰褐色。他二次火熱受ける。見込と外面胴下半の剝落著しい。外面の剝落した化粧粘土の下に刷毛目あり。多量の破片からの復元で、計測値やや不安。
23 壺(H)	胴29.4	図示部の⅔。住居中央の64片	輪。研磨強く雑。ナデは棒状工具使用。	胎砂粒やや多いが緻密。焼やや硬調O。色淡赤褐色～暗褐色。
24 壺(H)	－ 11.6 －	図示部の¾。北東側42片。	輪。外面強い削り。内面やや平滑。	胎焼23にほぼ同じ。色淡褐色。底部付近黒色味。他外面一部にスス付着。

No.	器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
25	台付き甕(H)	㊟上3.8 下(9.0)	台下半⅔を欠く。	㊟。台端部は素縁で平坦。外面指頭の斜位のナデ。	㊟砂粒やや多い。輝石・パミス散見。㊟硬調O。焼締。㊟やや橙色味をおびた淡褐色。㊟二次火熱を受ける。
26	台付き甕(H)	㊟上5.3 下10.4	図示部ほぼ完存。住居中央の床直。	㊟。25に近い。底部中央に焼成前穿孔。厚手で重量。	㊟㊟25にほぼ同じ。石英散見。㊟淡褐色～黒褐色で一様でない。断面灰色味をおびる。㊟二次火熱の影響強い。
27	台付き甕(H)	16.7 ― ― ㊟14.7　㊟24.3	図示部の⅔。	㊟。胴下半に合わせ痕。刷毛目は1単位12本以上。内面平滑。	㊟粗砂多くやや粗い。㊟軟調O。しまり欠く。㊟外面黒褐色、内面灰褐色でほぼ一様。㊟二次火熱を受ける。
28	台付き甕(H)	㊟上4.8 下8.7	図示部完存。P_{11}内。	㊟。台端部内側に折り返し、平坦。底部は粘土を埋め補修。	㊟砂粒やや多い。細礫・石英散見。㊟硬調O。焼締。㊟淡褐色～淡橙褐色。㊟二次火熱。外面一部スス付着。
29	台付き甕(H)	(16.8)― ― ㊟(15.6)	図示部の⅓。	㊟。刷毛目強い。内面ナデは板状工具で弱く雑。	㊟砂粒・細礫やや多く、石英散見。㊟硬調O。強い焼締。㊟淡褐色。内面は灰色味をおび、外面肩部はやや暗い。
30	台付き甕(H)	(13.2)― ― ㊟(17.8)	口縁⅓、胴部½。	㊟。胴下半に合わせ痕。刷毛目肩部で弱い。内面ナデ雑。外面最大径部分に削り。	㊟砂粒・細礫やや多く、石英・ベンガラ散見。やや粗い。㊟やや硬調O。㊟淡褐色～黒褐色で一様でない。内面明るい。㊟二次火熱を受ける。
31	台付き甕(H)	(16.3)― ― ㊟(14.1) ㊟(19.0)	図示部の⅓。P_{11}内。	30に近い。口縁部の脱き欠く。刷毛目はやや雑。	㊟㊟㊟30に近い。夾雑物は小粒で、胎土やや緻密。㊟破損後に二次火熱を受ける。胴部外面の剥落顕著。外面スス付着。
32	小型甕(H)	11.5～12.5- 5.3-12.2 ㊟10.2 ㊟12.2	上半の⅓欠く。	㊟。雑な作りで、器形の凹凸、歪み著しい。擦痕は木口状で粗い。見込のみ平滑。	㊟気泡の混入多い。砂礫含み、雲母散見やや粗い。㊟やや硬調O。焼締。㊟淡褐色。黒色味のムラあり。内面赤色味が強い。㊟器面の磨耗少ない。
33	小型甕(H)	12.2― ― ㊟10.4 ㊟(13.0)	上半⅔、下半½。	㊟。口縁外面に削り。内面横位、胴外面縦位の研磨で平滑に仕上げる。	㊟砂粒・細礫・パミスを若干含む。やや緻密。㊟やや軟調O。㊟茶褐色で一部黒色味。胴部内面暗褐色。外面弱い光沢。㊟二次火熱受ける。外面下位剥落進む。
34	甕(H)	16.8-8.3-23.6	⅔個体。	㊟。外面削り粗い。ナデも雑で、平滑さ欠く。	㊟砂礫多い。チャート・パミス目立つ。粗い。㊟やや軟調O。㊟淡褐色～暗褐色。断面橙色味おびる。㊟二次火熱。
35	壺(H)	― (4.6) ― ㊟(13.7)	図示部の½。	㊟。外面粗い削り。内面丁寧な幅広の刷毛目。軽量。	㊟粗砂多い。チャート含む。やや粗い。㊟やや硬調O。㊟濁淡褐色。内面やや明るい。㊟二次火熱を受ける。
36	大型甕(H)	― (9.0) ―	図示部の⅓。	㊟。外面縦位の研磨。内面板状工具のナデで、接合痕残る。見込は平滑さ欠く。	㊟細礫・石英・パミスの混入目立つ。やや粗い。㊟やや軟調O。㊟淡褐色、外面一部黒褐色。



第175図　8区5号住居址

8区　5号住居址

位　置　D－1グリット

形　状　南西隅付近が検出できただけで、全容はほとんど不明である。南辺の2.5m、東辺の2.0m部分は把握できた。小型の方形プランと思われる。

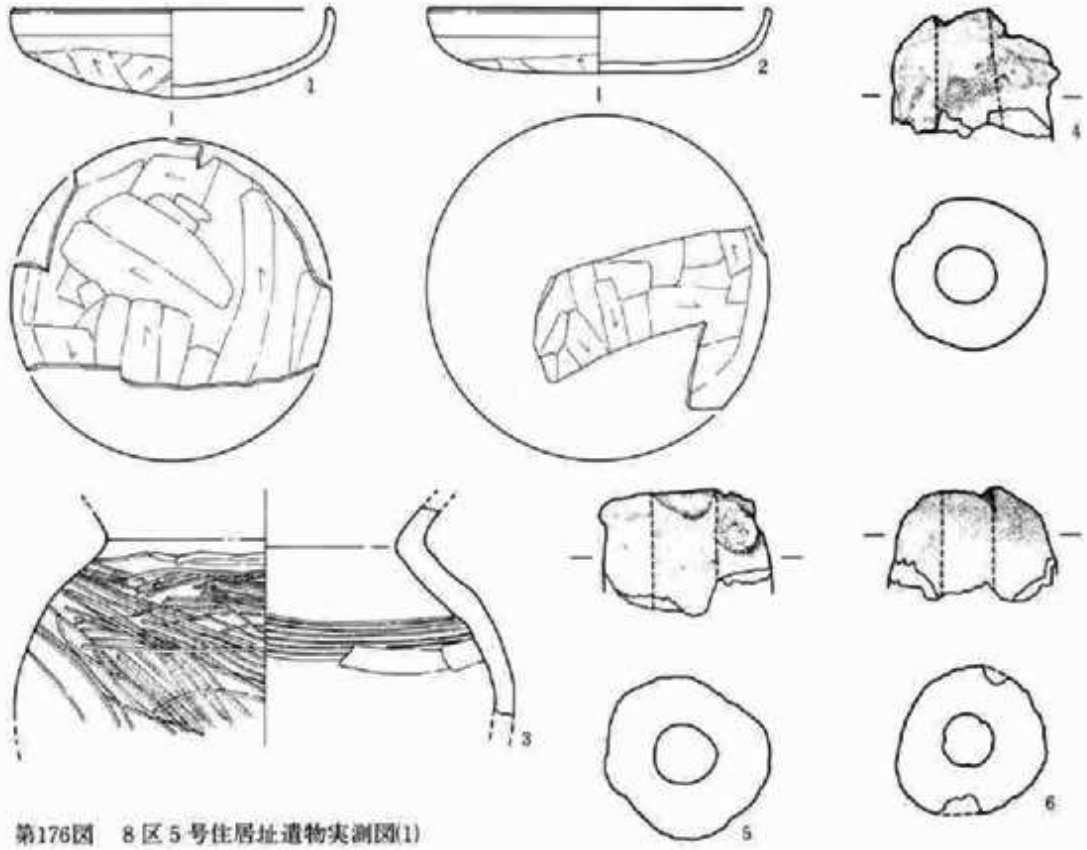
方　位　N－5°－E

面　積　計測できず。

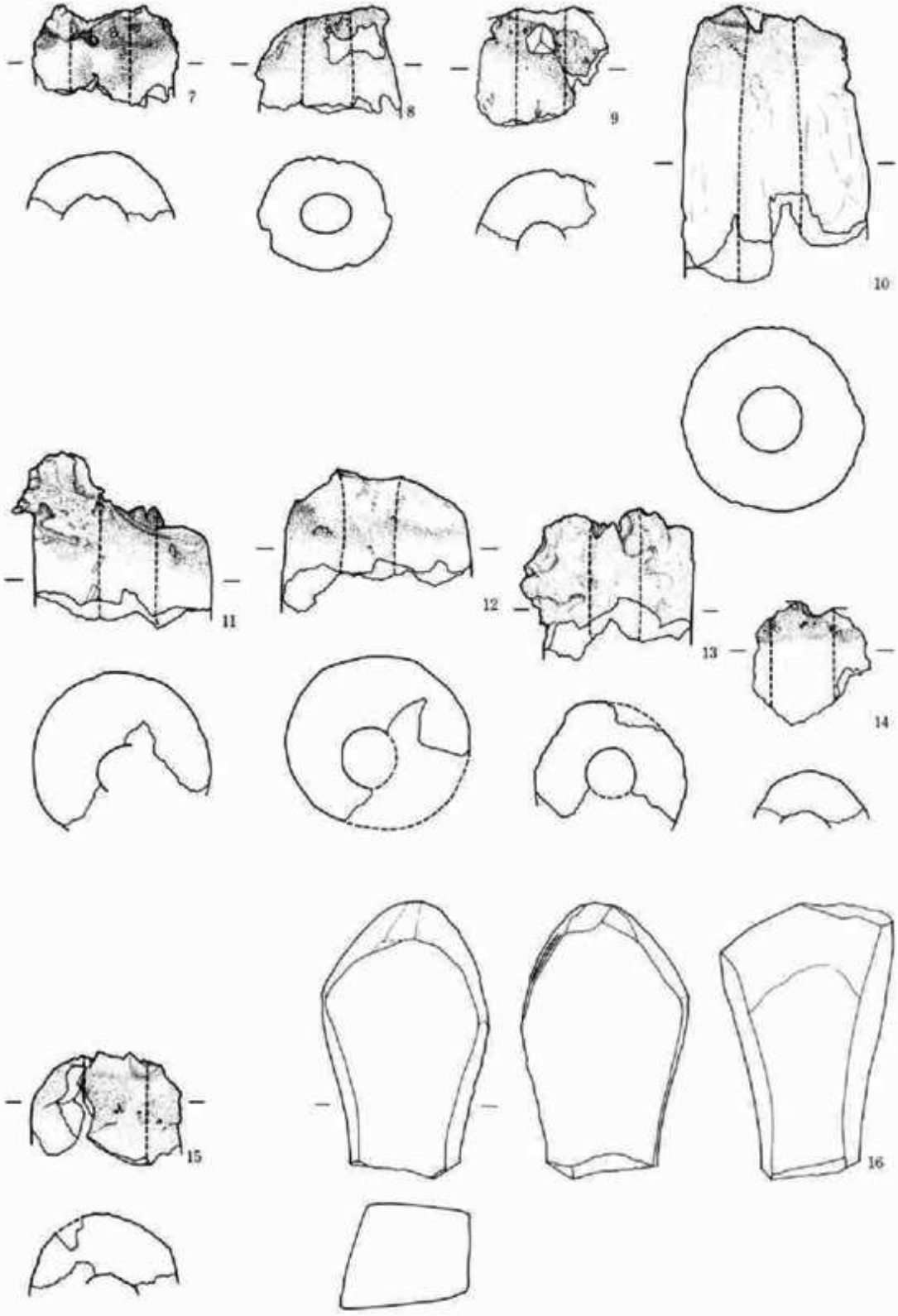
壁　残存壁高は5cm未満で、下端をわずかに検出できただけである。

床　面　溝の上に床を築いているはずだが、貼り床や踏み固めの面は検出できなかった。南西隅付近の残存部分でも、凹凸が多く、軟弱で不明瞭であった。

その他　小鍛冶遺構である。羽口やスラグの出土がきわめて多かった。南西隅付近の床上には、粘土の集中出土が2箇所あった。また、住居中央東壁よりにはピットがあったと思われ、溝埋土中より、多量の焼土を検出する部分があった。



第176図　8区5号住居址遺物実測図(1)



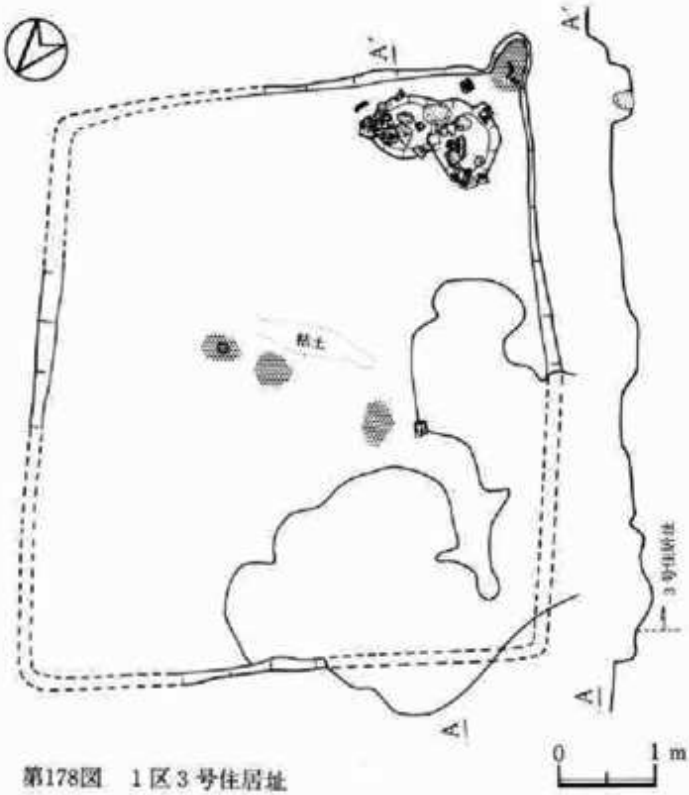
第177図　8区5号住居址遺物実測図(2)

8区5号住居址出土遺物観察表

No.	器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	杯(H)	12.5 － 3.4	口縁部½、底部¼欠く。南東隅床直。	㊙。底部削り方向不定で粗い。ナデは同心円状で丁寧。口縁外面下半無調整。	㊙粗砂・輝石の混入やや多い。やや粗い。㊙硬調O。焼締。㊐淡橙褐色でほぼ一様。㊐器形に弱い歪み。
2	杯(H)	(13.3) - (2.5)	½個体。南東隅床直。	1にほぼ同じ。	㊙㊙㊐1にほぼ同じ。
3	壺(H)	㊙(16.5)	図示部の¼南壁中央下の窪み内。	㊙。外面粗い研磨で無調整部分が残る。内面工具のナデの後にやや丁寧な研磨。	㊙砂粒・パミス多い。やや粗い。㊙軟調O。㊐外面暗褐色。内面黒色処理で弱い光沢。断面は灰色味をおびる。㊐内面頸部直下の剥落顕著。
4	羽　口	㊙6.2	埋土。	外面の付着物は赤サビが顕著。鉄精錬の羽口と思われる。内面にはスサ状の圧痕あり。軽量。㊙径10mmの礫を散見。粗悪。	
5	羽　口	㊙6.3	埋土。	4に同じ。	
6	羽　口	㊙6.3	埋土。	赤サビは見られない。㊙4に近似するが、チャート風の細礫の混入が顕著である。㊙割口の磨耗が進む。	
7	羽　口	㊙(7.4)	埋土。	4に近いと思われる。剥落が著しく、径不安。	
8	羽　口	㊙(6.8)	埋土。	先端がやや尖り、器形を異にする。赤サビはわずかに観察される。剥落著しい。㊙大粒の混入物少ない。	
9	羽　口	㊙(6.8)	東側粘土脇、床上18cm。	内面は比較的平坦。赤サビはわずか。剥落著しい。㊙8に近似する。	
10	羽　口	㊙8.9	9と並んで出土する。	外面は指頭の縦位ナデ。内面無調整で折り曲げ時のシワあり。赤サビあり。㊙スサ状の混入物目立つ。パミスやや多い。	
11	羽　口	㊙8.7	南壁中央下の窪み内。	4にほぼ同じ。スサ状混入物多い。	
12	羽　口	㊙8.6	南壁中央下の窪み内。	10にほぼ同じ。剥落顕著。	
13	羽　口	㊙(7.4)	埋土。	内面ナデで平坦。付着物多く、重量。赤サビあり。	
14	羽　口	㊙(6.6)	埋土。	軽量。赤サビ少ない。割口まで磨耗する。㊙パミス含む。	
15	羽　口	㊙(7.2)	埋土。	14に同じ。	
16	砥　石	㊙4.9	南壁下西側の床上6cm。	割口を除く全面使用。平面糸巻状。部分的に強い切り傷あり。大きさより置砥。安山岩製。	

ii　その他の住居址と出土遺物

出土遺物がごく少なかったり、プランが不明瞭だった住居址については、紙面の都合で、遺構（P142～148）と遺物（P149～161）ごとに一括し、簡略な説明を加える。



第178図　1区3号住居址

1区　3号住居址

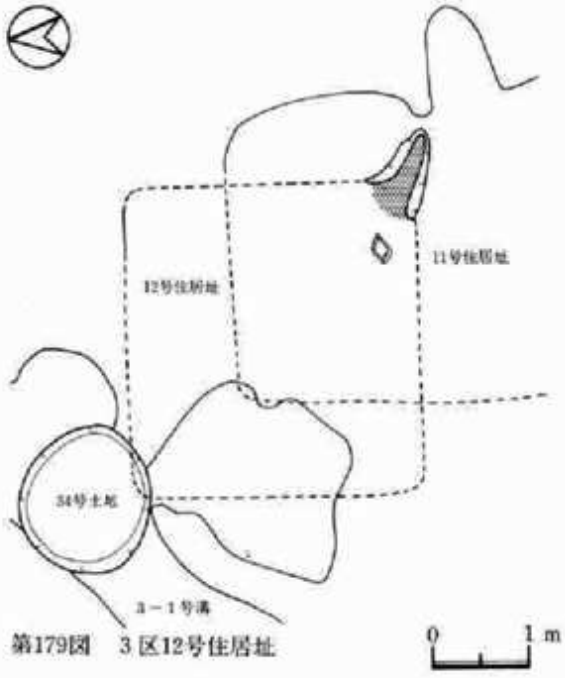
位置　A'－5グリッド
方位　N－135°－E
面積　31.9m²
備考　攪乱が多く、全容は不明瞭である。北東壁・北西壁も確実ではなく、一辺3.5mほどの小型住居の可能性もある。

3区　12号住居址

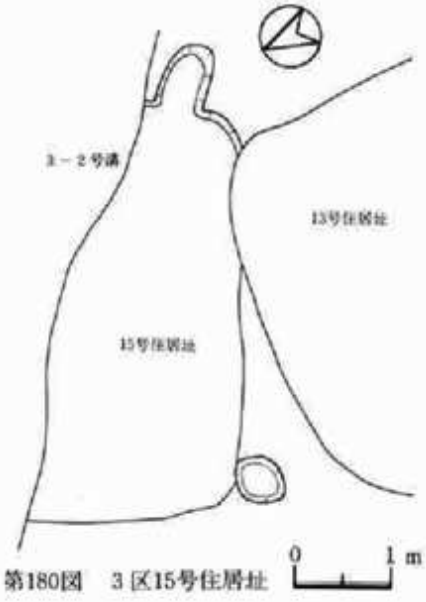
位置　D－8グリッド
方位　N－102°－E
面積　14.8m²
備考　11号住上に竈が築かれている。床面は不明瞭で貼り床はない。粘土を含む竈構築材を使用していた。

3区　15号住居址

位置　D・E－10グリッド
方位　N－130°－E
面積　7.2m²
備考　竈周辺をかろうじて検出できた。西側の大半は不明確である。



第179図　3区12号住居址

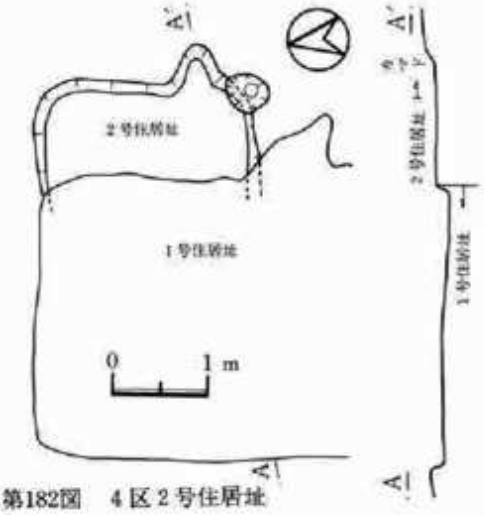


第180図　3区15号住居址

第181図　3区16号住居址

3区　16号住居址　　**位置**　F－10グリッド

備考　東竈の小型住居址と思われるが、竈周辺が検出できただけで、全容は不明である。竈は火床中央に河原石の支脚が据えてあった。17住と重複するが新旧は不明である。39・42号土壙には切られている。方位はN－110°－E前後であろう。



第182図　4区2号住居址

4区　2号住居址　　**位置**　C－1グリッド

方位　N－95°－E　　**面積**　2.2m²

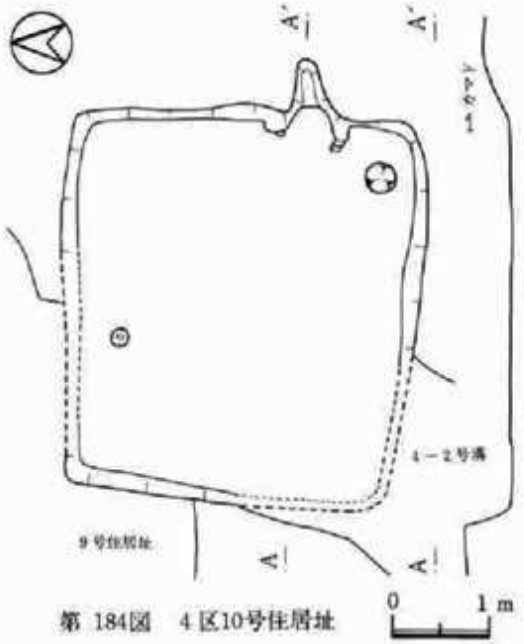
備考　東竈で、隅円方形プランの小型住居址である。1住に先行すると思われ、西側半分を切られている。竈南脇のピットは、本住居には伴わない。

第183図　4区5号住居址

4区　5号住居址　　**位置**　E－1グリッド

方位　N－111°－E　　**面積**　17.9m²

備考　6住(古)→13住→5住の3軒重複で、13住は5住の床面に竈火床のみが検出された。5住は四隅と北辺を明確にできなかった。竈が東壁の北寄りにあり、本遺跡内では珍しい例である。



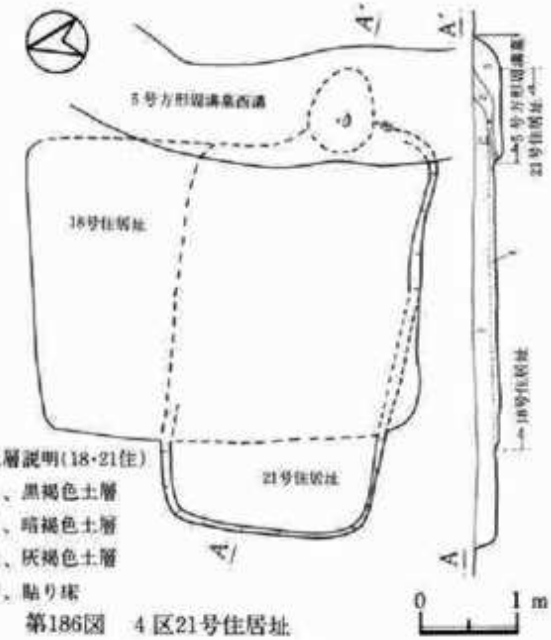
第184図　4区10号住居址

4区　10号住居址　　**位置**　G－1グリッド

方位　N－85°－E　　**面積**　14.3m²

備考　不整縦長長方形を呈す。南東隅に貯蔵穴状のピットがあるが、擂鉢状の小規模なピットであり、明確でない。竈は住居内に燃焼部がある。9住を切っているようである。

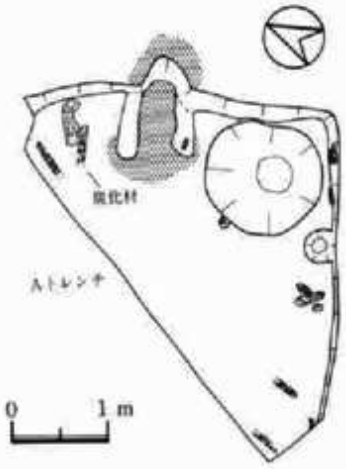
第185図　4区18号住居址



第186図　4区21号住居址

4区　18・21号住居址　　**位置**　D・E-6グリッド　　**面積**　24.3㎡（18住）、17.7㎡（21住）

方位　N－103°－E（18住）、N－112°－E（21住）　　**備考**　18住(古)→21住という重複で、21住は重複部分に貼り床を施している。竈を同じ位置に築いたと思われ、18住の竈は検出できなかった。18住は長軸4.0m、短軸3.1mの横長長方形で、南西隅には貯蔵穴状のピットがあった。21住は、長軸4.1m、短軸2.4mの著しい縦長の長方形を呈すと思われる。2軒とも5号方形周溝墓に後出する。



第187図　5区1号住居址

5区　1号住居址

位置　A－1及び4区4－10グリッド

方位　N－61°－E　**面積**　7.9㎡

備考　西半分が発掘区域外で、完掘していない。東壁は40cmの残存壁高がある。南東隅に床面から深さ52cmの貯蔵穴がある。竈は火熱による硬化が著しい。火災住居で、壁際に炭化材の出土が多い。

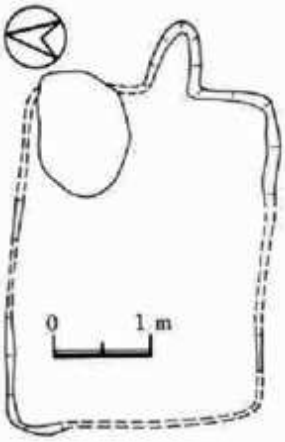
第188図　5区2号住居址

5区　2号住居址

位置　A－2グリッド

方位　N－110°－E前後と思われる。　**面積**　2.2㎡

備考　3住の上に築かれるが、きわめて浅く、南西隅のみが検出できた。ピットは床面から深さが26cmである。



第189図　5区7号住居址

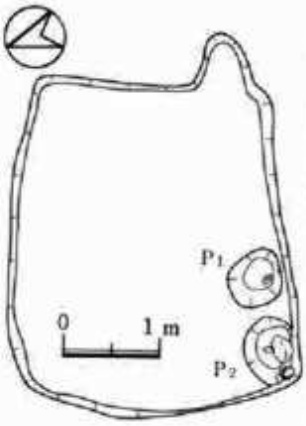
5区　7号住居址

位置　D－1グリッド

方位　N－89°－E

面積　9.2㎡

備考　攪乱多く不明瞭だが、最深12cmの残存壁高がある。縦長長方形のプランで、東壁中央に竈がある。火床は住居床面よりやや高い。床は全面貼り床だが、踏み固めは弱い。北東隅のピットは床面より10cmの深さで、本住居に伴うかは不明。



第190図　5区12号住居址

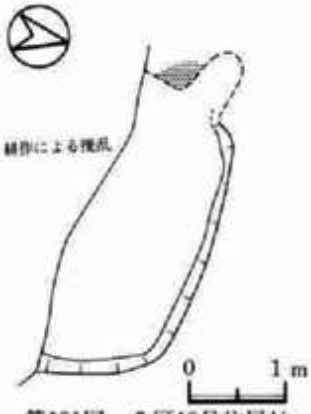
5区　12号住居址

位置　E－6・7グリッド

面積　9.3㎡

方位　N－120°－E

備考　台形気味のプランを呈す。竈は東壁南隅にあり、火床は住居床面より3cm低い。南壁下に貯蔵穴のピットが2箇ある。床面からの深さはP_1が25cm、P_2が22cmで、両者とも住居床面レベルで礫を出土している。



第191図　5区13号住居址

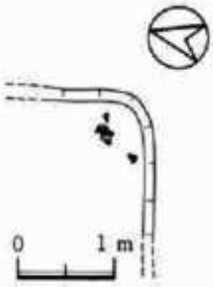
5区　13号住居址

位置　E－5グリッド

方位　N－82°－W

面積　3.7㎡

備考　小型の方形住居址と思われるが、攪乱が多く、全容は不明。竈も、焼土の分布する不明瞭な掘り込みとして捉えられたもので、明確ではない。遺物は床面より10cm以上浮いていた。



第192図　5区10号住居址

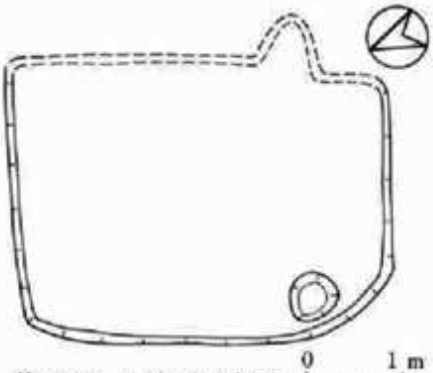
5区　10号住居址

位置　A・A′－7グリッド

方位　N－100°－E

前後

備考　大半が発掘区域外にあり、南東隅付近だけが検出できた。残存壁高は15cm未満である。遺物は床面より若干浮いた状態であった。

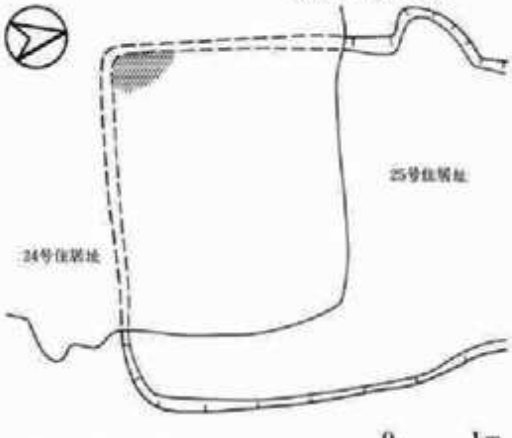


第193図　5区11号住居址

5区　11号住居址　**位置**　B－6グリッド

方位　N－110°－E　**面積**　11.0㎡

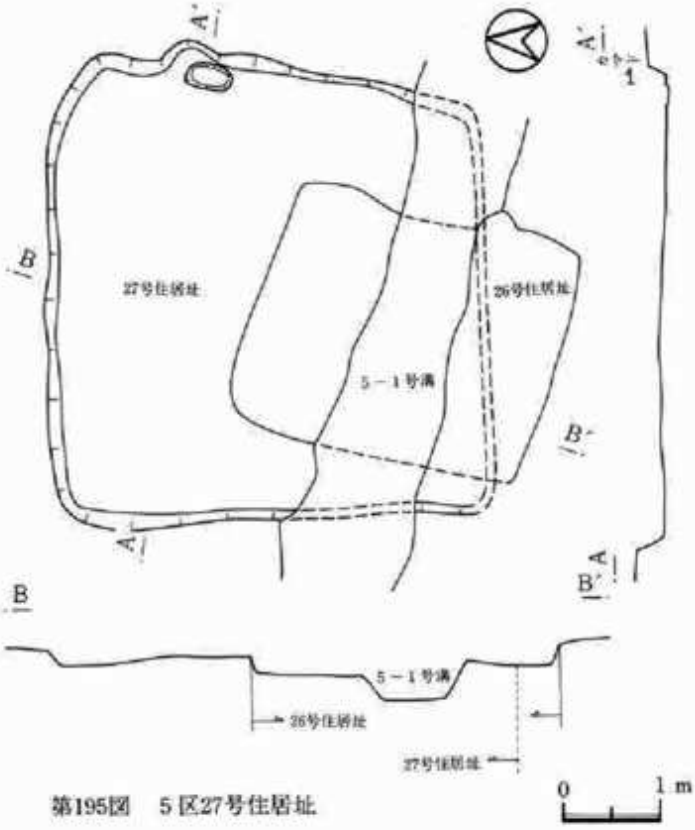
備考　残存壁高5cm未満の不明瞭な住居で、東壁は竈の位置と床面の観察より復元した。南西隅に床面からの深さ25cmの、貯蔵穴状ピットがある。



第194図　5区25号住居址

5区　25号住居址　**位置**　H－9グリッド

備考　24住の床面とほぼ同じレベルの、不整形の掘り込みとして検出された。焼土の分布より、方形プランを復元し、24住の後出する住居址の存在を想定したが、明確ではない。



第195図　5区27号住居址

5区　27号住居址

位置　D・E－10グリッド

方位　N－83°－E　**面積**　20.7m²

備考　26住と溝に重複し、南辺は不明であるが、正方形に近い不整形プランを想定した。床面は東側へ低く傾斜し、西壁下に比べ10cmの比高差がある。東壁南寄りに焼土の高まりがあるが、竈の存在は不明瞭である。

6区　3号住居址

位置　C・D－1グリッド

方位　N－100°－E　**面積**　15.2m²

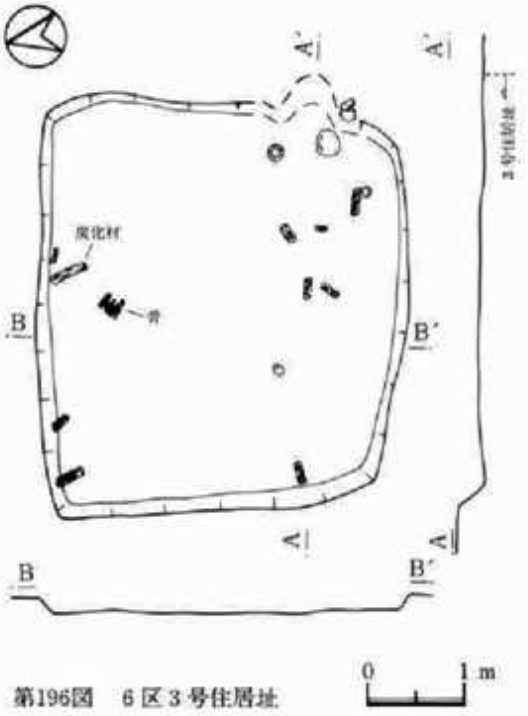
備考　竈周辺が不明瞭だが、南東隅が鈍角な台形気味のプランを呈す。床は東・西壁下が2cmほど低い。火災住居で、床直の状態で炭化材が検出された。北壁下出土の獣骨(歯)は床面より浮いた状態で、後世のものと思われる。

6区　15号住居址

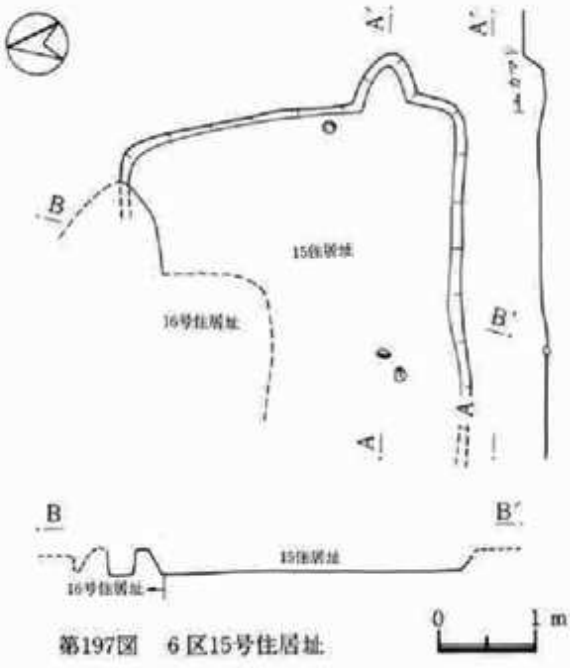
位置　A－4グリッド

方位　N－91°－E　**面積**　11.6m²

備考　西側は発掘区域外で完掘できなかった。竈は火床が住居床面より5cm低い。16住に先行する。



第196図　6区3号住居址



第197図　6区15号住居址

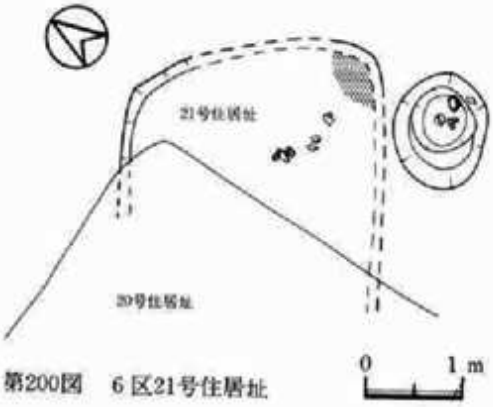
第198図　6区16号住居址

6区　16号住居址

位置　A′－5グリッド

方位　N－110°－E前後となる。

備考　明瞭に検出できたのは、北辺の一部と竈だけで全容は不明だが、やや大型の住居と思われる。南辺は床面の踏み固めより復元した。床面は15住より5cm以上低いが、南側へ高く傾斜するため、境を明確にできなかった。竈の15住との重複部分では、ローム土主体の構築材を使用していた。火床は住居床面より4cm低い。煙道部は平坦でテラス状であり、壁外へ92cm張り出す。



第200図　6区21号住居址

6区　21号住居址

位置　E－6グリッド

面積　4.1m²

備考　20住の北東隅付近にある不明落ち込みで、住居址とは断定できない。北・東の2隅を検出し、方形に近い不整形プランを復元した。床面は凹凸が多く、壁際が高くなっている。東隅には多量の焼土があり、これが竈であれば、南側に隣接する土壙は、本住居の貯蔵穴となる可能性もある。

第199図　6区18号住居址

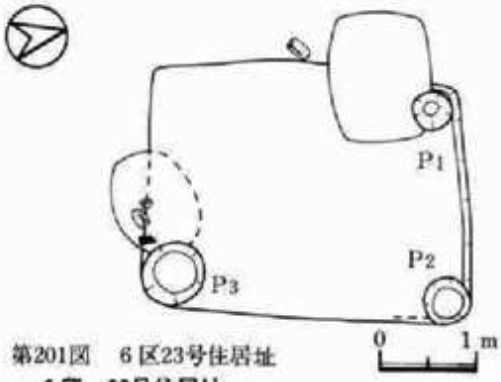
6区　18号住居址

位置　A・B－5グリッド

方位　N－24°－E前後となる。

面積　11.6m²

備考　残存壁高は2cm未満で、立ち上がりの痕跡が検出できただけであるが、長方形のプランが想定できる。床面は軟弱で不明瞭だが、西側へ低く傾斜している。竈は検出できなかった。17住に先行する。



第201図　6区23号住居址

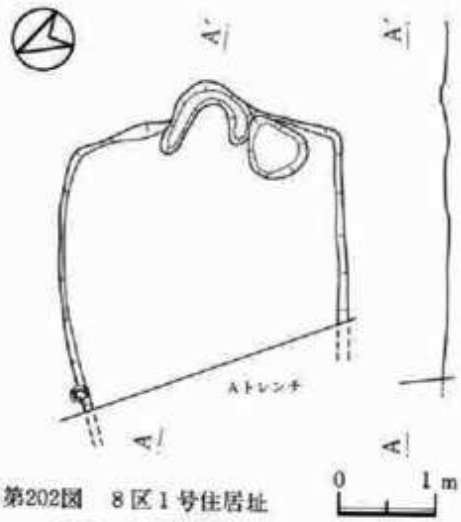
6区　23号住居址

位置　A－8・9グリッド

面積　8.3m²

方位　N－13°－E前後となる。

備考　床状の水平な平坦面と、柱穴状の3本のピットを検出し、住居址として扱った。地山が南西側へ低く傾斜するため、壁は北側で検出できただけである。床面からのピットの深さはP_1→31cm、P_2→14cm、P_3→27cmで、全体に浅く、底面は平坦であった。



第202図　8区1号住居址

8区　1号住居址

位置　A－1及び7区A－10グリッド

方位　N－115°－E　**面積**　7.4m²

備考　西側は発掘区域外であり、完掘はしていないが、東壁中央に竈のある、縦長長方形プランの住居である。竈の燃焼部は住居内にあり、火床前面の床が3cm高くなっている。壁は残存壁高10cmで、垂直に近い立ち上がりをしていた。竈南脇に貯蔵穴状のピットがあった。床面からの深さは28cmで、底面は平坦であった。

第204図　8区3号住居址

8区　3号住居址　位置　A－4グリッド

方位　N－117°－E　**面積**　7.7m²

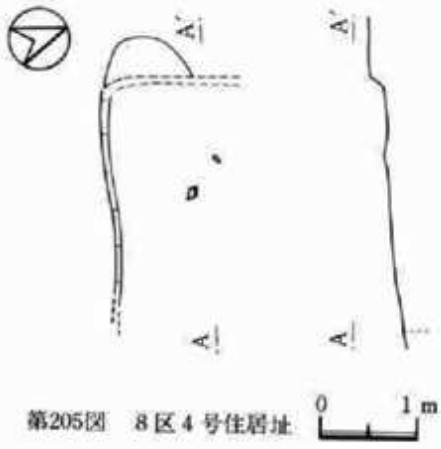
備考　南壁と竈以外は不明瞭であった。床面は壁際が2～5cm低くなる傾向があった。2本のピットの床面からの深さは、P_1→16cm、P_2→24cmで、底面は平坦である。竈は煙道が長く、壁外へ92cm張り出す。

第203図　8区2号住居址

8区　2号住居址　位置　A－1グリッド

方位　N－15°－E　**面積**　10.1m²

備考　西半分が発掘区域外にあり、完掘はしていない。竈は検出できなかった。床面は凹凸が著しく、地山の傾斜に沿って南側が10cmほど低くなっていた。3基のピットを検出した。床面からの深さはP_1→31cm、P_2→24cm、P_3→24cmである。P_3北側の窪みには焼土が多かった。小鍛冶址と思われ、床面より羽口を出土した。

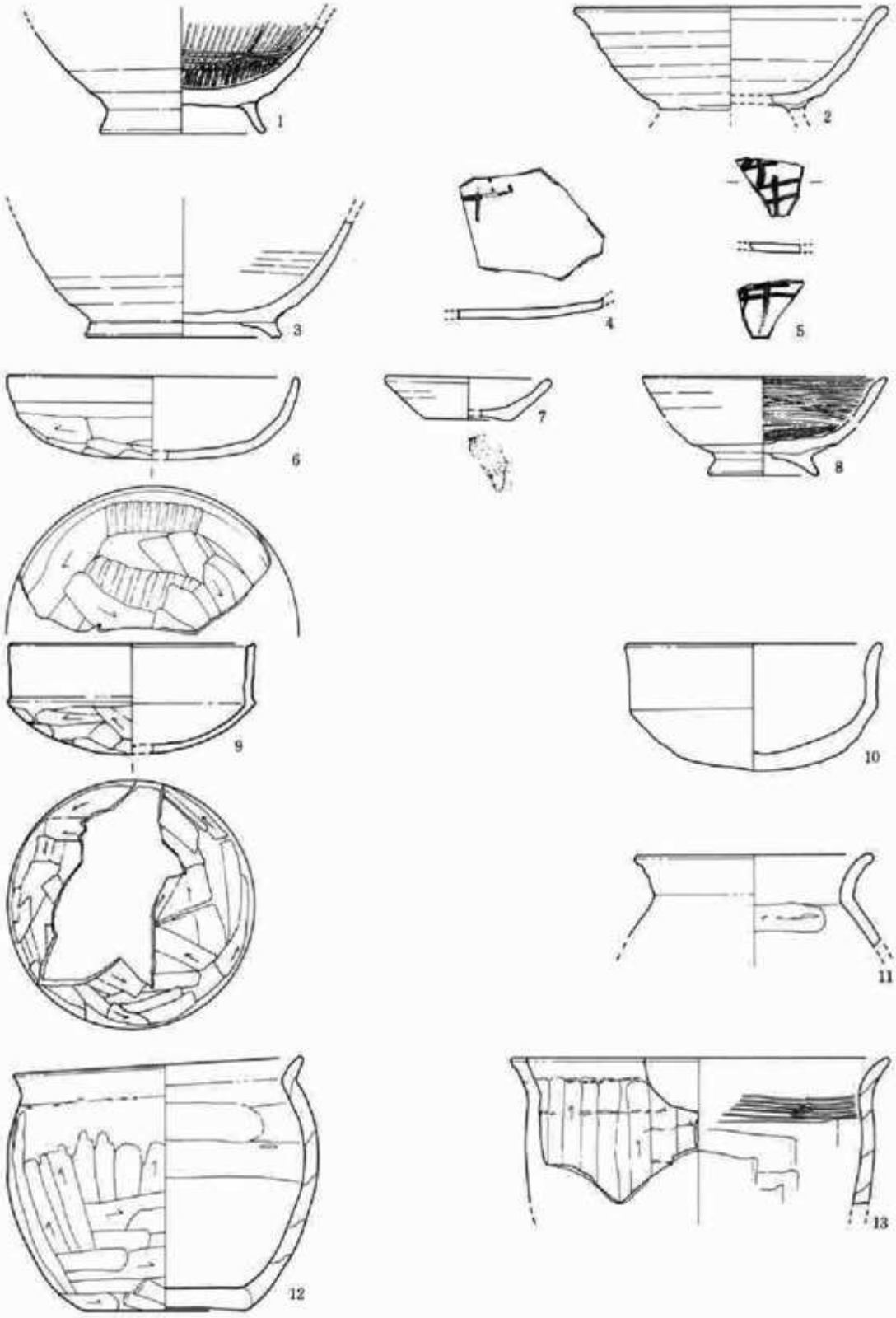


第205図　8区4号住居址

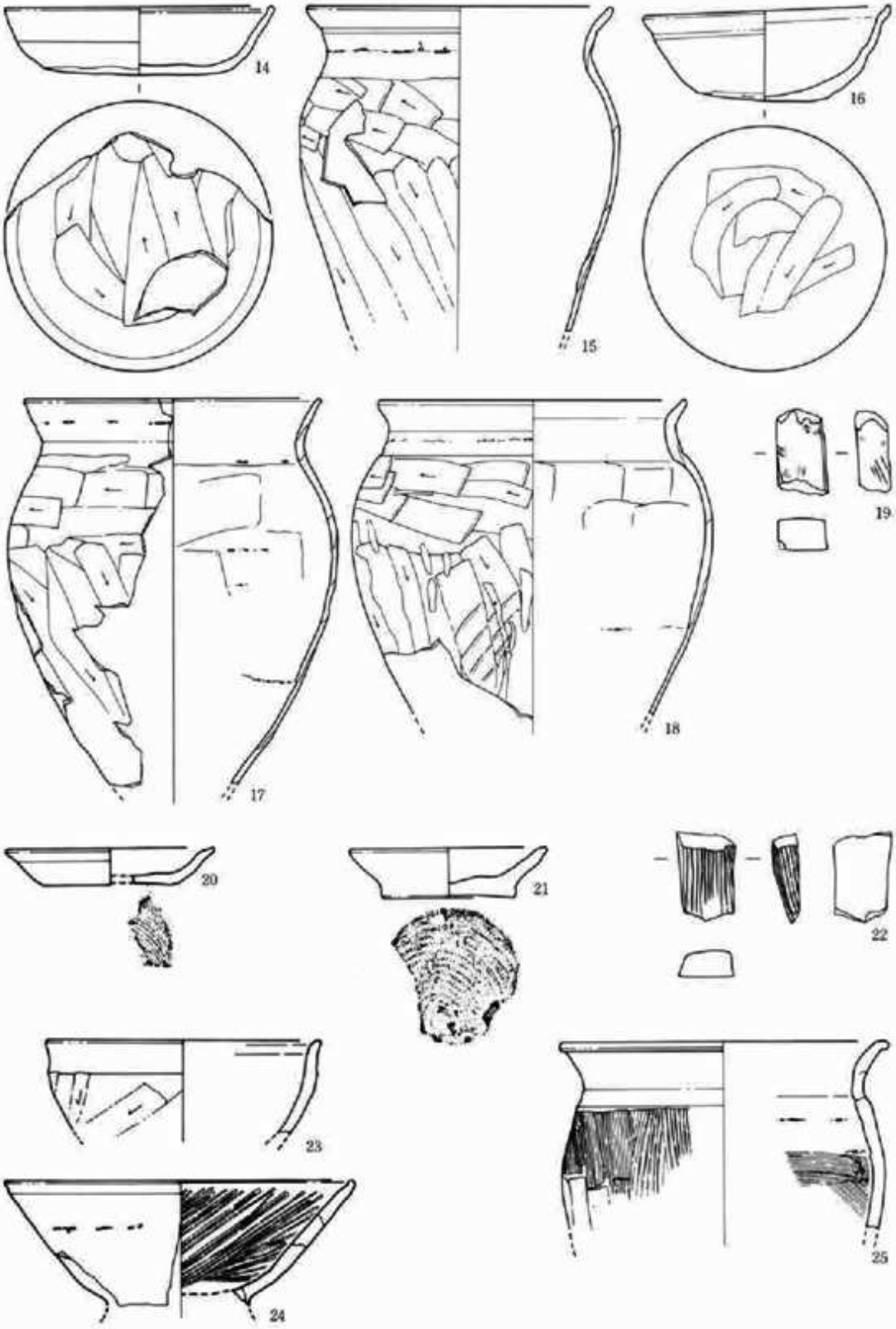
8区　4号住居址

位置　A－5・6グリッド

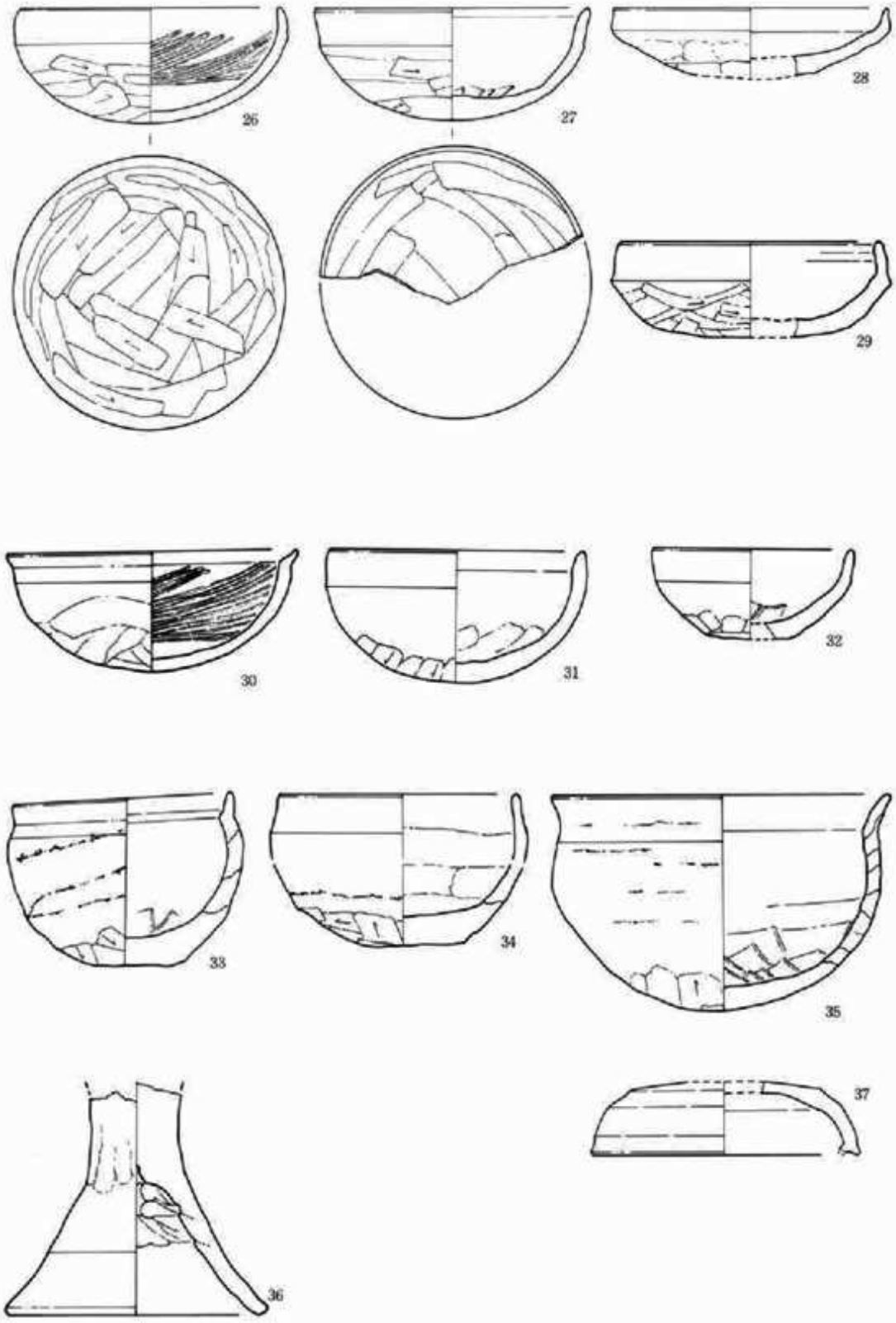
備考　住居の壁と思われる部分と、遺物の出土があったので、住居址として扱った。南壁は残存壁高10cm前後の明瞭な壁である。床面は平坦だが、東へ低く、強い傾斜があり、住居面としては不自然に思える。遺物は床面から10cm浮いた状態で出土した。



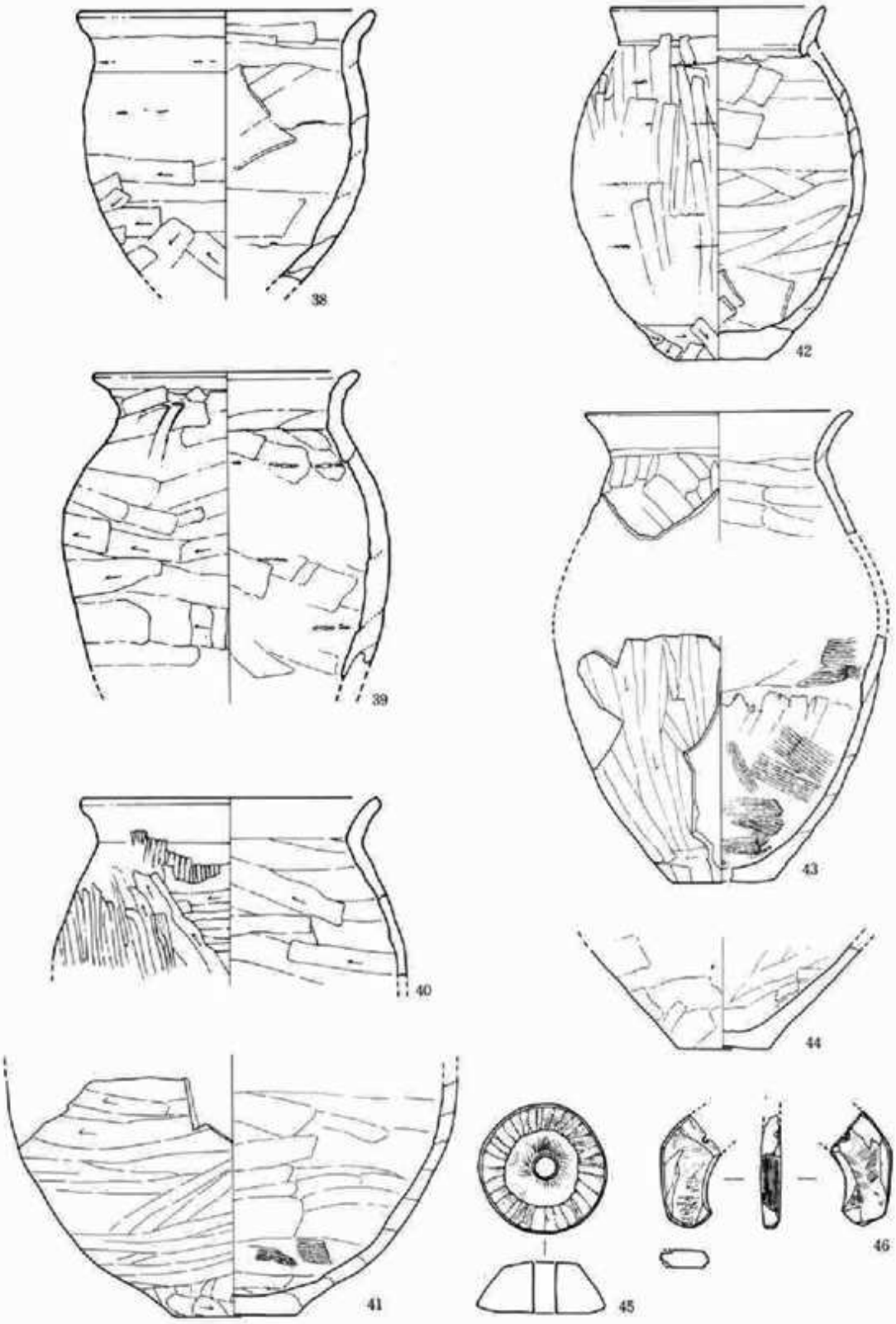
第206図　その他の住居址出土遺物実測図(1)



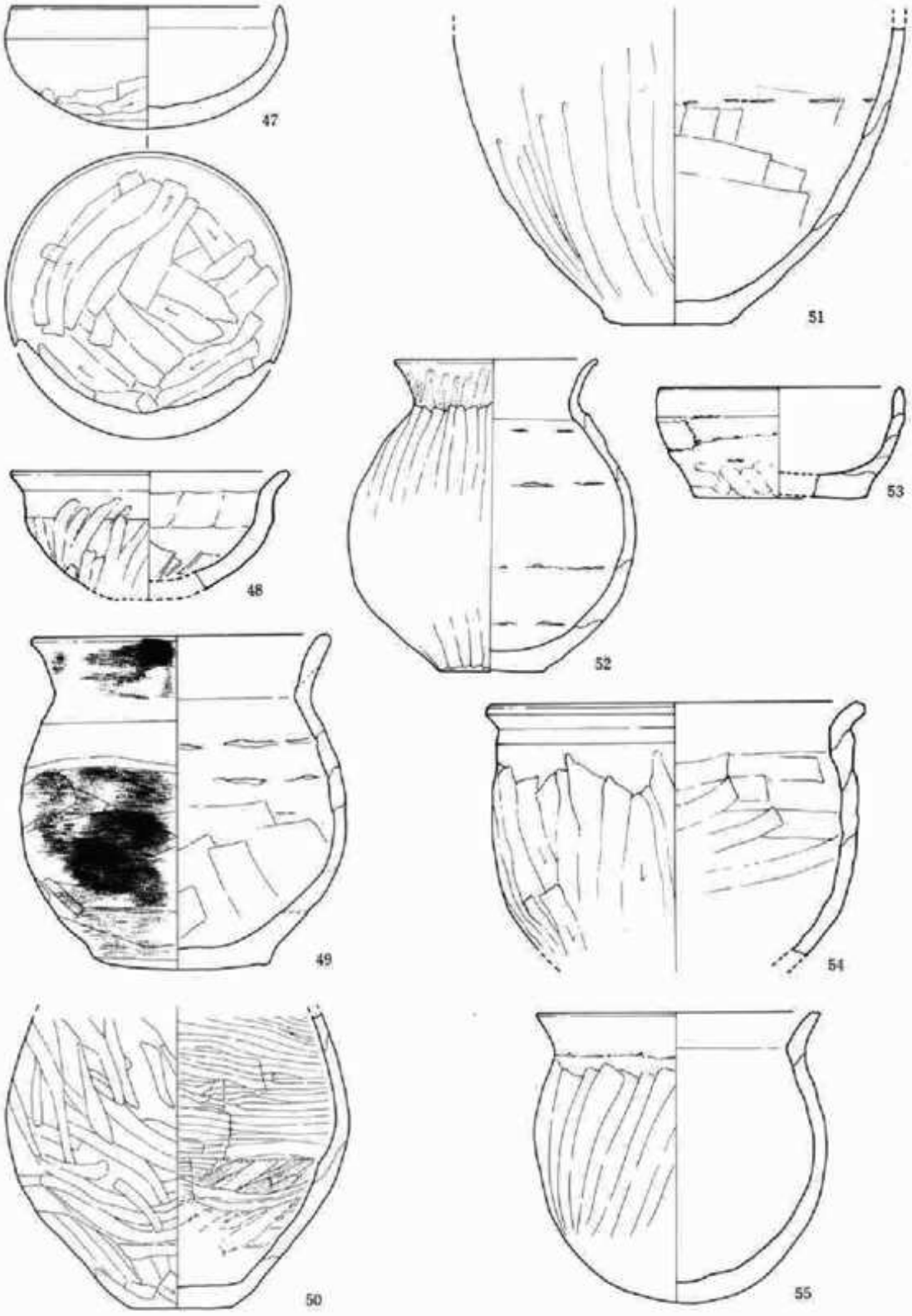
第207図 その他の住居址出土遺物実測図(2)



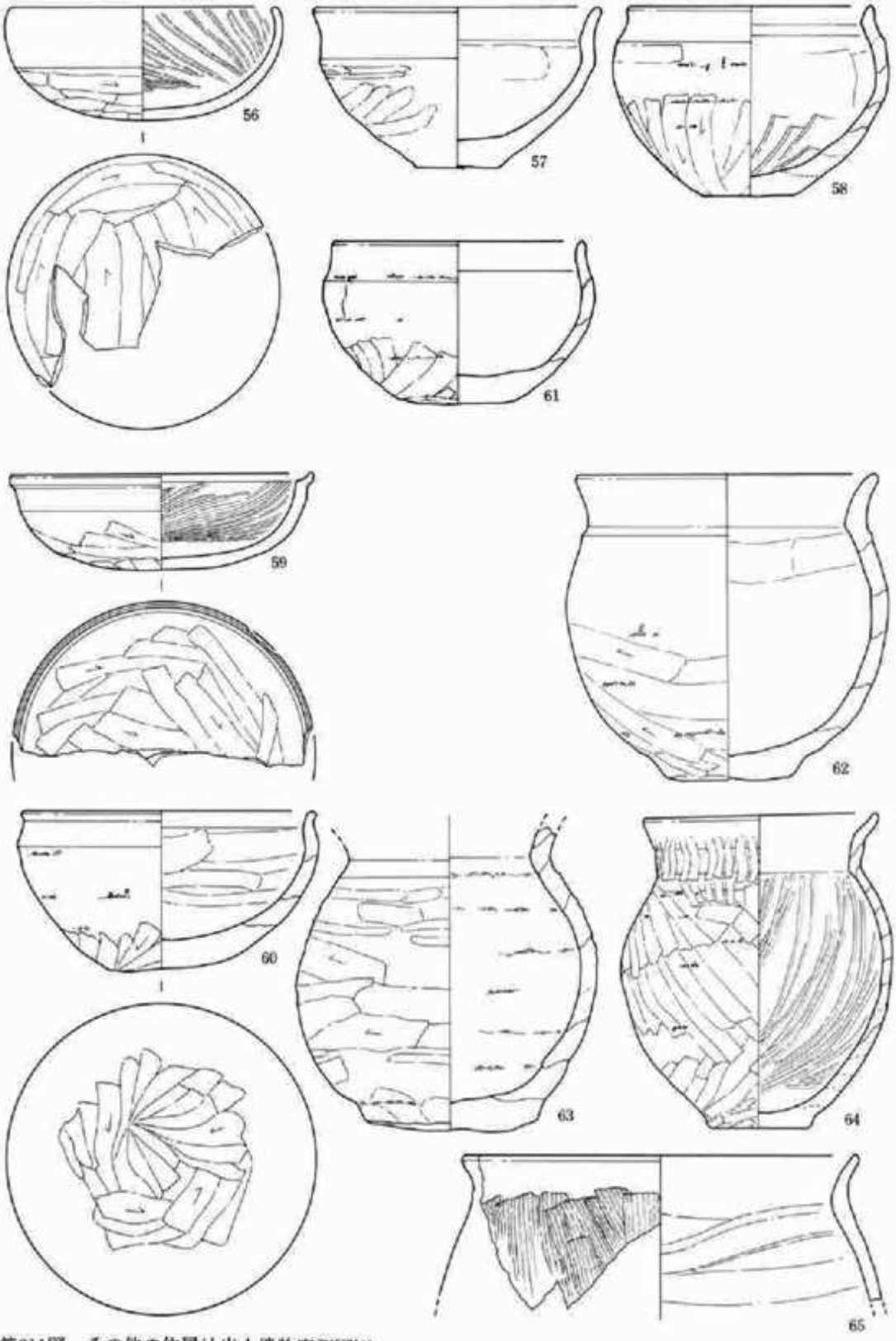
第208図　その他の住居址出土遺物実測図(3)



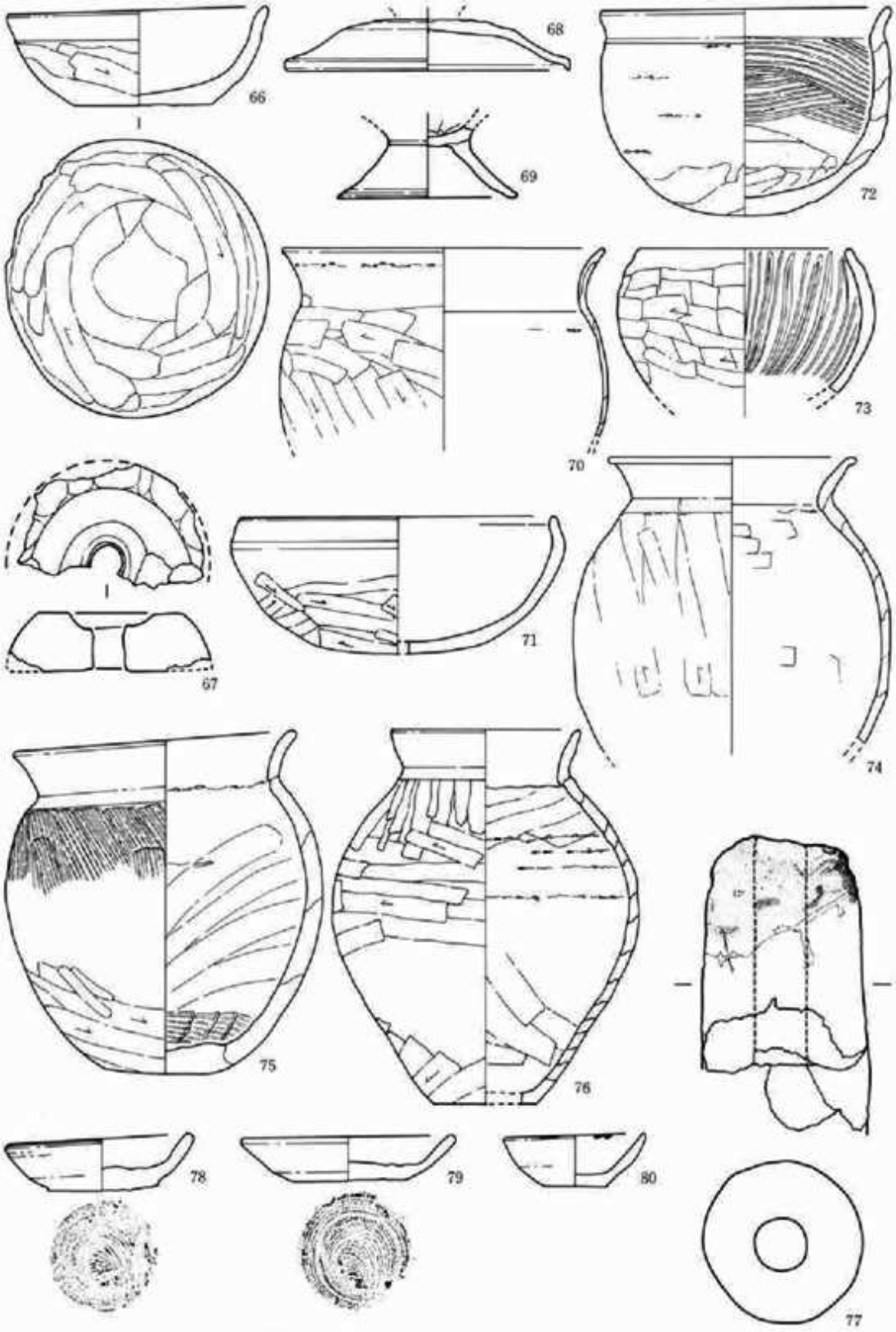
第209図 その他の住居址出土遺物実測図(4)



第210図　その他の住居址出土遺物実測図(5)



第211図　その他の住居址出土遺物実測図(6)



第212図　その他の住居址出土遺物実測図(7)

その他の住居址出土遺物観察表

No. 器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　考
1　高台付き椀 4区2住	底7.9	図示部の ½。埋土。	右底。回糸痕残る。高台取付丁寧。見込丁寧な研磨。	胎粗砂含みポソポソする。パミス散見。焼やや硬調O。色淡褐色。内面は黒色処理で光沢。
2　高台付き椀 4区2住	(14.8)— —	図示部の ½。埋土。	右底。ロクロ痕やや弱く、内面平滑。	胎砂粒・ベンガラやや多く、輝石・石英散見。やや粗い。焼やや硬調O。色淡褐色。断面灰色味。他高台剥落部分磨耗。
3　高台付き椀(S) 4区2住	底(9.8)	図示部の ¼。埋土。	右底。回転糸痕残る。ロクロ痕細かい。高台端部は弱い凹面。	胎砂粒多い。やや粗い。焼やや硬調R。色やや褐色味おびた灰色で、内面は黄色味。他見込の磨耗強い。
4　杯(H) 4区5住		底部破片。埋土。	胎削り粗い。内面平滑。	胎砂粒含み、輝石・石英散見。焼O。色淡橙褐色。他見込墨書は薄く判読不能。
5　杯(H) 4区5住		底部破片。埋土。	4に同じ。薄手。	胎砂粒含み、輝石やや多い。焼O。色淡橙褐色。他内外面に墨書。墨痕は明瞭。
6　杯(H) 4区5住	(31.8)— —	⅓個体。埋土中5片接合。	胎。外面削り粗く、口縁下半無調整。	胎砂粒・輝石・パミス含む。焼やや硬調O。色淡橙褐色。底部一部灰色味。
7　小　皿 4区13住	(7.8)-(4.4)-2.0	¼ 個体。埋土。	右ロクロ痕きわめて弱く、内面不整。	胎細礫やや多い。輝石散見。粗い。焼やや硬調O。色淡栗色。内面・断面白色味。
8　高台付き椀 4区13住	(11.8)—(4.7) 底5.2	口縁 ⅙、底部 ½。埋土。	右底？　研磨きわめて丁寧。高台は幅広で厚い。	胎パミス・ベンガラ等多い。粗い。焼軟調O。色暗褐色。内面黒色処理で光沢強い。
9　杯(H) 5区1住	11.9— —	底部欠く。	胎口縁端部凹面。削り細かく丁寧。	胎砂粒含み、石英・パミス散見。焼O。色淡赤褐色～暗褐色。一様でない。
10　杯(H) 5区1住	(12.2)—5.8	口縁端欠く。	胎厚手で重厚。内面不明。削り粗い。	胎細礫・ベンガラ含み粗い。焼O。色淡褐色一様。他内面の剥落著しい。
11　甕(H) 5区1住	(15.2)— — 胴(12.8)	図示部の ½。埋土。	胎口縁部丁寧なナデ。外面削り弱い。	胎石粒・石英やや多い。輝石散見。焼やや硬調O。色淡褐色一様。
12　土　釜 5区2住	18.4-10.3-15.9 胴17.3　胴19.7	体部 ½、底部完存。	胎。外面粗い削り。内面不明、接合痕若干残る。	胎細礫多く粗悪。石英若干含む。焼軟調O。色黒褐色。内面濁淡褐色。内面剥落著しい。
13　土　釜 5区2住	(23.4)— —	図示部の⅙。	13にほぼ同巧。内面工具使用ナデ。	胎12に同じ。焼硬調O。色淡褐色。橙色・黒色のムラ。
14　杯(H) 5区10住	12.9-8.8-3.2	口縁 ½欠く。	胎。口縁端内傾。外面下半無調整。	胎砂粒含み、輝石散見。緻密。焼O。色淡橙褐色一様。
15　甕(H) 5区10住	(19.4)— — 胴(16.7) 胴(20.2)	図示部の⅓。埋土中の27片接合。	胎。残存部下端に合わせ痕。頸部外面無調整。内面平滑。	胎砂粒若干含む。ベンガラ散見。緻密。焼O。色淡褐色。内面白色味をおびる。他外面下位に二次火熱を受ける。

No. 器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
16 杯(H) 5区13住	11.7-6.3-4.4	口縁½欠く。	輪口縁下端強いナデ、外面下半無調整。	胎細礫・パミス含みやや粗い。焼やや硬調O。色淡茶褐色で一様。
17 甕(H) 5区10住	(18.8)－　－ 頸(16.6) 胴(21.0)	上半⅔、下半¼。	15に近い。頸部外面全面ナデで、コの字状口縁には遺い。	胎焼15に同じ。ベンガラやや目立つ。色淡茶褐色。内面・断面は橙色味。他二次火熱の影響少ない。
18 甕(H) 5区13住	(19.6)－　－ 頸(18.2) 胴(23.2)	図示部の⅓。	輪内面ナデ最良で平滑。頸部一部無調整。やや厚手。	胎砂粒・ベンガラ含む。パミス散見。焼やや硬調O。色淡褐色～暗褐色。内面橙色味おびる。
19 砥　石 5区13住	厚2.3×1.5	埋土。	両端欠く。断面糸巻状の小型品か。表面の風化進み、擦痕は観察できず。割口を除く4面使用。安山岩製。	
20 小　皿 5区15住	(10.0)-(6.4)-1.7	図示部の¼。埋土。	右ロクロ痕弱く、口縁下半は不明瞭。	胎細礫含む。やや粗い。焼O。色暗褐色～黒褐色。断面は赤色味強い。
21 小　皿 5区15住	(9.8)-6.3-2.3	口縁⅔、底部½欠く。埋土。	右。見込中央窪む。厚手。	胎砂粒多い。細礫・雲母散見。焼硬調O。色濁淡褐色。内面やや赤色味おびる。
22 砥　石 5区25住		埋土。	両端欠く。縦断面三角形。割口除く4面使用で、3面には縦位の粗い擦痕。安山岩製。	
23 鉢(H) 5区27住	(13.0)－　－	図示部の⅓。埋土。	輪。口縁強いナデ。削り粗い。	胎粗砂多く、やや粗い。焼O。色淡褐色～黒褐色。他破損後に二次火熱受ける。
24 高台付き椀 5区27住	(22.0)－　－	図示部の⅓。埋土。	輪。接合痕残る。内面磨き、外面ナデで平滑。	胎粗砂・パミス含む。焼硬調O。色淡茶褐色。一部黄色味おびる。他口縁内面の凍てハゼ顕著。混入品。
25 甕(H) 5区27住	(20.8)－　－ 頸(17.6)	図示部の⅓。	輪。削り・ナデとも刷毛目状擦痕。	胎砂粒・パミス含む。モグサ質。焼O。色淡褐色。外面に黒斑。
26 杯(H) 5区29住	12.3—5.5	ほぼ完形。	輪。削りやや粗い。内面斜放斜状の雑な研磨。	胎細礫やや多い。石英・パミス目立つ。粗い。焼やや硬調O。色濁赤褐色。外面一部に暗いムラ。断面は白色味強い。
27 杯(H) 5区29柱	(13.0)—5.2	½個体。焼土付近。	輪。削り・ナデとも粗く雑。見込に凹凸。	胎焼26にほぼ同じ。色淡褐色で断面まで一様。
28 杯(H) 5区29柱	(12.8)－　－	図示部の⅓。	輪外面雑で上半無調整。接合痕残る。内面棒状工具ナデ。	胎細礫・石英・泥粒など含み粗い。内面平滑で化粧粘土使用か。焼O。色淡茶褐色。断面淡褐色。
29 杯(H) 5区29柱	(12.6)－　－	図示部の⅓。	輪。削りは研磨に近い。内面強いナデ。	胎26に近い。ベンガラ散見。焼O。色淡褐色。断面一部に赤色味。

註）5区29・30住は、A－8・9グリッドの遺物集中出土地点の名称である。発掘調査では遺構を確認できなかったが、焼土散布も見られ、東壁の住居址の可能性がある。

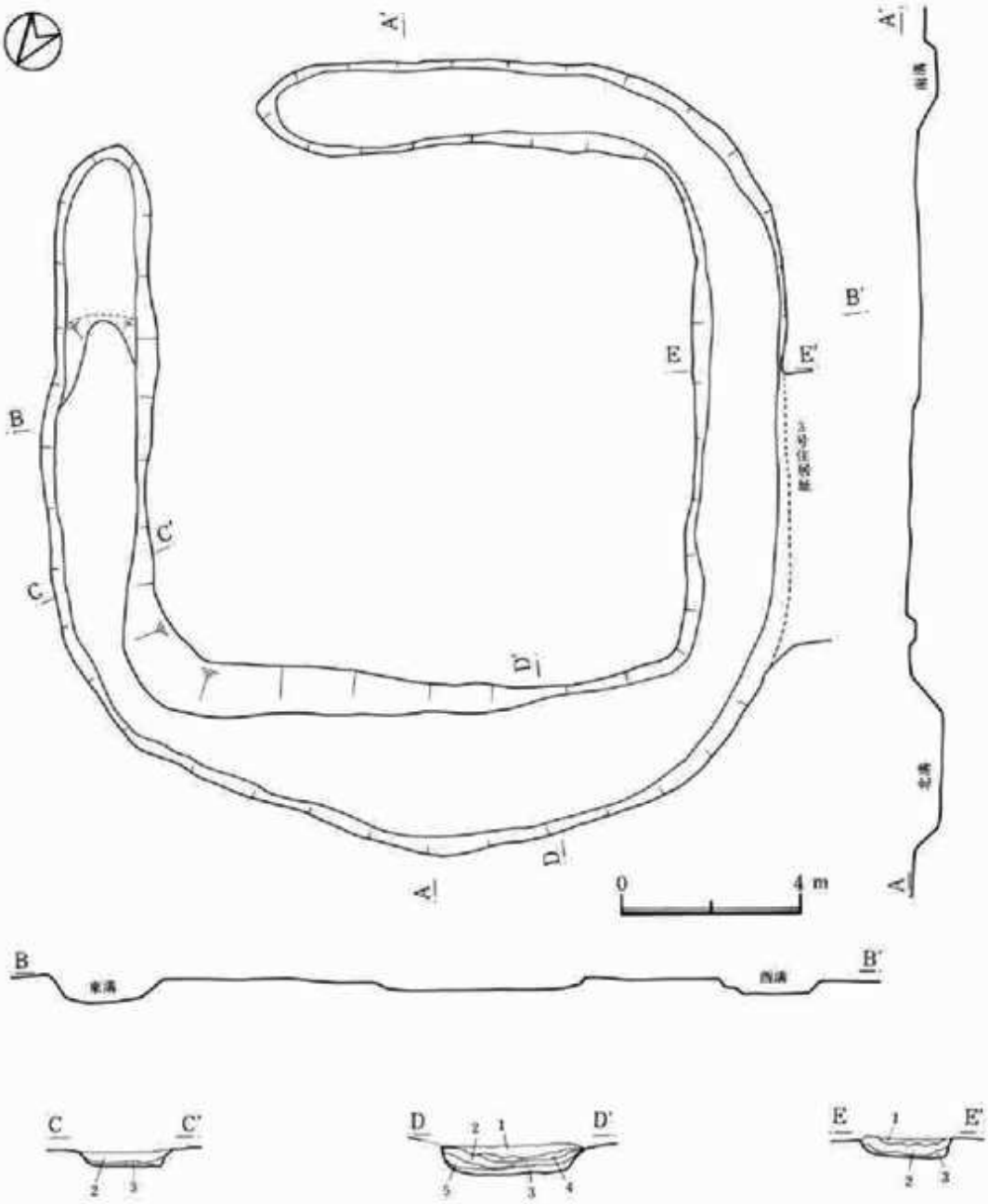
No. 器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
30　杯(H) 5区29柱	13.9—5.7	ほぼ完形。	成削り雑。内面口縁部斜方射状研磨。	胎焼26にほぼ同じ。色濁赤褐色。研磨部分の光沢弱い。
31　杯(H) 5区29住	(12.2)—6.2	½個体。	成。削り雑で弱く、研磨に近い。	胎砂粒・パミス等多く、ボソボソ。焼O。色淡褐色、外面黒褐色。他内面磨耗。
32　鉢(H) 5区29住	(9.6)-(3.4) 4.3	½個体。	成。外面口縁部大半無調整。ナデ雑。	胎焼31に同じ。色淡褐色。底部付近は暗褐色。
33　鉢(H) 5区29住	10.6-3.8-8.1 脚11.3	口縁部一部欠く。	成。巻き上げの可能性強い。胴部外面無調整。内面不明。	胎31に同じ。焼硬調Oで強い焼締。色淡褐色。内面灰色味おびた暗褐色。他内面の磨耗剥落著しい。
34　鉢(H) 5区29住	(11.6)-(5.8)—	½個体。 口縁部と底部接合せず。	成。33と同巧か。底部削り雑。内面粗いナデで指紋残る。	胎31に同じ。焼硬調O。色やや灰色味おびた淡褐色。ムラ多い。他破損後に二次火熱を受けた破片あり。
35　鉢(H) 5区29住	16.1—10.3	上半の½を欠く。	成。底部の削り一方向。内面ナデは板状の工具使用。	胎砂粒やや多い。パミス・石英・ベンガラ含む。焼O。色淡赤褐色。外面一部黒褐色。
36　高　杯 (H) 5区29住	脚上4.1 下12.3	図示部完存。焼土付近。	成。裾部付近粗いナデ。他は無調整で内面に接合痕と指頭圧痕残る。	胎砂粒多く、パミス散見。焼硬調Oで強い焼締。色淡褐色～暗褐色。一様でない。他二次火熱の影響強く、竈支脚に転用して使用した可能性。
37　杯　蓋 (S) 5区29住	(12.6)—　—	図示部の⅔。	右→天井部三段の回ヘラ。丁寧な作りで内面平滑。厚手。	胎砂粒・細礫散見。気泡含む。やや粗い。焼硬調R。強い焼締。色灰色で一様。他内面端部に、白色降灰釉。
38　小型甕 (H) 5区29住	(14.2)—　— 口(12.5) 胴(13.5)	図示部の⅓。	成。削り、ナデとも粗く雑。内面に強い接合痕。	胎砂粒・パミスやや多い。粗い。焼やや硬調O。色淡褐色～暗褐色。内面黒褐色。他二次火熱受ける。
39　小型甕 (H) 5区29住	12.7—　— 口10.6　胴15.6	図示部ほぼ完存。	成。外面削りはナデに近い。内面ナデは部分的。厚手で重量。	胎砂粒・パミス・石英含むが、厚手の土器としてはきわめて緻密。焼硬調O。色淡茶褐色。内面白色味。断面一部灰色味。
40　甕(H) 5区29住	(19.0)—　— 口(16.8)	図示部の⅔。焼土付近。	成。外面木口状工具の粗い削り後、強く細かい方向不安削り。内面粗いナデ。	胎砂粒・パミス・石英含み、ボソボソしている。焼O。色淡褐色～黒褐色で一様でない。他二次火熱を受ける。
41　甕(H) 5区29住	—(7.8)—	図示部の⅓。	成。外面ナデに近い削り。内面木口状痕残る雑なナデ。	胎砂礫やや多い。ベンガラ散見。焼O。色黒褐色。断面赤色味をおびる。他二次火熱受け、器面脆弱化する。
42　甕(H) 5区29住	(14.0)-6.1- 22.0　口(12.4) 胴(18.6)	上半の⅔を欠く。	成。胴下半に合わせ痕。外面削り細かく丁寧。内面平滑。	胎砂粒含む。厚手の甕としては緻密。焼やや硬調O。色淡褐色～黒褐色で一様でない。他二次火熱を受ける。

No. 器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
43　甕(H) 5区29住	(17.0)-(6.8)— ㊥(13.6)	口縁部1/8、他は図示部の1/6より復元。	㊦。胴中位に合わせ痕か。削り細かい。ナデは木口状擦痕。	㊧細礫・長石・ベンガラ含む。やや粗い。㊨O。㊥黒褐色。内面下半淡褐色。㊩二次火熱を受ける。
44　壺(H) 5区29住	—5.7—	図示部の1/2。	㊦。見込以外は全面細かく丁寧な削り。	㊧砂粒・輝石やや多い。緻密。㊨硬調O。㊥淡橙褐色。断面一部灰色味をおびる。
45　紡　輪 5区29住	㊦6.0	完形。	側部の加工痕顕著に残る。	
46　同29柱		一端を欠く。	滑石製勾玉形模造品。表面やや剝落する。	
47　杯(H) 5区30住	12.7—5.7	口縁部の1/6欠く。	㊦。底部細かな削り、縁辺無調整。内面方向不定のナデ。やや厚手。	㊧砂粒含む。輝石・石英・パミス散見。やや粗い。㊨やや硬調O。㊥淡橙褐色～黒色で一様でない。口縁部赤色味をおび、外面底部に光沢あり。
48　鉢(H) 5区30住	(13.0)—　—	図示部の1/4。	㊦。外面体部は指頭状擦痕残る。内面板状工具のナデ。	㊧モグサ質で軽量。砂粒含む。㊨硬調Oで強い焼締。㊥白色味をおびた淡褐色で断面まで一様。㊩口縁外端にスス付着。
49　小型甕 (H) 5区30住	13.9-8.5-15.5 ㊥12.0　㊩15.4	口縁部1/4、胴部1/2を欠く。	㊦。接合痕明瞭で器面に段が残る。削り・ナデともやや粗い。	㊧㊨48に近い。パミス散見。㊥淡褐色～黒褐色で一様でない。㊩二次火熱を受ける。外面に薄くスス付着。
50　甕(H) 5区30住	—6.4— ㊩21.3	図示部の3/4。底部完存。	㊦。胴下半に合わせ痕。内面ナデは木口状擦痕。	㊧砂粒・パミス・泥粒含み、やや粗い。㊨硬調Oで焼締。㊥暗褐色～黒褐色。内面淡褐色。
51　甕(H) 5区30住	—8.4—	図示部ほぼ完存。	㊦。接合痕明瞭。外面研磨状の削り痕。内面板状工具ナデ。	㊧50にほぼ同じ。㊨やや硬調O。㊥淡褐色～黒褐色で一様でない。部分的に赤色味おびる。㊩二次火熱を受ける。
52　壺(H)	12.5-6.8-19.7 ㊥10.3　㊩16.9	口縁部1/4欠きほぼ完形。	㊦。削りは乾燥状態で、鋭い擦痕残る。内面指頭の丁寧なナデで平滑。	㊧砂粒含み、石英散見。やや緻密。㊨硬調O。㊥淡橙褐色、胴中位黒褐色。内面下半やや灰色味をおびる。㊩口縁部内面の剝落進む。
53　鉢(H) 6区11住	(11.2)-(8.0)- 5.3	1/2個体。埋土。	㊦。外面に指頭圧痕残る。内面ナデ雑。底部厚い。	㊧砂礫多い。緻密さ欠き粗い。㊨やや硬調O。㊥淡褐色～暗褐色で一様でない。内面赤色味。㊩6区10住の遺物か。
54　土　釜 6区11住	(23.5)—　— ㊥(22.0) ㊩(22.6)	図示部の1/4。	㊦。外面削り鋭い。内面ナデ雑で平滑さ欠く。口縁端部平坦。	㊧砂粒・泥粒等含む。粗い。㊨O。ややしまり欠く。㊥黒褐色で削り痕は弱い光沢。内面淡茶褐色。
55　小型甕 (H) 6区12住	13.1—13.4 ㊥11.8　㊩13.7	ほぼ完形。	㊦。外面削り粗く細かい。ナデは横位で布状擦痕。見込窪む。	㊧砂粒・パミス含む。やや粗い。㊨硬調O。㊥淡褐色～黒色で一様でない。内面灰褐色。㊩吹きこぼれ状のスス付着。
56　杯(H) 6区12住	(12.8)—5.4	1/2個体。埋土。	㊦。削り粗い。内面ナデの後、口縁部のみ暗文状の研磨。	㊧細礫若干含む。やや緻密。㊨やや硬調O。㊥淡茶褐色。内面黒色処理で、口縁外面まで黒色。光沢なし。

No. 器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　考
57 杯(H) 6区12住	(14.4)—4.5	½個体。埋土。	輪。内斜口縁。削り粗く、体部無調整。内面全面研磨丁寧。	胎細礫やや多く、石英散見。焼やや硬調O。色淡茶褐色。底部黒褐色。内面白色味強く、一部橙色。
58 鉢(H) 6区12住	(13.4)-3.9-7.2	口縁½、底部ほぼ完存。	輪。削り・ナデともやや雑。見込平滑。厚手で重量。	胎砂粒やや多い。石英散見。モグサ質でやや多い。焼やや硬調O。色淡褐色～黒褐色。他二次火熱受ける？　外面剝落。
59 鉢(H) 6区12住	(11.6)-4.1-9.3 口(13.1)	上半½欠く。	輪。外面削り粗く、上半無調整。内面ナデは板状工具使用。	胎焼28に近い。色淡褐色～黒褐色。部分的に橙色味をおびる。他二次火熱を受けた可能性。
60 鉢(H) 6区12住	12.1-5.5-8.3 口13.0	上半½、底部ほぼ完存。埋土。	内面不明だが、29にほぼ同巧。	胎焼28に近い。色黒褐色。内面は淡く、口縁淡褐色。他見込磨耗。口縁に波状の小さな歪みあり。
61 鉢(H) 6区12住	(14.4)-4.3-7.3	口縁の大半を欠く。	輪。底部周辺のみ細かな削りで、他は無調整。内面平滑。	胎砂粒やや多く、細礫・パミス散見。焼やや硬調O。色暗褐色。内面淡褐色。断面外方は橙色味強い。
62 小型甕(H) 6区12住	(14.6)-6.0-14.5 焼(13.2) 口(15.4)	½個体。底部完存。	輪。外面観察困難。内面ナデ丁寧。	胎砂粒含み、石英散見。焼O。色淡赤褐色、内面暗褐色。他二次火熱の影響強く外面脆弱化。見込周辺剝落著しい。
63 小型甕(H) 6区12住	—8.1— 口14.0	口縁と、肩部½欠く。	輪。削り粗い。ナデも雑で、平滑さやや欠く。	胎細礫・石英若干含む。モグサ質でやや粗い。焼O。色暗褐色～黒褐色。断面白色味強い。他器面やや摩耗する。
64 甕(H) 6区12住	15.2-6.4-19.8 焼12.8 口16.7	ほぼ完形。	輪。胴下位内面に弱い合わせ痕。削り粗い。内面ナデ後、棒状工具の雑な磨き。	胎砂粒含み、パミス・ベンガラ散見。焼やや硬調O。色淡茶褐色～黒褐色。内面淡褐色。他二次火熱受ける。胴中位内外面の剝落多い。
65 甕(H) 6区12住	(25.0)—　—	図示部の1/6。	輪。外面削りは刷毛目状。口縁ナデ雑。内面ナデは木口状工具使用。	胎。砂粒やや多く、パミス・輝石含む。焼やや硬調O。色灰色味をおびた淡褐色で、暗褐色のムラ多い。他歪み著しく、口径不安。口縁外面の剝落多い。
66 杯(H) 6区15住	13.2～12.5-6.6-4.4	完形。	輪。砂底で、底部縁辺に削り。ナデはやや雑。厚手。	胎細礫・石英・輝石・黒色土粒等を散見する。焼やや硬調O。色淡褐色。外面に暗褐色のムラ多い。他見込に細かな亀裂多い。口縁部の歪み強い。
67 紡輪 6区15住		½個体。埋土。	器面は平滑で、整形痕は確認できない。二次火熱を受ける。角閃安山岩製。	
68 蓋(S) 6区16住	(13.5)—　—	図示部の½。	右→切離し不明→天井部二段の回ヘラ→鈕取付。ロクロ痕弱い。	胎黒色微細鉱物目立つ。混入物少ない。秋間窯の製品としてはポソポソする。焼硬調R。色白色味の強い灰白色一様。断面やや褐色味おびる。

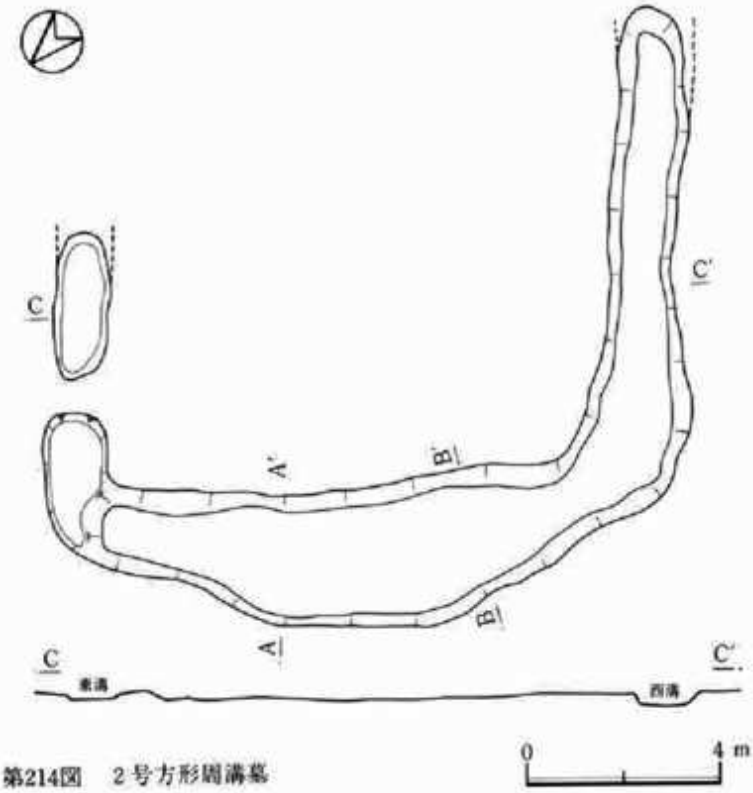
No. 器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
69 台付き甕(H) 6区16住	⑥上3.7 下8.6	図示部完存。埋土。	⑥。外面に巻上げ状の接合痕。ナデは内外面とも布状の擦痕が残る。	⑥砂粒含み、パミス・ベンガラ散見。甕類としては緻密。⑥やや硬調O。⑥淡茶褐色。断面は白色味をおびる。⑥二次火熱は受けていないようだ。
70 甕(H) 6区16住	20.3— — ⑥18.2	口縁⅓、胴部上半⅓。	⑥。口縁外面に接合痕。削りは強い。ナデ丁寧で平滑。	⑥砂粒やや多く、輝石・パミス散見。⑥O。⑥淡茶褐色。外面胴部暗褐色。⑥内面の剝落進む。二次火熱を受ける。
71 椀(H) 6区21住	(14.8)— —	口縁⅙、底部1/20。	⑥。外面粗く細かい削り。内面ナデ雑で端部のみ丁寧。	⑥砂粒含み、輝石・パミス目立つ。石英散見。⑥硬調Oで焼締。⑥淡橙褐色。内黒は光沢なく、くすんだ黒色を呈す。
72 鉢(H) 6区21住	13.9—9.7 ⑥13.2	口縁一部欠くほぼ完形。	⑥。口縁部のナデ強く、内面木口状の擦痕。底部削り粗い。胴部外面無調整。	⑥細礫・パミス・石英等の混入物多く粗い。⑥やや硬調O。⑥淡褐色。外面は暗褐色の部分が多い。⑥外面一部にススが付着。内面胴部若干剝落する。
73 鉢(H) 6区21住	(10.2)— —	図示部の⅓。	⑥。外面抉るような削りで、器面不整。内面細かな研磨施すが、平滑さ欠く。	⑥砂粒・細礫多い。石英目立つ。粗い。⑥やや軟調Oでしまり欠く。⑥外面淡橙褐色。内面淡褐色。⑥歪み著しく、口径・傾き不安。
74 甕(H) 6区21住	(15.6)— — ⑥(12.6) ⑥(19.8)	図示部の⅓。	⑥。外面削り弱く、擦痕少ない。内面板状工具による丁寧なナデ。	⑥細砂やや多い。細礫・ベンガラ・輝石散見。⑥やや硬調O。⑥淡褐色～暗褐色一様でない。⑥二次火熱を受ける。外面胴下半に若干ススが付着。
75 小型甕(H) 8区2住	13.5-6.0-15.2～16.2 ⑥10.1　⑥14.8	口縁部の⅓を欠く。	⑥。胴上半削り弱く木口状擦痕、下半は強い削り。内面は削りに近い。厚手。	⑥砂粒・輝石・パミスを若干含む。やや緻密。⑥硬調O。⑥淡褐色～黒褐色で一様でない。⑥外面頸部付近に薄いスス付着。二次火熱不明。
76 甕(H) 8区2住	(14.0)-(6.8)-22.8 ⑥19.2	口縁部⅙、胴部⅓を欠く。埋土中の20片接合。	⑥。削りは乾燥状態で行ない、擦痕鋭いが器面に光沢。やや雑な造り。	⑥細礫の混入顕著。粘土もボソボソで粗悪。⑥O。胎土の原因で焼締欠く。⑥暗褐色。一様でない。⑥内面器面に乾燥時のヒビ割れ多い。
77 羽　口 8区2住	⑥10.0	½個体。	8区5住出土の羽口と共通点多い。胎土やや粗く、割口の剝落が進む。	
78 小　皿 8区3住	8.8-5.2-2.5	ほぼ完形。	⑥。ロクロ痕弱い。見込は台状に突出し中央やや窪む。厚手。	⑥粗砂・パミス若干含む。石英散見。やや緻密。⑥硬調O。やや焼締。⑥淡褐色。外面一部橙色味おびる。
79 小　皿 8区3住	(10.0)-5.2-2.2	口縁部⅓欠く。	⑥。ロクロ痕は見込で同心円状、口縁部はきわめて弱い。	⑥砂粒・パミス・石英・輝石を若干含む。やや緻密。⑥硬調O。やや焼締。⑥橙色味の淡褐色でほぼ一様。
80 小　皿 8区4住	6.2-3.1-2.3	口縁端部一部欠くほぼ完形。	⑥。回糸痕不鮮明。見込縁やや窪み、中央に弱いナデ。薄手。	⑥細砂含む。輝石・ベンガラ散見。緻密。⑥硬調O。強い焼締。⑥淡橙褐色。外面底部付近淡褐色。⑥燈芯痕状のスス付着。

2　方形周溝墓の調査



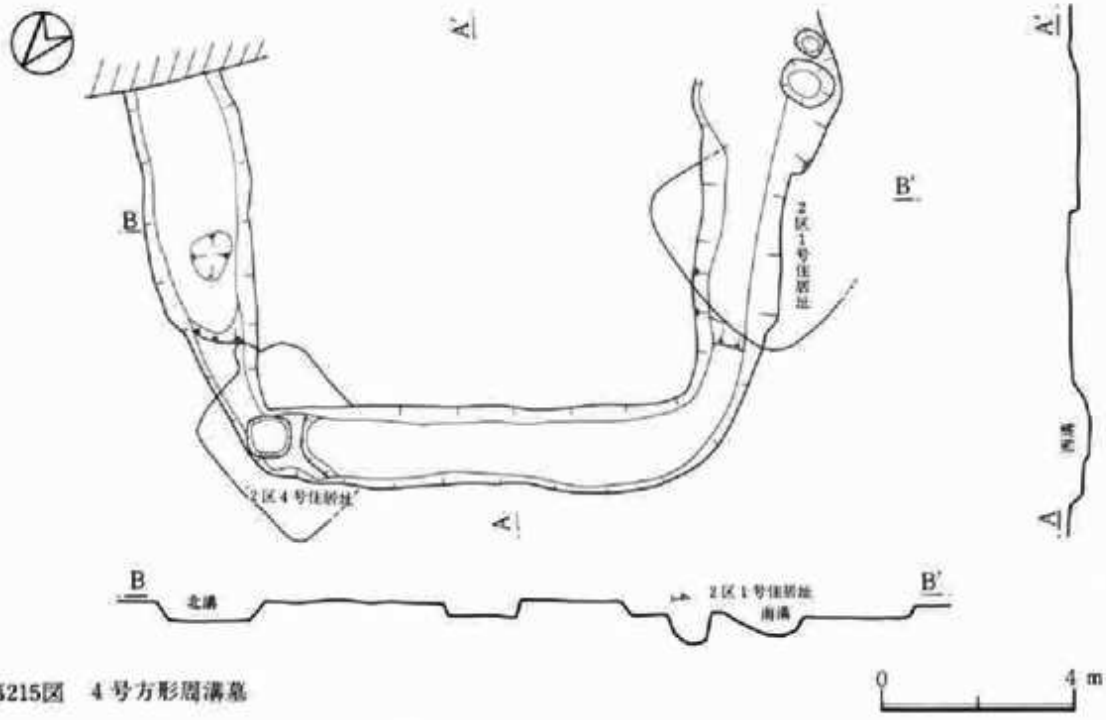
土層説明　1．浅間C混り黒色土層
2．浅間C混り黒褐色土層
3．黒褐色砂質土層
4．浅間C多量混り黒色土層
5．褐色砂質土層

第213図　1号方形周溝墓

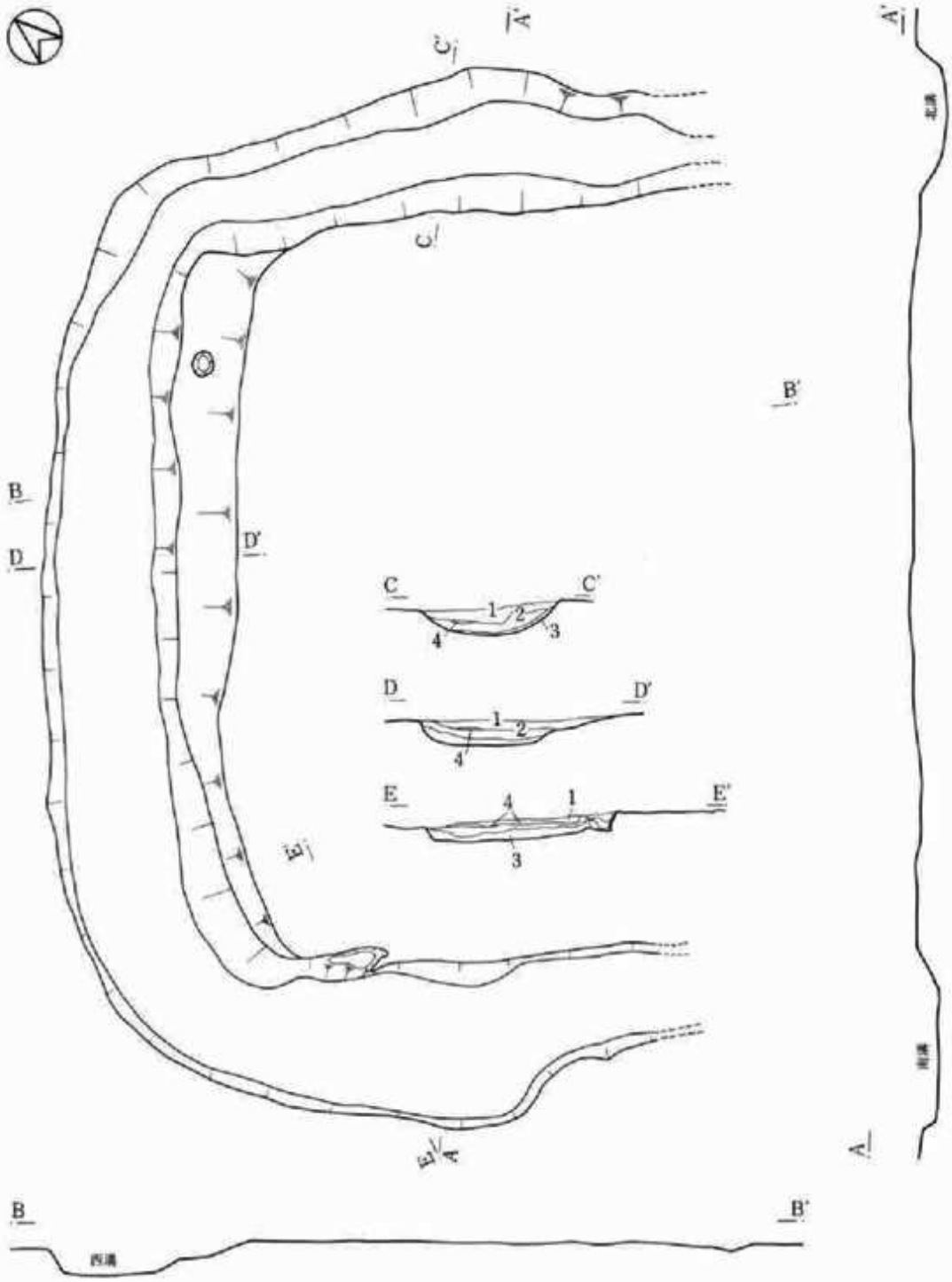


土層説明
1．浅間C混り黒色
2．黒褐色土層
3．黒色土層
4．黒褐色砂質土層

第214図　2号方形周溝墓



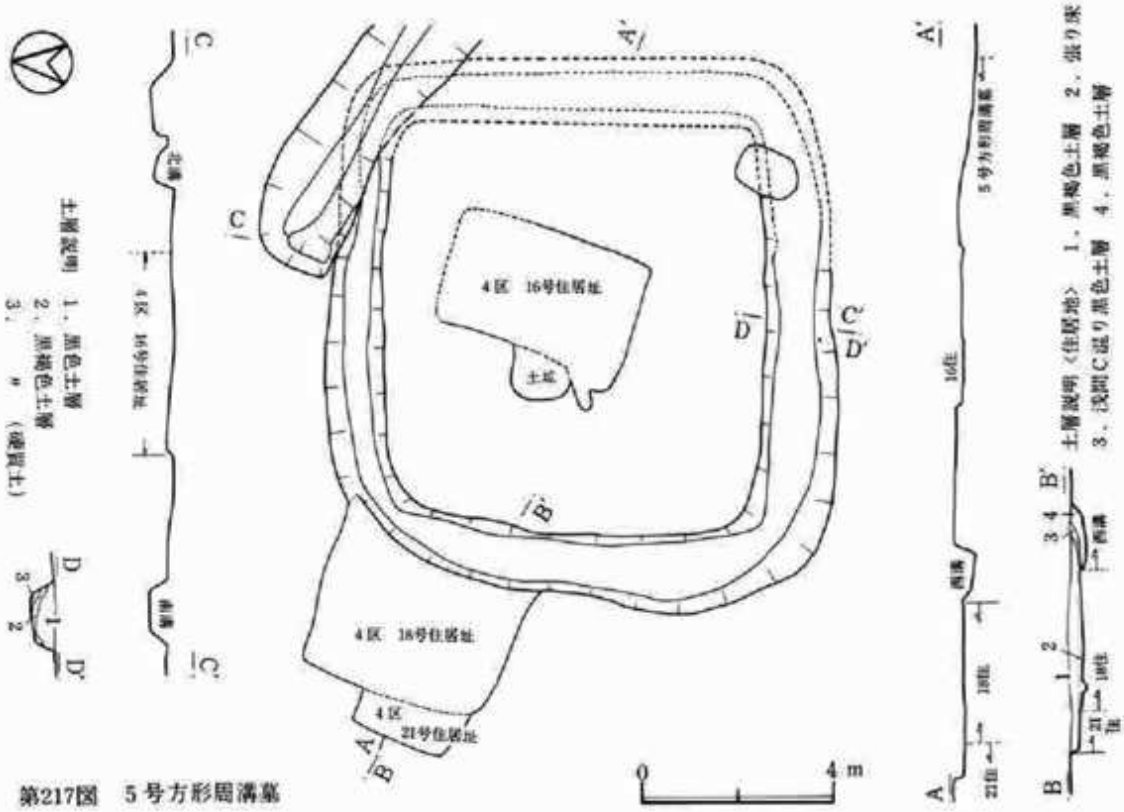
第215図　4号方形周溝墓



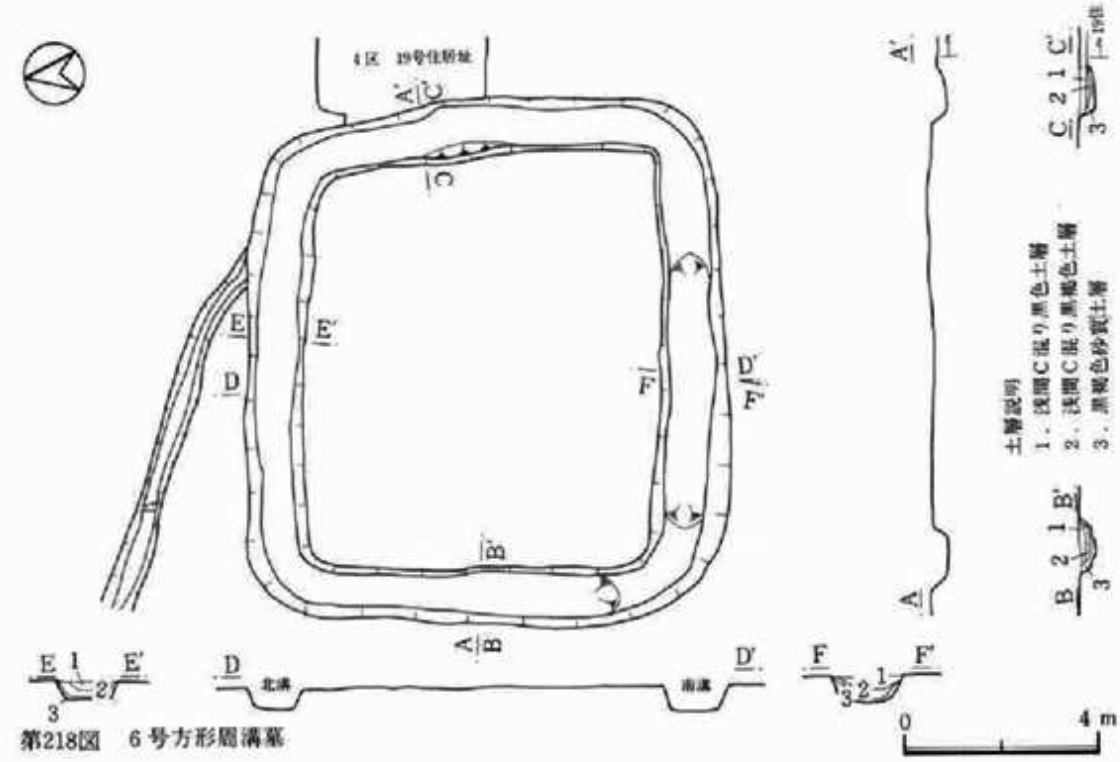
土層説明　1．FP・浅間C混り黒色土層　2．浅間C混り黒色土層
3．浅間C混り黒褐色土層　4．FP集中土層

0　4 m

第216図　3号方形周溝墓



第217図　5号方形周溝墓



第218図　6号方形周溝墓

本遺跡で検出された周溝墓は6基である。このうち1～3号周溝墓は、調査区南端の1区から、軸方向をほぼ等しく並らぶようにして検出した。4号周溝墓は前述の3基から北へ40m離れた2区北隅にあるが、軸方向は1～3号周溝墓にほぼ等しい。この4基は桂川に面した微高地の縁辺に、並らぶような状態であった。5・6号周溝墓は、4号周溝墳より北へ80m離れた調査区中央で、近接した状態で検出した。軸方向は前述4基より北側を向いていた。

以下に方形周溝墓についての説明を一括して行なうが、主軸方向は北側からの角度を示す。また、方台部や周溝の規模は上端での計測値である。いずれも封土および主体部は検出できなかった。

1号方形周溝墓　　位置　1区　　軸方向　N－36°－W

周溝は全周せず、南東辺にブリッジ状の施設があった。地山は南側へ低く傾斜し、50cmの比高差があった。周溝底面のレベルも地山傾斜に沿って低くなっていた。地山からの深さは、北側で45cm、南側で30cmを測る。周溝幅は1.8～2.0mであったが、北西辺は外側へ大きくふくらみ、3.8mの幅があった。方台部は一辺11.5mの正方形を呈す。

2号方形周溝墓　　位置　1区　　軸方向　N－45°－W

南東側は発掘区域外にあるため、検出できなかったが、南端はブリッジ状になっていた。北東辺もブリッジ状の部分があったが、周溝が4～8cmも浅いため、不明瞭であった。周溝幅は1.2～1.4mで、北西辺は外側へふくらみ、2.8mと幅広になる。1号周溝墓と同一の特徴である。深さは地山傾斜とは逆に、北東側が低かった。方台部の規模は北西辺9.4m、南西辺9.6m以上で、正方形に近いプランとなる。

3号方形周溝墓　　位置　1区　　軸方向　N－42°－W

調査区南端の地山傾斜変換点をまたぐようにしてあり、南東側半分は検出できなかった。地山傾斜は、1m以上の比高差がある。周溝幅は北東辺で3m、北西辺・南西辺で3.5～4.3mと広い。深さは地山傾斜に沿って東側が低く、40cmのレベル差があった。地山からの深さは、最も深い北東辺中央と南西辺東側で65cmあった。方台部の規模は北東辺で16.4と、本遺跡中最大であった。

4号方形周溝墓　　位置　2区　　軸方向　N－42°－W

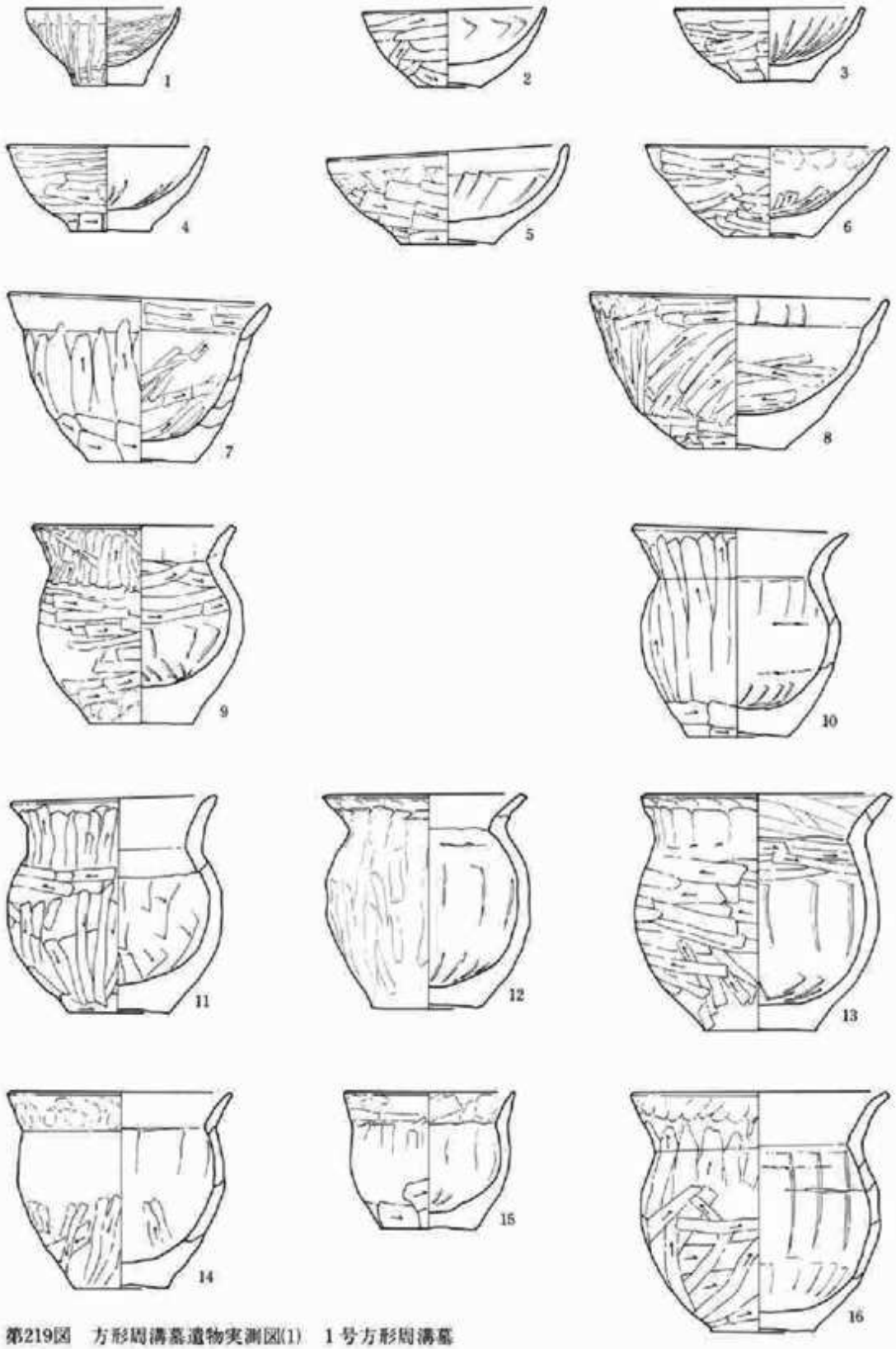
住居址との重複や、攪乱が多く、きわめて不明瞭であった。南東側が開き気味となる不整プランを呈すと思われる。周溝は北東辺の北側が浅くなっていた。周溝の幅は1.6～2mで一定していた。方台部の規模は、北西辺で8.7mを測る。

5号方形周溝墓　　位置　4区　　軸方向　N－5°－E

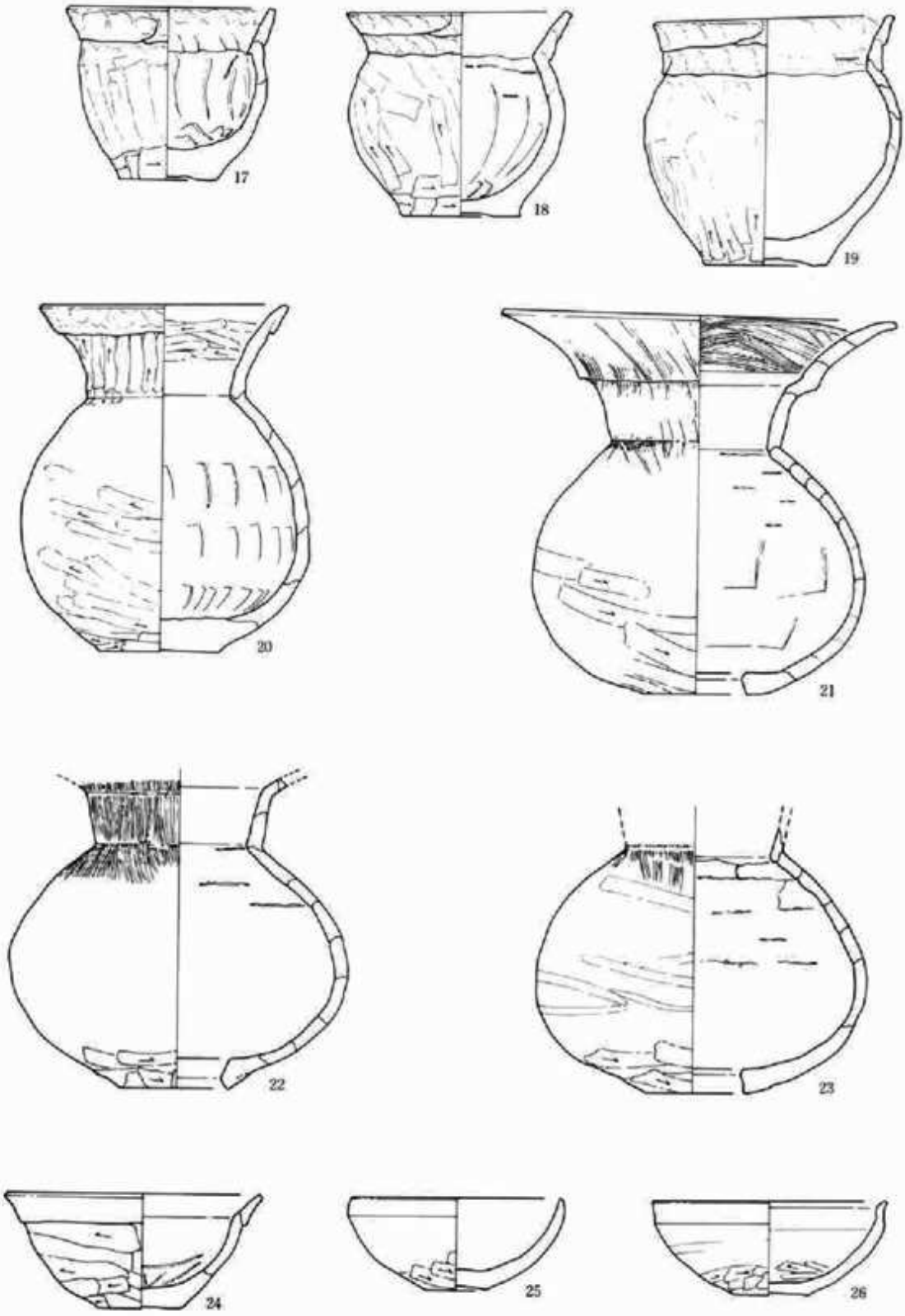
地山が東へ低く傾斜し、東辺と南辺東側が不明である。周溝の深さは地山傾斜に沿って、南側東側が低く、30cmのレベル差があった。方台部は一辺7.1mほどの正方形を呈すと思われる。

6号方形周溝墓　　位置　4区　　軸方向　N－7°－W

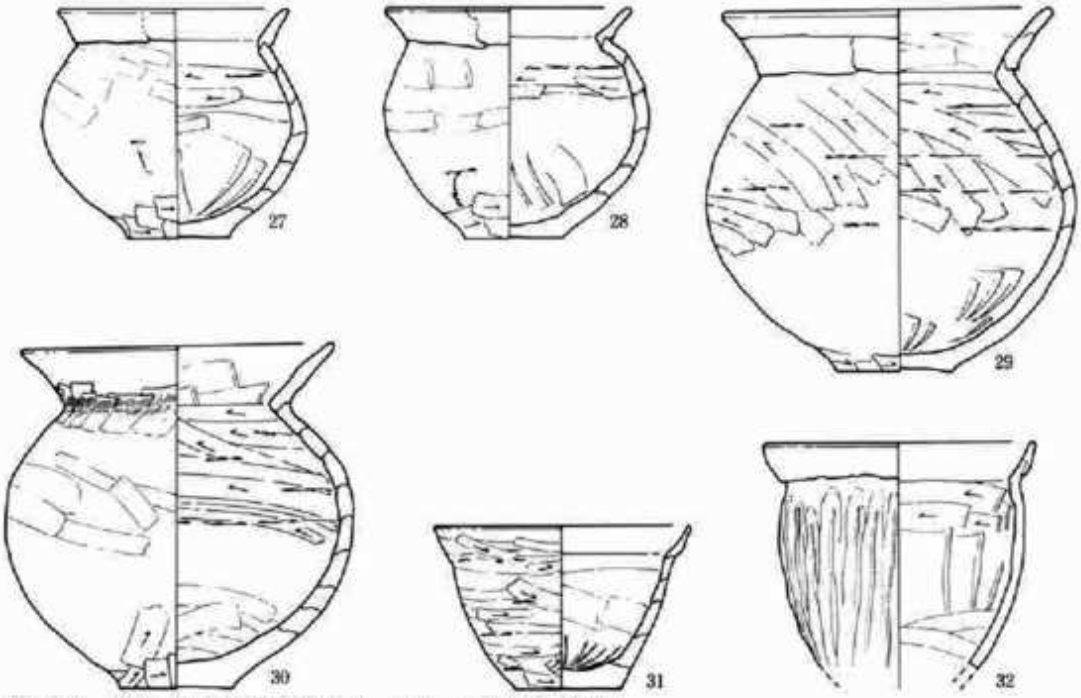
地山傾斜に沿って、周溝は東側が低くなっている。周溝の幅は1.1～1.4mで一定している。方台部は北辺と南辺で50cmの差があり、台形プランを呈す。



第219図　方形周溝墓遺物実測図(1)　1号方形周溝墓



第220図 方形周溝墓遺物実測図(2) 1号・3号・4号方形周溝墓



第221図　方形周溝墓遺物実測図(3)　4号・5号方形周溝墓

1号方形周溝墓出土遺物

No.	器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　　考
1	鉢	7.3-3.4-3.7	ほぼ完形。	㊙? 外面縦～斜位の雑な研磨。内面ナデの後、方向不定研磨。底部削り。	㊙砂粒・パミスを散見する以外、混入物なく、緻密できわめて良好。㊝硬調で、土師器では最良の焼締。㊐白色味の強い淡褐色。一部橙色味。断面灰色味。
2	鉢	8.7-3.1-3.6	¾個体。南西溝底面。	㊙。外面細かな削り。内面ナデ雑。	㊙㊝㊐1にほぼ同じ。細礫・石英を若干含む。
3	鉢	9.0-3.5-3.5	完形。北西溝北側底面。	㊙。口縁端部削りで平坦。内面幅広のナデで圧痕状工具痕。	㊙砂粒やや多く、輝石・パミスを若干含む。やや緻密。㊝硬調。㊐白色味の強い淡褐色で、外面一部暗褐色。
4	鉢	9.6-3.8-3.1	完形。北西溝中央底面。	3に同巧。	㊙㊝㊐3に同じ。
5	鉢	11.8-4.7-4.3	ほぼ完形。南西溝上面～底面。	㊙。外面一部指頭痕。削り強い。内面ナデ雑。口縁一部内折。	㊙㊝㊐3に近い。白色砂粒の混入多い。㊛口縁に歪み強い。
6	鉢	11.5-4.3-4.2	完形。	㊙。外面削り丁寧で磨きに近い。	㊙㊝㊐5に近い。内面やや暗い。㊛全体に歪み強い。
7	鉢	12.4-5.2-7.7	ほぼ完形。周溝隅底面。	㊙。口縁端削り。見込周辺粗く鋭い磨き。	㊙㊝㊐3に同じ。内面がが暗い。

No.	器形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備考
8	鉢	14.6～15.2-4.9-7.1	完形。北西周溝北寄り底面。	輪。口縁端部丸い。外面指頭痕残る。見込周辺粗く鋭い磨き。	胎焼色3に近い。他口縁部に片口状の歪みあり。見込に乾燥～焼成段階に生じた鋭い亀裂あり。
9	壺	9.5-4.9-9.2 頸8.1 胴9.6	ほぼ完形。北西周溝底面。	輪。口縁端部削りで外傾。丁寧な作り。	胎焼色1に近い。他見込に亀裂多い。
10	壺	10.3-4.9-9.7 頸8.0 胴9.5	完形。北西周溝中央底面。	9にほぼ同巧。内面接合痕残る。	胎焼色3に近い。黒色味強い。他見込に若干亀裂あり。
11	壺	9.8-4.8-9.9 頸8.3 胴10.1	完形。北西周溝北寄り底面。	9にほぼ同巧。内面肩部に接合の強い段が無調整で残る。	胎焼色3に近い。断面は黒色味をおびる。他見込に鋭い亀裂あり。
12	壺	9.9-5.0-10.0 頸7.4 胴5.1	完形。北西周溝北寄り底面	10と同じ。口縁部外面の調整雑。	胎焼色3に近い。見込と口縁部に細かな亀裂あり。
13	壺	11.9-5.1-11.0 頸10.0 胴11.4	完形。北西周溝北寄り底面。	9に近い。削りは木口状の工具痕残る。口縁外面無調整。	胎焼色3に近い。断面は黒色味おびる。他見込に亀裂多い。
14	壺	(10.5)-(4.4)-9.2 頸(9.2) 胴9.7	上半⅔、下半⅓欠く。北西周溝底面。	輪。口縁端部削り。外面乾燥状態での削りで磨きに近い。	胎焼色3に近い。外面下半に弱い光沢。断面は灰色味おびる。他見込に細なか亀裂あり。
15	壺	9.6-4.4-6.4 頸7.4 胴7.7	上半⅓欠く。北西周溝底面	輪。外面削り弱く、皆頭状の窪み多い。内面ナデ雑。	胎砂粒やや多い。パミス散見。やや粗い。焼硬調で焼締。色白色味ある淡褐色。黒斑あり。他口縁歪み著しい。見込亀裂。
16	壺	12.5-4.9-11.3 頸9.8 胴11.2	口縁⅓欠く。北西周溝南側	9に近い。外面口縁指頭痕。内面工具痕。	胎焼色3に近い。他見込に鋭い亀裂あり。
17	壺	10.3-4.5-8.1 頸8.8 胴9.0	完形。北西周溝北寄り底面。	輪。口縁外面輪積痕意図的に残し、端部削り。底部無調整。内面板状工具ナデ。	胎砂粒やや多く、パミス散見。やや粗い。焼硬調で焼締。色白色味ある淡褐色。部分的に橙色味・黒色味おびる。断面灰色味。他見込に細かな亀裂あり。
18	壺	10.5-5.6-9.5 頸8.8 胴10.4	完形。北西周溝側底面。	17に同巧。口縁輪積痕2条。	胎焼色17に同じ。
19	壺	11.2-5.9-11.5 頸10.4 胴12.0	ほぼ完形。北西周溝北底面	18に同巧。口縁内面平滑さ欠く。	胎焼色17に同じ。断面やや黒色味をおびる。他見込に亀裂あり。
20	壺	12.2～12.7-6.0-16.2 頸7.5 胴13.6	ほぼ完形。北西周溝北側底面。	17にほぼ同じ。底部削り。内面ナデ粗い。外面頸部削り丁寧。	胎17に近い。パミスやや多く、石英散見。焼色17に同じ。他見込の亀裂著しい。

3号方形周溝墓出土遺物

No.	器形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備考
21 底部穿孔壺		(18.8)-6.6-17.9 頸8.0 胴16.1 孔4.5	口縁部⅔、底部⅓を欠く。南西周溝内。	輪。頸部以上で刷毛目。底部削り。整形雑で内面に接合痕。	胎砂粒・パミスやや多い。ベンガラ・石英散見。やや粗い。焼やや硬調。色淡褐色。黒斑あり。他器面やや風化する。

No. 器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　考
22 底部★孔壺	—5.3— 口16.2 孔4.6	口縁部欠く⅓ 個体。周溝南。	21に同巧。	胎焼色21に同じ。
23 底部★孔壺	—(5.4)— 胴(15.5)	口頸部欠く⅓ 個体。周溝南。	21にほぼ同じ。内面接合痕強い。	胎焼色21に同じ。
24　鉢	(12.2)-4.0-5.4	上半¼、底部完存。方台部。	17に近い。底部削り。内面やや平滑。	胎焼色17に近い。細礫・石英散見。

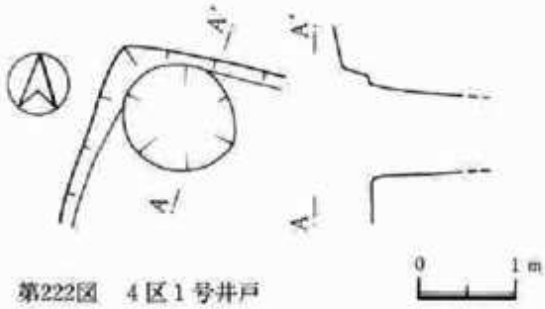
4号方形周溝墓出土遺物観察表

No. 器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　考
25　鉢	10.1-3.0-4.3	完形。周溝西端。	輪。口縁端部尖る。内面ナデで平滑。外面上半無調整。	胎砂粒・パミス・ベンガラ等を若干含む。緻密。焼硬調ど焼締。色淡赤褐色。口縁部やや暗く、内面赤色味強い。
26　鉢	11.1-3.4-4.4	完形。	25に近い。口縁部若干内斜。ナデやや粗く、見込に工具痕。	胎25に近いが、混入物やや大粒。焼硬調で強い焼締。色淡赤褐色。内面淡い。外面弱い光沢。
27　壺	9.2-4.1-8.9 底7.5 胴10.2	ほぼ完形。	輪頸部輪積痕を意図的に残す。口縁端部丸い。内面ナデ粗く、工具痕残る。	胎粗砂やや多く、パミス・ベンガラ・輝石散見。やや緻密。焼硬調。色茶褐色。外面に黒斑。内面赤色強い。
28　壺	9.5-3.8-9.1 底8.0 胴10.2	ほぼ完形。周溝西側。	27に同巧。	胎焼色27に同じ。
29　壺	13.2-4.2-14.1 底10.2 胴14.1	ほぼ完形。周溝西端。	輪。口縁2段の輪積痕で、上段は弱い。端部丸い。内面木口状擦痕。削り弱い。	胎27に近い。石英散見。混入物はやや大粒。焼色27に同じ。
30　壺	12.4-4.4-13.3 底8.9 胴13.8	完形。周溝西端。	口縁部外面輪積痕なし。他は29に同じ。	胎焼色29に同じ。

5号方形周溝墓出土遺物観察表

No. 器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　考
31　鉢	10.0-4.6-6.5	完形。	輪。口縁端部やや尖る。削り粗く強い。見込にナデ工具痕。	胎粗砂多い。石英・パミス・ベンガラ散見。焼硬調ど強い焼締。色淡褐色。外面一部暗く、内面橙色味強い。
32　鉢	10.6— — 底9.2 胴9.6	図示部の¾。周溝西側。	輪。頸部外面輪積痕を意図的に残す。端部丸い。外面雑な磨き。幅広工具のナデ。	胎31に近い。混入物大粒でやや粗い。焼やや硬調だが焼締欠く。色暗褐色。内面淡茶褐色。

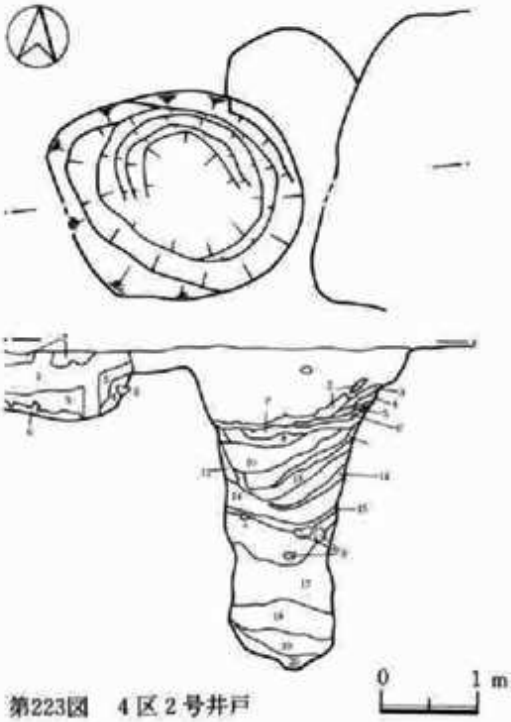
3　井　　戸



第222図　4区1号井戸

4区1号井戸

11号住居内の北壁下西隅にあり、F－2・3グリッドに位置する。開口部径が115×105cmの不整だ円形プランを呈す。断面形は筒状となるようである。住居との切り合いは不明だが、住居壁の崩れがなく、井戸の先行もしくは同時存在が想定できる。住居床面下1.8mの深さまで掘り下げたが、未完掘である。ボーリング棒による調査で3.5mの深さであることを確認した。



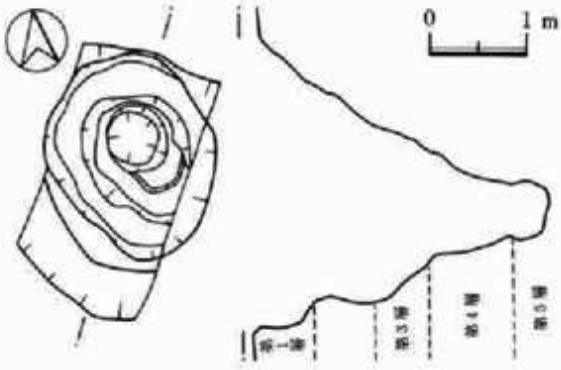
第223図　4区2号井戸

4区2号井戸

昭和50年度のトレンチ調査で検出し、発掘した井戸である。ローム上面での開口部径は240×210cmの不整だ円形プランを呈す。確認面からの深さは3.3mで、断面形は上方が弱く開く漏斗状となる。壁の遺存状態は良好で、大きな崩れの痕跡はない。底面は平坦さを欠き、中央が擂鉢状に窪んでいる。

土層説明

1、暗褐色砂層（表土耕作土）　2、暗黄褐色土層　3・5・6・7、暗茶褐色土層　4・8・9・10・14'・15、黒褐色土層　11、黒褐色砂質土層　12・19、黄褐色粘土層　13、暗黄褐色粘土層　14・16、暗黒色土層　17・18、灰黒色



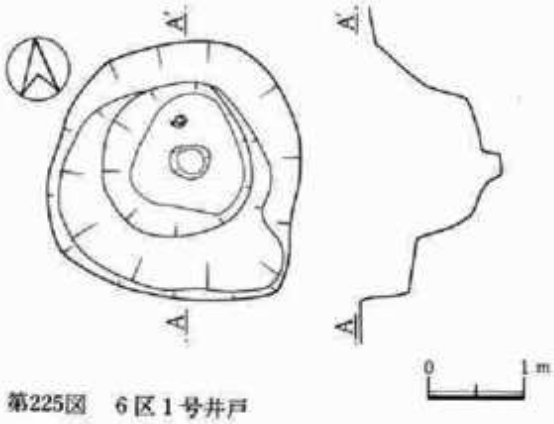
第224図　4区3号井戸

4区3号井戸

2号井戸同様、トレンチ調査時に検出した井戸である。トレンチ幅1.5m内での調査で、一部を拡幅したが、壁面は未完掘である。径280cmほどの不整円形プランを呈すと思われる。開口部分に比べ底部が狭く、断面形は逆三角形となる。ローム面上の開口部からの深さは3.1mであった。

土層説明

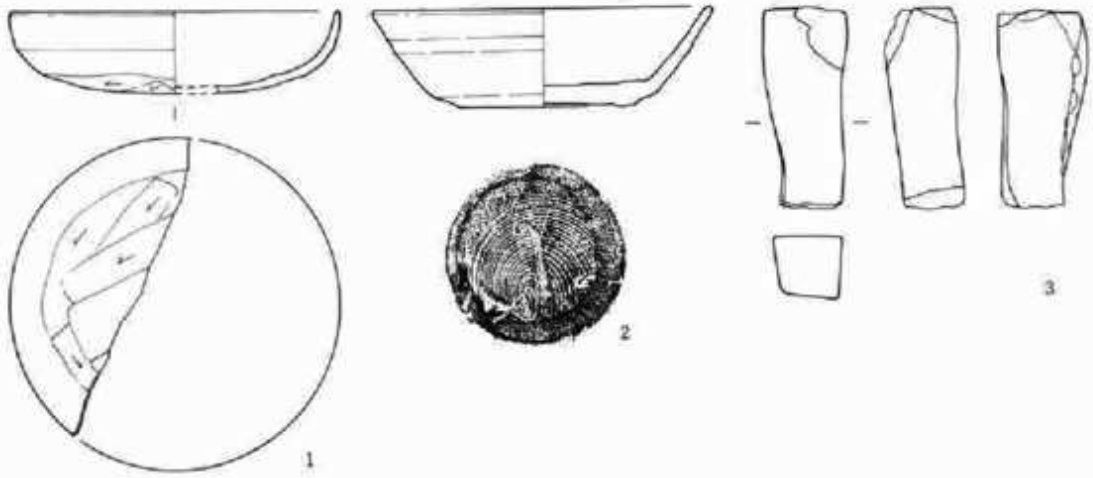
1、灰褐色砂質土層　2、暗黄褐色粘土層　3、茶褐色粘土層　4、黄褐色粘土層　5、黄灰色粘土層



第225図　6区1号井戸

6区1号井戸

E－7グリッドに位置する。ローム上面の開口部径は260cmで、不整円形のプランを呈す。広い開口部に比べ、深さはわずかに1.5mで、井戸として機能するものなのか不明である。足場に適した中段がある。奈良時代の遺物が出土したが、底から50cmほど浮いた状態であった。



第226図　6区1号井戸出土遺物実測図

6区1号井戸出土遺物観察表

No. 器　形	計測値(cm) 口径-底径-器高	出土状態	成・整形技法の特徴	備　考
1 杯(H)	(12.8)－　－	⅗個体。	㊙。底部丁寧な削り。縁辺無調整。内面丁寧なナデで平滑。	㊙輝石・砂粒を若干含む。緻密。㊙やや硬調O。㊙淡茶褐色で断面まで一様。
2 杯(S)	(13.2)-7.0-3.8	口縁部⅔、底部完存。	㊙→回糸→周縁部手ヘラ。ロクロ痕細かく弱い。内面きわめて平滑。	㊙砂粒・黒色鉱物粒を含む。緻密。白色針状鉱物の混入やや目立つ。㊙硬調O。焼締。㊙やや青色味をおびた淡灰色で、断面まで一様。
3 砥　石			断面糸巻状、四面使用の半欠品。使用痕はきわめて細かいが、一面のみ、粗い斜方向の擦痕あり。	

4　鉄製品について

本遺跡出土の鉄製品はこの項で一括して説明を加える。

群馬県内の奈良・平安時代の集落遺跡から出土する鉄製品は、南関東と比べて量的には著しく少ないようである。多量の鉄製工具を出土した松井田町愛宕山遺跡4号住居址のような例外はあるが、1軒の住居址から複数の鉄製品を検出する例も少ないようである。このような傾向と対比すれば本遺跡の鉄製品は質・量ともに豊富であった。鋸・鑿・手斧など報告例の小ない工具類が検出され、刀子の出土も多かった。反面、鎌や鋤などの農具類は少なかった。その他の鉄製品は大半が釘および鏃と思われる棒状の不明品であり、工具類の出土が際立って多いと言えよう。

鉄製品出土の住居址は23軒であったが、このうち8軒から複数点の出土があった。5区17号住居の7点を最多として、3区10住・8区5住の3点など、特定の住居址から偏って検出する傾向があったが、これらの住居址は釘や鏃が中心で、大型農工具の集中出土は認められなかった。

鉄製品観察表

No.	名称	出土遺構	計測値(mm)	備考
1	釘　?	2区3住　埋土	㊫基3.8×4.4	両端欠く。断面長方形。縦位に強い亀裂が入る。材質悪く釘と推定する。
2	釘　?	2区3住　埋土	錆と亀裂で計測できず	1に同じ。先端はねじれずにU字状に屈曲する。
3	鋸	3区8住　埋土	㊧131　㊫16.8　㊬2.7	先端は鍵の手状。茎を欠く。関不明。刃はアサリを有す。東京都栗原遺跡に類例あり。(註2)
4	取手?	3区10住　埋土	㊧40.3	両端とも尖る。錆化著しく不明瞭。
5	釘	3区10住　埋土	㊫ 7.5	1に同じ。断面ほぼ正方形。ややねじれる。
6	釘	3区10住　貼床下	㊧72.5　㊫6.0～3.5	先端は欠失か残在か不明。折頭式で頂部は窪む。
7	釘	3区13住	㊫ 9.0～6.5	先端欠く。断面正方形。頂部窪む。
8	釘　?	3区17住　埋土	㊫ 4.5	両端欠く。断面ほぼ正方形。亀裂多い。
9	釘	4区15住	㊫ 7.0～4.0	先端欠く。付着する木質より、木目に平行に打ち込まれたことが判る。
10	刀子	4区1住	㊫茎16.8～6.3　㊬峰4	茎部のみ。関部分で曲がって折れる。
11	鑿	4区11住　床直	㊧全129　頭部58 ㊫柄6.8　刃部7.5×4	T字形で頭部長い。頂部は殴打により窪み、メクレができる。断面は柄が正方形、刃が長方形。
12	刀子	4区12住　埋土	㊫身14茎9.5　㊬2.5	両端欠く。柄に木質残存。砥ぎ減り少ない。
13～16 釘または鏃		4区12住　埋土	㊫4～3	いずれも両端欠く。15の先が細る以外、幅の変化は少ない。1～2個体の可能性もある。
17	刀子	4区18・21住 埋土	㊫関17茎8　㊬峰2.5	身を欠く。峰の関は不明瞭。身は薄くなるか。
18	不明	4区18・21住 埋土	㊫11　㊬3.5	割口側の中央に円孔の可能性。端部は尖り鍵の手状に屈曲。厚さ一定。
19	刀子	4区19住　埋土	㊫身13茎9　㊬峰3.5	両端欠く。関は峰のみで刃部不明瞭。細身。
20	鎌	5区4住　埋土	㊫24　㊬峰3	両端欠く。左右不安。峰全体が彎曲する。(註3)
21	雁股鏃	5区11住　埋土	㊫関10茎6　㊬笠被4	両端欠く。錆化著しく亀裂が強い。根の幅が不均等で左右対称にならない。
22	釘	5区12住　埋土	㊫(10)	先端欠く。頂部つぶれる。錆のふくらみ著しい。
23	不明	5区13住	㊫32～28	断面正方形。環状の頂部は継ぎ目不明。馬具としては小型。
24	雁股鏃	5区17住　埋土	㊫関(13)　㊬笠被	両端欠く。根は歪み左右対称にならない。

鉄製品観察表

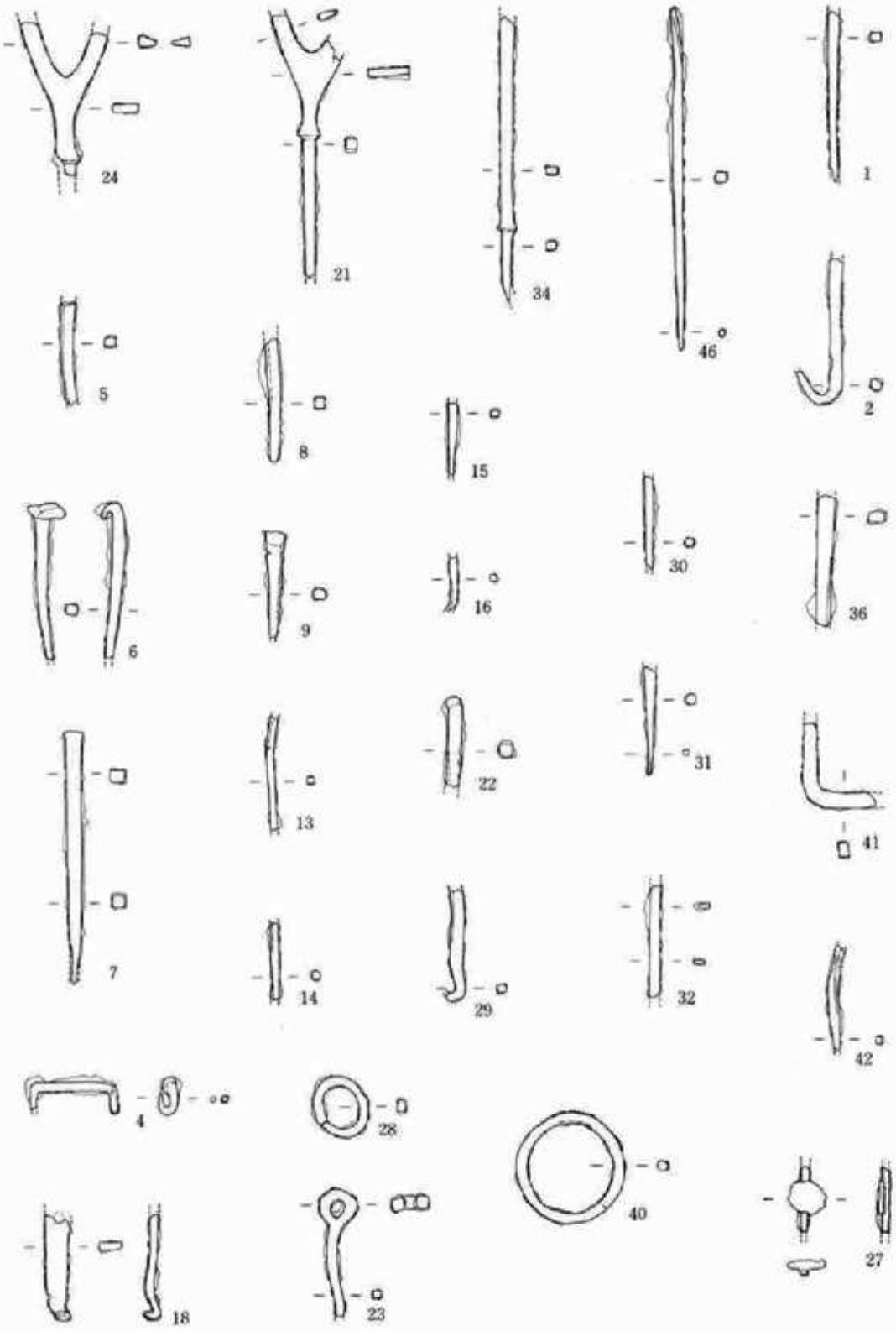
№	名　称	出土遺構	計　測　値（mm）	備　　考
25	鎌	6区9住　埋土	ⓜ基45　ⓦ峰2.5	先端欠く。基端部峰側折り返し。やや砥ぎ減る。
26	鋤先？	5区17住　埋土	ⓦ3.5	破片。銹化少なく、後世の混入品か。
27	座金物	5区17住　埋土	ⓜ盤16　軸4	両端欠く。薄い円盤状の金物と、断面正方形の軸を接合する。軸は先が細る。
28	環	5区17住　埋土	ⓛ30×25　ⓜ8～6	断面長方形の棒状品を曲げる。棒は先細りのため継ぎ目に段差生じる。用途不明。
29	不明	5区17住　埋土	ⓜ4	端部やや細く鍵状に屈曲。銹化進む。
30	釘または鏃	5区17住　埋土	ⓜ4.5～3	両端欠く。断面正方形。先端へ向け均等に尖る。
31	釘または鏃	5区17住　埋土	ⓜ6～2	上半欠く。断面正方形。先端尖る。銹化著しい。
32	不明	5区17住　埋土	ⓜ5　ⓦ2	両端欠く。断面長方形。材質は良いため、細根の鏃か刀子茎と思われる。
33	刀子	5区20住　埋土	ⓜ10.5～6　ⓦ峰3	切先付近。砥ぎ減り少ない。幅15mm刀子身破片が付着している。砥ぎ減り強く別個体。
34	鏃	5区20住　埋土	ⓜ茎5関(9)箆被8	きわめて長頸で、細根の鏃か。両端欠く。
35	刀子	6区2住　埋土	ⓜ13関15茎6　ⓦ峰3	柄の木質残存する。刃部の関は不明瞭。33の刀子は接合せず。
36	鏃？	6区6住　埋土	ⓜ8×5.5	断面長方形。材質良く、根の大半を欠く鏃か。
37	手斧	6区7住	ⓛ95　ⓜ刃42袋32×20	ほぼ完形。有袋無肩式。木質の残存は不明。
38	刀子	6区9住	ⓜ身8関42茎6　ⓦ峰3	やや砥ぎ減る。柄にわずかに木質残存。
39	鎌？	6区10住　埋土	ⓜ基26.5　ⓦ峰1.5	基端部の折り返しが欠失したものと思われる。峰は直線的に延びる。
40	環	8区5住	ⓛ50×48　ⓜ4	断面正方形。継ぎ目不明瞭。用途不明。
41	不明	8区5住	ⓜ7×5、6×3.5	断面長方形の棒状品を、長軸側で直角に曲げる。
42	釘または鏃	8区5住	ⓜ4	両端欠く。幅はほぼ一定。銹化著しい。
43	大型刀子	表　採	ⓜ身28.5　ⓦ峰2	両端欠く。短く幅狭。砥ぎ減り少ない。
44	鑿？	3区表採	銹化著しく計測できず	基部欠く。不明瞭だが、断面の観察より有袋式の可能性。
45	刀子	表　採	ⓜ12～4　ⓦ4	柄部破片。木質わずかに残存。端部尖る。
46	鏃	表　採	ⓛ156　ⓜ5～2	根の欠失した細根鏃と思われる。関なし。茎は銹化少なく残存状態良い。

註1　『群馬県立歴史博物館常設展示解説』　1982。

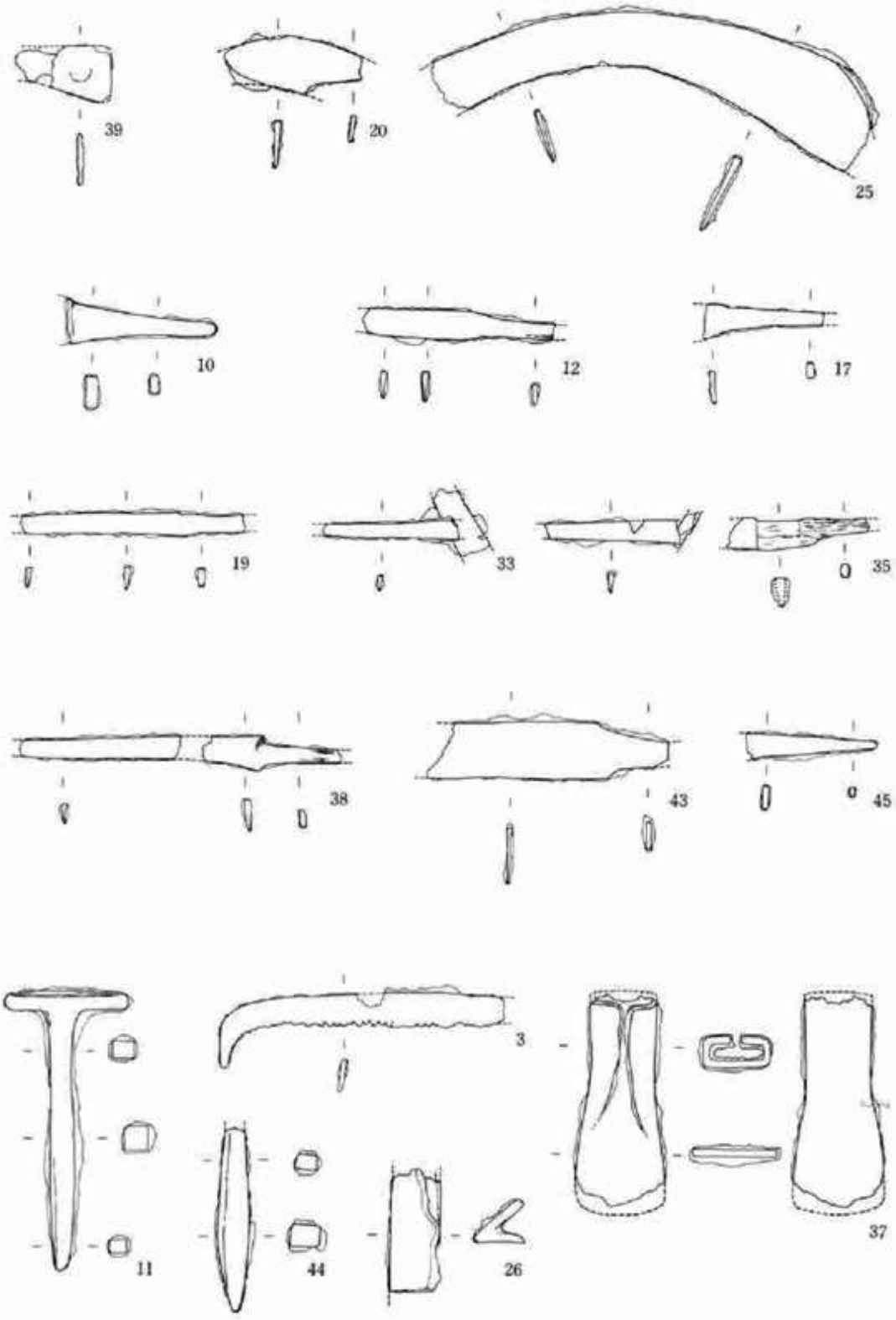
註2　H－5号住居址より完形品出土。全長50cmで本遺跡例よりかなり大型である。縦挽き鋸と報告されるが、「刃は左右交互に外反」することより、アサリのある横挽き鋸であろう。　玉口他1955。

註3　土井義夫分類のC_1類に相当する。25も同じ。　土井1971。

なお、鉄製品の観察については、大江正行より多くの教示を受けている。



第227図 鉄製品実測図(1)



第228図　鉄製品実測図(2)

第Ⅲ章　成果と問題点

1　古墳時代の遺跡と遺物

荒砥上川久保遺跡の古墳時代以降の竪穴住居址のなかで、最古の遺物を出土するのは6区24住であり、石田川式土器と赤井戸式土器を共伴する良好なセットを捉えることができた。しかし、この住居址以外には、この時期の遺物を検出する明瞭な住居址はない。方形周溝墓からは赤井戸式土器の出土が顕著で、遺跡は墓域としての性格が強かったことが想定できる。

集落が本格的に進出するのは鬼高期に入ってからである。集落の分布は調査区域の中央に集中して見られ、須恵器模倣杯を伴わない5区15住や、古式の模倣杯を伴う6区8・10・20住など、鬼高期の前半に、集落の進出の痕跡が明瞭に看取できる。

2　奈良・平安時代の遺跡

荒砥地区は、和名抄に記された上野国勢多郡内に推定されるが、郷名については不明な地域である。前二子・中二子・後二子の三つの前方後円墳の存在などから、勢多郡内の中心的な地域と考えられることが多い。本遺跡の西方3kmにある「下大屋」の地名より、ここをおおやけの土地とする推定（尾崎　1971）などがある。このような観点から注目すべき遺物に4区11住出土の陶硯がある。しかしこれは砥石に転用されており、集落内では本来の用途から掛け離れて使用されている。墨書土器の出土の少ない点でも、陶硯の転用と同様の本遺跡の特色である。ただし、文字が不鮮明なうえ細片からの復元からではあるが、3区13住の「司」・6区17住の「上家」とも読める墨書土器がある。また細片で混入品ではあるが、3区13住からは灰釉陶器浄瓶が出土している。このような特殊遺物の存在から、周辺に官衙的な遺跡の存在も予想されるが、本遺跡を一般的な農耕村落と切り離して捉えるような点は認め難い。

3　奈良・平安時代の特筆される遺物

南比企窯跡群製の須恵器　6区1号井戸と5区5住から出土した須恵器杯の胎土内に、白色針状鉱物粒の混入が観察された。これらの杯は回転糸切りの後、周縁部をヘラ調整する8世紀中葉から後半にかけての特徴を備えている。白色針状鉱物粒は埼玉県南比企窯跡群で生産される須恵器に特徴的に見られる夾雑物で（宇津川・上條　1980）、管見では群馬県内の窯跡出土品からは認められない。同様の須恵器杯を現在整理中の境町三ッ木遺跡出土品より実見しており、多量の土器が搬入されて、広い分布を示すことも予見できそうである。胎土分析等による確認作業を行なったうえで再度の検討を試みたいが、奈良時代の須恵器の移動について、美濃国からの搬入（服部　1975）以降の様相を探るための有力な手段となろう。

羽釜形の甑　奈良時代以降消滅へ向かうと考えられていた甑を、平安時代の住居址から多数出

土した。3区4住居址からはほぼ完形で出土した他、3区5住、4区3・11住などからも破片の検出がある。高崎市北新波遺跡にも出土例があるが(飯塚　1982)、現状では類例は極めて乏しい。口縁部破片のみでは羽釜と区別が難しく、かなりの見落としがあったと思われ、平安時代の什器として甑は特異なものではなかったと位置付けられそうである。

灰釉陶器　平安時代後半の住居址に目立って増加する遺物に灰釉陶器がある。虎渓山1号窯期から丸石2号窯期にかけての東濃系灰釉陶器の終末段階の製品がほとんどで、群馬県東域の集落への搬入状況を示唆している。4区3住のようにまとめて検出されるのは例外的で、1軒の住居址から1～2点が、他の椀や皿とセットになって検出されている。なお、前述の3区13住出土の浄瓶は、猿投系の灰釉陶器で、時期も先行するものである。

土師器杯　「吳」の墨書土器を出土した4区15住は、外面の大半を手持ちヘラ削りする特異な土師器杯を多数出土している。前章でも触れたように、同巧の土器への同一文字の墨書が太田市加茂遺跡の遺物に見られる、興味深い土器である。大胡町天神風呂遺跡14号住居址出土の杯（山下　1981）も同巧であることを実見しており、群馬県の東部に広い分布域のある杯であることが想定される。今後の資料の増加によっては、平安時代後半の土師器の供給圏をさぐる成果が得られそうである。またこれは、平安時代に土師器杯類が内黒土器を除いて激減する国府周辺の様相（中沢　1981）と際立った差異を示すものである。

小皿　荒砥五反田遺跡8号住居址（井上　1978）から出土が報告され、中世のかわらけにつながる土器として注目された遺物である。本遺跡でも多数の土器が検出された。小皿出土の住居址の杯類セットには、6区22住のように小皿中心のものの他に、3区9住では小皿と胎土・焼成の酷似したやや大振りの皿を共伴し、1区1住では内黒の高台付き椀と共伴している。灰釉陶器と共伴するのは4区19住のみで、小皿形の土器が丸石2号窯期の製品の荒砥地区への搬入が途切れるのと合い前後して出現することが判る。浅間山B軽石の降下と丸石2号窯期の二つの推定年代に挟まれるのは11世紀後半の比較的短い時間であるが、小皿のセットの多様性からは、より長い年代幅を充当したい。同時に竪穴住居址の終末段階の土器の流通が極めて複雑であったことも予想され、時間と空間の両面から詳細な検討が必要である。

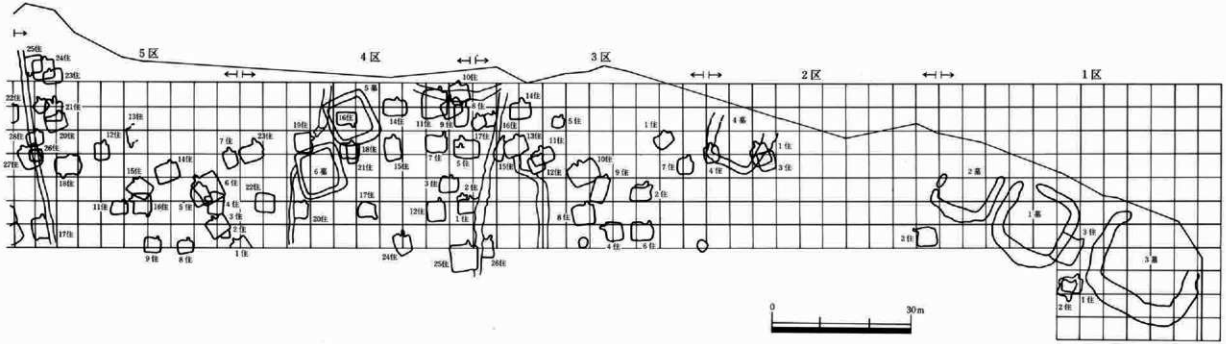
鉄器　土器以外の注目される遺物に鉄器類がある。出土例の極めて少ない鋸をはじめとして、鑿などの工具類がある。反面、農具類の出土はあまり多くない。8区5住は鍛冶遺構であり多量の羽口を出土しているが、8区は遺存状態の極めて悪い地点であり、遺構の特徴はつかめなかった。5区17住も鍛冶遺構と推定される。

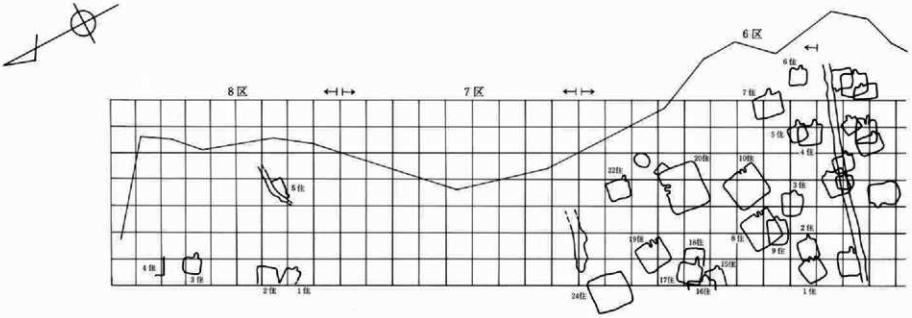
紙面と時間の制限より、問題点を抽出したのみであるが、簡略なまとめとしたい。別の機会に改めて本遺跡の考察を付け加える予定である。

引用・参考文献

ア）阿部義平　1971　「ロクロ技術の復元」『考古学研究　第18巻2号』
イ）飯塚恵子　他　1982　『北新波遺跡』　高崎市教育委員会
伊藤博幸　1971　「ロクロ成形技法と底部糸切り離し手法の考察」『古代学研究　第59号』
井上唯雄　他　1978　『荒砥五反田遺跡』　群馬県教育委員会
ウ）宇津川徹　上條朝宏　1980　「土器胎土中の動物珪酸体について」『考古学ジャーナル　181　184』
オ）尾崎喜左雄　1971　「赤城神」『前橋市史　第一巻』
タ）田辺昭三　他　1966　『陶邑古窯址群　Ⅰ』　平安学園考古学クラブ
玉口時雄　他　1955　『落合』　早稲田大学考古学研究室
ト）土井義夫　1971　「関東地方における住居址出土の鉄製農工具について」『物質文化　18』
ナ）中沢　悟　他　1981　『清里・陣場遺跡』　財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
櫛崎彰一　斉藤孝正　1981　「猿投窯編年の差異検討について」『シンポジューム平安時代の土器・陶器　発表要旨』　愛知県陶磁資料館
ハ）服部啓司　他　1975　『下寺田・要石遺跡』　八王子市教育委員会
ヤ）山下歳信　1981　『天神風呂遺跡』　大胡町教育委員会

群馬県立歴史博物館　1982　『常設展示解説』
地学団体研究会　編　1982　『土と岩石』　東海大学出版会





荒砥上川久保遺跡遺構配置図

写　真　図　版

1．調査前の遺跡遠景
（南東より）

2．調査中の遺跡遠景
（北東より）

3．調査中の遺跡近景
（東より，4区付近）

1．遺跡の基盤層断面

2．遺構確認調査

3．住居址の発掘調査

1．方形周溝墓の調査

2．住居址の調査

3．開発に追われる調査

PL. 4

1区全景（1．2．3号方形周溝墓）

1．1区1・2号住居址

2．1区3号住居址
3．1区2号住居址西カマド
4．1区1号住居址カマド
及び2号住居址東カマド

1．2区1・3号住居址

2．2区2号住居址

3．2区4号住居址

1．2区2号住居址カマド

．2区2号住居址カマド周辺の出土遺物

．2区4号住居址カマド周辺の出土遺物

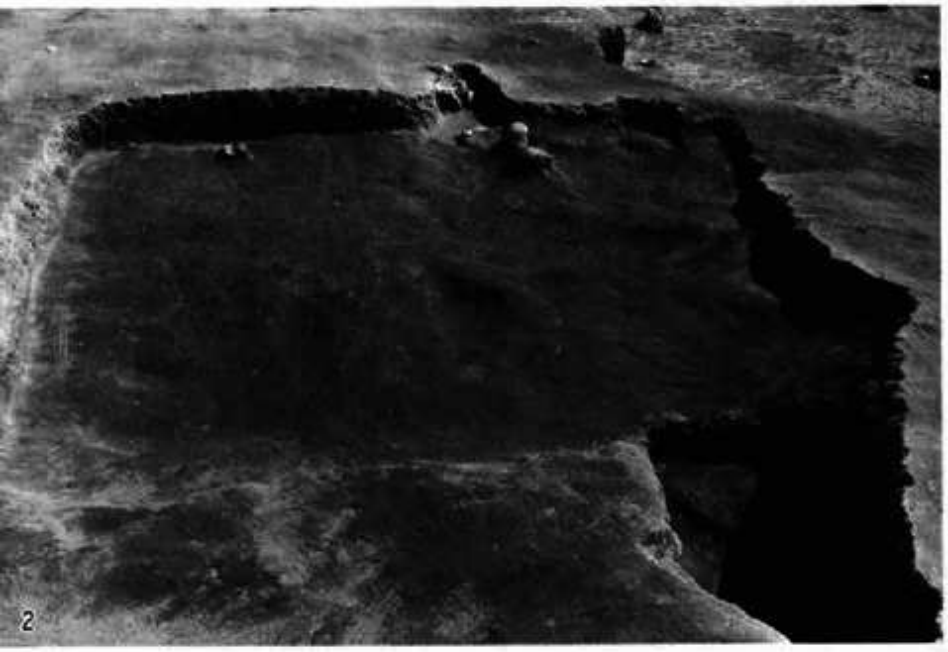
1．3区1号住居址

2．3区2・3号住居址
3．3区1号住居址西辺の出土遺物
4．3区2・3号住居址カマド

1．3区4号住居址

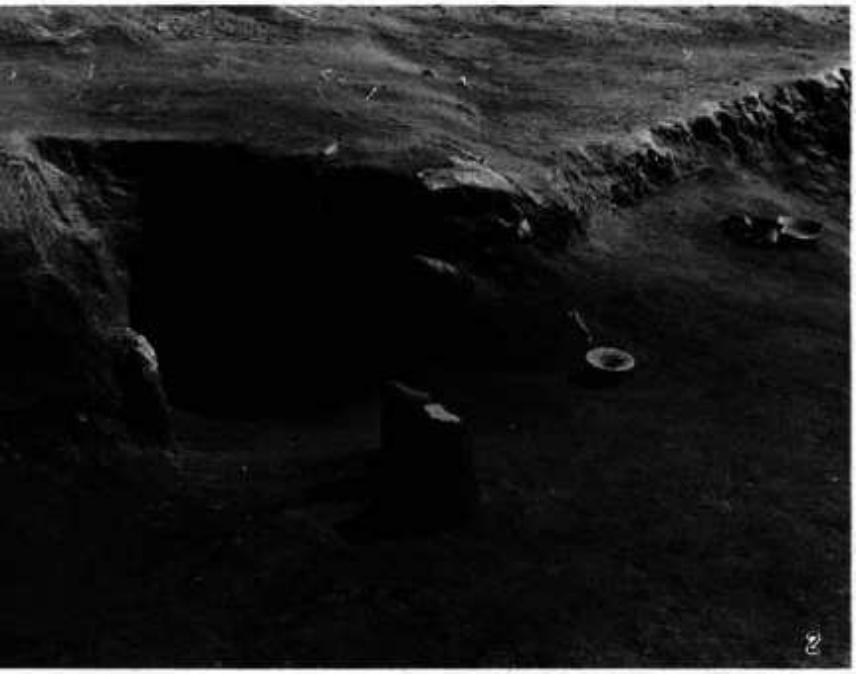
2．3区6号住居址
3．3区4号住居址・南東隅ピット出土の遺物
4．同・カマド

1．3区7号住居址



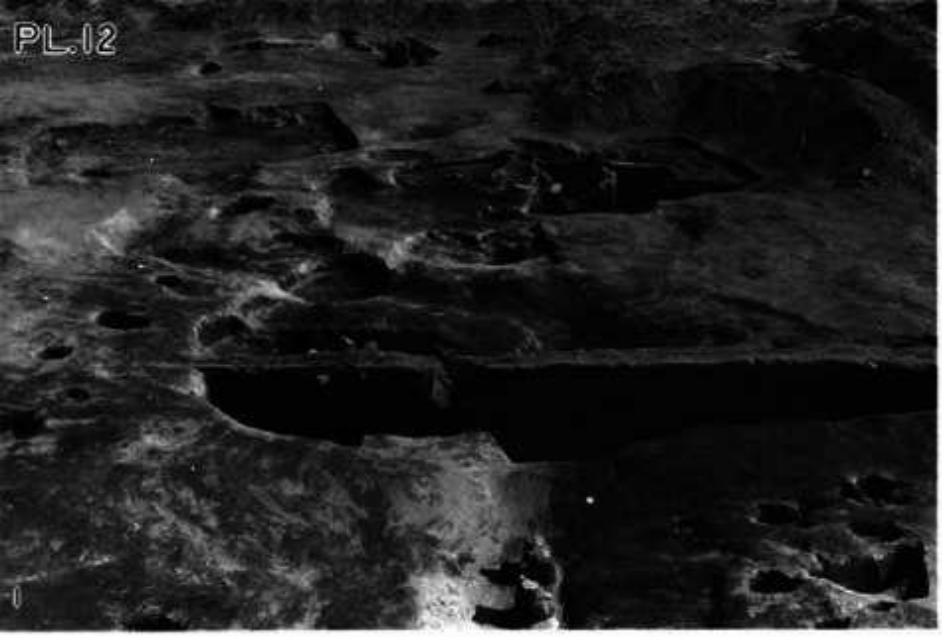
2．3区8号住居址
3．3区7号住居址床面出土遺物
4．3区8号住居址カマド

3区9・10－1・2・3号住居址

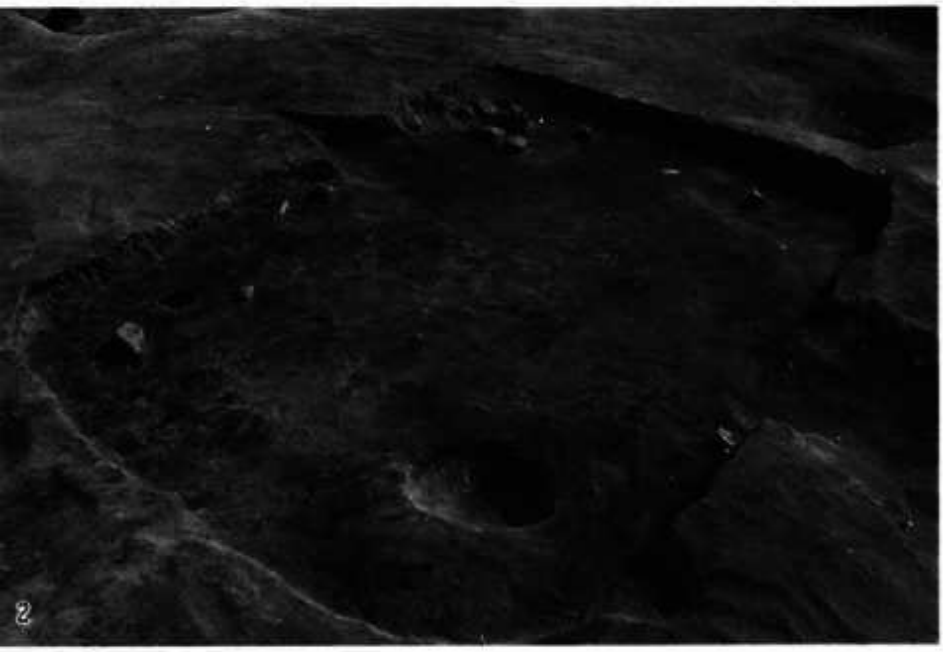


2．3区10－1号住居址カマド
3．同・床面出土の遺物

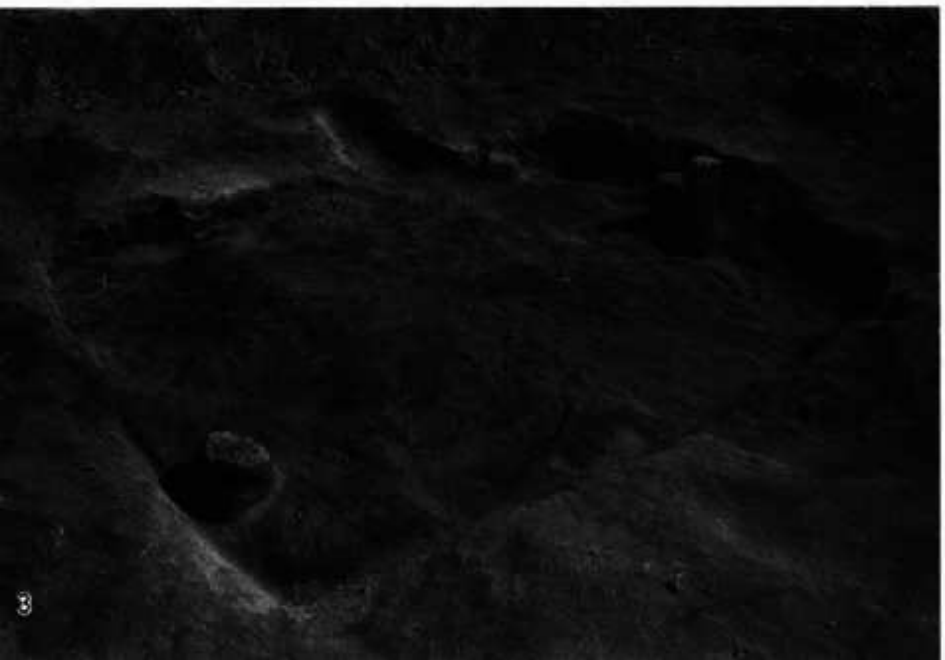
．3区9号住居址・北辺出土の遺物(No.4)
．同・カマドと周辺出土の遺物



1．3区11～14号住居址



2．3区13号住居址



3．3区14号住居址

1．3区16・17、4区8～11号住居址

2．3区17号住居址

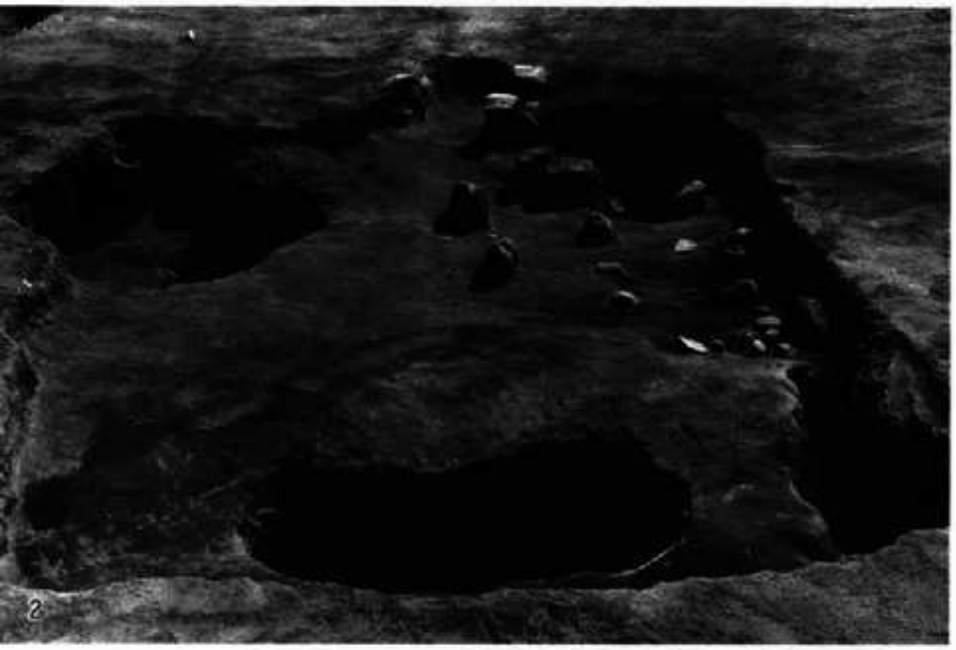
3．同・カマド周辺出土の遺物（№7・8）

1．3区16・17、4区3～13号住居址
2．3区16・17、4区8～11号住居址
3．4区3号住居地カマド
4．4区8号住居址カマド

1．4区11号住居址

2．同・床面出土の遺物
3．同・床面出土の遺物
4．同・床面出土の遺物

1．4区14号住居址



2．4区15号住居址

3．4区17号住居址

1

I区14号住居址・床面出土の遺物
(No.2・3)

2

4区15住居址・カマド及び南辺
出土の遺物

3

4区17号住居址カマド

1．4区18・21号住居址

2．4区23号住居址

3．同・カマド

1．4区24号住居址

2．4区25号住居址

3．4区26号住居址

1．5区3号住居址

2．5区4～6号住居址

3．5区5・6号住居址

1．5区4号住居址カマド

2．5区5号住居址カマド

3．5区6号住居址カマド

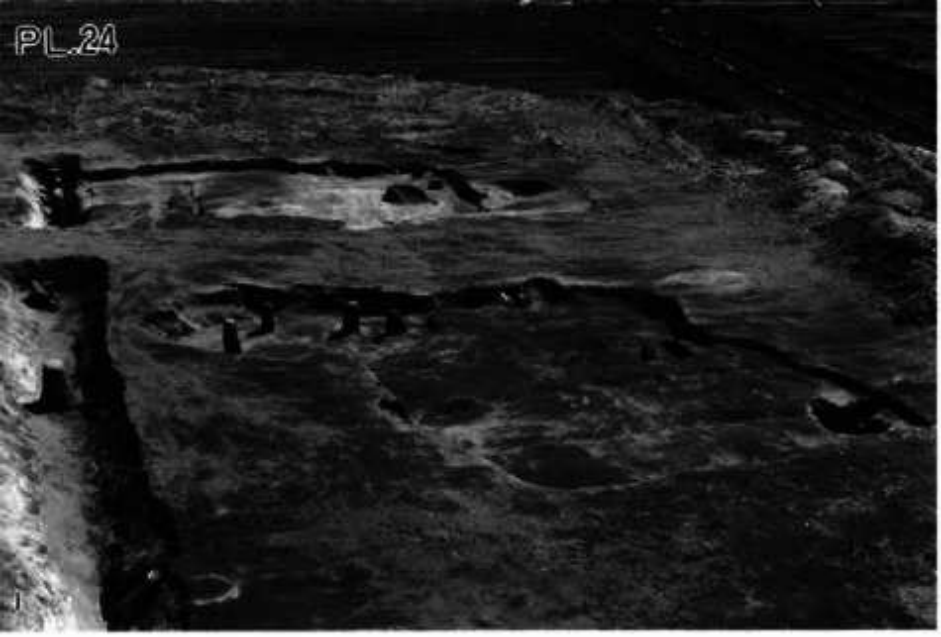
1．5区12号住居址

2．5区13号住居址
3．5区15・16号住居址

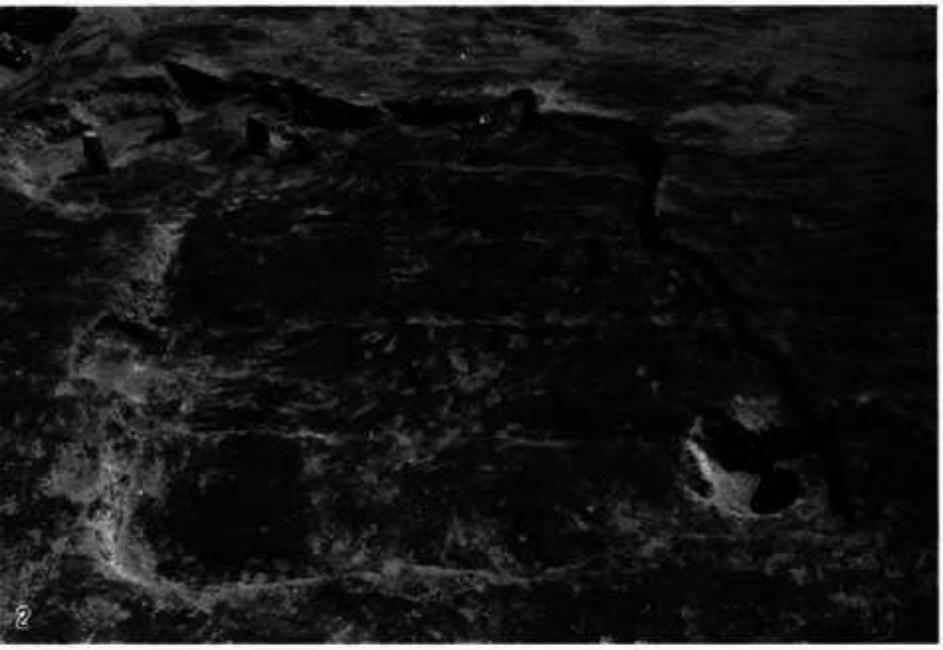
1．5区17号住居址

2．同・床面出土の遺物

3．同・床面出土の遺物

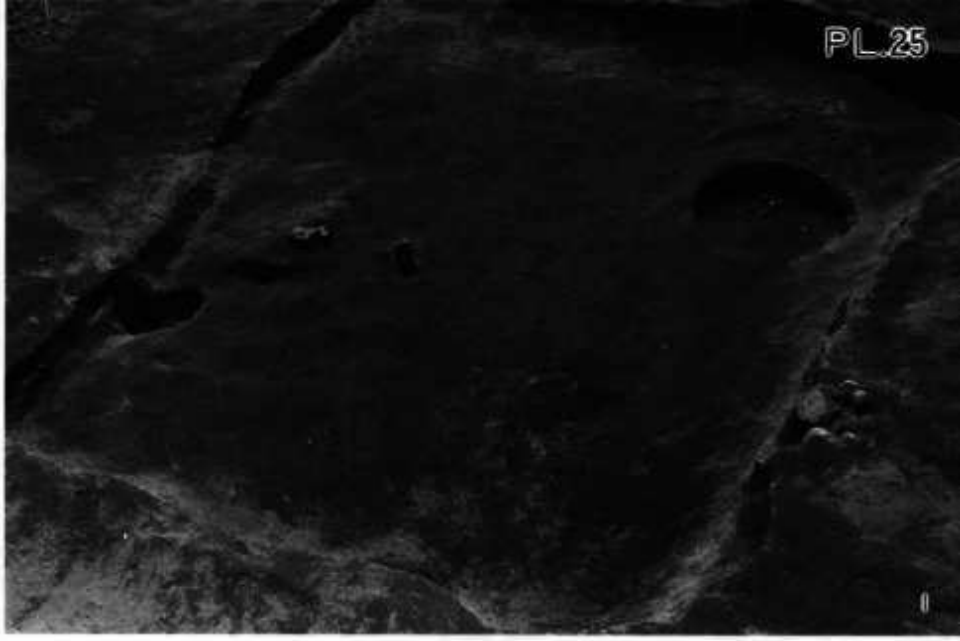


1．5区20～25号住居址



2．5区20～22号住居址

3．5区23～25号住居址

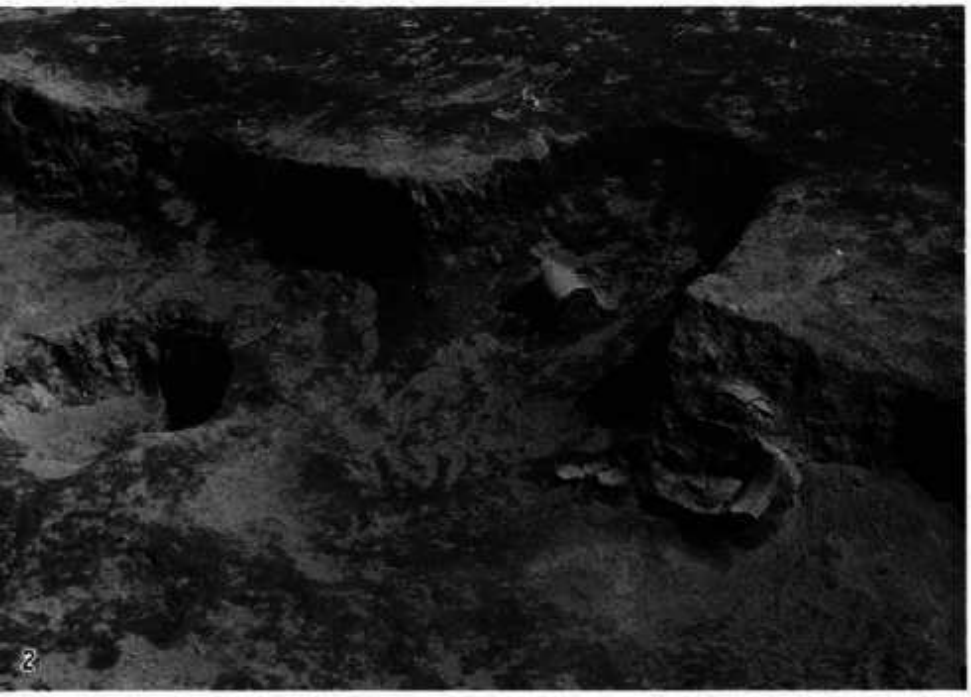


1．5区18号住居址

2．5区26～28号住居址

5区28号住居址カマド及び床面出土の遺物

1．6区1・2号住居址



2．6区2号住居址・カマド

3．6区1号住居址・カマド及び周辺出土の遺物

1．6区3号住居址

2．6区6号住居址

3．6区7号住居址

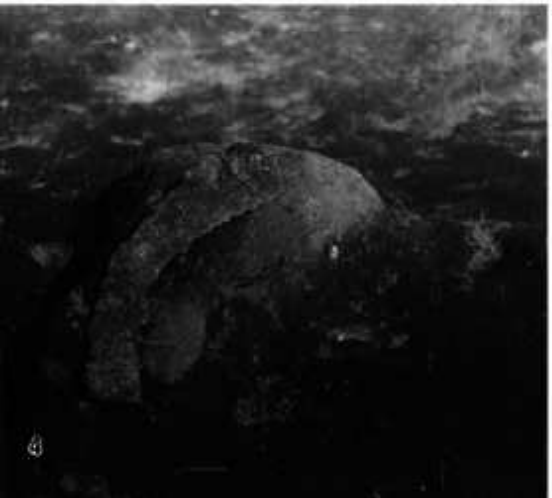
1．6区8．9号住居址

2．6区8号住居址・カマド

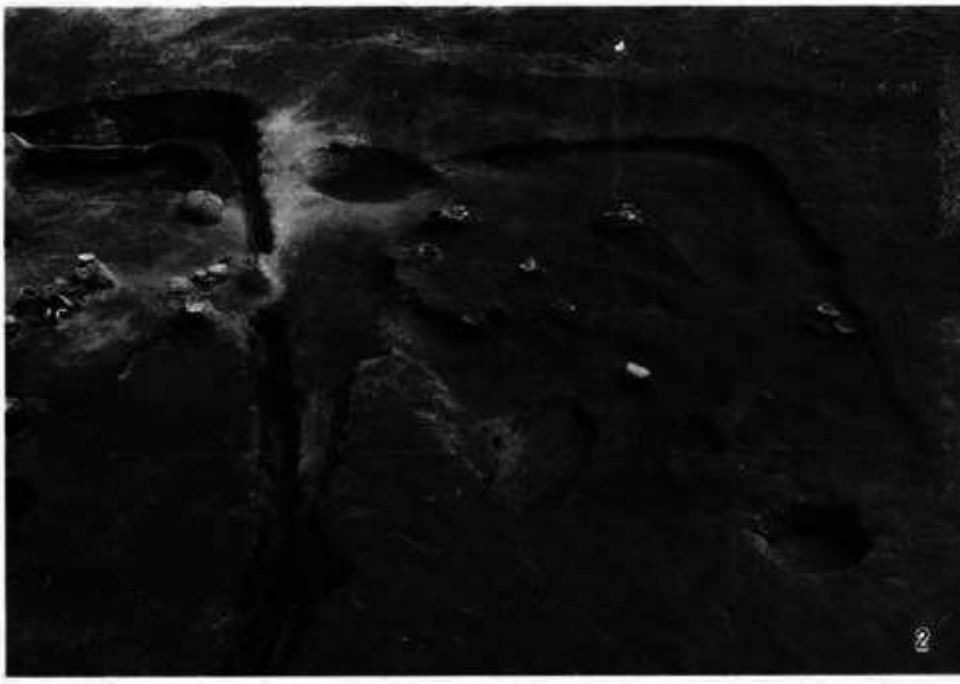
3．同・床面出土の遺物

4．6区9号住居址・床面出土の遺物

5．6区8号住居址・南辺出土の遺物

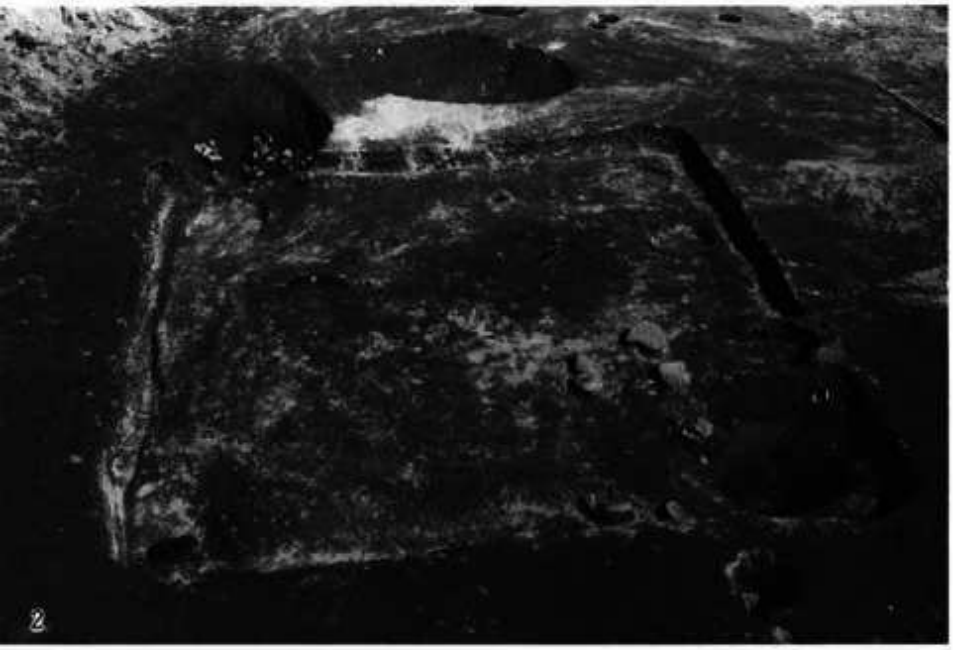


1．6区10号住居址

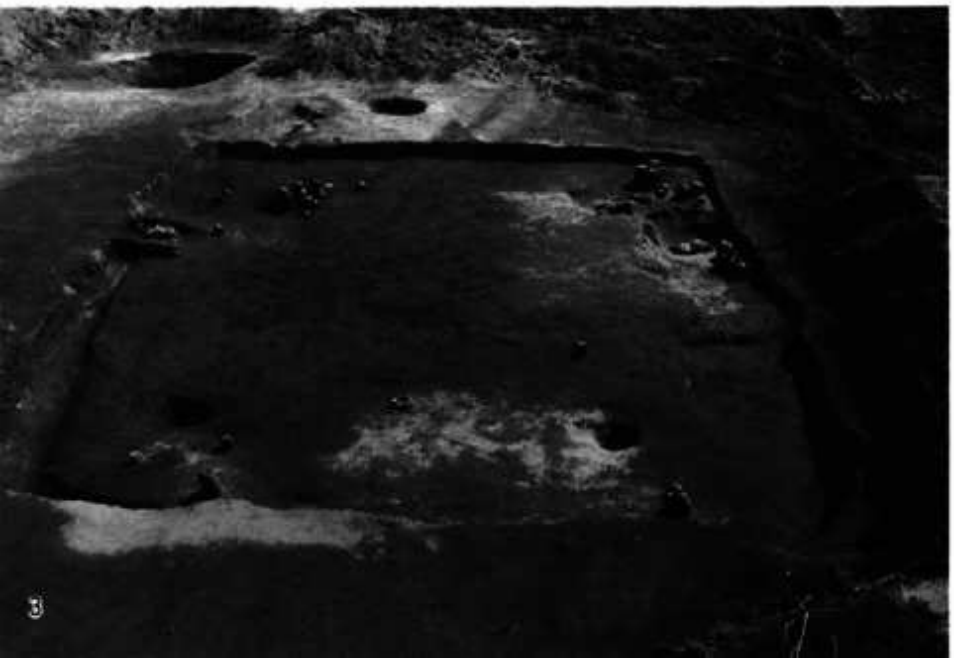


2．6区12号住居址
3．6区10号住居址カマド周辺出土の遺物
4．6区11号住居址カマド（10号住居址と重複）

1．6区15～18号住居址



2．6区19号住居址



3．6区20号住居址

1．6区22号住居址

2．6区20号住居址 カマド

3．同・北東ピット周辺出土の遺物

4．同・南辺出土の遺物

5．同・南辺出土の遺物（部分）

1．6区24号住居址

2．同・床面出土の遺物（No.19）

3．同・北西隅出土の遺物（No.20）

5区24号住居址・P11内出土遺物

2．同・床面出土の遺物

3．同・床面出土の遺物

1．8区5号住居址

2．同・床面出土の遺物

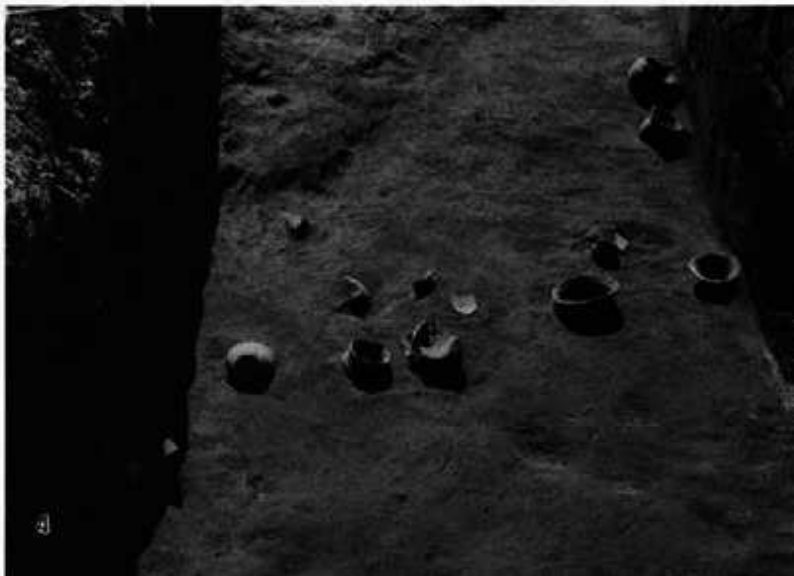
3．同・床面出土の遺物

1．1号方形周溝墓・東側

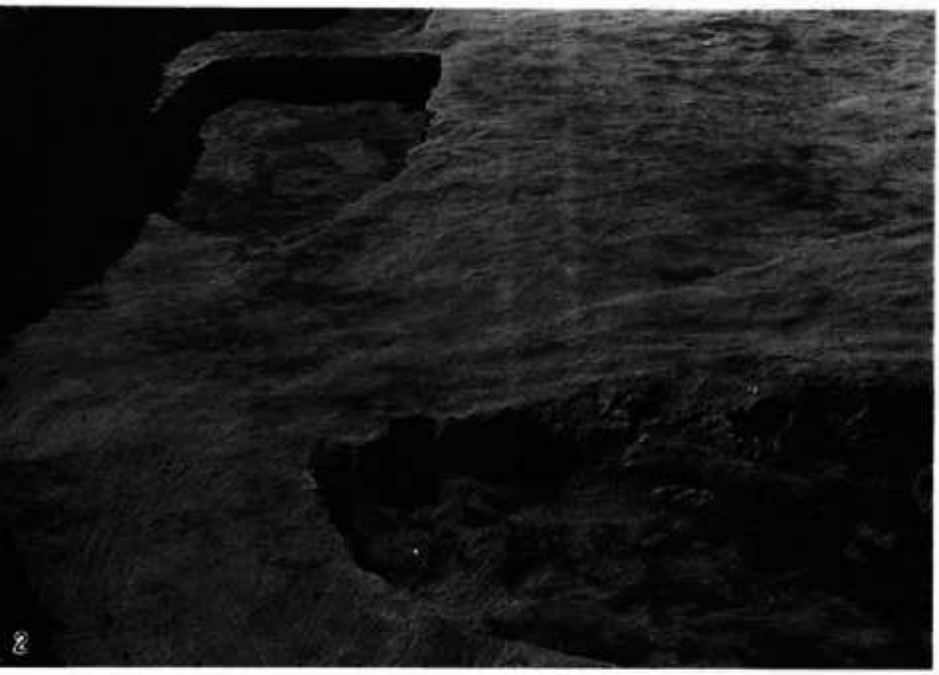
2．同・北側周溝出土の遺物

3．同・北東隅周溝出土の遺物

4．同・拡大



1．2号方形周溝墓



2．同・北側コーナー

3．同・周溝土層断面B

4．同・周溝土層断面A

1．3号方形周溝墓

2．同・北側周溝

3．同・周溝土層断面D

4．同・周溝土層断面C

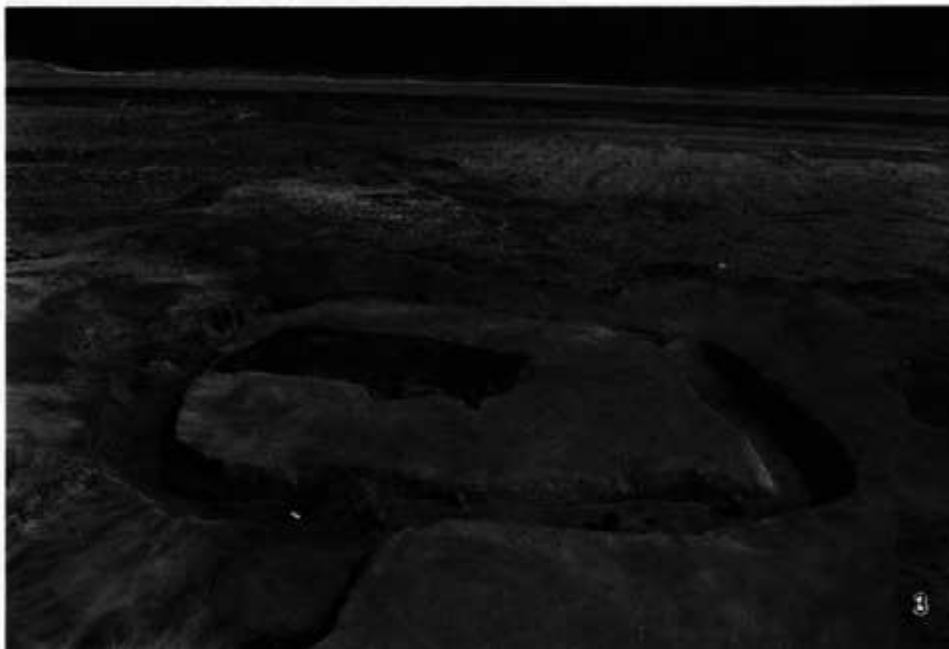
1．３号方形周溝墓・西側周溝出の遺物

2．同・部分

3．同・東側周溝部出土の遺物

1．4号方形周溝墓

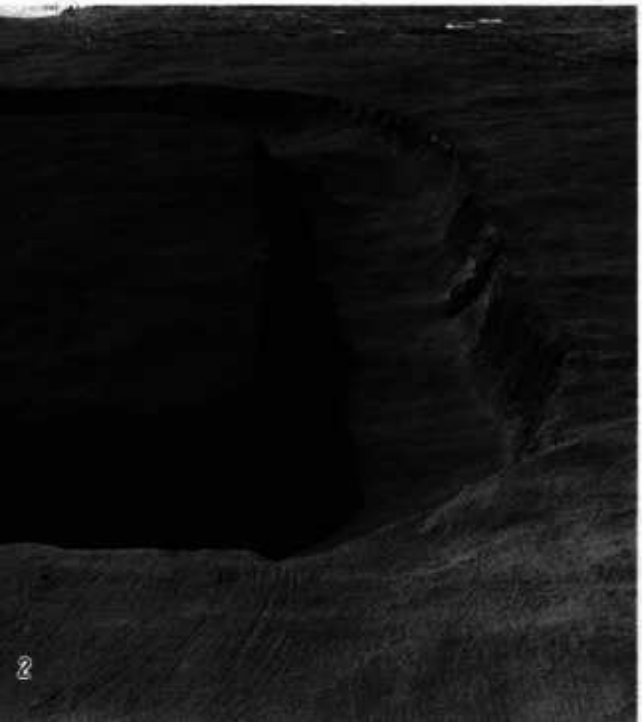
2．同・西側周溝内出土の遺物
（No.26・29・30）



3．5号方形周溝墓

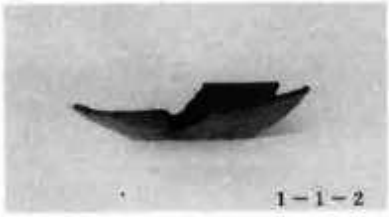
1．6号方形周溝墓

2．同・西側周溝



3．同・東側周溝

1-1-1


1-1-2

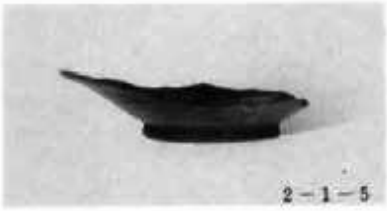
1-1-11

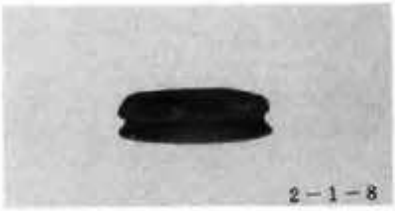
1-1-4

1-1-5

1-1-12

1-2-1

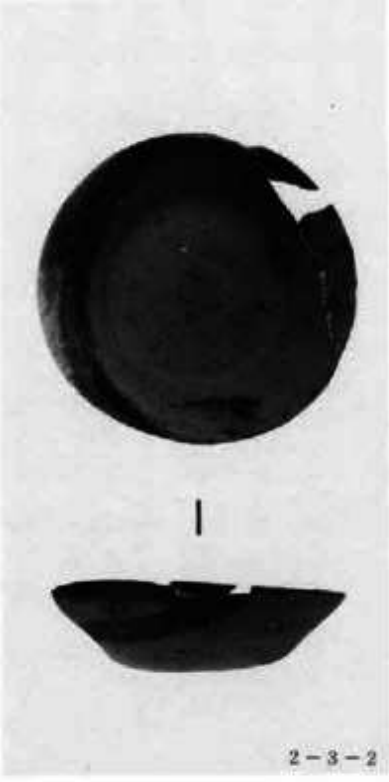

2-1-5


2-1-8

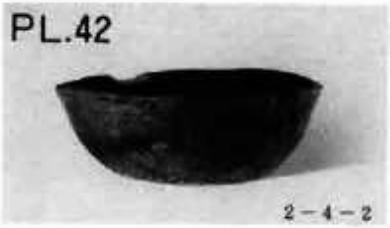
2-2-1

2-2-3

2-3-1


2-3-2

PL.42


2－4－2

2－4－4

2－4－5

2－4－6

3－1－1

3－1－3

3－1－2

3－1－4

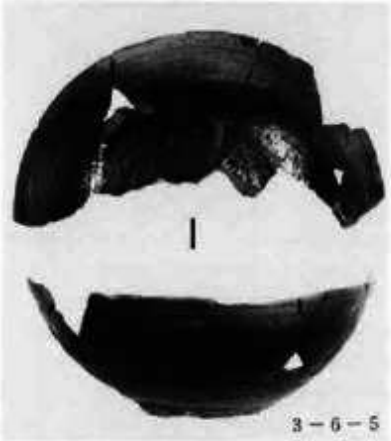
3－1－5

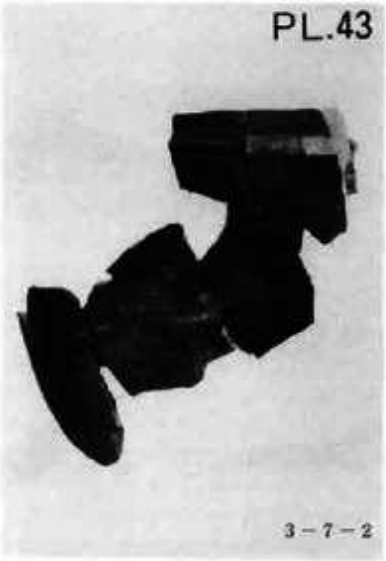
3－4－1

3－4－2

3-6-1

3-6-3


3-6-5


3-7-2

3-8-2

3-8-8

3-9-1

3-8-7

3-9-2

3-8-9

3-9-4

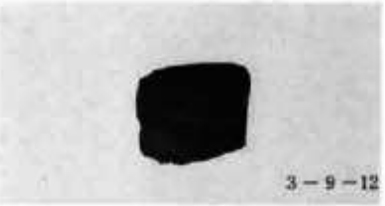
3-9-5

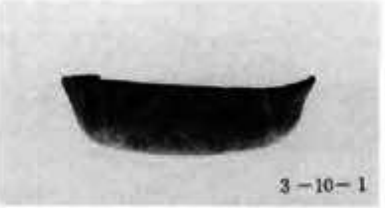
3-9-6

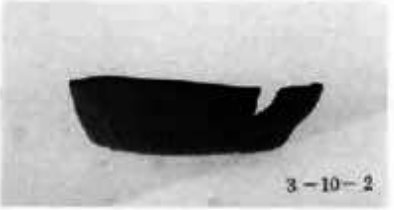
3-9-7

3-9-10

3-9-11

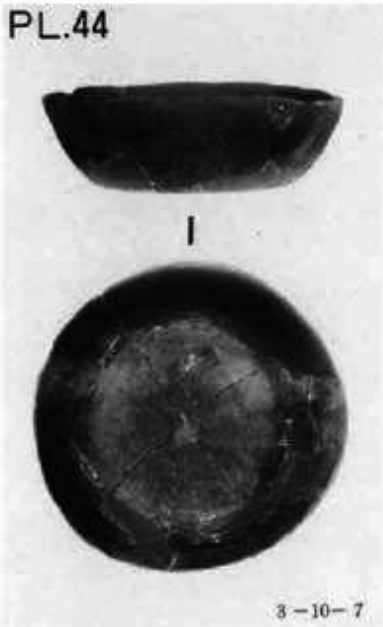

3-9-12


3-10-1


3-10-2

3-10-3

PL.44


3－10－7

3－10－8

3－10－11

3－10－9

3－10－10

3－10－13

3－10－15

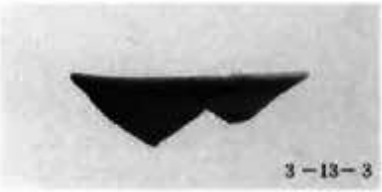
3－10－21

3－10－22

3－10－23

3－13－1

3－13－2


3－13－3

3－13－5

3－13－6

3－14－2

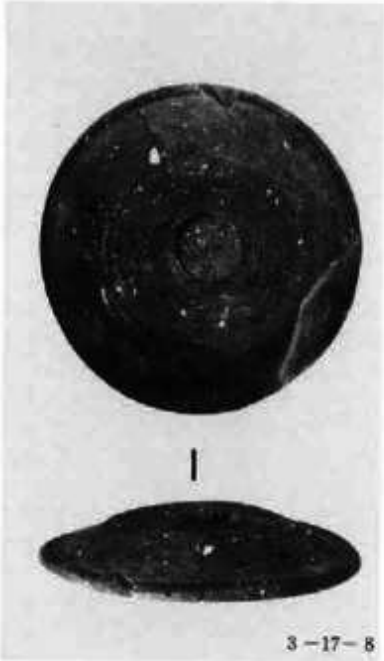
3－17－3

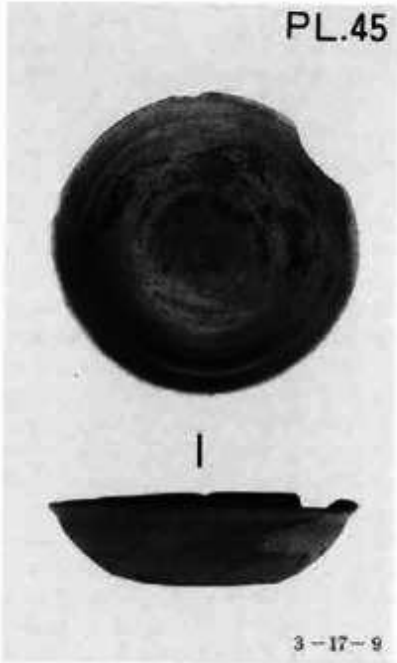
3－17－4

3－17－5

3－17－6

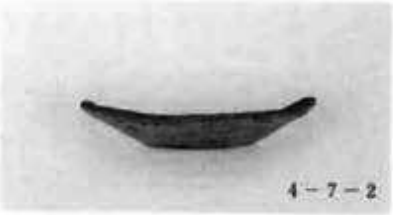
4－3－7


3－17－8


3－17－9

4－3－8

4－7－1


4－7－2

4－7－5

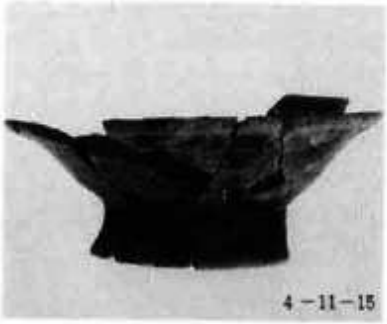
4－8－1

4－11－1

4－11－5

4－11－7

4－11－12


4－11－15

4－11－18

4－11－19

PL.46

4－11－11

4－11－21

4－14－2

4－11－20

4－11－22

4－14－1

4－15－1

4－14－6

4－15－2

4－15－4

4－15－5

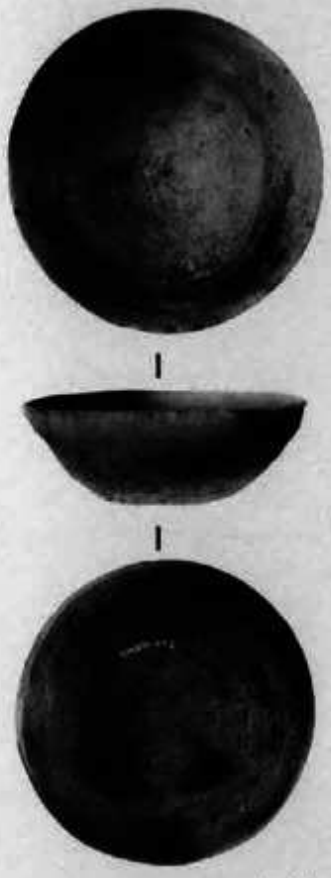
4－15－6

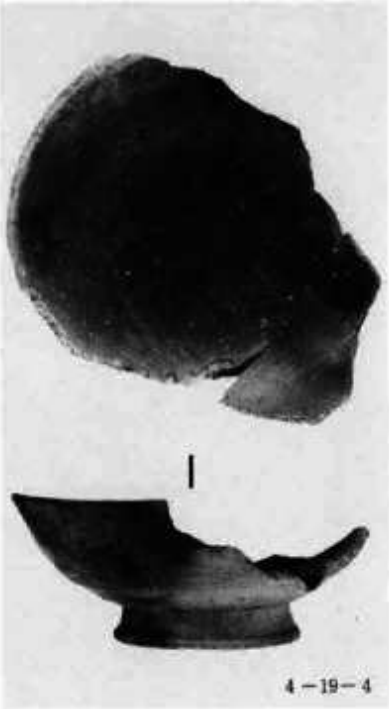
4－15－11

4－15－9

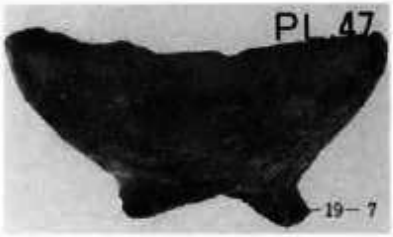
4－15－10

4－15－12


4－15－8

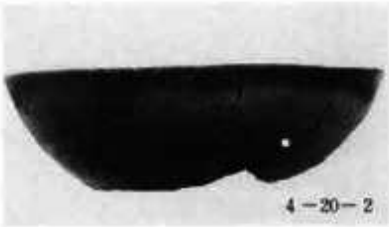

4－19－4

4－19－6


19－7

4－20－1

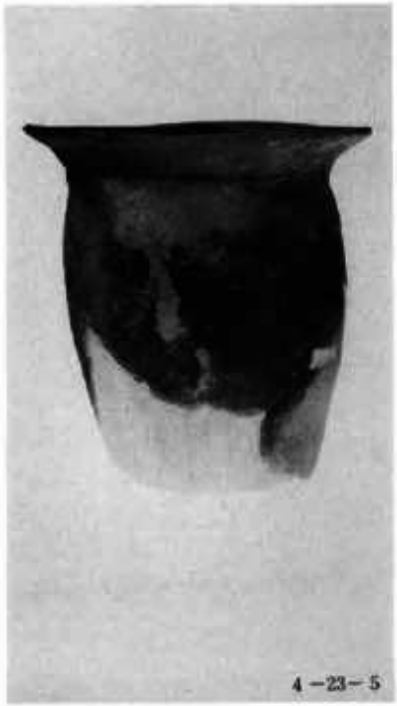
4－23－3


4－20－2

4－23－4

4－23－1

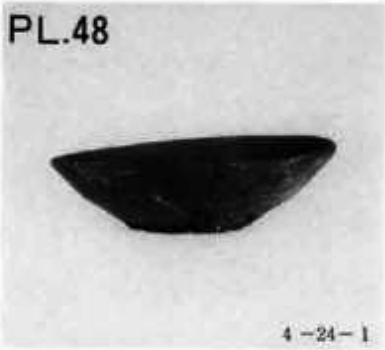
4－23－2


4－23－5

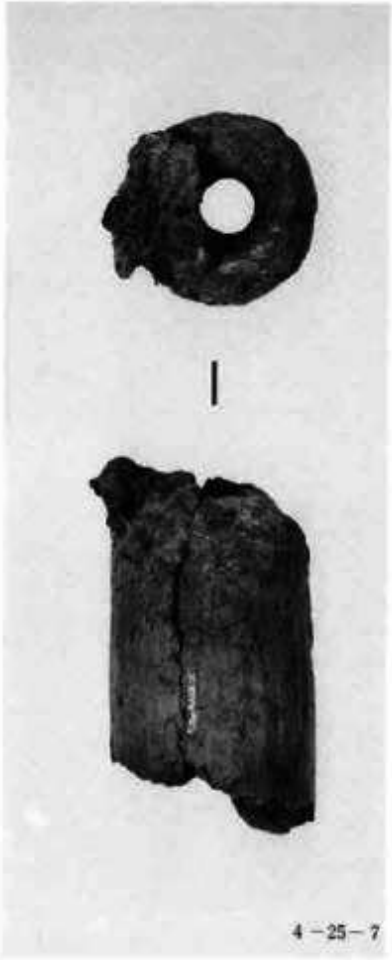
4－23－6

4－23－7

PL.48


4 −24− 1

4 −25− 1

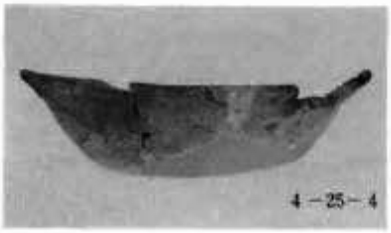

4 −25− 7

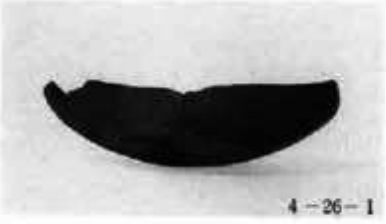
4 −25− 2

4 −24− 2

4 −25− 3

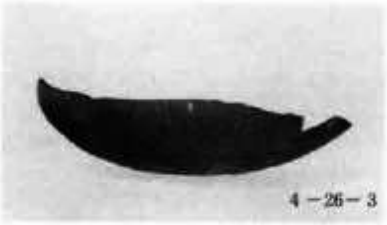
4 −24− 4

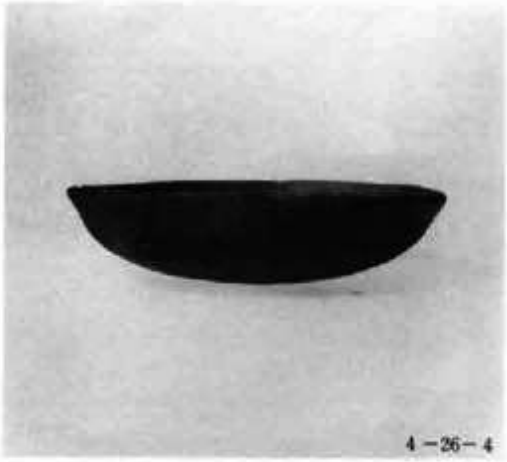

4 −25− 4


4 −26− 1

4 −25− 6

4 −26− 2

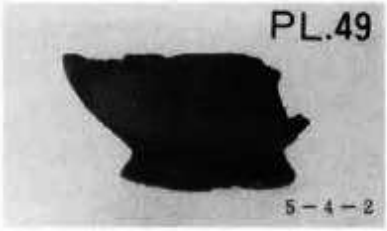

4 −26− 3


4 −26− 4

4 −26− 9

5-3-1

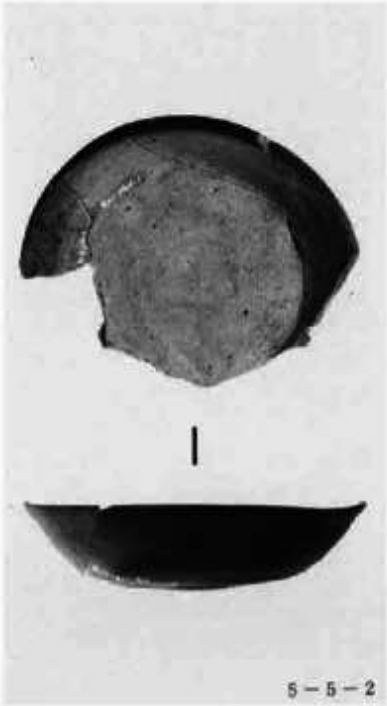
5-3-2


5-4-2

5-4-4

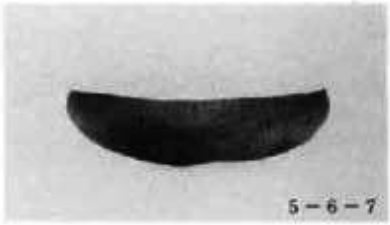
5-4-6

5-5-1

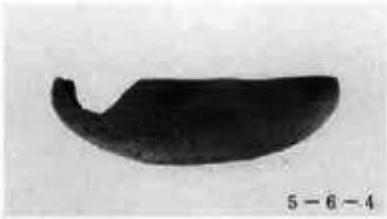

5-5-2

5-5-5

5-6-1


5-6-7

5-6-2


5-6-4

5-6-9

5-6-3

5-6-5

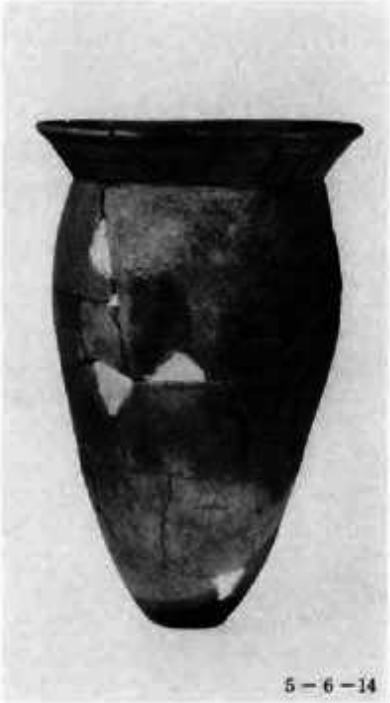
5-6-10

PL.50

5－6－11

5－6－12

5－6－13

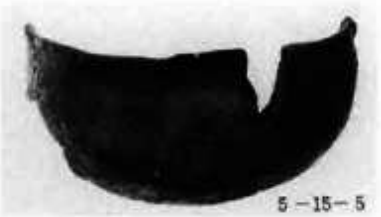

5－6－14

5－6－15

5－9－1

5－14－1

5－14－4


5－15－5

5－15－6

5－15－7

5－15－8

5－15－12

5－15－15

5－16－1

5－16－2

5－16－4

5－16－5

5－16－6

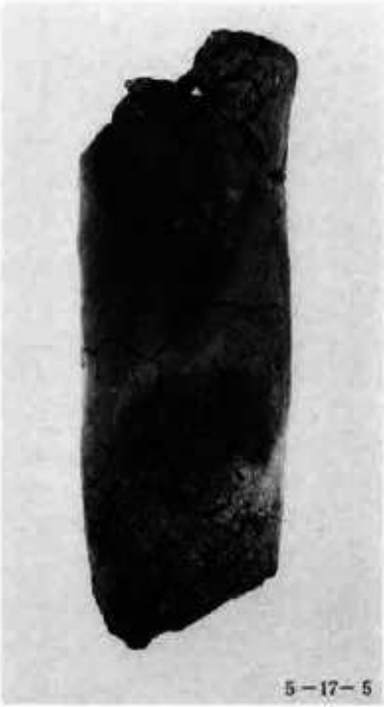
5－17－1

5－17－3

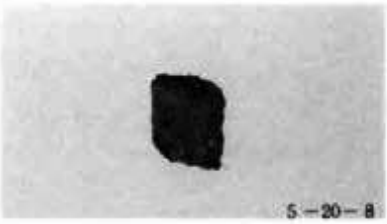
5－18－2

5－20－5

5－20－6


5－17－5

5－18－3


5－20－8

5－20－2

5－21－2

5－20－3

PL.52

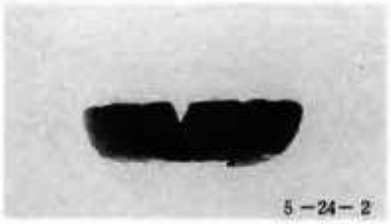
5－22－1

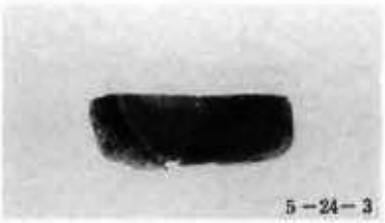
5－22－3

5－22－6

5－22－5

5－24－1


5－24－2


5－24－3

5－28－2

5－28－3

5－28－4

5－28－5

5－28－6

5－28－7

6－1－2

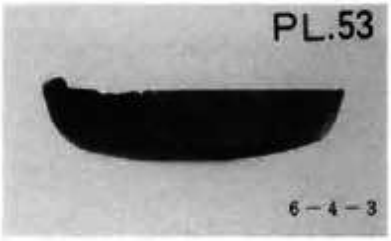
6－1－3

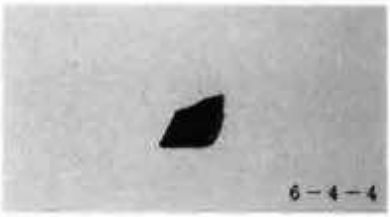
6－1－4

6－1－6

6-2-1

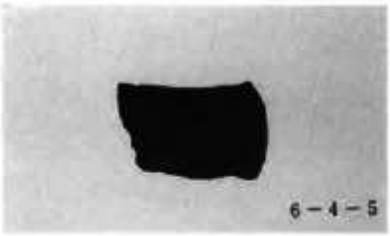
6-2-4


6-4-3


6-4-4

6-2-2

6-4-1

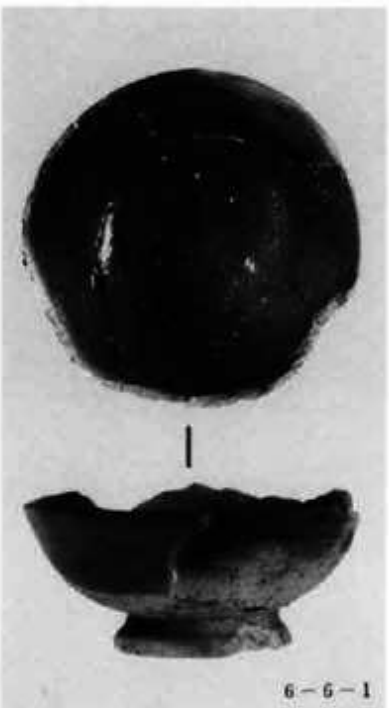

6-4-5

6-5-1

6-5-2

6-5-3

6-6-6


6-6-1

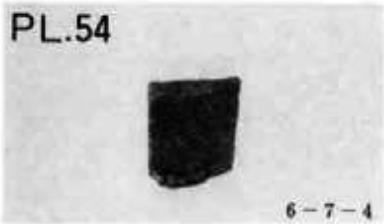
6-6-2

6-7-1

6-7-2

6-7-3

PL.54


6－7－4

6－8－1

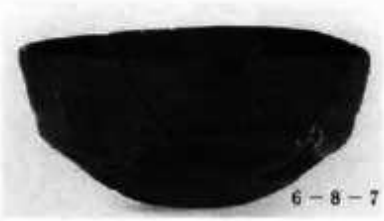
6－8－2

6－8－3

6－8－4

6－8－5

6－8－6


6－8－7

6－8－8

6－8－9

6－8－11

6－8－12

6－8－10

6－8－14

6－8－15

6－8－13

6－8－16

6－8－17

6－8－18

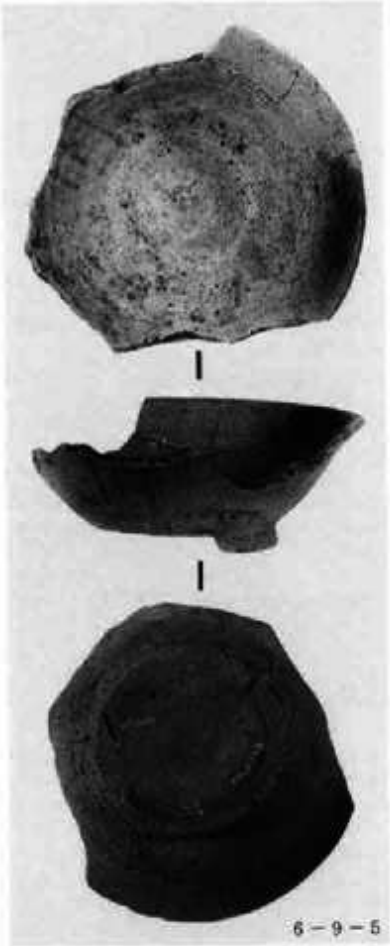
6－8－19

6－8－20

6－8－21

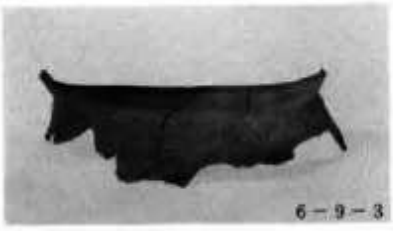
6－8－22

6－8－23

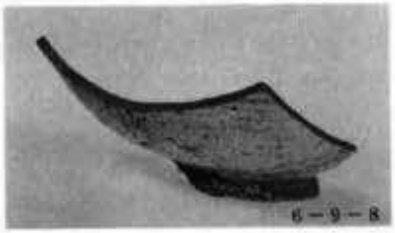

6－9－5

6－9－1

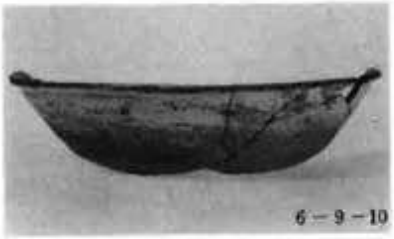
6－9－2

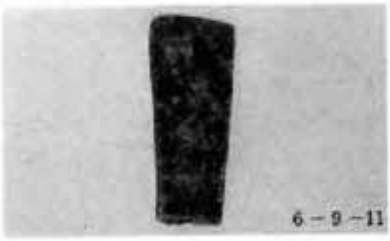

6－9－3

6－9－6


6－9－8

6－9－9


6－9－10

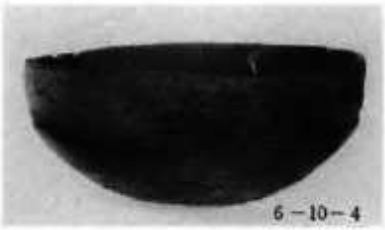

6－9－11

PL.56

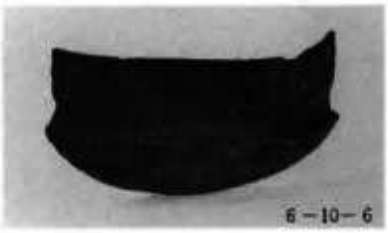
6－10－1

6－10－2

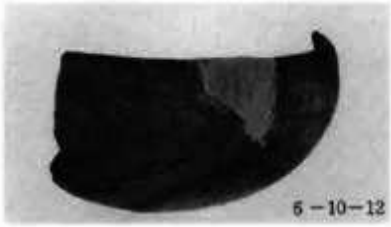
6－10－3


6－10－4

6－10－5


6－10－6

6－10－8


6－10－12

6－10－13

6－10－14

6－10－16

6－10－17

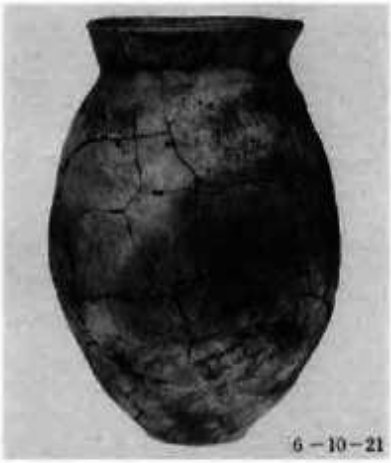
6－10－19

6－10－20

6－10－18

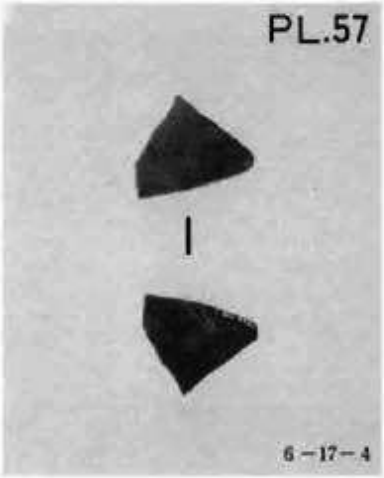
6－10－22

6－10－23


6－10－21

6－17－1

6－17－2


6－17－4

6－17－5

6－17－6

6－19－2

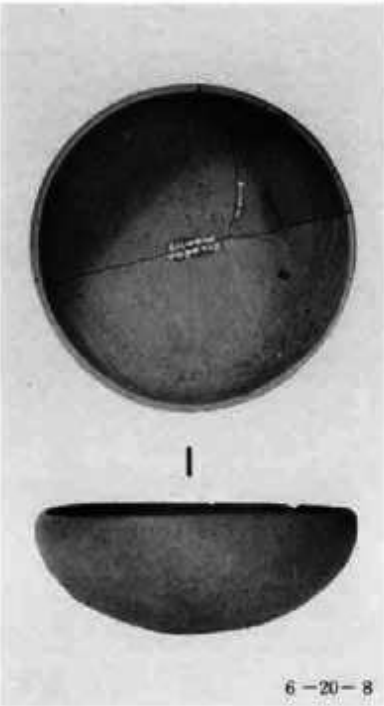
6－19－4

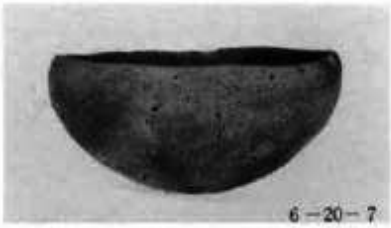
6－19－6

6－20－1

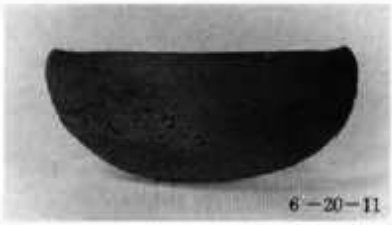
6－20－4

6－20－5


6－20－8


6－20－7

6－20－10


6－20－11

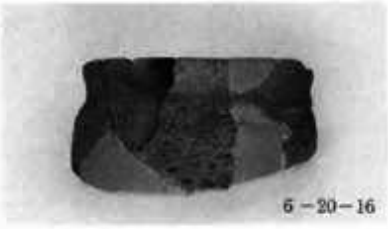
6－20－12

6－20－13

6－20－14

PL.58

6－20－15

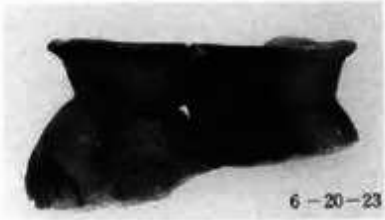

6－20－16

6－20－17

6－20－19

6－20－21

6－20－20


6－20－23

6－20－24

6－20－26

6－20－28

6－20－27

6－20－29

6－20－30

6－22－1

6－22－2

6－22－3

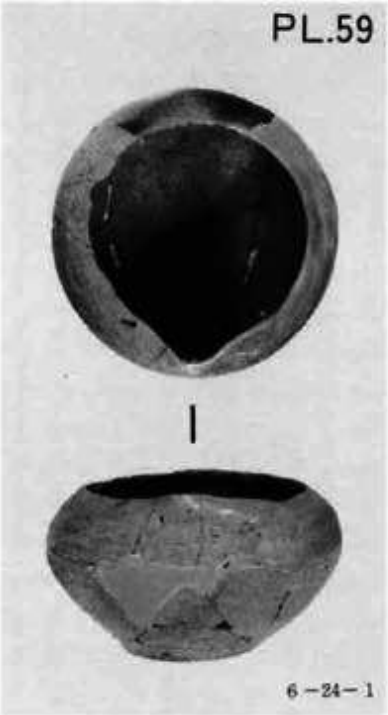
6－22－4

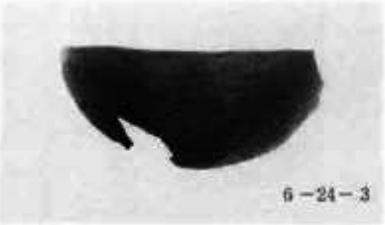
6－22－5

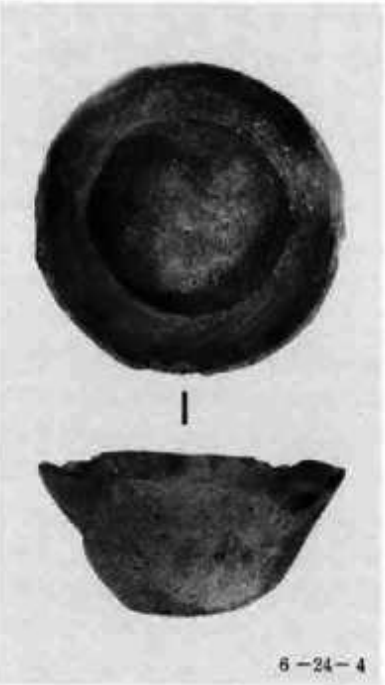
6－22－6

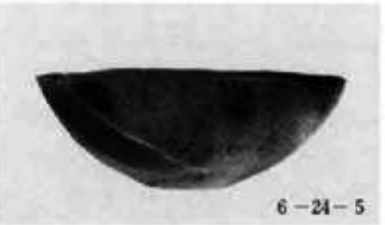
6－24－2

6－22－8

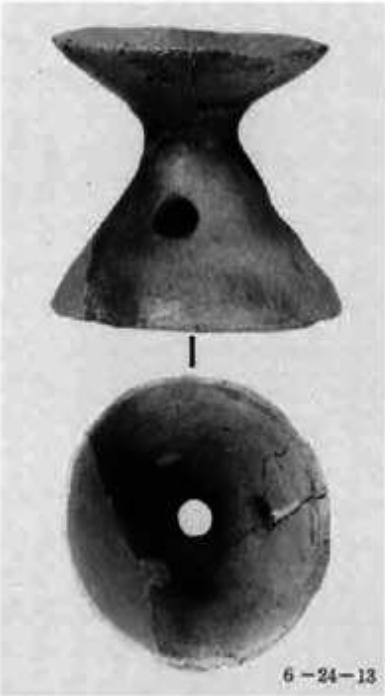

6－24－1

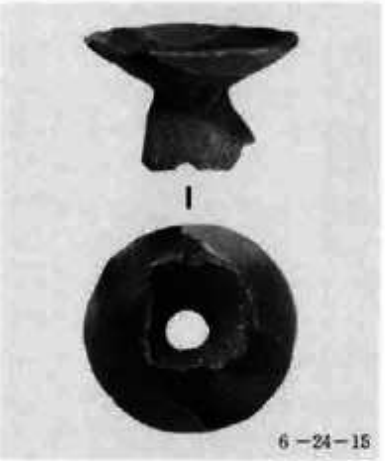

6－24－3

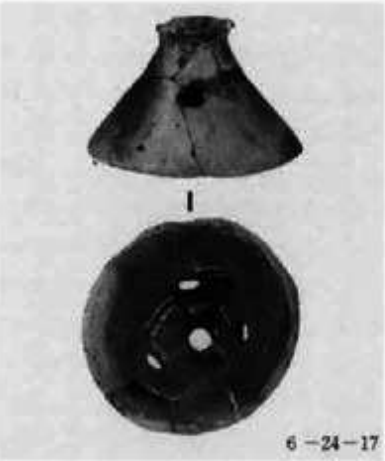

6－24－4


6－24－5

6－24－12


6－24－13


6－24－15


6－24－17

PL.60

6－24－19

6－24－27

6－24－30

6－24－26

6－24－20

6－24－28

6－24－33

6－24－32

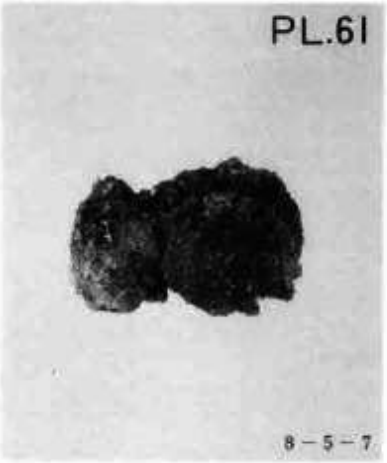
6－24－34

6－24－22

6－24－24

8－5－1

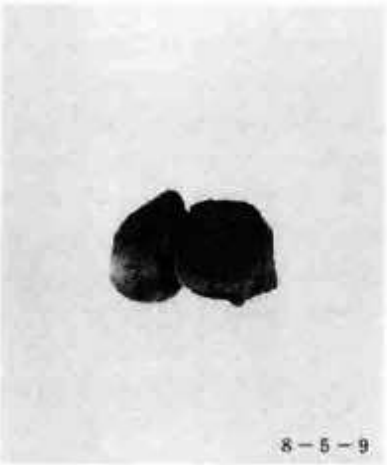
8－5－4


8－5－7

8－5－5

8－5－6

8－5－8


8－5－9

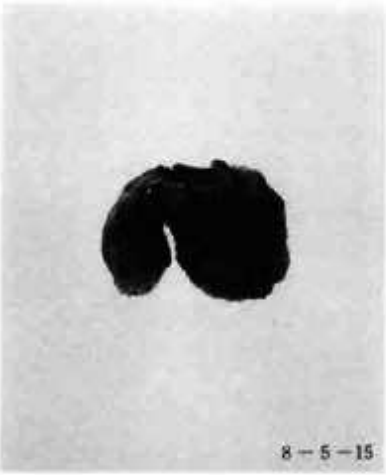
8－5－10

8－5－11

8－5－12

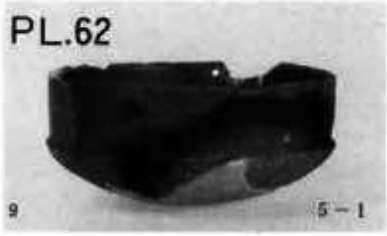
8－5－13

8－5－14


8－5－15

8－5－16

PL.62


9 5－1

14 5－10

16 5－13

12 5－2

15 5－10

18 5－13

19 5－13

22 5－25

30 5－29

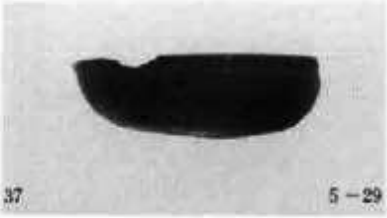
26 5－28

27 5－29

33 5－29

36 5－29

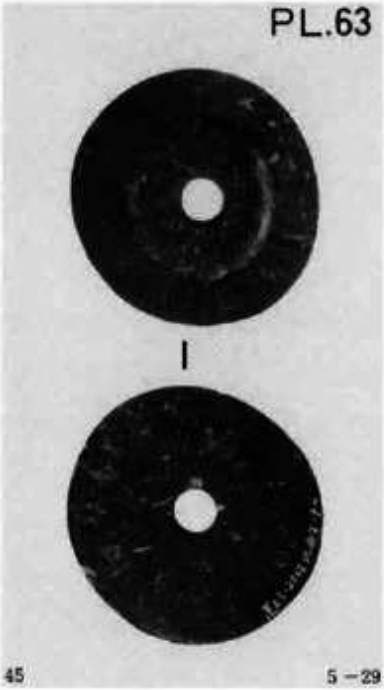
35 5－29

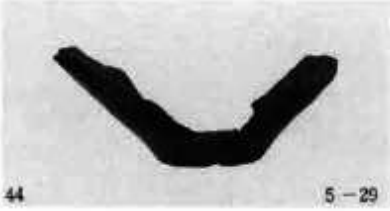

37 5－29

39 5－29

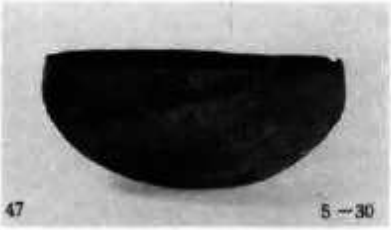
40 5－29

42 5－29


45 5－29


44 5－29

46 5－29

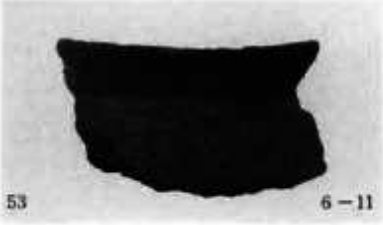

47 5－30

48 5－30

49 5－30

51 5－30

52 6－11


53 6－11

54 5－30

55 6－12

56 6－12

59 6－12

61 6－12

PL.64

62 6－12

63 6－12

64 6－12

66 6－15

67 6－15

70 6－16

69 6－16

68 6－16

72 6－21

75 8－2

76 8－2

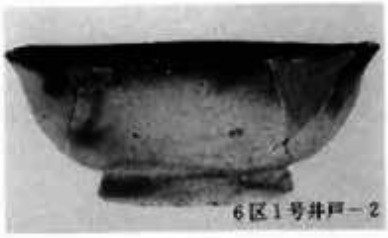
77 8－2

78 8－3

79 8－3

80 8－3

6区1号井戸－1


6区1号井戸－2

1号方形周溝墓－1

1号方形周溝墓－2

1号方形周溝墓－3

1号方形周溝墓－4

1号方形周溝墓－5

1号方形周溝墓－6

1号方形周溝墓－7

1号方形周溝墓－8

1号方形周溝墓－9

1号方形周溝墓－10

1号方形周溝墓－11

1号方形周溝墓－12

1号方形周溝墓－13

1号方形周溝墓－14

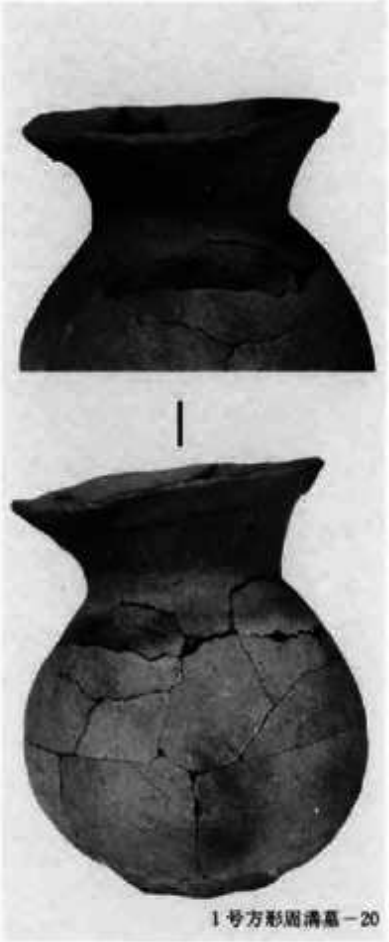
1号方形周溝墓－15

1号方形周溝墓－16

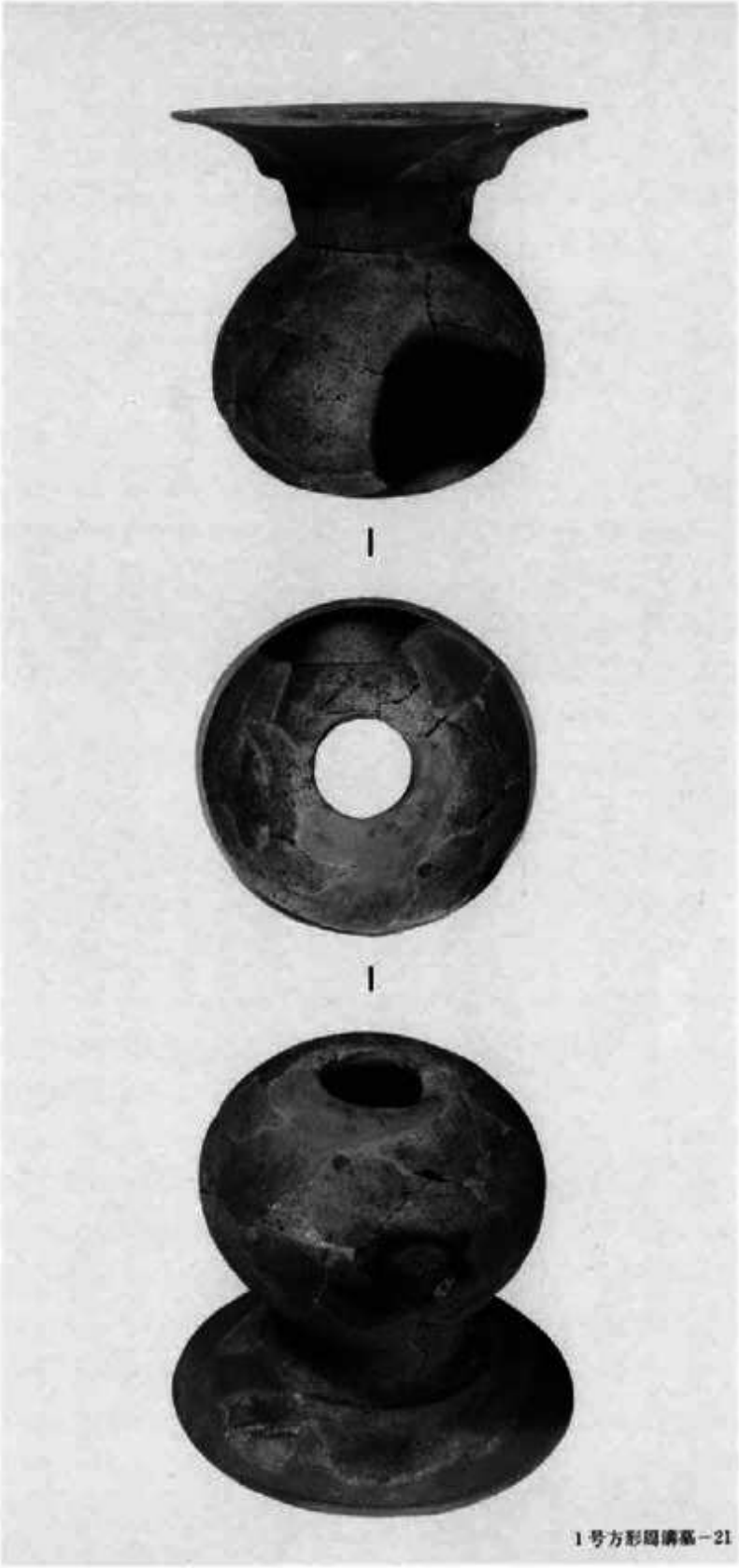
1号方形周溝墓－17

1号方形周溝墓－18

1号方形周溝墓－19



1号方形周溝墓－20

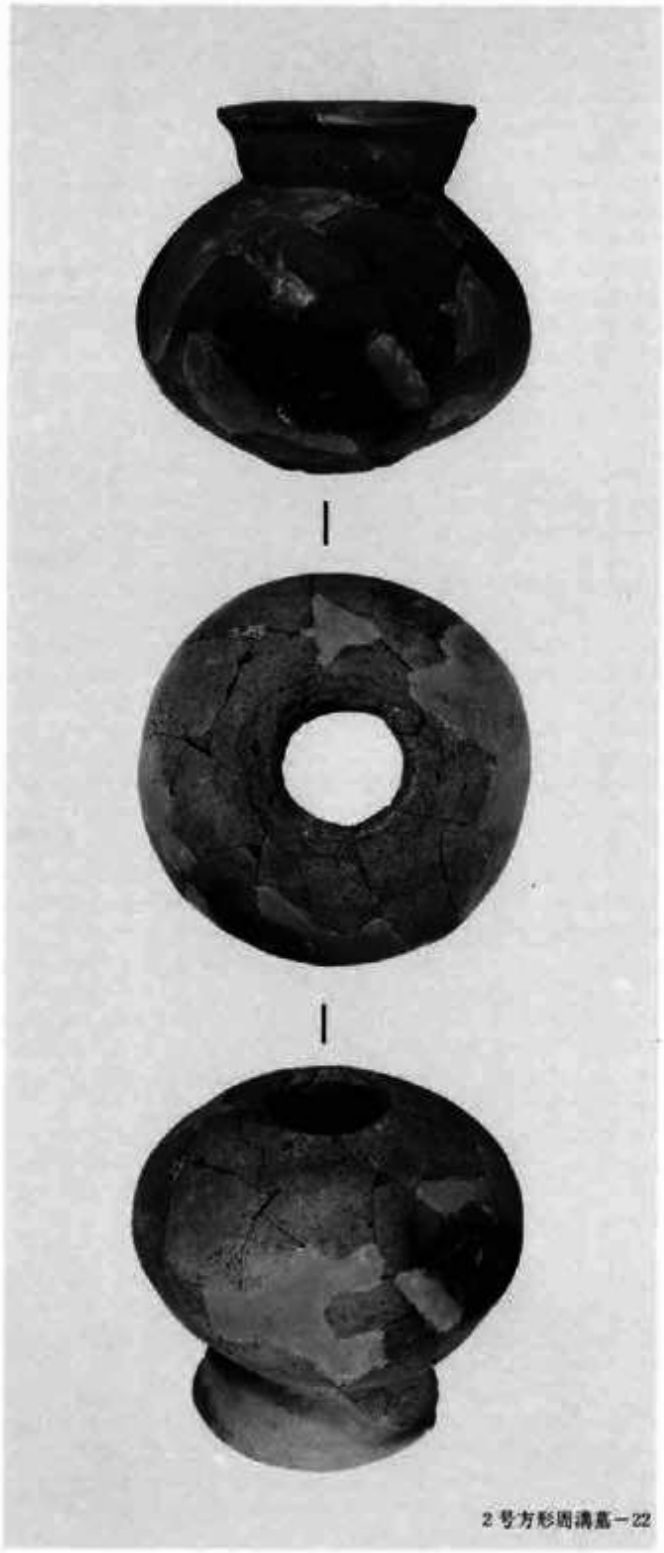


1号方形周溝墓－21

1号方形周溝墓－23

1号方形周溝墓－25

1号方形周溝墓－26



2号方形周溝墓－22

4号方形周溝墓－26

4号方形周溝墓－27

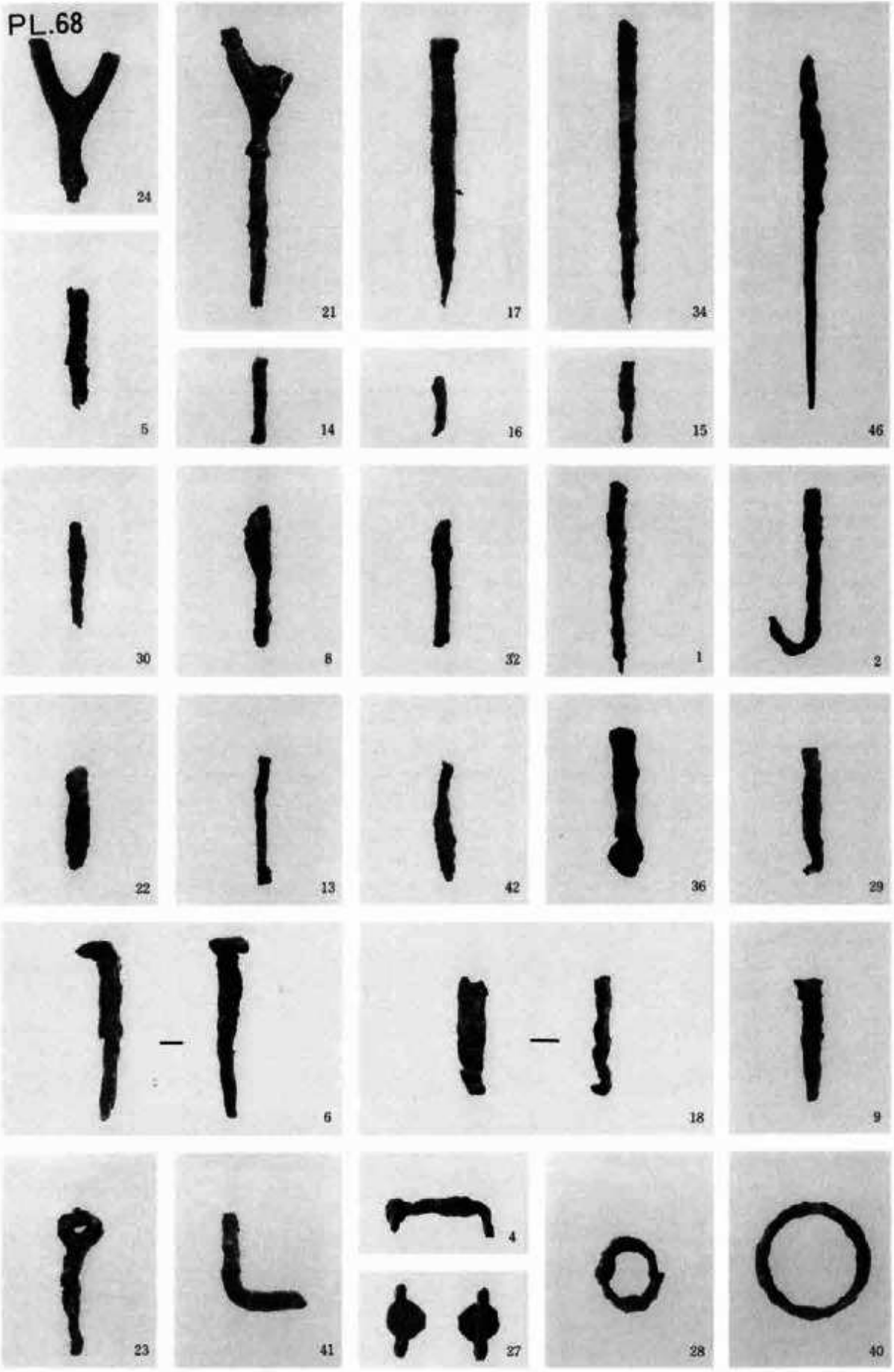
4号方形周溝墓－28

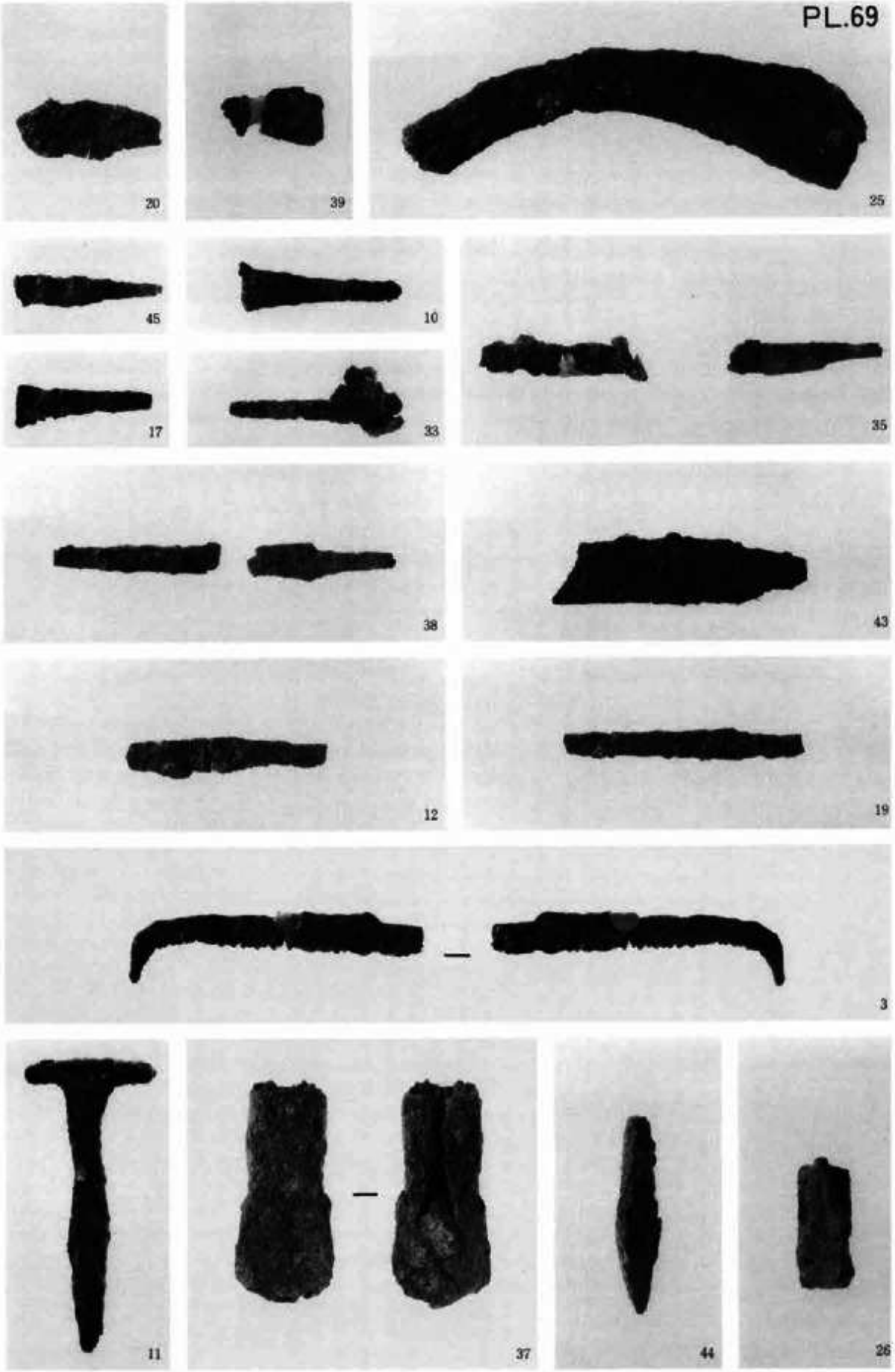
5号方形周溝墓－31

5号方形周溝墓－31

4号方形周溝墓－29

PL.68




20
39
25
45
10
17
33
35
38
43
12
19
3
11
37
44
26

荒砥上川久保遺跡 昭和50・51年度県営圃場整備事業荒砥南部地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

昭和57年3月20日 印刷
昭和57年3月25日 発行

編集・発行／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
勢多郡北橘村大字下箱田784番地の2
電話（0279）52－2511(代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社